

富山県の絶滅のおそれのある

野生生物



レッドデータブックとやま

2012

富山県の絶滅のおそれのある

野生生物



レ ッ ド

デ ー タ

ブ ッ ク

と や ま

2 0 1 2



発刊にあたって

富山県は、標高3,000m級の立山連峰から水深1,000mの富山湾まで、高低差4,000mのダイナミックで変化に富んだ地形を有し、本州随一を誇る植生自然度、ライチョウ等の貴重な鳥獣や高山植物、海浜植物など、多様な生の営みが繰り広げられる豊かな自然に恵まれています。

この豊かな自然環境とそこに住む多様な生き物は、私たち人間に、生存の基盤である大気や水、食料などの恵みをもたらすとともに、地域特有の文化や伝統、自然観を形成するなど、地域社会の持続的な発展に欠かすことのできないものです。この貴重な財産を守り育て、次の世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた重要な使命です。

このため、県では、今年度策定した「新・元気とやま創造計画」に基づき、自然保護思想の普及啓発や生物多様性の確保などの施策に取り組み、豊かで美しい自然の保全に努めていくこととしています。

しかしながら、現在の「レッドデータブックとやま」は、平成14年3月に初版を発刊してから10年余りが経過し、希少動植物の分布や生息・生育環境などに変化が生じています。こうしたことから、今回、現地調査等により得られた最新のデータに基づき、「富山県の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブックとやま2012－」を取りまとめ、発刊することといたしました。

本書が野生生物の保護対策を進めるための基礎資料として、また、郷土に生息・生育する貴重な動植物への理解を深めていただく手引書として、多くの皆さんに広く活用されることを願っています。

終わりに、本書の発刊にご尽力いただきましたレッドデータブックとやま改訂のための検討委員会の皆様をはじめ、関係の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成24年8月

富山県知事 石井 隆一

目 次

1. レッドデータブック作成の目的	1
2. レッドデータブック作成の経緯	1
3. カテゴリー（選定基準）	3
4. 選定結果	10
5. 富山県の自然概況	16
6. 各分類の概要	18
6.1 選定種の解説項目と内容	18
6.2 哺乳類	19
6.3 鳥類	31
6.4 爬虫類・両生類	77
6.5 淡水魚類	87
6.6 昆虫類	107
6.7 軟体動物（淡水産・陸産貝類）	201
6.8 甲殻類	221
6.9 維管束植物	225
6.10 蘚苔類	395
6.11 地衣類	411
6.12 菌類	421
7. 特定植物群落	435
8. レッドデータブックとやま改訂のための検討委員会の名簿	442
9. レッドデータブック委員の名簿	442
和名索引	445

1 レッドデータブック作成の目的

我が国の絶滅のおそれのある野生生物を取りまとめたものとしては、環境省のレッドデータブック（リスト）がある。しかし、これは、全国を対象としているため、かならずしも地域の現状にそぐわないこともある。そこで、富山県では、県内における絶滅のおそれのある野生生物の保護に資することを目的として、県版のレッドデータブックを作成することとしたものである。

なお、レッドデータブックの内容自体は規制等の強制力を伴うものではなく、絶滅のおそれのある野生生物に関する理解を広めるとともに、保護・保全対策に資することを目的にしている。

2 これまでの経緯

前回（H14）のレッドデータブック作成から10年近く経過していることから、生息環境の変化等に伴う絶滅のおそれのある野生生物の現状を把握するため、レッドデータブックを改訂することとなった。

作成にあたっては、県内の動植物の専門家からなる「レッドデータブックとやま改訂のための検討委員会」と、その下にワーキンググループを設置して、選定方法、評価方法、評価結果等について検討を行った。

レッドデータブック作成の経緯については、図2.1に示す。

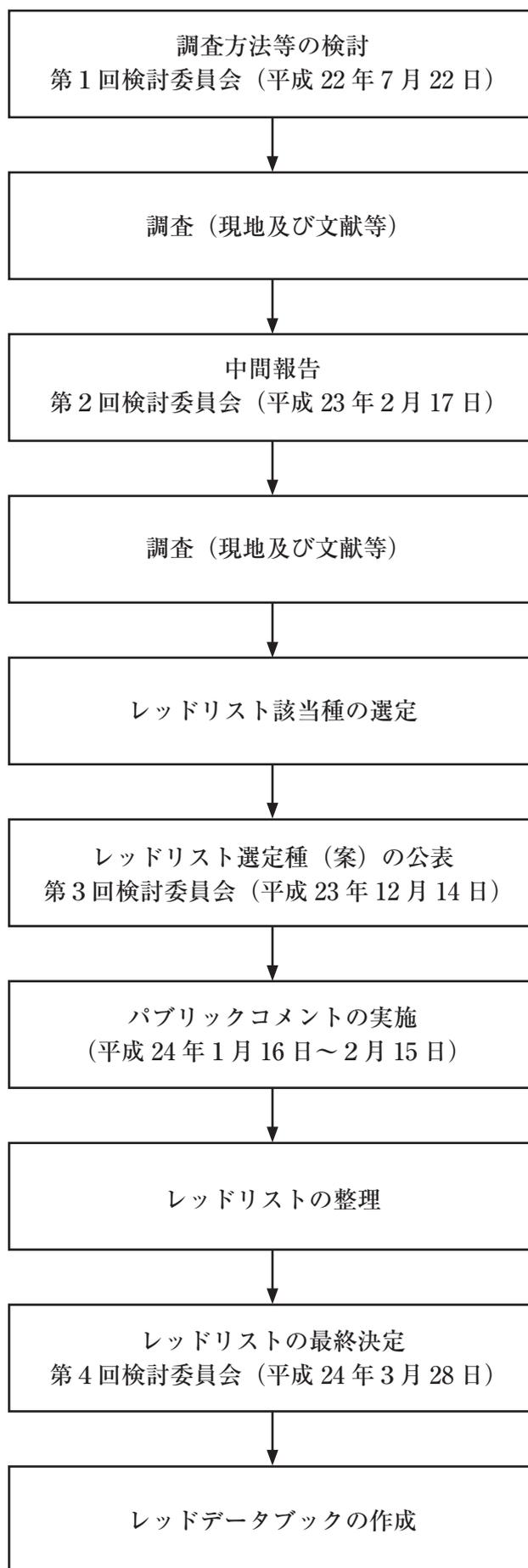


図 2.1 レッドデータブック作成の経緯

3 カテゴリー（選定基準）

富山県では、絶滅のおそれのある野生生物の全国的な選定基準となる環境省のカテゴリー区分（表 3.2 参照）をほぼ準用したカテゴリーとし（表 3.1 参照）、県レベルで地域の実情に応じた種や個体群を選定した。

なお、環境省カテゴリーの定量要件については、データの蓄積が十分でないと判断し、今回は採用しなかった。同じく絶滅危惧 I A と I B 類の区分も行わなかった。

表 3.1 富山県版カテゴリー（選定基準）の説明

<p>○絶滅+野生絶滅（環境省カテゴリー相当 → 絶滅+野生絶滅） 県内において野生ではすでに絶滅したと考えられる種。</p> <hr/> <p>かつては県内に生息・生育したことが確認されているが、現在は絶滅したと考えられる、または、飼育・栽培下でのみ存続しているが、県内においてすでに野生では絶滅したと考えられる以下のような種。</p> <p>< 確実な情報があるもの ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼できる調査や記録により、すでに絶滅したことが確認されている。 ・信頼できる複数の調査によっても、生息・生育が確認できなかった。 <p>< 情報量が少ないもの ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去 50 年間前後の間に、信頼できる生息・生育の情報が得られていない。
<p>○絶滅危惧 I 類（環境省カテゴリー相当 → 絶滅危惧 I A 類 + I B 類） 絶滅の危機に瀕している種。</p> <hr/> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難であり、ただちに嚴重な保護対策を要する以下のような種。</p> <p>< 確実な情報があるもの ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ・既知のすべての生息・生育地で、生息・生育条件が著しく悪化している。 ・既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ・ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 <p>< 情報量が少ないもの ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それほど遠くない過去（30 年～50 年）の生息・生育記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
<p>○絶滅危惧 II 類（環境省カテゴリー相当 → 絶滅危惧 II 類） 絶滅の危険が増大している種。</p> <hr/> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」に移行することが確実で、嚴重な保護対策を要する以下のような種。</p> <p>< 確実な情報があるもの ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ・大部分の生息・生育地で生息・生育条件が明らかに悪化しつつある。 ・大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ・分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。

<p>○準絶滅危惧（環境省カテゴリー相当 → 準絶滅危惧） 存続基盤が脆弱な種。</p>
<p>現時点での絶滅の危険性は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅱ類」以上の上位ランクに移行する要素を有するもの。生息・生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっており、分布域の一部において次のいずれかの傾向が顕著で、今後さらに進行するおそれがあるため、保護上注意を要する種。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個体数が減少している。 ・ 生息・生育条件が悪化している。 ・ 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 ・ 交雑可能な別種が侵入している。
<p>○情報不足（環境省カテゴリー相当 → 情報不足） 絶滅にいたる可能性があるが、情報が不足しており、今後生息・生育状況に注意すべき種。</p>
<p>環境条件の変化によって、容易に上位のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息・生育状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない以下のような種。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの生息・生育地においても生息・生育密度が低く希少である。 ・ 生息・生育地が県内において局限されている。 ・ 生物地理上、地域的に孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 ・ 生物地理上の分布境界域に生息・生育している。 ・ 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。
<p>○絶滅のおそれのある地域個体群 （環境省カテゴリー相当 → 絶滅のおそれのある地域個体群） 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い以下のようなもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生息・生育状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブックの掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息・生育域が孤立しており、地域レベルで見た場合、絶滅の危険性が高いと判断されるもの。 ・ 地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅の危険性が高いと判断されるもの。

表 3.2 環境省のカテゴリー定義 (参考)

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
絶滅 Extinct (EX) 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 (注1)	過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	
野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種	過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、我が国において野生ではすでに絶滅したと考えられる種 【確実な情報があるもの】 ①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生息が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 ③過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。	
絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。 T H R E A T E N E D	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 ⑤それほど遠くない過去(30年~50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR) 絶滅危惧 I A 類 (CR) A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。 1. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間(注2。以下同じ)を通じて、90%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 2. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、80%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 3. 今後10年間もしくは3世代のどちらか長期間を通じて、80%以上の減少があると予測される。 4. 過去と未来の両方を含む10年間もしくは3世代のどちらか長い期間において80%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 B. 出現範囲が100km ² 未満もしくは生息地面積が10km ² 未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。 1. 生息地が過度に分断されているか、ただ1カ所の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

(注1) 種：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を示す。

(注2) 最近10年間もしくは3世代：1世代が短く3世代に要する期間が10年未満のものは年数を、1世代が長く3世代に要する期間が10年を超えるものは世代数を採用する。

区分及び基本概念		定性的要件	定量的要件
絶滅危惧 THREATENED			<p>C. 個体群の成熟個体数が250未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3年間もしくは1世代のどちらか長い期間に25%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> a) 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> i) 50以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 ii) 1つの下位個体群中に90%以上の成熟個体が属している。 b) 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 成熟個体数が50未満であると推定される個体群である場合。</p> <p>E. 数量解析により、10年間、もしくは3世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が50%以上と予測される場合。</p>
		<p>絶滅危惧 I B類 Endangered (EN)</p> <p>IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</p>	<p>絶滅危惧 I B類 (EN)</p> <p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、70%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 2. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 3. 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があると予測される。 4. 過去と未来の両方を含む10年間もしくは3世代のどちらか長い期間において50%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 <p>B. 出現範囲が5,000km²未満もしくは生息地面積が500km²未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生息地が過度に分断されているか、5以下の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

区分及び基本概念		定性的要件		定量的要件
				<p>C. 個体群の成熟個体数が2,500未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わ 場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 5年間もしくは2世代のどちらか長い期間に20%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> a) 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> i) 250以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 ii) 1つの下位個体群中に95%以上の成熟個体が属している。 b) 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 成熟個体数が250未満であると推定される個体群である場合。</p> <p>E. 数量解析により、20年間、もしくは5世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が20%以上と予測される場合。</p>
絶滅危惧	<p>絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU) 絶滅の危険が増大している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。 		<p>絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p> <p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 2. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 3. 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があると予測される。 4. 過去と未来の両方を含む10年間もしくは3世代のどちらか長い期間において30%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 <p>B. 出現範囲が20,000km²未満もしくは生息地面積が2,000km²未満であると推定され、また次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生息地が過度に分断されているか、10以下の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等について、継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
<p style="text-align: center;">絶 滅 危 惧</p> <p style="text-align: center;">T H R E A T E N E D</p>		<p>C. 個体群の成熟個体数が10,000未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10年間もしくは3世代のどちらか長い期間に10%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> a) 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> i) 1,000以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 ii) 1つの下位個体群中にすべての成熟個体が属している。 b) 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 個体群が極めて小さく、成熟個体数が1,000未満と推定されるか、生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている場合。</p> <p>E. 数量解析により、100年間における絶滅の可能性が10%以上と予測される場合。</p>
<p>準絶滅危惧 Near Threatened (NT) 存続基盤が脆弱な種</p> <p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	<p>次に該当する種</p> <p>生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> a) 個体数が減少している。 b) 生息条件が悪化している。 c) 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d) 交雑可能な別種が侵入している。 	
<p>情報不足 Data Deficient (DD) 評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>次に該当する種</p> <p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧の категорияに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。</p> <ol style="list-style-type: none"> a) どの生息地においても生息密度が低く希少である。 b) 生息地が局限されている。 c) 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。 	

● 付属資料

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
<p>絶滅のおそれのある地域個体群 Threatened Local Population (LP) 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する地域個体群</p> <p>①生息状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの。</p> <p>②地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。</p>	

4 選定結果

対象種・個体群の選定は、富山県に生息・生育する野生動植物について行った。動物は、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、昆虫類、軟体動物（淡水産・陸産貝類）、甲殻類について選定した。また、植物は、維管束植物、蘚苔類、地衣類、菌類について選定した。

各分類の選定種数、または選定個体群数を表 4.1 に示す。また、選定種・個体群の一覧を P.11 ～ P.15 に示す。

表 4.1 分類群別選定種・個体群数一覧

富山県カテゴリー		絶滅 + 野生絶滅	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 II 類	準絶滅危惧	情報不足	合 計	地 域 個体群
動 物	哺乳類	2		3	10	2	17	
	鳥類	1	18	14	28	15	76	
	爬虫類・両生類		2	3	5	1	11	
	淡水魚類	2	7	7	8	5	29	3
	昆虫類		35	28	71	72	206	
	軟体動物 (淡水産貝類)	5	3	5	2	6	21	
	軟体動物 (陸産貝類)		2	1	7	7	17	
	甲殻類					2	2	
	小 計	10	67	61	131	110	379	3
植 物	維管束植物	30	75	118	132	84	439	
	蘚苔類		5	7	6	15	33	
	地衣類		5	2		11	18	
	菌類			6	5	16	27	
	小 計	30	85	133	143	126	517	
合 計		40	152	194	274	236	896	3

注：爬虫類と両生類、シダ植物と種子植物に関しては区分せずに示す。

選定種・個体群一覧(掲載順)

動物

哺乳類

絶滅+野生絶滅

オオカミ(イヌ科) 21
ニホンカワウソ(イタチ科) 21

絶滅危惧Ⅱ類

カワネズミ(トガリネズミ科) 22
アズミトガリネズミ(トガリネズミ科) 22
クビワコウモリ(ヒナコウモリ科) 23

準絶滅危惧

ミズラモグラ(モグラ科) 23
ヒメホオヒゲコウモリ(ヒナコウモリ科) 24
カグヤコウモリ(ヒナコウモリ科) 24
ノレンコウモリ(ヒナコウモリ科) 25
ヤマコウモリ(ヒナコウモリ科) 25
コテンゴコウモリ(ヒナコウモリ科) 26
ニホンモンガ(リス科) 26
ヤマネズミ(ヤマネズミ科) 27
カヤネズミ(ネズミ科) 27
オコジョ(イタチ科) 28

情報不足

モリアブラコウモリ(ヒナコウモリ科) 28
ヒナコウモリ(ヒナコウモリ科) 28

鳥類

絶滅+野生絶滅

トキ(トキ科) 39

絶滅危惧Ⅰ類

サンカノゴイ(サギ科) 39
ヨシゴイ(サギ科) 40
ミゾゴイ(サギ科) 40
クロサギ(サギ科) 41
クロツラヘラサギ(トキ科) 41
サシバ(タカ科) 42
クマタカ(タカ科) 42
イヌワシ(タカ科) 43
チュウヒ(タカ科) 43
チゴハヤブサ(ハヤブサ科) 44
ライチョウ(ライチョウ科) 44
ヒクイナ(クイナ科) 45
タマシギ(タマシギ科) 45
コアジサシ(カモメ科) 46
フッコウソウ(フッコウソウ科) 46
チゴモズ(モズ科) 47
アカモズ(モズ科) 47
セッカ(ウグイス科) 48

絶滅危惧Ⅱ類

コクガン(カモ科) 48
マガン(カモ科) 49
ヒシクイ(カモ科) 49
トモエガモ(カモ科) 50
ハチクマ(タカ科) 50
オジロワシ(タカ科) 51
オオワシ(タカ科) 51
オオタカ(タカ科) 52
ハヤブサ(ハヤブサ科) 52
クイナ(クイナ科) 53
ズグロカモメ(カモメ科) 53
アオバズク(フクロウ科) 54
ヨタカ(ヨタカ科) 54
ヤマセミ(カワセミ科) 55

準絶滅危惧

ササゴイ(サギ科) 55
チュウサギ(サギ科) 56
オオハクチョウ(カモ科) 56
ヨシガモ(カモ科) 57
シマアジ(カモ科) 57
ビロードキンクロ(カモ科) 58
シノリガモ(カモ科) 58
ホオジロガモ(カモ科) 59
ミコアイサ(カモ科) 59
ウミアイサ(カモ科) 60
ミサゴ(タカ科) 60
ツミ(タカ科) 61
ハイタカ(タカ科) 61
ミヤコドリ(ミヤコドリ科) 62
コチドリ(チドリ科) 62
イカルチドリ(チドリ科) 63
シロチドリ(チドリ科) 63
ケリ(チドリ科) 64
イソシギ(シギ科) 64
セイタカシギ(シギ科) 65
オオコノハズク(フクロウ科) 65
アカショウビン(カワセミ科) 66
カワセミ(カワセミ科) 66
サンショウクイ(サンショウクイ科) 67
コサメビタキ(ヒタキ科) 67
サンコウチョウ(カササギヒタキ科) 68
ホオアカ(ホオジロ科) 68
ノジコ(ホオジロ科) 69

情報不足

ウミウ(ウ科) 70
オオヨシゴイ(サギ科) 70
ウズラ(キジ科) 70
オオジシギ(シギ科) 71
アジサシ(カモメ科) 71
ウミガラス(ウミスズメ科) 71
マダラウミスズメ(ウミスズメ科) 72
ウミスズメ(ウミスズメ科) 72
カムルィウミスズメ(ウミスズメ科) 72
ヤイロチョウ(ヤイロチョウ科) 73
コシアカツバメ(ツバメ目) 73
ツリスガラ(ツリスガラ科) 73
キバシリ(キバシリ科) 74
コジュリン(ホオジロ科) 74
カササギ(カラス科) 74

爬虫類・両生類

絶滅危惧Ⅰ類

ホクリクサンショウウオ(サンショウウオ科) 79
ハクバサンショウウオ(サンショウウオ科) 79

絶滅危惧Ⅱ類

ニホンイシガメ(イシガメ科) 80
ナガレヒキガエル(ヒキガエル科) 80
ナガレタゴガエル(アカガエル科) 81

準絶滅危惧

タカチホヘビ(ナミヘビ科) 81
シロマダラ(ナミヘビ科) 82
ヒダサンショウウオ(サンショウウオ科) 82
アカハライモリ(イモリ科) 83
トノサマガエル(アカガエル科) 83

情報不足

ニホンスッポン(スッポン科) 84

淡水魚類

絶滅+野生絶滅

ホトケドジョウ(ドジョウ科) 90
イトヨ日本海側(トゲウオ科) 90

絶滅危惧Ⅰ類

イタセンバラ(コイ科) 91
ヤリタナゴ(コイ科) 91
ミナミアカヒレタビラ(コイ科) 92
アカザ(アカザ科) 92
クロヨシノボリ(ハゼ科) 93
カワヤツメ(ヤツメウナギ科) 93
スナヤツメ北方種(ヤツメウナギ科) 94

絶滅危惧Ⅱ類

ナマズ(ナマズ科) 94
トミヨ属淡水型(トゲウオ科) 95
ジュズカケハゼ(ハゼ科) 95
シンジコハゼ(ハゼ科) 96
ルリヨシノボリ(ハゼ科) 96
カンキョウカジカ(カジカ科) 97
カジカ申卵型(カジカ科) 97

準絶滅危惧

サクラマス(ヤマメ)(サケ科) 98
ドジョウ(ドジョウ科) 98
シロウオ(ハゼ科) 99
ドンコ(ドンコ科) 99
メダカ北日本集団(メダカ科) 100
アユカケ(カマキリ)(カジカ科) 100
カジカ大卵型(カジカ科) 101
スナヤツメ南方種(ヤツメウナギ科) 101

情報不足

ウナギ(ウナギ科) 102
マルタ(コイ科) 102
イチモンジタナゴ(コイ科) 102
ゴクラクハゼ(ハゼ科) 103
ヒリング(ハゼ科) 103

地域個体群

ニッコウイワナ(サケ科) 103
アジメドジョウ(ドジョウ科) 104
カワヨシノボリ(ハゼ科) 104

昆虫類

絶滅危惧Ⅰ類

オツネイトトンボ(アオイトトンボ科) 110
ムスジイトトンボ(イトトンボ科) 110
ネアカヨシヤンマ(ヤンマ科) 111
カトリヤンマ(ヤンマ科) 111
オナガサナエ(サナエトンボ科) 112
アオサナエ(サナエトンボ科) 112
ヒラサナエ(サナエトンボ科) 113
ヒメサナエ(サナエトンボ科) 113
オジロサナエ(サナエトンボ科) 114
ホンサナエ(サナエトンボ科) 114
キイロサナエ(サナエトンボ科) 115
ハネビロエゾトンボ(エゾトンボ科) 115
タイリクアカネ(トンボ科) 116
カヤコオロギ(マツムシ科) 116
ハマスズ(ヒバリモドキ科) 117
ハネナガイナゴ(バッタ科) 117
ヤマトマダラバッタ(バッタ科) 118
セグロイナゴ(バッタ科) 118
イトアメンボ(イトアメンボ科) 119
コオイムシ(コオイムシ科) 119
タガメ(コオイムシ科) 120
コバンムシ(コバンムシ科) 120
クロゲンゴロウ(ゲンゴロウ科) 121
ゲンゴロウ(ゲンゴロウ科) 121
シャープゲンゴロウモドキ(ゲンゴロウ科) 122
マルガタゲンゴロウ(ゲンゴロウ科) 122
シマゲンゴロウ(ゲンゴロウ科) 123
ツヤナガタマムシ(タマムシ科) 123
トオヤマシラホシナガタマムシ(タマムシ科) 124
ヒゲシロホソコバネカミキリ(カミキリムシ科) 124
スジグロオオハムシ(ハムシ科) 125
トヤマオオミズクサハムシ(ハムシ科) 125
キバネツノトンボ(ツノトンボ科) 126
クロシジミ(シジミチョウ科) 126
コヒョウモンモドキ(タテハチョウ科) 127

絶滅危惧Ⅱ類

モートンイトトンボ(イトトンボ科) 127
マダラヤンマ(ヤンマ科) 128
カラカネトンボ(エゾトンボ科) 128
マイコアカネ(トンボ科) 129
クツワムシ(クツワムシ科) 129
カワラバッタ(バッタ科) 130
ヒナカマキリ(カマキリ科) 130
ハネナシアメンボ(アメンボ科) 131
ババアメンボ(アメンボ科) 131
ナベブタムシ(ナベブタムシ科) 132
アイヌハンミョウ(ハンミョウ科) 132

動物

セアカサマシ (オサマシ科) 133
キボシゲゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 133
メスジゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 134
ヒメオオクワガタ (クワガタムシ科) 134
アカマダラコガネ (コガネムシ科) 135
クロマダラタマシ (タマムシ科) 135
ヒメボタル (ボタル科) 136
フタスジカタビロハナカミキリ (カミキリムシ科) 136
アカトシカミキリ (カミキリムシ科) 137
コトシカミキリ (カミキリムシ科) 137
ミヤマモンキチヨウ (シロチヨウ科) 138
クモクマツマキチヨウ (シロチヨウ科) 138
ミヤマシジミ (シジミチヨウ科) 139
ゴマシジミ (シジミチヨウ科) 139
オオゴマシジミ (シジミチヨウ科) 140
オカネヒカゲ (タテハチヨウ科) 140
オオシモフリズメ (スズメガ科) 141

準絶滅危惧

ニホンシカワトンボ (カワトンボ科) 142
ムカシトンボ (ムカシトンボ科) 142
アオヤンマ (ヤンマ科) 142
ミヤマサナエ (サナエトンボ科) 143
トトラフトンボ (エゾトンボ科) 143
ミヤマアカネ (トンボ科) 143
キトンボ (トンボ科) 144
ハッチョウトンボ (トンボ科) 144
チョウトンボ (トンボ科) 144
クビキリギス (キリギリス科) 145
ササキリ (キリギリス科) 145
カワラスズ (ヒバリモドキ科) 145
アヤハネハネナガウンカ (ハネナガウンカ科) 146
イブキコガシラウンカ (コガシラウンカ科) 146
クロテングスゲバ (テングスゲバ科) 146
アカエゾゼミ (ゼミ科) 147
タケウチトゲアワフキ (トゲアワフキ科) 147
オオアメンボ (アメンボ科) 147
オオコオイムシ (コオイムシ科) 148
ヒメミズカマキリ (ミズカマキリ科) 148
ホツケミズムシ (ミズムシ科) 148
ヨツモンカメムシ (クヌギカメムシ科) 149
ヨコヅナツチカメムシ (ツチカメムシ科) 149
オオキジキンカメムシ (キンカメムシ科) 149
アカスジキンカメムシ (キンカメムシ科) 150
ウシカメムシ (カメムシ科) 150
ナカボシカメムシ (カメムシ科) 150
アオクチアブカメムシ (アブカメムシ科) 151
オオツノカメムシ (ツノカメムシ科) 151
フタホシチビゴムシ (ゴムシ科) 151
マルガタシマチビゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 152
クオベツゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 152
ルイスツゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 152
クロメゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 153
コオナガミズスマシ (ミズスマシ科) 153
ミヤマツヤハダクワガタ (クワガタムシ科) 153
アカマダラセブンチコガネ (コガネムシ科) 154
オオチャイロハナムグリ (コガネムシ科) 154
アオマダラタマムシ (タマムシ科) 154
サビナカボソタマムシ (タマムシ科) 155
ヒロオビナガタマムシ (タマムシ科) 155
フタキボシカネコメツキ (コメツキムシ科) 155
クロヒラタオオキノコ (オオキノコムシ科) 156
ヒメエグリオオキノコ (オオキノコムシ科) 156
ヒゲアハナカミキリ (カミキリムシ科) 156
ヒラヤマコフハナカミキリ (カミキリムシ科) 157
キイロミヤマカミキリ (カミキリムシ科) 157
ヒゲナガヒメリカミキリ (カミキリムシ科) 157
タカネハバチ (ハバチ科) 158
ニトベギンゲチバチ (ギンゲチバチ科) 158
フジジバチ (アナバチ科) 158
フカイオドロバチ (ドロバチ科) 159
オオギンズジコウモリ (コウモリガ科) 159
ギンイチモジセセリ (セセリチヨウ科) 159
タカネキマダラセセリ (セセリチヨウ科) 160
スジグロチャバネセセリ (セセリチヨウ科) 160
ヘリグロチャバネセセリ (セセリチヨウ科) 160
カラスシジミ (シジミチヨウ科) 161
ミヤマカラスシジミ (シジミチヨウ科) 161
アサマシジミ (シジミチヨウ科) 161
オオイチモンジ (タテハチヨウ科) 162
コムラサキ (黒色型) (タテハチヨウ科) 162
オオムラサキ (タテハチヨウ科) 162
クロウスタバガ (ヤマユガ科) 163
シロオビコバネナミヤク (シヤクガ科) 163
ハスオビカバネダシヤク (シヤクガ科) 163
ゴマダラシヤチホコ (シヤチホコガ科) 164
ホッキョクモンヤガ (ヤガ科) 164
キュウシュウマエアカシロトウ (ヤガ科) 164
フシキシタバ (ヤガ科) 165
ナマリキシタバ (ヤガ科) 165

情報不足

ムツアカネ (トンボ科) 165
ミネトワダカワゲラ (トワダカワゲラ科) 166
ウスバカマキリ (カマキリ科) 166
ヒメカマキリ (ヒメカマキリ科) 166
オオゴキブリ (オオゴキブリ科) 167
チュウブオオサマシ (オサマシ科) 167
マルバネオサマシ (オサマシ科) 167
オンタケクロナガオサマシ (オサマシ科) 168
アルマンオサマシ (オサマシ科) 168
オニクワガタ (クワガタムシ科) 168
シナノマルトゲムシ (マルトゲムシ科) 169
シナノキチビタマムシ (タマムシ科) 169
シバタニセヒラタコメツキ (コメツキムシ科) 169
クロジョウニホシテントウ (テントウムシ科) 170
ハネナシセシジマワリ (ゴミシジマムシ科) 170
イボタサビカミキリ (カミキリムシ科) 170
キンイロネクイ (ハムシ科) 171
ネクイ (ハムシ科) 171
イネネクイ (ハムシ科) 171
コナスリウスバカゲロウ (ウスバカゲロウ科) 172
オオモリハマダラカ (カ科) 172
ハクサンヤブカ (カ科) 172

トヤマゴマフアブ (アブ科) 173
フタスジチヨウ (タテハチヨウ科) 173
エルタテハ (タテハチヨウ科) 173
オオヒカゲ (タテハチヨウ科) 174
アキアカネ (トンボ科) 174
ナツアカネ (トンボ科) 174
ノシメトンボ (トンボ科) 175
エゾエンマコオロギ (コオロギ科) 175
クマコオロギ (コオロギ科) 175
クマスズムシ (コオロギ科) 176
シヨウリヨウバツタモドキ (バツタ科) 176
トヤマオサマシ (オサマシ科) 176
ヒヨウタンゴムシ (オサマシ科) 177
キベリマメゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 177
コガムシ (ガムシ科) 177
ゲンジボタル (ボタル科) 178
ヘイケボタル (ボタル科) 178
ヨツボシカミキリ (カミキリムシ科) 178
ルリボシカミキリ (カミキリムシ科) 179
オオウスバカゲロウ (ウスバカゲロウ科) 179
ニッポンハナダカバチ (ドロバチモドキ科) 179
シナハマダラカ (カ科) 180
ヒサゴクサキリ (キリギリス科) 180
ヒメスズ (ヒバリモドキ科) 180
ナミハンミョウ (ハンミョウ科) 181
マダラハンミョウ (ハンミョウ科) 181
ヒラタクワガタ (クワガタムシ科) 181
ミヤマカミキリ (カミキリムシ科) 182
キスジラクダムシ (キスジラクダムシ科) 182
フタオセンプリ (センプリ科) 182
クシヒゲカゲロウ (クシヒゲカゲロウ科) 183
ウマノオバチ (コメツキムシ科) 183
フクイアナバチ (アナバチ科) 183
キアシハナダカバチモドキ (ドロバチモドキ科) 184
エサキムカシハナバチ (ムカシハナバチ科) 184
ババツマゴロシリアゲ (シリアゲムシ科) 184
ホシシリアゲ (シリアゲムシ科) 185
トワダオオカ (カ科) 185
エセチヨウセンヤブカ (カ科) 185
エサキニセヒメガガンボ (ニセヒメガガンボ科) 186
オオツルアブ (アブ科) 186
ヨスジクメアブ (アブ科) 186
コガタノミズアブ (ミズアブ科) 187
ミズアブ (ミズアブ科) 187
ハラビロミズアブ (ミズアブ科) 187
トラフムシヒキ (ムシヒキアブ科) 188
オオイシアブ (ムシヒキアブ科) 188
クロバネツリアブ (ツリアブ科) 188
クワチヨウ (アゲハチヨウ科) 189
ヒサマツドリシジミ (シジミチヨウ科) 189

軟体動物 (淡水産貝類)

絶滅+野生絶滅

マメタニシ (エゾマメタニシ科) 203
ミズゴマツボ (ミズゴマツボ科) 203
イグチモノアラガイ (モノアラガイ科) 204
オバエボシガイ (イシガイ科) 204
カタハガイ (イシガイ科) 205

絶滅危惧Ⅰ類

マツカサガイ (イシガイ科) 205
イシガイ (イシガイ科) 206
ヨコハマシジラガイ (イシガイ科) 206

絶滅危惧Ⅱ類

マルタニシ (タニシ科) 207
モノアラガイ (モノアラガイ科) 207
タガイ (イシガイ科) 208
スマガイ (イシガイ科) 208
マシジミ (シジミ科) 209

準絶滅危惧

オオタニシ (タニシ科) 209
マメシジミ (マメシジミ科) 210

情報不足

イシマキガイ (アマオブネガイ科) 210
トブシジミ (マメシジミ科) 210
ヒラマキミズマイマイ (ヒラマキガイ科) 211
ヒラマキガイモドキ (ヒラマキガイ科) 211
カワコザラガイ (カワコザラガイ科) 211
ヤマトシジミ (シジミ科) 212

軟体動物 (陸産貝類)

絶滅危惧Ⅰ類

ヤマメタニシ (イツマデガイ科) 212
ナガオカモノアラガイ (オカモノアラガイ科) 213

絶滅危惧Ⅱ類

キヌハダギセル (キセルガイ科) 213

準絶滅危惧

ヤマキサゴ (ヤマキサゴ科) 214
ホラアナゴマオカチクサガイ (カワザンシヨウガイ科) 214
ヘソカドガイ (カワザンシヨウガイ科) 214
クリイロキセルガイモドキ (キセルガイモドキ科) 215
ヤマタカマイマイ (ナンバンマイマイ科) 215
オオタキコギセル (キセルガイ科) 215
ヤマタニシ (ヤマタニシ科) 216

情報不足

ハマシイノミガイ (オカミミガイ科) 216
キセルガイモドキ (キセルガイモドキ科) 216
オクガタギセル (キセルガイ科) 217
ミドリベッコウ (ベッコウマイマイ科) 217
コクロマイマイ (ナンバンマイマイ科) 217
ケハダヒロウドマイマイ (ナンバンマイマイ科) 218
コガネマイマイ (オナジマイマイ科) 218

甲殻類

情報不足

サワガニ (サワガニ科) 223
アカテガニ (ベンケイガニ科) 223

植 物

維管束植物

絶滅+野生絶滅

タキシシダ (イノモトソウ科) 229
 クリハラン (ウラボシ科) 229
 アオネカズラ (ウラボシ科) 230
 マルバオモダカ (オモダカ科) 230
 マルミスブタ (トチカガミ科) 231
 イバラモ (トチカガミ科) 231
 リュウノヒゲモ (ヒルムシロ科) 231
 イワチドリ (ラン科) 232
 ムカゴソウ (ラン科) 232
 スズラン (ナギイカダ科) 233
 イヌイ (イグサ科) 233
 イトテンツキ (カヤツリグサ科) 234
 シオクゲ (カヤツリグサ科) 234
 クロスマハリイ (カヤツリグサ科) 235
 アワガエリ (イネ科) 235
 タンキリマメ (マメ科) 236
 センダイハギ (マメ科) 236
 オオバクサフジ (マメ科) 237
 コギシギシ (タデ科) 237
 オオヤマフスマ (ナデシコ科) 238
 アセビ (ツツジ科) 238
 シャシヤンボ (ツツジ科) 239
 チョウジソウ (キョウチクトウ科) 239
 フナバラソウ (キョウチクトウ科) 240
 スズサイコ (キョウチクトウ科) 240
 マメダオシ (ヒルガオ科) 241
 ヒシモドキ (ゴマ科) 241
 ヒナギキョウ (キキョウ科) 241
 ハマベノギク (キク科) 242
 ミシマサイコ (セリ科) 242

絶滅危惧Ⅰ類

サンショウモ (サンショウモ科) 243
 ビロードシダ (ウラボシ科) 243
 ハイネズ (ヒノキ科) 244
 オニバス (スイレン科) 244
 ヒメコウホネ (スイレン科) 245
 マイヅルテンナンショウ (サトイモ科) 245
 ヒメカイウ (サトイモ科) 246
 サジオモダカ (オモダカ科) 246
 セトヤナギスブタ (トチカガミ科) 247
 トチカガミ (トチカガミ科) 247
 トリゲモ (トチカガミ科) 248
 オオトリゲモ (トチカガミ科) 248
 コアニチドリ (ラン科) 249
 ムギラン (ラン科) 249
 キンセイラン (ラン科) 250
 ナツエビネ (ラン科) 250
 モイワラン (ラン科) 251
 コアツモリソウ (ラン科) 251
 サワラン (ラン科) 252
 カモメラン (ラン科) 252
 ベニシユスラン (ラン科) 253
 ミズトンボ (ラン科) 253
 スズムシソウ (ラン科) 254
 ホザキイチヨウラン (ラン科) 254
 サギソウ (ラン科) 255
 ミズチドリ (ラン科) 255
 イイヌマムカゴ (ラン科) 256
 ヤマトキソウ (ラン科) 256
 ヒナチドリ (ラン科) 257
 ヒオウギ (アヤメ科) 257
 オニスゲ (カヤツリグサ科) 258
 スズマハリイ (カヤツリグサ科) 258
 オオアゼテンツキ (カヤツリグサ科) 259
 ビロードテンツキ (カヤツリグサ科) 259
 イトイヌノハナヒゲ (カヤツリグサ科) 260
 ハタバカンガレイ (カヤツリグサ科) 260
 シズイ (カヤツリグサ科) 260
 スマカゼクサ (イネ科) 261
 フクジュソウ (キンボウゲ科) 261
 オキナグサ (キンボウゲ科) 262
 タカネキンボウゲ (キンボウゲ科) 262
 ヤマシヤクヤク (ボタン科) 263
 ベニバナヤマシヤクヤク (ボタン科) 263
 アオベンケイ (ベンケイソウ科) 264
 タチモ (アリノトウグサ科) 264
 ミズキカシグサ (ミソハギ科) 265
 ヒメビシ (ミソハギ科) 265
 タヌキマメ (マメ科) 266
 ヒナノカンザシ (ヒメハギ科) 266
 ノウルシ (トウダイグサ科) 267
 トモエソウ (オトギリソウ科) 267
 イソスミレ (スミレ科) 268
 アナマスミレ (スミレ科) 268
 マツグミ (オオバヤドリギ科) 269
 クリンユキフデ (タデ科) 269
 ヒメタデ (タデ科) 270
 ヤナギヌカボ (タデ科) 270
 トウカイコモウセンゴケ (モウセンゴケ科) 271
 ハマアカザ (ヒユ科) 271
 クサレタマ (アブコウジ科) 272
 ヒロハスズメノトウガラシ (アゼナ科) 272
 ミズネコノオ (シソ科) 273
 ミゾコウジュ (シソ科) 273
 ナミキソウ (シソ科) 274

ミミカキグサ (タヌキモ科) 274
 ホザキノミミカキグサ (タヌキモ科) 275
 ノタヌキモ (タヌキモ科) 275
 ムラサキミミカキグサ (タヌキモ科) 276
 キキョウ (キキョウ科) 276
 ガガバタ (ミツガシワ科) 277
 アサザ (ミツガシワ科) 277
 オゼミズギク (キク科) 278
 ミヤコアザミ (キク科) 278
 レンブクソウ (レンブクソウ科) 279
 ホタルサイコ (セリ科) 279

絶滅危惧Ⅱ類

ミズスギ (ヒカゲノカズラ科) 280
 ミズニラ (ミズニラ科) 280
 ヤシヤゼンマイ (ゼンマイ科) 280
 ウチワゴケ (コケシノブ科) 281
 オオアカウキグサ (サンショウモ科) 281
 オオフジシダ (コバノイシカグマ科) 281
 ハコネシダ (イノモトソウ科) 282
 トキワトランオ (チャセンシダ科) 282
 サキモリイヌワラビ (イワデンダ科) 282
 ヤマヒメワラビ (イワデンダ科) 283
 ミヤマノコギリシダ (イワデンダ科) 283
 ヒツジグサ (スイレン科) 283
 マツモ (マツモ科) 284
 ハンゲショウ (ドクダミ科) 284
 アギナシ (オモダカ科) 284
 クロモ (二倍体) (トチカガミ科) 285
 イトリゲモ (トチカガミ科) 285
 イトモ (ヒルムシロ科) 285
 サルメンエビネ (ラン科) 286
 ユウシュンラン (ラン科) 286
 キンラン (ラン科) 286
 ニョホウチドリ (ラン科) 287
 アオチドリ (ラン科) 287
 クマガイソウ (ラン科) 287
 イチヨウラン (ラン科) 288
 キリガミネアサヒラン (ラン科) 288
 エゾスズラン (ラン科) 288
 クロヤツシロラン (ラン科) 289
 ヒメミヤマウスラ (ラン科) 289
 ムヨウラン (ラン科) 289
 ホクリクムヨウラン (ラン科) 290
 キボウシラン (ラン科) 290
 セイタカスズムシソウ (ラン科) 290
 ジガバチソウ (ラン科) 291
 シテンクモキリ (ラン科) 291
 アオフタバラン (ラン科) 291
 アリドオシラン (ラン科) 292
 ミヤマモジズリ (ラン科) 292
 ウチヨウラン (ラン科) 292
 タカネトンボ (ラン科) 293
 ツレサギソウ (ラン科) 293
 タカネサギソウ (ラン科) 293
 トキソウ (ラン科) 294
 ヒトツボクロ (ラン科) 294
 オオハクウンラン (ラン科) 294
 カキツバタ (アヤメ科) 295
 ヤマトミクリ (ミクリ科) 295
 ヒメミクリ (ミクリ科) 295
 タカネシバスケ (カヤツリグサ科) 296
 ミコシガヤ (カヤツリグサ科) 296
 カラフトイワスケ (カヤツリグサ科) 296
 オノエスケ (カヤツリグサ科) 297
 ヒメモエギスケ (カヤツリグサ科) 297
 ヌイオスケ (カヤツリグサ科) 297
 コアゼテンツキ (カヤツリグサ科) 298
 アオテンツキ (カヤツリグサ科) 298
 フトイ (カヤツリグサ科) 298
 コシンジュガヤ (カヤツリグサ科) 299
 オガルカヤ (イネ科) 299
 ウキガヤ (イネ科) 299
 テンキグサ (イネ科) 300
 タカネタチイチゴツナギ (イネ科) 300
 リシリカニツリ (イネ科) 300
 ナガミノツルケマン (ケマンソウ科) 301
 マンセンカラマツ (キンボウゲ科) 301
 ムカゴユキノシタ (ユキノシタ科) 301
 タテヤマイワフキ (ユキノシタ科) 302
 エッチュウミセバヤ (ベンケイソウ科) 302
 ススヤアカバナ (アカバナ科) 302
 モモンヅル (マメ科) 303
 イヌハギ (マメ科) 303
 ハマナス (バラ科) 303
 サナギイチゴ (バラ科) 304
 ニオウヤブマオ (イラクサ科) 304
 エイザンスミレ (スミレ科) 304
 マルバスミレ (スミレ科) 305
 ヒカゲスミレ (スミレ科) 305
 タチスズシロソウ (アブラナ科) 305
 ミズタガラシ (アブラナ科) 306
 トガクシナズナ (アブラナ科) 306
 エゾイタヤ (ムクロジ科) 306
 ミヤマツチトリモチ (ツチトリモチ科) 307
 スカボタデ (タデ科) 307
 マダイオウ (タデ科) 307
 ミヤマハナシノブ (ハナシノブ科) 308

植 物

ハイハマボス (テオフラスタ科) 308
 サラサドウド (ツツジ科) 308
 マルバノイチヤクソウ (ツツジ科) 309
 オノエリンドウ (リンドウ科) 309
 ハナイカリ (リンドウ科) 309
 イヌセンブリ (リンドウ科) 310
 ツルガシワ (キョウチクトウ科) 310
 スナビキソウ (ムラサキ科) 310
 シオジ (モクセイ科) 311
 アブノメ (オオバコ科) 311
 ショクサ (オオバコ科) 311
 スズメノハコベ (オオバコ科) 312
 エチゴトラノオ (オオバコ科) 312
 イヌノフグリ (オオバコ科) 312
 カワヂシャ (オオバコ科) 313
 エゾヒナノウスツボ (ゴマノハグサ科) 313
 キセウタ (シソ科) 313
 ミズトラノオ (シソ科) 314
 ヒメナミキ (シソ科) 314
 キヨスミウツボ (ハマウツボ科) 314
 サワギキョウ (ミゾカクシ科) 315
 オオイワインテン (キク科) 315
 ヒダキセルアザミ (キク科) 315
 ヒダアザミ (キク科) 316
 アキノハハコグサ (キク科) 316
 オグルマ (キク科) 316
 ノニガナ (キク科) 317
 クロミノウグイスカグラ (スイカズラ科) 317
 ナベナ (マツムシソウ科) 317
 マツムシソウ (マツムシソウ科) 318
 オミナエシ (オミナエシ科) 318
 ハマウド (セリ科) 318
 ドクゼリ (セリ科) 319

準絶滅危惧

スギラン (ヒカゲノカズラ科) 319
 ヒメハナワラビ (ハナヤスリ科) 319
 コヒロハナヤスリ (ハナヤスリ科) 320
 ヒロハナヤスリ (ハナヤスリ科) 320
 イチョウシダ (チャセンシダ科) 320
 タチヒメワラビ (ヒメシダ科) 321
 テバコワラビ (イワデンダ科) 321
 ナヨシダ (イワデンダ科) 321
 シロウマイタチシダ (オシダ科) 322
 ジュンサイ (ハゴロモ科) 322
 ヒメザゼンソウ (サトイモ科) 322
 ハナゼキシヨウ (チシマゼキシヨウ科) 323
 スブタ (トチカガミ科) 323
 ヤナギスブタ (トチカガミ科) 323
 ウミヒルモ (トチカガミ科) 324
 ホスモ (トチカガミ科) 324
 ミズオオバコ (トチカガミ科) 324
 セキシヨウモ (トチカガミ科) 325
 ミヤマエンレイソウ (シュロソウ科) 325
 マルバサンキライ (サルトリイバラ科) 325
 アマナ (ユリ科) 326
 ヤマジノホトトギス (ユリ科) 326
 エビネ (ラン科) 326
 ギンラン (ラン科) 327
 カキラン (ラン科) 327
 ミヤマフタバラン (ラン科) 327
 タカネフタバラン (ラン科) 328
 ジンバイソウ (ラン科) 328
 シロウマチドリ (ラン科) 328
 ヤマサギソウ (ラン科) 329
 オオヤマサギソウ (ラン科) 329
 ノハナシヨウブ (アヤメ科) 329
 ヒメシャガ (アヤメ科) 330
 ノカンゾウ (ワスレグサ科) 330
 ミズアオイ (ミズアオイ科) 330
 ホソバタマミクリ (ミクリ科) 331
 ウキミクリ (ミクリ科) 331
 クモマスズメノヒエ (イグサ科) 331
 イトハナビテンツキ (カヤツリグサ科) 332
 チャシバゲ (カヤツリグサ科) 332
 ホスゲ (カヤツリグサ科) 332
 ヒロハノオオタマツリスゲ (カヤツリグサ科) 333
 タカネヤガミスゲ (カヤツリグサ科) 333
 ダケスゲ (カヤツリグサ科) 333
 オタルスゲ (カヤツリグサ科) 334
 ナガミヒメスゲ (カヤツリグサ科) 334
 クロボスゲ (カヤツリグサ科) 334
 シラコスゲ (カヤツリグサ科) 335
 キイトスゲ (カヤツリグサ科) 335
 タカネナルコ (カヤツリグサ科) 335
 モエギスゲ (カヤツリグサ科) 336
 ノテンツキ (カヤツリグサ科) 336
 ヒゲハリスゲ (カヤツリグサ科) 336
 タカネクロスゲ (カヤツリグサ科) 337
 クロアブラガヤ (カヤツリグサ科) 337
 ヒロハノコヌカグサ (イネ科) 337
 フサガヤ (イネ科) 338
 ヤマオオウシノケグサ (イネ科) 338
 タカネモソモ (イネ科) 338
 ヒロハノドジョウツナギ (イネ科) 339
 ハイチゴサ (イネ科) 339
 カモノハシ (イネ科) 339
 タツノヒゲ (イネ科) 340

イトイチゴツナギ (イネ科) 340
 ネズミノオ (イネ科) 340
 ハネガヤ (イネ科) 341
 スナシバ (イネ科) 341
 アズマレイジンソウ (キンボウゲ科) 341
 アズマイチゲ (キンボウゲ科) 342
 シラネアオイ (キンボウゲ科) 342
 オオミスミソウ (キンボウゲ科) 342
 ツクモグサ (キンボウゲ科) 343
 イブキキンボウゲ (キンボウゲ科) 343
 ヤシヤビシヤク (スグリ科) 343
 ツメレンゲ (ベンケイソウ科) 344
 タコノアシ (タコノアシ科) 344
 ミツバフウロ (フウロソウ科) 344
 ミズマツバ (ミソハギ科) 345
 リシリオウギ (マメ科) 345
 ハゴロモグサ (バラ科) 345
 イワキンバイ (バラ科) 346
 ウラジロキンバイ (バラ科) 346
 ツルキジムシロ (バラ科) 346
 タテヤマキンバイ (バラ科) 347
 コミヤマミズ (イラクサ科) 347
 ツクバネガシ (ブナ科) 347
 アサダ (カバノキ科) 348
 イワウメヅル (ニシキギ科) 348
 ニシキソウ (トウダイグサ科) 348
 トウダイグサ (トウダイグサ科) 349
 クモイナズナ (アブラナ科) 349
 シロウマナズナ (アブラナ科) 349
 オオユリワサビ (アブラナ科) 350
 カジカエデ (ムクロジ科) 350
 カラコギカエデ (ムクロジ科) 350
 オオツリイタドリ (タデ科) 351
 ホソバノウナギツカミ (タデ科) 351
 アキノミチヤナギ (タデ科) 351
 タカネミミナグサ (ナデシコ科) 352
 チシマツメクサ (ナデシコ科) 352
 フシグロセンノウ (ナデシコ科) 352
 シコタンハコベ (ナデシコ科) 353
 ヒメシヤクナゲ (ツツジ科) 353
 シヤクジョウソウ (ツツジ科) 353
 サツキ (ツツジ科) 354
 レンゲツツジ (ツツジ科) 354
 シロウマリンドウ (リンドウ科) 354
 ホソバツルリンドウ (リンドウ科) 355
 チシマセンブリ (リンドウ科) 355
 ホタルカズラ (ムラサキ科) 355
 マルバノホロシ (ナス科) 356
 オオマルバノホロシ (ナス科) 356
 マルバノサワトウガラシ (オオバコ科) 356
 ヒナノウスツボ (ゴマノハグサ科) 357
 メハジキ (シソ科) 357
 コバノタツナミ (シソ科) 357
 デワノタツナミソウ (シソ科) 358
 オニシオガマ (ゴマノハグサ科) 358
 イスタヌキモ (タヌキモ科) 358
 クマツツラ (クマツツラ科) 359
 アサギリソウ (キク科) 359
 オケラ (キク科) 359
 ホソバムカンヨモギ (キク科) 360
 ヤナギタンポポ (キク科) 360
 オオニガナ (キク科) 360
 ヤブレガサ (キク科) 361
 サワオグルマ (キク科) 361
 タカネコウリンカ (キク科) 361
 オトコヨウヅメ (レンブクソウ科) 362
 コウグイスカグラ (スイカズラ科) 362
 ハマゼリ (セリ科) 362
 ムカゴニンジン (セリ科) 363

情報不足

チシマヒカゲノカズラ (ヒカゲノカズラ科) 363
 ミヤマハナワラビ (ハナヤスリ科) 363
 ヤマハナワラビ (ハナヤスリ科) 364
 ヤマドリトラノオ (チャセンシダ科) 364
 イワヤシダ (イワデンダ科) 364
 トガクシデンダ (イワデンダ科) 365
 イワオモダカ (ウラボシ科) 365
 マルバウマノスズクサ (ウマノスズクサ科) 365
 ミチノクサイシン (ウマノスズクサ科) 366
 ミヤマアオイ (ウマノスズクサ科) 366
 ナベクラザゼンソウ (サトイモ科) 366
 センニンモ (ヒルムシロ科) 367
 ヒロハノエビモ (ヒルムシロ科) 367
 ヒメサユリ (ユリ科) 367
 ホトトギス (ユリ科) 368
 シラン (ラン科) 368
 アツモリソウ (ラン科) 368
 シロデンタ (ラン科) 369
 ツリシュスラン (ラン科) 369
 ヒメムヨウラン (ラン科) 369
 キバナノシヨウキラン (ラン科) 370
 ヤマラッキョウ (ネギ科) 370
 コヤブラン (ナギイカダ科) 370
 エゾミクリ (ミクリ科) 371
 クロホシクサ (ホシクサ科) 371
 ドロイ (イグサ科) 371
 エゾノミクリゼキシヨウ (イグサ科) 372

植 物

エゾイトイ (イグサ科)	372	ヒラウロコゴケ (ツボミゴケ科)	408
タカネイ (イグサ科)	372		
シロガヤツリ (カヤツリグサ科)	373		
ヒメホタルイ (カヤツリグサ科)	373		
マネキシシジギヤ (カヤツリグサ科)	373		
ユキクラヌカボ (イネ科)	374		
ヒナザサ (イネ科)	374		
オオタチカモジ (イネ科)	374		
タチネズミガヤ (イネ科)	375		
ヒゲナガコムススキ (イネ科)	375		
メガルカヤ (イネ科)	375		
ミヤマカニツリ (イネ科)	376		
チシマカニツリ (イネ科)	376		
トガクシソウ (メギ科)	376		
クモマキンポウゲ (キンポウゲ科)	377		
シキンカラマツ (キンポウゲ科)	377		
ノカラマツ (キンポウゲ科)	377		
マルバノキ (マンサク科)	378		
フサモ (アリノトウグサ科)	378		
グンナイフウロ (フウロソウ科)	378		
エゾミソハギ (ミソハギ科)	379		
ホソバアカバナ (アカバナ科)	379		
イタチササゲ (マメ科)	379		
ヒロハクサフジ (マメ科)	380		
シロバナノヘビイチゴ (バラ科)	380		
ミツモトソウ (バラ科)	380		
ヨコグラノキ (クロウメモドキ科)	381		
ラセイタソウ (イラクサ科)	381		
アゼオトギリ (オトギリソウ科)	381		
ウスバスマレ (スミレ科)	382		
ヒゴスマレ (スミレ科)	382		
アカネスマレ (スミレ科)	382		
アケボノスマレ (スミレ科)	383		
イヌナズナ (アブラナ科)	383		
ナニワズ (ジンチョウゲ科)	383		
ホザキヤドリギ (オオバヤドリギ科)	384		
ハマナデシコ (ナデシコ科)	384		
カンチヤチハコベ (ナデシコ科)	384		
ギンレイカ (ヤブコウジ科)	385		
サワトラノオ (ヤブコウジ科)	385		
イワナンテン (ツツジ科)	385		
チョウジコメツツジ (ツツジ科)	386		
ミヤマムグラ (アカネ科)	386		
イワギリソウ (イワタバコ科)	386		
オオアブノメ (オオバコ科)	387		
ビロードトラノオ (オオバコ科)	387		
オニク (ハマウツボ科)	387		
ハマウツボ (ハマウツボ科)	388		
フサタヌキモ (タヌキモ科)	388		
タヌキモ (タヌキモ科)	388		
ツルギキョウ (キキョウ科)	389		
シマカンギク (六倍体) (キク科)	389		
イワインテン (キク科)	389		
カセンソウ (キク科)	390		
ミヤマアキノノゲシ (キク科)	390		
シュウブソウ (キク科)	390		
オナモミ (キク科)	391		
藓苔類			
絶滅危惧Ⅰ類			
オリンピックゴケ (キヌシッポゴケ科)	397		
クロカワゴケ (カワゴケ科)	397		
イトゴケ (ハイヒモゴケ科)	398		
コキジノオゴケ (クジャクゴケ科)	398		
キレハコマチゴケ (コマチゴケ科)	398		
絶滅危惧Ⅱ類			
イシツチゴケ (オオツボゴケ科)	399		
キヌシッポゴケモドキ (キヌシッポゴケ科)	399		
カラフトシノブゴケ (シノブゴケ科)	399		
コシノヤバネゴケ (カワゴケ科)	400		
ヒヨクゴケ (イワダレゴケ科)	400		
チヂレヤハズゴケ (クモノスゴケ科)	400		
ヤマトヤハズゴケ (クモノスゴケ科)	401		
準絶滅危惧			
オオミスゴケ (ミスゴケ科)	401		
ガッサンクロゴケ (クロゴケ科)	401		
ヒカリゴケ (ヒカリゴケ科)	402		
カワゴケ (カワゴケ科)	402		
ウキゴケ (ウキゴケ科)	402		
イチヨウウキゴケ (ウキゴケ科)	403		
情報不足			
ナンジャモンジャゴケ (ナンジャモンジャゴケ科)	403		
ジョウレンホウオウゴケ (ホウオウゴケ科)	403		
チャボナガダイゴケ (シッポゴケ科)	404		
ヤスダゴケ (ハリガネゴケ科)	404		
コシノシンジゴケ (ハリガネゴケ科)	404		
ツブツブヘチマゴケ (ハリガネゴケ科)	405		
レイシゴケ (ヒゲゴケ科)	405		
オオサナダゴケ (サナダゴケ科)	405		
コウライイチイゴケ (ハイゴケ科)	406		
サトミヨツデゴケ (マツバウロコゴケ科)	406		
タチクモマゴケ (ツボミゴケ科)	406		
ミツデモミジゴケ (ツボミゴケ科)	407		
エゾヒメソウイゴケ (ツボミゴケ科)	407		
マルバイチョウゴケ (ツボミゴケ科)	407		

5 富山県の自然概況

海に囲まれた日本列島は、中緯度温帯域の温暖湿潤な気候下にあり、豊かな緑におおわれ、多様な生物を育んできた。富山県は日本列島のほぼ中央に位置し、北方は富山湾から日本海に面し、東南方向に立山連峰や後立山連峰がそびえ立っており、自然が豊かで多様な環境がある。

また冬季には、北西の季節風にともなう多量の降雪が特徴的で、特に立山連峰の周辺は多量の積雪があり、盛夏にも雪渓がみられる。最近、立山雄山東側の御前沢雪渓の下にある水体が移動していることが計測され、最南端の氷河として認定された。これまでも立山から薬師岳にかけては山岳氷河のあったことを示す地形が残っており、薬師岳の圏谷群は特別天然記念物に、立山雄山の直下室堂側にある山崎圏谷（カール）は天然記念物に指定されている。

一方、富山湾は水深 1,000 m の海底へ向け落ち込む急峻な地形が特徴的で、沿岸の旧河川跡が海底谷（あいがめ）となっているなど地形の変化が著しく、海底谷の斜面に生息するシラエビ（白海老）は世界的にも希少な動物である。また、深海に生息する発光動物のホタルイカは、春から初夏にかけて富山市から魚津市にかけての沿岸に大群をなして産卵にやってくる。日本列島周辺の深海にはどこにでもいるが、なぜ富山湾に大群で産卵にくるのか、その謎はまだ解明されていない。常願寺川の河口右岸から魚津港までの海岸の満潮時の沖合 1260m までの海域は、ホタルイカの群遊海面として特別天然記念物に指定されている。

その他にも多様な魚類に加えて、ホッコクアカエビ（甘エビ）、ベニズワイガニ、オオエッチュウバイなどが漁獲され、ワカメ、テングサ、モズク、ナガラモ（アカモク）など豊富な海藻類も採取されており、富山の食卓をにぎわせてくれる。変わった動物としては、オオグチボヤの 100 匹を越える群体が富山湾で見つかり話題となった。

海岸は、砂浜、砂利浜、岩礁など変化に富み、砂浜には海浜植物の群落があり、汀線をはさんでさまざまな海岸動物が見られる。1980 年代には魚津市の海岸で発光ゴカイが見つかり話題となった。

富山湾には黒部川、常願寺川、神通川、庄川、小矢部川など背後の山地に発する河川が流入する。黒部川、常願寺川、庄川は広大な扇状地を形成し、下流に湧水帯をもつことで、湧水に特有のミクリやバイカモなどの植物、ホクリクヨコエビやトミヨなどの動物がみられる。また、氷見市の十二町瀉周辺には国指定の天然記念物また環境省指定の国内希少野生動植物種であるイタセンパラが生息するばかりでなく、十二町瀉には国指定天然記念物であるオニバスが生息している。

富山県の南東には立山連峰がそびえ立ち、立山連峰と黒部川の峡谷を挟んで対峙する朝日岳から白馬岳、五龍岳、鹿島槍ヶ岳へと続く後立山連峰があり、新潟県や長野県との県境となっている。これらの山岳地帯は標高 2,400 m を越す高山帯となっており、特に後立山連峰は多様な高山植物がみられ、白馬連山高山植物帯として国指定の天然記念物となっている。また、ライチョウ、ホシガラス、オコジョなど高山帯に特有の動物もみられる。

高山帯の下部は、アオモリトドマツ（オオシラビソ）など針葉樹の生育する亜高山帯（標高 1,600 ～ 2,400 m）であり、立山の中腹に広がっている弥陀ヶ原・大日平の湿原は、今年、ラムサール条約湿地に登録された。1,600 m より低くなると山地帯、低山帯へと変化し

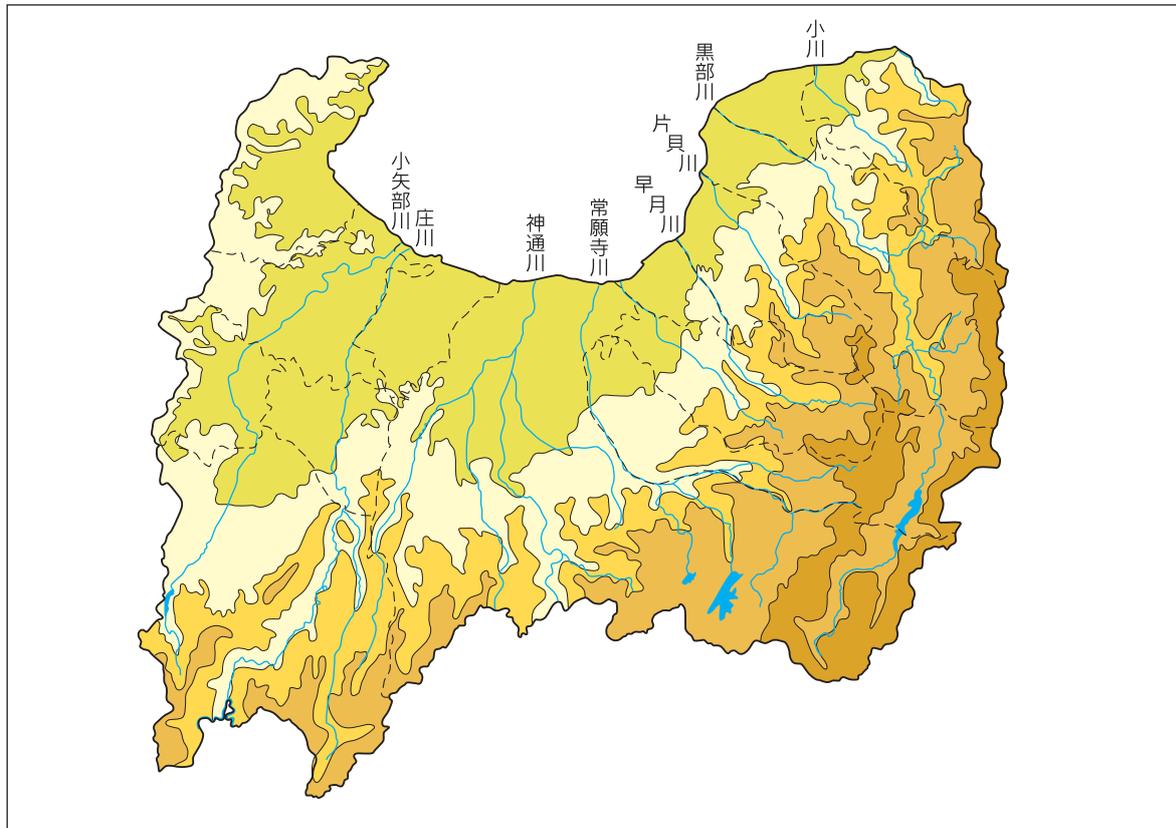
ており、山地帯はブナやミズナラ等の落葉広葉樹の生育が本来の姿であるが、伐採されてスギやヒノキなど有用針葉樹が植林されていることも多い。呉羽丘陵などの低山帯は大陸から日本へ、日本より南へと渡る渡り鳥の中継地点であり、多くの渡り鳥にとってたいへん重要な地域である。

県土がどのくらい森林で被われているかの指標である森林率は、富山県は全国平均と同じ67%であるが、人工林率は全国平均が41%に対して富山県は19%と新潟県と並んで全国一低く、自然林の多いことを示している。

富山県の木に指定されているタテヤマスギ（立山杉）は北アルプス北部から連なる山岳地帯に自生しているが、山岳地帯だけでなく入善町の海岸近くに生育しており、天然記念物に指定されている杉沢の沢スギ林の主要な樹種となっている。スギは日本の固有種で屋久島から本州東北地方まで自生しているが、タテヤマスギは植林に適した地域特有の性質を選定したもので品種名である。

富山県には、1,000 mの深海から 3,000 mの高山地帯まで、多様で豊かな自然がある。山岳地帯に降る雨や雪がもたらす豊かな水は、山地の自然を育み、河川水や地下水となって平野を潤している。しかし近年、地球の温暖化にともなう植物相や動物相の変化がみられるようになり、人間の活動による大気汚染や酸性雨など自然環境に及ぼす影響や、ブラックバスなど外来魚の放流、ハクビシンなどの外来動物の野生化など、生態系への影響が懸念されている。

レッドデータブックとやま改訂のための検討委員会 委員長 田中 晋



等高線区分
 ■ : 0~100m
 ■ : 100~500m
 ■ : 500~1000m

図 5.1 富山県の標高区分と主な河川

6 各分類の概要

6.1 選定種の解説項目と内容

(1) 和名等

和名は標準和名を記載するとともに、動物は目名と科名（軟体動物は科名のみ）、植物は科名を記載した。

(2) 富山県カテゴリー

「絶滅＋野生絶滅」「絶滅危惧Ⅰ類」「絶滅危惧Ⅱ類」「準絶滅危惧」「情報不足」「地域個体群」のいずれかの区分で記載した。

(3) 環境省カテゴリー（平成24年3月時点）

環境省編のレッドデータブック、またはレッドリストのカテゴリー区分を記載した。

(4) 選定理由

富山県版カテゴリーの要件を基本に記載した。

(5) 形態

対象種の特徴的な形態を記載した。

(6) 国内や県内の分布状況または分布記録

それぞれの種の主な分布状況（記録）について記載した。

(7) 生態・生息（生育）環境

生息・生育地の自然条件、環境の状況等について記載した。

(8) 生存への脅威

対象種の生息・生育に対する現在並びに近い将来予測される圧迫要因について記載した。

(9) 保全対策

対象種の現段階で考えられる保全対策について記載した。

(10) 特記事項

法令関係及び上記以外で特に記すべきと考えた事項について記載した。

(11) 写真について

動物については準絶滅危惧種以上、植物については絶滅危惧Ⅱ類種以上を基本に掲載した。

(12) 地図について

動物については絶滅危惧Ⅱ類種以上（ただし哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類は準絶滅危惧種以上）、植物については絶滅危惧Ⅰ類種以上を基本に掲載した。

絶滅種の記録位置はすべて赤色の斜線で表示した。その他のカテゴリーは、過去に分布していたものや現在も分布しているものも含めてすべて赤色で着色した。

地図は種によっては代表的な分布地を示しており、県内のすべての分布地点を表しているものとは限らない。

なお、解説項目において、解説が無い場合には項目を省略した。

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.2 哺乳類

6.2 哺乳類

(1) 県内の哺乳類相の概要

日本産の在来陸生哺乳類は、7目23科111種とされる（阿部ら（2005）にトクノシマトゲネズミ（Endo and Tsuchiya, 2006）を追加）。このうち富山県内に生息する種は7目15科46種（絶滅種2種を含む）で、日本産在来種の41.4%にあたる。また、県内で確認されている外来種は7種（ノイヌ、ノネコ、ハクビシン、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ、アライグマ）で、総種数53種の13.2%となり、日本全土で24.0%となることから（横畑、2007）、本県は生息する哺乳類の種数が多い割に外来種の少ない県といえる。ただし、在来種の中にはキツネのように人為的に一部の個体を他県から導入したことがある種や、アブラコウモリのように史前帰化動物の可能性のある種が含まれている。

富山県は海岸から高山帯まで多様な環境を有し、豊かな哺乳類相を擁している。森林面積率も高く、ハタネズミ、カヤネズミのようなごく一部の草原（湿原を含む）性の種を除くと、大半の種が主に森林に生息しており、中でも絶滅のおそれのある種はほとんどが奥山域を主たる分布地としている。また、ツキノワグマやニホンザルのように、里地に進出して問題を発生させる種も、通常は奥山を主な生息場所としている。県内の哺乳類の保全に関する限り、奥山の生息環境を適正に保全することが中心的な課題となる。一方、イノシシのように近年里地や中山間地域で個体数が増加し、農林業被害などを発生させている種もみられ、適切な個体群、生息地および被害の管理が必要である。

(2) 選定の考え方

過去の文献や標本、野外調査、その他（目撃、死体の拾得など）に基づく生息情報を取りまとめ、第一次レッドリストの再検討を行った。上述のように絶滅のおそれがあるとされてきた種の大半が奥山域に分布しており、第一次選定以降奥山域の自然環境に顕著な変化がみられないことから、第一次選定結果を尊重し、大きな変更は行わず、情報の追加された種を中心に評価を行った。その結果、カヤネズミを情報不足から準絶滅危惧に変更した以外は、第一次レッドリストに準拠した結果となった。

(3) 選定対象種、和名・学名等

第一次レッドリストの選定種を中心に、県内産のすべての在来種を検討の対象とした。種の和名と学名は阿部ら（2005）および Ohdachi et al.（2009）に準拠した。目の和名は基本的に日本哺乳類学会種名標本検討委員会・目名問題検討作業部会（2003）に従い、いわゆる「食虫目」の扱いについては Ohdachi et al.（2009）を参考に、「トガリネズミ型目」とした。

今回の検討には、以下の方々のご協力を得た（敬称略、50音順）。ここに記してお礼を申し上げます。

石田寛明、川田伸一郎、栗原 望、澤田研太、中武亮介、平 英彰、藤重 健、見浦沙耶子、宮原真樹、宮部慎吾、宮本秋津、森田秀樹、森部絢嗣、諸星勇祐、安田 暁

オオカミ (食肉目、イヌ科) *Canis lupus*

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：絶滅

選定理由

かつて、北海道、本州、四国、九州の山野に生息していたが、絶滅した。

形態

富山県にいた亜種ニホンオオカミは頭胴長約110cm、尾長約40cm。日本在来のイヌに似るが、体形は細く四肢や体毛は長い。尾は実直。頸の毛は長くてたてがみ状となる。頭骨の吻は短く広い。

国内の分布記録

北海道にはエゾオオカミが、本州以南にはニホンオオカミの2亜種が広く分布していた。ニホンオオカミは、1905年(明治38年)に奈良県吉野村で捕獲された若い雄の個体が最後とされ、世界に現存する剥製は4点、毛皮1~2点で、頭骨はかなり残されている。(写真は国立科学博物館所蔵の剥製)

県内の分布記録

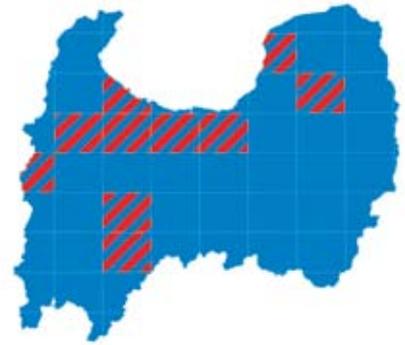
1800年代後半(明治前期頃)まで生息していたものと考えられる。藩政時代は人々に最も恐れられた生き物で、藩内各地(射水郡だけを見ても本江、本田、宮袋、黒河、布目、生源寺、上牧野、上野、仲瀬原、中野、円池新、西広上、中川、水戸田、大門、津幡江、串田、羽広の各村や高岡油町、木町、古御城、小杉新町など)の人里に現れ、人身被害の記録も多い。藩では足輕を派遣し銃器で駆除をしている。

生態・生息環境

2~3頭から10頭以上で群をなし、シカやイノシシなど野生動物を獲物とした。また、ススキ草原などにある岩や土の穴などをねぐらとし、3頭位の仔を産み育てていた。

特記事項

人畜危害防止のための駆除で個体数が減少したことや獲物となる動物の減少、ジステンバーなどの伝染病の蔓延により、明治になって急減、絶滅した。ニホンオオカミは独立種*C. hodophilax*とする説もある。



ニホンカワウソ (食肉目、イタチ科) *Lutra lutra nippon*

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I A 類

選定理由

近年まで四国の一部にわずかに生存するとされていたが、絶滅した。日本固有亜種。

形態

頭胴長約70cm、尾長約45cm。体形は水中生活に適応。尾の基部は太く、胴との境界は不明瞭。四肢の指趾間には水かきがある。指の数は5本でイヌの足跡(指4本)と区別できる。耳介は小さい。上面の毛は茶色、先端は黄土色。(写真は国立科学博物館所蔵の剥製)

国内の分布状況

北海道から九州まで各地の河川に普通に生息していたが、1920年代から1950年代には兵庫、和歌山、京都、長野、愛媛、香川などの府県の河川や海岸での記録があるが減少した。瀬戸内では1964年頃、愛媛の宇和海では1973年頃を境にみられなくなった。近年まで高知県新莊川から足摺岬にかけてごく少数が生息しているとされていたが、最近の見解ではその後絶滅したとされる。

県内の分布記録

藩政時代から文献や絵図の地名、民話などによく著わされた。大正期まで捕獲されていた。明治の頃には富山市内にも生息していたという。また、朝日町三峰地内の溜池で、1959年に1頭捕獲したという確実な情報もある。絶滅に至った原因は河川環境の変化による魚類の減少と毛皮用の捕獲と考えられる。

生態・生息環境

採餌は水中、陸上で行い、魚類、甲殻類、野ネズミなどを食べる肉食性。川岸などに穴を掘り育仔する。

特記事項

国指定特別天然記念物。時々、黒部峡谷、小矢部川、白岩川などでの目撃例とされるものがあるが、確認はされていない。外来種のヌートリアとの識別も必要である。日本固有種*Lutra nippon*とする説もある。



カワネズミ (トガリネズミ型目、トガリネズミ科) *Chimarrigale platycephala*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

河川環境の改変により、生息数が減少した。

形態

頭胴長約12cm、尾長約11cm。背面は夏毛で黒褐色、冬毛は灰色が強くなる。手足の指の両側に長さ1.5cmほどの扁平な剛毛が生え、水かきの役をする。耳介は小さく体毛に隠れる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

山麓から山地の溪流に生息するが、生息個体数は少ない。上市町大沢、有峰藤十郎谷、真川ホトロ谷、南砺市利賀金剛寺谷・水無谷、南砺市平小谷川など標高350～1000m前後の溪流などにみられ、細流にも生息する。

生態・生息環境

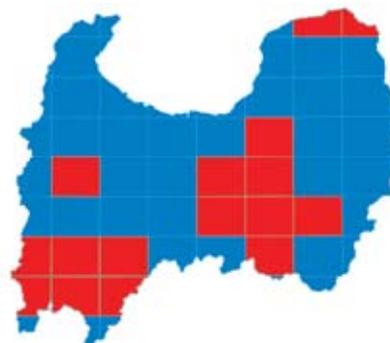
溪流や岸辺を移動しながら魚類や両生類、水生昆虫、甲殻類などを採餌する。昼夜とも活動する。溪畔の土中や石の下などに巣を作る。

生存への脅威

溪流における大形堰堤の設置やコンクリートの護岸整備により、行動域が分断され生息数の減少が危惧される。生息場所の上流域での開発行為などにより環境が変化した地域でもみられなくなることが知られている。

保全対策

溪流域などの生息地およびその上流域の環境の保全。



アズミトガリネズミ (トガリネズミ型目、トガリネズミ科) *Sorex hosonoi*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

県内では、北アルプスの高山帯を中心に、限られた地域に分布する。日本固有種。

形態

頭胴長約6cm、尾長約5cm。体毛は短くピロード状。体形は細く四肢は短い。吻は細長く、尾は成獣では裸出する。近縁種のトガリネズミよりやや小形で、後足長も12mm以内。歯の先端は赤褐色に染まる。

国内の分布状況

本州の関東・中部・北陸地方。

県内の分布状況

近年は立山周辺の亜高山帯上部から高山帯（例えば立山室堂、鏡石平、国見岳など）で記録されている。広く県内の山稜部に分布していると考えられるが、生息数は多くない。

生態・生息環境

亜高山から高山帯にかけて生息する。トラップ調査ではハイマツ林縁で記録される。

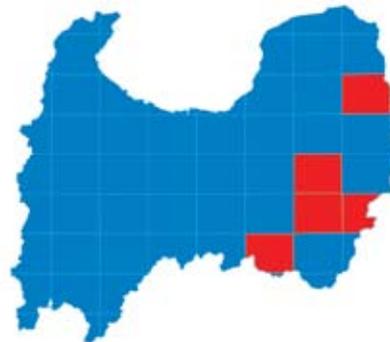
昆虫やクモ、ミミズ類などの動物食。高山帯での繁殖期は7～9月。真砂岳産の雌は胎仔数5で、乳頭式は0+1+2=6であった。

生存への脅威

温暖化やイノシシの進出などの環境変化による生息環境の劣化や、登山者の行為に起因する天敵（キツネ、テン、カラスなど）の誘引が懸念される。

保全対策

高山・亜高山帯の自然環境の保全、美化清掃活動の推進。



クビワコウモリ (翼手目、ヒナコウモリ科) *Eptesicus japonensis*富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

本州中部に限って生息する。日本固有種。

形態

頭胴長約6cm。前腕長約4cm。翼開長約27cm。耳珠は前縁で0.5cm前後。体毛は黒褐色で上毛が褐色または金色に光る。腹面はうすい茶褐色。幼体は白色をおびる。

国内の分布状況

福島県、埼玉県、北アルプス、富士山、秩父山系、石川県船倉島で採集記録があるが、現在、乗鞍高原でのみ繁殖コロニーが確認されている。

県内の分布状況

現在、県内では立山カルデラのほか有峰大多和峠・猪根平、朝日岳越道峠で記録されている。

生態・生息環境

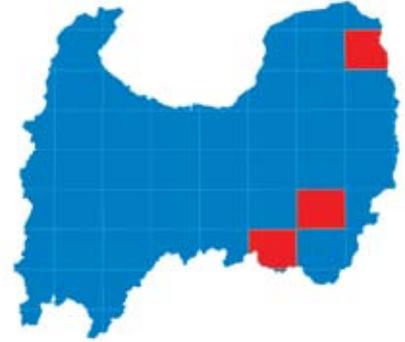
県内で記録されたのはブナ林を飛翔するものの他、猪根平では日昼、建物の窓枠に潜入していたものが記録された。また7月には雌が記録されたので新たな繁殖地があるものと考えられる。

生存への脅威

森林の伐採による生息域の減少。

保全対策

ブナ林の保全。

ミズラモグラ (トガリネズミ型目、モグラ科) *Euroscaptor mizura*富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

県内では、北アルプスや有峰周辺の山地帯から高山帯に分布する。日本固有種。

形態

頭胴長約10cm、尾長約2.5cmの小形のモグラ。ミズラモグラ属の歯数は44本でニホンモグラ属の42本より多い。体色は背面が黒褐色、下面は灰色。手は他のモグラ類と同様大きく、爪は長い。

国内の分布状況

青森県から広島県まで分布するが、孤立分布の傾向が強い。

県内の分布状況

北アルプスや有峰地域の山地から高山帯にかけ広く分布する。岐阜県北部、県境付近の打保で営巣が確認されており、分布が連続している可能性が高い。

生態・生息環境

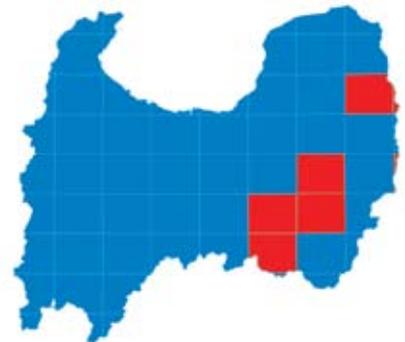
ヒミズ類を除くモグラの仲間で最も原始的な種類と考えられており、ミミズや昆虫、ジムカデ、クモ類などの動物食。立山産の標本の最低標高地はブナ坂の標高1050m、有峰周辺では小口川林道の標高940mの地点であるが、生息密度は低い。

生存への脅威

山岳地では土壌が少なく岩石が多いので、連続した生息域の確保が困難であるが、逆に土壌環境の良い場所では競合種のアズマモグラが優占し、本種が減少する可能性がある。

保全対策

生息地の自然環境の保全。



ヒメホオヒゲコウモリ (翼手目、ヒナコウモリ科) *Myotis ikonnikovi*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(亜種フジホオヒゲコウモリとして)、情報不足(亜種オゼホオヒゲコウモリとして)

選定理由

ブナ帯より上部の原生林に生息するが、県内での生息地は限られている。日本固有種。

形態

頭胴長4.5cm、前腕長3.5cm、翼開長23cm。耳珠は細く前縁で約0.5cm。黒褐色の体毛をもち、背中の上毛の先端は金色の光沢がある。幼体は金色が鈍い。飛膜は足の外側指基部に着く。

国内の分布状況

北海道、本州中部以北、三重県、奈良県、広島県。

県内の分布状況

北アルプスに広く分布すると考えられるが、現在記録されているのは、立山と有峰周辺に限られる。

生態・生息環境

立山ではブナ帯から亜高山性針葉樹林帯にかけ生息する。美女平や弥陀ヶ原、立山カルデラ、黒部平で記録されているが、黒部平では、日昼、倒木の樹皮の下にひそんでいたものが記録された。有峰では比較的多く生息している。初夏に1仔を出産する。

生存への脅威

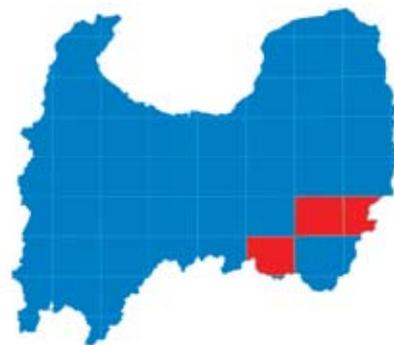
天然林の伐採が現在もあるが、自然林への依存性の高い種であり、生息域の減少が進行していると考えられる。

保全対策

天然林の保全。

特記事項

本州産の本種はフジホオヒゲコウモリ *M. ikonnikovi fujiensis*、オゼホオヒゲコウモリ *M. ikonnikovi ozensis*、シナノホオヒゲコウモリ *M. ikonnikovi hosonoi* の3亜種に分類されているが、富山県のものがどの亜種かは不明。



カグヤコウモリ (翼手目、ヒナコウモリ科) *Myotis frater*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

山地のブナ帯を中心に生息するが、県内の生息地は限られている。

形態

頭胴長約5cm、前腕長約4cm、翼開長約26cm。体色は黒褐色で、飛膜は足の外側指基部に着く。耳珠は細く前縁で0.5cm前後。

国内の分布状況

北海道、本州(岐阜県、石川県以北)。

県内の分布状況

県内の山地帯に広く分布するものと考えられる。朝日岳、立山カルデラ、有峰で記録されている。

生態・生息環境

樹洞を昼間の隠れ家としていると思われるが、有峰ではコンクリートの建物の隙間、朝日岳では山麓の隧道で5頭の群が記録された。初夏に1仔を産む。夜間に飛翔する蛾などを捕食する。

生存への脅威

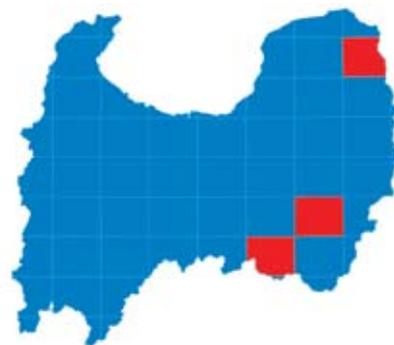
森林伐採により樹洞のある大径木が消失し、生息・繁殖に支障をおよぼす。

保全対策

樹洞の多い広葉樹の保全。

特記事項

原始的な森林が保全されている有峰一帯は、生息数も多く貴重な繁殖地となっている。



ノレンコウモリ (翼手目、ヒナコウモリ科) *Myotis nattereri*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

選定理由

黒部川や常願寺川上流の山地帯にしか生息地が知られていない。

形態

頭胴長約5cm、前腕長約4cm、翼開長約25cm。耳珠は剣の如く細長く前縁で1cm前後と長い。体色は暗褐色で腿間膜の縁に綿毛を列生する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、口永良部島などに局地的に分布するが、採集記録は10数カ所と少ない。

県内の分布状況

黒部峡谷や常願寺川支流真川沿いの隧道内で7回ほど記録されている。

生態・生息環境

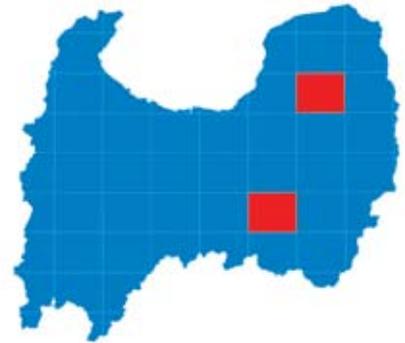
昼間のねぐら並びに冬眠場所は洞穴のポケットで、県内ではいずれも隧道内で単独個体で記録された。個体数は少ない。

生存への脅威

隧道内壁の改修や照明器具の取付けにより、ねぐら環境の消失が危惧される。

保全対策

生息地の森林の保全が望まれる。生息する隧道の壁面処理や照明については、生息に支障のないよう配慮が望まれる。



ヤマコウモリ (翼手目、ヒナコウモリ科) *Nyctalus aviator*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

主に山地のブナ帯で繁殖するが、生息数は多くない。

形態

頭胴長約10cm、前腕長約6cm、翼開長約40cmの県内最大種。耳珠は茸状で前縁で0.6cm前後。体色は光沢のある褐色。飛膜は足の踵付近につく。

国内の分布状況

かつては四国、九州にも分布していたが、ここ30年余りの間は、北海道と本州中部以北、対馬、壱岐などの記録にとどまる。

県内の分布状況

繁殖期に確認されているのは、有峰と朝日岳である。夏から秋にかけ移動が見られ富山市や射水市、小矢部市で記録されている。

生態・生息環境

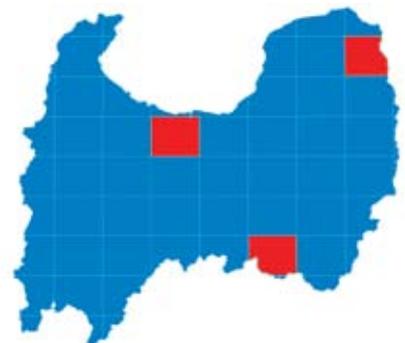
ブナやミズナラなどの大径木のある森林に生息する。夕刻まだ明るいうちに採餌に飛び出す。昼間のねぐらは樹洞、建造物、巣箱など。初夏に多くは2仔を出産する。射水市新湊地区では8月に銭湯の煙突内に同時に数個体迷入した記録がある。

生存への脅威

森林伐採による樹洞の消失や環境変化が大きな脅威となる。

保全対策

樹洞の多い成熟した広葉樹の保全。



コテングコウモリ (翼手目、ヒナコウモリ科) *Murina ussuriensis*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地は限られ、生息数も少ない。

形態

頭胴長約4cm、前腕長約3cm、翼開長約21cm。鼻は筒状に突き出る。毛色は薄茶色で羊毛状に縮れる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に分布するが、本州中部以西では局地的に分布する。

県内の分布状況

山地帯から亜高山帯にかけて分布する。立山・有峰・黒部峡谷で数回記録されている。低標高地では富山市婦中町吉住（標高140m）や立山町芦峯寺（標高420m）、富山市山田若土（標高650m）で見つかっている。

生態・生息環境

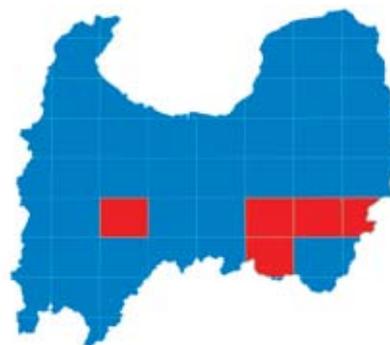
ブナ、ミズナラの原生林に多く、森林内の低い位置を飛ぶ。黒四ダム堤上で拾得されたことがある。昼間のねぐらは、樹洞、樹皮の隙間、坑道、枯葉の中など。

生存への脅威

森林伐採による樹洞の消失や環境変化が大きな脅威となる。

保全対策

生息地の森林の保全。



ニホンモモンガ (齧歯目、リス科) *Pteromys momonga*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

分布が局地的で希少な動物。日本固有種。

形態

頭胴長約17cm、尾長約12cm。形態はムササビに似るが小さく、大きな目と皮膜を有する。

国内の分布状況

本州、四国、九州に分布する。

県内の分布状況

山地帯に広く分布すると思われるが、記録された生息地は、立山（ブナ坂・弥陀ヶ原・立山カルデラ）、有峰、南砺市利賀水無、上平猪谷などに限られる。

生態・生息環境

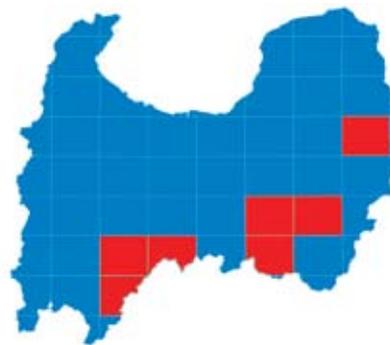
北方系の夜行性動物。山地から亜高山帯に生息する。樹上生活をし、木の芽や果実、昆虫などを採餌する。皮膜を使用し樹間を滑空する。キツツキの古巣などをねぐらに利用する。

生存への脅威

ねぐらとする樹洞や採餌物の豊富な成熟した森林が必要である。森林伐採による行動域の狭小化や分断が懸念される。

保全対策

原生的な森林の保全が必要である。



ヤマネ (齧歯目、ヤマネ科) *Glirulus japonicus*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

山地帯の環境変化による生息状況の悪化。日本固有種。

形態

頭胴長約8cm、尾長約5cm。ネズミに似るが、背に太い一本の黒条がある。尾は長毛を生じ扁平。

国内の分布状況

本州、四国、九州に分布する。

県内の分布状況

県内の山地帯から亜高山帯の森林に生息するが、高山帯にも現れる。北アルプスの朝日岳から薬師岳まで広く記録があるが、有峰や富山市大山高杉山、南砺市利賀水無平などにも記録がある。

生態・生息環境

冬眠することで知られる樹洞性動物。自分の体温で残雪に穴をあけ底で眠っていることもある。高山帯の山小屋やホテル、旅館にしばしば侵入し、布団や作業衣のポケットからも見つかっている。

生存への脅威

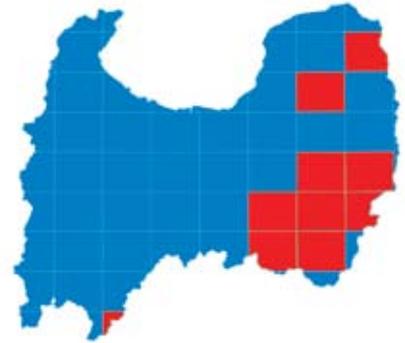
森林伐採や各種開発により生息環境が劣化し、減少している。利賀水無では、伐採搬出される民有林のブナ樹洞から、巣と5頭の幼体が見いだされたことがある。

保全対策

原生的な落葉広葉樹林の保全が望まれる。

特記事項

国指定天然記念物。



カヤネズミ (齧歯目、ネズミ科) *Micromys minutus*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

日本海側の分布北限に近く、希少な種。

形態

頭胴長約6cm、尾長約7cm。尾率は110%余の尾の長い小型のネズミ。背面は暗褐色、腹面は白色の二色性。

国内の分布状況

日本海側では山形県以南、太平洋側では福島県以南に分布する。

県内の分布状況

2000年に神通河畔で巣が確認され、2003年に小矢部市論田で幼獣と巣の記録がある。論田の生息地では2004年にも調査が行われているが、生息は確認されていない。

生態・生息環境

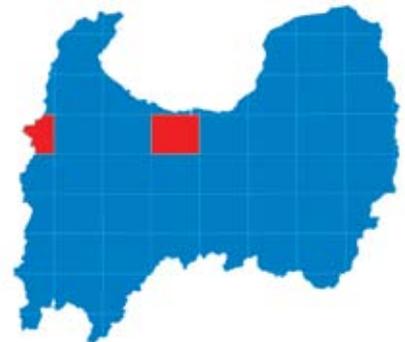
低地の草地、水田、河川敷などのイネ科植物の生育する所に生息する。水面も泳ぐ。球形の巣を草上に作る。

生存への脅威

河川改修などにより草地環境が変わり、生息・繁殖の圧迫要因となる。

保全対策

河川敷や護岸の工作物の改変には、植生変化のないよう配慮が必要である。



オコジョ (食肉目、イタチ科) *Mustela erminea*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

高地で繁殖する希少な動物。

形態

頭胴長約16cm (雌)、約19cm (雄)。尾長5～6cm。背面の夏毛は茶褐色、冬毛は白色 (尾先のみ通年黒色)。

国内の分布状況

北海道にはエゾオコジョ、本州にはホンドオコジョを産する。本州では石川県以東の高山帯から山地帯に分布する。

県内の分布状況

夏期は、北アルプスの亜高山帯以上の地域に広く分布する。4月に城端町小瀬峠でも観察された。冬期には低標高地に漂行し、富山市大山栗巣野など標高500～600m付近でも観察されることがある。

生態・生息環境

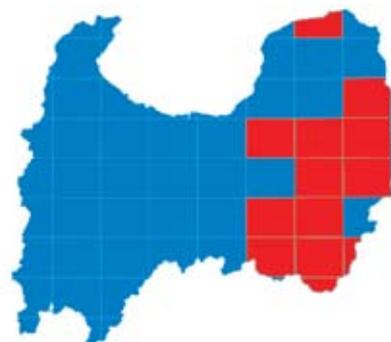
岩礫地に好んで生息し、地表よりも地下や雪の下の隙間をくぐり移動する。昼夜とも活動し、動作は敏捷。単独で行動することが多い。ネズミ類や鳥類の雛・卵・植物の果実などを食べる。

生存への脅威

生息地の自然環境の改変が、生息環境の劣化につながる恐れがある。

保全対策

岩場やガレ場など自然環境の保全はもとより、山小屋内で殺鼠剤を食べたネズミを捕食し、二次的な薬物摂取となり絶命した例があるので、山岳地帯における殺鼠剤使用の中止が望まれる。



モリアブラコウモリ (翼手目、ヒナコウモリ科) *Pipistrellus endoi*

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I B 類

選定理由

本州 (中国地方を除く) と四国から知られるが、産地は10カ所余りの希少な種。日本固有種。

形態

有峰産雌は、頭胴長4.6cm、前腕長3.3cm、翼開長22.6cm。体毛は黒褐色で先端にパフ色をおびる。耳介はアブラコウモリより低く、かつ幅広い肉厚。飛膜は足の外側指の基部に着く。

国内の分布状況

本州 (岩手、埼玉、栃木、東京、神奈川、山梨、新潟、富山、奈良、広島) と四国 (愛媛) の各都県で記録がある。

県内の分布状況

有峰で1984年に湯浅純孝による前出の計測値の個体の記録がある。

生態・生息環境

昼間のねぐらは樹洞で、主に天然林に生息するらしい。繁殖生態など未知なことが多い。

生存への脅威

県有林で伐採の計画はないが、施設整備がなされる場合は生息環境への配慮が望まれる。

保全対策

樹洞のある原生的な広葉樹の保全が必要である。

ヒナコウモリ (翼手目、ヒナコウモリ科) *Vespertilio sinensis*

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生息分布の多くは本州以北で、繁殖コロニーの所在地も限られている。

形態

有峰産雄は、頭胴長5.9cm、前腕長4.9cm、翼開長31.1cm。耳珠の前縁0.4cm。体色は秋から春は黒褐色の体毛に先端の白っぽい刺毛が混ざり霜降り状、夏は明るい茶色。

国内の分布状況

北海道、本州 (中国地方を除く)、四国、九州からの記録がある。

県内の分布状況

有峰で2000年に前出の計測値の個体が記録されたほか、南砺市利賀豆谷隧道内での記録がある。

生態・生息環境

森林の樹洞をねぐらとしているが、家屋や橋桁、海蝕洞なども繁殖のため利用する。初夏に多くは2仔を生む。冬眠場所は寺院などの建造物の屋根裏、洞くつなどが知られる。

生存への脅威

東北地方での集団繁殖地は、家屋や構築物が知られており、安息な繁殖環境の保全が望まれる。

保全対策

樹洞の多い成熟した森林の保全。

特記事項

青森県七戸町天間林では「蝙蝠小舎」が建てられ保護がはかられている。

= 参考文献 =

- 1) 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2005. 日本の哺乳類 改訂版. 東海大学出版会, 秦野.
- 2) 阿部 永・横畑泰志, 1994. 食虫類の自然史. 比婆科学教育振興会, 庄原.
- 3) 今泉吉典, 1964. 奥黒部太郎山の哺乳類. 北アルプスの自然. pp. 205-211. 富山大学学術総合調査団, 富山.
- 4) 植木忠夫, 1964. 立山山系とその周辺地域 (TKA地域) の小哺乳類および有尾両生類. 北アルプスの自然. pp.193-204. 富山大学学術総合調査団, 富山.
- 5) Endo H., 1996. Catalogue of Insectivora Specimens. National Science Museum, Tokyo.
- 6) Endo H. and Tsuchiya K., 2006. A new species of Ryukyu spiny rat, *Tokudaia* (Muridae : Rodentia), from Tokunoshima Island, Japan). *Mammal Study*, 31 : 47-57.
- 7) 日本哺乳類学会種名・標本検討委員会 目名問題検討作業部会, 2003. 哺乳類の高次分類群および分類階級の日本語名称の提案について *哺乳類科学*, 43 : 127-134.
- 8) Ohdachi S. D., Ishibashi Y., Iwasa A. M. and Saitoh T. (eds.), 2009. *The Wild Mammals in Japan*. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
- 9) 正印清逸, 1981. 和田川流域の哺乳動物. (富山県自然保護協会 編) 有峰の自然. pp. 201-220. 北陸電力, 富山.
- 10) 立山自然保護センター, 2001-2010. 立山自然保護センター業務報告書. 立山自然保護センター, 立山町.
- 11) 富山県, 1999. 立山地区動植物種多様性調査報告書. 富山県, 富山.
- 12) 富山県自然保護課, 1977. とやまの野生鳥獣. 富山県, 富山.
- 13) 富山県自然保護課, 1980. 富山県の鳥獣. 富山県, 富山.
- 14) 富山市ファミリーパーク公社, 2005. ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告 (2005年度版). 富山市ファミリーパーク公社, 富山市.
- 15) 富山市ファミリーパーク公社, 2006. ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告 (2006年度版). 富山市ファミリーパーク公社, 富山市.
- 16) 南部久男, 1999. 富山県で絶滅した大型動物 (哺乳類・鳥類) の記録 I. 明治・大正時代の富山県における哺乳類の毛皮及び狩猟等の統計. 富山市科学文化センター研究報告 22 : 153-168.
- 17) 南部久男, 1999. 富山県で絶滅した大型動物 (哺乳類・鳥類) の記録 II. ナチュラリストからの報告. 富山市科学文化センター研究報告, 22 : 169-176.
- 18) 南部久男, 1999. 富山県で絶滅した大型動物 (哺乳類・鳥類) の記録 III. 博物館資料からの報告. 富山市科学文化センター研究報告, 22 : 177-181.
- 19) 南部久男・村山美佳・荒木克昌, 1998. 富山県上市産カワネズミについて. 富山の生物, 37 : 51.
- 20) 畠 佐代子・荘司たか志・山本茂行・村井仁志, 2007. 富山県におけるカヤネズミの繁殖の初記録. 富山の生物, 46 : 65-66.
- 21) 村井仁志・白石俊明・間宮寿頼・南部久男・岡 圭一・西岡 満・神保美和子・森 大輔, 2003. 富山県の哺乳類に関する文献 I. 富山の生物, 42 : 39-46.
- 22) 村井仁志・白石俊明・間宮寿頼・南部久男・岡 圭一・西岡 満・神保美和子・森 大輔, 2003. 富山県における哺乳類の記録 (2002年). 富山の生物, 42 : 27-37.
- 23) 村井仁志・西岡 満・白石俊明・神保美和子・森 大輔・南部久男・岡 圭一・間宮寿頼, 2004. 富山県における哺乳類の記録 (2003年). 富山の生物, 43 : 1-8.

- 24) 村井仁志・間宮寿頼・南部久男・岡 圭一・西岡 満・白石俊明・見浦沙耶子・細川美和子・森 大輔, 2005. 富山県における哺乳類の記録 (2004年). 富山の生物, 44: 63-72.
- 25) 村井仁志・南部久男・森 大輔・内呂由美子・西岡 満・間宮寿頼・細川美和子・見浦沙耶子・岡 圭一・白石俊明, 2006. 富山県における哺乳類の記録 (2005年). 富山の生物, 45: 29-32.
- 26) 村井仁志・南部久男・後藤優介・森 大輔・西岡 満・内呂由美子・加藤智樹・間宮寿頼・見浦沙耶子・細川美和子・岡 圭一・白石俊明, 2007. 富山県における哺乳類の記録 (2006年). 富山の生物, 46: 15-20.
- 27) 村井仁志・後藤優介・南部久男・白石俊明・間宮寿頼・加藤智樹・細川美和子・見浦沙耶子・森 大輔・西岡 満・岡 圭一, 2008. 富山県における哺乳類の記録 (2007年). 富山の生物, 47: 81-85.
- 28) 村山美佳・南部久男, 1998. 富山県大山町産ホンドモモンガについて. 富山市科学文化センター研究報告, 21: 127-128.
- 29) 山本茂行, 1996. 有峰の哺乳類. 常願寺川流域 (有峰地域) 自然環境調査報告. pp. 299-307. 富山市科学文化センター, 富山.
- 30) 山本茂行・湯浅純孝, 1995. 5動物 (1) 哺乳類. 立山カルデラ自然環境基礎調査報告書. 富山県.
- 31) 横畑泰志, 2007. 日本産哺乳類における外来種問題. 日本の科学者, 42: 172-176.

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.3 鳥 類

6.3 鳥類

1. 概要

富山県の鳥類は1950年代後半頃より、植木忠夫や下山喜太郎、湯浅純孝らによって観察や調査報告がなされてきた。その後、県内一円の記録が湯浅（越中の野生鳥獣:1970、とやまの野生鳥獣:1977、富山県の鳥獣:1980）により追補、編集がなされ、概要が明らかにされてきた。

続いて、富山県野鳥保護の会（富山県の鳥類:1989）により310種が記録、紹介されている。これらはいずれも富山県より刊行されている。

前後して、本県の野性鳥類の分布や生息に関する資料は、熱心な野鳥愛好家やNGOを中心に今日まで継続的に収集されてきた。これまで、本県で毎年記録される鳥類は1991～2010年の20年間をみると、213～240余種にのぼる（日本野鳥の会富山調査）。

県内での構成は、冬鳥や旅鳥が最も多く、留鳥が最も少ない。冬鳥の構成比率が高いのは、越冬のため大陸から南下、飛来する種が多いからである。旅鳥は、本県が地理的に日本の中央部に位置するため渡り鳥が春季と秋季の移動の際、しばらくの間滞在するものである。

本県に生息する種類数が多い理由の一つは、本県の地形に起因している。海上から高山まで、この垂直的な高さの中に河川、湖沼、湿原、森林、岩礫地等々の多様な環境が存在し、ひとつ森林であっても疎林、うっぺい林、原生林などと、空間構成が異なる、樹種も変化に富んでいるなど、その結果それぞれの自然環境に適応・呼応した多種類の鳥類が生息しているといえる。

2. 調査・選定・評価の方法

調査は公益財団法人日本鳥類保護連盟富山県支部が富山県の委託を受け、調査チームが主体となって実施した。

選定および評価は、おもに既存の文献・資料並びに個人の有する情報に基づき、国の選定基準に該当する種を選び出し、文献から過去の生息状況を調べ、また必要に応じ現地での調査を行った。その結果と照らし合わせて、現在の生息状況の把握に努めた。これらの作業から各種の増減動向や生息環境の変貌程度を判断し、国の基準と地域の特性を勘案して選定・評価を行った。

なお、可能な限り定量的データに基づいて評価を行う必要があったが、そのようなデータが必ずしも十分でないことから、当支部の責任のもと定性的要因の視点で評価せざるを得ない面もあった。

(1) 第一次選定

基本的には、2002年に発刊された「富山県の絶滅のおそれのある野生生物」指定の68種の再評価に加え、公表以降の10年間、県内で定期的に繁殖、越冬する種やある期間滞在する種を対象に追加した。不定期に飛来する迷鳥や1～2度の記録のある希な旅鳥は国指定種であっても選定対象から除外した。

なお、海洋性や夜行性のほか、隠蔽性が強く観察が容易でない種であっても、十分生息が予測される種については確認記録が少なくても選定対象とした。

(2) 第二次選定・評価

(1)で選定対象とした種を下記の基準を参考に改めて評価し、76種を最終選定した。

ビロードキンクロ、サシバなど圧迫要因により絶滅のおそれが生じていると考えられた10種類を新たに追加、コハクチョウとオオバンの2種は指定から削除された。オオバンは生息数が増加し、当面絶滅のおそれが消失したと考えられ、コハクチョウは全国的に個体数が多く、本県でも大幅な減少や生存を脅かす原因が認められないことなどから今回は除外された。

<基準>

- a. 国の指定種であるもの。
- b. 過去10年間で生息地や生息数が著しく減少しているか、今後その傾向が予測されるもの
- c. 生物地理学的にみて、特異または局地的な分布であるもの。
- d. 本県が繁殖地や生息環境として重要なもの。

3. 選定種とその概要

選定された76種をカテゴリー別に評価したものが表1、表2である。

富山県の絶滅のおそれのある野生生物（鳥類）

表 1

No.	和名	富山県 2002	環境省カテゴリー	生息状況の変化 1:良好、2:減少、 3:見られない	カテゴリーの変更 1:有り、2:無し	該当カテゴリー 新 名 称
野生絶滅 EW						
1	トキ	絶滅種	野生絶滅種 (EW)	3	2	野生絶滅
絶滅危惧 I 類 CR・EN						
2	サンカノゴイ	絶滅危惧種	絶滅危惧 I B 類 (EN)	2	2	絶滅危惧 I 類
3	ヨシゴイ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種 (NT)	2	2	絶滅危惧 I 類
4	ミソゴイ	危急種	絶滅危惧 I B 類 (EN)	2	2	絶滅危惧 I 類
5	クロサギ	希少種	-	2	1	絶滅危惧 I 類
6	クロツラヘラサギ	危急種	絶滅危惧 I A 類 (CR)	2	1	絶滅危惧 I 類
7	サシバ	カテゴリー外	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	1	絶滅危惧 I 類
8	クマタカ	危惧種	絶滅危惧 I B 類 (EN)	2 > 1	2	絶滅危惧 I 類
9	イヌワシ	危惧種	絶滅危惧 I B 類 (EN)	2	2	絶滅危惧 I 類
10	チュウビ	危急種	絶滅危惧 I B 類 (EN)	2	1	絶滅危惧 I 類
11	チゴハヤブサ	カテゴリー外	-	2	1	絶滅危惧 I 類
12	ライチョウ	危惧種	絶滅危惧 II 類 (VU)	1	2	絶滅危惧 I 類
13	ヒクイナ	危急種	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	1	絶滅危惧 I 類
14	タマシギ	希少種	-	2	1	絶滅危惧 I 類
15	コアジサシ	危急種	-	2	1	絶滅危惧 I 類
16	ブッポウソウ	危急種	絶滅危惧 I B 類 (EN)	2	1	絶滅危惧 I 類
17	チゴモズ	危急種	絶滅危惧 I A 類 (CR)	2 ~ 3	1	絶滅危惧 I 類
18	アカモズ	危急種	絶滅危惧 I B 類 (EN)	2 ~ 3	1	絶滅危惧 I 類
19	セッカ	希少種	-	2 ~ 3	1	絶滅危惧 I 類
絶滅危惧 II 類 VU						
20	コクガン	危急種	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	1	絶滅危惧 II 類
21	マガン	危急種	準絶滅危惧種 (NT)	2	2	絶滅危惧 II 類
22	ヒシクイ	危急種	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	2	絶滅危惧 II 類
23	トモエガモ	希少種	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	1	絶滅危惧 II 類
24	ハチクマ	希少種	準絶滅危惧種 (NT)	2	1	絶滅危惧 II 類
25	オジロワシ	希少種	絶滅危惧 I B 類 (EN)	2	1	絶滅危惧 II 類
26	オオワシ	希少種	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	1	絶滅危惧 II 類
27	オオタカ	危急種	準絶滅危惧種 (NT)	2	2	絶滅危惧 II 類
28	ハヤブサ	危急種	絶滅危惧 II 類 (VU)	1	2	絶滅危惧 II 類
29	クイナ	希少種	-	2	2	絶滅危惧 II 類
30	ズグロカモメ	カテゴリー外	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	1	絶滅危惧 II 類
31	アオバズク	希少種	-	2	1	絶滅危惧 II 類
32	ヨタカ	希少種	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	1	絶滅危惧 II 類
33	ヤマセミ	危急種	-	2	2	絶滅危惧 II 類
準絶滅危惧種 NT						
34	ササゴイ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
35	チュウサギ	希少種	準絶滅危惧種 (NT)	2	2	準絶滅危惧
36	オオハクチョウ	希少種	-	1	2	準絶滅危惧
37	ヨシガモ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
38	シマアジ	カテゴリー外	-	2	1	準絶滅危惧
39	ピロードキンクロ	カテゴリー外	-	2	1	準絶滅危惧
40	シノリガモ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
41	ホオジロガモ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
42	ミコアイサ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
43	ウミアイサ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
44	ミサゴ	希少種	準絶滅危惧種 (NT)	1	2	準絶滅危惧
45	ツミ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
46	ハイタカ	希少種	準絶滅危惧種 (NT)	2	2	準絶滅危惧
47	ミヤコドリ	カテゴリー外	-	2	1	準絶滅危惧
48	コチドリ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
49	イカルチドリ	ランク外	-	2	1	準絶滅危惧
50	シロチドリ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
51	ケリ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
52	イソシギ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
53	セイタカシギ	カテゴリー外	絶滅危惧 II 類 (VU)	1	1	準絶滅危惧
54	オオコノハズク	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
55	アカショウビン	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
56	カワセミ	希少種	-	1	2	準絶滅危惧
57	サンショウクイ	希少種	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	2	準絶滅危惧
58	ゴサメビタキ	希少種	-	2	2	準絶滅危惧
59	サンコウチョウ	希少種	-	1	2	準絶滅危惧
60	ホオアカ	希少種	-	1	2	準絶滅危惧
61	ノジコ	希少種	準絶滅危惧種 (NT)	1	2	準絶滅危惧
情報不足 DD						
62	ウミウ	情報不足	-	2	2	情報不足
63	オオヨシゴイ	情報不足	絶滅危惧 I B 類 (EN)	2	1	情報不足
64	ウズラ	情報不足	準絶滅危惧種 (NT)	2	1	情報不足
65	オオジシギ	情報不足	準絶滅危惧種 (NT)	2	1	情報不足
66	アジサシ	情報不足	-	2	2	情報不足
67	ウミガラス	情報不足	絶滅危惧 I A 類 (CR)	2	1	情報不足
68	マダラウミスズメ	情報不足	情報不足 (DD)	2	1	情報不足
69	ウミスズメ	情報不足	絶滅危惧 I A 類 (CR)	2	1	情報不足
70	カンムリウミスズメ	情報不足	絶滅危惧 II 類 (VU)	2	1	情報不足
71	ヤイロチョウ	カテゴリー外	絶滅危惧 I B 類 (EN)	-	1	情報不足
72	コシアカツバメ	カテゴリー外	-	2	1	情報不足
73	ツリスガラ	情報不足	-	-	2	情報不足
74	キバシリ	情報不足	-	-	2	情報不足
75	コジュリン	情報不足	絶滅危惧 II 類 (VU)	-	2	情報不足
76	カササギ	情報不足	-	-	2	情報不足
カテゴリー外						
77	コハクチョウ	希少種	-	1	1	カテゴリー外
78	オオバン	希少種	-	1	1	カテゴリー外

表1にあるように、結果は「野生絶滅」1種、「絶滅危惧Ⅰ類」18種、「絶滅危惧Ⅱ類」14種、「準絶滅危惧種」28種、「情報不足」15種となった。

評価とカテゴリーの比較

表2

		前回						
		野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足	地域個体群	カテゴリー外
		1	5	14	35	13	0	10
今回	野生絶滅	1	トキ					
	絶滅危惧Ⅰ類	18	サンカノゴイ ヨシゴイ クマタカ イヌワシ ライチョウ	ミゾゴイ クロツラヘラサギ チュウヒ ヒクイナ コサジサシ ブッポウソウ チゴモズ アカモズ	クロサギ タマシギ セッカ			サシバ チゴハヤブサ
	絶滅危惧Ⅱ類	14		コクガン マガン ヒシクイ オオタカ ハヤブサ ヤマセミ	トモエガモ ハチクマ オジロワシ オオワシ クイナ アオバズク ヨタカ			ズグロカモメ
	準絶滅危惧	28			ササゴイ チュウサギ オオハクチョウ ヨシガモ シノリガモ ホオジロガモ ミコアイサ ウミアイサ ミザゴ ツミ ハイタカ コチドリ シロチドリ ケリ イソシギ オオコノハズク アカショウビン カワセミ サンショウクイ コサメビタキ サンコウチョウ ホオアカ ノジコ			シマアジ ビロードキンクロ ミヤコドリ イカルチドリ セイタカシギ
	情報不足	15				ウミウ オオヨシゴイ ウスラ オオジシギ アジサシ ウミガラス マダラウミスズメ ウミスズメ カンムリウミスズメ ツリスガラ キバシリ コジュリン カササギ		ヤイロチョウ コシアカツバメ
	地域個体群	0						
	カテゴリー外				コハクチョウ オオバン			

表2に前回（2002年）と今回（2011年）の評価とカテゴリーの比較を示した。

「野生絶滅」は前回と変わらずトキ1種であった。

「絶滅危惧Ⅰ類」は18種で前回より13種増加した。ミゾゴイ、チュウビ、ヒクイナ、タマシギは湿地にかかわりが深く、環境の変化が伺えた。1970年頃まで普通に見られたヒクイナが農薬や圃場整備で急速に減少した。クロツラヘラサギは、飛来数は少ないが国際的な希少鳥類である。ブッポウソウ、チゴモズ、アカモズは近年生息数が激減しており、前回よりランクが上がった。チゴハヤブサは日本最南端の繁殖地であり、繁殖個体も少ない。

他の種類も生息環境が狭小となったり、釣り人や散歩など人の活動による影響が増えている。特にマナーの低い野鳥カメラマンや水上バイク、犬を随伴するハイカーや散歩に起因する鳥類の繁殖放棄が各地から報告されている。

「絶滅危惧Ⅱ類」は14種で、前回と同数ではあるが、前回の種がランクアップし新たに入るなど、入れ替わりが多い。ズグロカモメは国際的な希少種であるが、県内各地で得られた情報に加えて、全国的にも少ない国指定種であることから選定された。

「準絶滅危惧種」は28種で、前回よりも8種減少したが、入れ替わりもあった。新たに選定された、シマアジ、ビロードキンクロは観察例も少なく、減少が予想される。ミヤコドリはほぼ例年のように飛来しているが、海辺の生息環境に静謐が欠かせないことを考え、減少が危惧される。イカルチドリは繁殖地である河川敷の整備や人間活動が繁殖障害につながっている。セイタカシギは散発的に渡来し、滞在するが、本県での繁殖の記録は現在のところ見当たらないが、生息地である湿地や水田環境の変化を考慮して選定された。

「情報不足」は2種増えて15種となった。このうちヤイロチョウは近年数例の記録があり、将来、繁殖も期待される。国際的な希少種で国指定種でもあり、森林管理や生息地での人間による攪乱が危惧される。コシアカツバメは一昔前まで、県内の都市部の構造物に普通に営巣していたが、近年減少が著しい。スズメによる営巣障害も知られているが、それだけが減少の原因とは考えられない。今回、2002年度版カテゴリーから変更された29種を表3に示した。

「レッドデータブックとやま(6.3鳥類編)2002」から変更された種

表3

種名	旧ランク	→	新ランク
クロサギ	準絶滅危惧種	→	絶滅危惧Ⅰ類
クロツラヘラサギ	絶滅危惧種Ⅱ類	→	絶滅危惧Ⅰ類
コハクチョウ	準絶滅危惧種	→	記載なし
トモエガモ	準絶滅危惧種	→	絶滅危惧種Ⅱ類
シマアジ	記載なし	→	準絶滅危惧
ビロードキンクロ	記載なし	→	準絶滅危惧
ハチクマ	準絶滅危惧種	→	絶滅危惧種Ⅱ類
オジロワシ	準絶滅危惧種	→	絶滅危惧種Ⅱ類
オオワシ	準絶滅危惧種	→	絶滅危惧種Ⅱ類
サシバ	記載なし	→	絶滅危惧Ⅰ類
チュウヒ	絶滅危惧種Ⅱ類	→	絶滅危惧Ⅰ類
チゴハヤブサ	記載なし	→	絶滅危惧Ⅰ類
クイナ	準絶滅危惧種	→	絶滅危惧種Ⅱ類
ヒクイナ	絶滅危惧種Ⅱ類	→	絶滅危惧Ⅰ類
オオバン	準絶滅危惧種	→	記載なし
タマシギ	準絶滅危惧種	→	絶滅危惧Ⅰ類
ミヤコドリ	記載なし	→	準絶滅危惧
イカルチドリ	記載なし	→	準絶滅危惧
セイタカシギ	記載なし	→	準絶滅危惧
ズグロカモメ	記載なし	→	絶滅危惧種Ⅱ類
コアジサシ	絶滅危惧種Ⅱ類	→	絶滅危惧Ⅰ類
アオバズク	準絶滅危惧種	→	絶滅危惧種Ⅱ類
ヨタカ	準絶滅危惧種	→	絶滅危惧種Ⅱ類
ブッポウソウ	絶滅危惧種Ⅱ類	→	絶滅危惧Ⅰ類
ヤイロチョウ	記載なし	→	情報不足
コシアカツバメ	記載なし	→	情報不足
チゴモズ	絶滅危惧種Ⅱ類	→	絶滅危惧Ⅰ類
アカモズ	絶滅危惧種Ⅱ類	→	絶滅危惧Ⅰ類
セッカ	絶滅危惧種Ⅱ類	→	絶滅危惧Ⅰ類

なお、この報文における種の配列及び学名、和名は「日本鳥類目録第6版（日本鳥学会2000）」によった。

執筆に際し各種の開発行為にかかわる環境調査の資料を参考にした。

また、次の方々から必要な写真の提供をいただきましたことに心より敬意を表します。
(敬称略、50音順)

関西電力北陸支社、近藤秀幸、時国公政、澤田研太、中上喜史、中川富男、中田達哉、野口将之、平尾富夫、薬師正人、山口由紀子、柳沢盛一、湯浅純孝

4. 今後の検討・課題

このリストは絶滅のおそれについてカテゴリーに位置づけられたものであって、重要性のランクではない。生き物は絶滅すると、人智をもってしても再生は不可能である。故に、絶滅させないことも重要なことに相違ないが、特定の種を守ることが本来の目的でなく、絶滅に直面している種が守られることにより種の多様性の保全が図られることに意義がある。

自然界は、選定外を含めた全ての種がどこかで相互につながり絡み合っており、それぞれが構成要素として重要な役割を果たしていることを知らねばならない。

自然の状況は、たえず変化している。今後、多くの情報を得るためにも日常的な観察や定期的に精度の高い情報が得られるような調査が行われることが必要である。その卑近かつ充実したデータでもって定期的に評価を見直すことが欠かせない。

次代の県民に「授かっているこの豊かな自然」を引き継いでいくことが今を生きる私たちの使命であろう。

トキ (コウノトリ目、トキ科) *Nipponia nippon*

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：野生絶滅

選定理由

1970年石川県穴水町、1981年新潟県佐渡でそれぞれ人工増殖のため捕獲され、国内から野生個体は消滅した。

形態

全長約77cm。全身が白っぽい水鳥で翼や尾はトキ色。嘴は長く湾曲し、頭部前半は赤い皮膚が裸出する。後頭部に長い冠羽をもつ。繁殖期には頭から背にかけ灰黒色となる。

国内の分布状況

戦国時代までは全国に生息していたと考えられるが、混乱期に乱獲され江戸時代初期には、蝦夷と東北・関東・佐渡・近江・隠岐・村馬くらいに生息が限られていたようだ。その後、近江からの移殖で北陸や山陽にも分布するなどして、ほぼ全国に分布を挙げたとされる。20世紀初頭までは全国のあちこちに生息していたが、昭和初期には佐渡、能登半島、隠岐で少数が確認されるまで減った。1981年に佐渡の野生の5羽が人工増殖のため全て捕獲され野生絶滅となった。2011年12月現在、佐渡トキ保護センターにおいて中国陝西省産のトキの人工繁殖により放鳥され生存が確認されている個体は49羽で、2012年5月には野外で自然繁殖し雛も巣立った。

県内の分布記録

江戸時代の砺波郡水嶋村（現小矢部市）の加茂家文書によると、1639年滋賀県近江から100羽を取り寄せ、県西部の各地に放鳥したところトキが増殖したことを記している。同じく婦負郡宮尾（現富山市）の内山家文書には、1742年呉羽丘陵周辺の水田のトキなどの鳥害のため鉄砲による駆除願いも見られる。1800年代中頃の加賀藩文書によると、矢羽用に売買されるほど県内各地に生息していたことがわかる。1800年代後半の明治時代初期の銃猟による捕獲、その後の営巣に必要な高木の伐採、農薬の使用などにより急激に減少し姿を消した。

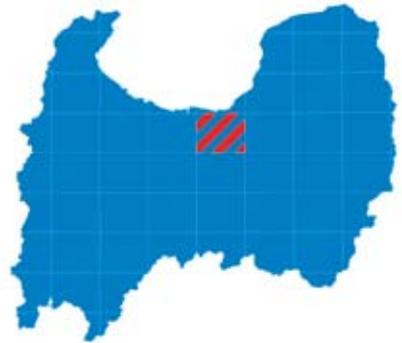
1952または3年の5月、富山市水橋館地内の田植えされた水田で地元住民により目撃されている(湯浅純孝の聞き取り記録)。この年代には能登の輪島市洲衛や穴水町七海付近で繁殖していたので、後述の04が示した行動パターンから考えて能登から飛来したことも十分に推測される。また、2005年に佐渡トキ保護センターで人工繁殖され、2008年に佐渡で放鳥されたトキ（標識番号04）が2009年5月19日に黒部市で視認された。この個体は雌で現在も黒部市を中心に行動しており、富山トキモニターにより毎日追跡調査されている。

生態・生息環境

湿地や湿田近くの山地の高木の樹上に営巣する。1腹卵数2~3卵、抱卵日数28~30日。採餌物はミミズ・カエル・小魚・タニシ・昆虫など。

特記事項

国際保護鳥、国内希少野生動物種、特別天然記念物。



サンカノゴイ (コウノトリ目、サギ科) *Botaurus stellaris*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

生息数が少なく、生息環境も悪化進行している。

形態

全長約70cm。全身黄褐色と暗褐色のまだら模様。首には黒い縦すじがある。嘴と足は淡緑色、虹彩は黄色または橙黄色。

国内の分布状況

北海道と本州中部以北に夏鳥または留鳥としてみられるが、個体数は少ない。本州中部以南では冬鳥として渡来することが多い。

県内の分布状況

冬鳥として、海浜に近いヨシ原や河川下流部の草丈のある草地に渡来するが、個体数は少ない。近年は記録されない年もある。

生態・生息環境

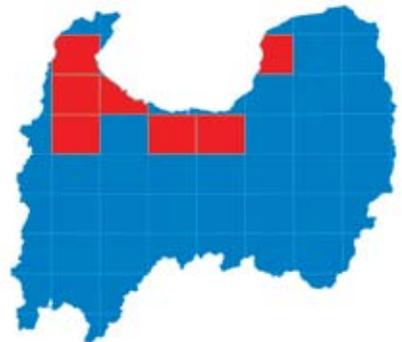
広大なヨシ原に生息。単独でいることが多く、枯れたヨシ原では隠蔽色となる。夜行性で魚類や両生・爬虫類、甲殻類などを採餌する。黒部市生地での個体の胃内容物からハタネズミが6頭検出されたことがあるので小形哺乳類も採餌することが知られる。産卵期6~7月、1腹卵数5~6卵、抱卵日数25~26日、巣内育雛15~20日。

生存への脅威

湿地の埋立てや護岸工事、清掃活動により、広いヨシ原が急速に減少してきた。

保全対策

ヨシ・ガマなどの生育する広々とした生息環境の保全。



ヨシゴイ (コウノトリ目、サギ科) *Ixobrychus sinensis*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

生息地のヨシ原の減少と個体数の減少。

形態

全長約37cm。体色は黄褐色で雄の頭上は黒色、雌は赤褐色。飛ぶと風切羽の黒色が目立つ。虹彩と足は黄色。

国内の分布状況

夏鳥として北海道から九州に渡来するが、西南日本では越冬例がある。

県内の分布状況

県内の河川周辺や海浜に近い湿地のヨシ原に渡来し繁殖する。比較的広いヨシ原に依存している。1960年代までは県内の五大河川周辺のヨシ原でもよく見かけたが、近年は稀な鳥となった。

生態・生息環境

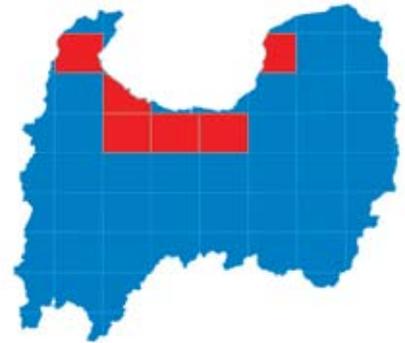
ヨシ原に潜み、人が近づくと頸を真直に伸ばし静止する。単独又は雌雄で生活するが、渡来初期には、数羽の追尾行動がみられる（例えば、3羽、2001年6月3日、神通川河畔）。ヨシ原の地上や水中を歩行しながら、小魚や両生類、昆虫などを採餌する。巣はヨシやマコモの葉上や茎の間につくる（例えば、2011年7月12日、富山市）。産卵期6～7月、1腹卵数4～7卵、抱卵日数17～20日、巢内育雛約20日。

生存への脅威

湿地の埋立てや護岸及び付帯工事によるヨシ原の減少。

保全対策

ヨシ・ガマなどの生育する広々とした生息環境の保全。



ミゾゴイ (コウノトリ目、サギ科) *Gorsachius goisagi*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅡB類

選定理由

生息数が少ない種で、人里近くの森林の変化で減少が進んでいる。日本固有種。

形態

全長約49cm。ゴイサギより小形で頭上は赤味を帯びるが上面は黒褐色。下面は淡黄色で、黒褐色の縦斑がある。足は青黒色で虹彩は黄色。

国内の分布状況

東南アジアに分布するが、繁殖地として知られるのは日本のみ。夏鳥として本州・四国・九州に渡来するが、九州以南では越冬個体も記録されている。分布地における個体数は少ない。

県内の分布状況

山麓から有峰など山地帯で時々記録される。群をなさず単独または番でいる。繁殖の確認例は少なく、利賀村猪谷におけるオオヤマザクラ枝上の1巣4雛（1979年）の例などが知られる。

生態・生息環境

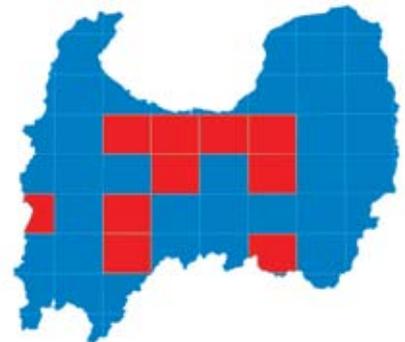
低山帯のうす暗い林内に生息する。谷川や支流の沢周辺でサワガニやサンショウウオ・ミミズなど小動物を採餌する。夜行性であるが、溪畔の茂みの中など薄暗い場所では日中でも活動している。渡りの時期には平地の公園（富山市馬場公園など）や丘陵（富山市八ヶ山など）でも見られる。産卵期4～6月、1腹卵数約3卵、抱卵日数20～27日、巢内育雛34～37日。

生存への脅威

繁殖環境の沢周辺の林の林地開発やスギ造林地への林種転換などの環境変化が、減少原因のひとつとなっている。

保全対策

生息の情報収集と併せて生息環境の保全の配慮が必要である。



クロサギ (コウノトリ目、サギ科) *Egretta sacra*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

繁殖環境が限られ、個体数は少ない。

形態

全長約63cm。全身の羽毛が煙黒色のサギ（種子島以南には全身白色のクロサギがいる）。嘴色は黄褐色か黒っぽい。後頭に冠羽、頸と背に飾り羽がある。虹彩は黄色、足は黄緑色。

国内の分布状況

本州以南に分布するが、秋田県男鹿市で繁殖するなど東北各地へ繁殖地が北上傾向にある。

県内の分布状況

富山湾に面した雨晴から県境の仏島まで通常分布するが、神通川や富岩運河、県東部の海岸にも飛来する。

生態・生息環境

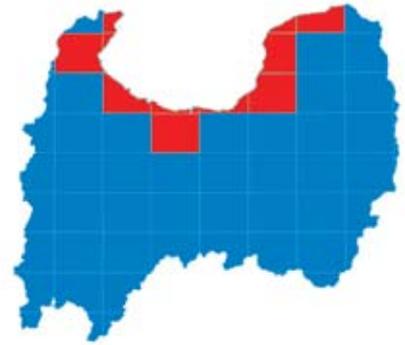
海岸の岩礁、テトラポット、入り江、河口で魚類や甲殻類などを採餌する。岩の隙間に枝を運び営巣する。虻ヶ島では樹上営巣の例がある。1腹卵数2～3卵、抱卵期間25～28日、巢内育雛約20日。

生存への脅威

繁殖期に釣り人や観光客が、営巣地に近づき繁殖障害となっている。釣り人が残したテグス類が足や翼に絡み、落命したことがある。

保全対策

岩礁海岸の保全、繁殖地への釣り人などの立入り規制。



クロツラヘラサギ (コウノトリ目、トキ科) *Platalea minor*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠA類

選定理由

世界で中国・沿海州・朝鮮半島などに分布する生息数500羽程度の数少ない種。日本には少数が冬鳥または旅鳥として渡来する。

形態

全長約74cm。先が平たい杓文字状の黒色の嘴をもつ。目先も幅広く黒い皮膚が裸出し、足も黒色。成鳥夏羽では、胸部が黄金色となるほか後頭に黄金色の冠羽が現れる。

国内の分布状況

稀な渡り鳥として干潟や湿地などの水辺に生息する。10～15羽ほどが越冬するが九州地方に多い。

県内の分布状況

時々渡来するが、単独のことが多く短期間の滞在で姿を消す。冬から春にかけての記録が多いが8月の飛来もある。例年渡来する石川県七尾西湾においては、繁殖の擬似行動も見られている。

生態・生息環境

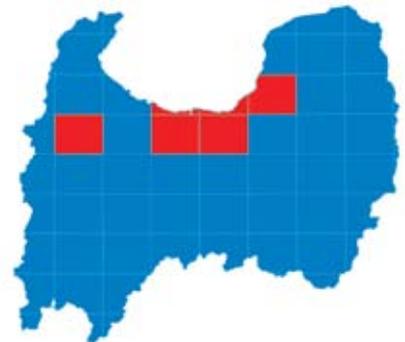
常願寺川や神通川、小矢部川などの河川や河口部、埋立地などの水辺で記録されることが多いが、郊外の上空を通過する個体を見ることもある。飛翔姿はサギ類と異なり長い頸を伸ばして飛ぶ。採餌物は水生昆虫や小魚などの生き物で、頭を左右に振りながら歩きまわり、水中の口に感触のあったものを捕える。

生存への脅威

湿地の埋立てや河川環境の変化により、生息環境が狭まってきている。

保全対策

安息な生息空間の維持、生息環境の保全。



サシバ (タカ目、タカ科) *Butastur indicus*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

山里に渡来するタカ。近年急激に生息数が減少した。

形態

全長約50cm。カラス大の鳥で、全体褐色。白い眉斑と喉の中央に黒い縦筋が1本ある。

国内の分布状況

夏鳥として本州以南に渡来する。春・秋の渡りの折には集団で移動する。里山に生息し林縁部付近で小動物を捕食する。

県内の分布記録

里地・里山に生息する一般的なタカであったが、全国的に減少が著しい。

生態・生息環境

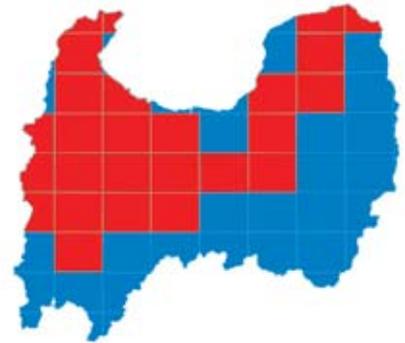
4月上旬頃に渡来し、アカマツなどに営巣する。産卵期は5月頃。林縁部や周辺の農耕地でカエルやカナヘビ、ネズミ、バッタなどの昆虫類を採餌する。1腹卵数2～3卵、放卵日数20～27日、巢内育数36日。

生存への脅威

採餌場は水田、耕地、湿地など開けた場所であり、谷内田などの環境を好されていたが、山間地から水田や耕作地の放棄など農業の撤退と平行して減少した。里地里山の環境変化が進行している。

保全対策

里山の農業と共生してきた経緯があり、その視点が必要である。



クマタカ (タカ目、タカ科) *Spizaetus nipalensis*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

限られた生息数であること。生息環境の変化や人の入林による繁殖障害が危惧される。

形態

全長約80cm (雌)、約72cm (雄)。翼開長140～165cm、後頭に冠羽、足首(跗蹠骨)まで羽毛を有す。尾には数本の黒帯がある。飛行時は日本産タカ類中で最も翼幅が広く、後縁部が広がる。幼鳥は全体が白っぽい。虹彩は加齢とともに黄色から橙赤色へと変化する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

留鳥として県東部から福光町までの山地に生息する。なわばり内で通年生活することが多いが、雌は冬期しばしば離れる。なわばり数=繁殖ペア数+繁殖予備個体となり生息数は限られる。時には、ねいの里や呉羽山の上空でも飛行が観察されている。

生態・生息環境

1年中、多くはなわばり内(ペア)で生活する。ブナやミズナラ・アカマツ・スギなどの巨木に営巣する。3月頃に産卵し、巣立は7～8月となる。食性は、ヤマドリやカケス、ノウサギ、リス、ヘビ等の肉食性。1腹卵数1卵、抱卵日数45日、巢内育雛約70日。

生存への脅威

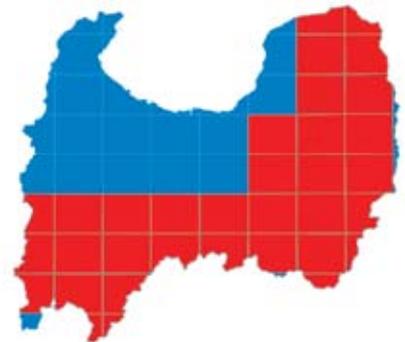
森林伐採や道路建設による繁殖障害のほか、行楽やカメラマンなどの山奥までの立入りによる外圧で繁殖放棄が見られる。

保全対策

肉食性の猛禽ゆえに生息地の森林生態系の保全と繁殖期の営巣地への立入規制が求められる。繁殖障害回避のため、営巣地情報の取り扱いには、細心の注意が求められる。

特記事項

国内希少野生動物種。



イヌワシ (タカ目、タカ科) *Aquila chrysaetos japonica*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

森林生態系の頂点に位置し、限られた生息数であること。生息環境や食物連鎖の変化にともなう繁殖障害が危惧されることなど。

形態

全長約89cm(雌)、約81cm(雄)。翼開長170～213cm。雄より雌がやや大形。全身ほぼ暗褐色で後頭から後頸は金褐色の縦斑がある。翼と尾に明らかな白斑があるが、加齢とともに白色部は減る。虹彩は淡橙色で幼鳥は暗褐色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に分布するが、東北から北陸にかけての本州は生息密度が高い。環境省の発表によると今後の調査に待たれるが、全国で約650羽と推定されている(2004年)。

県内の分布状況

東は朝日町から西は福光町まで分布し、朝日町では海岸に近い山地にも生息する。平成12年に取りまとめられた富山県イヌワシ保護指針によれば、確認された番(ペア)は21で、単独個体などを含め県内には52～70個体(21～30番)生息していると推定されたが、以降、繁殖成功率が減少しており生息数の減少が危惧されている。

生態・生息環境

山地帯から高山帯に生息する。上昇気流が飛翔に不可欠で山間の谷筋が行動圏の中心となる。番(ペア)の行動圏は全国平均で60.8km²。営巣場所は岩棚である場合が多いが、時には樹上営巣する。12月に巣作りを開始する。巣立ちは5～6月となる。採餌物はノウサギなど中形哺乳類やヤマドリなどの鳥類・ヘビ類などが主となっている。産卵期1～2月、1腹卵数は普通2卵、抱卵日数約45日、巢内育雛70～80日。

生存への脅威

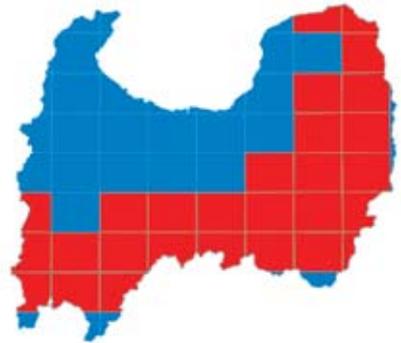
営巣地周辺の林道や作業道の建設、スキー場整備、ダム建設、送電線の設置などによる行動域の縮小や森林の鬱閉による近年の明白な餌動物の減少、生態に熟通しないフォト・マニア等の接近が、繁殖成功率の低下の一因となっている。

保全対策

肉食性の猛禽ゆえに生息地の生物多様性保全の啓発と繁殖期の営巣地へのヘリコプターを含めた立入規制を図ることが保護上重要である。人との共生の確保の観点から、特に繁殖障害回避を図るため開発等に際し環境配慮(ミティゲーション)の的確な指導や行動圏の把握が急務となっている。また、営巣地情報の取り扱いには工夫が求められる。

特記事項

国内希少野生動物種、国指定天然記念物。



チュウヒ (タカ目、タカ科) *Circus spilonotus spilonotus*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

ヨシ原に生息するタカで湿原生態系の頂点に位置する。日本での繁殖地は限られている。県内の繁殖個体数は減少している。

形態

全長約58cm(雌)、約48cm(雄)。翼開長113～137cm。メスはオスより大形。翼と尾と足が長い。雌雄や年齢差で異色。雄は頭部が灰色で褐色や黒色の縦斑が粗密にあるものなど色彩変異が多い。雌は全身褐色。嘴は黒色、足は黄色。

国内の分布状況

日本には大陸から冬鳥として渡来するが、北海道や青森、秋田、富山、石川、愛知、三重、滋賀の各県の湖沼や海岸の干拓地で繁殖が記録されている。

県内の分布状況

平地から丘陵にあるヨシ原に生息する。射水市のヨシ原などでは少数が繁殖(2011年:1番)している。

生態・生息環境

県内の埋立地や河川・湖沼周辺のヨシの生育する湿地に生息する。巣は地上にヨシの枯れ葉を積み産座を作る。射水市で生まれた個体が、新潟県の佐潟と石川県の河北潟で確認されている。低空をゆっくりとした羽ばたきと滑空を繰り返して飛び、ネズミ類や野鳥、カエルなどを採餌する。

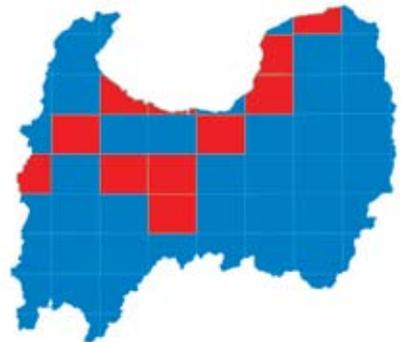
産卵期4～5月、1腹卵数5～7卵、抱卵日数31～38日、巢内育雛約35日。

生存への脅威

繁殖地である埋立地のヨシ原は、刈り取られたり、工場が誘致されるなどして広がり(きょううあひ)が狭隘化し繁殖適地の減少と共に、繁殖個体が減少している。

保全対策

営巣場所や採餌場所として必要な広々としたヨシ原の保全と、繁殖期の立入りなどの規制が必要である。



チゴハヤブサ (タカ目、ハヤブサ科) *Falco subbuteo*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息数は少ないが、日本の西限繁殖地として貴重である。

形態

全長約35cm。ハト大。頬にヒゲ状の黒斑がある。下面は白く、黒褐色の太い縦斑があり、下腹部は赤褐色。

国内の分布状況

夏鳥として渡来し、北海道や東北地方で繁殖する。札幌市内周辺で約20番の繁殖が知られている。6月に2～3卵産み、主に雌が抱卵。国内繁殖地の西限として(1994年以降)長野市内が報告されていたが、近年は富山市となった。

県内の分布記録

春と秋の渡りの時期に少数が知られている。2006年以降、富山市内で繁殖が確認されている(2011年は5月1日に繁殖地に飛来した)。また、2011年5月31日には黒部市内でも記録され、繁殖が予測され調査中である。

生態・生息環境

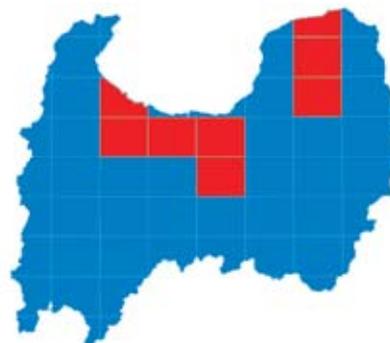
山地より平地の農耕地など開けた環境を好む。カラスの古巣を利用し産卵する。樹上や鉄塔上から、トンボやセミ、小鳥など追いかけて捕食する。晩夏には高木などで巣立った若鳥に給餌する。1腹卵数2～3卵、放卵日数28日、巢内育雛28～32日。

生存への脅威

人里で営巣していることから、人の往来が営巣放棄にさらされている。カメラマンも繁殖障害として脅威となる。

保全対策

カメラマン対策として、遵守看板の設置。



ライチョウ (キジ目、ライチョウ科) *Lagopus mutus japonicus*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本列島の地史と生物相の変遷を語る代表的な生物であること。山岳地域の気候温暖化生息環境の変化や国立公園の利用者のマナーの低下(ゴミ、排泄物)による環境汚染などに起因して絶滅が危惧されること。

形態

全長約37cm。保護色で知られ季節により換羽する。背面は、夏羽の雄は黒褐色、雌は黄褐色、秋羽は茶褐色、冬羽は尾を除き白色。この間、換羽が連続進行するので斑状の中間羽がある。雄には繁殖期に眼上に赤い肉冠、冬羽には黒い過眼線が現れる。雌雄とも距趾はない。

国内の分布状況

氷期の遺存種として本州中部山岳地帯の北アルプス・南アルプス・妙高山塊などに分布する。中央アルプス・八ヶ岳・蓼科山・白山などでは、遅くとも1960年代に絶滅した。白山には2012年現在1♀が漂行し生息している。また富士山や金峰山に放鳥されたこともあるが、増殖せず姿を消した。

県内の分布状況

北アルプスの朝日岳周辺から県境の三俣蓮華岳までの高山帯並びに亜高山帯に分布する。毛勝島や僧ヶ岳、欽崎山でも、主に5～6月に記録がある。1972年以降の県の調査では、主な生息地20山岳には1281羽の個体が確認されている。立山一帯(1070ha)での39年間9回の定期調査では、267個体(1972年)、244個体(1981年)、213個体(1986年)、333個体(1991年)、334個体(1996年)167個体(2001年)、225個体(2003年)、245個体(2006年)、284個体(2011年)確認された。

生態・生息環境

高山帯で繁殖し、冬期は亜高山帯に漂行する。番で生活し、ハイマツ林縁などに営巣する。7月に孵化し、雛は雌と共に高山草原を移動しながら成長する。繁殖に失敗した場合、当年の再営巣はない。夏の後半から冬は群生生活。食植性で高山植物の葉や茎、漿果などを採餌するが、小昆虫もついでに採る。産卵期6～7月、1腹卵数3～9卵、抱卵日数約22日。

生存への脅威

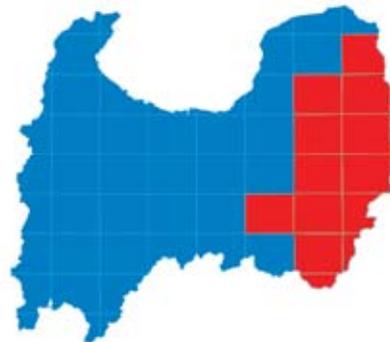
国立公園利用者による行動攪乱や天敵誘引、高山帯の環境汚染にともなう疾病の蔓延、汚染物質の体内蓄積、工作物新設による行動域の物理的制約・狭小化など生存への課題がある。ライチョウの生態・行動を踏まえ、環境に負荷のない人との共生が求められる。

保全対策

学術的価値が高いため、生息環境の厳正な保全と十分に管理された国立公園の利用が求められる。生息地に立ち入る観光客、登山者、山荘従事者などすべての人々に、ルールやマナーの遵守徹底が求められる。

特言事項

国内希少野生動物種、特別天然記念物、富山県鳥。



ヒクイナ (ツル目、クイナ科) *Porzana fusca*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

湿地の埋立てなどで生息環境が減少し、生息数が著しく減った。

形態

全長約22cm。体の大きさに比して足が長い。夏羽は頭部から腹部にかけ赤茶色、背面は緑褐色、下腹部、下尾筒は白と黒の横斑がある。冬羽はやや褐色。幼鳥は淡色。虹彩や足は赤色。

国内の分布状況

夏鳥として北海道の一部を除く日本各地に渡来する。

県内の分布状況

平地や里山周辺の湿地や水田など水辺に生息し、1960年代までは畔道で普通に見られたが、現在は生息数は少ない。渡りの時期に立山の室堂平にも飛来したことがある。

生態・生息環境

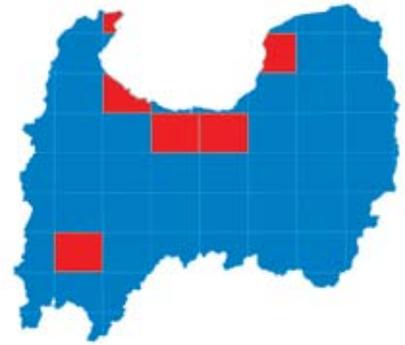
平地などの河川、池沼・水田脇の草むらに生活し、ヨシやイネなどの間に営巣する。雛は早成性で、孵化してまもなく歩き出す。半夜行性で早朝や雨天には日中にも活動する。夜間に「コッココッコ」^ととテンポを段々と早めて鳴く。採餌物は小昆虫や甲殻類、小魚のほか草の種子も食べる。産卵期5～8月、1腹卵数5～9卵、抱卵日数約20日。

生存への脅威

河川周辺の水辺整備や水田脇の用水路、圃場整備などで生息環境が減少している。除草や病虫害駆除のための強力な農薬使用も拍車をかけてきた。

保全対策

生息や繁殖に適した水辺環境の保全。



タマシギ (チドリ目、タマシギ科) *Rostratula benghalensis*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境の変化により、生息個体数が減少している。

形態

全長約24cm。雌が雄より色彩の派手な鳥。雄成鳥はアイリングと先の後方は淡黄色（メスは白色）。上面が茶褐色で水玉模様と黒斑がある。雌は額から頸が赤褐色、胸は黒く胸側には太く白い縦帯がある。下面は雌雄とも白色。

国内の分布状況

関東地方以南の本州、四国、九州で繁殖する。

県内の分布状況

河川や水田周辺の湿地に生息するが、個体数は極めて少ない。1970年代までは観察記録が多いが、近年の減少は著しい。

生態・生息環境

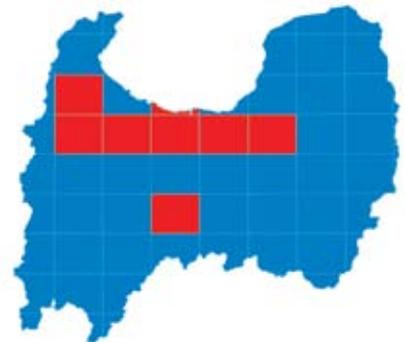
河畔や池畔、休耕田に生息し、夜間、雌がさかんに鳴く。採餌物は植物の種子や小昆虫、貝、ミミズなどの雑食性。一妻多夫で産卵を終えると雄が抱卵し、雌は別の雄を求める。雛は雄のみの世話で育つ。雌は完全に離縁したわけではなく、前の雄に危険が迫れば第2の雄にかまわず駆けつけるという。繁殖期の夜間に雌が「コー、コー、コー」とよく通る声で鳴く。冬期には県内にも観察例があるが、多くは温暖な地に漂行する。1腹卵数3～6卵、抱卵日数19～20日。

生存への脅威

湿地の埋立てや水田の乾田化、用水路の三面コンクリート化などにより、生息環境が減少・劣化している。

保全対策

湿地の保全、農業の理解と協力（営巣場所の保全）。



コアジサシ (チドリ目、カモメ科) *Sterna albifrons*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

繁殖地の消失や繁殖個体群の減少。

形態

全長約28cm。翼開長50～55cm。夏羽では頭部、過眼線が黒く、背面は青灰色。尾と下面は白色。嘴は黄色で先が細長い。足はオレンジ色で短く、水かきがある。冬羽は額の白色が広くなり、嘴は黒く足も暗化する。

国内の分布状況

本州以南に夏鳥として渡来し、局地的に集団で繁殖コロニーを作る。

県内の分布状況

渡りの時期には県内各地の海辺や河川、水田などで見られるが、繁殖コロニーは黒部川・庄川で見られる程度に減少した。1950年代から1960年代までは常願寺川や神通川、庄川などの河川敷にも砂礫のある河川では大小の繁殖コロニーがあった。富山新港後背地の埋立地でも繁殖が見られたが、現在は施設が建ち消失した。

生態・生息環境

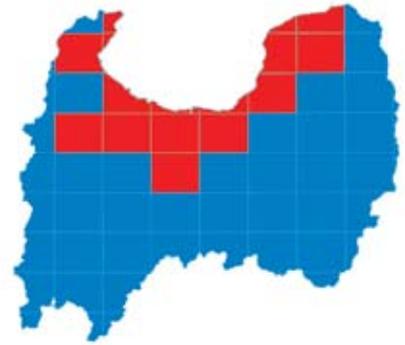
夏鳥として水辺に渡来し、低空飛行をしたりして頭から水中に飛び込み小魚を採餌する。河川の中州や埋め立て地などに集団で繁殖する。地上に浅いくぼみを作り卵を産む。孵化後2～3日は巣中で育てられ、離巢して20日くらいで飛翔する。コロニー内に天敵が近づくと一斉に飛び立ち共同防衛をする。卵や雛の外見は砂礫に似た保護色となっている。産卵期5～7月、1腹卵数2～3卵、抱卵日数19～21日。

生存への脅威

高度経済成長期に造成された埋立地も好適な繁殖地となったが、ヨシ原へ遷移したり、工場誘致により繁殖地が消失したりした。河川の草地化、釣り人や四輪駆動車、オフロードバイクの乗り入れなどで繁殖に支障がでる。カラス、チョウゲンボウ、ハヤブサなどによる食害もある。

保全対策

安息な繁殖環境（植生の遷移進行のない洪水の氾濫原のような不安定な環境）の保全。



ブッポウソウ (ブッポウソウ目、ブッポウソウ科) *Eurystomus orientalis*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

山地帯のブナ林などに生息するが、近年全国的に著しく減少している。

形態

全長約30cm。頭部は暗色、体は青緑色で翼に白斑があり、飛翔時によく目立つ。嘴と足は赤色。嘴は大きく、先が釣状に曲がる。足は短く足指の第3趾と第4趾は癒合している。

国内の分布状況

夏鳥として本州以南に渡来する。本州中部より南西部に多いが、分布は局地的。近年、個体数の減少が著しい。越冬地にも問題があると予測されるが詳細不明。

県内の分布状況

県内の低山から山地（朝日町から福光町）の森林に分布する。山間地の集落に隣接する林にも生息するが、河川や谷筋を環境選択している。

生態・生息環境

樹洞やキツツキ、ムササビの古巣に営巣するため、ブナやミズナラなど巨木の多い森林にすむ。山間地の電柱にある洞にも営巣し、巣箱も利用する。食性は昆虫食で、飛翔するセミやトンボ、甲虫などを空中でとらえる。育雛時にアルミ缶の栓や貝殻などを餌とともに巣に運ぶこともある奇妙な行動が知られている。産卵期5～6月、1腹卵数3～5卵、抱卵日数22～23日、巢内育雛約20日。

生存への脅威

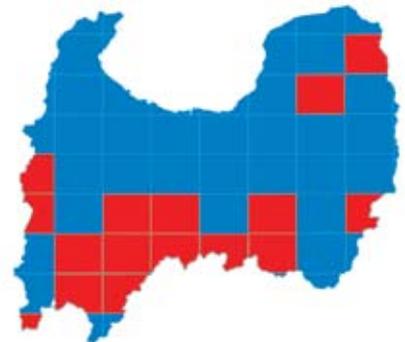
営巣木となる樹木が道路、スキー場、ダムなどの建設やスギへの林種転換などにより消失し、減少を加速している。

保全対策

生息環境、特にブナ林などの洞のある大径木の保全。

特記事項

“仏法僧”と鳴くのは、フクロウの仲間のコノハズクであり、声のブッポウソウとして知られる。



チゴモズ (スズメ目、モズ科) *Lanius tigrinus*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠA類

選定理由

近年、全国的に減少しており、県内での生息数は少ない。

形態

全長約19cm。成鳥雄は、前頭から後頸まで青灰色。過眼線は黒いが眉斑はない。成鳥雌は、目先が白っぽく、脇腹に黒褐色の横斑がある。他のモズ類に比べ嘴が太く、尾は短い。翼には白斑はない。

国内の分布状況

夏鳥として渡来し、主に本州中部から東北地方にかけて繁殖する。繁殖分布は局地的で個体数も少ない。

県内の分布状況

本県では渡りの時期に平野部（例えば高岡古城公園、富山県中央植物園）でも見かけることがあるが、個体数は少ない。1980年代までは山田村や平村で繁殖個体が確認されたが、近年はよくわかっていない。春の渡りの途中に高山帯で、吹雪により凍死する個体がある。

生態・生息環境

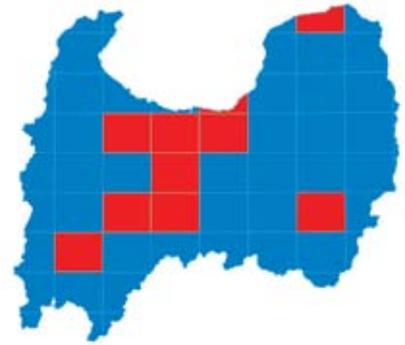
主に丘陵から山地の森林で見られるが、山村の人家周辺の林にもすむ。モズより林内を好むが、暗い林より明るい雑木林を環境選択している。採餌物は昆虫や両生・爬虫類、小型の哺乳類などで、早齎の習性がある。産卵期5～6月、1腹卵数3～6卵、抱卵日数14～15日、巢内育雛約15日。

生存への脅威

減少傾向は全国的なもので、国外の越冬地で問題（環境変化、汚染、捕獲など）があるのかもしれない。詳細はよくわかっていない。

保全対策

生息地の自然環境の保全。



アカモズ (スズメ目、モズ科) *Lanius cristatus*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

近年、全国的に減少しており、県内での生息数は少ない。

形態

全長約20cm。雄は頭部から背面は赤褐色。黒い過眼線。額から続く眉斑は白色。下面は淡黄白色。雌は雄に似るが、胸から脇に褐色の波状横斑を有する個体もいる。幼鳥は背面、下面に褐色の鱗状横斑があり、嘴色も肉色をおびる。

国内の分布状況

夏鳥として北海道以南に渡来するが、繁殖の多くは本州中部以北である。九州の一部では、別亜種シマアカモズが繁殖している。

県内の分布状況

渡りの時期に平野部で見かけるが、個体数は少ない。1978年から1980年代前半にかけ連年5～6番が富山市馬場公園で繁殖したことがある。1992年には新湊市堀岡での繁殖記録がある。春の渡りの途中に、高山帯で吹雪により凍死する個体もある。

生態・生息環境

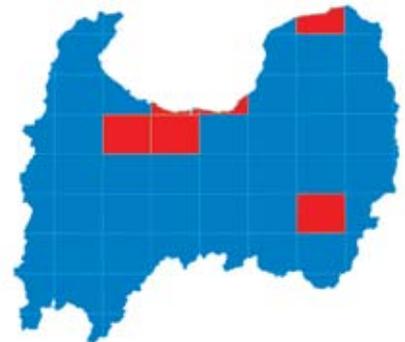
主に平地の河川敷の疎林や公園、海辺に近い山麓部に飛来する。明るい環境を好み、モズより樹上や飛翔する昆虫を捕食することが多い。採餌物は昆虫や両生・爬虫類など他のモズ類に似る。早齎の行動が見られる。富山市の馬場公園ではモズと混在して種間なわばりを作っていた（湯浅純孝の観察）。産卵期5～6月、1腹卵数4～6卵、抱卵日数約14日、巢内育雛約14日。

生存への脅威

減少傾向は全国的なもので、国外の越冬地で問題（環境変化、汚染、捕獲など）があるのかも知れない。詳細はよくわかっていない。

保全対策

生息地の自然環境の保全。



セツカ (スズメ目、ウグイス科) *Cisticola juncidis*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地の改変による生息個体数の減少。

形態

全長約12.5cm。夏羽は頭上が黒褐色、上面は黄褐色と黒の縦斑があり、尾の先は白い。

下面は淡黄褐色。冬羽は頭上が黄褐色で、黒の縦斑がある。

国内の分布状況

本州中部以南で繁殖する。寒冷地の個体は、温暖な地域に移動する。

県内の分布状況

平地の草地に生息・繁殖する。周年見られるが、冬期は少ない。神通川などの河川敷内に好適な繁殖地があったが、草地が開発され消失した。

生態・生息環境

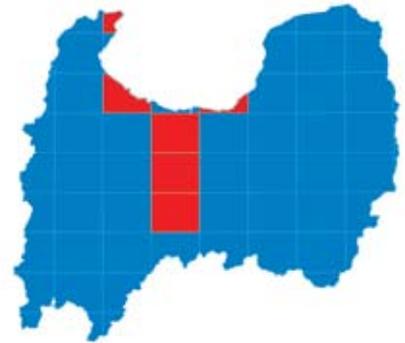
河川や埋立地、耕作放棄地などに生息する。チガヤやトダシバ、ハルガヤのような丈の低い草原を好む。採餌物は昆虫やクモなどで、植物の茎を移りながら捕えている。一夫多妻で年2～3回繁殖する。その年生まれた雌は、巣立後一カ月で繁殖に参加するという。産卵期4～9月。1腹卵数4～8卵、抱卵日数12～14日、巣内育雛13～15日。

生存への脅威

草地環境が改変されると、繁殖環境が消失する。

保全対策

草地環境の保全。



コクガン (カモ目、カモ科) *Branta bernicla*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

冬鳥として飛来するが、個体数は少ない。

形態

全長約60cm。頭部や背面・尾・足は黒く、喉・上尾筒・下尾筒は白い。脇には白色と淡黒褐色の縞模様がある。

国内の分布状況

冬鳥として主に本州中部以北に飛来するが、北方ほど多い。

県内の分布状況

氷見や新湊・魚津・宮崎海岸など富山湾沿岸にはほぼ毎年のように渡来する。渡来数は数個体と少ない。

生態・生息環境

海上や港湾を生息域にしているガンで、日中は海上などで休み、主に朝夕や夜間に岸に採餌にくる。特に岩礁や船着場に付着するアオサやイワノリなどの海藻を食べる。家族群で見られる。

生存への脅威

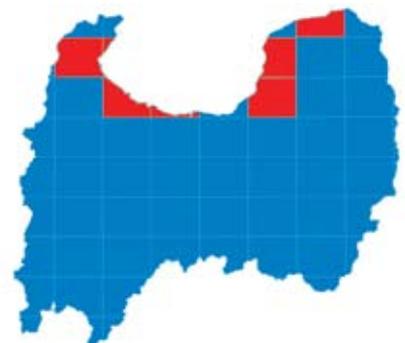
釣りなど海洋レジャーや海浜のドライバーと混在するため、安息的な生息空間が保持できない。

保全対策

生息環境の静謐のための対策。

特記事項

国指定天然記念物。



マガン (カモ目、カモ科) *Anser albifrons*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

渡来数の減少。

形態

全長約72cm。全体褐色で胸部に数本の黒い横縞がある（若鳥にはない）。嘴は肉色で、成鳥には額から嘴にかけて白い部分がある。足はオレンジ色。

国内の分布状況

冬鳥として日本に渡来するが、伊豆沼・片野鴨池・琵琶湖・宍道湖などのような大きな群の越冬地は少ない。東北地方北部より北方では旅鳥。隣接の新潟・石川の両県にはそれぞれ1500～2000羽近くが集団越冬している。

県内の分布状況

1950年代までは射水郡や氷見・黒部市内の湿地などに銃猟や網罟で捕獲されるほど生息していたが、今は生息環境も変わり姿はない。年により、降雪時に県内のあちこちで上空を飛翔する個体や池沼、湿地での休息個体の記録があるが定着地はない。

生態・生息環境

群生活を行い警戒性が強く人を寄せない。河川や水田などの広い耕地で採餌する。積雪期に下新川郡内に数10羽の群れがしばしば飛来する。食性は植食性でイネの落ち穂や二番穂、水田植生などを採餌する。群飛するときは斜線や鉤状になり飛行する。

生存への脅威

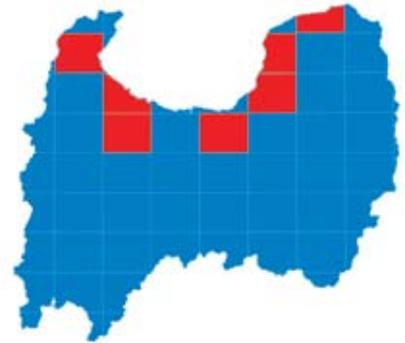
県内では、湿地の埋立てや圃場整備・乾田化が進みガン類が越冬する環境が激減した。

保全対策

湿地・池沼など生息地の保全。

特記事項

国指定天然記念物。



ヒシクイ (カモ目、カモ科) *Anser fabalis*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：亜種ヒシクイ 絶滅危惧Ⅱ類、
亜種オオヒシクイ 準絶滅危惧種

選定理由

渡来数の減少。

形態

日本に来るヒシクイにはオオヒシクイ *A. f. middendorffii*（全長約87cm）とヒシクイ *A. f. serratirostris*（全長約83cm）の2亜種がいる。本種はほぼ全身が褐色で尾の基部と下腹部は白い。嘴は黒く、先端近くにオレンジ色の帯がある。亜種ヒシクイは亜種オオヒシクイに比べやや小形で嘴は太くて短く、角度が強いなどの違いがある。

国内の分布状況

冬鳥として日本に渡来するが、マガンと同じく渡来地は局地的である。亜種オオヒシクイは主に日本海側の新潟県の福島潟や石川県の片野鴨池・滋賀県の琵琶湖で越冬し、亜種ヒシクイの大部分は宮城県伊豆沼などで越冬する。亜種オオヒシクイは日本への全渡来数の8割と多い。新潟や石川両県には少数の亜種ヒシクイが越冬する。

県内の分布状況

1950年代までは県内でも狩猟されていた。近年は、年により上空を飛翔する個体や湿地、河口などでの記録はあるが、定着地はない。県内での写真などでこれまで識別できたものは亜種オオヒシクイが多く、亜種ヒシクイは稀で観察されても1～2羽である場合が多い。

生態・生息環境

群生活をし、警戒性が強い。県内では埋立地、河川や水田など人の近づかない見通しの効く場所で生活する。時には誘致されている白鳥の池などにも飛来することがある。食性は草本の種子やイネの落ち穂・二番穂などの植食性。隊列飛行をする。

生存への脅威

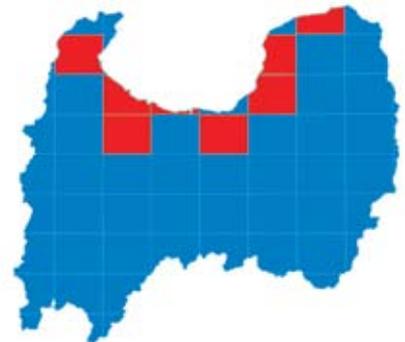
湿地の埋立てや圃場整備・乾田化により渡来する環境が消失しつつある。

保全対策

湿地・池沼など生息地の保全。

特記事項

国指定天然記念物。



トモエガモ (カモ目、カモ科) *Anas formosa*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

極東地域の固有種。個体数が著しく減少している。

形態

全長約40cm。小形のカモ。雄の顔面には黄白色と黒色、緑色に光る巴模様がある。肩羽が飾り羽となる。雌は嘴の付け根に円形の白斑がある。

国内の分布状況

冬鳥として渡来するが、年により渡来数に変動がある。

県内の分布状況

春と秋の渡りの時期には、年により数十、数百の大群で池沼に渡来する。冬季間は少ない。近年の渡来数は減少した。

生態・生息環境

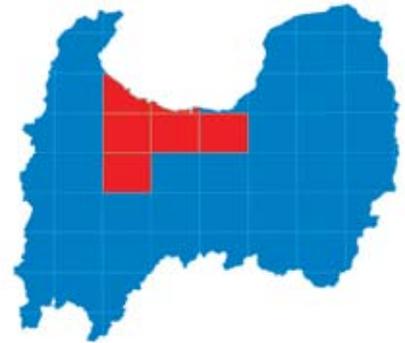
丘陵地の沼地や河川、貯木場の水面などに生息する。溜池では、他のカモ類と共に見られるが、大きな水面を有する溜池を好む。食性はほぼ植食性で、夜間に湿田や小川に飛来し、落ち穂や草の種子などを採餌する。

生存への脅威

1960年代頃まで大群が渡来した富山市古洞池や射水市の恩坊池には、堤防の嵩上げなどにより渡来しなくなった。富山平野の水田の乾田化が進み夜間の採餌環境も変わった。

保全対策

生息環境の保全、鉛散弾の規制による水質保全。



ハチクマ (タカ目、タカ科) *Pernis ptilorhynchus*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

丘陵から低山帯にかけ生息するタカで、生息個体数は少ない。

形態

全長約60.5cm (雌)、約57cm (雄)。翼開長121 ~ 135cm。体色変化が多く、時には体色が灰褐色の強い淡色型もいる。喉と胸の境に太い黒斑を有する個体が多い。尾に数条の黒帯がある。虹彩は雄では暗褐色～赤褐色、雌は黄色。

国内の分布状況

夏鳥として日本に渡来するが、繁殖は、北海道、近畿以北の本州。近年、四国、九州でも繁殖が記録された。個体数は多くない。

県内の分布状況

渡りの時期には、県内各地の丘陵から低山に姿を現わす。タカの渡りの観察スポットではよく見かける。環境アセスメント調査で繁殖期の記録が数地域で確認されたが、生息個体数は少ない。

生態・生息環境

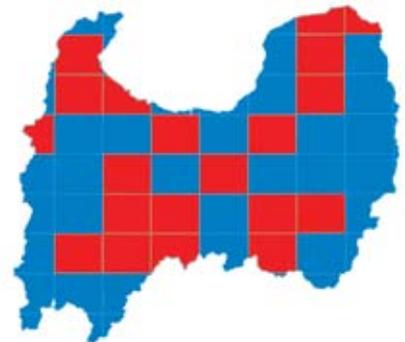
ハチ類や他の昆虫、トカゲなどを採餌する。特にクロスズメバチなどのジバチ類を好む。繁殖開始は遅く6月頃に産卵、8月頃に巣立つ。育雛にハチ類の幼虫を多く給餌する。1腹卵数1 ~ 3卵、抱卵日数約35日、巣内育雛35 ~ 42日。

生存への脅威

雑木林の管理放棄により、生物生産性の低い林分となり、好適な繁殖環境が狭少傾向にある。

保全対策

管理放棄された雑木林や植林地の適正な管理。



オジロワシ (タカ目、タカ科) *Haliaeetus albicilla*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

海岸、河川などの水界生態系の頂点に位置する鳥であり、個体数もわずかである。

形態

全長約95cm (雌)、約80cm (雄)。翼開長180～230cm。成鳥の体色は茶褐色で尾羽は白色。若鳥は全身褐色で尾羽は齢を重ねるごとに白色部が増す。虹彩も加齢につれ黄色くなる。嘴と足は淡黄色。飛行時は翼形は長方形、尾はくさび形に見える。

国内の分布状況

本州に冬鳥として渡来するが、九州以南にも時として現れる。北海道の東部・北部で少数が繁殖する。

県内の分布状況

富山湾に面した海岸や大きな河川、湖沼などに冬鳥として少数渡来する。カモ類の集団越冬地の神通川や庄川の中流域、富山市古洞池、小杉町恩坊池、氷見市蛇池などにも姿を見せる。黒部川河川敷にはほぼ例年、定期的に渡来する。

生態・生息環境

水辺で衰弱したカモやカモメ、ハト類、魚類などを捕食。樹上に営巣。屍肉も採餌する。ねぐらとして近くに大木のある森を必要とする。1腹卵数1～2卵 (稀に3～4卵)、抱卵日数37～40日、巢内育雛70～90日。

生存への脅威

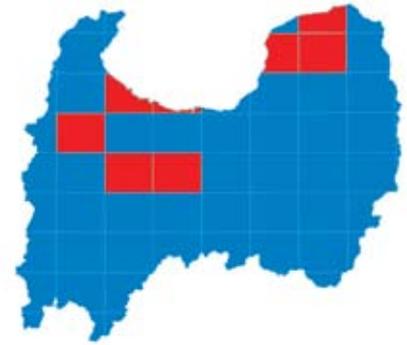
放置された狩猟獣やカモ類、キジなどの肉を銃弾やその破片と一緒に呑み込み、鉛中毒の脅威にさらされている。

保全対策

越冬地の環境保全が重要である。獲物の処置についての狩猟者指導や狩猟用の鉛弾を無毒性スチール弾に変換する措置が必要である。

特記事項

国内希少野生動物種、国指定天然記念物。



オオワシ (タカ目、タカ科) *Haliaeetus pelagicus*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

極東アジアの特産種で、県内へは冬鳥として稀に渡来する。

形態

全長約102cm (雌)、約88cm (雄) 翼開長220～245cm。成鳥では全体黒褐色で尾羽や肩、すねの羽色は白色。尾羽は長いくさび形。体の羽色は加齢につれ変わる。嘴は大きく橙黄色。虹彩は暗褐色から黄色まで変化がある。

国内の分布状況

冬鳥として主に北海道へ、少数は本州中部地方まで渡来する。羅臼から根室にかけては主要な越冬地になっている。

県内の分布状況

例年の渡来数はオジロワシより少なく、渡来記録のない年もある。近年、黒部川を除き観察例は減少している。

生態・生息環境

渡来数は稀であるが、オジロワシと同様、生息地は海岸や大きな河川などの水環境と、ねぐらとなる近くの森林に依存している。本種の繁殖分布はサケの分布域と一致しており、サケ・マス類を主食とする魚食性ワシ。冬期、各種の魚類のほかカモ類やノウサギなども捕獲したり屍肉を採餌したりする。

生存への脅威

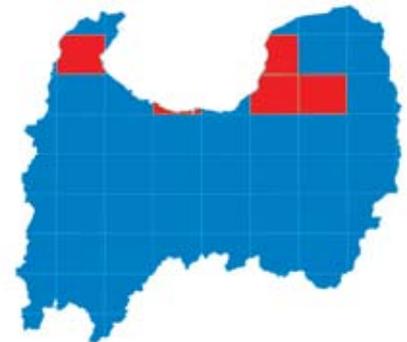
放置された狩猟鳥獣の肉を銃弾やその破片と共に呑み下し、鉛中毒の脅威にさらされている。

保全対策

獲物の処置についての狩猟者指導、狩猟用鉛弾の無毒性スチール弾への変更措置。

特記事項

国内希少野生動物種、国指定天然記念物。



オオタカ (タカ目、タカ科) *Accipiter gentilis*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

丘陵から低山にかけての森林生態系の頂点に位置する。人の生活活動で繁殖に影響を受けやすい。

形態

全長約55cm (雌)、約50cm (雄)。翼開長105～130cm。雌は雄より大形。頭から背面、尾は灰黒色。下面は白く灰黒色の横斑が全体にある。白い肩斑がある。足は黄色。若鳥は全身淡褐色で下面には黒褐色の縦斑がある。

国内の分布状況

九州以北に分布するが、北海道、本州がおもな繁殖地となっている。四国、九州ではおもに冬鳥として生息する。

県内の分布状況

県内の朝日町から氷見市までの里山や低山帯に生息する。呉羽丘陵や小矢部南部丘陵でも繁殖が確認されている。冬期は神通川や小矢部川、白岩川や氷見海岸など各地の疎林、農耕地、人家周辺にも現れる。

生態・生息環境

丘陵や山麓など低標高地でも繁殖するタカ。森林と開けた場所のある環境に多い。営巣木は大木でアカマツやスギを好む。食性は肉食性でキジ、ヒヨドリ、カケスから小鳥類、哺乳類ではノウサギやリス、アカネズミなどを捕る。産卵期4～6月、1腹卵数2～4卵、抱卵日数36～41日、孵化後40日で巣立つ。

生存への脅威

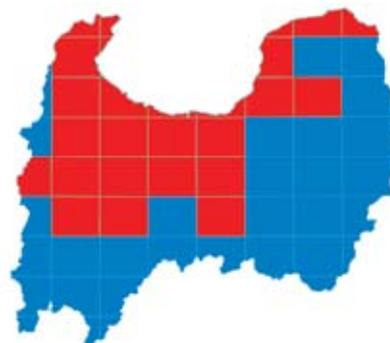
里山で繁殖するので、各種の開発による生息環境の悪化、植林伐採や行楽、散策、フォトマニアなどの立入りによる繁殖障害など人為的影響を受けやすい。

保全対策

里山の生産性の高い生態系の保全や営巣木の確保のためにアカマツのマツクイムシ対策が望まれる。

特記事項

国内希少野生動物種。



ハヤブサ (タカ目、ハヤブサ科) *Falco peregrinus*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

海岸や河川環境の生態系の頂点に位置する。県内の繁殖個体数は少なく、分布も局地的である。

形態

全長約51cm (雌)、約38cm (雄)。翼開長84～120cm。雌は雄よりかなり大形。上面は青灰色、顔にひげ状の黒斑がある。下面は白く黒の横斑が密にある。鱗膜とアイリング、足は黄色。若鳥の上面は暗褐色、下面は淡褐色で褐色の縦斑がある。

国内の分布状況

日本では九州以北で繁殖する。岩壁のある海岸や河畔の崖が主な繁殖地となっている。

県内の分布状況

県内の海岸部や河川敷、埋立地、農耕地など視界の開けた場所に生息する。渡りの時期や冬期は丘陵地や市街地を飛翔するものもいる。個体数は少ないものの、やや増えている。

生態・生息環境

県内では海岸周辺の土取り場や河川中流の断崖などに営巣し、数番の繁殖が確認されている。食性は肉食性で主に飛行中の中型鳥類を捕らえる。富山市内の高層マンションのテラスなどにも獲物を運び採餌場となっている。産卵期3～4月、1腹卵数3～4卵、抱卵日数30～33日、巢内育雛35～40日。

生存への脅威

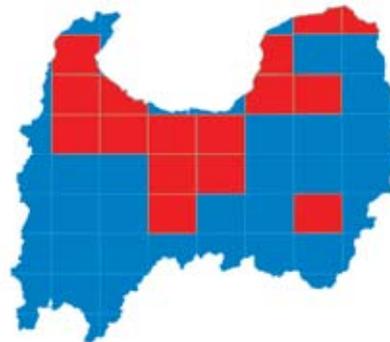
道路建設や落石防止工事などの開発行為、営巣地周辺への立入り、食性からくる体内への汚染物質の蓄積なども生存を脅かす原因となっている。フォトマニアも繁殖地の曝露の原因となることがある。

保全対策

生息環境の保全と繁殖期の繁殖地周辺への立ち入り規制。

特記事項

国内希少野生動物種。



クイナ (ツル目、クイナ科) *Rallus aquaticus*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

冬鳥として渡来するが、生息個体数が減少した。

形態

全長約22cm。上面はオリーブ褐色で黒い縦斑がある。脇と腹は白と黒の横斑。上嘴は褐色、下嘴は赤色。足は赤褐色。足は体形に比して大きく趾指が発達している。

国内の分布状況

北海道、本州北部では夏鳥、本州以南では冬鳥とされる。

県内の分布状況

平地や丘陵の水辺に生息する。道路網の整備により生息環境に立ち入り易くなった現在でも、出会い数は1960年代より明らかに減少している。

生態・生息環境

平地のヨシやマコモが生育する池沼や河川や水田脇の茂った草むらなどに生息する。

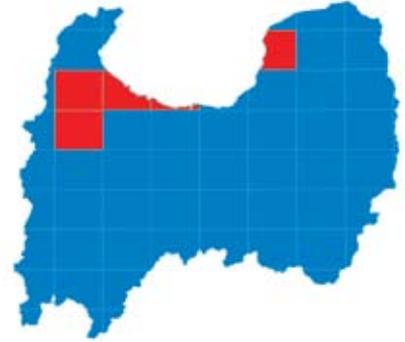
首を前に伸ばし尾羽をたえずはね上げながら歩行する。新潟県以北で繁殖する。採餌物は小昆虫、クモ、カエル、甲殻類、植物の種子など。1腹卵数6～7卵、抱卵日数19～22日、雛は早成性で孵化後まもなく離巢する。

生存への脅威

湿地の埋立てや圃場整備、護岸工事により草原やヨシ原が急速に減少している。

保全対策

ヨシ原など生息環境の保全、再生・創出。



ズグロカモメ (チドリ目、カモメ科) *Larus saundersi*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

海辺の湿田や干潟の整備が進行しており、今後も生息環境の減少が予測される。

形態

全長33cm、ユリカモメより一回り小型で、嘴は黒色。夏羽は頭部が黒色となる。

国内の分布状況

冬鳥として関東地方以西の干潟や河口に渡来する。有明海や八代海、周防灘の干潟が日本の重要な越冬地となっている。

県内の分布記録

主に冬季に入善町、黒部市、滑川市、氷見市、砺波市内などの湿田で採餌、飛翔が記録されている。

生態・生息環境

中国の黄海沿岸で繁殖。日本では主に九州から沖縄の干潟で越冬する。カニやゴカイ、ミミズなどを採餌する。本県では、冬水たんぼで底生動物や昆虫の幼虫などを食べている。

生存への脅威

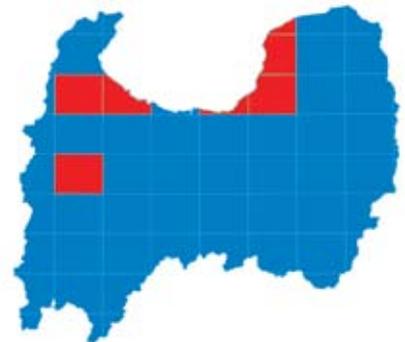
干潟など湿地の埋め立ては重大な危機。中国の干潟では、ゴカイ採集、韓国ではカメラマンによる営巣地の攪乱が問題になっている。

保全対策

湿地や干潟の保全。中国での重要な繁殖地はすべて自然保護区となっている。

特記事項

ボン条約付属書Ⅰ記載種。



アオバズク (フクロウ目、フクロウ科) *Ninox scutulata*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

近年減少が著しい。

形態

全長27～30.5cm。翼開長66～70.5cm。羽角のない丸い頭。上面は黒褐色。下面は白色に黒褐色の太い縦斑がある。虹彩と足は黄色。

国内の分布状況

日本のほぼ全土で、夏鳥として渡来・繁殖する。沖縄県では越冬する。

県内の分布状況

県内各地の平地から丘陵の大きい樹木のある林に生息する。巨木のある公園や社寺境内、人家の庭にもすみつく。1980年代前半頃より生息個体数が減少し、さらに近年、巨木も少なくなり追い討ちをかけている。

生態・生息環境

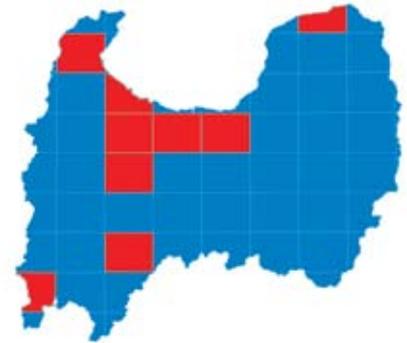
ケヤキやサクラなど巨木の洞に営巣する。夜行性で、飛行しながらセミ、蛾、甲虫など大形の昆虫類、時には、コウモリや小鳥を採餌する。街灯に集まる昆虫を求めて飛来することもある。1腹卵数2～5卵、抱卵日数約25日、巢内育雛約28日。

生存への脅威

社寺林を含めた人里の大径木の減少、広葉樹のスギへの林種転換なども営巣に影響を与える。

保全対策

樹洞を有する大径木の保全、積極的な巣箱架設。



ヨタカ (ヨタカ目、ヨタカ科) *Caprimulgus indicus*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

近年、全国的に減少している。

形態

全長約29cm。全身褐色、白色、黒色の虫食い状の枯れ葉模様。嘴は小さいが、口は非常に大きく開く。雄の尾には白斑がある。

国内の分布状況

夏鳥として北海道、本州、四国、九州に渡来し繁殖する。全国的に減少が著しいとされる。

県内の分布状況

平地から山地にかけ分布するが、個体数は少ない。1980年代頃までは、各地で姿や声・巣卵が記録された。

生態・生息環境

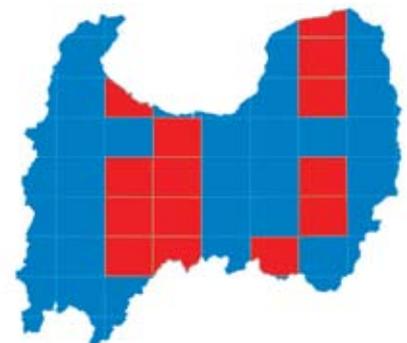
草木が散在する落葉広葉樹林やスギ造林地の地表の乾いた明るい林を好む。木の枝に乗るように平行にとまる。日没前後から夜間にかけて羽音を立てずに身軽に飛び回り、飛翔性の昆虫を捕食する。地上に浅い窪みをつくり直接産卵する。産卵期5～7月、1腹卵数2卵、抱卵日数約19日、孵化後約22日で飛ぶ。

生存への脅威

減少の原因は不明とされるが、里山の林が管理放棄状態のうつ閉状態となり、繁殖環境が劣化していることにも一因がある。

保全対策

繁殖地の環境保全。



ヤマセミ (ブッポウソウ目、カワセミ科) *Ceryle lugubris*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

採餌物の減少と営巣環境の変化・消失などで生息個体数が減少している。

形態

全長約38cm。上面は白と黒の鹿の子模様、下面は白く、雄は顎線と胸に、雌には翼下面の降雨覆に錆色がある。頭は冠羽状。嘴は黒っぽく、足は小さく合趾足。

国内の分布状況

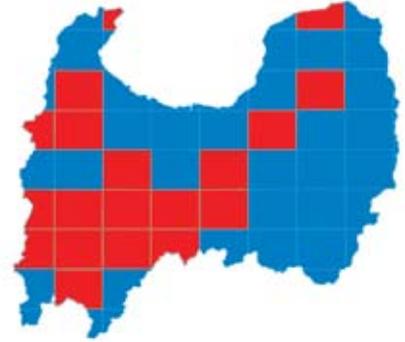
九州以北の里山から低山の河川、湖沼などに留鳥または漂鳥として生息するが、生息数は少ない。

県内の分布状況

県内の河川上流域や山地の溪流に分布する。留鳥として繁殖するが、多雪地域の個体は、冬期下流域に移動する。

生態・生息環境

川面へ張り出した枝上や岩上から、あるいはホバリングして水中に突っ込み、嘴で魚類やカエル、サンショウウオを捕らえる。主な魚類は5～20cmのイワナ、ヤマメ、アブラハヤ、ウグイなどで、不消化物はペリットとして吐き出す。溪流畔の土質の崖や土取り場の土手に嘴で横穴を掘り営巣する。番でなわばりを有するが、冬は時間や場所を違えて別行動をとる。産卵期3～6月、1腹卵数4～7卵、抱卵日数約20日、巣内育雛32～36日。



生存への脅威

生息地において各種法面工事により営巣環境が消失しつつあることや溪流の釣り人の増加により採餌行動が攪乱されている。

保全対策

採餌場と河川や営巣崖地を含めた生息環境の保全。魚類捕獲禁止区域の設定。

ササゴイ (コウノトリ目、サギ科) *Butorides striatus*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

全国的に個体数が減少しており、繁殖場所も不安定な林分である。

形態

全長約52cm。成鳥の後頭には長い冠羽がある。ゴイサギに似るが小形で、翼はササの葉様の白い羽縁のある羽がある。虹彩と足は黄色。

国内の分布状況

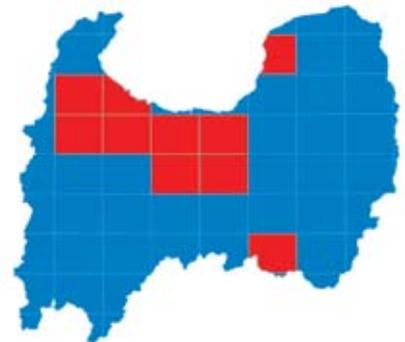
夏鳥として本州から九州に渡来し繁殖する。九州南部で一部越冬する。

県内の分布状況

河原や運河、海浜などの水辺で見られ、単独又は番でいることが多く、繁殖個体数も少ない。

生態・生息環境

開けた河畔などで、小魚や甲殻類などの獲物を待ち伏せする。昆虫や木の葉などを疑似餌として水面に投げ、漁獲することが知られる。近くの疎林やスギ林の横枝に粗雑な巣を作る。昼夜とも活動する。1腹卵数2～4卵、抱卵日数21～25日、巣内育雛約20日。



生存への脅威

営巣する林や藪が伐採、整地されやすく、繁殖の圧迫要因となっている。

保全対策

繁殖地周辺の水辺環境の保全。

チュウサギ (コウノトリ目、サギ科) *Egretta intermedia*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

個体数が少なく、繁殖地も不安定である。

形態

全長約69cm。コサギより一回り大形の白いサギ。夏羽の嘴と足は黒色、背に真直な飾り羽がある。冬羽の嘴は黄色。

国内の分布状況

主に夏鳥として渡来し、本州以南で繁殖する。西南日本では一部越冬する。

県内の分布状況

平地の水田、河川などで見られるが、個体数は少ない。

生態・生息環境

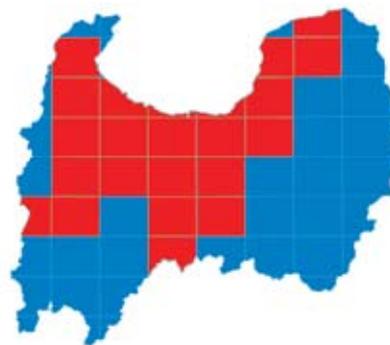
昼行性で、歩きながら昆虫、魚類、両生類など水辺の小動物を採餌する。ゴイサギやコサギなどの繁殖コロニーに混棲し繁殖する。コロニーへの渡来はシラサギ類では遅い。1腹卵数3～5卵、抱卵日数24～27日、巣内育雛約20日。

生存への脅威

繁殖コロニーの不安定な立地環境や水田環境の整備、採餌物の減少などが生息の圧迫要因となっている。

保全対策

繁殖コロニーの保全、周辺の生息環境の復元・創出。



オオハクチョウ (カモ目、カモ科) *Cygnus Cygnus*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

渡来数がまとまっていることと、群としての定期的な集団越冬地として日本の南限に位置すること。

形態

全長約140cm。全体白色。上嘴は黒色で、基部周辺に黄色斑がある。黄色の面積は、黒色の部分より大きい。

国内の分布状況

冬鳥として北海道、本州に渡来するが、北方ほど個体数が多い。越冬地の多くで給餌活動が行われている。

県内の分布状況

定期的な越冬地として富山市山本地内の田尻池がある。毎年100羽前後が渡来越冬する。氷見市十二町潟などにも例年50羽近くが飛来する。いずれも小杉町石畑池と往来している。

生態・生息環境

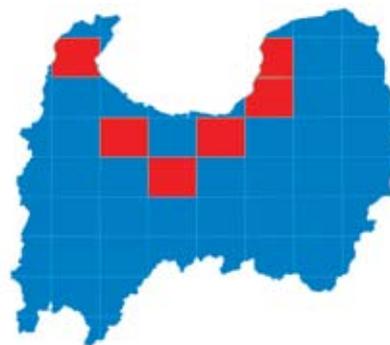
溜池や池沼などに生息するが、採餌のため大きな河川や水田に降りることもある。食性は植食性で、水生植物の茎や根、水田で落ち穂・二番穂などを採餌する。家族単位の集合体で越冬する。

生存への脅威

灌漑用溜池は消失の懸念がある。渡来地周辺での架線への衝突死も発生している。

保全対策

越冬地周辺の生息環境の保全、給餌活動の検討、鉛散弾の規制、生息地での釣り規制、架線の衝突死防止用タグの取り付けなど。



ヨシガモ (カモ目、カモ科) *Anas falcata*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

極東地域の固有種。生息個体数が減少し、局地的な分布となっている。

形態

全長約48cm。雄は後頭に緑色光沢のナポレオン帽の様な冠羽がある。雌は体に斑のある暗褐色。

国内の分布状況

冬鳥として日本に渡来するが、個体数は少ない。北海道で少数が繁殖する。

県内の分布状況

県内の淡水域や湾内に渡来するが、個体数は少ない。ほぼ定期的に渡来するのは小矢部川くらいである。

生態・生息環境

河川や湖沼、湾内などに生息する。群生活で見られるが、番か小群でいることが多い。

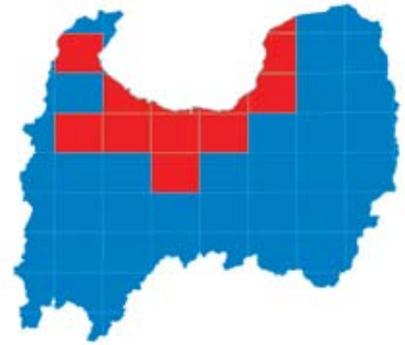
夜間に水田や湿地で、草の種子、茎、根や落ち穂などを採餌する。

生存への脅威

富山平野の乾田化が進み、採餌環境が減少している。狩猟鳥に指定されている。

保全対策

生息環境の保全、鉛散弾の規制、狩猟鳥からの除外。



シマアジ (カモ目、カモ科) *Anas querquedula*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

個体数が減少傾向にある。

形態

全長約38cm。コガモほどの小型のカモ。雄は白色の太い眉斑が特徴。脇には白く黒色の波状斑がある。雌は全体褐色で淡色の眉斑と黒褐色の過眼線がある。

国内の分布状況

春と秋にみられる旅鳥で、生息数は少ない。越冬地は東南アジアに至る。大きな群れはつくらない。北海道での繁殖が知られている。

県内の分布記録

渡りの時期に単独や小群で見られるが、観察記録の少ない年が多い。時には、庄川など広大な河川敷の中の流れでみられる。

生態・生息環境

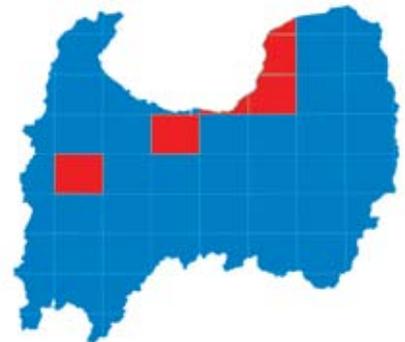
河川や海辺の近くで葦や柳などに囲まれた小さな池沼でみられる。春の渡来期には番を形成し、コートシップディスプレイがみられる。淡水生のカモで食植性、時にはアオミドロも食べる。1腹卵数は8～12卵、放卵日数21～25日。

生存への脅威

不用の場所として湿地や水溜りなどの埋立てが進行している。河川敷内や道路の整備で、車や人の立ち入りが増え、静ひつな生息環境が攪乱されている。

保全対策

管理車両以外の河川敷内への侵入禁止処置の検討。



ヒロードキンクロ (カモ目、カモ科) *Melanitta fusca*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

近年、個体数が急減している。

形態

全長約55cm。雄は全身ほぼ黒色で眼の近くに白い三日月斑がある。雌は目先と耳羽、後頸の3カ所に白斑がある。

国内の分布状況

冬鳥として、東海、北陸以北の沿岸・沖合に渡来する。

県内の分布記録

富山湾に渡来するが、観察例は著しく減少している。

生態・生息環境

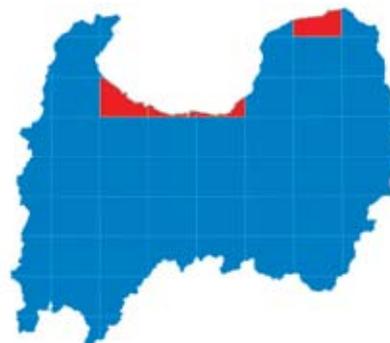
海上に生息し、潜水してバフンウニなど貝類などを採餌する。巣は地上の茂みや樹林の根元の窪み。1腹卵数7～9卵、放卵日数27～28日。

生存への脅威

定置網などの混獲が最も懸念されるほか、重油流出など海洋汚染が予測される。

保全対策

海洋汚染の防止は欠かせない。



シノリガモ (カモ目、カモ科) *Histrionicus histrionicus*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息個体数が少ない。

形態

全長約43cm。雄の体色は、青灰色と赤栗色で、顔や胸に白ペンキをあちこち塗った様な特徴ある色彩をしている。雌は全体黒褐色で目先と耳羽に白斑がある。

国内の分布状況

冬鳥として主に北日本に渡来する。北海道と青森・宮城・秋田県では少数が繁殖する。

県内の分布状況

富山新港や魚津、氷見海岸、大河川の河口に冬期見ることがあるが、生息個体数は大変少ない。

生態・生息環境

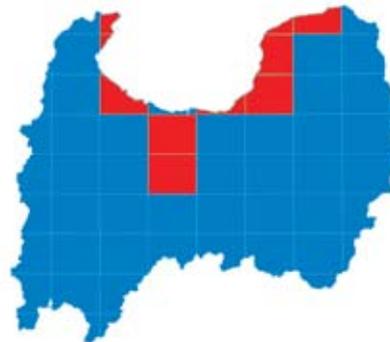
海岸の波の荒い岩礁地帯やテトラポット周辺に生息し、潜水しながら貝類、甲殻類などを採餌する。繁殖地は、山地の岩の多い溪流沿いで、草むらや岩陰などに営巣する。1腹卵数4～8卵、抱卵日数28～29日、雛は早成性で間もなく巣を離れる。

生存への脅威

岩礁地の改変により生息環境が劣化する。マリンスポーツや釣りのレジャーボートにより安息な生活環境が壊される。

保全対策

越冬地の海岸護岸整備の方法などにも十分な配慮が望まれる。マリンスポーツなどとの共存・すみわけの検討も望まれる。



ホオジロガモ (カモ目、カモ科) *Bucephala clangula*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息個体数が減少した。

形態

全長約45cm。雌雄とも頭部が大きい。雄の頭部は緑色光沢のある黒色で、嘴の基部に大きな白斑がある。下面、肩羽は白い。嘴は黒く虹彩は黄色。雌の頭部や体はほぼ暗褐色。嘴の先は橙色で先端に黒色部がある。虹彩は黄白色。

国内の分布状況

冬鳥として全国に渡来するが、北日本には比較的多い。

県内の分布状況

富山湾や大河川に渡来するが、個体数は多くない。

生態・生息環境

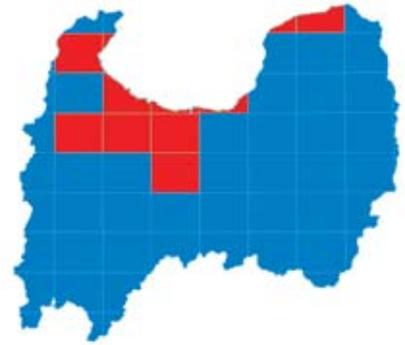
湾内の浅海域で小群で生息するが、神通川や庄川、小矢部川の中流域にも飛来する。潜水しながら貝類や甲殻類、水生昆虫などを採餌する。1970年頃までは、河口部に毎年まとまった群で渡来していたが、近年は減少し、単独か小さな群でいる。

生存への脅威

水底の生態系の変化で、採餌物の減少が生息に影響を与えている。マリンスポーツ、釣りのレジャーボートが安息な生息水域を攪乱している。

保全対策

海岸・河川の護岸整備方法などで、水底の生態系の維持に十分な配慮が望まれる。マリンスポーツなどとの共存・すみわけの検討も望まれる。



ミコアイサ (カモ目、カモ科) *Mergus albellus*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生息個体数は少ない。

形態

全長約42cm。雄は白色の体。眼先、後頭、側胸に黒斑がある。雌は全体暗褐色。頭部の上半分が茶褐色、下半分と頸側は白い。頭上に冠羽がある。

国内の分布状況

冬鳥として九州以北に渡来する。北海道では旅鳥、少数は北部で繁殖する。

県内の分布状況

神通川や小矢部川など大きな河川の河口、運河、漁港などの水域で、カモ類と混生し越冬する。10羽を越す群で見られることもある。

生態・生息環境

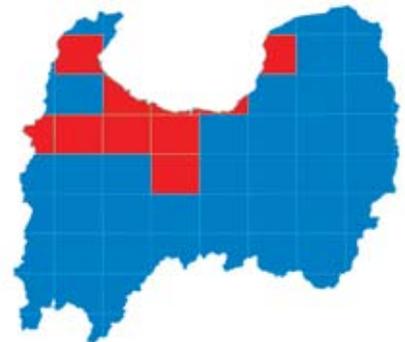
富山市の富岩運河では例年数羽が越冬している。潜水し魚類や甲殻類などを採餌する。人に対する警戒性は強い。樹洞営巣で、番は抱卵期に解消され、雛は雌親が育てる。1腹卵数6～9卵、抱卵日数26～28日。

生存への脅威

警戒性が強いので、遊覧船やマリンスポーツなどによる生息影響がある。

保全対策

マリンスポーツなどとの共存・すみわけの検討が必要である。



ウミアイサ (カモ目、カモ科) *Mergus serrato*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生息個体数が減少した。

形態

全長約55cm。雄の頭部は、緑色光沢のある黒色で、後頭に2段からなる冠羽がある。雌は茶褐色で、短めの冠羽がある。雌雄とも嘴、虹彩、足は赤味を帯びる。飛翔時は翼上面の白い部分に2本の黒条がある。

国内の分布状況

冬鳥として全国に渡来するが、生息個体数は少ない。

県内の分布状況

沿岸部に渡来するが、小群で生息する。1970年頃までは、狩猟鳥にもかかわらず生息数も多かった。以後、非狩猟鳥に指定替えとなったが、近年も生息数の回復はない。

生態・生息環境

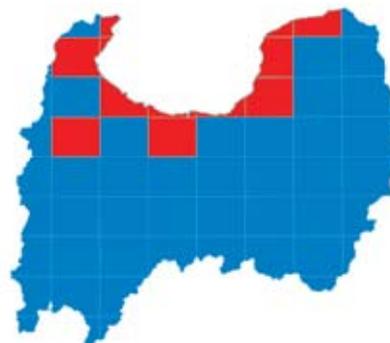
越冬中は、海岸や漁港内、河口などに生息するが、河川にも時々遡上する。潜水し体長10cm位までの魚を捕え、水面に浮上して呑み込む。群れで一斉に潜水し共同採餌することもある。

生存への脅威

警戒性の強い鳥なので、マリンスポーツなどにより生息環境に影響を及ぼすと考えられる。

保全対策

マリンスポーツなどとの共存・すみわけの検討も望まれる。



ミサゴ (タカ目、タカ科) *Pandion haliaetus*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

水生生態系の頂点に位置する特徴的な猛禽類である。生息個体数の回復状況を見極める必要がある。

形態

全長約64cm(雌)、約54cm(雄)。翼開長155～175cm。翼は細長く、尾は短い。頭部は白く過眼線は黒色。体の下面や翼の下面は白っぽい。虹彩は黄色。趾指は前後に2本ずつあり、趾の下側に針状のうろこを持つ。

国内の分布状況

全国の水辺に広く分布する。

県内の分布状況

海岸、大きな河川、湖沼などに分布する。1960年代前半まで、朝日町泊や高岡市鉢伏山、二上山、大師ヶ岳など各地で繁殖していたが、後半頃より水質汚濁による有害物質の体内蓄積で急減し稀な鳥となった。近年は、生息数が回復し各地で営巣が見られるようになった。

生態・生息環境

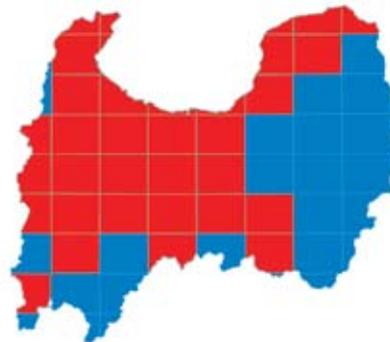
朝日町から氷見市までの臨海の後背山地を営巣環境とするほか、呉羽丘陵や射水丘陵、福岡町、砺波市、婦中町などの大きな河川の周辺も営巣地として選択している。営巣木はアカマツやスギの大木。養鯉場や溜他の鑑賞鯉を狙うので苦情が出ることがある。1腹卵数2～3卵、抱卵日数34～40日、巢内育雛49～57日。

生存への脅威

里山のアカマツの枯損や森林伐採、強風による落巢、河川改修にともなう採餌場の消滅などが生息の圧迫要因となっている。

保全対策

営巣木や採餌場の保全、食物連鎖を考えた水質汚濁の改善。



ツミ (タカ目、タカ科) *Accipiter gularis*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息数が減少している。

形態

全長約30cm (雌)、約27cm (雄)、翼開長51～63cm。日本産タカ類中で最も小型。頭と背面は暗灰色。雌の下面は白色で灰褐色の横斑がある。雄の下面は一樣に淡褐色で、明らかな横斑はない。雄の虹彩は暗赤色、雌は黄色。

国内の分布状況

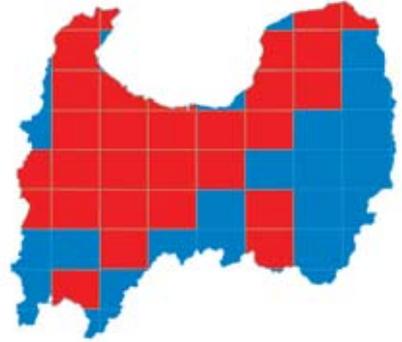
夏鳥または留鳥として全国各地で繁殖する。積雪地帯など北方の個体は、暖地に移動し越冬する。

県内の分布状況

本県では、留鳥または冬鳥として生息するが、繁殖期の確認例は少数。1960年代には野外での遭遇頻度も多かったが、1970年代より減少した。婦中鳥類観測ステーションにおいても、近年の捕獲標識個体数は減少。

生態・生息環境

山地に生息するが、渡りの時期には農耕地や住宅街にも現れる。採餌物はスズメ、ツバメ、シジュウカラなど小鳥類が主で、時にはこれらを追って人家に迷入することがある。冬期、呉羽山やねいの里では、カラ類を林間を敏捷にくぐりぬけ狩っている。夏期、立山山麓や有峰、平村などで成鳥や当歳の若鳥が観察されている。1腹卵数3～5卵、抱卵日数約35日。巢内育雛約24日。



生存への脅威

森林の各種開発や広範囲におよぶ落葉広葉樹林のスギへの林種転換が、繁殖の圧迫要因となっている。

保全対策

落葉広葉樹林の保全や公有林などの針広混交林化を図るなど、生物多様性を高めることが望まれる。

ハイタカ (タカ目、タカ科) *Accipiter nisus*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

森林性猛禽として生態系の頂点に位置する。県内の生息個体数は少ない。

形態

全長約39cm (雌)、約31.5cm (雄)。翼開長62～76cm。日本産鳥類で雌雄差の大きいものの一つ。雄の体重は雌のほぼ半分。翼は短く尾は長い。雄は上面暗青灰色、下面には赤褐色の横斑がある。雌の上面は灰褐色、下面には褐色の横斑がある。雌雄とも尾には数本の黒色横斑がある。第3趾は、異常に長く発達し、獲物を効率よく捕獲できる。虹彩は、橙色から淡黄色まで雌雄・年齢差がある。

国内の分布状況

北海道と本州の山地で繁殖し、越冬期は全国に分布する。

県内の分布状況

1960年代頃は、野外で出会頻度も多かった種である。平成の初期まで明らかに少なくなったが、近年はやや回復の傾向がうかがえる。冬季に平地や山麓で見かけられるが、繁殖期にも山地で確認されることから、営巣していると考えられる。渡りの時期には、山地で“タカの渡り”として見れる種のひとつである。

生態・生息環境

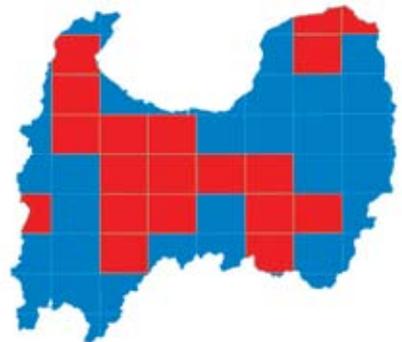
森林性のタカであるが、秋から冬には河川敷やヨシ原にも現れる。採餌物としてヒヨドリ位までの小鳥を狩るほか、ネズミ類や昆虫も捕食する。1腹卵数4～5卵、抱卵日数32～34日、巢内育雛24～30日。

生存への脅威

大規模な落葉広葉樹からスギへの林種転換や伐採は、営巣木や採餌物の不足につながり、大きな圧迫要因となっている。

保全対策

落葉広葉樹林の保全や公有林などの針広混交林化を図るなど、生物多様性を高めることが望まれる。



ミヤコドリ (チドリ目、ミヤコドリ科) *Haematopus ostralegus*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に渡来数がすくない。県内での海浜整備が進行しており、渡来の減少が予測される。

形態

全長45cm、頭から胸、背は黒色。腹部は白色。嘴、足、虹彩は赤色。嘴の形状は薄いナイフ状。

国内での分布状況

ヨーロッパやアジアの海岸に広く分布している。日本には冬鳥、旅鳥として渡来する。東京湾や九州などでは、毎冬一定の数が越冬している。

県内での分布記録

富山湾沿岸に散発的に渡来し、短期間滞在する。

生態・生息環境

海岸や干潟、河口などに生息し2枚貝に嘴を差し込み、閉殻筋を切断して軟体部を採餌する。

生存への脅威

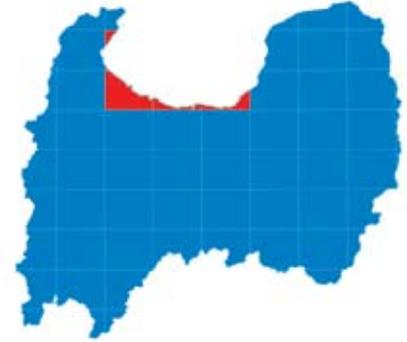
海辺の整備や、干潟の埋め立て、釣り人の往来による採餌時間・空間の狭小化。

保全対策

採餌場となる自然海岸の砂浜や干潟の保全が欠かせない。

特記事項

在原業平の伊勢物語にある「都鳥」は、カモメの仲間の「ユリカモメ」とであるとされる。



コチドリ (チドリ目、チドリ科) *Charadrius dubius*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

近年、繁殖個体数が減少している。

形態

全長約16cm。頭部は白と黒の模様、背面は茶褐色。下面は白色。アイリングと足は黄色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に夏鳥として渡来・繁殖する。本州南部では一部越冬する。

県内の分布状況

夏鳥として渡来し繁殖する。時には、越冬する個体もいる。1990年代に入り、繁殖個体数が目に見えて減少している。

生態・生息環境

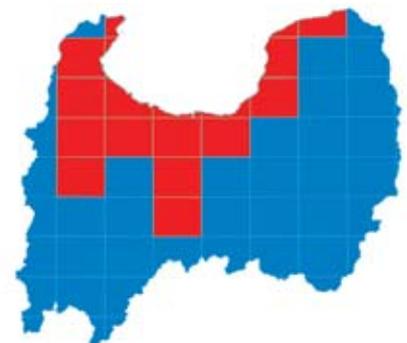
河川敷内の中州や砂利のある堤防上、整地された工事現場や宅地造成地などで繁殖する。草地ではなく砂礫地を選好する。採餌物は昆虫やクモなど。地上に浅い窪みを掘り産卵する。孵化雛は幼綿羽があり、離巢性で25～27日で独立する。1腹卵数4卵、抱卵日数22～25日。

生存への脅威

遊休地や荒地の整備、植生の遷移進行、河川敷内などの改変などで営巣環境の狭小化が懸念される。

保全対策

営巣環境の砂礫地の保全。



イカルチドリ (チドリ目、チドリ科) *Charadrius placidus*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1級河川の河川改修が進み、繁殖環境が劣化し生息数が減少。

形態

全長約21cm。上面は淡褐色で下面は白色。黒色の胸帯はコチドリより細い。足は淡黄色。

国内の分布状況

北海道以南で繁殖。寒冷地の多くの個体は冬期、温暖な地域へ漂行する。

県内の分布記録

小河川より河川敷の広い1級河川などに広く生息するが、氾濫原が狭小化し生息数は減っている。生コン工場の土砂置場の砂利で繁殖するものもある。

生態・生息環境

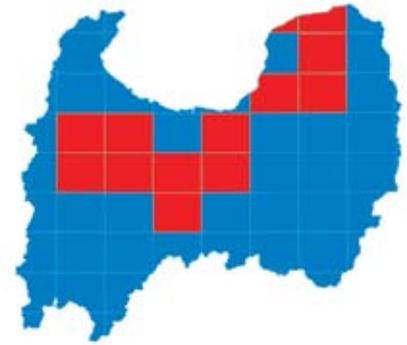
河川の中州や砂利の敷かれた堤防上で営巣する。1腹卵数は3～4個、抱卵日数27日。孵化雛は綿毛が生えており、その日のうちに歩き、離巢する。昆虫など小動物を採餌する。

生存への脅威

河川の整備が進行中で自然転石の礫が減るなど繁殖環境の劣化。容易に4輪車や、オートバイが侵入する場所もあり繁殖障害が生じている。

保全対策

繁殖が攪乱される原因となる釣り人やドライバー、散歩など人や犬が入りできないような中州が必要である。



シロチドリ (チドリ目、チドリ科) *Charadrius alexandrinus*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

海浜の砂地の減少や海岸整備により、生息環境が劣化し生息個体数が減少している。

形態

全長約18cm。雄夏羽は、眉斑が白く、前頭部と過眼線は黒色。雌と雄冬羽の頭上は灰褐色。過眼線は褐色。嘴と足は黒色系。

国内の分布状況

北海道から九州まで分布・繁殖する。本州中部以南では、少数が越冬する。

県内の分布状況

富山湾に面した海辺の砂浜、河口、埋立地などに生息する。

生態・生息環境

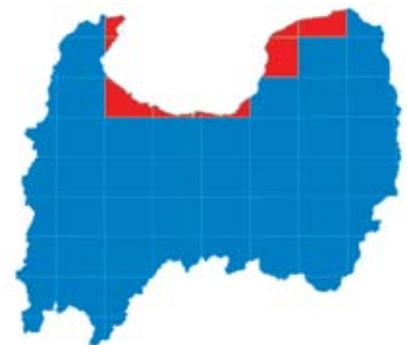
砂浜や埋立地に好んで生息する。繁殖後は群生活をするが、少数は鳥尾海岸などで越冬する。食性はハマトビムシなどの甲殻類や小昆虫、クモなどを採餌する。巣は砂地の草や漂流物の間に窪みを掘り作る。孵化雛は幼綿羽が生えており、自力で離巢し約1ヶ月で独立する。1腹卵数約3卵、抱卵日数24～27日。

生存への脅威

浜辺の散策人や釣り人の増加による繁殖攪乱や踏み潰し、犬猫に雛が捕食されるなど静謐な繁殖環境が攪乱されている。

保全対策

人間活動と生息環境の保全の調整。



ケリ (チドリ目、チドリ科) *Vanellus cinereus*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生息個体数が限られ、かつ、繁殖環境が不安定であり減少が懸念される。

形態

全長約36cm。足の長い大型チドリ。頭部や胸は青灰色、背面は茶褐色。腹部は白色で胸との境は黒色。飛翔時は翼に白・黒・褐色の特徴ある斑がでる。嘴と足は黄色。

国内の分布状況

主に本州中部以北に夏鳥として飛来し、兵庫県周辺を南限として繁殖する。四国、九州にも冬期飛来する。いずれの地でも局地的な分布を示す。

県内の分布状況

県内では、農耕地や荒地、遊休地など平坦で開けた環境に生息するが、分布は局地的。特に、滑川市郊外、富山市北部地域から富山新港後背地周辺でよく見られる。冬期は温暖な地へ漂行するが、富山市北部地域では小群で越冬している。

生態・生息環境

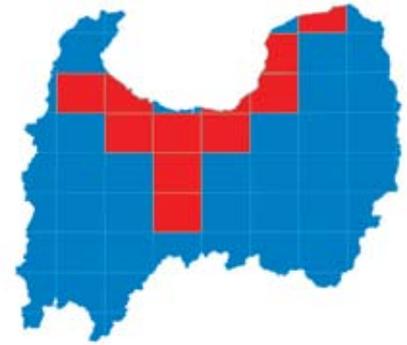
草地や農耕地を歩行しながら昆虫や植物の種子などを採餌する。移動の時期には数羽から数10羽の群で見られる。営巣期は特に警戒性が強く、侵入者には、舞い立ちキリリ、キリリと耳を裂くような大声を発しながら旋回する。地上営巣で雛は幼綿羽におおわれ、間もなく自分で離巣し採餌する。1腹卵数約4卵、抱卵日数27～30日。

生存への脅威

造成地や放棄田、遊休地、工場内敷地といった環境が営巣地となっており、繁殖地としては不安定な環境である。

保全対策

繁殖地や採餌地の環境の保全。



イソシギ (チドリ目、シギ科) *Actitis hypoleucos*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

繁殖個体数が減少した。

形態

全長約20cm。上面が灰黒褐色で肩斑は白色。顔から胸にかけ褐色の縦斑がある。下面は白色で、白色部が翼のつけ根までくいこんでいる。足は黄褐色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に夏鳥として渡来し繁殖する。本州中部以南では越冬する個体もいる。

県内の分布状況

県内各地の水辺に生息するが、生息個体数は少ない。冬期には少数が越冬する。

生態・生息環境

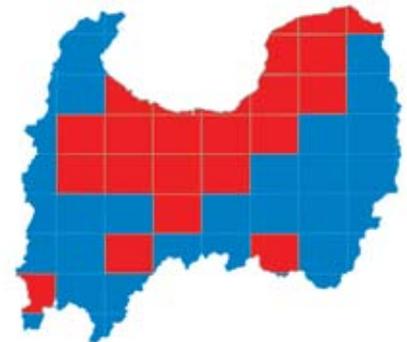
河川や湖沼（山地帯の有峰湖や桂湖）、海浜などに生息するが、生息個体数は限られる。河川では、草地より礫や砂泥のある河原の発達した中流域を好み繁殖している。採餌物は小昆虫や水生昆虫の幼虫など。地上では尾を上下に振る。巣は地上に浅い窪みを掘り枯れ葉などで皿状につくる。1腹卵数3～4卵、抱卵日数22～25日。

生存への脅威

河川改修や河川敷内への人や車の乗り入れで、繁殖に影響が出ている。

保全対策

河川改修など環境改変にあたっては、生態系の保全に配慮した工法などの検討が望まれる。



セイタカシギ (チドリ目、セイタカシギ科) *Himantopus himantops*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

南方系の水鳥で、日本で分布定着を図っている注目種である。

形態

全長約37cm。非常に長い足と細い嘴をもつ。背面が黒く、下面は白色。足と虹彩は赤色。

国内の分布状況

主に旅鳥として1970年代頃より各地の干潟、河口、水田、湿地などに渡来するようになった。千葉県や愛知県などでは繁殖している。

県内の分布状況

散発的に富山市や射水市、氷見市、滑川市など海浜に近い湿地や水田に単独または数羽の群れで飛来し、数日間滞在する。春先の水田の代掻きシーズンに飛来することが多い。

生態・生息環境

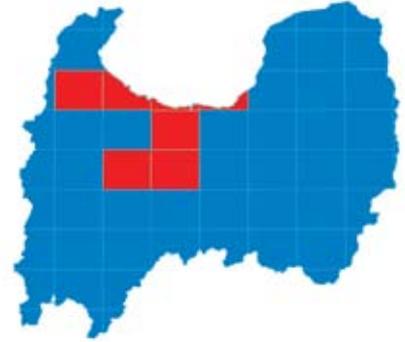
かつて稀な渡り鳥であったが、現在は留鳥の地域も増えた。1腹卵数3～4卵、放卵日数22～25日、巣立ち雛の世話は28～32日。

生存への脅威

湿地や干潟などの生息環境の消失や乾田化、遊休地の運用による環境変化。

保全対策

本県には干潟のような環境はないが、渡来地となっている湿田や河川敷の存在は、保全対策として重要である。



オオコノハズク (フクロウ目、フクロウ科) *Otus lempiji*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

近年、減少傾向にある。

形態

全長23cm。体長は褐色で、黒色と灰白色の複雑な虫食い斑がある。頭部には大きな羽角がある。虹彩はオレンジ色（時に、亜種サメイロオオコノハズクと思われる山吹色の個体がいる）。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

平地から低山帯の林地に生息する。秋から春には、農耕地や市街地でも見ることがある。1980年代までは普通種であったが、近年は目撃情報が減少している。

生態・生息環境

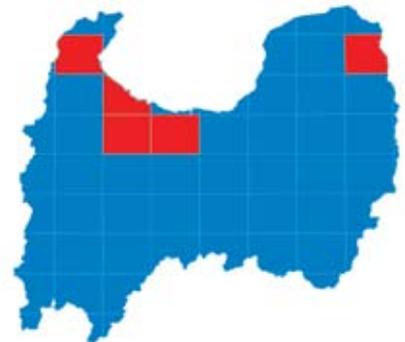
平地では、公園や社寺林、屋敷林などに生息する。日中は、茂った木に止り休息している。夜行性でネズミや小鳥、昆虫などを採餌する。巣は樹洞を利用する。1腹卵数4～5卵。抱卵や育離日数に関する詳細は不明。

生存への脅威

人里の大径木の減少や里山のスギ植林により、繁殖環境が狭小化している。

保全対策

樹洞を有する大径木の保全、巣箱架設による営巣支援。



アカショウビン (ブッポウソウ目、カワセミ科) *Halcyon coromanda*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

溪畔のよく発達した森林に繁殖する。生息個体数は少ない。

形態

全長約28cm。全体ほぼ赤褐色の鳥。嘴は巨大で足と共に赤色。腰に水色の羽毛がある。虹彩は暗褐色。足趾は合趾足。

国内の分布状況

夏鳥として北海道から南西諸島まで広く渡来し繁殖する。

県内の分布状況

低山から山地の広葉樹林帯などで繁殖する。渡りの時期には、平地や丘陵でも見かける。

生態・生息環境

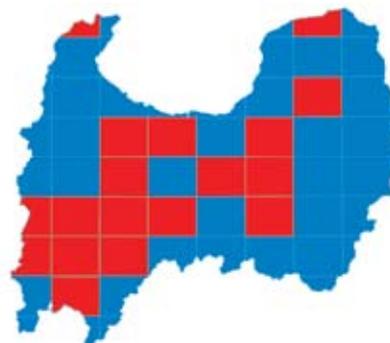
庄川や小矢部川上流の溪流・細流のよく生育した広葉樹林や県内山間地の森林に囲まれた溪流・溜池・池沼のある環境などに生息する。早朝や夕方に囀るが、曇天や雨天には日中も鳴く。採餌物はカエル、カタツムリ、サンショウウオ、小魚、オタマジャクシのほか昆虫など。巣は樹洞・崖の洞のほかキイロスズメバチの古巣や朽ち木・土壁などに自分で掘る。1腹卵数5～6卵、抱卵日数約21日、巣内育雛約17日。

生存への脅威

山間地のスギの植林による林種転換で、生息環境が減少している。

保全対策

溪畔、湖畔などの生物多様性の高い森林の保全。



カワセミ (ブッポウソウ目、カワセミ科) *Alcedo atthis*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

平地の水辺の環境指標鳥であり、生息個体数が激減していたが、近年は復元しつつある。

形態

全長約17cm。体に比べ頭や嘴が大きい。上面は金属光沢のある緑色で背から尾まではコバルト色。胸から上腹は橙色。雄の嘴は黒色、雌は下嘴の基部が赤い。

国内の分布状況

全国に分布する。北海道や北日本で繁殖する個体の多くは夏鳥で、冬期は温暖な地方に漂行する。

県内の分布状況

平地から低山の河川や池沼、都市公園の堀などで見ることができる。1960年代から1970年代頃には、農業や公害などで水質が悪化し、壊滅的に減少し絶滅寸前となったが、その後、徐々に生息数の回復の兆しがみられる。

生態・生息環境

採餌物は3～7cmの魚類やエビなど甲殻類、水生昆虫、カエルなどで、止まり木に強く叩き一息に呑み込む。不消化物をペリットとして吐き出すのはカワセミ科共通にみられる。

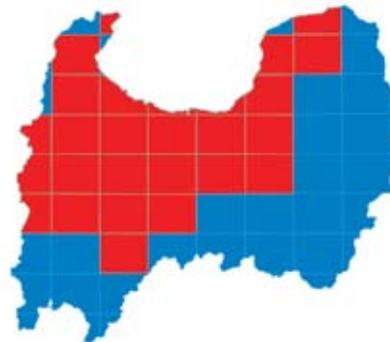
水見市灘浦海岸では、海岸のテトラポット上から採餌するのが観察された。繁殖期には山間地にも飛来し、土質の崖に嘴で穴を掘り営巣する。1腹卵数4～7卵、抱卵日数約19日、巣内育雛約23日。

生存への脅威

小川の改修、護岸工事により採餌物や繁殖場所が減少している。

保全対策

水質汚濁防止、水辺の保全や復元・創出、採餌ポストの設置。



サンショウクイ (スズメ目、サンショウクイ科) *Pericrocotus divaricatus*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国的に減少している種。

形態

全長約20cm。体形は細く、尾は長い。背面は灰色。雄の額は白く、頭頂から後頸・過眼線が黒色。雌は過眼線のみ黒色。飛翔時は翼に白帯がでる。

国内の分布状況

本州以南に夏鳥として渡来し繁殖する。近年、特に関東地方を中心に繁殖個体群が減少した。

県内の分布状況

夏鳥として丘陵から山地に渡来し繁殖する。1960年代には渡りの時期に、市街地の公園や庭先にも渡来したが、近頃は少ない。

生態・生息環境

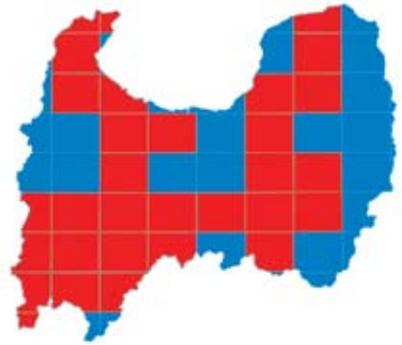
落葉広葉樹林を好む。4月中旬頃より“ビリリイ”とか“ヒリヒリン”の特徴ある鳴き声により渡来が知れる。渡去は早く、9頃にはほぼ終了する。飛行中に飛びつき捕まえたり、ホバリングしてクモなどを採餌したりする。高木の上部の枝に営巣する。1腹卵数4～5卵、抱卵日数17～18日、巣内育雛約14日。

生存への脅威

都市化の進行で広葉樹の高木が減少し、繁殖環境が劣化している。

保全対策

成熟した広葉樹の保全。



コサメビタキ (スズメ目、ヒタキ科) *Muscicapa dauurica dauurica*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

繁殖個体数が減少している。

形態

全体約13cm。上面灰褐色、下面灰白色。胸に不明瞭な縦斑がある。アイリングと眼先が白い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に夏鳥として渡来し繁殖する。

県内の分布状況

丘陵地から山麓、低山の森林に生息する。1950年代から1980年代頃までは普通に見られたが、近年は個体数が減少し丘陵地での繁殖期の記録は少ない。

生態・生息環境

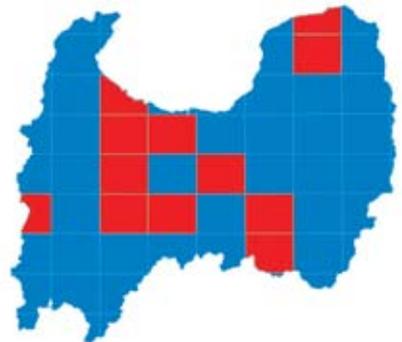
平地から低山の雑木林や落葉広葉樹林などに生息する。渡りの時期には、都市の公園や屋敷林などにも出現する。飛ぶ昆虫をフライングキャッチし採餌する。かつて、二上山麓（近年は、1998年五十里地内での繁殖記録あり）や朝日町宮崎、立山町千寿ヶ原など低山帯で繁殖した。高木の横枝にウメノキゴケなどで覆った椀形の巣を作る。1腹卵数4～5卵、抱卵日数12～14日、巣内育雛12～14日。

生存への脅威

減少した原因は不詳ではあるが、同じ夏鳥のオオルリ、キビタキに比べ繁殖個体の減少が著しい。繁殖分布の把握が必要である。

保全対策

繁殖環境である里山の森林や社寺林、屋敷林など低地の林の保全。



サンコウチョウ (スズメ目、カササギヒタキ科) *Terpsiphone atroudata*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

繁殖個体群が全国的に減少している。

形態

全長約17.5cm (雌)、約44.5cm (雄)。頭上に冠羽があり、アイリングと嘴色はコバルトブルー。雄の尾は顕著に長い。頭上から頸、胸までと尾羽は紫黒色、背面は紫褐色。

雌の背面は茶褐色。雌雄とも腹面は白色。

国内の分布状況

本州、四国、九州に夏鳥として渡来し繁殖する。繁殖個体数が減少していたが、近年やや回復傾向にある。

県内の分布状況

山麓から山地帯に分布する。1960年代までは、氷見市や朝日町の山麓などではよく観察されたが、その後減少し分布は局地化していたが、近年は全体的にやや増えてきている。

生態・生息環境

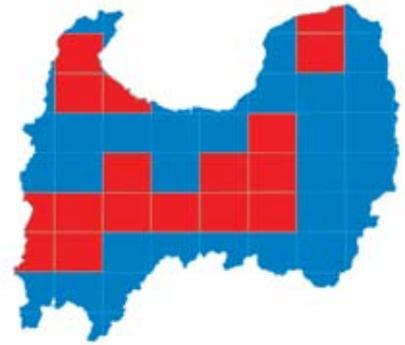
溪流の付近のよく茂ったスギ林とホウノキのような広葉樹の混ざったやや暗い混交林を好む。飛翔性の昆虫をフライングキャッチして捕食する。営巣は細い枝の上にクモの巣を使用し、スギ皮やコケ類をとめカップ状の巣を作る。産卵期5～7月、1腹卵数3～5卵、抱卵日数12～14日、巢内育雛10～12日。

生存への脅威

繁殖地の森林伐採のほか越冬国における森林（生息環境）の改変などが危惧される。

保全対策

放置されたスギ造林地の適正な管理、隣接の落葉広葉樹の保全。河畔の昆虫多様性の確保。



ホオアカ (スズメ目、ホオジロ科) *Emberiza fucata*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境の改変がおこなわれやすく、繁殖個体群も少ない。

形態

全長約16cm。雄は頭上から後頸が灰色。胸に黒と褐色の2本の横帯がある。頬は赤褐色。雌は色が浅い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に夏鳥として渡来・繁殖する。本州西南部より南では越冬する個体もいる。

県内の分布状況

夏鳥として平地の河川、牧場周辺に渡来し、局地的に繁殖する。一部は越冬する個体もある。河川の堤防の草刈りが一定の間隔で繰り返し行われるため、繁殖障害となっている。

生態・生息環境

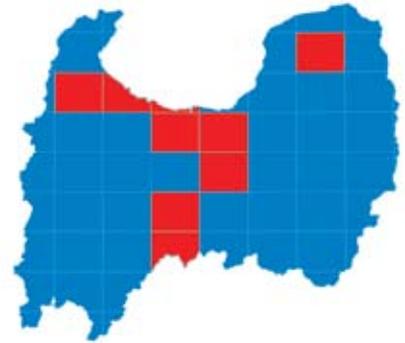
県内の低木や藪のまばらな堤防敷、草原、放牧場などに少数が生息する。草の種子や昆虫の成虫・幼虫を採餌する。草丈のやや低い乾いた場所の草むらや藪の枝に営巣する。第2繁殖することもある。産卵期5～6月、1腹卵数3～6卵、抱卵日数約14日、巢内育雛約10日。

生存への脅威

河川改修による環境変化により、繁殖環境が消失する。繁殖期の堤防の草刈りは、直接的な繁殖障害となっている。

保全対策

繁殖地の草地の保全。



ノジコ (スズメ目、ホオジロ科) *Emberiza sulphurata*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

本州で繁殖するが、近年、全国的に生息数が減少している。日本固有種。

形態

全長約14cm。頭や肩は黄緑色、背面は褐色地に黒褐色の縦斑がある。腹面は淡黄色。

アイリングは白。

国内の分布状況

本州中・北部に局地的に繁殖する。本州西南部以南の一部では越冬する。

県内の分布状況

本県には、夏鳥として低山帯に渡来する。渡りの時期には、市街地の公園や庭先などでも見られる。本県の南部、西部の山地にはやや多く繁殖しているが、婦中鳥類観測ステーションでは、近年の捕獲数が減少している。

生態・生息環境

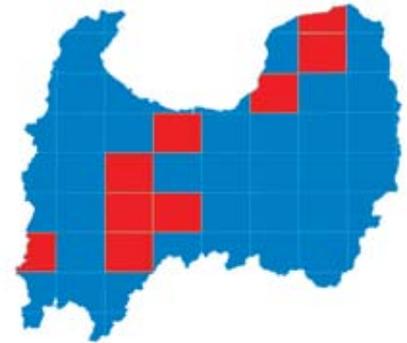
低山帯の明るい二次林、沢筋や農耕地や道路に面した緩い斜面を好む。地上で採餌することが多く、草の種子や小昆虫、その幼虫などを食べる。産卵期5～7月、1腹卵数2～5卵、抱卵日数約14日、巢内育雛7～8日。

生存への脅威

各種の林地開発やスギへの林種転換により繁殖環境が悪化している。

保全対策

生息環境の保全。



ウミウ (ペリカン目、ウ科) *Phalacrocorax capillatus*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息個体数が少ないが、情報不足のところがある。

形態

全長約84cm。カワウに似るが、口角附近の黄色裸出部の形状のほか、成鳥の体色は緑色光沢のある黒色。若鳥は褐色。

国内の分布状況

北海道・本州中部以北の島や沿岸で繁殖する。本州中部以南では冬鳥。新潟県と石川県の繁殖地では、繁殖個体群は小さく、かつ減少しているという。

県内の分布状況

県内に繁殖地はない。富山湾で観察されるが、海上で生息していることもあり詳細は不詳。

生態・生息環境

潜水性の海鳥。富山湾の岩礁やテトラポット周辺で採餌している。時には、河口周辺でも見られる。採餌物は各種魚類。

生存への脅威

魚網に巻き込まれたり、海面に漂うテグスや釣り針の被害が懸念される。

保全対策

魚類との混獲への対策。

オオヨシゴイ (コウノトリ目、サギ科) *Ixobrychus eurhythmus*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧IB類

選定理由

生息地のヨシ原の減少。全国的に個体数が減少しており、今後の調査が必要である。

形態

全長約39cm。ヨシゴイよりやや大きい。雄は頭が黒く、背中が赤褐色、風切と初列雨覆は灰黒色（ヨシゴイは黒褐色）。雌は背中に細かい白斑がある。

国内の分布状況

北海道と本州中部以北へ夏鳥として渡来。繁殖地が局所的で、個体数の減少が心配される。ほかの地域では旅鳥として稀に記録されている。

県内の分布状況

県内で散発的に記録されているが、生息状況の詳細は不明。記録として朝日町、富山市（二回）、大沢野町、射水市があり、1991年11月の富山市千原崎の記録が最近のものである。いずれも9～11月のもので県内での繁殖記録はない。

生態・生息環境

湖沼などの水辺のやや乾燥したアシ原や草原に営巣する。活発に活動するのは主に夕方から朝方までで、小魚やカエル、昆虫などを採餌する。「オウ・オウ・オウ・・・」と20回以上繰り返し鳴くが、鳴き声のテンポはヨシゴイより倍以上早いという。外敵が近づくと首を伸ばしヨシに擬態する。1腹卵数5～6卵、抱卵日数17～19日、約3週間で巣立つ。

生存への脅威

湿地の埋立てや護岸の付帯工事による広々としたヨシ原の減少が生息の圧迫要因。

保全対策

生息状況の情報収集。ヨシ、ガマなどの生育する広々とした草地の保全が欠かせない。

ウズラ (キジ目、キジ科) *Coturnix japonica*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息数の減少は明らかであるが、生息状況は不明である。

形態

全長約20cm。丸い体つき、尾は短い。体の上面は、褐色で黒と淡黄色の横斑と縦斑がある。肩斑は黄白色。雌は頭部などの色調が弱い。

国内の分布状況

夏鳥として、北海道・本州中部以北で繁殖し、西南日本では越冬する。他の地域では、渡りの時期に見られる。近年は、全国的に減少しているとされるが、実態は不明である。

県内の分布状況

平地から丘陵地に生息する。狩猟鳥としてハンターに捕獲されていたが、近年は目撃情報も稀となった。1950年代には、繁殖期に庄川河川敷でさえずりが記録されている。

生態・生息環境

農耕地や河川敷などの草むらで生活する。地上を歩きながら、草本の種子や小昆虫を採餌する。雛は幼綿羽に覆われ、孵化間もなく離巢する。1腹卵数5～12卵、抱卵日数16～21日。

生存への脅威

河川敷などの草地環境が変わり、県内の繁殖個体群は消失したと考えられる。

保全対策

草地環境の保全と生息現況の把握が必要である。狩猟鳥からの除外が望ましい。

オオジシギ (チドリ目、シギ科) *Gallinago hardwickii*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

繁殖期のフライトディスプレイが海辺に近い富山市内で確認され、繁殖が予測されたことがある。全国的に減少している。日本固有種。

形態

全長約30cm。タシギよりやや大型で淡色。8cm近くの長い嘴をもつ。尾羽は16～18枚。

国内の分布状況

夏鳥として渡来し、北海道や東北地方では平地、本州中部では、海辺に近い牧草地や埋立地、高原に生息する。

県内の分布状況

繁殖行動が確認された海岸近くの草地があるが、その後の情報は無い。渡りの時期には、平野部の水田跡で見られるが少ない。

生態・生息環境

水田や河川敷の砂泥地で見られる。繁殖行動が記録されたのは、工場敷地内の広い草地である。採餌物は昆虫の幼虫やミミズなど。1腹卵数4卵、抱卵期など詳細は不明。

生存への脅威

工場敷地内の繁殖の詳細は不明。整地されるなどし、将来の期待はない。県内では湿地埋立てや草地開発、乾田化事業により生息環境が劣化している。

保全対策

湿地や草地など生息環境の保全。

アジサシ (チドリ目、カモメ科) *Sterna hirundo*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

繁殖個体群の今後の調査が必要である。

形態

全長約35.5cm。背面は灰色、腹面と尾は白色。嘴と足は黒色（稀に足の赤い別亜種のアカアシアジサシ*S.h.minussensis*がいる）。夏羽は頭上が黒色、冬羽は額が白色。

国内の分布状況

旅鳥として渡りの時期に、全国のおよそ海辺、干潟、河口に群れで渡来する。まれに越夏し、黒部川河口、東京湾での繁殖例がある。

県内の分布状況

渡りの時期に多数が通過する。数100羽の群も観察できる。通常、大陸の中緯度地方で繁殖するが、黒部川河口ではコアジサシに混じり、1993年以降数個体レベルで越夏し、繁殖活動が見られる年もある。2001年7月にも幼鳥1羽への給餌活動が観察されている。不定期で偶発的な繁殖 (*Casual breeder*) なのか、今後の状況を見守りたい。

生態・生息環境

海浜や大きな河川、海に近い水田などに現れる。数米の高さからホバリングを繰り返し、水中の小魚などをダイビングして採餌する。巣は河口の地上につくる。1腹卵数1～3卵、抱卵日数21～22日。

生存への脅威

カラスやトビ、犬猫、四輪駆動車、釣り人、散策する人などの侵入により繁殖環境が攪乱されている。

保全対策

自然に堆積した砂礫中州の保全。人の立入規制。

ウミガラス (チドリ目、ウミスズメ科) *Uria aalge*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

選定理由

近年の県内の記録はほとんどなく、生息状況は不明である。

形態

全長約44cm。ウミスズメの仲間の最大種。嘴と頸は長い。上面は黒褐色、下面は白い。冬羽には、目の後方に1本の黒線が走る。

国内の分布状況

北海道の天売島とモユルリ島で繁殖する。冬鳥として主に本州中部の沿岸まで見られる。天売島には1963年頃に8000羽いたものが、1987年には160羽となり、現在は繁殖の有無が危惧されている。

県内の分布状況

1970年代頃までは富山湾内でよく観察できた。近年の正確な記録はない。

生態・生息環境

潜水性の海鳥。海上を浮遊しながら潜水し、魚類などを採餌する。潜水時間は30秒を越すこともある。鳴き声からオロロン鳥と呼ばれていた。

生存への脅威

刺し網やはえ縄漁による混獲や重油流出、レジンベレットなど海洋汚染が指摘される。

保全対策

魚類との混獲や海洋汚染への一層の対策が必要である。

特記事項

天売島はウミガラスなど海鳥繁殖地として北太平洋西岸の繁殖南限に位置し、国指定天然記念物。

マダラウミスズメ (チドリ目、ウミスズメ科) *Brachyramphus marmoratus*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

近年の記録は少なく、生息情報は不十分である。

形態

全長約25cm。嘴が黒く比較的長い。上面は黒褐色、下面は白色。夏羽は下面に褐色の鱗状模様がある。

国内の分布状況

主に本州中部の沿岸以北の海上に冬鳥として渡来する。少数は北海道東部で繁殖する。

県内の分布状況

富山湾沿岸に渡来するが、1960年代～1980年代に比べ、出会い記録は激減した。

生態・生息環境

沿岸性の海鳥で単独か2羽で生活することが多く、甲殻類や小魚などを採餌する。

生存への脅威

刺し網やはえ縄漁による混獲や重油流出、レジンベレットなど海洋汚染が指摘される。

保全対策

魚類との混獲や海洋汚染への一層の対策が必要である。

ウミスズメ (チドリ目、ウミスズメ科) *Synthliboramphus antiquus*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

選定理由

近年、減少しているが、生息情報が不十分である。

形態

全長約26cm。嘴は短く黄白色。体の上面は灰黒色、下面は白色。夏羽では目の上から後頭に白色飾り羽がある。

国内の分布状況

北海道沿岸の島などで繁殖し、冬は全国の沿岸に渡来する。

県内の分布状況

冬鳥として富山湾に渡来するが、個体数は少ない。1960年代までは、沿岸に普通種として生息していたが、以降漸減してきた。

生態・生息環境

海浜より沖合いを好むが、漁港内や神通川・庄川など大河川の下流域にも現われる。小群で生活し、潜水しながら甲殻類や小型の魚類などを採餌する。

生存への脅威

刺し網やはえ縄漁による混獲、重油流出、レジンベレットなど海洋汚染が指摘される。

保全対策

魚類との混獲や海洋汚染への一層の対策が必要である。

特記事項

富山湾に渡来するウトウ、ケイマフリ、コウミスズメ、エトロフウミスズメなどウミスズメ科の海鳥は、情報不足ではあるが、生息状況がいずれもウミスズメと同傾向にあると考えられる。

カムリウミスズメ (チドリ目、ウミスズメ科) *Synthliboramphus wumizusume*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

近年、減少が危惧されているが、生息情報が不足している。日本固有種。

形態

全長約24cm。体の上面は灰黒色、下面は白色。夏羽頭上には冠羽がある。嘴は青黒色。

国内の分布状況

日本列島と韓国南部の離島で繁殖するウミスズメの仲間。本州中部以南の岩礁や離島で繁殖するが、富山湾に近い輪島市七ツ島では荒三子島のみが繁殖地と推定されている。

県内の分布状況

富山湾や小矢部川での数回の観察記録があるが、生息個体数は少ない。

生態・生息環境

海上を泳いだり海中に潜ったりして、オキアミなど甲殻類や小魚などを採餌する。巣は3月～4月に岩の割れ目、隙間、草の根元などの地上に作る。

生存への脅威

生息域での刺し網などによる混獲や重油流出、レジンベレットなど海洋汚染による支障が危惧される。繁殖地では釣り人やネズミなどの被害問題がある。

保全対策

繁殖地の保全対策と共に、混獲や海洋汚染への一層の対策が必要である。

特記事項

国指定天然記念物。

ヤイロチョウ (スズメ目、ヤイロチョウ科) *Pitta brachyura*富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類**選定理由**

近年渡来記録が散見されるが、生息状況は不十分である。

形態

全長18cm。丸みを帯びた体形で尾は短い。頭中央線と過眼線は黒色。翼に光沢のある緑色や青色、腹の中央部は赤色で非常に美しい鳥。

国内分布状況

夏鳥として5月中旬に、本州中部以南に飛来する。生息環境は主に常緑広葉樹林。長野県が最北の繁殖地となっている。

県内の分布記録

県西部の砺波市、富山市（婦中町、大沢野町）で数回の記録があり、いずれも特徴ある声や姿が確認され、婦中町では撮影もされている。数日で飛去している。

生態・生息環境

低山帯の常緑広葉樹林に生息し、広い縄張りをもつ。落葉下のクモ、小昆虫、ミミズなどを採餌する。営巣場所は木の根元や木の上。枝上や倒木の上で「ホーヘン、ホーヘン」とよく通る声でさえずる。1腹卵数は4～6卵、放卵日数14～16日、巢内育雛14～16日。

生存への脅威

繁殖地での伐採。フォトマニアなど人の林内への立ち入りによる営巣攪乱。

保全対策

繁殖している森林一帯の保全。

特記事項

国内希少野生動物種。

コシアカツバメ (スズメ目、ツバメ科) *Hirundo daurica*富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

近年、生息数が減少している。

形態

全長約19cm。ツバメよりやや大きい。淡いバフ白色の下面に黒褐色の細い縦斑が密にある。腰は橙色（幼鳥の腰は白色）。

国内の分布状況

夏鳥として北海道以南に飛来する。四国・九州では越冬例がある。農村より市街地に多い。全国的に減少傾向にあるとされる。

県内の分布記録

コンクリート製の構造物に営巣する。県東部より県西部に多くみられるが、近年、飛来数もすくなく、天敵による繁殖に失敗する例が多い。大山町の山間地のホテルにも集団で繁殖していたことがある。ツバメより遅れて飛来する。都市型のツバメで、木造家屋には営巣せず、コンクリートの壁面に入口のある徳利を半分に割った形状の巣を取り付ける。1腹卵数4～6卵、巢内育雛28～31日。

生存への脅威

スズメが格好な営巣場所として乗っ取ることが多い。毎年、同じ場所で繰り返すので、地域的には繁殖に重大な影響を受けることになる。また、カラスが飛来し雛を採餌することもこの鳥の学習能力を考えると脅威となっている。

保全対策

スズメの営巣対策とカラスの飛来対策の工夫。

ツリスガラ (スズメ目、ツリスガラ科) *Remiz pendulinus*富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

希少な鳥であるが、生息情報が不足している。

形態

全長約11cm。夏羽は背面が茶褐色。雄の頭上は灰色、白い眉と黒色の過眼線がある。雌は頭上や過眼線も褐色。冬羽は全体淡色。嘴は鉛色で小さく尖る。

国内の分布状況

冬鳥として主に西南日本に渡来、越冬する。近年、渡来地は拡大しているが、渡来数には年変化があり、不定期な遊牧移動する鳥と考えられる。

県内の分布状況

海岸近くの埋立地や神通川河畔、黒部市立野地内などのヨシ原に渡来する。1988年に新湊市新湊西埋立地で渡来が初記録されて以降見られるが、近年記録のない年もある。分布状況は不詳。

生態・生息環境

ヨシやススキの草原で茎を小群で伝いながら葉鞘を剥がして、小昆虫やクモ、種子を採餌する。地鳴きはツイーとかチーとメジロに似る。

生存への脅威

生息状況の詳細が不明なので、情報収集が必要である。

保全対策

ヨシやガマなどの高茎植生の保全。

キバシリ (スズメ目、キバシリ科) *Certhia familiaris*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

繁殖個体群は少なく、かつ、生息情報は不十分である。

形態

全長約14cm。上面は茶褐色で白い縦斑がある。肩斑と下面は白色。尾は褐色でやや長く、羽先は尖りくさび形。嘴は細く下湾している。

国内の分布状況

留鳥として北海道、本州や四国の山地から亜高山帯にかけての大径木のある森林に生息する。

県内の分布状況

山地から亜高山帯に生息するが、生息数は少ない。立山山麓から薬師岳などの北アルプスや南砺市平（標高550m）の山地でも記録されている。春、秋の移動の時期には射水丘陵にも飛来することがある。

生態・生息環境

大径木が多く生育し、霧のかかる山地を好む。樹幹の下から上へとジグザグや螺旋を描いて登り、隠れている虫などを採餌する。採餌物は小昆虫やクモなど。巣は樹洞や幹の裂目などを利用する。産卵期3～6月、1腹卵数4～5卵、抱卵日数14～15日、巢内育雛14～15日。

生存への脅威

山地の森林伐採により生息域が狭められている。

保全対策

生息地の森林の保全。

コジュリン (スズメ目、ホオジロ科) *Emberiza yessoensis*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

繁殖や越冬記録のある希少な鳥。引き続き情報収集が必要である。

形態

全長約15cm。夏羽雄は頭部黒色、雌は茶褐色。背面赤褐色。冬羽雄は雌に似る。

国内の分布状況

本州と九州の一部で局地的に繁殖する。冬期は本州などの河川敷や沿岸地帯で生活する。

県内の分布状況

海辺に近い埋立地や河川下流に生息するが、個体数は少ない。

生態・生息環境

富山新港埋立地周辺や神通川・庄川下流域で記録された。丈の比較的低い草地で繁殖し、新湊市越の潟埋立地では1988年に繁殖行動が観察されている。草の間の地上で小昆虫やクモ、草の種子を採餌する。第2繁殖も知られる。1腹卵数3～5卵、抱卵日数12～14日、巢内育雛10～12日。

生存への脅威

埋立地や河川敷などの整備が進み、繁殖・生息環境が狭小化している。

保全対策

生息環境の保全。

カササギ (スズメ目、カラス科) *Pica pica*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

希少な鳥で、散発的な記録があるが、生息状況は不明である。

形態

全長約45cm。体色は緑色や紫色光沢のある黒色で、肩羽、腹、初列風切は白い。尾は長くスマート。

国内の分布状況

九州に留鳥として生息し繁殖する。日本海側の各県で観察されており、新潟県、長野県では繁殖記録がある。

県内の分布状況

1985年12月に、新湊市で県内初記録された。2009年2月立山町で観察された間に、散発的な幾例もの記録があるが、生息状況の詳細は不明。繁殖の記録はない。

生態・生息環境

海岸近くの農耕地、社寺境内、学校校庭、村落、市街地などで記録されている。地上や樹上で生活し、食性は昆虫や果実などの雑食性。第2繁殖も知られる。

生存への脅威

引き続き情報収集が必要である。

保全対策

当面、情報収集が必要である。

= 参考文献 =

公表されている鳥類の観察記録の多い公益財団法人日本鳥類保護連盟富山県支部の「らいちょう」、日本野鳥の会富山の「愛鳥」、自然博物館ねいの里の「ねいの里だより」のほか参考としたおもな文献は、次の通りである。

なお、下記のほか関係者らの多くの未公表データ並びにかかわりのあると考えた情報・資料も選択し参考とさせて頂いた。

- 1) 朝比奈正次郎・今泉吉典・上野俊一・黒田長久・中村守純（監・執），1992. レッドデータアニマルズ. JICC出版局，東京.
- 2) 穴田哲，1996. 有峰の鳥類. 常願寺川流域（有峰地域）自然環境調査報告. 富山市科学文化センター.
- 3) 石川県野生動物保護対策調査会，2009. 改訂. 石川県の絶滅のおそれのある野生生物. 石川県.
- 4) 植木忠夫，1957. 有峰の動物. 有峰を探る. 上新川郡文化協会ほか. 北日本新聞社.
- 5) 植木忠夫，1961. 有峰の自然を探る. 日本陸水学会北陸支部.
- 6) 植木忠夫，1962. 立山一称名滝とその溪流を探る. 日本陸水学会北陸支部.
- 7) 環境庁，1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物. (財)日本野生生物研究センター.
- 8) (財)日本野鳥の会富山，2007. 調査資料報告書.
- 9) 砺波市，2010. 砺波市の絶滅のおそれのある野生生物
- 10) 富山県，1976. 立山黒部地区学術調査報告.
- 11) 富山県，1993. 富山県自然環境指針.
- 12) 富山県，1995. 立山カルデラ自然環境基礎調査報告書.
- 13) 富山県，1999. 立山地区動植物多様性調査報告書.
- 14) 富山県自然保護課，1977. とやまの野生鳥獣. 富山県.
- 15) 富山県自然保護課，1980. 富山県の鳥獣. 富山県.
- 16) 富山県農地林務部，1970. 越中の野生鳥獣. 富山県.
- 17) 富山県野鳥保護の会（編），1989. 富山県の鳥類.
- 18) 中村登流，1995. 日本野鳥生態図鑑. 保育社，東京都.
- 19) 新潟環境企画課，2001. レッドデータブックにいがた. 新潟県.
- 20) 下山喜太郎，1963. 称名溪谷を中心とする鳥類の分布と生態. 立山一称名滝とその溪谷を探る - 立山・称名滝総合学術調査団. 富山新聞社.
- 21) 日本鳥学会，2000. 日本鳥類目録，改訂第6版.
- 22) 広瀬 誠，1966. 越中の動物たち. 信濃，第18巻 第1号.
- 23) 安田 健，2001. 鳥獣の古い記録を訪ねて. 山階鳥研NEWS. (財)山階鳥類研究所広報室.
- 24) 湯浅純孝，1992. 日本野生動物. アニマ，No242. 平凡社，東京都.
- 25) 林野庁，1969. 鳥獣行政のあゆみ. 林野弘済会.

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.4 爬虫類・両生類

6.4 爬虫類・両生類

(1) 県内の爬虫類・両生類相の概要

①爬虫類

富山県に生息する陸生爬虫類は外来種を含め15種が知られ、日本で知られている陸生爬虫類75種のうち20%を占める。外来種はアカミミガメ1種が生息する（カミツキガメとワニガメは記録のみである）。爬虫類は、身近にいる動物であるが、確認しにくいこともあり県内での記録は少なく、繁殖時期や繁殖場所等の生息状況はよく分かっていない。

②両生類

富山県に生息する両生類は外来種を含め19種が知られ、日本で知られている67種のうち、28.4%を占める。外来種はウシガエルの1種である。

県内の両生類は、多くは日本に広く分布する種であるが、本州の特定地域に生息し、富山県がその分布域にはいる種もいる。ホクリクサンショウウオとハクバサンショウウオは本州中部の日本海側の狭い範囲に分布し、ナガレヒキガエルとナガレタゴガエルは本州中西部に生息する種である。

(2) 選定の考え方

富山県に生息する爬虫類や両生類の生存を危うくする要因は、生息環境の悪化・破壊に他ならない。大規模なゴルフ場や企業団地の設置、宅地開発、河川改修だけでなく、小さな開発（ため池の埋め立て、農業用水路の改修、道路や空き地の舗装化等）の積み重ねが多く、多くの種の行動域や繁殖場所を奪っている。また、近年ではインターネットによる販売も問題になっている。

従って、種の分布特性、過去の記録と現在の生息状況との比較、将来の予測などを踏まえ、更にワーキンググループの意見により種とカテゴリーの選定をおこなった。

(3) 選定対象種、和名、学名等

前回の選定9種に2種（ヒダサンショウウオとトノサマガエル）を追加した。前回と今回も選定した種のうち、ホクリクサンショウウオは前回より生息状況がさらに悪化し、危機的な状況と言える。追加種のヒダサンショウウオは小さな谷川で産卵するが、砂防堰堤の増加のため、産卵場所と生息地が減少している。水田の代表的なカエルのトノサマガエルは平野部で生息環境悪化のため激減していると考えられる。

日本産両生爬虫類の種数、和名及び学名は日本爬虫類両生類学会の日本産爬虫両生類標準和名による。

ホクリクサンショウウオ (サンショウウオ目、サンショウウオ科) *Hynobius takedai*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

富山・石川両県にのみ生息し、県内の生息地点の多くで環境の悪化と個体数の減少が見られる。

形態

全長10～11cm。背面の体色は、オスは黒褐色、メスは黄褐色で不明瞭な斑紋が散在する。鋤骨歯列は浅いU字又はV字型。肋条数は通常12本。前肢と後肢を体側に沿って曲げると指間に0.5～2肋皺分の隙間ができる。後肢は5指性。繁殖期にはオスの尾は鱗状になる。卵のう外皮には縦の条線がない。

国内の分布状況

富山県西部と能登半島を中心とした石川県。日本固有種。

県内の分布状況

県西部の丘陵地で生息が確認されている。何れの生息地も繁殖個体群は小さく、土地開発や里山の水田の放棄が進み繁殖池や溝の破壊により消滅した生息地がある。

生態・生息環境

夏緑広葉樹の二次林とスギ人工林等に生息し、繁殖は丘陵の谷にある池や湿地、水田の溝、林道の側溝などの緩やかな流れの中が産卵場所となっている。成体は倒木や岩石の下、落葉の下で生活する。富山県の産卵盛期は2～3月で、1腹卵数は平均80個ほどで、40～110個程の範囲にある。幼生の多くは夏に幼体となるが、越年する個体もいる。早いものは3年で成体となる。

生存への脅威

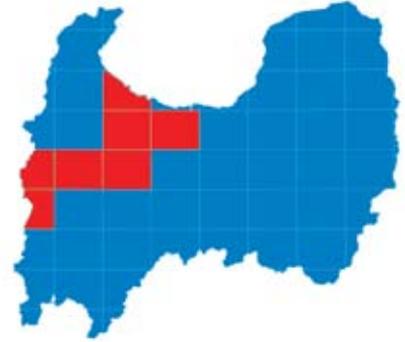
県内の生息地は丘陵地であり、ゴルフ場や道路建設、宅地や農地の開発、里山の水田の放棄、ゴミの不法投棄等により生息環境が急激に悪化している。

保全対策

生息地の森林の保全、繁殖場所のため池や水田の溝で産卵しやすいような環境復元を図り、種の保続に努めることが急務である。なお、県内では、富山県自然博物館ねいの里、富山市ファミリーパーク、高岡龍谷高等学校理科部によりホクリクサンショウウオの保護活動が行われている。

特記事項

日本産の小型サンショウウオ類(サンショウウオ科)は種分化が著しく、日本各地に固有の種が分布している。本種も富山・石川の両県の狭い分布域で、特に止水性のサンショウウオ類の進化を探るうえで重要な種である。



ハクバサンショウウオ (サンショウウオ目、サンショウウオ科) *Hynobius hidamontanus*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

前回の選定では、ヤマサンショウウオ *Hynobius tenuis* とされたが、遺伝子研究に基づきハクバサンショウウオと同一種とされ、今回の選定よりハクバサンショウウオとして扱う。

ハクバサンショウウオは、中部地方の極めて限られた地域に限られ、県内の生息地の環境が悪化している。

形態

全長約8cm。背面は紫がかかった暗褐色で淡黄色の小斑点が密布する。鋤骨歯列はV字型。前肢と後肢を体側に沿って曲げると指間に1.5～2肋皺分の隙間ができる。後肢は4指性。卵のう外皮に縦の条線はない。

国内の分布状況

長野県白馬地方、富山県南部、岐阜県北部の山地に生息している。日本固有種。

県内の分布状況

現在知られる県内の生息地は、県南部、東部の山地である。

生態・生息環境

県内の産卵期は4～6月で湿地や林縁の水溜り、林道や作業道の側溝などに産卵する。産卵場所は完全な止水ではなく、流水が多少あり、落枝、落葉が泥底にある場所。富山県の産卵場所の一腹卵数は約30個で、20～50個ほどの範囲にある。

生存への脅威

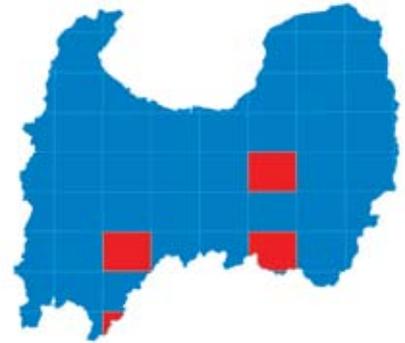
県内の生息地は、山地帯にあるが、林道の拡幅や舗装整備、側溝改修等で生息地が消失している。

保全対策

生息地の森林の保全、湿地等の繁殖環境の保全が必要である。

特記事項

本種は止水産卵型の小型サンショウウオ(サンショウウオ科)であるが、生息地は中部地方日本海側の山地に局所的に生息し、尾の形態や卵数など、流水に適応した特徴を持ち、日本産小型サンショウウオ類の進化・生物地理を探るうえで重要な種である。遺伝子研究に基づき、富山県と岐阜県のヤマサンショウウオは長野県のハクバサンショウウオと同一種とされた。(Matsui et al.,2002)



ニホンイシガメ (カメ目、イシガメ科) *Maurernys japonica*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：情報不足

選定理由

生息情報が明らかに減少している。

形態

オスの甲長は最大で14cm、メスは20cm。背甲は黄土色や黄褐色で、成体では中央に隆起した背中線が1本ある。後縁は鋸歯状。腹甲には黒色。

国内の分布状況

本州、四国、九州およびその周辺の島。日本固有種。

県内の分布状況

県内の平野部や丘陵地で希に見られる。

生態・生息環境

溜池や池沼・河川などに生息する。採餌物は魚類やミミズ、甲殻類などである。産卵は6～7月で、雌は河川敷内の砂地や畑・畔等に穴を掘り、産卵後再び土を被せて去る。

生存への脅威

池沼の埋立てや河川改修によるコンクリート化により、川の淀みや土の土手が無くなり生息場所が消失している。

保全対策

生息地が限られており、河川改修は、生息環境に配慮した工法が望ましい。

特記事項

県内で繁殖していると考えられる生息地は極めて限られている。



ナガレヒキガエル (カエル目、ヒキガエル科) *Bufo torrenticola*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

溪流に産卵するヒキガエルで、生息地は局地的である。

形態

体長7～16cm。アズマヒキガエルに似るが、鼓膜が小さく不明瞭で四肢が長い。幼生の口は大きい。

国内の分布状況

本州の中部地方並びに近畿地方の山地に分布し、富山県や岐阜県は東限にあたる。日本固有種。

県内の分布状況

県南部と西南部の山地で生息が確認されている。常願寺川水系の小口川が富山県の日本海側の分布の東限である。

生態・生息環境

山地の林床で生活するが、産卵は4～5月に溪流の緩やかな淵で行われる。水中の石や倒木、枝にひも状の卵塊を巻きつける。

生存への脅威

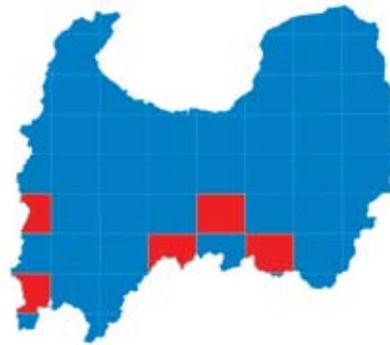
林道工事や砂防ダム建設等により、生息場所の山林と溪流の産卵場所である淀みが無くなっている。

保全対策

繁殖場所の溪流と生息場所の樹林の生息環境の保全が望まれる。

特記事項

神通川水系で、ナガレヒキガエルとアズマヒキガエルの雑種が見つかった。



ナガレタゴガエル (カエル目、アカガエル科) *Rana sakuraii*

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

溪流に産卵するアカガエル科のカエルで、生息分布域は限定的である。

形態

体長4～6cm。体色は背面が黄土色から赤褐色で、のどの下はタゴガエルと同様に細かい暗斑点がある。タゴガエルとの相違点は水かきが大きく、繁殖期には雌雄、特に雄の体側の皮膚が著しくひだ状にたるむ点である。

国内の分布状況

本州の関東、中部、近畿地方に局地的に分布する。日本固有種。

県内の分布状況

現在まで、県南部、東部の山地の溪流やその周辺で記録されている。

生態・生息環境

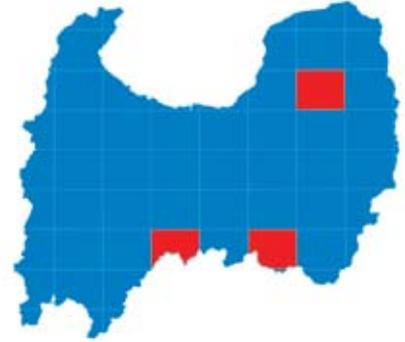
山地の森林に生息するが、晩秋に溪流に集まり越冬し、2～4月に産卵を行なう。県内における産卵時期や産卵場所の詳細は不明である。

生存への脅威

溪畔工事や砂防ダム建設により、溪流の産卵場所や幼生の生息環境の悪化が危惧される。

保全対策

産卵場所の溪流と生息場所の樹林の生息環境の保全が望まれる。



タカチホヘビ (トカゲ目、ナミヘビ科) *Achalinus spinalis*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地における生息密度は低いと考えられる。

形態

全長30～60cm。頭部と頸部のくびれがない。体色は黄褐色で、鱗に真珠光沢をもつ。背面中央に1本の黒色条線がある。尾下板は1列。幼蛇は黒色が強い。

国内の分布状況

本州、四国、九州と沿岸の島々に分布する。日本固有種。

県内の分布状況

丘陵から山地まで生息するが、生息記録は少ない。

生態・生息環境

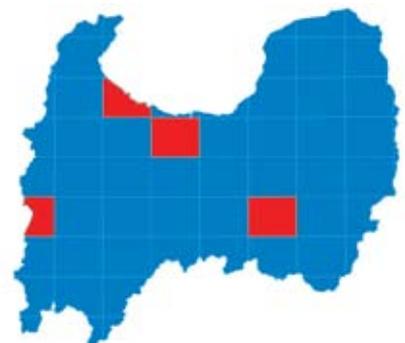
地中性・夜行性で、人目に触れる機会は少ない。地中のミミズなどを採餌している。

生存への脅威

森林の伐採や道路整備等により生存がおびやかされている。

保全対策

生息環境、特に林床の保全等が望まれる。



シロマダラ (トカゲ目、ナミヘビ科) *Dinodon orientale*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生息地における生息密度は低いと考えられる。

形態

全長30～70cm。灰色や淡褐色の地色に黒褐色の横帯が胴体や尾にある。幼蛇は頭部の後半部に大きな1対の白い斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州とその周辺の島に分布する。日本固有種。

県内の分布状況

丘陵から山地にかけ県内に広く生息し、家の近くや道路で轢死体が発見されることもあるが、記録は少ない。ロードキルの個体が発見されることもある。

生態・生息環境

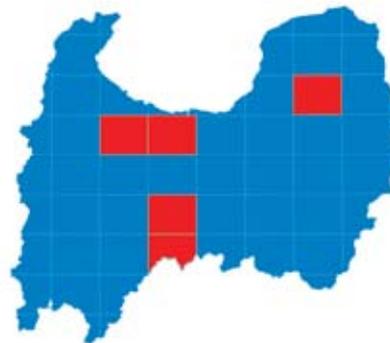
夜行性で、平地から山地に生息する。主にトカゲやヘビなど小型の爬虫類を食べている。

生存への脅威

丘陵の開発や道路整備により生存がおびやかされている。

保全対策

生息環境の保全が望まれる。



ヒダサンショウウオ (サンショウウオ目、サンショウウオ科) *Hynobius kimurae*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

生息地点の多くで生息環境の悪化と個体数の減少が見られる。

形態

全長10～18cm。体や尾は太い。体色は、背面は紫がかった黒褐色で不規則な細かい橙黄色の斑点がある。鋤骨歯列は深いU字型。四肢は短く、前肢と後肢を体側に沿って曲げると指間に0.5～3.5肋皺分の間隙ができる。肋条数は通常13本。後肢は5指性。幼生は流水性サンショウウオの特徴である黒い爪をもつ。

国内の分布状況

関東、中部、北陸、近畿、中国地方に生息。日本固有種。

県内の分布状況

県内各地の丘陵から山地にかけ分布する。

生態・生息環境

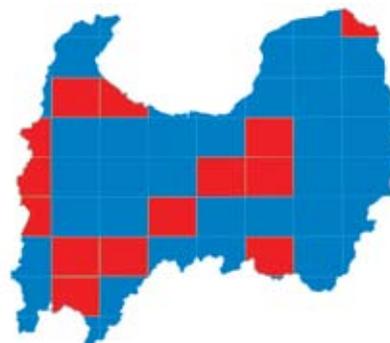
落葉広葉樹や針葉樹林の林床に生息し、2～5月に溪流の源流域の岩の下や伏流水中に産卵する。1対の卵のうはバナナ状で、石の裏などに付着している。幼生は、他の流水性サンショウウオの幼生と同様、水生昆虫を餌としている。幼生の多くは秋に幼体となるが、越冬する個体もいる。

生存への脅威

林道整備や森林伐採、ダム建設や砂防工事により、生息場所及び産卵場所の消失や幼生の生息環境の悪化が危惧される。

保全対策

産卵場所の溪流や沢と生息場所の樹林の保全が望まれる。



アカハライモリ (サンショウウオ目、イモリ科) *Cynops pyrrhogaster*富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧**選定理由**

山地や平地の水辺に広く分布していた種であるが、分布域や個体数が減少している。

形態

全長7～14cm。背面の体色は黒または黒褐色である。腹面は赤く不規則な黒斑がある。雄の尾は先端近くまで幅広く急に細くなる。雌の尾は全体に細い。繁殖期の雄には紫色の婚姻色があらわれる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、佐渡島など。日本固有種。

県内の分布状況

池・水田・湿地を中心に、丘陵から山地に広く分布するが、近年、平野部ではほとんど見かけることはなくなった。

生態・生息環境

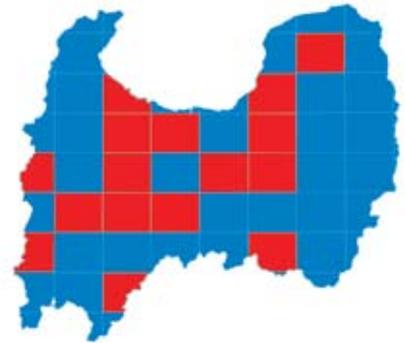
水田周辺や灌漑用の溜池、河川の淀み、溜まりなどに生息する。肉食性でオタマジャクシ、ミミズ、水生昆虫などを採餌する。雌は雄が水底に落とした精包を、総排出腔周辺にくっつけ取り込む。春から初夏にかけて1卵ずつ水中の草、枯れ草などに産卵する。

生存への脅威

平地では農業基盤整備により生息地が消失し、丘陵地の開発により地域的な絶滅が進行している。

保全対策

生息地の水環境の保全が望まれる。

**トノサマガエル** (カエル目、アカガエル科) *Rana nigromaculata*富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし**選定理由**

水田を代表するカエルであるが、平野部の生息数は激減している。

形態

体長4～9cmでスマートなカエルである。背面は背側線と背中線がある。雄は茶褐色から緑色までさまざまであるが、雌は灰白色から暗灰色で連続した黒色斑紋を多数もつ。繁殖期の雄は黄金色の婚姻色となる。雄には鳴のうが左右1対ある。

国内の分布状況

本州（仙台平野と関東平野を除く）本州、四国、九州に分布する。

県内の分布状況

県内全域の平野部から丘陵帯の水田を中心に広く分布するが、近年、平野部ではほとんど見かけることはなくなり、特に東部で著しい。

生態・生息環境

繁殖期は4～6月で、主に水田やため池を生息場所としている。

生存への脅威

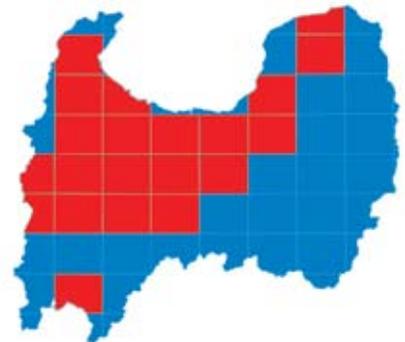
平野部では、宅地化による水田や畔の減少、用水のコンクリート化により、生息地が激減している。

保全対策

生息地の水田等の水環境や生息地の草地等の保全が望まれる。

特記事項

県内では希に、背中線のないトノサマガエル高田型が見つかることがある。



ニホンスッポン (カメ目、スッポン科) *Pelodiscus sinensis*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

野外での目撃頻度が明らかに減少したが、情報が不足している。

形態

甲長25～30cm。背甲は円に近い楕円形で、平たく角質の鱗板を欠き、やわらかな灰褐色の皮膚に覆われている。鼻の先端が突出している。

国内の分布状況

本州、四国、九州、琉球列島に分布する。古くから養殖されてきたため人為的な移植も多い。

県内の分布状況

朝日町から氷見市までの平野部で記録されているが、最近の生息情報は希である。

生態・生息環境

河川の中流域から下流域にかけて、また平野部の池沼、溜他に生息する。食性は肉食性で小魚や甲殻類、水生昆虫などさまざまである。

生存への脅威

池沼の埋立てや河川改修により、コンクリートの護岸化が進み生息場所や産卵場所が消失していると推測される。

保全対策

生息情報の収集とともに、生息が確認されている河川等の改修にあたっては生息環境の保全に配慮した工法がなされることが望ましい。

特記事項

時々平野部の用水等で発見される個体は、元々生息していたものなのか、放された個体あるいは逃げ出した個体なのかは不明である。

= 参考文献 =

- 1) 福田保・南部久男, 2008. 角川の両生・爬虫類. 富山の生物, 47:33-35.
- 2) 福田保・南部久男, 2009. 余川川の両生・爬虫類. 富山の生物, 48:45-48.
- 3) 福田保・南部久男, 2011. 渋江川の両生類・爬虫類. 富山の生物, 50:37-42.
- 4) 福田保・南部久男, 2011. 富山県東部からのナガレヒキガエルの記録, 富山市科学博物館研究報告, 34:139-140.
- 5) 石原裕司・道山勉・村井仁志・高橋輝男・加藤真由子・森大輔・川崎洋輔, 2005. ファミリーパーク地内の魚類・両生類・爬虫類. ファミリーパーク地内自然環境総合報告書. pp. 35-45.
- 6) 川内一憲・田中幸恵・小鍛治優・百崎孝男・藤井豊, 2011. 北陸・上越に特有な高田型トノサマガエル(*Rana nigromaculata*)の生物地理学研究, 福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」, 18, 25-33.
- 7) 環境庁, 2000. 改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブック—(爬虫類・両生類). 120pp. 自然環境研究センター.
- 8) 前田憲男・松井正文, 1999. 改訂版日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版.
- 9) 森大輔・南部久男・福田保・後藤優介・加藤智樹・荒木克昌, 2009. 富山県における両生類の記録(2006～2008年). 富山の生物, 43:83-90.
- 10) 森大輔・南部久男・福田保・後藤優介・加藤智樹・荒木克昌, 2009. 富山県における両生類の記録(2009年). 富山の生物, 44:63-69.
- 11) 森大輔・南部久男・福田保・荒木克昌・小林周一・後藤優介・加藤智樹, 2011. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2010年). 富山の生物, 50:87-92.
- 12) Matsui, M., K. Nishikawa, Y. Misawa, M. Kakegawa, and T. Sugahara, 2002. Taxonomic relationships of an endangered salamander *Hynobius hidamontanus* Matsui, 1987 with *H. tenuis* Nambu, 1991 (Amphibia: Caudata). Cur. Herpetol., 21(1) : 25-34.
- 13) 南部久男, 1980. ナガレヒキガエルの新産地. 富山市科学文化センター研究報告, 2:35-39, pls.2.
- 14) 南部久男, 1982. 富山市呉羽丘陵のサンショウウオ(*Hynobius* sp.)について(予報). 富山市科学文化センター研究報告, 4:69-72.
- 15) 南部久男, 1983. 富山県大山町・新潟県青海町産のサンショウウオの1種(*Hynobius* sp.)について(予報). 富山市科学文化センター研究報告, 5:75-83.
- 16) Nambu H., 1986. On *Hynobius takedai* (Urodela, Hynobiidae) from lowland of Toyama Prefecture, Central Japan. Bull. Toyama Sci. Mus., 9:73-85.
- 17) 南部久男, 1987. 富山県大沢野町産ナガレヒキガエルについて. 富山市科学文化センター研究報告, 11:138.
- 18) Nambu H., 1991. *Hynobius tenuis* (Caudata, Hynobiidae), a new species of salamander from central Japan., Zool. Sci., 8:991-997.
- 19) 南部久男, 1994. 富山市におけるホクリクサンショウウオの産卵状況, 卵数及び卵囊の形態. 富山市科学文化センター研究報告, 17:105-115.
- 20) Nambu H., 1995. Variations in the number of phalangeal bones in the four-toed salamander, *Hynobius tenuis* (Amphibia: Hynobiidae), from two localities in Toyama Prefecture, central Japan. Okajimas Folia Anat. Jpn., 72(1) :7-12.
- 21) 南部久男, 1996. ヤマサンショウウオの産卵状況, 卵数及び卵囊の形態. 富山市科学文化センター研究報告, 19:55-65.
- 22) 南部久男, 1997. 富山県小矢部市におけるホクリクサンショウウオの記録. 富山市科学文

- 化センター研究報告, 20:109-110.
- 23) 南部久男, 1998. 魚類, 両生・爬虫類. pp.133-150. ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告.
- 24) 南部久男・荒木克昌, 1997. 富山県宇奈月町からのナガレタゴガエルの記録. 富山市科学文化センター研究報告, 20:113.
- 25) 南部久男・福田保, 1993. 富山県大山町からのナガレヒキガエルの記録. 富山市科学文化センター研究報告, 16:103-104.
- 26) 南部久男・福田保, 1994. 呉羽丘陵の両生類・爬虫類. pp. 201-210. 富山市呉羽丘陵自然環境調査報告. 富山市科学文化センター.
- 27) 南部久男・福田保, 2010. 析津川の両生・爬虫類. 富山の生物, 49:33-35.
- 28) 南部久男・福田保・堺康浩, 1997. 有峰の両生類・爬虫類. pp. 277-285. 常願寺川流域(有峰地域)自然環境調査報告. 富山市科学文化センター.
- 29) 南部久男・福田保・荒木克昌, 1998. 富山県野積川におけるナガレヒキガエルとアズマヒキガエルの繁殖生態(予報). 富山市科学文化センター研究報告, 19:111-118.
- 30) 南部久男・福田保・荒木克昌, 2002. 溪流におけるヒキガエル類の繁殖生態 I ナガレヒキガエルとアズマヒキガエルの雑種の出現. 両生類誌, 9:15-24.
- 31) 南部久男・西岡満, 2003. 富山県高岡市におけるホクリクサンショウウオの新産地. 富山市科学文化センター研究報告, 26:143-144.
- 32) 南部久男・福田保・荒木克昌, 2005. 富山県中央部(富山市南西部・婦中町西部・山田村)の両生類・爬虫類. pp. 55-62. 里山(富山県中央部)の自然環境調査報告書 I 環境・動物・植物編. 富山市科学文化センター.
- 33) 南部久男・福田保・荒木克昌, 2006. 富山県中央部の里山の両生類に関するメモ. pp. 141-172. 里山(富山県中央部)の自然環境調査報告書 II. 富山市科学文化センター.
- 34) 南部久男・福田保・荒木克昌, 2005. 富山県中央部の両生類・爬虫類. 里山の自然環境調査報告書 I 環境・動物・植物編. 富山市科学文化センター.
- 35) 千石正一・疋田努・松井正・仲谷一宏編, 1996. 日本動物大百科第5巻両生類・爬虫類・軟骨魚類. 189pp. 平凡社.
- 36) 田中清裕, 1978. 富山県の両生・は虫類の概要. pp. 2-4. 第2回自然環境基礎調査動物分布調査報告書(両生類・は虫類). 日本自然保護協会.
- 37) 富山市科学文化センター, 2001. 両生類・爬虫類. 富山市科学文化センター収蔵資料目録第14号. 106pp.
- 38) 富山県, 1987. 富山県の両生類・爬虫類. 66pp. 富山県両生・爬虫類研究会.
- 39) 富山県, 2002. 富山県の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブックとやま—. pp.69-77. 富山県生活環境部自然保護課.
- 40) 湯浅純孝, 1994. 両生・爬虫類. 立山カルデラ自然環境基礎調査報告書. 5 動物. pp.31-38. 富山県.
- 41) Yamazaki Y., Kouketsu S., Fukuda T., Araki T., and Nambu H., 2008. Natural Hybridization and directional introgression of two species of Japanese Toads *Bufo japonicus* and *Bufo torenticola* (Anura: Bofonidae) resulting from changes in their spawning habitat. J.Herpétology, 42(3) :427-436.

= 参考にしたホームページ =

日本爬虫両生類学会 <http://zoo.zool.kyoto-u.ac.jp/herp/index.html>

環境省自然保護局生物多様性センター http://www.biodic.go.jp/center_outline.html

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.5 淡水魚類

6.5 淡水魚類

河川や湖沼などの淡水域でみられる魚を淡水魚とよんでいるが、淡水域で一生を終える「純淡水魚」と生活史の一部あるいは大部分を海で過ごす「回遊魚」に大きく分けることができる。コイ科、ナマズ科、ドジョウ科に分類される種のほとんどは純淡水魚で、サケ科、ハゼ科、カジカ科に分類される種の多くは回遊魚である。富山県には、70種弱の淡水魚が自然分布していると考えられるが、このうち20種強が純淡水魚で、のこりは回遊魚である。サクラマス（ヤマメ）のように同じ種内に純淡水魚と回遊魚が存在する種もいる。

日本の純淡水魚類の多くは、ユーラシア大陸に由来し、主に南北両方から日本列島に分布を拡げてきたことが知られている。今日の純淡水魚類相は、フォッサマグナを境に大きく異なることが知られており、琵琶湖を中心にした西日本に多くの種が分布している。富山県は本州のほぼ中央、日本海に面しており、西日本の純淡水魚類相のはずれに位置しているため、分布する純淡水魚の種は多くない。また、山地が海に迫っているため河川は急流で、大きな自然湖沼がないことも純淡水魚類相を貧弱なものにしている要因であろう。純淡水魚の多くは、流れの比較的緩やかな神通川、庄川、小矢部川の下流域、また射水平野や氷見平野を流れる小河川や集排水路を主な生息場所としている。

富山を東限または北限とする魚もいくつかみられる。コイ科ではタカハヤやカワムツ、ドジョウ科ではアジメドジョウ、ハゼ科に分類されるが淡水域で生活史を完結するカワヨシノボリである。この中で、アジメドジョウは関西から中部地方の河川の上流域に分布する日本の固有種で、富山県では角川を東限として山地の渓流域に広く分布している。飛び地的に分布する魚種もあり、絶滅危惧種とされているイタセンパラは淀川水系、濃尾平野と富山県に分布しているが、なぜこのような分布をするようにいったのか分かっていない。富山県では射水平野と氷見市十二町瀨周辺に分布していたが、現在では氷見市を流れる仏生寺川と万尾川に生息することが確認されている。

富山県におけるホトケドジョウの記録は、昭和10年の小矢部川中流域が最後で、その後の確認はなく、富山県では絶滅したと考えられている。ホトケドジョウは湧水のある細流に生息する希少な魚であるが、湧水地帯が発達している富山県にも限られた場所にしか分布していなかったようである。隣県の石川県と新潟県では現在も生息場所のあることが確認されている。

回遊魚に目を転じると、富山県の淡水魚類相を特徴づける種として、サクラマスやカンキョウカジカ、そしてイトヨ日本海型をあげることができる。サクラマスはサケ科に分類され、山地の渓流に生息するヤマメと同じ種で、海に下って大きく成長するものをサクラマス、河川に残留して大きくならないものをヤマメと呼んで区別している。この区別は厳密なものではなく、降海前のサクラマスがヤマメとして扱われることもある。サクラマスは北陸以北の河川に遡上し、本州の河川の中では神通川に遡上する個体が相対的に多いとされるが、その理由もよく分かっていない。最近、神通川においてもサクラマスの漁獲量は減少しており、幻の魚となりつつあるのは寂しいかぎりである。

カンキョウカジカはやはり日本海域を分布の中心とした回遊魚で、富山県は本種における日本列島での分布の南限にあたる。最近新潟県でも記録されているが、従来は秋田県以北に分布するものとみられてきた。富山県に飛び地的に分布する種のひとつである。日本海側の分布の南限に相当する種として、マルタをあげることができる。この種は、コイ科としては例外的に海域の沿岸から汽水域を主な生息場所とし、産卵のために河川に遡上してくる回遊魚である。富山県では、黒部川、神通川、庄川、小矢部川といった大きな河川

で産卵している。

イトヨ日本海型も北海道から北陸までの日本海沿岸と河川河口域を主な生活の場とする回遊魚である。産卵期になると泥底に水草の破片で巣をつくり、その中で産卵し、生まれた仔稚魚を親が保護する習性をもつ。かつては富山県でも大きな川の河口域にみられたが、最近の調査では生息の確認がなく富山県では絶滅したと考えられる。

富山県には扇状地地形と関係して湧水帯が広く存在するが、湧水と関係した種としてトミヨ属淡水型をあげることができる。背中に9本内外の棘をもつ小さな魚であるが、卵や仔稚魚を保護することで知られている。かつて北陸にかなり広い範囲で分布していたが、福井、石川の両県では自然分布地がほぼ消滅し、富山県が現在の実質的な南限となっている。

富山県にはヤツメウナギの仲間が3種分布している。このうち回遊魚のカワヤツメは、かつては県内多くの河川に産卵遡上していたが、最近では極端に減少している。一方、スナヤツメは従来単一種とされてきたが、最近の遺伝子研究により北方種と南方種とに区分されている。両種は日本列島広くに生息し、湧水帯や山地の細流など冷たい水を好む。富山県においては、スナヤツメ南方種は県内に広く生息するが、スナヤツメ北方種の生息地は庄川扇状地の湧水性小河川や集排水路に限定されており、なぜ他の地域には分布しないのかは分かっていない。

以上のように、富山県の淡水魚類相は、南北双方から日本列島に進入してきた魚類に由来し、さまざまな意味での特徴を持っている。河川の最上流域はニッコウイワナの世界で、やや開けた山地の溪流にはヤマメ、アジメドジョウ、アカザ、カジカ大卵型がおり、平野部へ入るとタナゴの仲間や湧水帯にはスナヤツメ類やトミヨ属淡水型が生息する。しかし、ここにあげる魚は程度の差こそあれ絶滅の恐れを有している。その理由には生息地の人為的な改変があげられるが、同時に最近では、オオクチバスやブルーギルといった外来魚が増えてきており、在来の淡水魚類相が攪乱される事態となっていることを付記しておきたい。

対象種の選定および見直しにあたっては、基本的に分布の限られた種、生息個体数の少ない種を取り上げたが、2002年にまとめられたレッドデータリストの掲載種を再評価すると共に、最近10年間の調査において明らかになった状況を考慮している。今回の見直しにおいてカテゴリー変更が行われた魚種は存在するが、除外した魚種はなく、新規に7種が加えられたことが、富山県の淡水魚類の現状が楽観すべきものではないことを物語っているであろう。今後も継続的な現状把握と、それに応じたカテゴリーの見直しが必要であろう。

ホトケドジョウ (コイ目、ドジョウ科) *Lefua echigonia* Jordan et Richardson, 1907

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I B 類

選定理由

富山県での最後の記録は1935年である。また報告地域における追加調査においても生息が確認されていない。

形態

成魚の全長は5～6cm。円筒形の細長い体形であるが、頭部上面はやや平たい。4対の口ひげをもち、眼下の棘はない。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布記録

確実な記録は小矢部川中流域（支流を含む）での土肥（1935）だけである。

生態・生息環境

遊泳性のドジョウで、流れの緩やかな砂泥底の細流に生息し、水草の間に緩やかに遊泳する。

生存への脅威

小矢部川中流域の生息条件に合致すると考えられる細流においては、河川改修および圃場整備が進み、生息地の消失・悪化が進んだと考えられる。

特記事項

新潟県と石川県には現在も生息地がある。



イトヨ日本海型 (トゲウオ目、トゲウオ科) *Gasterosteus aculeatus aculeatus* (Linnaeus, 1758); Japan Sea form

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：地域個体群
(本州のイトヨ日本海型)

選定理由

かつて生息が確認されていた場所の環境変化が著しく、本種の生息に適する場所のほとんどは消失している。前回RDB以降の生息確認がされていない。

形態

最大体長で8cmほどの小さな魚で、背中に3本、腹びれに1対の長い棘があり、体は比較的平べったく、尾の付け根が細い。体側に1列の大きな鱗板がある。産卵期にはオスが鮮やかな赤と青の婚姻色に彩られ、腹部が卵で膨れたメスは銀色にかがやく。

国内の分布状況

北海道および本州の日本海側、主として河川の下流域。

県内の分布記録

富山県内のほぼ全域の河川下流域、海岸線、沿岸域で生息が確認されていた。

生態・生息環境

成魚は春（3～5月）海から河川へ遡上し、河川敷の水溜まりや小川に入って産卵する。オスは泥底に浅い窪みを掘り、水草の破片を集めて巣を造り、メスを誘って産卵させる。卵や孵化した仔魚はオスが保護をする。稚魚はしばらくの間産卵場所の近くで群をなして生活するが、水温が高くなる7月に入ると海へ下り、沿岸部の海草の生育している場所で生活する。

生存への脅威

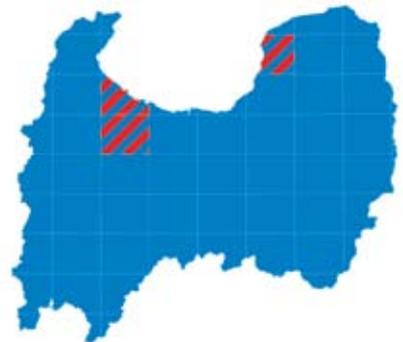
河川改修によって中・下流部の河川敷内にあった水溜まりや水生植物の繁茂する流れの緩い水域はほとんど消滅し、流れ込む集排水路も段差ができるなど改修されて、産卵場所や稚魚の生育場所が消失した。

保全対策

生息環境の復元を行い、イトヨの産卵場所及び稚魚の生育場所を確保する必要がある。詳細な生態の把握が必要である。

特記事項

新潟県では食用に漁獲され、石川県でも河北潟で多量に漁獲されていた。遺伝子研究により、日本列島とその周辺域に生息するイトヨは、日本海型と太平洋型に大別されている。海域を介した移動が可能であるため、今後、周辺域に由来する個体が富山県内河川に遡上することもあり得る。



イタセンパラ (コイ目、コイ科) *Acheilognathus longipinnis* Regan, 1905

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠA類

選定理由

日本固有種で、富山県では氷見市十二町湯周辺の河川に生息するが、生息範囲が著しく小さく、生存への脅威が継続した場合、絶滅が危惧されている。

形態

全長が10cmをこえるタナゴで、体高が高く、かつ薄く平べったい体形をしている。体の後半にある背びれ、尻びれが尾びれの近くまで達し、産卵期にはオスがピンク色の鮮やかな婚姻色で彩られる。メスの産卵管は2cm程度であり、他のタナゴ類と比較し短い。

国内の分布状況

淀川水系、濃尾平野、富山平野の3地域に限定され、どの地域でも生息域の縮小が見られる。特に、淀川水系では2006年以降の確認が無く、野生絶滅状態であり、現在野生復帰が行われている。

県内の分布状況

射水平野と十二町湯周辺を流れる河川、集排水路に生息していたが、射水平野では1958年以後の確認記録はなく、絶滅したと考えられる。

生態・生息環境

小河川、集排水路、大河川のワンド(入り江)など、流れが緩やかで二枚貝(イシガイ、ドブガイなど)の見られる環境に生息する。産卵期は秋で、メスは二枚貝の出水管から産卵管を外套腔内に挿入して産卵し、オスは入水管から精子を入れて貝内で受精する。5月末、稚魚が二枚貝から泳出して自由生活に入り、7月まではミジンコなどの動物性プランクトン、以降は付着藻類などを食べて成長し、成長が早い個体は、泳出後3ヶ月で成熟し産卵する。

生存への脅威

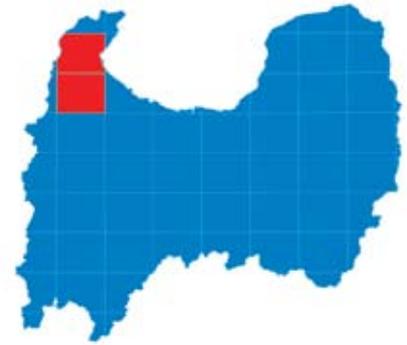
河川改修や圃場整備が進み、幼魚および成魚の生息地の消失・悪化、さらに産卵対象とする二枚貝の生息地の消失・悪化が進んでいる。また、外来魚の放流があり、オオクチバスなどによる捕食、タイリクバラタナゴとの産卵対象、餌、生息地の競合が生じている。以上の結果として、生存・成長・繁殖に大きな影響が生じ、個体数の減少および生息地の縮小が懸念される。

保全対策

本種や二枚貝を始めとする共存生物における良好な生息および繁殖環境を維持するために、河川改修や圃場整備への十分な配慮、さらに外来生物駆除等の対策が必要である。また、現在行われている保存池等による継代飼育の継続が必要であるが、この際には保存集団における遺伝的多様性の低下を避けることが求められる。

特記事項

国指定天然記念物、国内希少野生動物種であり、生息地での捕獲等の行為は厳重に規制されている。国内3地域の集団は互いに独自の遺伝的固有性を有する。



ヤリタナゴ (コイ目、コイ科) *Tanakia lanceolata* (Temminck et Schlegel, 1846)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

産卵対象とする二枚貝類の生息地域が極端に減少したため、生息地が局限され、個体数も減少した。また現在の生息地の環境も年々悪化している。

形態

成魚は10cmに達するタナゴである。産卵期のオスは、口の周辺に追星が生じ、体側は前半が赤紫、尻びれは鮮やかな赤色の婚姻色となる。

国内の分布状況

本州、四国、九州北部。

県内の分布状況

下条川、小矢部川、仏生寺川・万尾川、上庄川の各水系。

生態・生息環境

イシガイなど二枚貝の生息する流れの緩やかな河川や農業集排水路に生息し、イシガイ類の外套腔内に産卵管をさし込んで産卵する。

生存への脅威

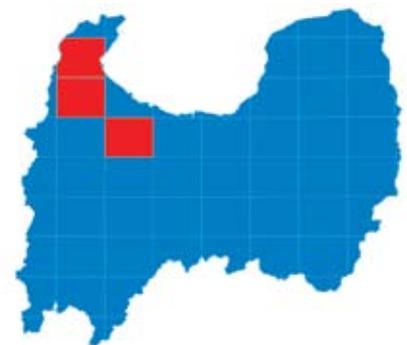
河川改修(護岸、直線化)が進み、生息環境の喪失および生息地の分断化が進んでいる。これらの状況は産卵対象とする二枚貝類にとっても脅威となっており、二枚貝の減少が本種の繁殖機会の低下をもたらしている。さらに放流された外来魚オオクチバスなどによる捕食やタイリクバラタナゴとの産卵対象、餌、生息地の競合が生じている。

保全対策

産卵対象とする二枚貝類の生息環境の保全と外来魚の駆除が必要である。

特記事項

二枚貝類の生態についての知見が少なく、生息条件に不明な部分が多い。



ミナミアカヒレタビラ (コイ目、コイ科) *Acheilognathus tabira jordani* Arai et al., 2007

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

他のタナゴ類と同様産卵対象とする二枚貝の生息地域が極端に減少したため、生息地が極限される。イタセンパラやヤリタナゴと比べると生息確認地点が少なく、極めて絶滅のおそれの高い種である。

形態

成魚は8cm程度でヤリタナゴよりやや小さい。産卵期のオスは口の周辺に追星^{おひし}ができ、婚姻色は体側の前半部が赤くなり、側線に沿って青緑の縦条が目立つ。

国内の分布状況

島根県、鳥取県、福井県、石川県および富山県。

県内の分布状況

富山市横越排水路、下条川、仏生寺・万尾川、上庄川の各水系。

生態・生息環境

メスはイシガイ類^{いしかい}の外殻腔内に産卵管をさし込み産卵する。これら二枚貝の生息する流れの緩やかな河川や集排水路に生息する。

生存への脅威

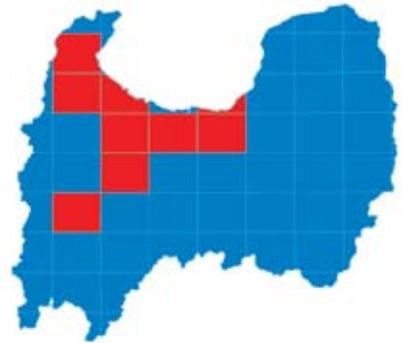
河川改修(護岸、直線化)が進み、生息環境の喪失および生息地の分断化が進んでいる。これらの状況は産卵対象とする二枚貝類にとっても脅威となっており、二枚貝の減少が本種の繁殖機会の低下をもたらしている。さらに放流された外来魚オクチバスなどによる捕食やタイリクバラタナゴとの産卵対象、餌、生息地の競合が生じている。

保全対策

産卵対象とする二枚貝類の生息環境の保全と外来魚の駆除が必要である。

特記事項

富山県の個体群は国内分布の北限にあたる。二枚貝類の生態についての知見が少なく、生息条件に不明な部分が多い。和名がアカヒレタビラから変更された。



アカザ (ナマズ目、アカザ科) *Liobagrus reini* Hilgendorf, 1878

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生息地の消失・悪化および個体数の著しい減少が継続している。

形態

放射状に並ぶ4対の口ひげをもち、全長15cmほどの赤褐色をしたナマズ形の魚である。背びれと胸びれに棘があって刺されると痛い。

国内の分布状況

東北地方北部を除く本州、四国、九州。

県内の分布状況

笹川、小川、角川、白岩川、神通川、庄川、小矢部川の各水系。

生態・生息環境

水のきれいな河川の中流から上流下部の浮き石の多い場所を好む。夜行性で礫の間を縫うように泳ぎ、石に付く水生昆虫を食べている。5月頃流れの速い瀬の石礫の下に卵塊を産み、オスが卵を保護する。

生存への脅威

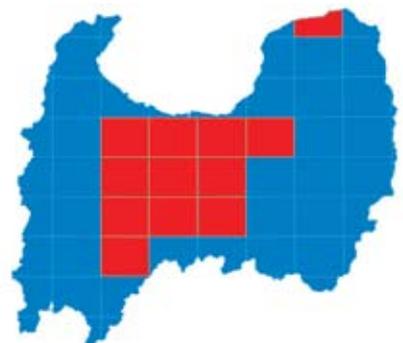
河川上流域のダム建設によって、生息河川の上・中流域を流れる流量が減少した。また河川改修(ダム・堰堤設置、河岸・河床護岸、河床平坦化、河畔林伐採)とそれに伴い流下した土砂が川底の浮き石を埋め、生息域を狭めている。

保全対策

河川上・中流域の維持流量と浮き石底の確保が肝要である。

特記事項

1960年代には、都市近郊の集排水路にもたくさん見られたが、近年その姿を見ることが困難になっている。



クロヨシノボリ (スズキ目、ハゼ科) *Rhinogobius brunneus* (Temminck et Schlegel, 1845)富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし**選定理由**

氷見市の限られた河川でのみ生息が確認されており、個体数は少ない。生息流域が狭く、存続が危惧される。前回RDB作成後の調査によって生息が確認された場所の一部においては、最近の調査では生息が確認されていない。

形態

最大体長8cmほどの小型のハゼで、他のヨシノボリ類に似る。胸びれの根元の三日月状斑紋と尾びれ基部で八の字状に分かれる暗色の縦条による特徴づけられる。

国内の分布状況

東北地方を除く本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見地方の余川川以北の河川の上・中流部でのみで生息が確認されている。

生態・生息環境

主に河川の上・中流域の流れが比較的緩やかな水域に形成された礫底に生息する。一般には孵化した仔魚は海へ下り、その後川に上がってくるが、一生を淡水域で過ごす陸封性のもも知られている。氷見地方の生息場所においても、堰堤上流部で確認されることもあり、詳細な生態の把握が必要である。

生存への脅威

河川改修（河岸護岸、河床平坦化、土砂流出、ダム・堰堤の設置）による礫底の減少や生息地の消失・悪化および分断化が、生息、繁殖および移動の妨げとなっている。

保全対策

河床の平坦化や土砂流出を避け、礫底の埋没を避ける。またダム・堰堤には移動可能な魚道を設置する。

**カワヤツメ** (ヤツメウナギ目、ヤツメウナギ科) *Lethenteron camtschaticum* (Tilesius, 1811)富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類**選定理由**

かつては成体の遡上や産卵が多数確認されていたが、近年は確認情報が極端に減っている。幼生個体の確認も極めて乏しい。

形態

成体は全長50cmほどの細長いウナギ型をしており、円盤状で下顎のない口と7対の鰓孔をもつ。対鰭を持たない。幼生はアンモシーテスと呼ばれ、目がなくじょうご型の口をもち、成体とはかなり異なった形態をしている。

国内の分布状況

北海道、本州の島根県および茨城県以北。

県内の分布状況

県内全域の河川に遡上すると考えられるが、最近の確認は、朝日町小川、神通川水系、小矢部川水系、氷見市の河川のみである。

生態・生息環境

アンモシーテスと呼ばれる幼生は、河川の中流から下流の泥や砂が堆積している所において、4～5年後に20cm程度になると変態し成魚となって海に下る。海中で2～3年寄生生活をしながら過ごし、30～50cmに成長して秋から春にかけて川に遡上し、砂礫底に産卵床を造り集団で産卵する。

生存への脅威

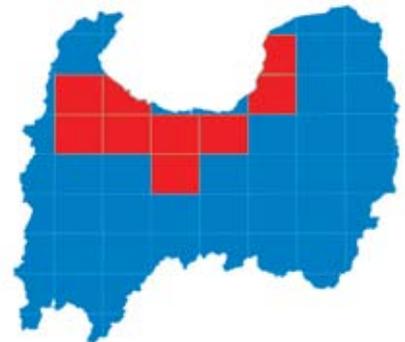
河川改修（河岸護岸、河道直線化）、圃場整備（特に水路護岸）、水質悪化により、幼生の生育に適した砂泥底や産卵に適した平瀬が減少している。ダムや堰堤の設置により、遡上が妨げられ、好適な産卵場所に到達できていない恐れがある。沿岸域の水温上昇や水質悪化など、海洋環境の変化も懸念される。

保全対策

河川改修の際、川底をコンクリート張りとしせず、水草の生育できる環境を整える配慮が必要である。また遡上阻害を避けるために、堰堤に魚道を設置することが必要である。

特記事項

周辺県においても個体数減少が著しい。かつては食物として利用していた地域もある。



スナヤツメ北方種 (ヤツメウナギ目、ヤツメウナギ科) *Lethenteron* sp. N

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

分布縁辺域にあたり、生息域が狭い範囲に限定されている。加えて、生息環境の悪化が今後も進むことが危惧され、現状では絶滅の恐れが高い。

形態

細長いウナギ型の体形をしているが、口が吸盤状で顎がないので一見して区別できる。成魚で20cm未満。目の後ろに7個の鰓孔がある。対鰭を持たない。幼生はアンモシーテスと呼ばれ、目がなくじょうご型の口をもち、成体とはかなり異なった形態をしている。

国内の分布状況

北海道と本州の琵琶湖以北。

県内の分布状況

庄川扇状地帯を流れる湧水性河川に限られる。

生態・生息環境

幼生は、冷水を好み、河川の中流域の湧水地帯や湧水が流入する集排水路の川底に泥や砂が堆積している場所に生息し、泥の中の有機物を食べて生活する。3～4年の幼生期の後に変態する。変態後は摂餌をせず、小礫底の平瀬で産卵した後に死亡する。

生存への脅威

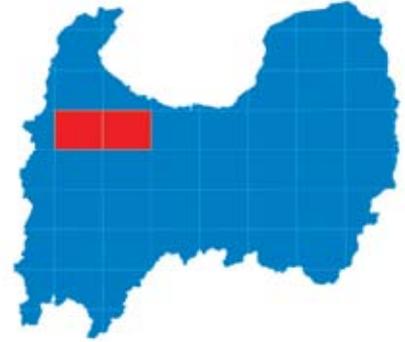
河川改修（河岸護岸、河道直線化）や圃場整備（特に水路護岸）により、幼生の生育に適した砂泥底や産卵に適した平瀬が減少している。また地下水利用の促進による地下水位の低下が進み、湧水が継続的に供給される環境が減ってきている。さらに、生息水域が住宅地に隣接し、生活排水の流入や生活ゴミの投棄に伴う水質や底質悪化および餌環境の劣化も懸念される。加えて、堰堤による生息地の分断が個体の移動を妨げており、生息地の分断化やそれによる小集団化が懸念される。

保全対策

現在の生息地が極めて限定的であるため、生息地の保全が重要である。その際、湧水の継続的な確保が必要である。さらに集排水路の改修の際、川底をコンクリート張りせず、水草の生育できる環境を整える配慮が必要である。

特記事項

遺伝子研究により、従来スナヤツメとして扱われていたが、外見上区別ができない2つのグループ（北方種と南方種）に大別されることが明らかになった。富山県の個体は、他地域とは産卵期が異なる。



ナマズ (ナマズ目、ナマズ科) *Silurus asotus* Linnaeus, 1758

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

食物連鎖の上位に位置する魚食性の魚であり、近年個体数が減少している。しかし、前回RDB作成時の段階と比べて生息場所の状況に変化は少なく、県内の広い範囲において河川の中・下流域において、安定した状態が保たれている。

形態

頭部は扁平で、下あごが上あごより前に突き出る。上あごと下あごに1対ずつ（幼魚の下あごでは2対）の口ひげがあり、上あごの口ひげが長く目立つ。体色は暗褐色で黄緑色の不規則な斑紋がある。成魚で全長60cmに達する。

国内の分布状況

全国的に分布するが、北海道には大正末期に移入されたと考えられている。

県内の分布状況

県内全域の河川や集排水路に分布するが、挺水植物や沈水植物の多い水域に限られる。

生態・生息環境

夜行性で、河川の中流域から下流域に生息し、他の魚等を食べて生活する。5月頃、河川の本流から支流をたどって水田に侵入し産卵する。河川では浅瀬に生える水草等に産卵する。稚魚は底生動物を食べて成長する。

生存への脅威

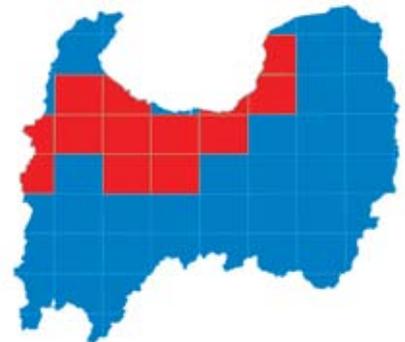
河川本流と産卵場所となる農業集排水路や水田との間に段差ができて遡上不可能となり、多くの産卵場所が失われた。魚食性の強いオオクチバスなど外来魚の違法放流によって生存が憂慮される。

保全対策

産卵場所への段差を解消し、仔稚魚の生育場所の確保、成魚の食物となる多様な魚種が生息できる河川環境を再構築することが必要である。加えて、オオクチバスなど外来魚の排除も必要である。

特記事項

かつては全県下でごく普通に見られ、河川流域に住む人たちの食料としても珍重されていた。



トミヨ属淡水型 (トゲウオ目、トゲウオ科) *Pungitius pungitius* (Linnaeus, 1758)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：地域個体群 (本州のトミヨ属淡水型)

選定理由

極東地域に分布の限られた種で、富山県は分布縁辺域に位置する。生息地となる湧水帯の減少に伴い生息地が減少している。前回RDB作成時以降の生息環境の改善は認められないが、生息地においては継続的な繁殖が維持されている。

形態

標準体長が5cmほどの細長い小さな魚であるが、背中に9本内外、胸びれに1対、腹びれに1本の棘をもち、体側に1列33内外の鱗板をもつ。体色は茶褐色であるが、周囲の色に合わせて多少変化し、産卵期にはオスが黒く変色する。

国内の分布状況

北海道、福井県以北の本州日本海側と青森県。

県内の分布状況

黒部川扇状地と庄川扇状地の湧水の出る河川及び神通川周辺のごく限られた地域に生息する。また有峰湖には黒部川扇状地から移入したと考えられる個体群があり、この一部が常願寺川水系へと流下している。

生態・生息環境

扇状地の扇端部の湧水の出る集排水路、大河川の河川敷内の水たまりを主な生息地としており、ヨコエビやユスリカの幼虫などの小動物を食物としている。産卵期にはバイカモやミクリなどの水草に水草の破片を固めて樽型の巣を作り、産卵された卵及び孵化した仔稚魚をオス親が保護する習性をもっている。

生存への脅威

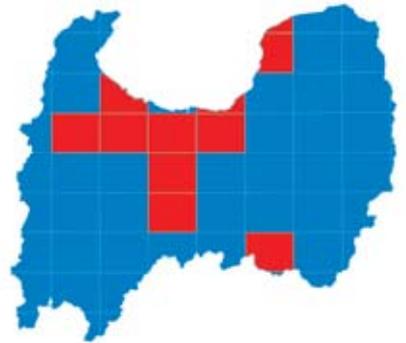
河川改修（河岸護岸、河道直線化）や圃場整備（特に水路護岸）、また地下水利用の促進による地下水位の低下が進み、湧水が出て水草の生育する環境が減ってきている。それにともない生息域も狭まり、個体数密度も小さくなっている。生息水域が住宅地に隣接する 경우가多く、生活排水の流入や生活ゴミの投棄に伴う水質悪化も懸念される。

保全対策

まず湧水の確保が必要である。さらに集排水路の整備の際、川底をコンクリート張りせず、水草の生育できる環境を整える配慮が必要である。排水路も水はけだけを考えるのではなく、所々に流れの緩い場所を造るなど営巣しやすい環境をつくるのが望ましい。

特記事項

トミヨ属の種の分類に関しては、遺伝子研究も行われているが、まだ完全に整理されていない。



ジュズカケハゼ (スズキ目、ハゼ科) *Gymnogobius castaneus* (O'Shaughnessy, 1875)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：地域個体群 (富山平野のジュズカケハゼ)

選定理由

生息地が溜池および河川の一部に限られており、どの生息地の環境も年々悪化している。しかし、新たな生息地も確認されている。

形態

最大全長5cmほどの小型のハゼで、体側に不規則な斑紋を持つ。外形は、シンジコハゼ、ピリングによく似るが、頭部感覚管開孔がないことで区別される。産卵期にはメスに婚姻色が強く現れ、腹部から体側にかけて黄色地に黒い横斑が顕著になる。オス・メスともに、背びれに黒斑はない。

国内の分布状況

北海道と本州の北陸および関東以北。

県内の分布状況

県内に散在する溜池および周辺の小河川。稀に大河川の河岸。

生態・生息環境

ほとんどが淡水域に生息するが、稀に汽水域でも見られる。溜池に多く見られ、溜池からの流れ出しでも見られる。庄川水系鴨川では流水域に生息している。大河川の河岸に形成された溜まりや水草のある流れの緩やかな水域に見られることもある。

生存への脅威

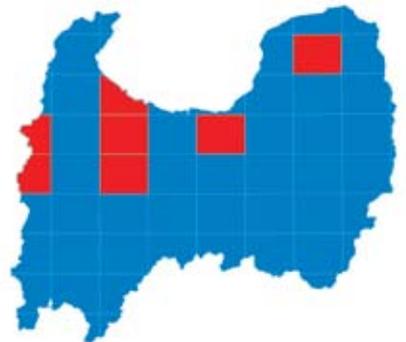
河岸や河床におけるコンクリート護岸などの整備が進み、生息地の消失や悪化が生じている。また溜池においては水質の悪化や、放流された外来魚オオクチバス、ブルーギルによる捕食を受けやすく、生存が危惧されている。

保全対策

生息地の改変を避け、生息環境を保全する。溜池はブラックバスやブルーギルの違法放流が多く、放流の阻止が重要。オオクチバス、ブルーギルなどの駆除を定期的に行う必要がある。

特記事項

地域個体群に遺伝的な差異がみられる。別種、亜種を含んだグループと考えられ、今後の研究が待たれる。



シンジコハゼ (スズキ目、ハゼ科) *Gymnogobius taranetzi* (Pinchuk, 1978)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国的に分布の限られた種で、富山県でも生息場所が中・西部の湯周辺に限られている。生息環境の悪化や外来魚の侵入により生存が危ぶまれる状況が続くが、前回RDB作成以降に状況の大きな変化は認められない。

形態

全長7cmほどの小型のハゼで、ジュズカケハゼやピリングに酷似する。体側に黒みを帯びた斑紋が並んでいるが、生息環境によっては消えている場合もある。頭部感覚管開孔が2対あることで他種と区別されているが、0～4対まで様々な変異がある。メスの第一背びれ後方に黒斑がある。

国内の分布状況

秋田県、富山県、石川県、福井県、島根県宍道湖（秋田県は要精査）。

県内の分布状況

射水市、庄川、仏生寺・万尾川の各水系。

生態・生息環境

汽水域から淡水域にかけて生息する。したがって湯や河川の下流域が生息地である。婚姻色はメスに強く現れ、ジュズカケハゼの婚姻色に似る。産卵は川底に穴を掘って行うとされる。

生存への脅威

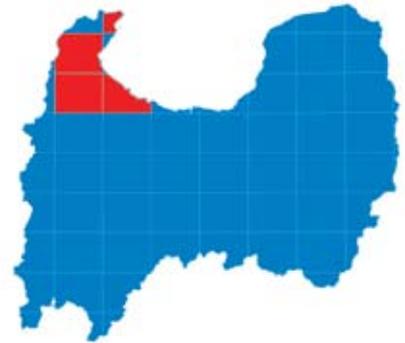
河川改修（河岸護岸）や水質の汚染・悪化による生息地の消失・縮小が進んでいる。また、魚食性外来魚オオクチバスによる捕食による個体数減少が危惧される。

保全対策

本来の生息域に限られるので、生息地の保全が第一である。生息地へのオオクチバス、ブルーギルの侵入の阻止と、侵入した場合は駆除が必要である。

特記事項

富山県内では繁殖場所など、まだ生態がよく分かっていない。



ルリヨシノボリ (スズキ目、ハゼ科) *Rhinogobius* sp. CO

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県東部の河川と氷見地方の限られた河川でのみ生息が確認されており、個体数は少ない。前回RDB作成後の調査によって生息が確認された場所の一部においては、最近の調査では生息が確認されていない。クロヨシノボリと状況が類似するが、比較的の生息範囲は広い。

形態

最大体長10cmほどのハゼで、他のヨシノボリ類に似る。眼下にりり色の小さな斑紋が散在する。胸びれの根元には1本の赤色条で縁取られた淡色部がある。尾びれ基部に八の字を横にしたような太い黒色斑が2個ある。

国内の分布状況

北海道東部・琉球列島を除く日本全国。

県内の分布状況

境川、笹川、黒部川、角川、氷見地方の余川川以北の河川の上・中流部。

生態・生息環境

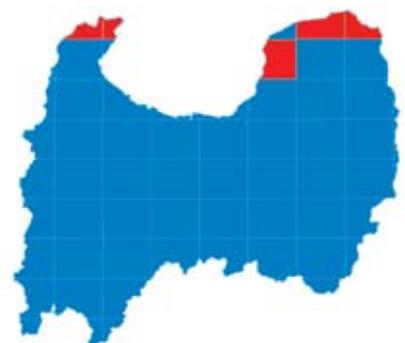
主に河川の上・中流域の早瀬などの急流部の礫底に生息する。一般には孵化した仔魚は海へ下り、その後川に上がってくるが、一生を淡水域で過ごす陸封性のもも知られている。氷見地方の生息場所においても、堰堤上流部で確認されることもあり、詳細な生態の把握が必要である。

生存への脅威

河川改修（河岸護岸、河床平坦化、土砂流出、ダム・堰堤の設置）による礫底の減少や生息地の消失・悪化および分断化が、生息、繁殖および移動の妨げとなっている。

保全対策

河床の平坦化や土砂流出を避け、礫底の埋没を避ける。またダム・堰堤には移動可能な魚道を設置する。



カンキョウカジカ (カサゴ目、カジカ科) *Cottus hangiongensis* Mori, 1930

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：地域個体群（東北・北陸地方のカンキョウカジカ）

選定理由

富山県が分布の西限にあたり、縁辺個体群としての希少性が高い。また、堰堤の設置によって遡上^{さくじょう}が妨げられ生息域が減少し、生息環境も悪化しており、生息個体数が減少している。前回RDB作成時以降も生息地および個体数の減少が懸念されている。

形態

カジカ（大卵型）に似るが、体全体に白く縁取られた小さな斑紋が散在し、さらに、胸びれの鰭条に横縞模様があることで区別できる。

国内の分布状況

北海道、本州東北地方と富山県に分布する。北海道の日本海側に多い。

県内の分布状況

小川から小矢部川までの各河川の中・下流域。

生態・生息環境

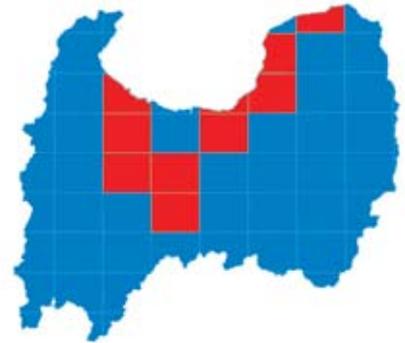
河川の下流域に多く見られるが、中流域でも見られる。産卵期は春で、石礫の隙間に産卵する。稚魚はいったん海に下った後、河川に戻ってくる。

生存への脅威

河川改修（河床の平坦化や河道の直線化）及び土砂流出により、河床の浮き石が減少するなど、好適な生息・繁殖場所が消失・減少している。同時に餌環境の劣化も懸念される。またダムや堰堤の設置により移動が阻害され、生息地の縮小が生じている。河川流量の減少による影響も大きい。網漁でアユと混獲される。

保全対策

ダムや堰堤には、遡上^{さくじょう}できる構造の魚道を設置する。河岸護岸や河床の平坦化を避け、河床の浮き石、ヨシ、マコモなどの植物を確保する。夏期の河川の流量を確保する。



カジカ中卵型 (カサゴ目、カジカ科) *Cottus* sp. middle egg type

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

生息場所が大河川の中流域に限定される。またダムや堰堤などの河川構造物によって生息域が減少・分断され、生息環境の悪化も重なって、生息個体数が減少している。前回RDB以降も生息地および個体数の減少が継続している。

形態

形態はカジカ（大卵型）に酷似し、胸びれの鰭条数が14～16本（モード15本）であることで分けられるが、厳密には遺伝子の塩基配列で区別される。

国内の分布状況

北海道積丹半島以南および本州の日本海側、九州北西部、瀬戸内海流入河川。

県内の分布状況

黒部川、角川、上市川、白岩川、神通川の各水系。庄川水系に記録がある。

生態・生息環境

河川の中流域に生息。他のカジカ類と同様に浮石の下に身を隠していることが多い。

産卵も中流域の浮石の下で行い、卵塊をオスが保護する。

生存への脅威

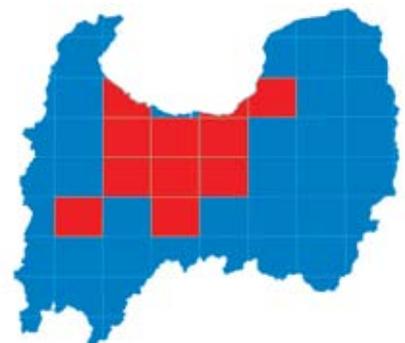
河川改修（河床の平坦化や河道の直線化）及び土砂流出により、河床の浮き石が減少するなど、好適な生息環境が消失・減少している。同時に餌環境の劣化も懸念される。またダムや堰堤の設置により移動が阻害され、生息地の縮小が生じている。河川流量の減少による影響も大きい。網漁でアユと混獲される。

保全対策

河川の分断化を避けるための魚道は、段差が低く、流れのゆるい部分が必要。ダムや堰堤には、遡上^{さくじょう}できる構造の魚道を設置する。河床の平坦化を避け、河床の浮き石を確保する。夏期の河川の流量を確保する。

特記事項

従来カジカとして扱われてきたが、主に遺伝子研究に基づき、大卵型、中卵型、小卵型（ウツセミカジカ）に大別される。外形で明確に区別するのは困難である。



サクラマス (ヤマメ) (サケ目、サケ科) *Oncorhynchus masou masou* (Brevoort, 1856)

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

主要な漁獲対象魚であるが、個体数が激減したため一定の保護を必要としている。最近の保護増殖活動により資源が維持・回復している。

形態

サケに似た体形で、春の遡上^{さぼりあがり}個体は全身が銀白色で背面に黒点を持つ。産卵期の秋になると桜色の婚姻色を呈する。全長30～70cmほどになる。

国内の分布状況

河川に遡上^{さぼりあがり}する個体は北海道、本州の山口県および千葉県以北。

県内の分布状況

神通川にのみ、まとまった遡上^{さぼりあがり}が見られるだけであり、小川、黒部川、庄川などでは、少数の遡上^{さぼりあがり}が見られるだけである。

生態・生息環境

幼魚や若魚は河川内で約1年半を過ごした後、春に海に下る。1年の海洋生活を終えた翌春母川に遡上^{さぼりあがり}し、秋に産卵する。寿命は3年。陸封型をヤマメと呼ぶ。

生存への脅威

河川改修（河岸護岸や河道直線化など）による瀬淵構造の消失やダム・堰堤の設置によって生息域が著しく消失・減少し、特に親魚が生息するのに必要な大きな淵の減少が与える影響は大きい。またダムの調整機能や夏期の減水の影響も懸念されている。近縁種のサツキマス（アマゴ）が国内外来種として導入されている河川においては、交雑の進行が懸念されている。

保全対策

大きな淵の造成、河川流量の確保、魚道の整備。禁漁区の拡大、禁漁期間の延長など、網も釣りも含めて漁獲を制限することも必要である。また外来魚サツキマス（アマゴ）の交雑の進行を防ぐ必要がある。

特記事項

他産地のサクラマス種苗やヤマメ・アマゴ種苗が放流されているので、現存サクラマスの遺伝的な精査が必要である。富山の名産物「ますの寿司」の本来の材料である。

ドジョウ (コイ目、ドジョウ科) *Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor, 1842)

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

農業集排水路の改修、水田の圃場整備の進行とともに個体数が減少したが、前回RDB作成時と比べて状況は安定している。

形態

細長い体形で、全長15cmに達する。体色は腹面を除き褐色で、不定形の斑紋がある。上唇に3対、下唇に2対、計5対の口ひげがある。

国内の分布状況

日本全国。

県内の分布状況

平野部を流れる河川や集排水路に広く分布する。山間地の水田や周辺の細流にも分布する。

生態・生息環境

浅い水路や水田の底質が泥の場所に生息する。雑食性で、6月頃集排水路から水田に入り産卵する。孵化した仔魚は水田の中で育つ。

生存への脅威

圃場整備事業によって、水路護岸や集排水路落差拡大により集排水路と水田の間に段差が生じ、産卵のため水田へ入れなくなった。また田干しによって水田に水のない期間が生じるなど生息条件が失われた。

保全対策

河川や集排水路で産卵できるような環境を造成する必要がある。

特記事項

食用として市販されているドジョウは他地域から運ばれてくるものである。

シロウオ (スズキ目、ハゼ科) *Leucopsarion petersii* Hilgendorf, 1880

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

以前は産卵期である春に河川へ大量に遡上したが、現状では激減している。しかし、前回RDB作成時と比べて状況の変化はない。

形態

全長5cmほどの小形の魚。細長い体形で全身が半透明をしており、ハゼ科では例外的に第1背びれを欠く。体の中央部に気泡のような浮き袋を持つ。

国内の分布状況

北海道南部、本州、四国、九州。

県内の分布状況

角川、庄川、氷見市の河川の河口付近。

生態・生息環境

沿岸域で生息しているが、春の産卵期になると水がきれいである伏流水の多い川に上がってきて産卵する。寿命は1年くらい。

生存への脅威

産卵場所となる下流や河口付近の川底の平坦化による土砂堆積や汚染により、産卵場が減少または消滅。生息場所である沿岸部の改変や汚染・水質悪化も減少の原因と想定される。

保全対策

現状の調査を行い、生息・産卵場所を整備することが必要である。

特記事項

以前は河川に遡上する群を捕獲し、食用にしていた。現在は石川県などから「イサザ」という商品名で入荷している。

ドンコ (スズキ目、ドンコ科) *Odontobutis obscura* (Temminck et Schlegel, 1845)

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県西部の河川にのみ生息し、個体数は必ずしも多くはない。全国的に見ても分布のほぼ東限にあたる。

形態

カジカとハゼの中間的な体型をしており、体はずんぐりしていて、頭部はやや縦扁し、尾部は側扁する。体色は暗色で、体側上部に複数の大きな黒色斑がある。

国内の分布状況

本州の愛知県・新潟県以南、四国、九州。

県内の分布状況

庄川、小矢部川、氷見地方の河川の上・中流域。

生態・生息環境

主に河川の上・中流域の砂底や礫底の流れの緩やかな場所に生息する。一生を淡水域で送り、孵化した仔魚は、直ちに底生生活を送る。

生存への脅威

河川改修（河岸護岸、河床平坦化）による生息地の消失・悪化および分断化が、生息・繁殖の妨げとなっている。

保全対策

河川改修の際、川底をコンクリート張りとなせず、砂礫底を確保することが必要である。詳細な生態の把握が必要である。

メダカ北日本集団 (ダツ目、メダカ科) *Oryzias sakaizumii* Asai et al., 2011

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

水田の圃場整備や集排水路の改修、宅地開発などにより、生息地の減少および生息環境の悪化が進んでいる。しかし、前回RDB作成段階と比べて生息場所の状況に変化は少なく、当時と比べて安定した状態で保たれており、保全対象生物としての関心・意識も高まっている。

形態

全長4cmに満たない小形の魚。側面から見ると、眼が上方にあり、口は尖って上を向いている。雌雄の区別は、尻びれの形状がオスでは大きく平行四辺形なのに対し、メスでは小さく更に後方は狭くなっている。

国内の分布状況

本州、四国、九州、琉球列島。

県内の分布状況

黒部市、富山市、射水市、氷見市の河川やため池に多い。魚津市、滑川市、上市町、高岡市、小矢部市、南砺市にも生息。

生態・生息環境

遊泳能力が弱いので、溜池などの止水域や、流れの弱い集排水路や細流が基本的な生息域である。稲作の行われている地域に生息していることが多い。春になり産卵期が近づくと、水温の高いところを求めて、水田に入ろうとする。

生存への脅威

水田はメダカにとって、水温が高いこと、外敵が少ないこと、稚魚の餌が豊富なことなど、格好の繁殖の場所であったが、圃場整備による集排水路の護岸や落差拡大が進み、メダカが水田に入れなくなり、産卵場として利用できなくなった。外来魚の影響も大きく、溜池では、魚食性のオオクチバスやブルーギルの食害も脅威になっている。また、カダヤシが侵入している場所もあり、餌や生息地の競合による影響が危惧される。他県においては、国内外来個体の出現が報告されており、交雑による地域固有性の崩壊（遺伝子汚染）が懸念されている。

保全対策

メダカの住めるような流れの緩い環境を確保する。三面コンクリート張りでも、他の条件が整えば繁殖する。異なる水系の個体の放流を行わないことが重要である。

特記事項

遺伝子研究により、日本列島に生息するメダカは、北日本集団と南日本集団に大別され、北日本集団が新種として記載された。また、人為的な放流が各地で行われており、この結果として交雑が生じ、交雑種の出現や地域固有性のかく乱が懸念されている。

ウグイやタカハヤなど、他の魚類の稚魚も区別せず「メダカ」と呼んでいる場合が多く、注意が必要。

アユカケ (カマキリ) (カサゴ目、カジカ科) *Cottus kazika* Jordan et Starks, 1904

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

河川改修による生息域の減少が著しい。また、夏期の河川流量の減少や枯渇により、秋期の産卵時期まで河川で生息できない場所が多い。しかし、生息地は維持されており、遡上個体の継続的な確認がなされている。

形態

頭部が大きく、鰓蓋に鋭い棘を4本持つ。体色は環境に合わせるが、地色は灰色が基調で、体の背面に大きな黒斑を二つ持つ。最大で全長30cmほどになる。

国内の分布状況

神奈川県相模川・秋田県雄物川以南の本州、四国、九州。

県内の分布状況

県内の広い範囲において、河川中・下流域に生息する。

生態・生息環境

夏場は河川の中流域まで遡上し、秋から冬は下流域～河口域に下る。産卵は冬、下流域の石などの下で行われる。時に大形の産卵個体が沿岸部でも見られる。仔魚は海に下って沿岸部で過ごし、春に河川に遡上してくる。日中は淵にある大きな石の下にすることが多い。魚食性が強く、アユやハゼ類などを食べる。

生存への脅威

河川改修（特にダム・堰堤の設置）は、海からの遡上を妨げ、生息地を狭める主因となっている。また河岸護岸や河床の平坦化、および河道の直線化により、主要な生息場所である淵が減少している。ダムの調節機能により大きな出水が少なくなっているため、生息場所の石礫が埋まって浮き石がなくなり、身を隠す場所が少なくなっている。また、夏期の減水により、生息地が干上がることも多い。

保全対策

ダムや堰堤には、カジカ類が遡上できるような構造の魚道を設置し、成魚が潜むことのできる淵を造成する。夏期の河川流量を確保する。

カジカ大卵型 (カサゴ目、カジカ科) *Cottus pollux* Günther, 1873 large egg type

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

生息環境の悪化により生息域の減少や分断化が進み、生息個体数が減少している。しかし、前回RDBと比べて生息状況に大きな変化は無い。

形態

カジカ（中卵型）に似るが、多くは胸びれの鰭条数が12～14本（モード13本）であることで分けられる。

国内の分布状況

本州、四国。九州にも分布する。

県内の分布状況

県内各河川の上流域に広く分布する。

生態・生息環境

主として河川上流域の石礫などの下で生活する。産卵期は春で、石礫の下に卵塊を産み付ける。卵は大きく、孵化した大きな稚魚はすぐに底生生活に入る。

生存への脅威

河川改修（河床の平坦化や河道の直線化）及び土砂流出により、河床の浮き石が減少するなど、好適な生息・繁殖場所が消失・減少している。同時に餌環境の劣化も懸念される。またダムや堰堤の設置により生息地の縮小および分断化が生じている。

保全対策

ダムや堰堤には、段差が低く、流れの緩い部分を設け、遡上を可能にする。河床の平坦化を避け、浮き石を確保する。

特記事項

従来カジカとして扱われてきたが、主に遺伝子研究に基づき、大卵型、中卵型、小卵型（ウツセミカジカ）に大別される。外形で明確に区別するのは困難である。

河川によっては中・下流域でも見られる。氷見地域では、極めて限られた水域にのみ生息する。

スナヤツメ南方種 (ヤツメウナギ目、ヤツメウナギ科) *Lethenteron* sp. S

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生息環境の悪化により、生息地、個体数共に減少している。しかし、スナヤツメ北方種に比べると生息範囲が広く、比較的安定した状態が維持されている。

形態

細長いウナギ型の体形をしているが、口が吸盤状で顎がないので一見して区別できる。成魚で20cm未満。目の後ろに7個の鰓孔がある。対鰭を持たない。幼生はアンモシーテスと呼ばれ、目がなくじょうご型の口をもち、成体とはかなり異なった形態をしている。

国内の分布状況

青森県を除く本州、四国、九州。

県内の分布状況

県内の広い範囲において、河川の上・中流域に生息する。

生態・生息環境

幼生は、冷水を好み、山地・丘陵地を流れる細流や扇状地の湧水地帯や湧水が流入する集排水路の川底に泥や砂が堆積している場所に生息し、泥の中の有機物を食べて生活する。3～4年の幼生期の後に変態する。変態後は摂餌をせず、小礫底の平瀬で産卵した後に死亡する。

生存への脅威

河川改修（河岸護岸、河道直線化）や圃場整備（特に水路護岸）により、幼生の生育に適した砂泥底や産卵に適した平瀬が減少している。また地下水利用の促進による地下水位の低下が進み、湧水が継続的に供給される環境が減ってきている。さらに、生息水域が住宅地に隣接し、生活排水の流入や生活ゴミの投棄に伴う水質や底質悪化および餌環境の劣化も懸念される。加えて、堰堤の設置による移動障害とその結果としての生息域の分断および小集団化が生じている。国内外来個体が存在し、交雑による地域固有性の崩壊が懸念されている。

保全対策

湧水など冷水の継続的な確保が必要である。集排水路の改修の際、川底をコンクリート張りせず、砂泥が堆積し、水草の生育できる環境を整える配慮が必要である。また生息域の分断化を避けるために、堰堤に魚道を設置することが必要である。国内外来個体を生じさせる意図的・非意図的な移植を行わないことが必要である。

特記事項

遺伝子研究により、従来スナヤツメとして扱われていたが、外見上区別ができない2つのグループ（北方種と南方種）に大別されることが明らかになった。

かつては農村の集排水路に広く分布し食物として利用していた地域もある。

ウナギ (ウナギ目、ウナギ科) *Anguilla japonica* Temminck et Schlegel, 1846

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

以前は、天然のウナギが多く捕れたといわれているが、近年では、ほとんど見られない。しかし、十分な確認が困難であり、過去と比較できる情報が乏しい。また放流もされており、在来個体の実態は明らかではない。

形態

蛇のように細長いいわゆる「うなぎ形」で、背面は黒味が強く、腹面は白で、時に黄色みを帯びる。海から河川に戻ってくる幼魚は透明なのでシラスウナギと呼ばれる。

国内の分布状況

北海道の日高地方および石狩川以南の日本列島。

県内の分布状況

神通川、庄川、小矢部川。

生態・生息環境

基本的に夜行性で、日中は石の隙間などに身を潜めている。アユなどの魚類やエビなどを好んで食べる。産卵は、海に下りマリアナ諸島付近まで移動して行われる。孵化したレプトケファルスとよばれる幼生は海流に乗って北上し、日本海には対馬海流によって運ばれている。

生存への脅威

河川改修（河岸護岸、河床平坦化）が生息に影響を与えると考えられるが、詳細は明らかではない。

特記事項

各地で養殖ウナギが放流されている。

マルタ (コイ目、コイ科) *Tribolodon brandti* (Dybowski, 1872)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：地域個体群
(本州日本海側のマルタ)

選定理由

富山県が分布縁辺域にあたる。富山湾に流入する大河川に産卵のため遡上するが、実態は不明であり、過去と比較できる情報が乏しい。特に海洋生活期の実態把握が困難である。また幼魚期に大規模河川の下流域で確認されることもあるが、個体数の把握は困難である。

形態

ウグイによく似ており、婚姻色の相違により区別される。

国内の分布状況

北海道、本州の富山湾および東京湾以北の大きな河川。

県内の分布状況

神通川、庄川、小矢部川。

生態・生息環境

成魚は沿岸や河口に生息し、5月に河川に遡上し下流域の礫底平瀬で産卵する。幼魚は海へ下り干潮域で生活するが、河川下流域に出現することもある。富山県での遡上時期や個体数、稚魚に関する情報はほとんどない。

生存への脅威

河川改修（河床平坦化、土砂流出）による産卵環境の減少が懸念されるが、実態把握はできていない。

イチモンジタナゴ (コイ目、コイ科) *Acheilognathus cyanostigma* Jordan et Fowler, 1903

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

選定理由

生息地が庄川河川敷の湧水ため池に限定されるが、生息地改変による生息への影響が懸念される。

形態

他のタナゴ類に比べて体高が低い。痕跡的な口ひげが1対あるが、目認は困難である。体側に太く長い顕著な暗色縦条が走る。産卵期のオスは口の周辺に追星ができる。産卵期の雄は婚姻色として背方が青緑色に輝き、体側の前半部が紫桃色を帯びる。

国内の分布状況

琵琶湖水系および中部・近畿地域のいくつかの河川。最近、本州西部においても出現が確認されているが、移植によるものと考えられている。

県内の分布状況

庄川河川敷の湧水ため池。

生態・生息環境

メスはイシガイ類の外套腔内に産卵管をさし込み産卵する。これら二枚貝の生息する流れの緩やかな河川や集排水路に生息する。

生存への脅威

河川改修（河岸護岸、直線化）が進み、生息環境の喪失が進んでいる。この状況は産卵対象とする二枚貝類にとっても脅威となっており、二枚貝の減少が本種の繁殖機会の低下をもたらしている。

保全対策

産卵対象とする二枚貝類の生息環境の保全が必要である。

特記事項

富山県の個体は、移植個体の可能性もあるが、確認できていない。

ゴクラクハゼ (スズキ目、ハゼ科) *Rhinogobius giurinus* (Rutter, 1897) 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県は国内の分布域の中に含まれ、一部の河川の河口域で確認されているが、実態は不明である。また、海洋生活期の状況がわからず、個体数を判断するだけの情報が得られていない。

形態

ヨシノボリ属としては、吻が長く面長な顔付きである。頬にミミズ状の斑紋がある。体側には、青色の輝点が散在する。

国内の分布状況

本州の秋田・茨城県以南の日本列島。

県内の分布状況

片貝川、早月川、神通川、庄川の下流域で捕獲記録があるのみである。

生態・生息環境

河川中・下流域から汽水域の砂礫底に生息する。孵化した仔魚は海に下り、2-3cmに成長した後に河川に入り、底生生活を送る。成長に伴い、汽水域から淡水域へと上がっていく。

生存への脅威

河川改修（河岸護岸、河床平坦化、土砂流出）による礫底の減少による生息地の消失・悪化が懸念される。同時に沿岸域の環境変化も影響していると考えられるが、十分な情報は得られていない。

保全対策

河床の平坦化や土砂流出を避け、礫底の埋没を避ける。

ビリンゴ (スズキ目、ハゼ科) *Gymnogobius breunigii* (Steindachner, 1880) 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

河川の河口域で確認されることがあるが、実態は不明である。また海洋生活期の状況がわからず、個体数を判断するだけの情報が得られていない。

形態

シンジコハゼ、ジュズカケハゼに似るが、体側の模様は明確でなく、婚姻色も両種のように濃い黄色味を帯びない。頭部感覚管開孔は3対で、1本の感覚管の両端と中央に開く。

国内の分布状況

北海道から屋久島まで広く分布する。

県内の分布状況

県東部河川の河口付近。

生態・生息環境

河川下流・河口部の汽水域から淡水域までの砂泥底に生息する。産卵後、雌が孵化まで卵を守る。孵化仔魚は海へ下り、しばらくして川へ遡上する。富山県では、冬期に河口付近で採集されるが、他の時期の状況は不明。

生存への脅威

河川環境に加えて、沿岸域の環境変化が影響していると考えられるが、十分な情報は得られていない。

保全対策

詳細な生息状況と生態の把握がまず必要である。

ニッコウイワナ (サケ目、サケ科) *Salvelinus leucomaenis pluvius* (Hilgendorf, 1878) 富山県カテゴリー：絶滅のおそれのある地域個体群
(黒部川源流の地域個体群) 環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

黒部川源流域のイワナは、富山県でも自然個体群として維持されている唯一のニッコウイワナである。多くの釣り人が入り、かなり大きな漁獲圧にさらされて個体数が激減した時期もあり、他地域からのニッコウイワナの放流による遺伝子かく乱の恐れもある。前回RDB作成時と比べて、状況の大きな変化は生じていない。

形態

サケに似るが、全体に体が丸みを帯びている。全長で60cmほどに成長する大形の魚で、体側から背部にかけて橙色、黄色または白色の斑点が散在する。

国内の分布状況

本州の鳥取県及び神奈川県以北の河川上流域。

県内の分布状況

県内河川の最上流部に広く分布する。黒部川源流域では遡上できない滝のある岩苔小谷を除いてほとんどの谷に生息するが、岩苔小谷にも放流された個体が繁殖している。

生態・生息環境

昼間は大小の淵の落ち込みで流れ落ちてくる虫などを食べており、夜間は流れのごく緩やかな場所に見られる。

生存への脅威

黒部川源流域では、釣り人による過度の漁獲から絶滅も心配される状況が見られたが、個体群が回復する兆しが見えてきている。一方、断続的に放流される他地域個体との交雑による遺伝子的固有性のかく乱（遺伝子汚染）が懸念される。

保全対策

過度の漁獲をしないよう釣り人のモラルを高める必要がある。

特記事項

昭和63年に「黒部源流のイワナを愛する会」が結成され、保護を含め適度な釣りを推進する運動を展開している。

アジメドジョウ (コイ目、ドジョウ科) *Niwaella delicata* (Niwa, 1937)

富山県カテゴリー：絶滅のおそれのある地域個体群
(角川・早月川)
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本固有種。富山県の角川が分布縁辺域の河川になる。神通川など県中央部の河川では生息が確認されているが、角川および早月川では特に個体数減少が懸念されている。

形態

ドジョウに似た体形で外観はシマドジョウに酷似する。背びれ、腹びれ、尻びれは、比較的后方にある。背面や体側の模様は特徴的だが変異がある。吻には眼を通る黒い斜線はない。口唇は肥厚して半月型で、口の周りを囲んでいる。

国内の分布状況

富山県、長野県、岐阜県、石川県、福井県、滋賀県、京都府、三重県、大阪府などの府県。

県内の分布状況

角川以西の各河川の中・上流部。

生態・生息環境

山間の河川の上流から中流域にかけての早瀬から平瀬の礫底にすむ。冬期は伏流水中に入って越冬するといわれる。ユスリカ等の水生昆虫や付着藻類を食べるので、日中、川底の石の上で餌を食べる姿がよく見られる。季節によっては夜間も、活発に活動することが知られている。

生存への脅威

河川改修（河床平坦化や土砂流出）が河床構造を変化させ、生息地の悪化・減少をもたらしていると考えられるが、その影響は必ずしも明らかではない。

保全対策

河床の平坦化や土砂流出を避け、浮き石を確保し、礫底の埋没を避ける。

カワヨシノボリ (スズキ目、ハゼ科) *Rhinogobius flumineus* (Mizuno, 1960)

富山県カテゴリー：絶滅のおそれのある地域個体群
(上市川)
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県の上市川が分布縁辺域にあたる。個体数が安定する県西部および中央部の河川と比べて、上市川の個体数減少が懸念される。

形態

体長7cmほどの小型のハゼで、他のヨシノボリ類に似るが、胸びれの鱗条数が15～17本と他のヨシノボリ類より少ない。

国内の分布状況

本州の静岡県・富山県以南、四国、九州。

県内の分布状況

上市川以西の各河川の上・中流部。氷見の小河川では、下流部にも生息することがある。

生態・生息環境

河川陸封性で、主に河川の中～上流域にすむ。周囲に比べて勾配の急な流域の流水部に生息し、止水域では姿を消す。初夏、オス親が石の下を掘って巣をつくり、メスに産卵させる。孵化した稚魚はすぐに底生生活を始める。

生存への脅威

河川改修（河岸護岸、河床平坦化、土砂流出、ダム・堰堤の設置）による礫底の減少や止水域の出現が生息に影響を与えている。

保全対策

河床の平坦化や土砂流出を避け、礫底の埋没を避ける。河道に流水部を確保する。

= 参考文献 =

- 1) 青柳兵司, 1957. 日本列島産淡水魚類総説. 大修館. 272pp.+20pp.
- 2) Asai, T., H. Senou and K. Hosoya. 2011. *Oryzias sakaizumii*, a new ricefish from northern Japan (Teleostei : Adrianichthyidae). *Ichthyological Exploration of Freshwaters*, 22 : 289-299.
- 3) 稲村修, 1991. 富山県における外国原産の両生類・爬虫類・魚類について. 魚津水族館年報, 1 : 32-42.
- 4) 稲村修, 2002. 富山県におけるバス科魚類の分布. 富山市科学文化センター研究報告書, 25 : 113-118.
- 5) 稲村修・桧谷文彦, 1992. 角川の魚類と底生動物. 魚津水族館年報, 2 : 31-55.
- 6) 稲村修・不破光大, 2008. 2007年片貝川水棲生物調査. 魚津水族館年報, 18 : 27-35.
- 7) 稲村修・不破光大, 2008. 角川の魚類. 富山の生物, 47 : 39-46.
- 8) 稲村修・不破光大, 2009. 2008年片貝川水棲生物調査. 魚津水族館年報, 19 : 36-46.
- 9) 稲村修・不破光大, 2009. 2008年早月川下流部の魚類調査. 魚津水族館年報, 19 : 47-52.
- 10) 稲村修・不破光大, 2010. 2009年片貝川水棲生物調査. 魚津水族館年報, 20 : 27-33.
- 11) 稲村修・不破光大, 2010. 2009年早月川の魚類調査. 魚津水族館年報, 20 : 34-43.
- 12) 稲村修・田中晋, 1995. 北陸地方におけるシンジコハゼの地理的分布と変異. 日本魚類学会講演要旨, p.27.
- 13) 稲村修・加藤輝威・田中 晋, 2004. 富山県におけるバス科魚類の分布 (2000年～2002年). 富山の生物, 43 : 9-20.
- 14) 稲村修・不破光大・伊串祐紀・門田信幸, 2011. 渋江川の魚類. 富山の生物, 50 : 29-36.
- 15) 稲村修・不破光大・伊串祐紀・草間 啓, 2012. 2010年片貝川水棲生物調査. 魚津水族館年報, 21 : 29-31.
- 16) 稲村修・不破光大・伊串祐紀・草間 啓, 2012. 舟川の魚類. 富山の生物, 51 : 35-40.
- 17) 川那部浩哉・水野信彦 (編・監修), 2001. 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚改訂版. 山と溪谷社.
- 18) 環境省自然環境局野生生物課編, 2003. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－4 汽水・淡水魚類. 自然環境研究センター.
- 19) 国土交通省河川局河川環境課監修 (財) リバーフロント整備センター編集「河川水辺の国勢調査」・黒部川 (1993年)・常願寺川 (1996年)・神通川 (1995年・2000年)・庄川 (1997年)・小矢部川 (1994年・1999年).
- 20) 田子泰彦, 1999. 神通川と庄川におけるサクラマス親魚の遡上範囲の減少と遡上量の変化. 水産増殖, 47 : 114-118.
- 21) 田中晋, 1991. 富山県の淡水魚類－分布と特徴. 後藤克己編「富山の自然と文化」: 137-141.
- 22) 田中晋. 1992. 富山県におけるイタセンパラ保護の経過－淡水魚保護のシンボルとして. 淡水魚保護, 終巻号 : 2-5.
- 23) 田中晋 (編著), 1993. とやまの川と湖の魚たち. シーエーピー発行. 289pp.
- 24) 田中晋, 1997. イタセンパラ. 長田芳和・細谷和海編「日本の希少淡水魚の現状と系統保存」: 86-94. 緑書房.
- 25) 田中晋・小林均・中西善雄, 1987. 富山県における淡水魚類の分布 (補遺.) 富山大学教育学部紀要, 35 : 13-24.
- 26) 田中晋・殿山美喜夫・宮崎重導・小林英俊・水野尚, 1978. 富山県の淡水魚類. 田中晋 (編著)「富山県の陸水生物」: 253-306. 富山県.
- 27) 田中晋・長井宗路, 1993. 黒部川扇状地におけるトミヨ (トゲウオ科) の分布. 富山大学教育学部紀要, 43 : 5-12.

- 28) 土肥宇三郎, 1935. 津沢町を中心とする小矢部川本流及び支流に於ける魚属採集目録.
- 29) 富山県, 1978. 淡水魚類 - 環境相委託第2回自然環境保全基礎調査動物分布報告書. 35pp.
- 30) 富山県動物生態研究会, 1995. 富山県の淡水魚類. 富山県の水生生物: 1-15. 富山県生活環境部自然保護課.
- 31) 富山県富山農地林務事務所・富山県水生生物研究会, 1999. 常願寺川流域生態系調査報告書. 富山農地林務事務所. 176pp.
- 32) 富山県富山農地林務事務所・(社)農村環境整備センター, 2000. 中山間総合整備南砺地区調査報告書. 富山県富山農地林務事務所. 173pp.
- 33) 中坊徹治 (編), 2000. 日本産魚類検索: 全種の同定, 第2版. 東海大学出版会.
- 34) 南部久男, 1984. 富山県の淡水魚3種 (カンキョウカジカ, カジカ, ゴクラクハゼ) の記録. 富山市科学文化センター研究報告, 6: 95-96.
- 35) 南部久男, 1989. 富山県の淡水魚. 南部久男編著「田中晋淡水魚コレクション」富山市科学文化センター収蔵資料目録, 3: 10-21.
- 36) 氷見市, 1999. 氷見市史 第9巻資料編七 自然環境, 第8章淡水魚: 367-402.
- 37) 氷見市教育委員会. イタセンパラ天然記念物 再生事業報告書I (2005年), II (2006年), III (2008年), IV (2010年). 氷見市教育委員会.
- 38) 福田保・美馬純一・山崎裕治・伊藤千陽・波佐谷紘子・安達文成・堺康浩・南部久男, 2010. 栃津川の淡水魚. 富山の生物, 49: 29-32.
- 39) 水野信彦・後藤晃, 1987. 日本の淡水魚類: その分布, 変異, 種分化をめぐって. 東海大学出版会.
- 40) Yamazaki, Y. and A. Goto, 1996. Genetic differentiation of *Lethenteron reissneri* populations, with referenece to the existence of discrete taxonomic entities. *Ichthyological Research*, 43: 283-299.
- 41) 山崎裕治・後藤晃, 2000. ヤツメウナギ類における系統分類と種分化研究の現状と課題. *魚類学雑誌*, 47: 1-28.
- 42) Yamazaki, Y., A. Goto, H. K. Byeon and S. R. Jeon, 1999. Geographical distribution patterns of the two genetically divergent groups of *Lethenteron reissneri* (Petrymyzonidae). *Biogeography*, 1: 49-56.
- 43) Yamazaki, Y., N. Shimada and Y. Tago, 2005. Detection of hybrids between masu salmon (*Oncorhynchus masou masou*) and amago salmon (*O. m. ishikawae*) occurred in the Jinzu River using a random amplified polymorphic DNA (RAPD) technique. *Fisheries Science*, 71: 320-326.
- 44) Yamazaki, Y., S. Haramoto, T. Fukasawa, 2006. Habitat uses of freshwater fishes on the scale of reach system provided in small streams. *Environmental Biology of Fishes*, 75: 335-342.
- 45) Yokoyama, R., Yamano, A., Takeshima, H., Nishida, M., Yamazaki, Y., 2009. Disturbance of the indigenous gene pool of the threatened brook lamprey *Lethenteron sp. S* by intraspecific introgression and habitat fragmentation. *Conservation Genetics*, 10: 29-43.
- 46) 山崎裕治・中村友美・西尾正輝, 2009. ブラックバスに捕食されたイタセンパラ. *魚類学雑誌*, 56: 76-77.
- 47) 山崎裕治・中村友美・西尾正輝・上原一彦, 2010. 富山県および大阪府に生息するイタセンパラ集団の遺伝的構造. *魚類学雑誌*, 57: 143-148.
- 48) Yamazaki, Y., Yamano A., Oura, K, 2011. Recent microscale disturbance of gene flow in threatened fluvial lamprey, *Lethenteron sp. N*, living in a paddy water system. *Conservation genetics*, 12: 1373-1377.
- 49) 山下博三, 1937. 富山県の淡水魚略記. 富山高校博物同好会会誌, 3: 42-52.

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.6 昆虫類

6.6 昆虫類

(1) 県内の昆虫相の概要

日本に生息する昆虫類は約32,000種（日本昆虫学会ホームページ）知られているが、うち富山県内では「富山県の昆虫」（1979）に約5,000種記録され、その後の各種記録を含めると8,000種くらいになると見込まれる。

富山県は本州中部に位置する中緯度地帯に含まれる。比較的小さな県ではあるが、標高3,000mの北アルプス地帯から水深1,000mの富山湾まで、傾斜が強く変化に富んだ地形となっている。その富山湾には対馬暖流が流れ込み、富山県地方には寒地性昆虫と暖地性昆虫が交錯し、多様な昆虫相を現出している。

このレッドデータブック対象種の中で、富山県を分布の南限（または西限）とする寒地性の昆虫は、メススジゲンゴロウ、ミヤマシジミ、オオゴマシジミ、タカネハバチなどである。また、富山県を分布の北限（または東限）とする暖地性の昆虫は、ヒラサナエ、ムスジイトトンボ、オオシモフリスズメ、ウシカメムシ、ハネナシセスジキマワリ、シロオビコバナナミシヤクなどである。さらに、トヤマゴマフアブは富山県特産種、トヤマオオミズクサハムシはオオミズクサハムシの富山県固有亜種である。

富山県は海岸から3,000m級の高山まで昆虫が生息するが、山は急峻、河川は急流で、昆虫を豊産する好適地には恵まれていない。県の東部と西部では地形的差異から昆虫相にも相違が見られ、北アルプスのある東部では高地性の昆虫が多く、また寒地性の昆虫が多く混入しているのに対し、西部は丘陵性・平地性の地形が多く、水生昆虫が多く生息し、暖地性昆虫の混入率が高い。地帯別昆虫の例を挙げると、高山帯・亜高山帯ではムツアカネ、ヒメオオクワガタ、フタスジカタビロハナカミキリ、クモマツマキチョウ、オオゴマシジミ、タカネヒカゲ、シバタニセヒラタコメツキ、ミヤマモンキチョウ、ホッキョクモンヤガなど、山麓部ではムカシトンボ、オジロサナエ、ヒメサナエ、カラカネトンボ、ハネビロエゾトンボ、ミヤマシジミ、オオシモフリスズメ、ギフチョウなど、平地ではオツネトンボ、ネアカヨシヤンマ、タガメ、ゲンゴロウ、マダラヤンマ、ムスジイトトンボ、マイコアカネ、ヒラタクワガタなどが生息する。

(2) 対象種の選定

レッドリストの選定にあたっては、各分類群ごとに専門家によるワーキンググループで検討を重ね、グループ員の知見と文献調査・標本調査などから対象種を選定した。選定の基準としては、対象種の生息環境、生息個体数、分布状況、希少性などによる18項目を複数選択する方式により、その種の生息状況、減少状況、危急性、希少性などを判定した。この判定方式のなかで、特に多く選択された項目は次のような内容の項目であった。

- ・個体数が減少しているもの
- ・生息条件が悪化しているもの
- ・過度の採集圧にさらされているもの
- ・生息地が県内において局限されているもの
- ・分布地域がごく限られた固有種であるもの
- ・生物地理上の分布境界域に生息しているもの
- ・生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としているもの

(3) カテゴリー区分の「情報不足種」について

カテゴリー区分の「情報不足種」は「容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有するもの」という定義づけであり、それによって、昆虫部門でも種の選定が行われた。しかし、昆虫類の生息環境の多様さ、多岐にわたる生活史・行動の多様性から、「情報不足」の一言では捉えきれないカテゴリー区分であり、昆虫類では「情報不足種」を「準絶滅危惧」以上の上位カテゴリーには属さないが、「注意深く調査・観察を継続していかなければならない種」との観点から、次の3つの細分で種の特徴を「特記事項」欄に標記した。

- ・ 要注意種（限定）：生息状況がある程度把握され、元来生息地あるいは生息数が限られているが、「準絶滅危惧種」以上のカテゴリーには含まれないもの。
- ・ 要注意種（減少）：生息状況がある程度把握され、比較的広範囲に分布しているが、生息地あるいは生息数が減少しているもの、かつ、「準絶滅危惧種」以上のカテゴリーには含まれないもの。
- ・ 要注意種（注目）：県内が分布限界付近となっているもの、分布域が県内もしくはその近傍に限られるもの、特異な分布を示す等で減少が懸念されるもの、情報不足等により分布状況が把握されにくい減少が危惧されているもの、採集圧その他の理由で「容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有する」と考えられるものなどで、「準絶滅危惧種」以上のカテゴリーには含まれないもの。

(4) 種名等の表現

見出しの昆虫名は種名を原則としたが、一般的に亜種名が使われている昆虫名は亜種名を見出しにした。

和名や学名などの名称類は原則として環境庁（現環境省）の日本産野生生物目録（1995）に準拠して表現した。

(5) 謝辞

改訂版リストをまとめるにあたり、文献の貸与、写真の撮影・提供、標本の借用、データのご教示、多岐にわたるご助言など、様々な形で多くの方々のお世話になりました。ここに、そのご芳名を記して、心より謝意を表します。（敬称略、五十音順）

荒木克昌、大阪市立自然史博物館、黒川秀吉、澤樹征司、新堀 修、田埜 正
 富沢 章、富山県立山カルデラ砂防博物館、富山市科学博物館、故・林 梅夫
 室田忠男、和田茂樹

なお、初版リスト（2002年版レッドリスト）の作成の折にも多数の方々のお世話になりました。改訂版の性格上、初版の写真・情報など、多くをそのまま利用させてもらっていますが、初版に重ねてのご芳名掲載は割愛させていただきます。

オツネトンボ (トンボ目、アオイトトンボ科) *Sympecma paedisca* (Brauer, 1877)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては平野部の水田地帯でも見られたようであるが、最近の記録は非常に少なく、唯一安定して確認されていた朝日町境の湿地が2009年に消滅したため、現在の確実な産地はない。

形態

全長37～41mm、腹長28～31mm、後翅長20～22mm。地色は淡褐色で、褐色の斑紋があり、越冬後は複眼が青色になる。未熟個体はホソミオツネトンボに似るが、前翅と後翅の縁紋が重ならないことなどで区別できる。

国内の分布状況

北海道から九州北部にかけて分布する。北陸地方では能登地方で生息が確認されているが、産地は限られ、福井県からは確実な記録がない。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、富山市、射水市、高岡市、氷見市の7市町から記録があるが、最近の記録は少なく、現在の確実な産地はない。

生態・生息環境

平地から山地の抽水植物の繁茂する水質の良い池沼に生息する。成虫は7月に羽化してそのまま越冬し、翌年6月まで見られる。越冬後の成熟雄は4月頃から水辺の草などに静止して縄張りを作り、交尾は水域周辺の抽水植物などに静止して行われる。産卵はおもに連結態で水辺の抽水植物などに行われる。

生存への脅威

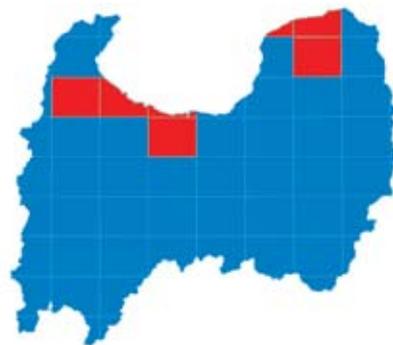
近年記録されているのは、沿岸部の池沼に限られるが、生息地の埋め立てや水質悪化が懸念される。また、越冬時に必要な草地や林が発生地周辺の存在することも必要である。ブラックバス等の外来生物による捕食圧も心配される。

保全対策

水質の良い抽水植物の繁茂した池を保存することが望まれる。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは準絶滅危惧に指定されている。



ムスジイトトンボ (トンボ目、イトトンボ科) *Paracercion melanotum* (Selys, 1876)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸沿いを中心に記録されているが、現在の確実な産地はない。

形態

全長30～38mm、腹長24～31mm、後翅長15～22mm。オオイトトンボ、セスジイトトンボに酷似するが、雄は尾部付属器の形状、雌は前胸後縁に切れ込みがあることで区別できる。

国内の分布状況

宮城県から沖縄県にかけて分布するが、内陸部での記録は少なく、日本海側では富山県が東限となっている。

県内の分布状況

入善町、黒部市、射水市、高岡市、氷見市の5市町から記録があるが、2006年の記録を最後に確認例が途絶えている。石川県では七尾市で生息が確認されている。

生態・生息環境

海辺の浮葉植物の繁茂する池沼に生息する。ある程度の水深があることが必要であり、夏期に干上がるような環境ではほとんど見られない。成虫は5月から10月に見られ、セスジイトトンボと混生することも多い。成熟雄は水面付近の草などに静止して縄張りをつくる。交尾は水域周辺の植物に静止して行われ、産卵はおもに連結態で水面の浮葉植物などに行われる。

生存への脅威

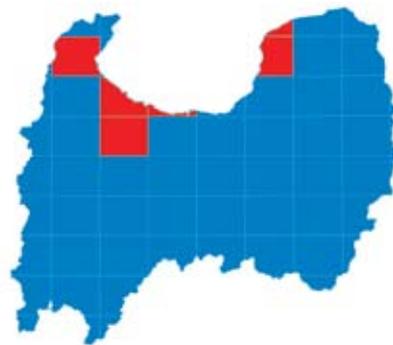
かつては射水市や黒部市に多産地が存在したが、埋め立てや水質悪化の影響で現在は見られなくなっている。平野部の池沼は埋め立てや改修、水質悪化の危険性が高い。ブラックバス等の外来生物による捕食圧も心配される。

保全対策

海辺の水質の良い池沼の保全が望まれる。また、分散力の強い種なので、海辺に新たに水辺を作ることで、定着させることが可能だと考えられる。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは情報不足に指定されている。



ネアカヨシヤンマ (トンボ目、ヤンマ科) *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

県内では産地が局限され、唯一の安定した産地であった氷見市宮田周辺でも個体数は激減している。

形態

全長75～88mm、腹長49～61mm、後翅長46～55mm。黄緑色の斑紋をもち、腹部がくびれない大型のヤンマであり、アオヤンマと比較的似るが、体斑の形状で区別できる。幼虫は背中に刺があり、他種と容易に区別できる。

国内の分布状況

国内では宮城県から鹿児島県にかけて生息するが産地は局所的である。

県内の分布状況

朝日町、富山市、射水市、砺波市、小矢部市、高岡市、氷見市の7市町から記録がある。現在の確実な産地は氷見市宮田周辺のみであり、同地でも個体数は激減している。

生態・生息環境

平地から丘陵地の周囲に林のある抽水植物の繁茂する池沼や湿地に生息し、放棄水田で発生することもある。成虫は5月から9月に見られ、黄昏時に活発に捕食活動を行う。成熟雄は林内で探雌飛翔を行う。交尾は林縁の枝などに静止して行われ、雌は単独で朽ち木や水際の泥に産卵する。

生存への脅威

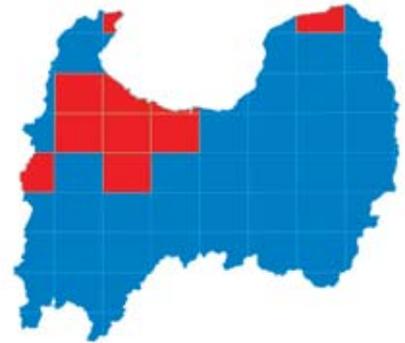
平地や丘陵地の池沼は埋め立てや改修の影響を受けやすく、汚水の流入や周辺林の伐採などで絶滅する危険性が高い。水深の浅いところに生息するため、湿地の乾燥化、草地化で絶滅する可能性も考えられる。

保全対策

周辺林を伴う抽水植物の繁茂した池沼や湿地の保全が望ましい。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは準絶滅危惧に指定されている。



カトリヤンマ (トンボ目、ヤンマ科) *Gynacantha japonica* Barteneff, 1909

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

かつては県下全域に極めて普通に見られたが、近年著しく減少して、ほとんど絶滅状態である。現在は富山市の極めて限られた範囲で確認されているのみであり、個体数も少ない。

形態

全長66～77mm、腹長47～54mm、後翅長42～48mm。腹部が細長い中型のヤンマで、複眼が大きく胸部は成熟すると緑色になる。雄の尾部付属器、雌の尾毛は極めて細長い。

国内の分布状況

北海道から沖縄県にかけて生息するが、近年全国各地で減少傾向にある。北陸地方以北の日本海側では現在絶滅状態に近い。

県内の分布状況

かつては県下全域に広く生息したようであるが、確実な記録があるのは立山町、富山市、射水市、砺波市、小矢部市の5市町で、現存の産地は富山市のごく一部である。

生態・生息環境

平地から丘陵地の周囲に樹林のある池沼や水田、河川敷の水溜りなどに生息する。成虫は7月から11月に見られる。黄昏時に活発に飛翔し、かつては日中、林の枝で鈴なりに静止しているのが見られたという。成熟雄は夏には林内で枝をつつくように飛翔して探雌することが多いが、秋には日中、湿地上でホバリングする個体が目立つようになる。交尾は水域周辺の林内の枝などに静止して行われ、産卵は雌が単独で水際の泥に行う。

生存への脅威

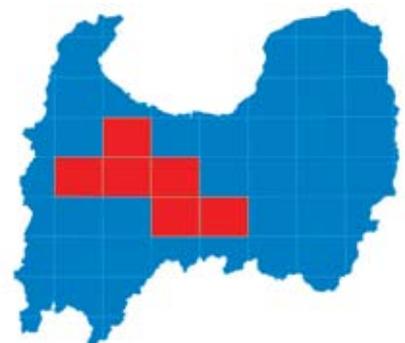
水田の圃場整備、農薬散布、生息地周辺の開発などで県内ではほとんど絶滅状態にある。

保全対策

樹陰の多い池沼や、周辺林のある水田の保全が望まれる。現存の生息地は、非常に不安定な環境のため、早急な保護が望まれる。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。



オナガサナエ (トンボ目、サナエトンボ科) *Melligomphus viridicostus* (Oguma, 1926)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では1959年を最後に確認例がなく、絶滅状態に近い。

形態

全長58～65mm、腹長38～46mm、後翅長32～38mm。中型のサナエトンボで、雄は腹端がふくらみ、尾部付属器は長く先端が曲がっている。

国内の分布状況

日本特産種で青森県から鹿児島県にかけて分布する。北陸地方では、福井県では比較的広範に分布するが、石川県からは最近加賀市周辺で記録されているのみである。

県内の分布状況

富山市、南砺市で各1例の記録があるのみである。

生態・生息環境

丘陵地の河川上～中流域にかけて生息する。成虫は他県では6月から9月にかけて見られる。成熟雄は流畔の石などに静止して縄張をつくり、交尾は水域から離れた高い樹木の葉上で静止して行われる。産卵は雌が単独で卵塊を作った後、流れの上でホバリングしたまま放卵して行われるが、敏捷に飛翔しながら水面に打水することもある。

生存への脅威

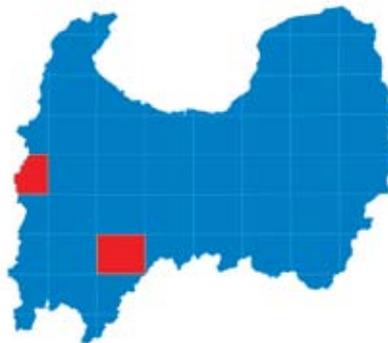
河川改修、水質悪化等の影響で県内では絶滅状態に近い。

保全対策

生息地が確認された場合、その周辺地域の保全が望ましい。

特記事項

石川県版レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。



アオサナエ (トンボ目、サナエトンボ科) *Nihonogomphus viridis* Oguma, 1926

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では子撫川流域で生息が確認されているのみで、生息地周辺では河川改修が進んでおり、絶滅に瀕している。

形態

全長58～63mm、腹長39～45mm、後翅長32～38mm。胸部が緑色の中型のサナエトンボ。雄は腹端が広がり、長い尾部付属器をもつ。未熟個体はホンサナエと比較的類似するが、胸部の斑紋や付属器の形状で区別できる。

国内の分布状況

日本特産種で、岩手県、秋田県から鹿児島県にかけて分布するが、東日本では産地に限られる。石川県では小松市周辺で記録されているのみである。

県内の分布状況

小矢部市、高岡市の子撫川流域で確認されているのみであるが、2006年の記録を最後に確認例が途絶えている。

生態・生息環境

丘陵地の河川中流域に生息し、成虫は堰などの周辺の流れが緩やかなところを好む。成虫は5月から7月に見られ、成熟個体は黄昏時に活発に活動する。成熟雄は流畔の石などに静止して縄張りをつくり、交尾は水域周辺の高い樹木の葉上で静止して行われる。産卵は雌が単独で卵塊を作った後、流れの上でホバリングしたまま放卵して行われるが、敏捷に飛翔しながら水面に打水して行われることもある。

生存への脅威

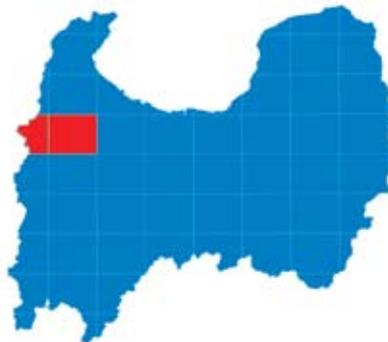
河川改修、水質悪化で絶滅につながる危険性が高い。生息地周辺の森林の伐採なども間接的に絶滅につながる危険性がある。

保全対策

幼虫は産卵場所からかなり流下して羽化するため、生息地周辺の広範な自然環境の保全が望ましい。また、河川改修を行う際は流れを直線化させず、植生が回復しやすいように配慮することが望ましい。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。



ヒラサナエ (トンボ目、サナエトンボ科) *Davidius moiwanus taruii* Asahina et Inoue, 1973

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生息地が著しく限られる上に、近年生息地周辺での環境の悪化が目立つ。

形態

全長36～49mm、腹長25～36mm、後翅長23～29mm。小型のサナエトンボで、ダビドサナエやクロサナエに似るが、雄は尾部付属器、雌は後頭黒縁の形で区別される。本県産の個体は他県産と比較して大型である。

国内の分布状況

日本特産種であるモイワサナエの中日本亜種。富山、石川、福井、滋賀、京都、兵庫、岡山の各府県に生息するが生息地は局限される。富山県は本亜種の分布東限に位置する。

県内の分布状況

南砺市、小矢部市、高岡市、氷見市の4市で記録があるが、産地は極めて限られる。

生態・生息環境

丘陵地のフキなどの生えた湿地を流れる細流に生息する。成虫は4月から7月まで見られる。未熟個体も生息地周辺をあまり離れない。成熟雄は流れの付近の草などに静止して縄張りをつくり、交尾は水域周辺の草や低木の葉上で静止して行われる。産卵は雌が単独で水際の草の上などでホバリングしながら腹端をわずかに振って卵をばらまく。

生存への脅威

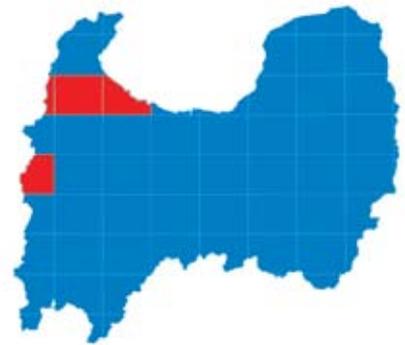
本種の多産した高岡市五十里は河川改修の影響で個体数が激減している。他の産地も伐採や道路建設で、生息環境が消失、乾燥化する危険性が高い。

保全対策

生息地の細流、周辺部の森林の保全が望ましい。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは準絶滅危惧に指定されている。



ヒメサナエ (トンボ目、サナエトンボ科) *Sinogomphus flavolimbatus* (Matsumura in Oguma, 1926)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では産地が局限され、河川改修などの影響で絶滅する危険性が考えられる。

形態

全長41～46mm、腹長31～34mm、後翅長24～28mm。小型のサナエトンボで、翅胸前面にはハの字型の黄斑に加えて、背隆線に沿っても黄色部がある。胸部側面の黒条は1本。尾部付属器は白く、雄では直線状。

国内の分布状況

日本特産種で、青森県から鹿児島県にかけて分布するが、東日本では産地が限られる。石川県では小松市周辺で記録されているのみである。

県内の分布状況

富山市須原の大谷川で少数が確認されているのみである。

生態・生息環境

林に囲まれた丘陵地から山地の溪流に生息する。成虫は6月から8月にかけて見られる。成熟雄は木漏れ日の当たるような溪流の石などに静止して縄張りをつくる。交尾は低木の葉などに静止して行われ、産卵は雌が単独で卵塊を作ってから、間欠的に打水して行われる。

生存への脅威

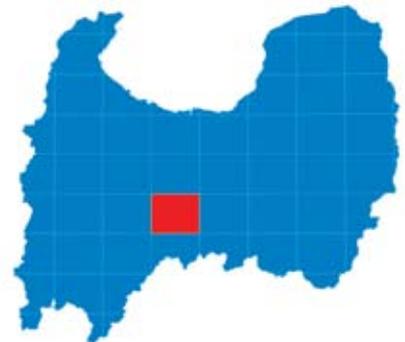
河川改修や砂防ダム工事、生息地周辺の森林伐採などで絶滅に至る危険性がある。

保全対策

生息地の溪流と周辺部の森林の保全が望まれる。

特記事項

石川県版レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。



オジロサナエ (トンボ目、サナエトンボ科) *Stylogomphus suzukii* (Matsumura in Oguma, 1926)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では産地が局限され、河川改修などの影響で絶滅する危険性が考えられる。

形態

全長41～47mm、腹長30～34mm。後翅長21～27mm。小型のサナエトンボで、胸部にY字型の黒条がある。尾部付属器は白く、雄では牛の角状である。

国内の分布状況

日本特産種で、岩手県、秋田県から鹿児島県にかけて分布する。北陸地方では、福井県では比較的広く分布するが、石川県では小松市周辺と能登半島の一部で記録されているのみである。

県内の分布状況

富山市の3つの河川で記録があるが、安定した産地は富山市須原の大谷川のみである。

生態・生息環境

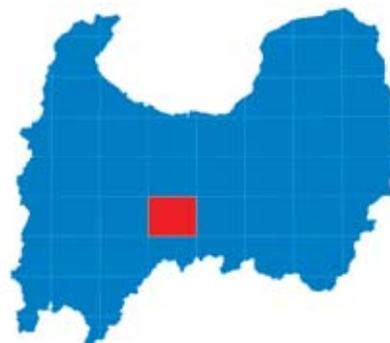
丘陵地の溪流に生息するが、比較的緩やかな流れを好む。成虫は6月から9月にかけて見られる。成熟雄は木漏れ日の当たるような溪流の石などに静止して縄張りをつくる。交尾は低木の葉などに静止して行われ、産卵は雌が単独で水が浸る程度の砂利の上に打水して行われる。

生存への脅威

河川改修や砂防ダム工事、生息地周辺の森林伐採などで絶滅に至る危険性がある。

保全対策

生息地の溪流と周辺部の森林の保全が望まれる。



ホンサナエ (トンボ目、サナエトンボ科) *Shaogomphus postocularis* (Selys, 1869)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

近年激減しており、県内では1972年を最後に確認例が途絶えている。

形態

全長49～55mm、腹長33～36mm、後翅長29～32mm。ずんぐりした中型のサナエトンボで、雄は腹端がふくらみ、尾部上付属器が強く曲がっている。

国内の分布状況

北海道から宮崎県、熊本県にかけて生息する。北陸地方では近年激減しており、石川県では1950年代以降全く確認されていない。

県内の分布状況

上市町、富山市、高岡市の3市町から記録があるが、近年は全く確認されていない。

生態・生息環境

平地から丘陵地にかけての河川中～下流域に生息する。成虫は他県では5～6月に多く見られる。成熟雄は、流畔の石などに静止して縄張りをつくる。交尾は水域からやや離れた木立に静止して行い、産卵は雌が単独で卵塊を形成してから打水して行く。

生存への脅威

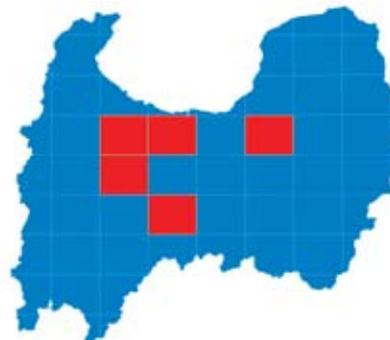
河川改修、水質悪化の影響で、現在はほとんど絶滅状態である。

保全対策

河川中流域の汚染が少なく、自然度の高い環境を保全、回復させることが望ましい。

特記事項

石川県版レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。



キイロサナエ (トンボ目、サナエトンボ科) *Asiagomphus pryeri* (Serys, 1883) 富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

河川改修や水質汚濁の影響で、近年著しく個体数が減っている。

形態

全長64～69mm、腹長45～51mm、後翅長39～44mm。大型のサナエトンボで、ヤマサナエに似るが、雄は尾部上付属器や副性器の形状、雌は産卵弁が突出することで区別できる。

国内の分布状況

新潟県から鹿児島県にかけて分布する。北陸地方では近年激減している。

県内の分布状況

富山市、射水市、南砺市、氷見市の4市から記録があるが、現在確実に生息しているのは射水市の一部だけである。

生態・生息環境

平地から丘陵地の緩やかな流れに生息する。成虫は5月に羽化して8月まで見られ、ヤマサナエより若干出現期が遅れる傾向にある。成熟雄は流畔の草などに静止して縄張りをつくる。交尾は樹葉の上に静止して行われ、産卵は雌が単独で水域周辺の草に静止もしくは流れの上でホバリングしながら卵塊を作った後、打泥もしくは打水して行う。連続打泥産卵を行うこともある。

生存への脅威

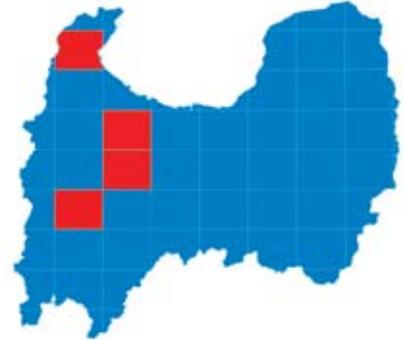
射水市では近年、河川改修が進んでおり、本種の生息域が狭められつつある。生息地は平野部から丘陵地の河川に限られるため、河川改修や水質悪化の影響を受けやすい。また、未熟期を過ごす林が周囲に存在することも必要条件である。

保全対策

現在県内では唯一生息の確認されている射水市の下条川水系の生息環境を保全することが望ましい。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。



ハネビロエゾトンボ (トンボ目、エゾトンボ科) *Somatochlora clavata* Oguma, 1913 富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

もともと生息地が限られていたが、近年激減し、絶滅に瀕している。

形態

全長58～66mm、腹長37～46mm、後翅長39～43mm。全身金緑色の中型のトンボで、エゾトンボに極めて似るが、雄は尾部付属器や副性器、雌は産卵弁の形状で区別できる。

国内の分布状況

日本特産種で、北海道から鹿児島県にかけて生息するが、全国的に減少している。北陸地方では、現在の確実な産地が非常に限られる。

県内の分布状況

確実な記録のあるのは黒部市、立山町、上市町、富山市、小矢部市の5市町であるが、現在は富山市の一部でわずかに見られるのみである。

生態・生息環境

丘陵地の緩い小川や用水路に生息する。成虫は7～10月に見られる。成熟雄は、流れの上でホバリングを交えながら縄張りをつくる。交尾は樹梢で静止して行われることが多く、雌は単独で水面や水際の泥に打水、打泥産卵を行う。

生存への脅威

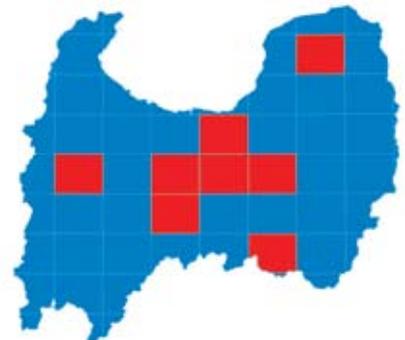
用水路の護岸や農薬の散布、周辺林の伐採などが絶滅につながる危険性が高い。

保全対策

生息地周辺の水路、森林の保全が望まれる。

特記事項

石川県版レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。



タイリクアカネ (トンボ目、トンボ科) *Sympetrum striolatum imitoides* Bartenef, 1919

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が限られ、現在の確実な産地はない。

形態

全長41～49mm、腹長25～33mm、後翅長29～33mm。大型のアカネで、胸部の黒条は細くて短い。北陸地方の個体は、翅が前縁を中心に鮮やかな橙色になる。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布するが、関東地方から中部地方にかけては分布の空白域がある。北陸地方では能登島周辺で記録が多いが、それ以外の地域では少なく、福井県からは未記録である。

県内の分布状況

射水市、高岡市、氷見市の3市から記録があるが、生息環境の悪化が激しく、2004年の記録を最後に確認例が途絶えている。石川県では七尾市で生息が確認されている。

生態・生息環境

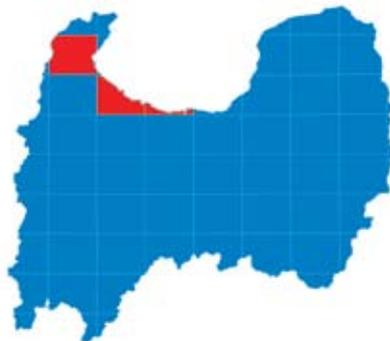
沿岸部の池沼に生息し、他県では汽水域や学校のプールでも記録されている。成虫は6～7月に羽化して一旦生息水域を離れ、9月頃から水辺に戻り11月まで見られる。成熟成虫は晴れた日の午前中に多く見られ、交尾は水域周辺の抽水植物などに静止して行われる。産卵は連結態または雌が単独で打水して行われる。

生存への脅威

本種の羽化発生が確認された氷見市藪田の湿地は道路工事に伴う埋め立てで消滅し、射水市海王町、海竜町でも埋め立てと水質悪化で絶滅した可能性が高く、現在の確実な発生地は皆無である。ブラックバス等の外来生物による捕食圧も心配される。

保全対策

海辺の池沼、湿地の保全が望まれる。また、分散力の強い種なので、海辺に水辺を作ることで、定着させることが可能だと考えられる。



カヤコオロギ (バッタ目、マツムシ科) *Euscyrtus japonicus* Shiraki, 1930

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

河川敷や草原に生息するが、近年、全国的に減少傾向にある。富山県では、戦前の記録が1例あるのみ。

形態

体色は黄褐色で、背面は濃褐色。ハネは短く発音器はない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

小矢部市興法寺での戦前の古い記録があるのみ。

生態・生息環境

乾燥した明るいイネ科の草原。

生存への脅威

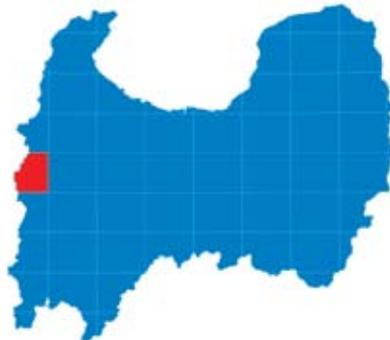
明るい草原や河川敷の草原の減少や農薬の散布。

保全対策

生存に適する草原の保全、除草剤・殺虫剤等の使用を控える。

特記事項

千葉県（絶滅危惧Ⅰ類）など、12県で指定あり。



ハマスズ (バッタ目、ヒバリモドキ科) *Dianemobius csikii* (Bolivar, 1901)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

自然度の高い砂浜の砂地に棲み、希に河原にも棲む。各地で生息地が減少している。富山県では、常願寺川中流河川敷で記録があるのみ。

形態

小型のコオロギで、淡褐色に褐色の斑点があり、色彩は砂によく似る。ジージーと鳴く。

国内の分布状況

本州、四国、九州、徳之島以北の南西諸島。

県内の分布状況

常願寺川中流の河川敷から記録があるのみ。

生態・生息環境

自然度の高い、砂浜や河原の砂地。

生存への脅威

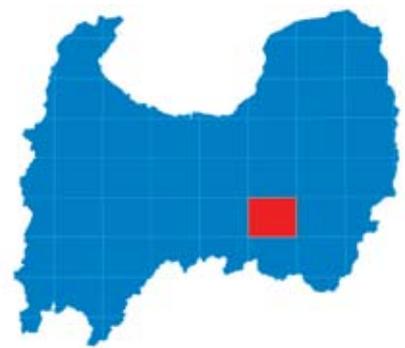
砂浜減少や河川敷工事等による砂地の改変・減少。

保全対策

砂浜や河原の砂地の保全。

特記事項

長野県他7県で絶滅危惧Ⅰ類に指定されている他、18県で指定あり。



ハネナガイナゴ (バッタ目、バッタ科) *Oxya japonica* (Thunberg, 1824)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

水田とその周辺の湿った草地に生息するが、富山県では、砺波市苗加での戦前の記録があるのみ。

形態

コバネイナゴに似るが、ハネは長く翅端に向かいやや幅広くなる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、奄美大島。

県内の分布状況

砺波市苗加での戦前の古い記録があるのみ。

生態・生息環境

水田とその周辺の湿った草地。

生存への脅威

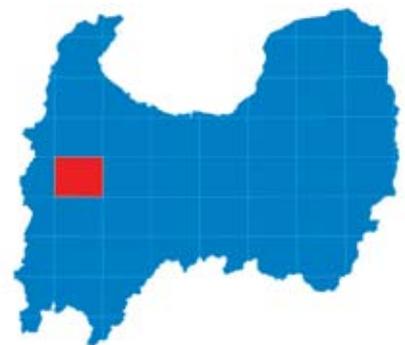
草原の改変、農業使用。

保全対策

草地の保全、農業の使用を控える。

特記事項

群馬県（絶滅危惧Ⅰ類）など、5県で指定あり。



ヤマトマダラバッタ (バッタ目、バッタ科) *Epacromius japonicus* (Shiraki, 1910)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

自然度の高い海岸砂浜にのみに生息するが、全国的に減少し、富山県では、近年の記録がない。

形態

中型のバッタ。灰色の体色に暗褐色の斑点があり、色彩は砂に似る。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市浜黒崎から岩瀬にかけての砂浜から記録されている。

生態・生息環境

自然度の高い海岸の砂浜。

生存への脅威

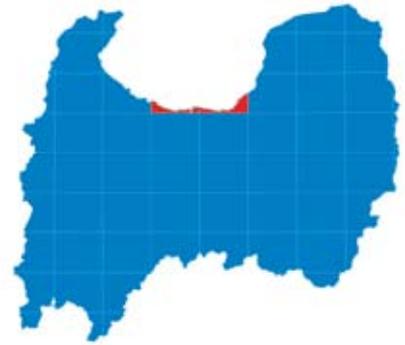
砂浜の改変、減少。砂浜への車両の乗り入れ。

保全対策

海岸の良好な砂浜の保全。

特記事項

別名：ヤマトバッタ。神奈川県、大阪府（絶滅）など、21県で指定あり。



セグロイナゴ (バッタ目、バッタ科) *Shirakiacris shirakii* (Bolivar, 1914)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

広い草原に生息するが、県内5ヶ所の記録があるのみ。近年の記録がない。

形態

中型のバッタ、前胸背面は濃褐色で両側に淡色の細い帯がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

平地～丘陵地の5ヶ所で記録があるのみ。近年の記録がない。

生態・生息環境

広い草原。

生存への脅威

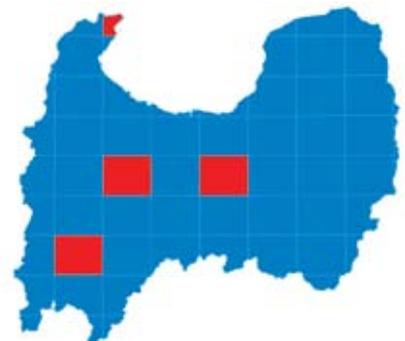
草原の減少。

保全対策

草原の維持。

特記事項

別名：セグロバッタ。長野県（絶滅危惧Ⅰ類）など、14県で指定あり。



イトアメンボ (カメムシ目、イトアメンボ科) *Hydrometra albolineata* Scott, 1874

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国のどの生息地においても生息密度が低く希少である。生息地が県内においても局限されている。

形態

体長11～14mm。細長いアメンボで暗褐色のものが多く時に黒色、淡褐色のものも見られる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、トカラ諸島。

県内の分布状況

富山県水生昆虫研究会（1995）による小矢部市道坪野の記録のみであったが、大沢野町小羽（神通川河川敷）と富山市水橋辻ケ堂（常願寺川河川敷）で確認された。

生態・生息環境

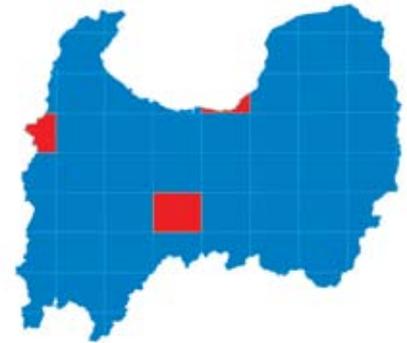
初夏に出現。止水域の水辺に発達する湿地、水際近くの池や沼などの水草の間、水田、畦道の脇で見られる。同属のヒメイトアメンボに対し非常に個体数が少ない。

生存への脅威

毒性の強い農薬、農業用水の三面コンクリート化、放棄田の乾燥化。

保全対策

湿原、水草の茂った池沼を保全する。



コオイムシ (カメムシ目、コオイムシ科) *Diplonychus japonicus* Vuillefroy, 1864

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息生育環境が悪化し、個体数が減少している。生息地が県内において局限されている。

形態

体長17～20mm。黄褐色か暗褐色でほぼ卵形で扁平。前脚は捕獲脚となり口吻はやや長い。尾端に伸縮自在の短い呼吸管がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山県水生昆虫研究会（1995）による福光町土山、砂子谷の2ヶ所と八尾町桐谷で確認された。その後上市町東種でも確認されたが、同属のオオコオイムシに対し順応性が低く、衰退の一途をたどっているように思われる。

生態・生息環境

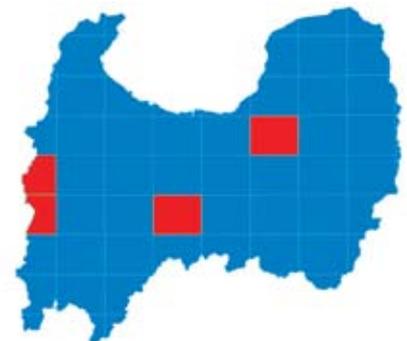
水田、池や沼などの止水域にすみ、初夏の頃に雌が雄の背面に卵を産み付ける。

生存への脅威

毒性の強い農薬、農業用水の三面コンクリート化、放棄田の乾燥化。

保全対策

湿原、水草の茂った池沼を保全する。



タガメ (カメムシ目、コオイムシ科) *Lethocerus deyrolli* (Vuillefroy, 1864)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生息生育環境の悪化が影響してか、過去40年以上記録がない。

形態

体長48～65mm。日本最大の異翅半翅類で体は灰褐色ないし褐色である。前脚は捕獲脚となり末端に一個の爪がある。口吻はやや長く尾端に伸縮自在の短い呼吸管がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄島。

県内の分布状況

かつては水田、池沼などの止水域で至るところで見られたが、強力な農薬に加え水田の乾田化などにより激減し、現在確認できたとの確かな情報は得られておらず、絶滅に近い状態である。

生態・生息環境

水田、池や沼などの止水域にすむ。

生存への脅威

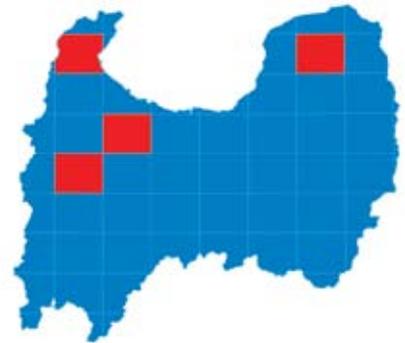
毒性の強い農薬、農業用水の三面コンクリート化、放棄田の乾燥化、外灯の増設など。

保全対策

生息確認調査を続けることが必要である。

特記事項

雄が単独で卵塊を保護する日本最大の水生昆虫。



コバンムシ (カメムシ目、コバンムシ科) *Ilycoris exclamationis* (Scott, 1874)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

ここ50年以上確認されていない。

形態

体長11～12.5mm。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

田中(1951)による氷見市十二町湯の記録があるが、それ以後の記録はなく生存が危惧されている。

生態・生息環境

ヒシ、ヒルムシロなどの浮葉植物が生える池沼に生息し、水中を活発に泳ぎ回り小魚や小昆虫を捕食する。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

生息地が確認されれば、その生息地の現状を維持することが望ましい。



クロゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Cybister brevis* Aubé, 1838富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし**選定理由**

生息地が県内において局限されている上、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長20～25mm。体型は卵形で背面は緑色あるいは褐色を帯びた黒色で光沢がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

県内では、八尾町桐谷と砺波市庄川町三谷のみである。また個体数も多くはない。

生態・生息環境

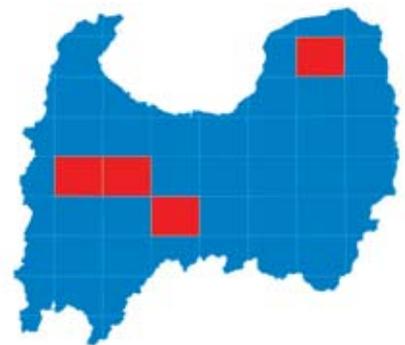
水生植物の生えた池沼、放棄水田、水田の溝などに生息する。新成虫は8～9月に出現し、成虫越冬する。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。

**ゲンゴロウ** (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Cybister japonicus* Sharp, 1873富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧**選定理由**

生息地が県内において局限されている上、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長34～42mm。ゲンゴロウ科の中では最大で体型は扁平な卵形。背面は緑色あるいは褐色を帯びた暗褐色で強い光沢がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山県水生昆虫研究会(1995)による調査で石川県との県境付近の小矢部市、福光町など県内数ヶ所で確認できたが、現在そのいずれの地でも再確認されていない。

生態・生息環境

平野部から山間部のヘラオモダカ、オモダカ、ホテイアオイ、ガマなどの水生植物のあるため池、放棄田、流れの緩やかな小川に生息し、5～6月頃これらの水草に穴を開け産卵する。

生存への脅威

池や沼の埋め立てやコンクリートによる護岸工事、池や沼への放魚。

保全対策

放棄田、流れの緩やかな小川、湿原、水草の茂った池沼を保全する。

特記事項

以前は養魚の害虫として知られていたが、農薬、土壌開発などの影響で激減し、すでに絶滅した県もある。



シャープゲンゴロウモドキ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Dytiscus sharpi* Wehncke, 1875

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

生息地が県内において局限されている上、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長28～33mm。体型は雄は長卵形、雌は卵形で、上翅に10条の深い縦溝をそなえる。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山県水生昆虫研究会（1995）による調査で氷見市、小矢部市、福光町など石川県との県境付近の数ヶ所で確認された。いずれも局地的で個体数も多くはなかったが、その後これらの産地で生息を確認できたとの情報は得られていない。

生態・生息環境

生息地はガマ、ミクリ、サンカクイ、オモダカ、ショウブなどが茂る池や沼、放棄田、湿原に見られる。特にガマのある放棄田に多く、3～4月頃これらの植物に直接産卵管を差し込んで産卵する。新成虫は8～9月頃出現。

生存への脅威

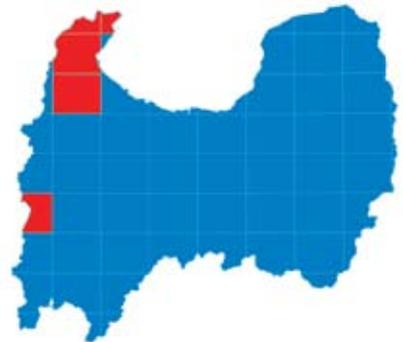
放棄田の乾燥化、池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

生息地の現状を維持すること、採集行為の自粛。

特記事項

日本固有種。



マルガタゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Graphoderus adamsii* (Clark, 1864)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

ここ50年ほど確認されていない。

形態

体長12～14.5mm。体型は卵形で強く盛り上がり光沢がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

中村誠喜（1938）、田中忠次（1939,1971）による県内記録はあるものの、ここ50年ほど確認されていない。調査が十分でなく、生態についても不明な点がある。

生態・生息環境

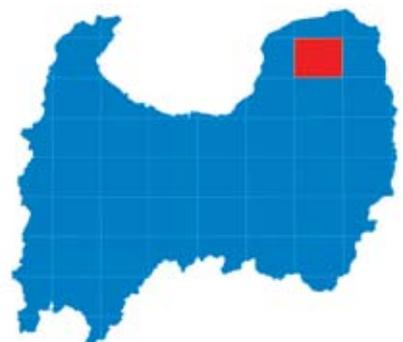
平地や丘陵地の水質の良好な放棄水田、池沼などに生息する。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

湿原、水草の茂った池沼を保全する。



シマゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Hydaticus bowringii* Clark, 1864

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

ここ50年ほど確認されていない。ただ、同様に思われていた隣県の石川県で確認されたことから絶滅したとは言い難い。

形態

体長12.5～14mm。体型は卵形で背面はよく隆起し光沢がある。前翅は黒地に特徴的な黄褐色の斑紋があり、腹面は赤褐色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。最近は全国的に激減した。

県内の分布状況

中村誠喜(1938)、田中忠次(1939,1971)による県内記録はあるものの最近の記録は全くない。調査が十分でなく、生態についても不明な点がある。

生態・生息環境

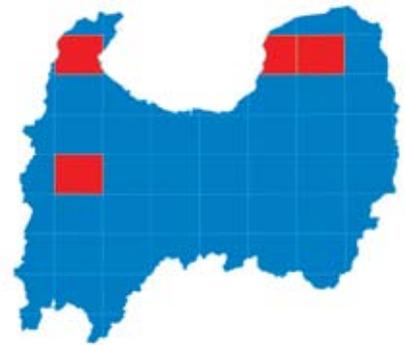
春から秋まで長期間見ることができる。成虫は水草の茎をかじって穴を開け、産卵管をさし込んで産卵する。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

湿原、水草の茂った池沼を保全する。



ツヤナガタマムシ (コウチュウ目、タマムシ科) *Agilus cupes* Lewis, 1893

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が局限しており、生息密度が極めて低く希少である。

形態

体長5.5～7.0mm。体全体がコバルトブルーに輝く美しい種。

国内の分布状況

本州の栃木県、群馬県、東京都、富山県、広島県で記録されているが、得られている個体数は極めて少ない。

県内の分布状況

南砺市利賀村大勘場、坂上、平村相倉。

生態・生息環境

本種は6月頃にウツギ類の葉につくことが知られているが、その生活史の詳細は不明である。相倉では民家の傍にあるバイカウツギの花が咲く時期に発見されている。

生存への脅威

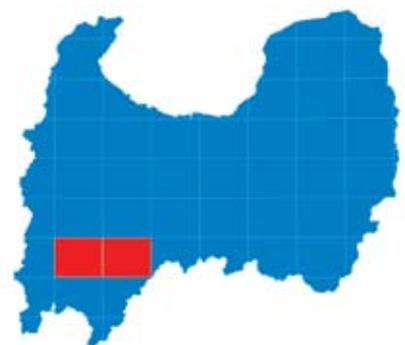
生息地のバイカウツギの切除。

保全対策

生息地の現状維持(自然度の高い温帯樹林の保全)。

特記事項

本邦産ナガタマムシ類の中で本種は最稀種の一つ。



トオヤマシラホシナガタマムシ (コウチュウ目、タマムシ科) *Agrilus venticosus* Fairmaire, 1888

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が局限しており、生息密度が極めて低く希少である。

形態

体長12mm前後。体は太短く、青～緑色光沢を帯びる美麗種。

国内の分布状況

本州の福島県、群馬県、富山県、鳥取県で記録されている。

県内の分布状況

南砺市（旧利賀村）田ノ島。

生態・生息環境

本種の生活史の詳細は明らかでないが、エゾエノキの太い樹に飛来することが知られている。利賀村では道路脇にあったエゾエノキに来ていたのが1979年に発見され、それ以後は年に数頭ずつ採集されたが、1991年、道路拡幅のために伐採されてからは、全く見られなくなった。

生存への脅威

開発や植林などによるエゾエノキの伐採。

保全対策

エゾエノキの大木が重要な発生源と思われるので、これらを切除しないことが望まれる。

特記事項

新たな発生場所を求めて、利賀村や平村、そして県下全域に調査地を拡大して探索しているが、未だに発見できない。



ヒゲシロホソコバネカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Necydalis (Necydalisca) odai* Hayashi, 1951

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、生息密度が極めて低く希少である。

形態

体長14～25mm。体は黒色、前胸は細長く黒色でつやがある。触角は第8～10節が黄褐色～白色である。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市有峰。

生態・生息環境

盛夏に温帯樹林帯上部の原生林に出現し、ミズナラの枯木に来る。

生存への脅威

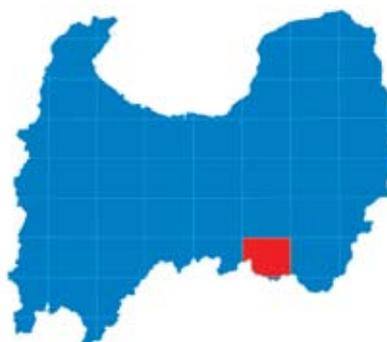
最近のカシノナガキクイムシによる被害で、多くのミズナラが枯れ、本種は危機的状況にある。

保全対策

本種は、主に樹相豊かな原生林のミズナラに依存しており、その原生林の保全が最も重要である。また、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害の拡大阻止に、更なる対策が望まれる。

特記事項

国内いずれの産地でも個体数の少ない種である。本県では1990年以後の記録がない。日本固有種。



スジグロオオハムシ (コウチュウ目、ハムシ科) *Galeruca spectabilis* Faldermann, 1873

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に採集例が少なく、採集地での再三にわたる調査にも拘わらず再発見されていない。

形態

体長9mm前後。上翅は淡褐色で3～4条の隆条がある。

国内の分布状況

確かな記録があるのは、長野県北アルプス針ノ木岳、茅野市白樺湖と富山県砺波市。

県内の分布状況

砺波市安川と福山境の山中で、草むらの土の上を這っていたのが発見された。

生態・生息環境

本種の生活史は殆ど解明されていない。アザミ類やフキにつくのではないかと予想されている。

生存への脅威

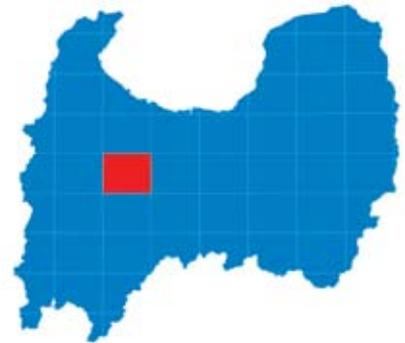
車道やリゾート地の開発などによる、生息地の環境破壊。

保全対策

食性や生息環境などの生態が殆ど判明していないので、立案するのは難しいが、発見されたところの環境を保全することが望ましい。

特記事項

長野県では相当な高地で発見されていて、砺波市のような低山地で発見されたのは注目される。本種は飛ぶことができないので、移動範囲は限られており、偶産の可能性は考えられない。



トヤマオオミズクサハムシ (コウチュウ目、ハムシ科) *Plateumaris constricticollis toyamensis* Tominaga et Katsura, 1984

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

トヤマオオミズクサハムシはオオミズクサハムシ（オオネクイハムシ）の1亜種で、富山県固有の亜種。また、生息地が局限されている上、生息密度も低く希少である。

形態

体長10～12mm。

国内の分布状況

種オオミズクサハムシは北海道、本州に分布。

県内の分布状況

現在のところ上市町つぶら池とその周辺の流水池にのみ生息する。

生態・生息環境

池の水草の上に生息する。

生存への脅威

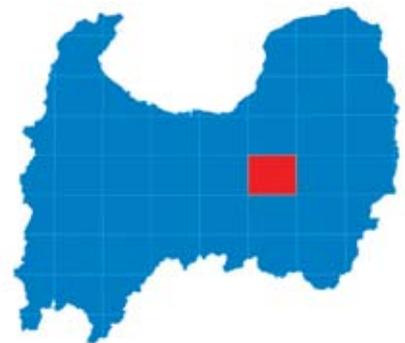
水枯れなどによる水草の衰退と採集圧。

保全対策

生息地の環境保全と節度ある採集。

特記事項

本亜種の基産地は上市町つぶら池。



キバネツノトンボ (アミメカゲロウ目、ツノトンボ科) *Ascalaphus ramburi* MacLachlan, 1875

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

草原に生息するが全国的に減少している。県内では1ヶ所戦前の古い記録があるのみ。

形態

トンボ類に似るが、触角は長く先端は丸い。後翅が褐色と黄色の斑模様。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

旧細入村での記録が1例あるのみ。

生態・生息環境

乾燥した草原。

生存への脅威

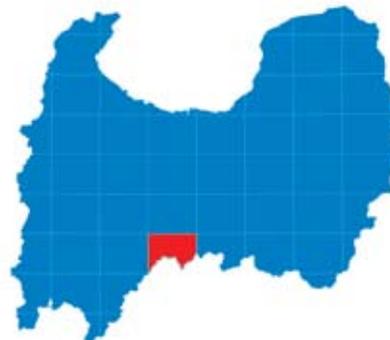
開発等による草原の減少、消失。

保全対策

草原の維持・保全。

特記事項

兵庫県（絶滅危惧Ⅰ類）など、13県で指定あり。



クロシジミ (チョウ目、シジミチョウ科) *Niphanda fusca* (Bremer et Grey, 1853)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、生息密度が低く、最近30年間以上記録がない。全国的に減少傾向にあり、絶滅が危惧されている。

形態

前翅長20～22mmのやや大型のシジミチョウ。雄の翅表は暗青紫色、雌の翅表は暗褐色、どちらも裏面に黒っぽい斑点模様をもつ。

国内の分布状況

本州、四国、九州に分布。いずれの地域でも生息地は局地的で、多くの産地で減少傾向が報告されている。

県内の分布状況

県西部の五箇山山塊の利賀村、上平村、および、福光町小矢部川上流の数ヶ所に限られる。

生態・生息環境

低山地の疎林を主要な生息地としている。年1回の発生。7～8月に発生する。1～2齢幼虫はアブラムシやキジラミの分泌液を食餌とし、その後はクロオオアリの巣中で育つという特異な生態を有する。越冬もクロオオアリの巣中で幼虫期に行われ、翌年、蛹化もアリの巣中で行われる。

生存への脅威

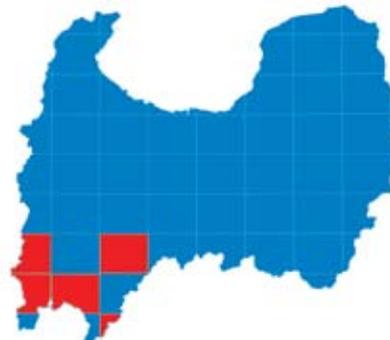
全国的に減少しており、山地の疎林の荒廃が進み、環境の悪化が憂慮される。

保全対策

低山地の疎林の適度な手入れにより、明るい疎林の環境を維持することが最も有効と思われる。

特記事項

本県では、1976年の上平村での記録が最も新しいもの。



コヒョウモンモドキ (チョウ目、タテハチョウ科) *Mellicta ambigua niphona* (Butler, 1878)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生息地が県内において局限され、1950年代の記録以後、全く見られない。

形態

前翅長24～26mmの小型のヒョウモンチョウ。

国内の分布状況

本州にのみ分布。関東地方の北部と、中部地方の山地に限られる。どこでも減少傾向にある。

県内の分布状況

1950年代のまだ有峰ダムが完成していないとき、有峰盆地内の草地で多数見られた。ダムの完成（1961年）後は全く記録がない。

生態・生息環境

一般に、山地の谷沿いの草地を生息地としている。年1回、7月中旬から8月に発生する。クガイソウを主要な食草としている。成虫はオカトラノオ、ヒメジョオン、クガイソウなど多くの花に止まって吸蜜する。飛翔は緩やかで、草地を小刻みに飛ぶ。

生存への脅威

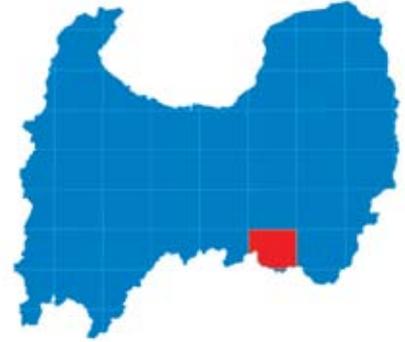
1950年代の生息地は有峰ダム湖に水没したと考えられ、このような事態は二度と繰り返してはならない。

保全対策

食草のクガイソウは有峰を含め、県下の山地に多くはないものの、わりあい広く生育しており、調査をさらに継続する必要がある。クガイソウの自生地は、比較的よく自然が保存されていて、特別の対策は現時点では必要ないと思われる。

特記事項

絶滅種認定に近い絶滅危惧種。



モートンイトトンボ (トンボ目、イトトンボ科) *Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

近年全国的に減少しており、県内でも安定した産地は局限される。

形態

全長22～32mm、腹長17～26mm、後翅長11～18mm。小型のイトトンボで、雄は成熟すると胸部が緑色、腹端が橙色になる。雌は未熟なうちは全身が黄橙色であるが、成熟すると緑色に変化する。成熟雌はアジアイトトンボと類似するが、腹部第8節腹面に棘状突起がないことや、頭部の斑紋などで区別できる。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布するが、特に西日本では産地が激減している。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、上市町、富山市、射水市、南砺市、砺波市、小矢部市、高岡市、氷見市の12市町から記録があるが、現在の安定した生息地は富山市、砺波市などのごく一部に限られる。

生態・生息環境

平地から丘陵地の草丈の短い抽水植物の繁茂する泥深い湿地や池沼の湿地状になった部分に生息し、しばしば放棄水田でも見られる。成虫は5月から8月に見られる。成虫は発生地周辺で見られることが多く、交尾は早朝に行われる。産卵は雌が単独で短い抽水植物に行く。

生存への脅威

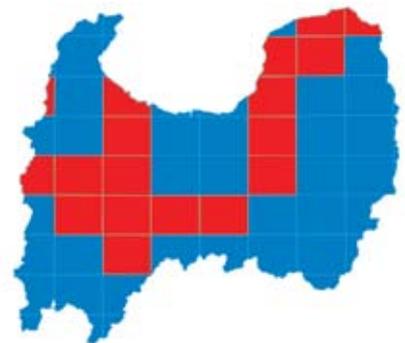
かつては平野部の水田地帯でも普通に見られたようであるが、近年そのような環境ではほとんど見られない。また、放棄水田で一時的に発生するときもあるが、湿地の草地化に伴い数年で見られなくなるケースが多く、安定した産地は非常に少ない。

保全対策

草丈の短い、水量の安定した明るい湿地の保全が望まれる。また、富山市の一部では無農薬の水田で生息が確認されている。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは準絶滅危惧に指定されている。



マダラヤンマ (トンボ目、ヤンマ科) *Aeshna mixta soneharai* Asahina, 1988

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

平野部の池沼に生息するが、確実な発生地は非常に少ない。

形態

全長63～74mm、腹長43～51mm、後翅長39～46mm。淡青色の斑紋のある小型のヤンマで、オオルリボシヤンマを小さくしたような種類である。

国内の分布状況

北海道から福井県にかけて分布する。

県内の分布状況

入善町、黒部市、滑川市、富山市、射水市、高岡市、氷見市の7市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

沿岸部の背丈の高い抽水植物の繁茂する池沼に生息し、大河の河川敷でも見られる。成虫は7～8月に羽化して、一旦生殖水域を離れ、9月頃水辺に戻り11月まで見られる。成熟雄は抽水植物の繁茂する池沼の小空間でホバリングを交えて縄張りをつくり、しばしば周囲の草に静止する。交尾は水域周辺の抽水植物に静止して行われ、産卵は雌が単独で水面付近の植物組織内に行う。成熟成虫は黄昏時に活発に捕食活動を行う。

生存への脅威

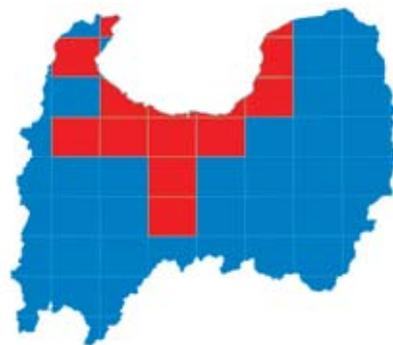
本種の多産した射水市海王町、海竜町の湿地は埋め立てと水質悪化の影響で絶滅に瀕しており、高岡市守護町の小矢部川河川敷の池も増水に伴う環境変化で個体数が激減している。平野部の池沼や河川敷に存在する水溜りは埋め立てや河川改修などで消滅する危険性が高い。

保全対策

河川敷のワンドや、平野部の抽水植物の繁茂した池沼の保全が望まれる。また、分散力の強い種なので、海辺に水辺を作ることで、定着させることが可能だと考えられる。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。



カラカネトンボ (トンボ目、エゾトンボ科) *Cordulia amurensis* Selys, 1887

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での産地数は少なく、多産していた南砺市小瀬では個体数が激減している。

形態

全長42～52mm、腹長28～34mm、後翅長29～32mm。全身が鈍い金緑色をしたトンボ。本県産のエゾトンボ科中最も小型の種。

国内の分布状況

国内では北海道から福井県、岐阜県にかけて分布する。

県内の分布状況

立山町、上市町、富山市、南砺市の4市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

山地の池沼に生息する。成虫は周囲に樹林のある環境を好む。成虫は5月から8月にかけて見られる。成熟雄は抽水植物の繁茂する水域をホバリングしながら縄張りをつくる。交尾は水域周辺の樹木の葉の上などで静止して行われ、産卵は雌が単独で植物の繁茂する水域で打水して行われる。

生存への脅威

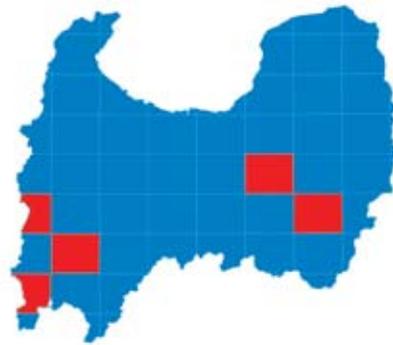
山間部の池沼の環境維持が望まれる。

保全対策

山間部の周囲に林のある水質の良い池沼の保全が望ましい。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは準絶滅危惧に指定されている。



マイコアカネ (トンボ目、トンボ科) *Sympetrum kunkeli* (Selys, 1884)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

もともと記録の少ない種であったが、近年生息地の多くが埋め立てや改修で失われている。

形態

全長29～40mm、腹長19～25mm、後翅長21～28mm。小型のアカネで雄は顔面が緑白色を呈している。マユタテアカネ、ヒメアカネと酷似しているが、胸部の斑紋や尾部付属器、産卵弁の形状の違いで区別できる。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

確実な記録のあるのは入善町、黒部市、魚津市、立山町、滑川市、富山市、射水市、小矢部市、高岡市、氷見市の10市町であるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

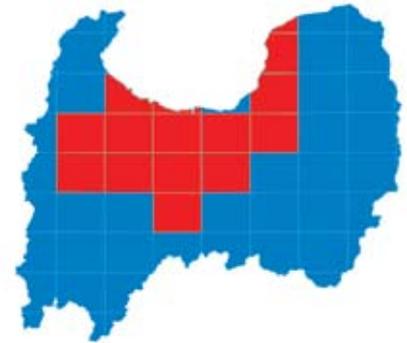
平地から丘陵地の抽水植物の繁茂する池沼、湿地に生息する。成虫は6月から12月に見られる。成熟雄は、抽水植物の先などに静止して縄張りをつくり、交尾は水域周辺の抽水植物などに静止して行われる。産卵は連結または単独で打水して行われる。

生存への脅威

本種の多産した射水市海王町、海竜町では埋め立てや水質悪化の影響で個体数が激減している。平野部の池沼は埋め立てや改修が行われることが多く、水質悪化も絶滅につながる。ブラックバス等の外来生物による捕食圧も心配される。

保全対策

平野部の抽水植物の繁茂した池沼の保全が望まれる。



クツワムシ (バッタ目、クツワムシ科) *Mecopoda nipponensis* (de Haan, 1842)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地・生息個体数が少なく、日本海側分布北限（新潟）に近い。

形態

大型のキリギリス類。緑色型・褐色型の2型がある。夜間「ガチャガチャ」と大きな声で鳴く。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬、隠岐。

県内の分布状況

記録された産地は丘陵地の4ヶ所のみ。現在生息していると思われるのは2ヶ所のみで、生息地は狭い場所に限定されている。

生態・生息環境

林縁や丈の高い草原。

生存への脅威

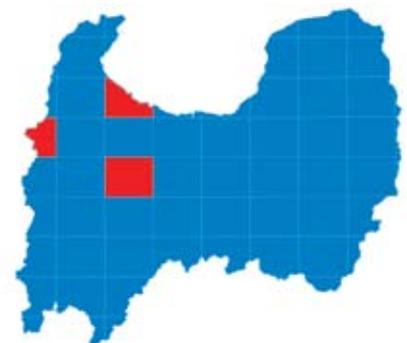
生息地の開発行為や草原の環境悪化。

保全対策

林縁や丈の高い草原の保全。

特記事項

新潟県（絶滅危惧Ⅰ類）など、17県で指定あり。



カワラバッタ (バッタ目、バッタ科) *Eusphingonotus japonicus* Saussure, 1888

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

大河川の中流域の河原に生息するが、全国的に減少しており、富山県内でも近年確認された産地は少ない。

形態

中型のバッタ。体色は灰色で河原の石に似る。後翅に黒帯その内側は青色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部川、常願寺川、庄川の河川敷から記録があるが、最近では確認されている産地は庄川河原のみである。

生態・生息環境

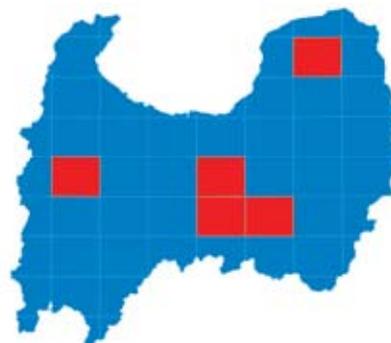
河川中流域の草本類の少ない砂礫地。

生存への脅威

河床の土木工事等、河床の安定化による広い砂礫地の減少。

保全対策

河川敷の自然環境の保全。



ヒナカマキリ (カマキリ目、カマキリ科) *Amantis nawai* (Shiraki, 1908)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息は照葉樹林林床等に限られ、産地・個体数とも少ない。日本海側分布北限（新潟県）に近い。

形態

小型のカマキリ。体色は褐色。ハネは小さく鱗片状。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

平地～丘陵地の3ヶ所で記録があるのみ。

生態・生息環境

自然度の高い照葉樹林林床等に生息。飛べないので移動性に乏しい。

生存への脅威

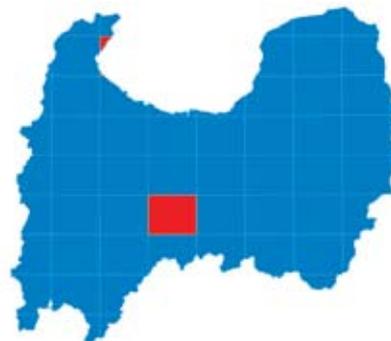
照葉樹林の開発、伐採、林床の落葉・倒木等の除去。

保全対策

照葉樹林の維持、保全。

特記事項

石川県（絶滅危惧Ⅱ類）など、10県で指定あり。



ハネナシアメンボ (カメムシ目、アメンボ科) *Gerris nepalensis* Distant, 1910

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全国のどの生息地においても生息密度が低く希少である。生息生育地が県内においても局限されている。

形態

体長7～10mm。小型で黒色、普通は翅がないが、稀に翅のある型が生じる。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

氷見市宮田乱橋池と苗代池で確認されている。現在、生息地が減少しつつある。

生態・生息環境

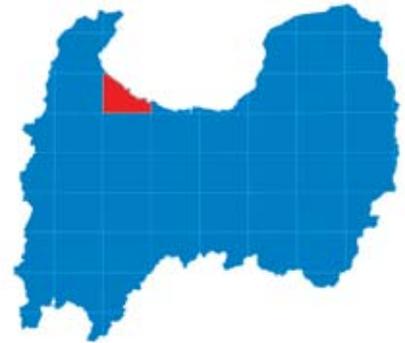
本種は泳ぎ回ることが少なく、ヒシなどの浮葉植物に静止していることが多い。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。



ババアメンボ (カメムシ目、アメンボ科) *Gerris babai* Miyamoto, 1958

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

全国のどの生息地においても生息密度が低く希少である。生息生育地が県内においても局限されている。

形態

体長6～9mm。小型で黒色。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立川周二(1993)による氷見市宮田乱橋池と苗代池で確認されたが、最近になって富山市水橋辻ケ堂(常願寺川河川敷)で確認された。

生態・生息環境

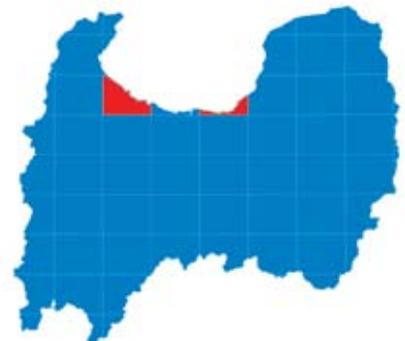
本種は警戒心が強く、水辺のヨシの間で活動することが多い。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。



ナベブタムシ (カメムシ目、ナベブタムシ科) *Aphelocheirus vittatus* Matsumura, 1905

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息生育地が県内において局限されている。

形態

体長8.5～9mm。鍋のふたのような形をしたカメムシで、無翅型が普通だが長翅型も見られる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

これまで田中（1951）による宇奈月町栃屋の記録があるものの、50年以上再確認されず憂慮されていたが、大山町下双嶺（黒川）、大沢野町長川原（大谷川）、八尾町上笹原（別荘川）八尾町東布谷（野積川）、利賀村百瀬（百瀬川）など河川の上流部から相次いで確認されており、調査が不十分であることもいなめない。

生態・生息環境

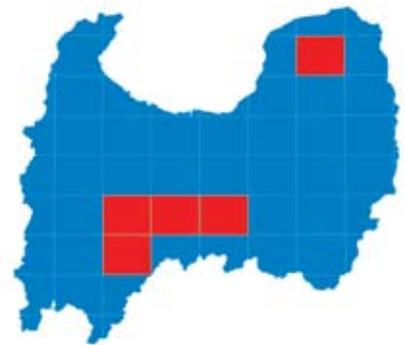
溪流の水底にすみ、トビケラなどの幼虫を捕らえて体液を吸う。呼吸方法は特殊で、水に溶けた酸素を取り込む能力をもつ。

生存への脅威

河川開発、三面コンクリートによる護岸工事。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。



アイヌハンミョウ (コウチュウ目、ハンミョウ科) *Cicindela gemmata aino* Lewis, 1891

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されていて、生息環境が悪化している。

形態

体長16～17mm。上翅に3対の白色紋をもつ。体下面は緑青金属光沢がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市平沢、富山市岩木、庵谷、南砺市利賀村上百瀬、(旧上平村)桂、高岡市五十里、頭川。

生態・生息環境

平野部から中山地の大小河川敷や、その周辺の砂地質に生息している。

生存への脅威

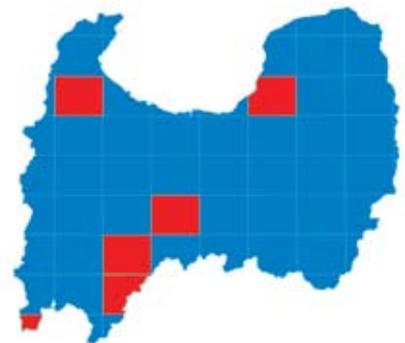
大小河川敷の改修及びその周辺の開発により、生息生育環境が悪化、あるいは破壊されている。

保全対策

大小河川敷や、その周辺の砂地質の保全。

特記事項

高岡市からは、その姿を消した。また、富山市庵谷では狭い生息地が埋め立てられてしまい、その後はまったく姿が見られなくなった。



セアカオサムシ (コウチュウ目、オサムシ科) *Carabus tuberculatus* (Dejean et Boisduval, 1829) 富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地は局所的で、生息生育環境が悪化している。

形態

体長16～22mm。上翅は卵型で、頭胸背部は緑色光沢のある赤銅色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に生息するが、北海道を除いては個体数の少ない種。

県内の分布状況

宇奈月町、立山町、富山市、高岡市、砺波市。県下全域に分布しているが、生息地は局所的で個体数は少ない。

生態・生息環境

平野部から中山地の水辺地、もしくは湿気の多い所に生息している。

生存への脅威

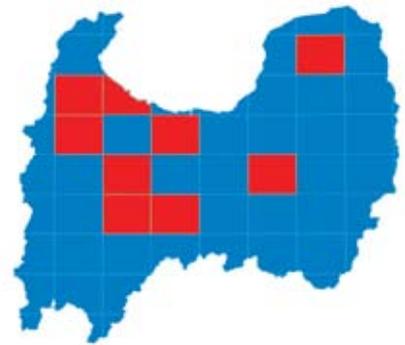
河川敷の水辺地が人工化されつつあるが、その結果、本種の生息地が失われる恐れがある。

保全対策

生息地の水辺地の保全。車道の側溝に落下して、その命を失うものが多いので、落下してもはいあがれるような工夫が必要。

特記事項

富山市呉羽山、城山には比較的多く生息している。



キボシケシゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Allopachria flavomaculatus* (Kamiya, 1938) 富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されている上、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長2.5mm内外。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市深沢（庄川の河川敷内に取り残された水溜まり）で確認されたのみ。同地内は河川工事が行われた折り、生息地も埋め立てられた。生存が危惧される。

生態・生息環境

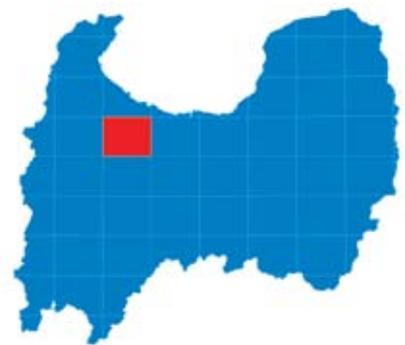
河川の岸辺の岩影や流れの緩やかな水域やよどみの石の下などで見られる。

生存への脅威

河川開発、河川改修工事、三面コンクリート化工事。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。



メススジゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Acilius japonicus* Brinck, 1939

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

本種の県内の生息地は分布の西限、南限に位置する。

形態

体長14～17.3mm。雌の前翅に黄褐色の毛が密生し、4本の幅広い筋がある。雄には毛も筋もない。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

立山カルデラ内の池など数ヶ所と宇奈月町南越の餓鬼の田（標高1640m）、魚津市池の尻（標高1200m）、上平村の黒池で確認されている。

生態・生息環境

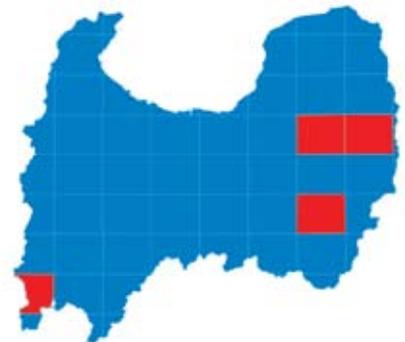
高山から寒冷地帯の池沼に生息し、産卵は5月頃水面から少し上がった樹木の皮の間や裂け目、水苔、枯れた草の折り重なり部分など湿気があり乾燥しにくいところにまとめて行われる。新成虫は7月頃出現する。

生存への脅威

生息地は険しい山地の中や国立公園の特別保護地区内のため、緊急を要する保護は必要ないが、ブラックバスなどの放魚が行われるとたちまち全滅する。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。



ヒメオオクワガタ (コウチュウ目、クワガタムシ科) *Nipponodorcus montivagus montivagus* (Lewis, 1883)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息生育環境が悪化し、しかも過度の捕獲採集圧に曝されている。

形態

体長25～58mm。全体が光沢のない黒色で雄の大顎は中央前に斜め内上方に向く大きな歯がある。肢は長い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

黒部峡谷阿曾原、立山町美女平～ブナ平、大山町立山カルデラ、有峰、八尾町白木峰、利賀村金剛堂山、上百瀬、水無、千束、山ノ神峠、平村・相倉、高落葉山、上平村小瀬峠、草谷、福光町・ブナオ峠。

生態・生息環境

標高800～1500mのブナ林にいる。冬を越した成虫は6月頃から現れる。新成虫は8月上旬から出現するが、9月が最も多い。主にヤナギ類の細い枝に縦に長く傷をつけ、そこから出た樹液を舐める。

生存への脅威

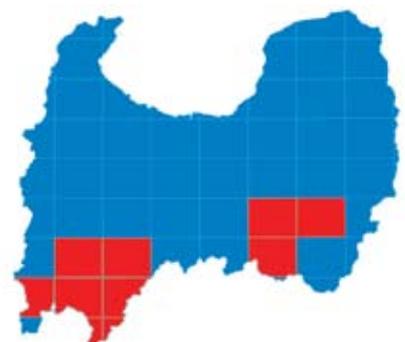
生息地の観光化や自動車道の造成、スギやヒノキの植林のためのブナ原生林の伐採、採集者のモラルの低下。

保全対策

生息地の観光開発を極力避ける。ブナの原生林の保全。節度ある採集行動。

特記事項

本種が秋にヤナギ類の細い枝に集まる習性が知られてからは、容易に発見できるようになったので、急激に個体数を減らしている。



アカマダラコガネ (コウチュウ目、コガネムシ科) *Poecilophilides rusticola rusticola* (Burmeister, 1842) 富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

生息密度が低く希少である。また個体数の減少が著しい。

形態

体長16～21mm。背面は赤褐色で黒色の小紋が点在する。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

主に平野部～低山地に生息している。黒部市、富山市、射水市、高岡市、砺波市、氷見市で記録があるが、1990年以後、県下で採集されたという情報はない。

生態・生息環境

成虫は5月中旬～8月下旬に出現し、コナラやヤナギなどの樹液に来る。幼虫はもろくなった朽木や腐葉土中の腐植物を食するものと思われるが、猛禽類の巣中で数多く幼虫が発見されたとの、興味ある報告がある。

生存への脅威

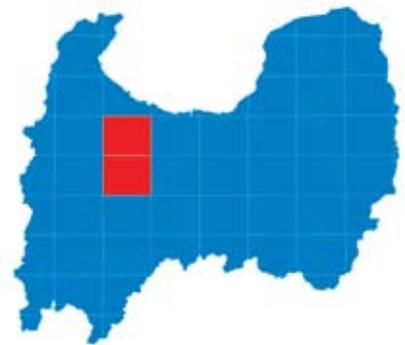
本種の生息生育地は、人里に近い所にあるので、都市開発や観光開発などの影響を受けやすい。

保全対策

丘陵地や低山地の自然林（二次林も含む）の保全が肝要。

特記事項

本種が少なくなったのは、猛禽類の生息生育環境が悪化してきたことと因果関係があるのではないかと推測される。



クロマダラタマムシ (コウチュウ目、タマムシ科) *Nipponobuprestis querceti* (E.Saunders, 1873) 富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局所的で、生息密度が低く希少で、かつ、本県が本種の北限に近い。

形態

体長17～28mm。上翅縦隆脈は太くやや不明瞭で、側縁部の鋸歯状は弱い。一般に赤味を帯びるが、まれに青緑色を帯び赤味のないものがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市神通川流域、氷見市。

生態・生息環境

5～7月に出現し、エノキの枯れ材につく。

生存への脅威

本種にとってはエノキがすべてであり、里山の開発や植林の為の伐採、道路拡幅などによるエノキの切除で生息地が失われることが生存の危機をまねく。氷見市では発生木が切除されてしまった。

保全対策

本種の生息条件を満たすエノキは極めて少ない状況にあり、生息環境を含めてエノキを保護することが最も重要である。

特記事項

本種は国内いずれの産地においても個体数の少ない珍しい種である。



ヒメボタル (コウチュウ目、ホタル科) *Luciola parvula* Kiesenwetter, 1874

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されている。

形態

体長5.5～9.6mm。黒色で暗色毛を装い、前胸は淡赤色で、後方へ狭まる中央の大紋は暗色、腹部後方は黄白色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、屋久島。

県内の分布状況

富山市（旧大沢野町）の神通川流域。

生態・生息環境

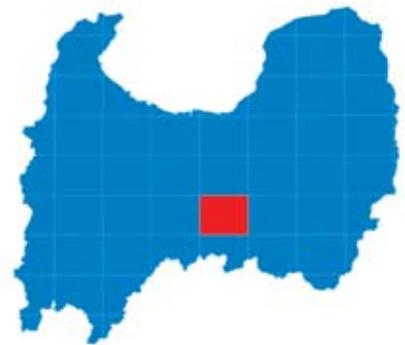
4～8月に出現するが、地域ごとの発生期間は短い。林床に生息し、幼虫はカタツムリ類を食餌としている。

生存への脅威

土地開発や植林のための伐採、河川改修工事などによる周辺地の環境変化。

保全対策

本種の幼虫の食餌であるカタツムリ類が、生息できる林床の保全に留意する。



フタスジカタビロハナカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Brachyta bifasciata japonicus* (Matsushita, 1933)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息密度が低く、かつ、生息生育環境が悪化している。

形態

体長16～23mm。頭胸部は黒色で、肩部は幅広い。上翅は黄色で、黒い斑点模様を持つ美しいカミキリ。

国内の分布状況

本州、四国の山岳地帯に分布しているが、いずれの地域でも個体数は少ない。

県内の分布状況

立山町尖山、南砺市利賀村谷内、上百瀬、水無。

生態・生息環境

5月初旬～7月初旬に温帯樹林帯上部に現れる。主にヤマシャクヤクの花に来て、その花びらを食する。

生存への脅威

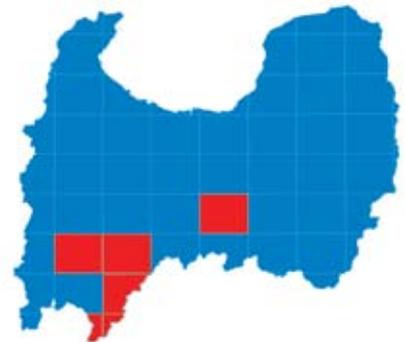
近年山野草ブームで、ヤマシャクヤクがその清楚な姿から愛好家に人気があり、急速に減少している。ヤマシャクヤクと重要な関わりを持つ本種に、大きな打撃を与えているものと思われる。

保全対策

温帯樹林帯上部の植生の保護・保全、山野草愛好家の節度ある行動。

特記事項

本種が比較的多く生息していた利賀村菅沼ダム付近、そして水無ダム付近はブナ林が伐採されて、スギが植林された。その結果本種の姿が見られなくなった。



アカジマトラカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Anaglyptus bellus bellus* Matsumura et Matsushita, 1933

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

南砺市利賀村で採集されているが近年全く採集例がない。

形態

体長16～19mm。黒と鮮紅色の微毛で覆われ、前胸の黒紋は丸く、上翅には黒と赤の横紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市利賀村千束、阿別当。

生態・生息環境

成虫は8月～9月に現れ、早朝ケヤキの老木に集まる習性が知られている。また、イタドリやウドの花にくる。幼虫はケヤキの樹皮下や材部を食べる。

生存への脅威

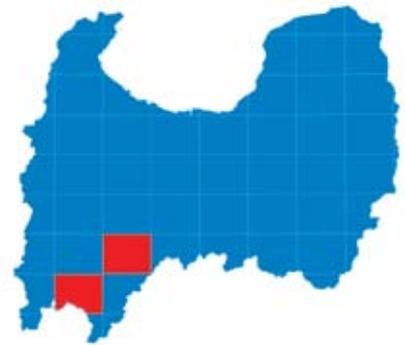
ケヤキの老木の伐採。

保全対策

当面、具体的な対策を要しない。

特記事項

今後の調査により新たな分布地の記録が追加される可能性があるが、県下においては稀な種。



コトラカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Plagionotus pulcher* (Blessig, 1879)

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息地が局限しており、生息密度が低く希少である。

形態

体長12～15.5mm。前胸背の前縁の後方と中央前に黄色の紋があり、上翅にも黄色の5本の斑紋がある。触角は太く、第3～6の先端には棘がある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

南砺市平村下出。

生態・生息環境

成虫は6～8月に現れ、ミズナラの伐採木に集まる。

生存への脅威

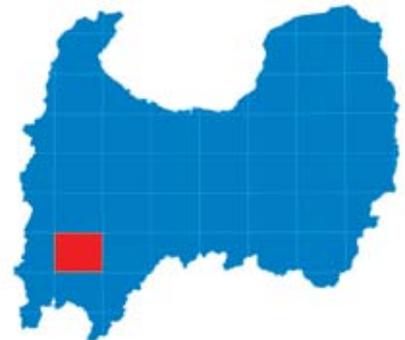
本種の生活と密接な関わりがあると思われるブナ、ミズナラなどの原生林が、観光開発やスギやヒノキの植林により伐採されること。

保全対策

ブナ、ミズナラなどの原生林の保全。

特記事項

今後の調査により新たな分布地の記録が追加される可能性があるが、県下においては稀な種。



ミヤマモンキチョウ (チョウ目、シロチョウ科) *Colias palaeno sugitanii* Esaki, 1929

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

立山弥陀ヶ原を代表する高山蝶であるが、減少傾向が顕著である。

形態

前翅長23～26mmで翅の地色は雄が黄色、雌は白色である。

国内の分布状況

本州、飛騨山脈の高地および浅間山に生息する。

県内の分布状況

弥陀ヶ原、大日平、薬師岳・太郎兵衛平、高天原などでは高層湿原に生息し、赤牛岳、長野県境山岳地帯では稜線部が生息地となる。

生態・生息環境

雌はクロマメノキの葉表に1個ずつ産卵し幼虫で越冬する。成虫の発生は生息地の標高に関わり、7月上旬から8月にかけて見られる。生息地は高層湿原では2000m前後の草原であるが、2700m付近では稜線の草付きである。

生存への脅威

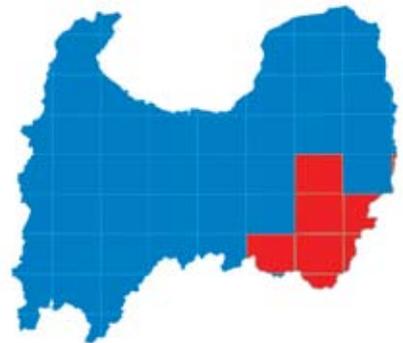
高層湿原の乾燥化。

保全対策

登山者の道路外への踏み込み禁止の徹底。

特記事項

弥陀ヶ原では個体数の減少が顕著である。



クモツマキチョウ (チョウ目、シロチョウ科) *Anthocharis cardamines ishikii* Matsumura, 1925

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

山岳地における砂防ダム建設等により生息地で消滅した所がある。また、美麗種であるところから収集家の人気が高い。

形態

前翅長20～22mmの小型のシロチョウ。雄は前翅に鮮やかなオレンジ色の斑紋をもつ。雌は白色でオレンジ色の斑紋はない。

国内の分布状況

本州中部の飛騨山脈と赤石山脈、八ヶ岳などの渓谷地帯を生息地とし、高山蝶として扱われることが多い。しかし、その生息地は標高350m程の低地から2800mの高地におよぶ。北海道にはいない。

県内の分布状況

中部山岳地帯に源流をもつ各河川の中上流域の渓谷地帯で見られるが、分布は普遍的ではない。

生態・生息環境

成虫は低地の生息地では5月上旬より見られ、高地では7月下旬となる。幼虫はミヤマハタザオ、イワハタザオ、ヤマガラシなどのアブラナ科植物を食草としているため、主要な生息地は渓谷地帯にある。蛹で越冬する。

生存への脅威

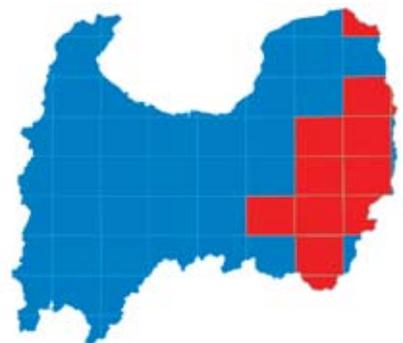
雄は鮮やかなオレンジ色の斑紋をもつ美麗種のため、チョウ愛好家の垂涎の的となっている。成虫の他、食草とともに卵や幼虫が採集された悪質な例もあった。一方、砂防ダムなどの建設工事のため、生息地の環境が破壊された所もある。

保全対策

1977年、富山県の種指定天然記念物となり、文化財保護指導員による巡視保護活動が長年実施されてきたが、監視の目が届かない所も多く、十分ではない。

特記事項

種指定の天然記念物の保護には、多くの課題がある。



ミヤマシジミ (チョウ目、シジミチョウ科) *Lycaeides argyrognomon praeterinsularis* (Verity, 1921)富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類**選定理由**

生息地が県内において局限され、減少傾向が顕著に見られる。また、日本海側の国内における分布西限である。

形態

前翅長15～16mmの美しい小型のシジミチョウ。雄の翅表はルリ色、雌は褐色で、共に後翅裏面の縁に橙色の斑点と銀色の小斑点をもつ。

国内の分布状況

中部地方と東北地方の一部にのみ分布。

県内の分布状況

1980年代までは、神通川から東の各河川に生息していたが、最近数年間の調査では、神通川、常願寺川、黒部川の3河川でのみ確認されている。

生態・生息環境

平野部の河川堤防周辺、および、河川敷でのみ生息し、山地には産しない。コマツナギを食草とし、5月下旬から10月にかけて年3回発生する。成虫はコマツナギ群落の付近を活発に飛び、生息地から離れることはほとんどない。コマツナギ、ヒメジョオン、カワラヨモギなどの花によく止まって吸蜜する。

生存への脅威

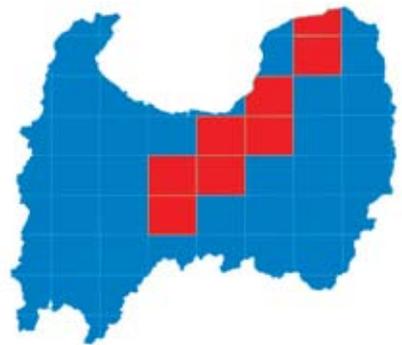
神通川以東の各河川には、コマツナギ群落はなお普通に見られるが、ミヤマシジミは1990年代に激滅している。原因不明である。気候の温暖化、少雪の継続などが要因かもしれない。

保全対策

激滅の原因が不明のため、有効な対策がとれない。調査を続ける必要がある。

特記事項

現在確認されている神通川、常願寺川、黒部川の3河川の生息地でも、個体数の減少は著しい。

**ゴマシジミ** (チョウ目、シジミチョウ科) *Maculinea teleius* (Bergsträsser, 1779)富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類**選定理由**

県内の生息地はいずれも局限的かつ局地的である。また、本種は全国各地の生息地で斑紋に微妙な差異があるため、一部の愛好家による過度のコレクションの対象となっており、採集圧によって消滅したと考えられる生息地もある。

形態

前翅長21～23mm。翅長、翅表の青色紋、翅裏の色には全国的に変化が多く、数種類の亜種名が付けられている。県内では中部山岳周辺部と県西部の山地に生息地があるが、県内産の個体についての亜種名の検討はされていない。

国内の分布状況

北海道・本州・九州に分布しているが、生息地は分散的でそれらの間には分布の空白地がある。それぞれの生息地は他の生息地から隔離されているため、形態に差異が生じている。

県内の分布状況

県東部から南西部の山地（標高1200mから2000m）に分散的に生息地がある。いずれの産地も局地的で、生息数は少ない。

生態・生息環境

成虫はカライトソウやワレモコウなどの花穂に一個ずつ産卵し、終令までこれらの花芯を食べて育つ。その後、蟻の巣に入り幼虫を食べて育つ。翌年、蛹になって7月頃、成虫になる。県内の生息地は分散的で、いずれも山地の緩斜面の食草のある草付きである。

生存への脅威

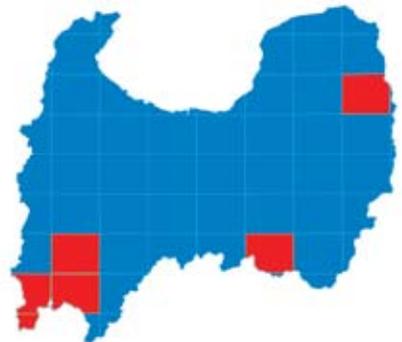
本種は観光開発や道路建設などの環境破壊により生息地の消滅した地域はないが、著名な産地であった大山町の祐延湖畔の生息地では、近年、全く見られなくなった。環境変化はほとんど見られないので、採集圧による消滅と考えられている。

保全対策

いずれの生息地も国立公園内や、県立自然公園内にあり、それらの地域における採集行動には十分な配慮が必要であろう。

特記事項

いずれの生息地も山間奥地であり、保護活動は困難である。



オオゴマシジミ (チョウ目、シジミチョウ科) *Maculinea arionides takamukui* (Matsumura, 1919)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、生息密度が低く希少である。また、個体数の減少が著しい。日本における分布西限に近い。

形態

前翅長22mm前後のやや大型のシジミチョウ。翅表は鈍い青色で縁が褐色である。表裏共に暗褐色の斑紋をもつ。

国内の分布状況

北海道と本州に産する。どこでも局地的で少ない。富山県～岐阜県の産地が分布西限である。

県内の分布状況

黒部川流域の山地と常願寺川流域の山地に限られる。概ね標高1000～1500mの地域。

生態・生息環境

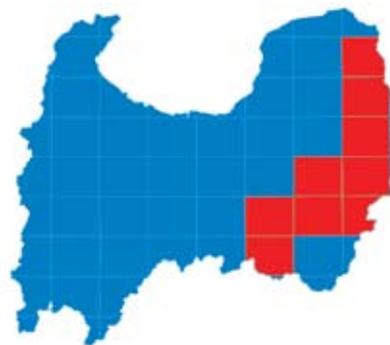
食草（シソ科のカメバヒキオコシ、クロバナヒキオコシ）が自生する溪畔の落葉広葉樹林内の開けた草地や林縁を生息地とする。年1回の発生で、7月下旬から8月に見られる。幼虫時代の前半は植物食（食草の蕾や花穂）、後半はアリ（シワクシケアリ）の巣中に運ばれて、アリの幼虫を食べて育つ。

生存への脅威

主要な既知産地が観光地に近く、草むらの刈り取りや整地など、生息環境の改変が懸念される。

保全対策

黒部峡谷、称名峡、有峰などでは観光地に隣接する草地が主要な産地で、その整備には細心の注意が必要である。



タカネヒカゲ (チョウ目、タテハチョウ科) *Oeneis norna asamana* Matsumura, 1919

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

標高2500m以上の高山帯のみを生息地とする種であり、本州の唯一の純粋な高山蝶として貴重である。

形態

前翅長22～26mmの中型のジャノメチョウである。雌は雄よりやや大きい。全体が茶褐色の地味な種である。裏面は岩肌と同じような模様をもち、止まる時、羽を横に倒す習性を有し、保護色となっている。

国内の分布状況

飛騨山脈および八ヶ岳の標高2500m以上の山岳地帯を生息地とし、北限は後立山連峰の雪倉岳である。

県内の分布状況

薬師岳の稜線では北薬師岳が北限である。その他、赤牛岳や長野、岐阜県の県境の山岳地帯から南沢岳まで生息地がある。しかし、南沢岳と鹿島槍ヶ岳までの間には分布の空白地がある。そこから北方に断続的に生息地があり、雪倉岳が本種の分布北限である。立山や剣岳周辺には本種が生息できると思われる環境が存在するが、生息していない。

生態・生息環境

イワスゲ、ヒメスゲなどのカヤツリグサ科を食草としている。幼虫は2～3令で石の下などで越冬し、翌年、晩秋までに終令となり、2度目の越冬をする。3年目に蛹になり、7月頃、成虫になる。山稜のタカネスミレなどが咲く風衝地の砂礫地帯が発生地である。斜面の向きや傾斜など種々の要因により、生息地は虫食い状に見られる。

生存への脅威

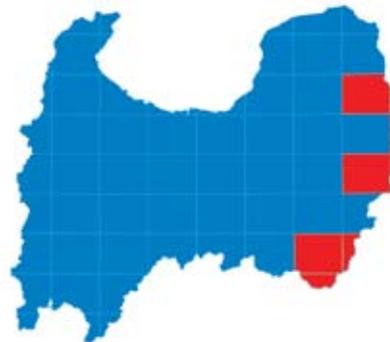
生息地への登山者の踏み込み、ケルンの石積みが生息環境の悪化要因となっている。さらに近年では、地球の温暖化による生息環境への悪影響が懸念されている。

保全対策

特別保護地区は厳しく環境保護が実施されていることになっているが、登山道も含めて、環境改変には細心の注意が必要である。

特記事項

県内における生息地は、すべて特別保護地区内にある。



オオシモフリスズメ (チョウ目、スズメガ科) *Langia zenzeroides nawai* Rothschild et Jordan, 1903

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、生息密度も低く希少である。最近40年間以上記録がなく個体数の減少も考えられる。また、富山県が国内分布の北限に位置し、生物地理上の分布境界域に生息している。

形態

前翅長60～72mm、胴体太く灰褐色の巨大なスズメガである。翅頂はとがり外縁は鋭く鋸歯状を呈する。

国内の分布状況

本州の日本海側では富山県以西、中部では長野県伊那地方以西、太平洋側では愛知県以西とされ、四国、九州、対馬に及ぶ。

県内の分布状況

宇奈月町、魚津市（東山）、大山町（東福沢、小見）、富山市（呉羽山、城山）。

生態・生息環境

県東部の平地、浅い山地に生息。成虫は4月上旬～5月下旬に出現するが個体数は多くない。幼虫の食樹はウメ、モモ、スモモ、アンズ、ソメイヨシノなど。幼虫、前蛹、成虫はシュツ、シュツと音を発する。

生存への脅威

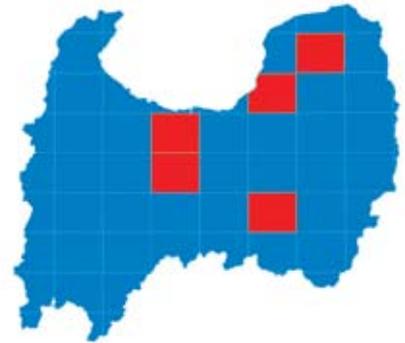
生息地の環境変化、とくに里山、市街地付近の丘陵地などの整備、開発などが問題となる。

保全対策

里山などの自然環境の保全。

特記事項

1966年以降記録がないので全県下にわたる生息状態の調査が必要。



ニホンカワトンボ (トンボ目、カワトンボ科) *Mnais costalis* Selys, 1869

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

平地から丘陵地の清流に生息するが、河川改修の影響などで近年減少している。

形態

全長47～64mm、腹長36～50mm、後翅長33～43mm。雄は一般に翅が橙色を呈し、雌は無色透明の翅をもつタイプと淡橙色の翅をもつタイプが見られる。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布するが、山梨県、高知県、長崎県には分布していない。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、魚津市、立山町、上市町、滑川市、富山市、南砺市、砺波市、小矢部市、高岡市、氷見市の計12市町から記録があるが、近年激減している。

生態・生息環境

平地から丘陵地の抽水植物や沈水植物の繁茂する清流に生息する。成虫は4月から7月にかけて見られる。成熟雄は流畔の草や石に静止して縄張りをつくる。交尾は水域周辺の植物などに静止して行われ、雌は単独で水面付近の植物組織内に産卵する。

生存への脅威

河川改修や水生植物の除去、水質悪化が絶滅原因となる。

保全対策

水生植物の繁茂した河川環境を保全することが望ましい。

特記事項

核DNAの解析に基づき、2004年に分類が見直された。従来、「オオカワトンボ」の和名でよばれていた。

ムカシトンボ (トンボ目、ムカシトンボ科) *Epiophlebia superstes* (Selys, 1889)

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では山間部を中心に生息するが、個体密度は低く、河川改修や林道建設に伴い、見られなくなった産地もある。

形態

全長46～55mm、腹長36～44mm、後翅長27～32mm。黄色と黒の縞模様を持つ中形のトンボで、サナエトンボのような体形とアオイトトンボのような翅を持つ。雌雄で体色や模様には大きな差はなく、複眼は銀白色～灰褐色で、成熟すると輝きを増す。

国内の分布状況

日本特産種で北海道から鹿児島県にかけて生息するが、千葉県では未記録である。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、立山町、上市町、富山市、南砺市、氷見市の計9市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

丘陵地から山地にかけての林に囲まれた溪流に生息し、生息地の背後にはまとまった山塊が必要である。成虫は4月から6月にかけて見られる。成熟雄は流れに沿って探雌飛翔を行い、静止するときは翅を半開きにした後に、翅を閉じて腹部の片側に寄せる。交尾は水域周辺の樹木に静止して行われ、産卵は雌が単独でウワバミソウやフキ、ワサビ、ジャゴケなどに行う。

生存への脅威

河川改修や砂防ダム工事、生息地周辺の森林伐採などで絶滅に至る危険性がある。

保全対策

生息地の溪流と周辺部の森林の保全が望まれる。

特記事項

日本のトンボの中でも特異な形態を持つ種で、「生きた化石」としても有名である。

アオヤンマ (トンボ目、ヤンマ科) *Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

近年激減しており、安定した産地は非常に少ない。

形態

全長66～79mm、腹長44～55mm、後翅長40～50mm。腹部第3節がくびれないやや大型のヤンマで、全身緑色をしている。

国内の分布状況

北海道から、宮崎県、熊本県にかけて分布する。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、立山町、滑川市、富山市、射水市、南砺市、砺波市、小矢部市、高岡市、氷見市の計12市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地の背丈の高い抽水植物の繁茂する池沼や湿地に生息する。成虫は4月末から8月にかけて見られるが、9～10月の記録もある。成熟雄はヨシやマコモの間を縫うように探雌飛翔を行い、交尾は水域周辺の抽水植物や樹木などに静止して行われる。雌は単独で抽水植物の茎に産卵する。

生存への脅威

平野部の池沼は埋め立てや改修の影響を受けやすく、生活廃水などによる水質悪化が絶滅につながる危険性もある。

保全対策

平野部の抽水植物の繁茂した池沼を保全することが望ましい。

ミヤマサナエ (トンボ目、サナエトンボ科) *Anisogomphus maacki* (Selys, 1872) 富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

平地から丘陵地にかけての河川の中～下流域に生息するが、安定した産地は非常に少ない。かつて多産した小矢部川中流域では、個体数が減少している。

形態

全長51～59mm、腹長37～42mm、後翅長29～35mm。細身の中形のサナエトンボで、腹部第7～9節が著しく膨らむ。

国内の分布状況

青森県から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

黒部市、立山町、上市町、舟橋村、滑川市、富山市、射水市、南砺市、砺波市、小矢部市、高岡市の計11市町村で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地にかけての河川の中～下流域に生息する。未熟成虫は大きな分散性を持ち、高い山の尾根筋などで見つかることが多い。成虫は7月から10月にかけて見られる。成熟雄は、流畔の石などに静止して縄張りをつくる。交尾は樹葉の上に静止して行われ、産卵は雌が単独で岸辺の草などに静止して卵塊を作った後、数回打水を繰り返して行う。はっきりした卵塊を作らずに飛翔したまま打水を繰り返して行くこともある。

生存への脅威

河川改修や水質悪化が絶滅原因となる。

保全対策

河川中流域の汚染が少なく、自然度の高い環境を保全することが望ましい。

トラフトンボ (トンボ目、エゾトンボ科) *Epithea marginata* (Selys, 1883) 富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

平地～丘陵地の池沼に生息するが、近年激減している。

形態

全長50～57mm、腹長33～39mm、後翅長33～38mm。黒色と黄褐色の虎斑模様をした中型のトンボで、雌は翅の前縁にそって黒褐色のバンドが現れる。

国内の分布状況

青森県から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

富山市、射水市、南砺市、砺波市、小矢部市、高岡市、氷見市の7市で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地の水生植物の豊富な池に生息する。成虫は4月から6月にかけて見られる。成熟雄はホバリングを交えながら水面を縄張り飛翔する。交尾は水域からやや離れた樹木の枝などに静止して行われ、交尾態のまま水域に飛来し、浮遊物のある周辺で交尾を解く。産卵は雌が単独で水辺の植物に静止して卵塊を作ったのち、水面をひっかくように打水して行く。

生存への脅威

平野部から丘陵地の池沼は埋め立てや改修が行われやすく、一旦減少すると、急速に絶滅に陥る危険性がある。

保全対策

平野部～丘陵地の水生植物の豊富な池沼の保全が望まれる。また、未熟期を過ごす林が周囲に存在することも必要である。

特記事項

他県では縄張り飛翔中の成虫がブラックバスに捕食される例が確認されている。

ミヤマアカネ (トンボ目、トンボ科) *Sympetrum pedemontanum elatum* (Selys, 1872) 富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

かつては県下全域で普通に見られたが、現在多くの地域で見られなくなっている。

形態

全長30～41mm、腹長19～28mm、後翅長23～32mm。翅の縁紋付近に褐色のバンドがあるアカネ。未熟個体は翅脈が橙色に輝く。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、立山町、上市町、舟橋村、富山市、射水市、南砺市、砺波市、小矢部市、高岡市の計12市町村で記録があるが、県西部を中心に近年減少している。

生態・生息環境

平地から山地にかけての水田や緩やかな流れに生息し、大河の河川敷でも見られる。成虫は7月から12月にかけて見られる。成熟雄は水辺の抽水植物などに静止して雌を待つ。交尾は水域周辺の草などに静止して行われる。産卵は連続態もしくは雌が単独で連続的に打水もしくは打泥して行く。

生存への脅威

圃場整備や農薬の影響で産地、個体数とも激減している。

保全対策

河川敷の生息環境が河川改修で消滅しないように注意することが望ましい。山間水田で見られる地域では、環境維持が望まれる。

キトンボ (トンボ目、トンボ科) *Sympetrum croceolum* (Selys, 1883)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

もともと産地が限られていたが、近年減少している。

形態

全長38～47mm、腹長23～31mm、後翅長26～32mm。全身橙黄色のアカネで、翅にも大きな橙色斑がある。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、魚津市、立山町、上市町、富山市、射水市、南砺市、砺波市、小矢部市、高岡市、氷見市の計13市町から記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地にかけての周囲に樹林のある水質の良い池沼に生息する。成虫は8月に羽化して12月まで見られる。成熟雄は水辺の枝先や水面の浮葉植物などに静止して縄張りをつくる。交尾は水域周辺の抽水植物や倒木などに静止して行われる。産卵は連結態もしくは雌が単独で打水した後、水際の泥などに腹端を打ち付けて行うことが多いが、連続的に打水もしくは打泥して産卵することもある。

生存への脅威

もともと個体数の少ない種であるが近年、池沼の埋め立てや改修、ゴルフ場建設などの影響で、産地が減少している。ブラックバス等の外来生物による捕食圧も心配される。

保全対策

丘陵地の周囲に林のある水質の良い池沼の保全が望ましい。

特記事項

石川県版レッドデータブックでは準絶滅危惧に指定されている。

ハッチョウトンボ (トンボ目、トンボ科) *Nannophya pygmaea* Rambur, 1842

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

不安定な環境で見られることが多く、安定した産地は少ない。

形態

全長17～21mm、腹長10～13mm、後翅長12～16mm。日本最小のトンボで、雄は成熟すると全身赤色を呈する。雌は黒、黄色、褐色の縞模様をもつ。

国内の分布状況

青森県から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

舟橋村を除く14市町から記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

丘陵地の丈の短い植物の繁茂する湿地に生息し、しばしば放棄水田や土砂採取跡地でも見られる。成虫は5月から10月にかけて見られるが、8月頃から個体数は激減する。成熟雄は湿地内の草などに静止して縄張りをつくる。交尾は午前中に多く観察され、短時間で行い、飛翔中の時間が多いが、一度は周囲の植物に静止する。産卵は雌が単独で植物の際の浅い水面を連続的に打水して行い、雄が警護飛翔することが多い。

生存への脅威

生息環境の草地化に伴い、数年で見られなくなるケースが多い。また、水質が悪くなるとたちまち姿を消す。

保全対策

草丈が短い湧水のある湿地環境を維持することが望ましい。

チョウトンボ (トンボ目、トンボ科) *Rhyothemis fuliginosa* Selys, 1883

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

近年産地、個体数ともに減少している。

形態

全長31～42mm、腹長19～25mm、後翅長31～39mm。全身黒色のトンボで、大部分が黒い幅広い翅をもち、雄は青紫色、雌は緑色もしくは青紫色に輝く。

国内の分布状況

青森県から鹿児島県にかけて分布し、北海道でも目撃例がある。

県内の分布状況

朝日町、入善町、魚津市、立山町、上市町、滑川市、富山市、射水市、南砺市、砺波市、小矢部市、高岡市、氷見市の13市町で記録があるが、安定した産地は少ない。

生態・生息環境

平地から丘陵地にかけての抽水植物や浮葉植物の繁茂する池沼に生息する。成虫は6月から10月にかけて見られる。成熟雄は水面を活発に飛翔して縄張りを作るが、水辺の抽水植物に静止する個体もよく観察される。交尾は終始飛翔して行うものもいるが、水域周辺の抽水植物に短時間静止することが多い。産卵は雌が単独で打水して行い、しばしば雄の警護飛翔を伴う。

生存への脅威

埋め立てや改修、水質悪化の影響を受けやすく、高岡市古城公園では、水草の除去に伴い一時全く見られなくなった。

保全対策

水生植物の豊富な池沼の保全が望ましい。分散力が強く、水生植物の豊富な水辺を設置することで、誘致が可能な種と思われる。

クビキリギス (バッタ目、キリギリス科) *Euconocephalus varius* (Walker, 1869)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数とも少なく、近年確認された産地も少ない。

形態

体は細長で、頭頂部三角形に尖る。緑色型、褐色型があるが希に赤色の個体もいる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

散発的に、平地～丘陵地の4ヶ所で記録されている。最近確認されているのは1ヶ所のみである。

生態・生息環境

草原に生息。草叢等で成虫越冬。移動性が高いようで都市の公園で見られたことがある。

生存への脅威

草原の減少、農薬散布等。

保全対策

堤防、河川敷等の広い草原の環境保全。

ササキリ (バッタ目、キリギリス科) *Conocephalus melaenus* (de Haan, 1843)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数とも少なく、近年確認されていない。日本海側の分布北限（新潟県）に近い。

形態

小型のキリギリス類。体側から前翅にかけ黒帯がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

丘陵地の数ヶ所から記録があるが、近年確認されていない。

生態・生息環境

林縁、木陰の低木や竹笹葉上、草上。

生存への脅威

林の伐採、開発等生息環境の改変。

保全対策

林の維持等林縁環境の維持・保全。

カワラスズ (バッタ目、ヒバリモドキ科) *Dianemobius furumagiensis* (Ohmachi et Furukawa, 1929)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

砂礫の河川敷に生息するが、産地・個体数とも少なく、近年確認されていない。

形態

小型のコオロギ。灰色に黒斑がありハネの基部は白い。チリチリチリと鳴く。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部川、常願寺川、庄川の河川敷から記録があるが、近年の記録がない。

生態・生息環境

河川敷の砂礫地に生息。

生存への脅威

河川の改修、河川敷の砂礫地の利用・改変。

保全対策

河川敷の自然環境の保全。

アヤヘリハネナガウンカ (カメムシ目、ハネナガウンカ科) *Nomuraida hibarensis* (Matsumura, 1935)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生息地が局地的で、しかも生息密度が低く希少である。

形態

成虫は前翅が長い体形。体長5mm、翅端まで13mm内外。体は赤褐色。前翅の外縁にそって赤褐色の翅紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州の山地。

県内の分布状況

富山市城山（丘陵地）、利賀村（山地）で記録がある。

生態・生息環境

山地に生息する。

生存への脅威

局地的分布で、しかも生息密度が低く、過疎状態になりやすい。

保全対策

生息地の保全。生息密度調査を継続すべきであろう。

イブキコガシラウンカ (カメムシ目、コガシラウンカ科) *Rhotala ibukisana* Matsumura, 1914

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されており、しかも希少。

形態

成虫は体の幅が広く卵形。体長は翅端まで9.5mm内外。黒褐色。

国内の分布状況

本州の山地に産するが希少。

県内の分布状況

富山市大山町有峰地区に産する。

生態・生息環境

夏期には幼虫も出現。

生存への脅威

局地的な分布で生息密度も低く、過疎状態になりやすいとみられる。

保全対策

生息地環境の保全。生息密度確認調査の継続。

クロテングスケバ (カメムシ目、テングスケバ科) *Saigona ishidae* (Matsumura, 1905)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生息地が局限されている。しかも生息密度が低く希少。

形態

体長11mm内外、同翅端まで14～15mm。全体黒褐色。

国内の分布状況

北海道および本州の中部高山地帯に分布するが個体数は少ない。

県内の分布状況

立山弥陀ヶ原と大山町有峰で記録がある。

生態・生息環境

高標高の山地で夏に出現する。

生存への脅威

局地的分布で、しかも低密度。過疎状態になりやすい。

保全対策

生息地環境の保全。生息密度確認調査を継続。

アカエゾゼミ (カメムシ目、セミ科) *Tibicen flammatus* (Distant, 1892)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が限定されており、希少である。

形態

体長は60～68mm。黒色地に赤褐色や橙色の斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に分布。

県内の分布状況

県内の山地に分布。黒部峡谷阿曾原・北又・鐘釣・宇奈月・立山称名滝付近、利賀村坂上で記録がある。

生態・生息環境

標高600m以上の山地のブナなどの原生林に生息する。成虫は7月上旬～9月上旬に出現し、ギーと鳴く。

生存への脅威

局地的で希少である。過疎状態になりやすいとみられる。

保全対策

生息環境での保全。生息密度確認調査の継続。

タケウチトゲアワフキ (カメムシ目、トゲアワフキ科) *Machaerota takeuchii* Kato, 1931

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が限定されており、希少。

形態

小楯板しょうじょうばんの後部が刺状になり、翅端まで伸びる特異な形態をしている。体長は翅端まで8mm内外。体は黒色で、黄白斑がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州に分布。

県内の分布状況

黒部峡谷鐘釣、大沢野町神通峡、高岡市二上山、利賀村山ノ神峠、上百瀬などで記録がある。

生態・生息環境

山地のシナノキ、ヘラノキなどに寄生。幼虫は5～7月に枝に石灰質の筒型の巣をつくり、中で生活する。

生存への脅威

生息地が局限されており、個体数が少なく、過疎状態になりやすいとみられる。

保全対策

生息環境の保全。生息密度確認調査の継続

オオアメンボ (カメムシ目、アメンボ科) *Aquarius elongatus* (Uhler, 1896)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

個体数が減少している。

形態

体長19～27mm。日本最大のアメンボで体肢ともに長い。前胸は後ろにのび、中央に褐色の縦筋があり、前翅は腹の先に達する。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町、八尾町、氷見市、福野町、福光町など今のところ県内各地で確認できるが、生息数は必ずしも多くなく、年々減少傾向にある。

生態・生息環境

池や沼、小川などの広い開放水面を好む。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。

オオコオイムシ (カメムシ目、コオイムシ科) *Diplonychus major* Esaki, 1934

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息環境が悪化し、個体数が減少している。生息地が局限されている。

形態

体長23～26mm。黄褐色ないし暗褐色でほぼ卵形で扁平。前脚は捕獲脚となり口吻はやや長い。尾端に伸縮自在の短い呼吸管がある。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

かつては県内の水田、池沼に普通に見られたが、激減した。氷見市、福光町のほか、新たな生息地がいくつか確認された。

生態・生息環境

水田、池沼などの止水域にすみ、小昆虫、小動物を捕らえ体液を吸う。初夏の頃に雌は雄の背面に卵を産み付ける。

生存への脅威

農薬、水田脇の水路のコンクリート化、放棄田の乾燥化。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。

ヒメミズカマキリ (カメムシ目、ミズカマキリ科) *Ranatra unicolor* Scott, 1874

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されている上、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長24～32mm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市、小杉町、氷見市など県内各地で確認されているが、分布は局地的で個体数も多くはない。

生態・生息環境

水田、池や沼などの止水域にすむ。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。

ホッケミズムシ (カメムシ目、ミズムシ科) *Hesperocorixa distanti hokkensis* (Matsumura, 1905)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息生育地が県内において局限されている。

形態

体長9.5～11.5mm。淡青黄色に黒色の条斑がある。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

分布は局地的であるが個体数は多く、氷見市、小杉町などで確認されている。氷見市では外来魚が繁殖しており絶滅の一途をたどっている。

生態・生息環境

水草や水底の堆積物などに身を隠すことなく、水中を泳ぎまわる。灯火にも飛来する。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

アメリカザリガニや外来魚からの脅威に早急な対策が必要。

ヨツモンカメムシ (カメムシ目、クヌギカメムシ科) *Urochela quadrinotata* (Reuter, 1881) 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が限定されており、また生息密度が低く、希少である。

形態

長円形で体長約15mm。赤褐色で、半翅鞘上に4黒紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、九州の山地に分布。

県内の分布状況

黒部峡谷鐘釣、立山称名峡、富山市大山町有峰、南砺市上平村などの山地で記録がある。

生態・生息環境

年1世代。山地のハシバミやハルニレに生息。夏期には幼虫も現れ、9月には新成虫が現れる。

生存への脅威

生息環境の変化。過疎化。

保全対策

生息環境の保全。生息密度確認調査の継続。

ヨコヅナツチカメムシ (カメムシ目、ツチカメムシ科) *Adrisa magna* (Uhler, 1860) 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息密度が低く希少。

形態

長円形、大型のツチカメムシ。体長17～20mm。黒色でやや光沢がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州に分布。

県内の分布状況

魚津市北山、上市町馬場島、富山市呉羽山・城山、高岡市古城公園など、里山的な所から記録がある。

生態・生息環境

主に落葉の下や地表で生活し、5～6月に新成虫が出現する。

生存への脅威

生息環境の変化。過疎化。

保全対策

生息環境の保全。

オオキンカメムシ (カメムシ目、キンカメムシ科) *Eucorysses grandis* (Thunberg, 1783) 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

大型のカメムシ。体長19～26mm。橙赤色の地に黒色の紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市大山町有峰地区、射水市大門町小島、高岡市二上山、砺波市杉木など山地、平地、丘陵地で記録がある。ほか立山・薬師岳などの山地の雪渓上での記録もある。

生態・生息環境

アブラギリ、センダン、クチナシ、ハゼ、ツバキなどで生活する。

生存への脅威

生息個体数が少なく、過疎状態になりやすいとみられる。

保全対策

生息地環境の保全。生息密度確認調査を継続すべき。

特記事項

本県では、1980年の記録が最も新しいもの。

アカスジキンカメムシ (カメムシ目、キンカメムシ科) *Poecilocoris lewisi* (Distant, 1883)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息生育地が県内において局限されており、希少である。

形態

大型の美麗カメムシ。体長16～20mm。金緑色に赤色の条斑がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部峡谷猫又、宇奈月温泉で記録がある。

生態・生息環境

山地の樹林で生活し、落ち葉下などで幼虫態で越冬し、6月ごろ成虫になる。年1世代。

生存への脅威

生息個体数が少なく、過疎状態になりやすいとみられる。

保全対策

生息環境の保全。生息密度確認調査の継続。

ウシカメムシ (カメムシ目、カメムシ科) *Alcimocoris japonensis* (Scott, 1880)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ生息密度が低く希少。しかも本県が日本海側の北限生息地である。

形態

前胸背側角が牛の角のように著しく突出する。この角はカメムシとしては特例的に幼虫にもある。成虫体長8～9mm。光沢のある黄褐色に多数の黒い点刻がある。(写真は左：幼虫、右：成虫)。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市城山で記録がある。

生態・生息環境

里山のアセビ、シキミ、サクラ、ウバメガシなどに生息し、これら植物から吸汁するが、セミの卵も吸汁する。成虫越冬で年2世代。

生存への脅威

生息密度が低く、過疎状態になりやすいとみられる。

保全対策

生息環境の保全。生息密度確認調査の継続。

特記事項

本県が本州北限生息地とみられる。

ナカボシカメムシ (カメムシ目、カメムシ科) *Menida musiva* (Jakovlev, 1876)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ生息密度が低く希少である。

形態

体背面の中央の小楯板しょうじょうばんに目立つ黒紋がある。体長8～9mm。地色は淡褐色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町芦峠寺、富山市大山町原、細入村、南砺市福光吉見で記録がある。

生態・生息環境

山地のクヌギ、コナラ、ミズナラなどで生活している。

生存への脅威

生息個体数が少なく、過疎状態になりやすいとみられる。

保全対策

生息環境の保全。生息密度確認調査の継続。

アオクチブトカメムシ (カメムシ目、カメムシ科) *Dinorhynchus dybowskyi* Jakovlev, 1876富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

生息地が県内において局限され、かつ生息密度が低く希少である。

形態

大型の美麗種。体長18～23mm。口吻(こうふん)が太短く、前胸背側角が鋭角をなしてとがる。金属光沢の強い緑色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

宇奈月温泉、立山別山、富山市大山町有峰、八尾町大長谷、南砺市福光町吉見などの山地で採集記録。

生態・生息環境

山地に生息し、鱗翅類幼虫の体液を吸う。クヌギ、ケヤキなどの植物からも吸汁。

生存への脅威

生息密度が低く過疎状態になりやすいとみられる。

保全対策

生息地環境の保全。生息密度確認調査の継続。

オオツノカメムシ (カメムシ目、ツノカメムシ科) *Acanthosoma giganteum* (Matsumura, 1913)富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

生息地が県内において局限され、かつ生息密度が低く希少である。

形態

大型のツノカメムシ。体長16～18mm。前胸背側角は長く突出する。鮮緑色で側角は赤い。

国内の分布状況

本州、四国、九州に分布。

県内の分布状況

山麓地の宇奈月温泉での記録がある。さらに立山室堂平、浄土山、薬師岳などの山岳の雪渓上での記録もある。

生態・生息環境

山地で生息し、幼虫はケンボナシで育ち、成虫はミズキなどにも集まる。

生存への脅威

生息密度が低く、過疎状態になりやすいとみられる。

保全対策

生息環境の保全。生息密度確認調査の継続。

フタボシチビゴミムシ (コウチュウ目、オサムシ科) *Blemus discus* (Fabricius, 1792)富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

2009年に生息が確認された種で、平野部の田園地帯が生息地である。人の生活圏に極めて近い為に、生息環境が稀弱で希少性が高く絶滅が危惧される。

形態

体長は3.2～5.5mm。赤褐色で複眼は大きく、後翅がある。上翅の中央後ろに一对の黒斑を有する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

能越自動車道・氷見インター開設により、近くの新設のコンビニ外灯下で採集記録された。

生態・生息環境

河原や沼沢等の湿地に棲む。自然度の高い豊かな田園地帯が本種を育てていた様に思われる。

生存への脅威

田園地帯の都市化等による虫食い現象に伴う自然度の低下。

保全対策

確実な生態把握による生息場所の確保あるいは本種捕獲によるビオトープでの管理保全が望まれる。

マルガタシマチビゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Oreodytes sanmarkii* (C.R.Sahlberg, 1826)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されている上、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長2.6～3.0mm。短卵形で背面は強く隆起する。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

県内では利賀村百瀬川のみで確認されている。個体数も多くない。

生態・生息環境

山間地の清流にすみ、岸辺がえぐられてできた川の中のウロのような部分の天井部で確認されることが多い。

生存への脅威

河川開発、河川改修工事。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。

コウベツブゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Laccophilus kobensis* Sharp, 1873

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されている上、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長3.4～3.8mm。体型は逆卵形で背面は微細な網状印刻に密に覆われ弱い光沢がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

分布は局地的で個体数も多くはなく、富山市横越（常願寺川河口）、小杉町水上谷、西谷、小矢部市道坪野、荒間で確認。

生態・生息環境

低地の池沼、湿地、放棄水田に生息するが、河川敷内の水溜まりなどでも時折確認される。

生存への脅威

池や沼の埋め立てやコンクリート化、池や沼への放魚。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。

ルイスツブゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Laccophilus lewisius* Sharp, 1873

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されている上、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長3.9～4.7mm。体型は逆卵形で幅広い。背面は淡黄褐色で微細な網状印刻に密に覆われやや強い光沢がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町、富山市、氷見市、砺波市など県内各地でツブゲンゴロウに混じって確認されているが、局地的で個体数も多くない。ツブゲンゴロウのいない生息地では個体数は比較的多い。

生態・生息環境

水草の茂る池や沼、放棄田に生息する。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。

クロマメゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Platambus nakanei* (A.N.Nilsson, 1996)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されているうえ、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長6.5～7.5mm。体型は楕円形でやや扁平で光沢がある。

国内の分布状況

北海道、本州、九州、南西諸島（トカラ中之島）。

県内の分布状況

県内各地の山間部に局地的に見られるが、過去の記録にはホソクロマメゲンゴロウも含まれている可能性があり注意が必要。

生態・生息環境

溪流の石の下やしみ出してきた水溜まりの落ち葉の下に見られる。

生存への脅威

山間部道路などの開発、整備。急勾配の三面コンクリート化された側溝。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。

コオナガミズスマシ (コウチュウ目、ミススマシ科) *Orectochilus punctipennis* Sharp, 1884

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されている上、どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長5.5～6.2mm。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

八尾町上仁歩（仁歩川）と小矢部市白谷（渋江川）、小矢部市茄子島（小矢部川河川敷）の記録がある。分布は局地的で個体数も多くはない。

生態・生息環境

平地から山間地の清流に生息する。

生存への脅威

河川工事により川によどみ部分がなくなり、流れが急になること。

保全対策

河川工事には自然に配慮した設計や工事が必要。

ミヤマツヤハダクワガタ (コウチュウ目、クワガタムシ科) *Ceruchus lignarius monticola* Nakane, 1978

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長14～21mm。全体が黒色で光沢がある。大顎(おおあご)は太短く、前胸は方形で、上翅に10列の条線がある。

国内の分布状況

本州の中部～紀伊半島。

県内の分布状況

大山町立山カルデラ、有峰、八尾町白木峰、利賀村水無。

生態・生息環境

標高100～1500mのブナやミズナラの原生林に生息していて、成虫・幼虫ともに主にミズナラの朽木にいる。秋に羽化した新成虫は、そのまま朽木中で冬を越し、翌年の7～8月に出現し稀に灯火に飛来する。

生存への脅威

生息地の観光開発、自動車道の造成、スギやヒノキの植林のための原生林の伐採。

保全対策

生息地の観光開発を避ける。ブナやミズナラの原生林の保護。

特記事項

本県産のクワガタムシ類中、本種はもっとも稀な種である。

アカマダラセンチコガネ (コウチュウ目、コガネムシ科) *Ochodaeus maculatus maculatus* Waterhouse, 1875

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が局所的で生息密度が低く希少である。

形態

体長7～11mm。前頭に一对の小瘤起があり、頭部は黒色。前胸両側に黒い紋があり、体は長毛に覆われる。

国内の分布状況

本州、佐渡、四国、九州。

県内の分布状況

富山市細入村岩稲、砺波市池原、東別所。

生態・生息環境

生態の詳細は未解明であるが、砺波市頼成の森では竹林の中や、その付近を飛んでいるところ、あるいは腐った竹の子の中で見つっている。

生存への脅威

宅地造成や観光開発などによる生息地の破壊。

保全対策

生息地（里山の自然）の保全。

特記事項

本種は初夏～盛夏にかけて発見されているが、砺波市東別所では1998年11月6日に、竹林の付近を飛んでいる新成虫が発見された。このことから本種は秋遅く羽化し早春にも野外に出て活動しているものと推測される。

オオチャイロハナムグリ (コウチュウ目、コガネムシ科) *Osmoderma opicum* Lewis, 1887

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長22～32mm。体全体が光沢のある黒褐色で赤銅ないし紫銅色を帯びることがある。成虫は一種の香気を発するが、雄と雌では多少匂いが違う。

国内の分布状況

本州、四国、九州、屋久島。

県内の分布状況

黒部市黒部峡谷阿曾原、魚津市奥平沢、立山町称名峡～ブナ平、富山市立山カルデラ、有峰、猪谷、南砺市奥山、ブナオ峠、大滝山、利賀村田ノ島。

生態・生息環境

幼虫・成虫ともブナ、ミズナラ、スギなどの大木の樹洞の中にいる。成虫は盛夏のころ高温、多湿な日に樹洞外に出て活動する。

生存への脅威

生息地の観光開発や自動車道の造成による自然林の伐採。

保全対策

ブナ原生林や自然林の保全。

特記事項

本県には温帯樹林帯上部に比較的多くの生息地がある。

アオマダラタマムシ (コウチュウ目、タマムシ科) *Nipponobuprestis amabilis* (S. van Vollenhoven, 1864)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局所的で、生息密度が低く希少で、かつ、本県が本種の生息地の北限に近い。

形態

体長16～29mm。上翅に4個の陥凹紋があり、縦隆脈は明瞭で、側縁部の鋸歯状は強い。色彩変化は少ないが稀に橙色又は銅紫色を帯びるものがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

富山市神通川流域、富山市婦中町～砺波市にかけての射水丘陵。

生態・生息環境

6～7月に出現し、ソヨゴ、サクラ、ツゲなどの枯れ材につく。

生存への脅威

神通川流域では植林のための大規模な伐採が度々行われており、その生息域が狭められている。新たに生息が確認された地域では食樹の材採集がされており、大幅な個体数の減少が懸念される。

保全対策

広葉樹の二次林も含めた自然林の環境保全と、材採集を慎んで節度ある成虫の野外採集にとどめる。

特記事項

本種は国内いずれの産地においても個体数の少ない種である。

サビナカボソタマムシ (コウチュウ目、タマムシ科) *Coraebus ishiharai* Y.Kurosawa,1953 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が局限しており、生息密度が低く希少である。

形態

体長約10～13mm。上翅は光沢がない。斑紋は美しく光る黄金色だが、死後は目立たなくなる。

国内の分布状況

本州、四国、九州に分布しているが、産地は局所的。

県内の分布状況

南砺市利賀村阿別当、福光町医王山。

生態・生息環境

成虫は6～7月に現れ、ヤマボウシの衰弱木に集まり、生葉や花弁を後食する。

生存への脅威

生息環境の破壊。

保全対策

分布実態が分かっていないので、当面、具体的な対策を指摘できない。

特記事項

全国的にまれな種。

ヒロオビナガタマムシ (コウチュウ目、タマムシ科) *Agrilus sudai* Y.Kurosawa,1985 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が局限しており、生息密度が低く希少である。

形態

体長4～8mm。暗銅色～赤銅色をしている。上翅は中央後ろ暗色帯を除いて灰色の毛で覆われる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国に分布しているが、産地は局所的。

県内の分布状況

立山町ブナ坂。

生態・生息環境

成虫は7～8月に現れ、ヤマハンノキにつく。

生存への脅威

生息環境の破壊。

保全対策

分布実態がよく分かっていないので、当面、具体的な対策を指摘できない。

特記事項

全国的に希な種。

フタキボシカネコメツキ (コウチュウ目、コメツキムシ科) *Limonicus kraatzii niponicus* Kishii, 1966 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地において、生息密度が低く希少である。

形態

体長8.5～12mm。体は細長く平行で、真鍮色の金属光沢をもつ。上翅中央部に黄褐色の斑紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、対馬。

県内の分布状況

立山町称名峡、富山市有峰、庵谷峠、南砺市利賀村山の神、縄ヶ池で発見されているが、得られている個体数は少ない。

生態・生息環境

ブナ、ミズナラ、スギ等の原生林を背景にしたところで見られる。早春から出現しカエデ、トチ、サワアジサイなどの花に来る。稀な例として、低山地の庵谷峠では雑木林のクリの花から得られた。

生存への脅威

本種の生活と密接な関わりがあると思われるブナ、ミズナラなどの原生林が観光開発や植林のため伐採されること。

保全対策

ブナ、ミズナラなどの原生林や自然林の保全。

特記事項

カネコメツキ類の中で本種は最稀種の一つ。

クロヒラタオオキノコ (コウチュウ目、オオキノコムシ科) *Renania atrocyanea* Lewis, 1887

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長5～6.5mm。体は長卵形で青色光沢があるが無紋。美しい種。

国内の分布状況

本州中部以西、四国に分布していて、紀伊半島からの採集例の報告は比較的多いものの、その他の地域における記録は少ない。

県内の分布状況

富山市楡原、南砺市利賀村大勘場で、各1頭ずつ採集されている。

生態・生息環境

本種の生態やその生活史の詳細は明らかではないが、生息しているところはいずれも自然度の高い広葉樹林域に限られる。樹林内のキノコ（ウロコダケの一種）に来る。

生存への脅威

観光開発、スギ、ヒノキなどの植林による自然林の伐採。

保全対策

自然度の高い広葉樹林の保全。

特記事項

本種は主として暖帯広葉樹林域から見つかっているが、利賀村大勘場ではブナ帯下部で発見されており、注目される。

ヒメエグリオオキノコ (コウチュウ目、オオキノコムシ科) *Megalodacne lewisi* (Nakane, 1950)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、本州での生息地は本県のみである。

形態

体長6.5～7.5mm。黒色で上翅は2赤色横帯を具え、前赤帯の前縁は外縁と中央に鋭い歯状突出があり、後赤帯の前縁も歯状に突出する。

国内の分布状況

北海道、本州、沖縄。

県内の分布状況

富山市神通川流域。本県では1984年に初めて採集され、最近になって旧細入村でも生息が確認された。

生態・生息環境

キノコに生息する。

生存への脅威

生息地の神通川流域では、大規模な植林のための伐採が度々行われて自然林が減少し、その結果、本種の生息域も狭められている。

保全対策

広葉樹の二次林を含めた自然林の保全。

特記事項

日本固有種。

ヒゲフトハナカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Pachypidonia bodemeyeri* (Pic, 1934)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、生息密度が極めて低く希少である。

形態

体長13～14mm。頭・前胸・小楯板・上翅基部は赤褐色、上翅後方・触角・体下面・肢はほとんど黒色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市利賀村中口、上平村西赤尾。

生態・生息環境

7～8月、温帯樹林帯上部のトチ、ミズナラ、エゾエノキなどの樹洞に生息し、ノリウツギなどの花に来る。

生存への脅威

温帯樹林帯の原生林や自然林の伐採。

保全対策

原生林や自然林の保全。

特記事項

国内いずれの地でも個体数の少ない種である。

ヒラヤマコブハナカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Enoploderes bicolor* Ohbayashi, 1941

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が局限しており、生息密度が低く希少である。

形態

体長11～13mm。上翅は朱赤色で光沢を欠く。腹部は赤褐色で全体に灰黄色の微毛が生えている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市利賀村水無、上平村西赤尾。

生態・生息環境

6～7月に出現する。成虫は樹木の洞に至り、林間を飛んでいるのが発見されている。また、カエデの花に飛来する。

生存への脅威

生息環境の破壊。

保全対策

分布実態がよく分かっていないので、当面、具体的な対策を指摘できない。

キイロミヤマカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Margites (Margites) fulvidus* (Pascoe, 1858)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、本県が本種の生息地の北限に近いと思われる。

形態

体長12～19mm。体は赤褐色～黒色で、黄色微毛に覆われる。上翅は前面に黄色毛をもち、端部は狭く切断される。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州、対馬、南西諸島。

県内の分布状況

朝日町、富山市神通川流域。

生態・生息環境

4～8月、暖帯樹林帯の広葉樹の枯れ木に集まり、花・樹液・灯火にも来る。

生存への脅威

生息地の神通川流域では、大規模な植林のための伐採が度々行われており、生息域が狭められている。

保全対策

暖帯樹林を含む自然林の保全。

ヒゲナガヒメルリカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Praolia citrinipes citrinipes* Bates, 1884

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、本県が本種の生息地の北限に近いと思われる。

形態

体長5.3～7.3mm。頭部、前胸、および肢は黄色～黄褐色。触角の長さは雄で体長の2.2～2.4倍、雌で1.8～2.0倍。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬、屋久島、種子島、中之島。

県内の分布状況

富山市神通川流域。

生態・生息環境

5～7月、暖帯～温帯樹林帯下部に出現し、アブラチャン、カゴノキ、タブ、エノキなどを寄主植物としている。

生存への脅威

生息地の神通川流域では、大規模な植林のための伐採が度々行われており、生息域が狭められている。

保全対策

広葉樹の二次林を含む自然林の保全。

タカネハバチ (ハチ目、ハバチ科) *Tenthredo devius* (Konow, 1900)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されている。立山が本種の分布南限地とみられる。

形態

体長11mm。黒色地で、腹節後縁が黄色。

国内の分布状況

北海道、本州（立山・黒部峡谷）に分布。

県内の分布状況

黒部峡谷朝日岳、雪倉岳、立山美松坂・室堂平・浄土沢・天狗平・雷鳥沢・立山温泉・ザラ峠などに記録がある。

生態・生息環境

山岳地に生息する。

生存への脅威

生息環境の変化。

保全対策

生息環境の保全。

特記事項

立山が本州原記録の種であるが、1974年の立山雷鳥沢での記録の後、再確認されていない。生息密度確認調査を継続する必要がある。

ニトベギングチバチ (ハチ目、ギングチバチ科) *Spadicocrabro nitobei* (Matsumura, 1912)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

朽ち木に営巣するが、産地・個体数ともに少なく、近年記録がない。

形態

日本産ギングチバチ類中最大の種。

国内の分布状況

本州中北部。

県内の分布状況

丘陵地から山地の2ヶ所で記録されているにすぎず、最近の記録がない。

生態・生息環境

雑木林の朽木の虫孔に営巣し、ヤガ類の成虫を狩る。

生存への脅威

樹林の伐採や開発・整備。営巣可能な立ち枯れ木や倒木の減少。

保全対策

樹林の環境保全。

特記事項

新潟県準絶滅危惧、福井県絶滅危惧Ⅱ類。

フジジガバチ (ハチ目、アナバチ科) *Ammophila atripes japonica* Kohl, 1906

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数ともに少なく、近年記録がない。

形態

大型のジガバチ。体は黒色で腹柄節は赤褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

山地の数ヶ所で記録はあるが、最近の記録はない。

生態・生息環境

裸地に坑道を掘り、ヤガ類の幼虫を狩る。

生存への脅威

低山から山地の道路改修や土地造成、森林開発等による営巣地の減少。

保全対策

森林環境の保全。森林周辺部の裸地の維持・保全。

フカイオオドロバチ (ハチ目、ドロバチ科) *Rhynchium quinquecinctum fukaii* Cameron, 1911

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数ともに少なく、近年記録がない。日本海側分布北限（新潟県）に近い。

形態

大型のドロバチ。体は黒色、頭部、前胸部、脚、腹節後縁は赤褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

平地2ヶ所から記録があるが、最近の記録はない。

生態・生息環境

海岸から低山地にみられ、孔筒中に泥の仕切りをし営巣し、メイガ類の幼虫を狩る。

生存への脅威

竹筒や木材の虫食い孔に営巣するカリバチ類の生息可能な里山的環境の減少、消失。

保全対策

里山的環境の保全。

オオギンスジコウモリ (チョウ目、コウモリガ科) *Gazorycta macilentus spinifera* Tshistjakov, 1997

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、生息密度も低く希少である。

形態

前翅長24mm、前翅はやや赤味を帯び美しい銀紋をもつ。

国内の分布状況

北海道（札幌）、本州（奥秩父、後立山連峰、長野県白馬大池付近、長野県木曾山脈、石川県白山など）。

県内の分布状況

立山町（立山弥陀ヶ原、立山室堂）。

生態・生息環境

高山帯、亜高山帯に生息するが、生態の詳細については不明。成虫は午後から夕方にかけて照度の低いときに出現し、交尾個体も観察されている。成虫の出現期は7～8月。

生存への脅威

生息地は国立公園内であり、特別保護地区も含まれ、比較的問題は少ないが、観光客の増加に伴う生息環境の悪化が懸念される。

保全対策

観光客増加に対する生息環境の保全。

ギンイチモンジセセリ (チョウ目、セセリチョウ科) *Leptalina unicolor* (Bremer et Grey, 1853)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、生息密度が低く希少である。

形態

前翅長15～17mmの小型の暗褐色のセセリチョウ。後翅裏面の白色帯が、草むらの中で銀白色の一文字に映える。

国内の分布状況

北海道から九州まで全国的に分布するが、どこでも、局地的。

県内の分布状況

魚津市、滑川市の平地～低山地、大山町有峰。

生態・生息環境

林縁の草地、河川堤防や路傍の草地を生息地とする。イネ科植物を食草とし、年1～2回発生。

生存への脅威

平地の草地は野焼き、刈り取り、除草剤散布などで失われ、山地の草地は荒れつつある。

保全対策

草地の維持は困難で、有効な保全対策はとりにくい。

特記事項

魚津市、滑川市の産地では1970年以後、また、大山町有峰では1986年以後、記録がない。飛翔力が弱く目立たないので、未記録の産地が他にある可能性もあり、さらなる調査が必要である。

タカネキマダラセセリ (チョウ目、セセリチョウ科) *Carterocephalus palaemon satakei* (Matsumura,1919)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息地が亜高山帯に限られ、記録は極めて少ない。

形態

前翅長13～15mmの小型のセセリチョウ。濃い茶色の基調色に黄色の鮮やかなまだら模様をもつ。

国内の分布状況

本州中部地方の飛騨山脈と赤石山脈の亜高山帯に限られた地域にのみ分布する高山蝶。

県内の分布状況

爺ヶ岳冷池小屋付近、鷲羽岳～三俣蓮華小屋、薬師沢～高天原などで記録されている。

生態・生息環境

イネ科のイワノガリヤスを食草とする。年1回の発生で、7月中旬～8月上旬に見られる。1世代に2年を要する。亜高山帯の沢沿いや涸れ沢、圏谷の下部に広がる樹林周辺の高茎草原、草付きなどに生息する。成虫は活発に訪花して吸蜜活動を行う。

生存への脅威

亜高山帯を生息地とし、人為的な環境破壊の影響は少ないと思われる反面、黒部川上流域では、しばしば、水害による大規模な環境破壊が起きていて、生息地が奪われて行きつつあることが懸念される。

保全対策

具体的な保全対策は当面、不要と判断されるが、現況調査を継続的にする必要がある。

特記事項

既知産地の多くは中部山岳国立公園内の特別保護地区に属する。

スジグロチャバネセセリ (チョウ目、セセリチョウ科) *Thymelicus leoninus leoninus* (Butler,1878)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

産地・個体数とも極めて少なく、有峰湖周辺でのみ記録されているが、最近30年間は記録されていない。

形態

前翅長13～15mmの小型のセセリチョウ。前翅・後翅の表面の縁取りは黒褐色で、内部は広く黄褐色。翅脈に添って黒褐色の細い筋がある。雄の前翅表中室下方に黒色の細い線状の性標をもつ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に分布。中部地方に産地が多い。

県内の分布状況

富山市(旧大山町)有峰地域のみで記録されている。

生態・生息環境

イネ科を食草とする。年1回の発生で、7月中旬～8月に見られる。草原に樹林が混在する環境を好み、次種のヘリグロチャバネセセリより林縁部を好む。

生存への脅威

目立たない蝶の一種で、分布が確認されないうちに、開発や植林事業などによって、生息地が消滅すること。

保全対策

森林周辺の草地の維持・管理は難しく、有効な保全対策はとりにくい。生息分布確認調査を続けていく必要がある。

ヘリグロチャバネセセリ (チョウ目、セセリチョウ科) *Thymelicus sylvaticus sylvaticus* (Bremer,1861)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数とも極めて少なく、庄川流域の山地でのみ記録されているが、最近20年間は記録されていない。

形態

前翅長13～14mm。スジグロチャバネセセリに大変よく似た小型のセセリチョウ。前翅・後翅の表面の縁取りはスジグロチャバネセセリよりやや濃い黒褐色で、内部は広く黄褐色。翅脈に添って黒褐色の細い筋がある。全体に、スジグロチャバネセセリより暗い色調をもつ。スジグロチャバネセセリの雄がもっている前翅表中室の性標は、本種の雄には無い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。各地とも局地的な分布をする。

県内の分布状況

県西部の庄川流域の山間地でのみ記録されている。

生態・生息環境

イネ科を食草とする。年1回の発生で、7月中旬～8月上旬に見られる。前種と同様に、樹林と草原が適度に混じり合った環境を好むが、本種の方が生息環境の幅が広い。垂直分布の幅も本種の方が広い。成虫は樹林の周辺部の草地や疎林の混じる草原、溪流沿いの草地などを敏速・小刻みに飛び、各種の花に吸蜜を訪れる。

生存への脅威

目立たない蝶の一種で、分布が確認されないうちに、開発や植林事業などによって、生息地が消滅すること。

保全対策

森林周辺の草地の維持・管理は難しく、有効な保全対策はとりにくい。生息分布確認調査を続けていく必要がある。

カラスシジミ (チョウ目、シジミチョウ科) *Fixsenia w-album fentoni* (Butler,1882) 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数とも極めて少なく、有峰湖周辺と庄川・小矢部川流域の山地でのみ記録されているが、最近20年間は記録されていない。

形態

前翅長14～16mm。前後翅表が濃褐色の小型のシジミチョウ。裏面に細い線状の白線が翅の縁と平行に1条走っている。また、後翅裏面の外縁に添って鮮やかな橙色班紋列をもつ。雄は前翅表中室に楕円形の性班をもつ。雌には無い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。北海道と九州南半では低地～山地に広く産するが、東北地方～九州北部では少なく、局地的となる。

県内の分布状況

本県では極めて稀で、旧大山町有峰一帯、庄川町湯山、利賀村水無、福光町下小屋650～800mの4地域でのみ記録されている。

生態・生息環境

食樹はニレ科のハルニレ、オヒョウ。年1回の発生。7月上旬～9月上旬に記録されている。成虫はノリウツギ、シシウド、ヨツバヒヨドリ、イタドリ、ヒメジョオンなどで吸蜜する。

生存への脅威

開発や森林事業により、発生木のハルニレやオヒョウが伐採されること。

保全対策

伐採行為は極力抑え、生息環境の消滅を防止する。

特記事項

有峰ダムが完成する前の旧有峰盆地でカラスシジミが多産したことが知られているが、水没後は多産地は発見されていない。

ミヤマカラスシジミ (チョウ目、シジミチョウ科) *Fixsenia mera* (Janson,1877) 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数とも極めて少なく、黒部川流域の山地、有峰湖周辺、庄川・小矢部川流域の山地など、数ヶ所でのみ記録されている。

形態

前翅長14～17mm。カラスシジミに酷似する小型のシジミチョウ。前後翅表は濃褐色で、裏面に細い線状の白線が翅の縁と平行に1条走っている。この形が、カラスシジミと本種では明瞭に異なる。また、後翅裏面の外縁に添って鮮やかな橙色班紋列をもつこと、雄の前翅表中室に楕円形の性班が現れることはカラスシジミと同様。雌には無い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。本州の東北地方から中部地方にかけては山地に広く生息している。

県内の分布状況

黒蘆川上流の北又小屋、宇奈月温泉、有峰、利賀村大勘場・水無、平村上松尾、福光町医王山・刀利ダムなど、数ヶ所に限られる。

生態・生息環境

食樹はクロウメモドキ、クロツバラ。年1回の発生。7月中旬～8月中旬に見られる。樹林の中の開けた空間や樹林周辺部の明るいつころを好む。ヒメジョオン、ヨツバヒヨドリ、イタドリなどに飛来し、吸蜜する。

生存への脅威

広葉樹林を伐採して、針葉樹を植林することにより、生息環境が奪われること。

保全対策

食樹のクロウメモドキ、クロツバラは県内の山地に広く自生するが、生息実態がまだ明らかではなく、調査を継続することが必要。

特記事項

カラスシジミと同様に、有峰ダムが完成する前の旧有峰盆地でミヤマカラスシジミが多産したことが知られているが、水没後は多産地は見つかっていない。

アサシジミ (チョウ目、シジミチョウ科) *Lycaeides subsolanus yarigadakeanus* (Matsumura, 1929) 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生息地は分散し、かつ、狭い範囲に限られ、生息数も少ない。

形態

前翅長16～18mm。雄の翅表は白味を帯びた明るい青色、雌は茶褐色。産地ごとに翅表の色調に変化がある。

国内の分布

北海道、本州の中部地方および関東地方の一部に分布するが、発生地は局地的で個体数はいずれの産地でも少ない。

県内の分布

北アルプスの山麓地および県西部の石川県との県境山地に生息地があるが、いずれの発生地も局地的で個体数も少ない。

生態・生息環境

食草のイワオウギ付近に産卵し、卵で越冬する。翌年孵化し、幼虫は体表から出す蜜状のものを蟻に提供し、守られて育ち、成虫は7～8月に発生する。

生存への脅威

採集圧による個体数の減少。

保全対策

昆虫採集に際してのモラルの向上。生息地の保全。

特記事項

産地の多くは国立公園内、または、県立自然公園内にある。

オオイチモンジ (チョウ目、タテハチョウ科) *Limenitis populi jezoensis* Matsumura, 1919

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本県では、立山町黒部湖底（黒部ダム工事中）での記録(1960年)の1例のみが知られ、長らく過産種と考えられていたが、2002年、2009年～2011年に旧大山町有峰地域で4回記録され、有峰地域で生息していることが確実となってきた。それに伴い、採集による減少・絶滅が懸念されている。

形態

前翅長37～45mm。タテハチョウ科のイチモンジチョウの仲間では、最大の蝶で、黒褐色の地色に大きな一文字模様が映え、珍しさとの相乗効果から、蝶愛好家の垂涎的となっている。雌は雄より二回りほど大きく、白帯も太い。

国内の分布状況

北海道、本州に分布。北海道では低山地～山地に広く生息しているが、本州では関東北部～中部山岳の亜高山帯に局地的に分布する高山蝶。

県内の分布状況

黒部川河原と有峰地域。

生態・生息環境

背後に高い山岳をもつ溪流沿いの河原や潤沢などのドロノキの林に産する。年1回の発生。7月中旬～8月上旬に見られる。成虫の飛び方は力強く、あまり羽ばたかず林間や梢上を滑空する。あまり花には飛来しない。生息地では河原や林道湿地に下りて給水することが多い。雌雄ともにヤナギ類の樹液を好んで吸う。また、獣糞や小動物の死体に飛来して吸汁することがよく見られる。

生存への脅威

有峰地域は「有峰森林文化村」として開発が進んでおり、また、水害対策の治山事業も盛んな地域であり、貴重な生息環境が破壊されていくこと。

保全対策

できるだけ、ドロノキを残すように配慮する。また、採集モラルの向上。

特記事項

日本産蝶の中で、人気が高く、とくに、富山県産はまだほとんど知られておらず、今後、珍しさから採集圧が高まることが考えられる。

コムラサキ (黒色型) (チョウ目、タテハチョウ科) *Apatura metis substituta* Butler, 1873

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

石川県の能登半島は以前から黒色型の出現率が極めて高いことが知られ、本県でも、能登半島基部に位置する氷見市では比較的、高率で現れることが知られていた。しかし、食樹であるヤナギの伐採が進み、コムラサキそのものが激減しており、黒色型は極めて稀になっている。

形態

前翅長32～35mm。コムラサキには褐色型と黒色型の2遺伝型があり、黒色型の雄は翅表の紫色の幻色と白色の帯とが対比となって、際だって美しい。翅の形状、大きさなどには、褐色型と黒色型とに差異は見られない。

国内の分布状況

褐色型が全国に広く分布しているのに対して、黒色型は一般には極めて少ない。例外的に、東海地方の一部、石川県の能登半島、九州東南部の一部に黒色型の出現率が高い所がある。特に、能登半島の一部の産地では黒色型しか見られない所がある。

県内の分布状況

能登半島の基部に位置する氷見市では、10%ぐらいの比率で黒色型が現れることが報告されているが、県内の他の産地（十数ヶ所）では、いずれも散発的に記録されているだけである。

生態・生息環境

食樹はヤナギ類に限られている。年2～3回の発生。1回目は6月上旬～下旬、2回目は7月下旬～8月中旬に発生し、3回目は少数が9月中旬以降に見られる。樹液によく集まる。花にはほとんど飛来しない。

生存への脅威

河川改修工事等で、ヤナギ類が皆伐されること。

保全対策

ヤナギの皆伐をやめ、所々に残すような管理をすること。

特記事項

コムラサキ (黒色型) の分布に関して、能登半島は特異な地域であり、その基部に位置する氷見市は貴重な生息地である。

オオムラサキ (チョウ目、タテハチョウ科) *Sasakia charonda charonda* (Hewitson, 1863)

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

分布は広範囲にわたるが、生息密度が低く個体数も減少している。

形態

前翅長55～65mmのタテハチョウ科最大のチョウ。雄の翅表は紫の幻色、雌は褐色で、共に白～黄色の斑点を有する。

国内の分布状況

北海道から九州まで全国に分布。

県内の分布状況

標高100～1300mの丘陵地・山地に広く産する。しかし、どこでも個体数が少ない。

生態・生息環境

食樹はエゾエノキとエノキ。年1回7～9月に発生する。樹液に好んで飛来し、花にはほとんど来ない。山頂を占有飛行することが多い。

生存への脅威

エノキ類の伐採が最大の脅威。

保全対策

寺院の境内や河川堤防などに遺存的に生育しているエノキの大木も重要な発生源となるので伐採しないように留意する。

特記事項

日本の国蝶とされる。各種の調査の指標昆虫に選ばれることが多い。

クロウスタビガ (チョウ目、ヤマムギ科) *Rhodinia jankowskii* (Oberthür, 1880) 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が国内、県内いずれにおいても限定され、県内では生息密度も低い。

形態

前翅長44～48mm。寒地性のヤマムギで翅の色は暗色、半月状の透明紋をもつ。

国内の分布状況

北海道、本州（東北地方～近畿地方）、四国。

県内の分布状況

下新川（黒部川流域）、立山（称名、美女平）、有峰、庄川上流（大牧温泉）。

生態・生息環境

成虫は9月下旬～10月上旬に出現。幼虫の食樹はキハダ。

生存への脅威

生息地の観光開発による生息環境の悪化。

保全対策

森林伐採などの制限による生息環境の保全。

シロオビコバネナミシャク (チョウ目、シャクガ科) *Neopachrophilla albida* Inoue, 1955 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されており、国内分布の日本海側の北限と考えられ、生物地理上の分布境界域に生息するものとみられる。

形態

前翅長12mm、前翅に幅広い明白な白帯をもつ小型褐色の蛾。

国内の分布状況

高地性の蛾で本州中部（富山、石川、長野、福井、岐阜）及び四国（徳島、高知、愛媛）に分布。本県が日本海側の北限域。

県内の分布状況

立山町（称名）、大山町（有峰）。

生態・生息環境

生態は不明であるが、高地の山林帯に生息するものと考えられ、本県では6月下旬～7月上旬に成虫が見られる。

生存への脅威

レジャー地としての開発、整備による生息環境の悪化。

保全対策

森林伐採などの制限による生息環境の保全。

特記事項

生息環境の調査が必要。

ハスオビカバエダシャク (チョウ目、シャクガ科) *Pseudaspilates obliquizona* (Inoue, 1953) 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

中部、北陸の山地に生息し、本県では立山弥陀ヶ原付近にのみ産し生息地が局限され、生息密度も低く希少である。

形態

前翅長24～29mm、前翅頂から褐色帯が斜めに走り、その両側は白色。

国内の分布状況

本州中部の山地（新潟、山梨、長野、富山、岐阜の各県）。

県内の分布状況

立山（弥陀ヶ原、美松坂付近）。

生態・生息環境

生態については明らかではない。成虫の出現期は7～10月上旬。夏の終わりから秋にかけて見られることが多い。

生存への脅威

生息地は国立公園内であるが、観光地として利用され、観光客の増加による生息環境の悪化が懸念される。

保全対策

観光地としての生息環境悪化に対する保護対策。

ゴマダラシャチホコ (チョウ目、シャチホコガ科) *Palaeostauropus obliterata* (Wileman et South, 1917)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において現時点では黒部川流域に局限され、生息密度も低く希少である。

形態

前翅長19～21mm、前翅は灰黄褐色で黒点をもち、外縁に沿って黒紋列がある。

国内の分布状況

本州(関東以西)、四国、九州に分布する日本特産種。

県内の分布状況

立山町(立山針ノ木谷)、黒部市宇奈月町(黒部峡谷小黒部)。

生態・生息環境

幼虫の食樹についての飼育と観察から房総丘陵、関東地方低山ではモミ、中部山地ではシラビソ、オオシラビソとみられることから、生息環境は針葉樹林帯と考えられる。

生存への脅威

黒部川流域の観光開発等による環境変化など。

保全対策

開発、整備に伴う環境変化への対応。

ホッキョクモンヤガ (チョウ目、ヤガ科) *Agrotis ruta* Eversmann, 1851

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において高山帯に局限され、生息密度も低く希少である。また、生活史に高山帯という特殊な環境条件を要する。

形態

前翅長20mm内外、前翅の翅形、色彩にかなりの変異がある。(写真は長野県白馬大池産、神保一義氏提供)

国内の分布状況

北海道(利尻山、大雪山系、十勝連峰)、本州(鳥海山、飯豊山塊、飛騨山脈、赤石山脈)。

県内の分布状況

朝日町(朝日岳、白馬岳)、立山町(立山)。

生態・生息環境

本州の2500m以上の高山のハイマツ帯にのみ生息し、成虫は7月末から8月に出現するが、生態については不明。

生存への脅威

分布地は特別保護地区内であるが観光客の訪れる地域であり、生息環境の悪化が懸念される。

保全対策

立山室堂など観光開発による生息環境悪化への対策。

特記事項

生息状況調査が必要。

キュウシュウマエアカシロヨトウ (チョウ目、ヤガ科) *Leucapamea kyushuensis* (Sugi, 1958)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内において生息地が局限され、生息密度も低く希少である。生物地理上、地域的に孤立した分布特性を有する。日本特産種。

形態

前翅長16mm、前翅は淡褐色、中央部に黒褐色部を有し、胸背も淡褐色。

国内の分布状況

九州各地で知られていたが、その後、本州(新潟県朝日村、糸魚川明星山、富山県)で記録され、さらに、北海道(下川町)でも発見されるなど特異な分布を示す。

県内の分布状況

大山町(有峰)。

生態・生息環境

生態については不明であるが、成虫の出現期は7～10月とされ本県では6月下旬に採れている。

生存への脅威

レジャー地としての開発、整備による生息環境の悪化。

保全対策

生息地はレジャー地として利用され、環境保全への配慮を要す。

フシキキシタバ (チョウ目、ヤガ科) *Catocala separans* Leech, 1889

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限されている。近年の調査では有峰以外から発見されていない。

形態

前翅長24～26mm、後翅の橙黄色の地色はかなり濃く、中央の黒条の幅は狭い。

国内の分布状況

青森、岩手、福島、茨城、埼玉、山梨、長野、新潟、富山、愛知、岐阜、福井、滋賀、京都、兵庫、鳥取、岡山の各県と対馬。

県内の分布状況

大山町有峰、高岡市伏木。

生態・生息環境

食樹はクヌギ、アベマキが確認されているが、これら是有峰に自生せず、ミズナラの原生林が多い。従って本県における食樹はミズナラと推定される。

生存への脅威

レジャー地としての整備、開発による生息環境の悪化。

保全対策

生息地のレジャー地としての整備に対し、保全対策が必要。

特記事項

種名の由来はLeechによる最初の発見地の1つ伏木にちなむ。

ナマリキシタバ (チョウ目、ヤガ科) *Catocala columbina* Leech, 1900

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、生息密度が低く希少である。

形態

前翅長24～26mm、前翅はやや青味を帯びた紫黒色の独特の色彩をもつ。後翅は他のキシタバ類と同様橙黄色を呈し黒帯をもつ。

国内の分布状況

本州では東京都、埼玉、新潟、石川、富山、岐阜、福井、滋賀、岡山の各県、四国、九州に分布。

県内の分布状況

黒部市宇奈月町（黒部峡谷阿曾原）、立山町（称名、立山カルデラ水谷）。

生態・生息環境

内陸的乾燥地に分布すると考えられ、岩場の蛾として知られている。食樹はイワガサなどシモツケ属の植物。成虫の出現期は7～9月。

生存への脅威

生息地の観光開発、整備による環境の変化。

保全対策

県内生息地の中には観光開発の影響も考えられるので、環境保全に対する配慮を要する。

ムツアカネ (トンボ目、トンボ科) *Sympetrum danae* (Sulzer, 1776)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では富山市高天原周辺（北アルプス）に限って見られ、個体数も少ない。

形態

全長26～34mm、腹長17～22mm、後翅長20～25mm。小形のアカトンボで、成熟すると雄は全身が黒化し、雌も黒味が増す。

国内の分布状況

北海道から富山、岐阜、長野の各県にかけて分布するが本州では産地は局所的である。

県内の分布状況

富山市の高天原周辺（北アルプス）に限って生息する。

生態・生息環境

高山の周囲に樹林のある池沼、池塘に生息する。成虫は7月から10月にかけて見られる。成熟雄は水域周辺の草や石に静止して縄張りをつくる。交尾は水域周辺の草などに静止して行われ、産卵は正午前後におもに連結状態で湿った泥に腹端を打ち付けて行う。

生存への脅威

歩道の設置などに伴い、生息地である池塘が枯れる可能性がある。

保全対策

生息地は国立公園の特別保護地区内にあるが、一部で池塘が枯れた場所がみられたため、高原の水辺環境の保全が望ましい。

特記事項

要注意種（限定）。

ミネトワダカワゲラ (カワゲラ目、トワダカワゲラ科) *Scopura montana* Maruyama, 1987

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

山地から高山域の清冽な溪流に生息する。生息環境が限定され、近年確認された産地も少ない。

形態

体は細長い円筒形で暗褐色。幼虫では腹端に糸状の鰓束が環状に配列する。成虫は無翅。

国内の分布状況

本州中部。

県内の分布状況

高山から山地の溪流。

生態・生息環境

水温の低い源流域や山間の細流。淵の周辺部や落ち葉の間などに見られる。成虫は無翅であり、移動性が乏しいと考えられる。

生存への脅威

溪流の環境変化。

保全対策

溪流の環境保全、水質汚染防止。

特記事項

要注意種（限定）。石川県（準絶滅危惧）など、周囲の各県で指定あり。

ウスバカマキリ (カマキリ目、カマキリ科) *Mantis religiosa* Linnaeus, 1758

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息が大河川の河川敷や海岸の草地などに限られ、産地・個体数とも少なく、最近では生息の確認がない。

形態

中型のカマキリ。体色は淡緑色。前脚基部に黒色斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

黒部川、常願寺川の河川敷や海岸部等数ヶ所で記録があるが、近年の記録がない。

生態・生息環境

明るく開けた植生のやや粗な広い草地。

生存への脅威

護岸工事、河川敷の整備工事などによる広い草地の減少、環境改変。

保全対策

明るい草原環境の維持保全。

特記事項

要注意種（限定）。大阪府（絶滅危惧Ⅰ類）など、11県で指定あり。

ヒメカマキリ (カマキリ目、ヒメカマキリ科) *Acromantis japonica* Westwood, 1889

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

平地～丘陵地の林内・林縁に生息するが、産地は限定され個体数は少なく、近年確認された産地も少ない。

形態

小型のカマキリ。緑色型、褐色型がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

平地～丘陵地の数ヶ所で記録されている。最近では3ヶ所で生息確認がされている。

生態・生息環境

平地～丘陵地の照葉樹林、雑木林の林縁樹上、灌木(かんぼく)上に棲む。

生存への脅威

樹林の開発伐採、環境改変。

保全対策

照葉樹林、雑木林の環境保全。

特記事項

要注意種（限定）。

オオゴキブリ (ゴキブリ目、オオゴキブリ科) *Panesthia angustipennis spadica* (Shiraki, 1906)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

照葉樹林林床などに生息環境が限定され、産地・個体数とも少なく、近年確認された産地は地域的に限られる。

形態

体長40～45mmで大型種。体は黒または黒褐色でつやがある。(写真は左：雄の成虫、右：幼虫)。

国内の分布状況

本州、四国、九州、屋久島。

県内の分布状況

平地～丘陵地の数ヶ所から記録がある。氷見市内では最近も確認されている。

生態・生息環境

平地～丘陵地の照葉樹林やその周辺部の雑木林の林床の朽ち木中に集団で生息。

生存への脅威

照葉樹林やその周辺部の雑木林の開発、伐採、立枯れ木・倒木の除去等林床の整備。

保全対策

照葉樹林やその周辺部の雑木林の保全。

特記事項

要注意種 (限定)。石川県 (絶滅危惧Ⅱ類) など、9県で指定がある。

チュウブオオオサムシ (コウチュウ目、オサムシ科) *Carabus dehaanii punctatostriatus* Bates, 1873

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

南砺市の福光町に生息しているが、生息範囲は狭い。本県が北限の生息地。

形態

体長23～38mm。背面は黒色で前胸部と上翅の側縁部は青紫色を帯びる。触角と肢は長い。

国内の分布状況

本州 (中部以西)。

県内の分布状況

南砺市の福光町刀利ダム周辺、医王山南部、綱掛、小院瀬尾、立野脇。

生態・生息環境

成虫・幼虫ともに主にミミズを捕食する。新成虫は7月頃から出現し、10月下旬頃から朽木や土の中に潜って越冬し、翌年の5月頃から地表に現れる。

生存への脅威

生息地の観光開発や宅地造成。

保全対策

生息・生育地の環境保全。生息範囲が狭いので、採集圧による個体数の減少を招くことのないよう、留意しなければならない。

特記事項

要注意種 (限定)。生息密度は低いですが、刀利ダムが出来る以前は高かったものと思われる。

マルバネオサムシ (コウチュウ目、オサムシ科) *Carabus albrechti okumurai* (Ishikawai, 1965)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

朝日町の小川以東に生息していて、生息地は局所的。本県が西限の生息地。

形態

体長17～22mm。体の背面は暗赤銅色。時々、黒色個体も見られる。

国内の分布状況

本州中部 (山梨県、長野県、富山県)。

県内の分布状況

朝日町笹川地区、越道峠。生息地は局所的だが、個体数は少なくない。

生態・生息環境

成虫・幼虫ともに主にミミズを捕食するものと思われる。成虫は5月から地表に現れ、10月下旬から土の中に潜って越冬する。

生存への脅威

生息地の観光開発や宅地造成。

保全対策

生息生育地の環境保全。生息範囲が狭いので、採集圧による個体数の減少を招くことのないよう留意しなければならない。

特記事項

要注意種 (限定)。朝日町～新潟県境の調査は進んでおらず、今後、新たな生息地が発見される可能性がある。

オンタケクロナガオサムシ (コウチュウ目、オサムシ科) *Carabus arboreus gracillimus* (Bates,1883)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

標高2000m以上の中部山岳地帯に生息している。

形態

体長18～23mm。黒色または赤褐色で背面は光沢を欠く。

国内の分布状況

中部山岳地帯（御岳、乗鞍岳、飛騨山脈、木曾山脈）。

県内の分布状況

天狗平、室堂、一ノ越、浄土山、真砂岳、獅子岳などで記録されている。

生態・生息環境

成虫は7月初旬から現れ、主にガヤチョウの幼虫を捕食するものと思われる。

生存への脅威

本種の生息地の多くは標高2000m以上の国立公園内にあるので、生息環境は保たれている。

保全対策

当面、保全対策を要しない。

特記事項

要注意種（限定）。飛騨山脈に生息しているのはキタクロナガオサムシの亜種オンタケクロナガオサムシとされるが、地域的変異が大きく、別亜種ではないかと思われる個体もある。

アルマンオサムシ (コウチュウ目、オサムシ科) *Carabus harmandi* (Lapouge,1909)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

どの生息地においても生息密度が低く希少である。

形態

体長16～23mm。全体が黒色で、背面は光沢を欠く。前胸背板は細い。

国内の分布状況

本州の中部以北の山岳地帯に生息している。

県内の分布状況

朝日町越道峠、宇奈月町阿曾原、立山町称名峡、美女平～ブナ平、黒部湖畔、棒小屋沢、針ノ木谷、大山町湯川谷、折立峠、大多和峠、利賀村水無、福光町ブナオ峠。

生態・生息環境

主に標高1000～1500mの山岳地帯に生息している。

生存への脅威

本州の生息が確認されている所の多くは、開発の手の及び難い山岳地帯で、現在のところ格別の問題点はない。

保全対策

山岳地帯の観光開発を極力避ける。

特記事項

要注意種（限定）。立山カルデラの真川の北（東）に subsp. *quinquecatellatus*、南（西）に subsp. *mizunumai* が分布している。

オニクワガタ (コウチュウ目、クワガタムシ科) *Prismognathus angularis angularis* Waterhouse, 1874

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

どの生息地でも生息密度が低く、生息生育環境が悪化している。

形態

体長17～25mm。全体が黒色でわずかに褐色を帯びる。雄の大あごは太短く上方を向く。

国内の分布状況

北海道、利尻島、本州、佐渡、四国。

県内の分布状況

黒部市黒部峡谷阿曾原、立山町称名峡～ブナ平、富山市立山カルデラ、折立、有峰、南砺市利賀村金剛堂山、上百瀬、水無、千束、山ノ神峠、（旧平村）相倉。

生態・生息環境

標高700～1500mのブナの原生林に生息していて、成虫・幼虫ともブナの朽木にいる。成虫は8月中旬～9月初旬に最も多く現れる。

生存への脅威

生息地の観光開発、自動車道の造成、スギやヒノキの植林のためのブナ原生林の伐採。

保全対策

生息地の観光開発を極力避ける。ブナ原生林の保全。

特記事項

要注意種（限定）。ブナ原生林に依存している種で、貧弱なブナ林にはいない。

シナノマルトゲムシ (コウチュウ目、マルトゲムシ科) *Byrrhus fasciatus shinanensis* Nakane,1963

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

高地に生息している種で、生息密度が低く希少である。

形態

体長8mm内外。黒～黒褐色。背面の鱗毛は主に暗褐色で、白色鱗毛の横紋がある。

国内の分布状況

本州（中部山岳地帯）。

県内の分布状況

立山浄土山、室堂、天狗平、ブナ坂。

生態・生息環境

成虫は7～9月に岩の上に生えたコケの上で見られる。幼虫はコケの根を食べると思われる。

生存への脅威

本種の生息地の多くは標高2000m級以上の国立公園内にあるので、生息環境は保たれている。

保全対策

当面、保全対策を要しない。

特記事項

要注意種（限定）。本種は北海道や本州北部の山岳地帯に生息するダイセツマルトゲムシの亜種とされている。

シナノキチビタマムシ (コウチュウ目、タマムシ科) *Trachys auriflua* Solsky,1875

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が局限しており、生息密度が低く希少である。

形態

体長4.1～5.2mm。頭胸部は真鍮色。上翅は銅色で後方に向け紫色が強まる。本邦産チビタマムシの中では最大種。

国内の分布状況

本州の青森県、山形県、福島県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県で記録されていて、日本海側を中心に分布している種。

県内の分布状況

立山町称名峽、大山町有峰、利賀村坂上、千束、城端町縄ヶ池、福光町医王山。

生態・生息環境

温帯樹林帯のシナノキの葉上で見られる。冬を過ごした成虫は春から出現する。新成虫は秋から出現し活動する。

生存への脅威

温帯樹林帯の開発や、スギなどの植林によるシナノキの伐採。

保全対策

温帯樹林帯のシナノキを伐採しないよう留意する。

特記事項

要注意種（限定）。本邦産チビタマムシ類中、最稀種の一つ。

シバタニセヒラタコメツキ (コウチュウ目、コメツキムシ科) *Eanus costalis shibatai* Kishii,1968

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が局限しており生息密度が低く希少である。

形態

体長8～9mm。前胸背板は幅広い台形で、後角は後外方に向け突出し、上翅は後方に幅広い。

国内の分布状況

本州（中部山岳地帯）。

県内の分布状況

上市町・劔岳、立山町・室堂、浄土山で見つっている。

生態・生息環境

生態や生活史の詳細はほとんど解明されていない。室堂では雪渓の上で、また、浄土山では、石の下にいたところを発見されている。

生存への脅威

特別保護地区内の樹林帯を中心とした生態系が侵されない限り、生存への脅威はない。

保全対策

本種の分布・生息域は、すべて中部山岳国立公園内に含まれているので、同地区の利用に留意する。

特記事項

要注意種（限定）。本県の劔岳劔沢産がタイプ標本。

クロジュウニホシテントウ (コウチュウ目、テントウムシ科) *Plotina versicolor* Lewis, 1896

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地が局限され個体数も少なく希少である。

形態

体長2.4～3.5mm。背面は赤、黄の地色に12個の黒紋を配し、極めて美しい種である。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市大沢野町の神通峡のウラジロガシ林と松峠の2例が記録されている。

生態・生息環境

生活史は不明であるが、常緑照葉樹、落葉広葉樹の自然度の高い森林が生息地。神通峡では、ウラジロガシの枝先が枯死した白色の腐朽部で得られている。

生存への脅威

照葉樹、落葉広葉樹の自然林の伐採による環境の改変。

保全対策

生息地の現状のままの森林保全。

特記事項

要注意種（限定）。

ハネナシセスジキマワリ (コウチュウ目、ゴミムシダマシ科) *Strongylium marseuli* Lewis, 1894

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が県内において局限され、かつ、本県が本種の生息地の北限である。

形態

体長10～12mm。体は濃褐～赤褐色で後翅は退化して細く短い。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬、五島列島、黒島、種子島、屋久島、八丈島。

県内の分布状況

朝日町宮崎、氷見市北部の海岸沿い。

生態・生息環境

夜行性で後翅が退化しており飛ぶことができない。暖地性樹林内の朽木にいる。

生存への脅威

生息できると思われる樹林が飛び石状で、かつ、それぞれの範囲が非常に狭い。

保全対策

暖地性樹林の保全。

特記事項

要注意種（限定）。海流分布すると考えられる種で、県内沿岸の他地域でも調査が進めば、発見される可能性がある。日本固有種。

イボタサビカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Sopronica obrioides* (Bates, 1873)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

本県では、2011年に1♂が初めて採集記録された。本種は沿海性に分布すると言われており、日本海側では京都府舞鶴市・冠島以北では初めての記録である。

形態

体長5～7.7mmの小型のカミキリムシ。全体が明るい赤褐色で触角を含む全体が長立毛で覆われる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、伊豆諸島、対馬、壱岐、種子島、琉球等。

県内の分布状況

氷見市中央部の丘陵地林道で発見された。海岸より3kmほどの地点。

生態・生息環境

ホストはイボタヤテイカズラ他で、それらの枯れ木や枯れ蔓につく。それらの叩き網で得られ、灯火にも飛来する。

生存への脅威

イボタヤテイカズラ等の生育する自然林の伐採等の開発行為。

保全対策

沿岸部の自然林の管理と保全。

特記事項

要注意種（限定）。太平洋側では現在のところ宮城県が北限。

キンイロネクイハムシ (コウチュウ目、ハムシ科) *Donacia japana* Cyujo et Goecke, 1956

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

ため池や湿地のミクリ（ヒメミクリ、ヤマトミクリ）で見られる。ミクリ属の水草の希少性ととも、産地が局限され、個体数も多くない。

形態

体長7.5～9.0mm。金色で上翅に青や赤の虹色の斑紋を有し美しい。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市、高岡市、氷見市のため池や湿地で確認されている。

生態・生息環境

食草はミクリやスゲであるが本県ではミクリ属（ヒメミクリ、ヤマトミクリ？）で見られる。幼虫はホストの根に入り半水生生活をする。

生存への脅威

乾燥化による湿地の退廃に伴う、水草のミクリ属の枯渇。

保全対策

殺虫剤や除草剤等の影響を受けない湿地や浅いため池でのミクリ属の水草の管理と保全。

特記事項

要注意種（限定）。ミクリ属のナガエミクリは県内に広く分布するが、本種は見られない。氷見市のトンボ公園では、ヒメミクリの発生場所の移転とともに本種も移動している。

ネクイハムシ (コウチュウ目、ハムシ科) *Donacia (Cyphogaster) lenzi* Schonfeldt, 1888

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

食草のヒツジグサ、ジュンサイそのものの生育地が局限される。生息地での個体数は少なくないが、ホストがあっても本種がいるとは限らない。希少種である。

形態

体長6～8mm。身体全体が金属光沢を帯び、肢の一部に赤褐色部がある。雄の後腿節は太く、棘が多い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市婦中町と氷見市。

生態・生息環境

現状は、個人の所有するジュンサイ池や灌漑用ため池に移植栽培されるヒツジグサに依存して生息している、半水生昆虫である。

生存への脅威

水田の耕作放棄により、ため池もまた水抜きがされ、水草そのものが絶える傾向が著しい。

保全対策

殺虫剤や除草剤の影響を受けない湿地やため池の水草の管理と保全。

特記事項

要注意種（限定）。

イネネクイハムシ (コウチュウ目、ハムシ科) *Donacia provostii* Fairmaire, 1885

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

半水生昆虫。食性の範囲が広く、イネ、ハス、オニバス、ガガブタ、アサザ、ヒシ、ヒルムシロ類をホストとするが、産地は少ない。

形態

成虫は体長6～6.8mm。雄の腹部第1節は、中央部に1対の小突起を装う。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

氷見市のヒルムシロやヒシのある池や潟湖で発生が確認されている。

生態・生息環境

半水生昆虫。幼虫がホストの根を食べる。成虫は水辺に生える植物の葉や花粉、蜜などを食べる。

生存への脅威

新開地の廃田や総合灌排事業の推進による、灌漑用ため池の水抜きによる生息地の減少。

保全対策

主たる生息地のヒルムシロ、オニバス、ヒシ等の生育する池の環境保全。

特記事項

要注意種（限定）。希少植物のアサザ、ガガブタ、オニバスの他イネ、ハスの害虫になる。被害の詳細は不明で、軽微なものと推測しているが、その動向について注目する必要がある。

コカスリウスバカゲロウ (アミメカゲロウ目、ウスバカゲロウ科) *Distoleon contubernalis* (MacLachlan, 1875)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸や大河川の砂地に生息する。生息環境が限定され、県内の記録は1ヶ所のみで、近年記録がない。

形態

中型のウスバカゲロウ。ハネ全体に黒色小斑を有する。

国内の分布状況

本州、四国、南西諸島。

県内の分布状況

富山市浜黒崎海岸での1例のみ。最近の記録がない。

生態・生息環境

海岸や河川敷の砂地に生息。幼虫はいわゆるアリジゴクであるが、巣は作らず砂中に潜み昆虫類を補食する。

生存への脅威

海岸の砂浜や河川の砂地の改変、減少。

保全対策

海岸の良好な砂浜の保全、河川敷の自然環境の保全。

特記事項

要注意種（限定）。

オオモリハマダラカ (ハエ目、カ科) *Anopheles omorii* Sakakibara, 1959

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が山地の比較的大きな樹洞に局限され、生息密度が低い。近年、県内での採集記録がない。

形態

体長5mm、翅長4mmほど。胸腹部が黒色で、翅は無紋で透明である。

国内の分布状況

本州（富山県、静岡県、京都府）。

県内の分布状況

宇奈月町黒部溪谷鐘釣、立山町美女平～ブナ坂のブナの樹洞で確認されているに過ぎない。

生態・生息環境

山地のブナ、ケヤキなどの樹洞が生息場所。タイヤなどの人工容器でも生育するが、落ち葉などが必要である。人工飼育には木屑が必要である。野外では吸血に来ないが、実験室では人を吸血し、人為的にはネズミを吸血する。若齢幼虫で越冬する。

生存への脅威

ブナ林の衰退。

保全対策

ブナ林の保護育成。

特記事項

要注意種（限定）。アジア東部が森林に覆われていた時代の遺存種であると推測されている。マラリア原虫の媒介能力がある。

ハクサンヤブカ (ハエ目、カ科) *Aedes (Ochlerotatus) hakusanensis* Yamaguti et Tamaboko, 1954

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が立山山岳地域の標高1000～2000mのくぼ地の溜りに局限され、出現期が短く、生息密度も低い。

形態

体長5mm、翅長4.5mm。胸腹部背面は黄褐色、中胸背面は黄褐色鱗毛に覆われる。翅は透明であるが、翅鱗は全体黒色である。

国内の分布状況

本州（富山県立山、石川県白山）。

県内の分布状況

立山町ブナ坂、上ノ小平、追分、大山町五色ヶ原。

生態・生息環境

比較的日当たりの良いくぼ地や雪解けの水溜りに、5～8月に幼虫が出現し、成虫は6～8月の昼間吸血飛来する。卵越冬と思われる。

生存への脅威

登山道の新規整備や雨などで表層土の流失が起り、生息環境に適したくぼ地が減少した。

保全対策

不要な（過度の）登山道整備の抑制。

特記事項

要注意種（限定）。氷河時代の遺存種と思われる。

トヤマゴマフアブ (ハエ目、アブ科) *Haematopota toyamensis* Watanabe, Kamimura et Takahasi, 1976 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が山間地渓流域に局限され、密度も低い。

形態

体長10mm。胸腹部背面および脚は一律に黒色。翅には濃灰色の胡麻模様があり、静止時は屋根型にたたむ。複眼には生時に虹色に輝くジグザグ模様が見られる。

国内の分布状況

富山県のみ。

県内の分布状況

宇奈月町宇奈月ダム、上市町馬場島、早乙女湖、利賀村百瀬、福光町中河内の標高300～600mの渓流域。

生態・生息環境

山間地の川原が広い渓流において、8月に吸血飛来する。幼虫は発見されていないが、広葉樹林の林床腐葉土で生育しているものと推測される。

生存への脅威

山間地渓流域の自然林の減少。

保全対策

針葉樹単純林の造成の抑制。

特記事項

要注意種（限定）。マレーズトラップで採集可能だが、少ない。

フタスジチョウ (チョウ目、タテハチョウ科) *Neptis rivularis insularum* Fruhstorfer, 1907 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地・個体数とも極めて少なく、近年確認された産地は黒部ダム付近だけである。

形態

前翅長22～25mm。イチモンジチョウの仲間では中型の蝶で、後翅表面にあるための一文字模様が種の特徴となる。翅形にはやや丸みがある。

国内の分布状況

北海道と本州中部以北に生息する。中部地方における垂直分布は標高1,000m～2,100mとされている。

県内の分布状況

数十年前の記録として、朝日岳夕ヶ原、称名～立山、針ノ木谷の3地域が報告されているだけであったが、1998年6月中旬～7月下旬に立山町黒部ダム下流側右岸で生息が確認された。

生態・生息環境

主要な食草はシモツケ。年1回の発生。中部地方では概ね、6月中旬～8月中旬に見られる。成虫は好んで花に集まり、クガイソウ、ヨツバヒヨドリ、ウド、シモツケなどで吸蜜する。

生存への脅威

水害などの自然災害とダム工事などによる大規模な環境破壊によって、生息環境が失われること。

保全対策

具体的な対策をとる必要はないが、生息分布調査を継続していく必要がある。

特記事項

要注意種（限定）。

エルタテハ (チョウ目、タテハチョウ科) *Nymphalis vaualbum samurai* (Fruhstorfer, 1907) 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

食樹のシラカバの分布に依存して、県下では産地・個体数とも限定されている。

形態

前翅長29～32mm。ヒオドシチョウと同じ属であるが、外形はキタテハ属のシータテハに似る。しかし、翅表の班紋と色調はヒオドシチョウによく似ており、シータテハほどには翅の外形はえぐられない。和名の「エルタテハ」は後翅裏面にある白斑紋の形がアルファベットの「L」字に似ていることから付けられたもの。

国内の分布状況

北海道、本州に分布。飛驒山脈の岐阜県側が分布西限。本州中部地方における垂直分布は標高900m～2,500mとされる。個体数はどこでも少ない。

県内の分布状況

八尾町白木峰中腹（杉ヶ谷、標高1,100m）と有峰を含む薬師岳周辺の数ヶ所だけで記録されている。

生態・生息環境

本州中部地方における主要食樹はカバノキ科のシラカバ。本県でも、シラカバの分布域と本種の記録地とがよく合致しており、シラカバと推定されている。年1回の発生。7月～8月に新成虫が発生し、成虫で越冬する。樹液に好んで集まり、雄は路上に下りて給水すること多い。

生存への脅威

観光開発や、森林事業で食樹のシラカバが伐採されて生息環境が失われること。

保全対策

富山県ではシラカバ林は局所的で貴重な樹林であり、これを保全していくことがエルタテハの生息を保全していくことに直結する。

特記事項

要注意種（限定）。

オオヒカゲ (チョウ目、タテハチョウ科) *Ninguta schrenckii* (Ménétriès, 1858)

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

食草のカササゲ、テキリスゲの分布に依存して、県下では産地が限定されている。水見市では最近放棄田などの草叢で観察されているが、今後の環境変化に伴う本種の動向に注意する必要がある。

形態

前翅長40～45mm。本邦産ジャノメチョウ亜科の中で最大クラスの蝶。雌雄による班紋の違いはほとんど無いが、雄の後翅表基部付近に白色の長毛があり、雌には無い。

国内の分布状況

北海道、本州に分布。産地はどこでも局地的である。

県内の分布状況

八尾町での古い記録を除けば、県西部の小矢部川左岸に位置する平地～低山地の高岡市、水見市に限られる。

生態・生息環境

食草はカヤツリグサ科のカササゲ、テキリスゲなど。年1回の発生。6月下旬～8月に発生する。成虫は薄暗い樹林内や林縁部を緩やかにふわふわと飛ぶ。日中は不活発であまり飛ばず、早朝や夕方には開けた場所にも現れ、湿地や水田の上を飛翔する。コナラ、クスギ、ヤナギ類の樹液を好んで吸う。花には飛来しない。

生存への脅威

生息地が水田の周辺や休耕地・放棄田など人里の中にあり、極めて不安定な環境の下にある。そのため、里山森林整備や疎対策の諸事業で容易に生息地が破壊される。

保全対策

現在は、過疎化・農業離れの進行などがオオヒカゲにとって、むしろ良好な環境を増やしているように見受けられるが、このような状態がこれからも続いていく保障は全くない。生息環境の変化を継続的に注意深く見ていく必要がある。

特記事項

要注意種（限定）。小矢部川下流の左岸一帯は、かつて、手工業のスゲ笠作りが盛んだった地域である。

アキアカネ (トンボ目、トンボ科) *Sympetrum frequens* (Selys, 1883)

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内で最も普通に見られたアカトンボの一種であるが、近年個体数は激減している。

形態

全長32～46mm、腹長19～30mm、後翅長25～34mm。代表的なアカトンボで、雄は成熟すると腹部のみが赤化する。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布するが、近年激減している地域が多い。

県内の分布状況

全15市町村から記録があるが、近年個体数は激減している。

生態・生息環境

平地から山地にかけての水田や湿地などに生息する。成虫は6月から12月に見られる。成熟雄は午前中に探雌活動を行う。交尾は水域周辺の抽水植物などに静止して行われる。産卵は連結態もしくは雌が単独で水面や水際の湿った土に連続的に腹端を打ち付けて行う。

生存への脅威

県内で1990年代後半から広く流通している箱処理剤に使用された農薬（フィプロニル、イミダクロプリドなど）により致命的な影響を受ける可能性が報告されている。

保全対策

水田の農薬による影響に注意する必要がある。

特記事項

要注意種（減少）。

ナツアカネ (トンボ目、トンボ科) *Sympetrum darwinianum* (Selys, 1883)

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内に広く分布するアカトンボの一種であるが、近年個体数は激減している。

形態

全長35～43mm、腹長21～28mm、後翅長26～32mm。アキアカネよりも少し小形のアカトンボで成熟雄は全身が赤化する。アキアカネに似るが、胸部第1側縫線上の黒色条が四角く断ち切れるのが本種の特徴である。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

全15市町村から記録があるが、近年個体数は激減している。

生態・生息環境

平地から山地にかけての水田や湿地などに生息する。成虫は6月から12月に見られる。成熟雄は水辺の草などに静止して雌を待つが、明瞭な縄張り性は見られない。交尾は水域周辺の草などに静止して行われ、産卵は連結態もしくは雌が単独で連続的に打空して行う。

生存への脅威

アキアカネ同様、県内で1990年代後半から広く流通している箱処理剤に使用された農薬（フィプロニル、イミダクロプリドなど）により致命的な影響を受けている可能性がある。

保全対策

水田の農薬による影響に注意する必要がある。

特記事項

要注意種（減少）。

ノシメトンボ (トンボ目、トンボ科) *Sympetrum infuscatum* (Selys, 1883)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内に広く分布するアカトンボの一種であるが、近年個体数は激減している。

形態

全長37～52mm、腹長22～35mm、後翅長28～39mm。翅の先端に黒褐色の斑紋を持つアカトンボ。他のアカトンボと異なり、雄は成熟しても腹部が赤褐色になる程度。

国内の分布状況

北海道から鹿児島県にかけて分布する。

県内の分布状況

全15市町村から記録があるが、近年個体数は激減している。

生態・生息環境

平地から山地にかけての水田や湿地などに生息する。成虫は6月から12月に見られる。成熟雄は午前中に探雌活動を行う。交尾は水域周辺の植物などに静止して行われ、産卵は連結態もしくは雌が単独で連続的に打空して行う。

生存への脅威

アキアカネ同様、県内で1990年代後半から広く流通している箱処理剤に使用された農薬（フィプロニル、イミダクロプリドなど）により致命的な影響を受けている可能性がある。

保全対策

水田の農薬による影響に注意する必要がある。

特記事項

要注意種（減少）。

エゾエンマコオロギ (バッタ目、コオロギ科) *Teleogryllus infernalis* (Saussure, 1877)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

大河川の河原や砂浜海岸に生息するが、生息環境の改変などで減少したと考えられ、近年確認されていない。

形態

大型のコオロギ。エンマコオロギによく似るが、頭部の眉斑は小さい。リーリーと鳴く。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市、氷見市の砂浜海岸と黒部川、庄川の河川敷から記録があるが、最近の記録がない。

生態・生息環境

海岸の植生のまばらな砂浜、大河川の砂礫地に生息。

生存への脅威

護岸工事、河床の土木工事等、砂浜・砂礫地の改変、減少。

保全対策

海岸の良好な砂浜の保全、河川敷の自然環境の保全。

特記事項

要注意種（減少）。神奈川県（絶滅危惧Ⅰ類）、石川県（絶滅危惧Ⅱ類）など、11県で指定がある。

クマコオロギ (バッタ目、コオロギ科) *Mitius minor* (Shiraki, 1913)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

湿った草地に生息するが、産地・個体数とも少なく、生息環境の改変などで減少したと考えられ、近年確認された産地も少ない。日本海側分布北限（新潟県）に近い。

形態

小型のコオロギ。体色は黒色、脚は赤褐色。ハネはやや短い。リッ、リッと鳴く。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬、種子島。

県内の分布状況

平地から丘陵地の山際の水田周辺や河川敷約10ヶ所で記録があるが、最近の記録がない。

生態・生息環境

平地から丘陵地の湿った草原に生息。

生存への脅威

湿田の乾田化。草地の乾燥化。

保全対策

年中湿った環境にある草地の維持・保全。

特記事項

要注意種（減少）。石川県情報不足。

クマズムシ (バッタ目、コオロギ科) *Sclerogryllus punctatus* (Brunner von Watternwyl, 1893)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

湿った草地に生息するが、産地・個体数とも少なく、生息環境の改変などで減少したと考えられ、近年確認された産地も少ない。日本海側分布北限（新潟県）に近い。

形態

小型のコオロギ。体色は黒色、触角中ほどは白色。雄の前翅は幅広い。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

丘陵地のおよそ10ヶ所から記録があるが、最近の記録がない。

生態・生息環境

林周辺の湿った草地に生息する。

生存への脅威

生息地の開発、草地の乾燥化等の環境改変。

保全対策

林と周辺草地の維持・保全。

特記事項

要注意種（減少）。

ショウリョウバッタモドキ (バッタ目、バッタ科) *Gonista bicolor* (de Haan, 1842)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

明るい草原に生息するが、産地・個体数とも少なく、生息環境の改変などで減少したと考えられ、近年確認された産地も少ない。

形態

ショウリョウバッタに似るが小型で脚は短い。鳴き声は出さない。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

丘陵地の数ヶ所から記録があるが、最近の記録がない。

生態・生息環境

チガヤなどの明るいイネ科草原に生息。

生存への脅威

明るく広いイネ科草原の縮小、消滅。

保全対策

明るいイネ科草原の維持・保全。

特記事項

要注意種（減少）。群馬県（絶滅危惧Ⅰ類）など、14県で指定あり。

トヤマオサムシ (コウチュウ目、オサムシ科) *Carabus yaconinus blairi* (Breuning, 1934)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息生育環境の悪化、および採集圧により、急激に個体数が減少している。

形態

体長26mm内外。多くの個体は黒色で僅かに青色を帯び、側縁部は青緑色に光るが、銅色の個体もいる。

国内の分布状況

富山県、石川県。

県内の分布状況

小矢部市、高岡市の小矢部川河川敷やその周辺、そして西側の丘陵地に生息しているが、二上山系の山地での生息密度は低い。

生態・生息環境

河川敷の草むらや、平野部から丘陵地に生息していて、成虫・幼虫共にミミズを捕食する。新成虫は6月下旬から出現し、10月頃から成虫で土の中に潜り、越冬する。

生存への脅威

観光開発や宅地造成。採集圧。

保全対策

生息生育地の環境保全。

特記事項

要注意種（減少）。数多く生息していた、小矢部川左岸河川敷の所々が公園化されたため、また一時期、数多く採集されたために、急激に個体数を減らした。

ヒョウタンゴミムシ (コウチュウ目、オサムシ科) *Scarites aterrimus* Morawitz, 1863

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が海浜の砂地であるが、浸食による砂地の減少、海岸の人工化、自動車の乗り入れ、大型重機による海浜性昆虫の踏みつぶし等により、減少が危惧される。

形態

体長15～20mm。体の幅が広く瓢箪のような形をしている。捕食のため大顎が発達。後翅は退化し棒状。砂を掘るのに適応した熊手状の前肢脛節を有する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市の海岸。

生態・生息環境

日中は砂地に掘った巣穴や打ち上げられた物の下等に潜み、日没後、地表に出てハマベハサミムシ等の昆虫やオカダンゴムシ等の小型甲殻類の死骸を食べる。

生存への脅威

砂浜海岸の開発や、浸食による砂地の減少および海岸への自動車の乗り入れ、漂着廃棄物の増大に伴う、大型重機の投入による生息環境の破壊。

保全対策

漂着廃棄物の減少対策や人海戦術等、生息生物に優しい美化対策。自動車の乗り入れ制限等自然海岸の保全。

特記事項

要注意種（減少）。隣の石川県には本種より大型のオオヒョウタンゴミムシも生息し保護対策が取られている。

キベリマメゲンゴロウ (コウチュウ目、ゲンゴロウ科) *Platambus fimbriatus* Sharp, 1884

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が最近開発の頻繁な河川の中流部であるために減少傾向にある。

形態

体長6.5～8mm。体型は長楕円形でやや厚い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

常願寺川、神通川、庄川、利賀村百瀬川などで確認されている。いずれも局地的であるが個体数は少なくはない。

生態・生息環境

一般的に河川の中流域に生息し、水草の根もとなどにかたまってみられる。

生存への脅威

県内では個体数は少ないが、河川工事、開発の影響を強く受けている代表的種である。

保全対策

自然に配慮した河川開発が望まれる。

特記事項

要注意種（減少）。

コガムシ (コウチュウ目、ガムシ科) *Hydrochara affinis* (Sharp, 1873)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息生育地が県内において局限されている。

形態

体長16～18mm。体は黒く艶があり、前翅に4本の点線の筋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市海竜町の埋め立て跡地で生息地が確認されたほか、小矢部市茄子島（小矢部川河川敷）と富山市向新庄でも確認された。

生態・生息環境

池や沼、小さな水溜まりなどにも見られる。

生存への脅威

池や沼の埋め立て、池や沼への放魚。

保全対策

生息地の現状を維持することが望ましい。

特記事項

要注意種（減少）。

ゲンジボタル (コウチュウ目、ホタル科) *Luciola cruciata* Motschulsky,1854

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

河川環境を見る上で適した指標昆虫である。

形態

体長12～18mm。上翅は黒色で、前胸背は淡赤色で縦に、中央が横に広がる黒色紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

県内各地の平野部丘陵地で確認されている。一部地域では保護増殖活動が盛んである。

生態・生息環境

幼虫は水のきれいな川に棲み、主にカワニナを食べて育つ。春になると水から出て蛹化し、5月下旬～6月中旬に成虫が出現する。

生存への脅威

川が三面コンクリート化されること。合成洗剤や農薬他の汚水が流入すること。人工光の氾濫。

保全対策

餌となるカワニナが棲める用水路の環境保全と、蛹化場所の確保。

特記事項

要注意種（減少）。

ヘイケボタル (コウチュウ目、ホタル科) *Luciola lateralis* Motschulsky,1860

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

かつて、平野部においてヘイケボタルが圧倒的に多かったが、稲作の近代化による圃場の乾田化の推進に反比例して本種は減少傾向にある。

形態

成虫は体長7～10mmで同属のゲンジボタルよりも小型で、前胸に黒色で縦型の斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、千島、シベリア東部。

県内の分布状況

県内一円。平野部、丘陵地の里山。

生態・生息環境

ゲンジボタルよりやや遅れて6月下旬ごろ出現し8月初旬まで見られる。幼虫は水田や池に生息し、モノアラガイ類を餌としている。

生存への脅威

稲作の大型機械化に伴う圃場の乾田化、用排水路の三方コンクリート化により、餌となる貝類の減少、畦畝の除草剤の多用による羽化場所の減少。人工光の氾濫。

保全対策

ゲンジボタルと同様に、生息環境作りが必要。

特記事項

要注意種（減少）。

ヨツボシカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Stenygrium quadrinotatum* Bates,1873

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

里山環境を中心に広く分布しているが、全国的に減少傾向にある。

形態

体長8～14mm。赤褐色で上翅に黄白色の斑紋をもつ。

国内の分布状況

日本全土に分布している。

県内の分布状況

古くは宇奈月町栃屋、立山町称名峽、富山市呉羽山、高岡市定塚町などで記録があるが、近年の採集例は氷見市大野新のみ。

生態・生息環境

温帯樹林帯に生息している。成虫は5～8月に現れ、クリ、コナラなどの花や枝に集まり、枯れた小枝の樹皮の割れ目に産卵し、幼虫は樹皮下で生活する。また、成虫は電燈によく飛来する。寄主植物はクリ、クヌギ、コナラ、アカガシなど。

生存への脅威

本種は主に平野部～低山地に生息しているため、宅地造成や観光開発の影響をまともに受け、生育・生息環境を失いつつある。

保全対策

丘陵地や低山地の自然林（二次林を含む）の保全が肝要。

特記事項

要注意種（減少）。

ルリボシカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Rosalia batesi* Harold, 1877

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

低山地では生息環境の悪化により、急激に個体数が減少している。

形態

体長16～30mm。全体青色の鱗状毛で覆われ、黒色の斑紋を装う。触角は灰褐色の軟毛で覆われる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、屋久島。

県内の分布状況

黒部市宇奈月町、富山市大山町、細入村、南砺市利賀村、平村、上平村、城端町、福光町などの自然度の高い樹林帯に生息している。

生態・生息環境

成虫は7～8月に現れ、ブナ、ミズナラ、コナラ、クリ、カエデ、カワヤナギ、サワグルミ、ニレなどに寄生することが知られている。

生存への脅威

本種が生存していくためには、湿度が十分に保たれた自然林の存在が不可欠で、リゾート地の開発、広葉樹木の伐採は、本種に致命的な打撃を与える。

保全対策

自然度の高い広葉樹林帯の保全。

特記事項

要注意種（減少）。大型の美しい日本の代表的なカミキリムシ。

オオウスバカゲロウ (アミメカゲロウ目、ウスバカゲロウ科) *Heoclisis japonica* (MacLachlan, 1875)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

海浜砂浜や大河川の河川敷砂地に生息するが、産地・個体数とも少なく、生息環境の改変などで減少したと考えられ、近年記録がない。

形態

日本産ウスバカゲロウ類中最大。ハネは白色がかり褐色の斑紋が散在する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

海岸から山地の河川付近でおよそ十ヶ所の記録があるが、最近の記録がない。

生態・生息環境

幼虫はいわゆるアリジゴクであるが、巣は作らない。海岸や河川の砂地に潜み昆虫を補食する。成虫は、灯火にも飛来する。

生存への脅威

護岸工事、河床の土木工事等、砂浜・砂地の改変、減少。

保全対策

海岸の良好な砂浜の保全、河川敷の自然環境の保全。

特記事項

要注意種（減少）。神奈川県（絶滅）など、8県で指定がある。

ニッポンハナダカバチ (ハチ目、ドロバチモドキ科) *Bembix niponica* F. Smith, 1873

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

海浜、河原の堆積砂丘の乾燥した砂地に生息するが、生息環境の改変などで減少したと考えられ、産地・個体数とも少ない。

形態

中型のカリバチ。上唇が細く三角状に前方に突出する、腹部に黄白色の斑紋がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市の海岸や大河川の中流部の数ヶ所で記録があるが、最近の記録は数少ない。

生態・生息環境

海岸、河川敷の良質な砂地に営巣する。獲物はハエ、アブ類。好繁殖地では集団で営巣することがある。

生存への脅威

砂浜や河川敷の砂地の環境改変、減少。

保全対策

広い良好な砂地の維持・保全。

特記事項

要注意種（減少）。埼玉県（絶滅危惧Ⅰ類）など、16の県で指定あり。

シナハマダラカ (ハエ目、カ科) *Anopheles sinensis* Wiedemann, 1828

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては普通種であったが、富山県内では1980年頃を境に個体数が激減した。

形態

翅長3.7～5.0mm。腹部は淡色毛で覆われ、第7腹節に黒色直立鱗片束をもつ。翅には白斑を有する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、対馬、琉球列島、大東諸島。

県内の分布状況

県内各地で確認されているが、氷見地域を除くと、分布は局地的で個体数も少ない。

生態・生息環境

幼虫は池沼、湿地、水田などに生息。成虫は大型哺乳類を好んで吸血する。成虫越冬。

生存への脅威

水田への農薬散布。池沼、湿地の減少。

保全対策

自然に配慮した農業政策。池沼、湿地の維持。

特記事項

要注意種（減少）。マラリアの媒介種とみなされてきたが、異論もある。

ヒサゴクサキリ (バッタ目、キリギリス科) *Palaeograecia lutea* (Matsumura et Shiraki, 1908)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

最近生息が確認されたが、現在、丘陵地での1例があるのみ。分布北限。

形態

大型のキリギリス。体色は淡褐色、背面に濃褐色の帯、顔面に緑色斑紋がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬。

県内の分布状況

呉羽丘陵で2010年夏に発見された1例のみ。

生態・生息環境

メダケ、マダケなどの竹藪に生息。

生存への脅威

竹林の開発、伐採。

保全対策

生息地の維持・保全。

特記事項

要注意種（注目）。日本海側では山口県と京都府から記録があるのみ。

ヒメスズ (バッタ目、ヒバリモドキ科) *Pteronemobius nigrescens* (Shiraki, 1911)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

森林林床に生息し、最近生息が確認されたが、現在丘陵地で1例の記録があるのみ。日本海側分布北限。

形態

小型のコオロギ類。黒褐色で光沢があり、小顎髭が白い。

国内の分布状況

本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

砺波市頼成山での記録が1例あるのみ。

生態・生息環境

落ち葉のたまった薄暗い森林林床部や林縁。

生存への脅威

森林開発、伐採。林床の整備。

保全対策

森林環境の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

ナミハンミョウ (コウチュウ目、ハンミョウ科) *Cicindela chinensis japonica* Thunberg, 1781

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

平野部から低山地の生息生育環境が悪化しているために、激減してきた。

形態

体長20mm前後。頭胸背は緑、赤銅色に光る金属色。上翅は赤銅色に光る横帯があり、中央後には黄白色の紋がある。非常に美しい種。

国内の分布状況

本州、四国、九州、対馬、種子島、屋久島、琉球。

県内の分布状況

主に平野部から低山地に分布しているが、平野部では殆ど生息地を失い、丘陵地や低山地においても生息範囲が狭められている。

生態・生息環境

成虫は5月頃から現れる。幼虫は山道の斜面に穴を掘って潜み、近づいたアリやダンゴムシなどの小動物を捕食する。

生存への脅威

道路（山道）の拡幅舗装工事等による生息地の環境破壊。

保全対策

生息生育環境の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

マガタマハンミョウ (コウチュウ目、ハンミョウ科) *Cylindera ovipennis* (Bates, 1883)

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生息生育環境が悪化している。

形態

体長14～15mm。肩部が丸くなり、後翅が退化して飛ぶことができない。上翅に勾玉様の斑紋をもつ。

国内の分布状況

北海道南部、本州の関西以北および佐渡に分布するが、生息地は局所的である。

県内の分布状況

早月川と神通川に挟まれた地域を除く自然度の高い里山から温帯樹林帯上部に分布している。

生態・生息環境

低山地のコナラ林から中山地のブナ林に生息していて、成虫は5月頃から現れ、幼虫は山道の斜面に穴を掘って潜み、近づいた小昆虫を捕食する。

生存への脅威

山中にレジャー施設などの建造物や、自動車道を造るための森林伐採。

保全対策

低山地の自然林（二次林を含む）や中山地の森林の保全。

特記事項

要注意種(注目)。早月川の東に分布するものと、神通川の西に分布するものとは微妙であるが、上翅の勾玉斑紋に違いが認められる。

ヒラタクワガタ (コウチュウ目、クワガタムシ科) *Dorcus titanus pilifer* (Vollenhoven, 1861)

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生息生育環境が悪化している。

形態

体長28～73mm。全体黒色でわずかに紫褐色を帯びる。大型の雄は光沢はないが、小型の雄や雌には光沢がある。雄の大あごは僅かに下方に湾曲する。

国内の分布状況

本州、四国、九州、五島列島、種子島、屋久島、竹島、伊豆諸島、隠岐諸島。

県内の分布状況

朝日町、立山町、滑川市、富山市、大沢野町、婦中町、新湊市、下村、砺波市、福野町、小矢部市、福光町、城端町、高岡市、氷見市など県下全域の平野部～里山に生息している。

生態・生息環境

自然度の高い公園、屋敷林、そして河川敷にある柳の木の洞の中にいる。夕方から早朝にかけて、洞外に出て活動する。

生存への脅威

宅地造成や、観光開発および、河川敷公園化などによる生息地の破壊。

保全対策

生息地の現状維持。

特記事項

要注意種（注目）。

ミヤマカミキリ (コウチュウ目、カミキリムシ科) *Massicus raddei* (Blessig, 1872)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

近年採集例が少なく、減少傾向にある。

形態

体長34～57mm。背面は灰黄色の短い微毛で覆われ、前胸背は非常に大きな横皺で彫刻される。

国内の分布状況

日本全土に分布している。

県内の分布状況

県下全域。

生態・生息環境

温帯樹林帯に生息していて、成虫は6～8月に現れる。クリ、クヌギ、コナラなどの生木に集まり、幼虫はこれらの木のほか、キリ、イチジク、クワ、リンゴなどの材部にすみ、害を与える。また成虫は電灯によく飛来する。

生存への脅威

本種は主に平野部～低山地に生息しているため、宅地造成や観光開発の影響をまともに受け、生育・生息環境を失いつつある。

保全対策

雑木林の保全。

特記事項

要注意種（注目）。本種が減少しているのは、カシノナガキクイムシの害により、県下全域のナラ類が立ち枯れたのが要因の一つであると、推察される。

キスジラクダムシ (ラクダムシ目、キスジラクダムシ科) *Raphidia harmandi* Navas, 1909

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

最近生息が確認されたが、生息地・個体数とも大変少ない。

形態

体は円筒形で細長く、特に前胸部が長い。単眼を有し、縁紋は横脈で仕切られる。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市呉羽丘陵、有峰折立、有峰十郎谷の3ヶ所のみ。

生態・生息環境

森林中、幼虫は樹皮下で生活するものと考えられている。

生存への脅威

森林開発、伐採。害虫防除薬剤散布。

保全対策

森林環境保護。薬剤散布を控える。

特記事項

要注意種（注目）。

フタオセンブリ (ヘビトンボ目、センブリ科) *Sialis bifida* Hayashi et Suda, 1997

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

分布は本州の一部（富山・長野・鳥取）に限られており、湿地や小渓流棲と思われる。県内の記録は2ヶ所のみ。最近の記録はない。

形態

体色は黒褐色。翅は透明で茶色をおび、前翅の基部が黒褐色。

国内の分布状況

本州の中部（富山・長野・鳥取）に限られる。

県内の分布状況

上市町つばら池周辺で記録があるのみ。最近の記録がない。

生態・生息環境

湿地や溪畔の灌木上や草上で見られる。幼虫は環境の良好な湿地や小渓流中に棲むものと思われるが不明。

生存への脅威

山地の湿地や溪流の開発や水質汚濁。

保全対策

山地の湿地や溪流とその周囲の保全。水質汚染の防止。

特記事項

要注意種（注目）。

クシヒゲカゲロウ (アミメカゲロウ目、クシヒゲカゲロウ科) *Dilar japonicus* McLachlan, 1883

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

自然度の高い森林に生息し、環境指標性があると考えられる。

形態

前翅に淡灰褐色の斑点を横列。雌の産卵管は長い。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

刀利、有峰猪根谷、有峰十郎谷、利賀村上百瀬。

生態・生息環境

自然度の高い森林に生息する。飛翔力は弱い。夜間、灯火に飛来する。生態には不明な点が多い。

生存への脅威

伐採による生息環境の衰退。

保全対策

自然度の高い森林の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

ウマノオバチ (ハチ目、コマユバチ科) *Euurobracon yokahama* Dalla Torre, 1898

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

里山や低山地に局所的に生息し産地は少なく、里山環境の減少もあり、記録は大変少ない。

形態

体は黄赤褐色、大変長い産卵管を有す。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

丘陵地の数ヶ所で記録があるのみ。

生態・生息環境

雑木林中で、シロスジカミキリの幼虫に寄生。

生存への脅威

シロスジカミキリの生息する里山や雑木林の減少、消失。

保全対策

里山や雑木林の維持・保全。

特記事項

要注意種（注目）。青森県（絶滅危惧Ⅰ類）など、12県で指定あり。

フクイアナバチ (ハチ目、アナバチ科) *Sphex inusitatus fukuensis* Tsuneki, 1957

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

最近生息が確認されたが、現在、県内では1ヶ所の記録があるのみ。

形態

大型のアナバチ類。体は黒色。クロアナバチにたいへん似るが、顔面は黒色毛に覆われ、翅の黒みがより強い。

国内の分布状況

本州中西部、九州。

県内の分布状況

滑川市の丘陵地の1ヶ所で記録があるのみ。

生態・生息環境

山道の道路脇や裸地に坑を掘り営巣し、ハネナシコロギスを狩る。

生存への脅威

営巣適地およびハネナシコロギス生息場所である里山雑木林の減少。

保全対策

里山雑木林とその周辺部の環境保全。

特記事項

要注意種（注目）。

キアシハナダカバチモドキ (ハチ目、ドロバチモドキ科) *Stizus pulcherrimus* (F. Smith, 1856)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

海岸や河川下流域に生息するが、各地とも産地は散発的で大変少ない。県内では1ヶ所のみで記録があるが、近年の棲息状況は不明。

形態

中型のカリバチ。体は黒色、黄色の斑紋があり、脚が赤褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市で1ヶ所の記録があるのみ。近年の記録はない。

生態・生息環境

海岸や河川の砂質の裸地に坑を掘り営巣する。バッタ類等を狩る。

生存への脅威

砂浜や河川敷の砂地の環境改変、減少。

保全対策

広い良好な砂地の維持・保全。

特記事項

要注意種（注目）。福井県（絶滅危惧Ⅰ類）など、10県で指定あり。

エサキムカシハナバチ (ハチ目、ムカシハナバチ科) *Colletes esakii* Hirashima, 1958

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では2ヶ所での記録があるのみ。営巣場所は開発工事等で環境が改変されることが多い。日本海側分布北限。

形態

ミツバチに似るが、黄褐色の短毛を密生する。腹部第一背板基部左右に黄灰色の短毛を密生する。

国内の分布状況

本州中西部、九州。

県内の分布状況

富山市、氷見市の2ヶ所に記録があるのみ。

生態・生息環境

粘土質の崖斜面や平坦地の裸地に坑を掘って営巣する。集団営巣することがある。

生存への脅威

土地の造成、開発等での営巣地の破壊。

保全対策

営巣地となる粘土質の崖斜面や平坦地の裸地の維持・保全。

特記事項

要注意種（注目）。

ババツマグロシリアゲ (シリアゲムシ目、シリアゲムシ科) *Panorpa babai* Miyamoto, 1979

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

分布は、新潟・長野・富山の3県の県境付近の山岳部に限られる。近年記録がない。

形態

ツマグロシリアゲに似るが、翅端部分のみが黒い。

国内の分布状況

新潟・長野・富山の3県の県境付近の山岳部に限局して分布する。

県内の分布状況

朝日町と宇奈月町の2ヶ所で記録があるのみ。最近の記録はない。

生態・生息環境

山地樹林の林縁部の樹上、草上に生息し、昆虫を補食する。

生存への脅威

樹林の開発、伐採。

保全対策

山地の広葉樹林の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

ホシシリアゲ (シリアゲムシ目、シリアゲムシ科) *Panorpa takenouchii* Miyake, 1908

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

本州西部、四国に分布するが本州では少なく、本県での記録は1ヶ所のみで、分布の北限である。

形態

シリアゲムシ類雄の腹端には鉤状の把握器がある。本種雄には、腹背から伸びる長い突起がある。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

大山町極楽坂での一例のみ。最近の記録がない。

生態・生息環境

広葉樹林林縁の樹上、草上に生息し、昆虫を補食する。

生存への脅威

樹林の開発、伐採。

保全対策

丘陵地から低山地の広葉樹林の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

トワダオオカ (ハエ目、カ科) *Toxorhynchites towadensis* (Matsumura, 1916)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

樹洞を生じるような古木・大木を伴う樹林に生息し、環境指標性が高い。

形態

体長16mm内外。日本最大の蚊種で、腹部は青藍光沢の黒褐色鱗に覆われ、側面に白斑を有する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、御蔵島、対馬、屋久島。

県内の分布状況

立山町美女平、ブナ坂、千寿ヶ原、横江。

生態・生息環境

幼虫は捕食性で、蚊の幼虫などを捕食する。樹洞に生息するが、古タイヤの溜り水からも得られる。通常、本種の幼虫は、一つの樹洞に一匹しかいない。成虫は非吸血性で、花蜜などを吸う。

生存への脅威

伐採（特に樹洞のある大径木の伐採）による生息環境の衰退。

保全対策

古木・大木を伴う原生的な自然環境の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

エセチョウセンヤブカ (ハエ目、カ科) *Aedes (Finlaya) koreicoides* Sasa, Kano et Hayashi, 1950

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息地が立山山岳地のブナの樹洞に限定され、発生数が少ない。

形態

体長5mm内外、翅長4mmほど。胸部背面は黒褐色に黄褐色の縦条斑をもつ。腹部背面は黒色で、側面に白斑をもつ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、屋久島で、いずれも局所的。

県内の分布状況

立山町美女平、ブナ坂。

生態・生息環境

ブナ（他県ではケヤキなど）の樹洞に生息。人工飼育には木屑が必要である。卵越冬で、5～9月に幼虫が出現する。人への吸血飛来の記録は無いが、人為的にはネズミを吸血する。

生存への脅威

ブナ林の衰退。

保全対策

ブナ林の保護育成。

特記事項

要注意種（注目）。

エサキニセヒメガガンボ (ハエ目、ニセヒメガガンボ科) *Protoplasia (Protanyderus) esakii* Alexander, 1932

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

生息密度が低く希少である。

形態

体長7～8mm。翅に独特な淡褐色の斑紋を有する。翅の中脈が4本にわかれる。胸腹部背面は褐色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部渓谷鐘釣、阿曾原。

生態・生息環境

幼虫は清流の河床に生息する。成虫は7～10月に出現し、夜間、照明に飛来する。

生存への脅威

河川開発、水質汚染。

保全対策

河川環境の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

オオツルアブ (ハエ目、アブ科) *Hirosia otsurui* (Ogawa, 1960)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

幼虫の生息地が山間地渓流域の蘚苔類に局限される。

形態

体長9～13mm。全体黒色で翅は透明。複眼は生時に濃緑色で、模様は無い。

国内の分布状況

本州の日本海側で、局所的。

県内の分布状況

宇奈月町黒部渓谷鐘釣、仙人峡、大山町立山カルデラ、有峰大多和峠、山田村若土で少数が確認されているに過ぎない。

生態・生息環境

幼虫は水しぶきがかかる岩肌の蘚苔類に生息する。成虫は8月に出現。雌雄とも、哺乳動物を吸血しないで、花蜜を吸う。雄は夜間灯火に飛来する。

生存への脅威

山地の流れが急な小渓流や滝の減少。

保全対策

過度の砂防ダム建設などの抑制。

特記事項

要注意種（注目）。

ヨスジキンメアブ (ハエ目、アブ科) *Chrysops vanderwulpi* Kröber, 1929

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県東部で過去に記録があるが、ここ40年間は記録がない。

形態

体長13mm内外。胸部背面は淡褐色で灰褐色の縦条斑を有する。腹部背面はやや橙色を帯びた黄色に、明瞭な黒色の4本の縦条斑を有し、翅にも明瞭な褐色の横帯斑を有する。

国内の分布状況

北海道から沖縄県まで。

県内の分布状況

宇奈月町浦山、宇奈月。

生態・生息環境

幼虫の生息地は平野部から丘陵部の汚染が進んでいない池沼、湿地、水田である。成虫は夏の夕刻に牛馬を好んで吸血し、時に人も襲う。

生存への脅威

里山・棚田と牛馬の減少。

保全対策

里山・棚田の保全。

特記事項

要注意種（注目）。ヨスジメクラアブとヨスジハネモンアブは本種の異名。国内の本種は6亜種に分類されており、県内産は亜種 *yamatoensis* と推定されている。ただし、この亜種分類にはさらなる検討が必要であると考えられている。

コガタノミズアブ (ハエ目、ミズアブ科) *Odontomyia garatas* Walker, 1849

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に個体数が著しく減少している種である。

形態

体は黒色。胸部背側縁は黄色。腹部には、後縁波状の黒帯を有する。翅は透明。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

県内の分布状況

入善町園家、宇奈月町栃屋、黒部市若栗。

生態・生息環境

成虫は春から初夏にみられ、水田や湿地に生息する。幼虫は水生で、古くは水田に普通に見られたという。

生存への脅威

水田への農薬散布が大きな影響を与えたと推測される。

保全対策

自然に配慮した農業政策。池沼、湿地の維持。

特記事項

要注意種（注目）。

ミズアブ (ハエ目、ミズアブ科) *Stratiomys japonica* (van der Wulp, 1885)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に個体数が著しく減少している種である。

形態

体は黒色で、腹部に黄～橙黄色の斑紋を有する。触角は長い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

宮崎、宇奈月町内山、富山市内、大長谷日尾御前、十二町潟、興法寺。

生態・生息環境

成虫は春～夏に出現する。幼虫は水生で、池沼、水田、湿地などのほか、温泉での発生記録がある。

生存への脅威

水田への農薬散布が大きな影響を与えたと推測される。

保全対策

自然に配慮した農業政策。池沼、湿地の維持。

特記事項

要注意種（注目）。

ハラビロミズアブ (ハエ目、ミズアブ科) *Clitellaria obtusa* (James, 1941)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息密度が低く希少である。

形態

大型種。黒色で光沢がある。腹部は幅広い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

笹川一境山地、僧ヶ岳登山路。

生態・生息環境

成虫は初夏に出現する。幼虫はクロクサアリ、クサアリモドキの巣に生息し、成虫になるまでに3～4年を要すると考えられる。

生存への脅威

寄主であるクロクサアリ、クサアリモドキの減少。

保全対策

アリ類が生息する森林の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

トラフムシヒキ (ハエ目、ムシヒキアブ科) *Astochia virgatipes* (Coquillett, 1898)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

自然度の高い海浜や広い河川の草地に生息し、環境指標性が高い。

形態

黒色で、腹部は黄色軟毛を密生する。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

宇奈月町愛本新河原、宇奈月町栃屋。

生態・生息環境

自然度の高い海浜や広い河川の草地に生息する。

生存への脅威

生息環境の開発。

保全対策

海浜や河原における草原的環境の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

オオイシアブ (ハエ目、ムシヒキアブ科) *Laphria mitsukurii* Coquillett, 1899

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

自然度の高い森林環境に依存する種で、環境指標性が高い。

形態

黒色で、黒長毛が密生し、腹部第4節後半およびそれ以下の節は橙黄色の長毛で覆われる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部峡谷猫又、舟見、宇奈月町栃屋、片貝奥平沢、有峰、山田温泉、二上山、興法寺。

生態・生息環境

成虫は春から秋に出現する。森林に生息し、朽木中に産卵する。幼虫は太い朽ち木に生息し、朽ち木内の昆虫を捕食する。

生存への脅威

自然林の伐採。

保全対策

自然度の高い森林の保全。

特記事項

要注意種（注目）。日本産本属に関しては分類学的な検討を要する。

クロバネツリアブ (ハエ目、ツリアブ科) *Ligyra tantalus* (Fabricius, 1794)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生息密度が低く、環境指標性が高いと考えられる。

形態

体は黒色で、腹部第3・7節に白色鱗毛帯がある。翅は黒褐色で、やや紫光沢を帯びる。雌は著しく大形。

国内の分布状況

北海道を除く日本全土。

県内の分布状況

泊、入善町園家山、黒部峡谷黒薙、浦山、黒部市若栗、上平村桂、東赤尾。

生態・生息環境

成虫は春から夏にかけて出現する。主に河川敷や海浜に生息する。寄主としてツチバチ類を利用しているものと考えられている。

生存への脅威

生息環境の開発。

保全対策

河川敷や海浜の保全。

特記事項

要注意種（注目）。

ギフチョウ (チョウ目、アゲハチョウ科) *Luehdorfia japonica* Leech, 1889富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類**選定理由**

県全体としては多産するが、一部の高標高地の産地で採集圧によると考えられる個体数の著しい減少が見られる。

形態

前翅長28～33mmの小型のアゲハチョウ。黄色と黒色のだんだら模様の後翅に橙色、青色、赤色の斑点をもつ美しい種である。

国内の分布状況

本州の青森県から山口県まで断続的に分布する。

県内の分布状況

県内の山麓に多く見られ、さらに、標高1700mまで生息地がある。高地では生息数は少なくなる。氷見市などの能登半島に近い山地では見られない。

生態・生息環境

成虫は、低地では早春3月末より発生し、高地では7月初めまで見られる。低地ではコナラなどの雑木林が主な発生地である。

生存への脅威

高地の生息地では発生数が少なく、採集圧による消滅が危惧される。

保全対策

昆虫採集に際してのモラルの向上。

特記事項

要注意種（注目）。高地の生息地は全て国立公園内、または、県立自然公園内にある。

ヒサマツミドリシジミ (チョウ目、シジミチョウ科) *Chrysozephyrus hisamatsusanus hisamatsusanus* (Nagami et Ishiga, 1935)富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

食樹のウラジロガシの分布に依存して、県下の平野から山峡に入る河川の周辺で、生息が確認されている。本県の生息地は日本海側の分布北限（新潟県）に近い。この数年のナラ枯れによる森林破壊がウラジロガシにも及びつつあり、今後の生息環境劣化が懸念されている。

形態

前翅長17～19mm。後翅裏面の白帯がV字状になることが顕著な特徴。他のゼフィルス類はW字状となることより、容易に区別がつく。雄の翅の表は金緑色に輝く典型的なゼフィルス。

国内の分布状況

本州、四国、九州。分布北限は新潟県青海町。

県内の分布状況

笹川、黒部川、片貝川、角川、早月川、常願寺川、神通川、庄川の各流域に産地がある。ウラジロガシに依存して、各河川が峡谷部から平野部へ流れ出る標高100m～数百mの範囲に集中している。

生態・生息環境

ウラジロガシを食樹としている。年1回の発生。成虫は6月下旬～7月上旬に発生し、雄は7月中に姿を消すが、雌は8月に一旦休眠に入り9月に活動を再開して、10月まで見られる。雄は、日光の当たるところを好み、夕方、西日の当たる梢の上を盛んに飛び回る。雌は不活発である。雌雄とも人前に現れることは稀で、成虫の採集は非常に難しい。

生存への脅威

ナラ枯れによるウラジロガシの枯死。また、採卵のためのウラジロガシの枝伐採。

保全対策

ウラジロガシ林の保全。ウラジロガシの枝伐採の禁止。

特記事項

要注意種（注目）。

= 参考文献 =

- 1) 秋山黄洋, 1985. タマムシ科4種の分布に関する知見. 月刊むし, (178) : 24.
- 2) 秋山黄洋・大桃定洋, 2000. 世界のタマムシ大図鑑. ii+341pp. むし社, 東京.
- 3) Amica編集部, 1990. 虫のたより (9) . Amica 通信, (10) : 1-4.
- 4) 千葉県環境部自然保護課編, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－動物編. 438pp. 千葉県, 千葉.
- 5) 千葉県史料研究財団編, 2003. 千葉県産動物総目録-千葉県の自然誌資料. 378pp. 千葉県.
- 6) 堂本暁子・岩槻邦男編, 1997. 温暖化に追われる生き物たち－生物多様性からの視点. i+413pp. 7pls. 築地書館, 東京.
- 7) 越虫編集部, 1990. 1989年各自の活動状況. 越虫, (21) : 1-3.
- 8) 越虫編集部, 1991. 1990年の活動記録. 越虫, (22) : 1-4.
- 9) 越虫編集部, 1993. 1992年の活動記録. 越虫, (24) : 1-3.
- 10) 藤平 暁・藤平千鶴子, 2000. ゴマダラシャチホコの採卵飼育. 蛾類通信, (208) : 153-154.
- 11) 福田晴夫・他, 1982. 原色日本蝶類生態図鑑 (I) . ii+xxii+i+277pp. 保育社, 大阪.
- 12) 福田晴夫・他, 1983. 原色日本蝶類生態図鑑 (II) . ii+xxii+ii+325pp. 保育社, 大阪.
- 13) 福田晴夫・他, 1984a. 原色日本蝶類生態図鑑 (III) . ii+xxii+i+373pp. 保育社, 大阪.
- 14) 福田晴夫・他, 1984b. 原色日本蝶類生態図鑑 (IV) . ii+xxii+i+373pp. 保育社, 大阪.
- 15) 船越進太郎, 1997. 岐阜県におけるフジキオビの記録と神岡町山之村の蛾類. 誘蛾燈, (147) : 3-8.
- 16) 船越進太郎, 1998a. 岐阜県山県郡美山町石灰岩地帯の蛾. 誘蛾燈, (152) : 49-75.
- 17) 船越進太郎, 1998b. 乗鞍岳の蛾類. 誘蛾燈, (153) : 81-99.
- 18) 古川晴男・長谷川仁・奥谷禎一編, 1965. 原色昆虫百科図鑑. i+xvi+799pp. 集英社, 東京.
- 19) 二橋 亮, 2007. カワトンボ属の最新の分類学的知見. 昆虫と自然, 42 (9) : 4-7.
- 20) 二橋 亮・荒木克昌, 2002. 富山県大山町高天原周辺のトンボ類-富山県初記録のムツアカネ-. Aeschna, (39) : 19-24.
- 21) 二橋 亮・二橋弘之, 2005. 富山県のトンボ (2004年度記録) . 富山市科学文化センター研究報告, (28) : 97-107.
- 22) 二橋 亮・二橋弘之, 2006. 富山県のトンボ (2005年度記録) . 富山市科学文化センター研究報告, (29) : 137-145.
- 23) 二橋 亮・二橋弘之, 2007. 富山県のトンボ (2006年度記録) . 富山市科学文化センター研究報告, (30) : 127-137.
- 24) 二橋 亮・二橋弘之, 2009a. 富山県のトンボ (2008年度記録) . 富山市科学博物館研究報告, (32) : 143-154.
- 25) 二橋 亮・二橋弘之, 2009b. ヒメサナエを富山県から初記録. Tombo, 52 : 14.
- 26) 二橋 亮・二橋弘之・荒木克昌, 2001. 北陸地方におけるトンボ類の最近の知見. Tombo, 43 : 31-36.
- 27) 二橋 亮・二橋弘之・荒木克昌・根来 尚, 2004. 富山県のトンボ (富山市科学文化センター収蔵資料目録第17号) . 220pp. 富山市科学文化センター, 富山.
- 28) 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2010. 富山県のトンボ (2009年度記録) . 富山市科学博物館研究報告, (33) : 129-145.
- 29) 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2011. 富山県のトンボ (2010年度記録) . 富山市科学博物館研究報告, (34) : 159-175.
- 30) 二橋 亮・二橋弘之・和田茂樹, 2008. 富山県のトンボ (2007年度記録) . 富山市科学博

- 物館研究報告, (31) : 141-156.
- 31) 二橋 亮・二橋征史・北山 拓, 1994. 富山県のトンボ. 富山市科学文化センター研究報告, (17) : 49-82.
 - 32) 羽田義任・野坂千津子・田塾 正・黒川秀吉・室田忠男, 2006. 2005年に富山県で採集した有剣蜂類. つねきばち, 8 : 1-48.
 - 33) 原 秀穂・大曾根剛・永井光太郎, 1980. フシキキシタバ長野県で採集. *New Entomologist*, 29 (2) : 28.
 - 34) 春田俊郎, 1977. アルペンルートでみる立山の生物. *グラフィックスガイド立山・黒部・白馬* (越後宏治編, 198pp.) : 116-124. 学習研究社, 東京.
 - 35) 林 文男・根来 尚・倉西良一, 1999. 富山県産センブリ科 (広翅目) 目録. 富山市科学文化センター研究報告, (22) : 145-146.
 - 36) 林 匡夫・森本 桂・木元新作編著, 1984. 原色日本甲虫図鑑 (IV) . ii+vii+438pp. 保育社, 大阪.
 - 37) 林 梅夫, 1989. わが家の庭に虫 2 題. *Amica*, (30) : 27.
 - 38) 氷見市史編纂委員会編, 1999. 氷見市史第 9 巻・資料編七・自然環境. 氷見市.
 - 39) 日野 隆, 2000. 1999年調査記録 (3) . 東大昆虫同好会会報, (130) : 2. (蝶研出版 (大阪) , 「蝶類年鑑2001」による)
 - 40) 平賀壯太, 2001. オオゴマシジミの生態 : 第 3 報. 越佐昆虫同好会報, (85) : 3-6.
 - 41) 細口義晃, 1998. 有峰の水生昆虫. 「富山の生物教育」 (富山県高等学校教育研究会生物部会生物部会報, (21) : 141-144.
 - 42) 市橋史康・他, 1983. ナマリキシタバ・オオキイロアツバの岐阜県における発見. 誘蛾燈, (93) : 133.
 - 43) 市川和夫, 1978. 主として北陸地方のガ13種の記録. 寄せ蛾記, (23) : 185.
 - 44) 飯島一雄, 1966. 札幌から発見されたオオギンスジコウモリ. 蝶と蛾, 16 (3/4) : 83.
 - 45) 今坂正一, 1985. ハネナシセスジキマワリとセスジナガキマワリについて. 月刊むし, (172) : 23-25.
 - 46) 井村正行・野中 勝, 1992. 石川県のゲンゴロウ科調査報告. 翔, (97) : 1-10.
 - 47) Inoue, H. (井上 寛) , 1953. Notes on some Japanese Larentiinae and Geometrinae, *Tinea*, 1 (1) : 1-18.
 - 48) 井上 寛, 1961. 日本から未記録のコウモリガ. 蝶と蛾, 11 (4) : 62-63.
 - 49) 井上 寛・他, 1982. 日本産蛾類大図鑑. Vol.1 : i+966pp.; Vol.2 : i+552pp., 392pls., 講談社, 東京.
 - 50) 藺生弘美, 2007. 氷見市のゲンジボタルとヘイケボタル. 氷見市自然保護員協議会報告書 (豊かな自然とその危機 Ⅲ) (38pp.) : 20-23. 氷見市市民部環境課.
 - 51) 石川むしの会・百万石蝶談会編, 1998. 石川県の昆虫. iv+537pp. 8pls. 石川県, 金沢.
 - 52) 石川良輔, 1991. オサムシを分ける錠と鍵. xxxii+295pp. 8pls. 八坂書房, 東京.
 - 53) 伊藤国彦, 1984. アベマキを食するフシキキシタバ幼虫の発見. 蛾類通信, (129) : 51-52.
 - 54) 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦 勇編著, 1977. 原色日本昆虫図鑑 (下) . 全改訂新版. ii+xx+385pp. 64pls. 保育社, 大阪.
 - 55) 神保一義, 1984. 高山蛾. i+191pp.+i, 6pls. 築地書館, 東京.
 - 56) 神保一義・他, 1989. 後立山連峰、白馬大池と雪倉岳高山帯の蛾類. 誘蛾燈, (116) : 71-78.
 - 57) 神宮字寛・上田哲行・五箇公一・日鷹一雅・松良俊明, 2009. フィプロニルとイミダクロプリドを成分とする育苗箱施用殺虫剤がアキアカネの幼虫と羽化に及ぼす影響. 農業農村工学会論文集, 259 : 35-41.
 - 58) 常楽武男, 1982. 富山県の昆虫補遺Ⅰ (半翅目、鞘翅目) . *Amica*, (27) : 99-128.
 - 59) 常楽武男, 1983. 富山県の昆虫補遺Ⅱ (半翅目同翅亜目頸吻群) . *Amica*通信, (3) : 2-8.

- 60) 常楽武男, 1984. 富山県の昆虫補遺Ⅲ (半翅目). *Amica*, (28) : 33-41.
- 61) 常楽武男, 1999. 1996年度・1997年度採集会採集昆虫目録半翅目・ほか目録. *Amica*, (35) : 39-40.
- 62) 常楽武男, 2004. 1998年度・1999年度採集会採集昆虫目録半翅目・ほか目録. *Amica*, (36) : 38-41.
- 63) 上村 清, 1976. 日本産蚊科各種の解説. 蚊の科学(佐々学編著, 318pp.). pp.150-288. 北隆館, 東京.
- 64) 環境庁自然保護局野生生物課編, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－(無脊椎動物編). 272pp.+i. 日本野生生物研究センター, 東京.
- 65) 環境庁自然保護局野生生物課編, 1995. 日本産野生生物目録－本邦産野生動植物の種の現状－(無脊椎動物編Ⅱ). 620pp.+i. 自然環境研究センター, 東京.
- 66) 川原 誠, 1981. アオマダラタマムシの富山県における採集例. 月刊むし, (128) : 34.
- 67) 川原 誠, 1984. 細入村(富山県婦負郡)のカミキリムシ. 1981～1983年の採集記録. *Amica*, (28) : 1-14.
- 68) 川原 誠, 1994. 呉羽丘陵のカミキリムシ. *Amica*, (33) : 57-61.
- 69) 川合禎次編, 1985. 日本産水生昆虫検索図説. viii+409pp.+ii. 東海大学出版会, 東京.
- 70) 川島保夫, 1998. ゴマダラシャチホコの幼虫を採集. やどりが, (176) : 28.
- 71) 川島保夫・堀江清史, 1983. フシキキシタバの生態と飼育例. 月刊むし, (153) : 6-7.
- 72) 川添憲三, 1988. 片貝川南又谷の水生昆虫. 会誌(富山県生物学会), (28) : 1-13.
- 73) 建設省河川局河川環境課監修, 1999. 陸上昆虫類等調査－小矢部川水系小矢部川－(平成9年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)－. 鳥類調査, 両生類・爬虫類・哺乳類調査, 陸上昆虫類等調査編, 財団法人リバーフロント整備センター編集). 山海堂, 東京. (Book & CD-ROM)
- 74) 建設省河川局河川環境課監修, 2000. 陸上昆虫類等調査－神通川水系神通川－(平成10年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)－. 鳥類調査, 両生類・爬虫類・哺乳類調査, 陸上昆虫類等調査編, 財団法人リバーフロント整備センター編集). 山海堂, 東京. (Book & CD-ROM)
- 75) KINDER BUG編集部, 1990. オサムシ採集記録票. KINDER BUG, (3) : 10-15.
- 76) 岸井 尚・山屋茂人, 1984. 新潟県湯沢町八木沢のコメツキムシ. 長岡市立科学博物館研究報告, (19) : 41-53.
- 77) 北村征三郎, 1980. 富山県昆虫研究会編“富山県の昆虫”に追加する甲虫. *Amica*, (18) : 22-24.
- 78) 北村征三郎, 1982a. 五箇山のタマムシ2種. 昆虫と自然, 17 (4) : 35.
- 79) 北村征三郎, 1982b. 富山県産甲虫類の採集記録. *Amica*, (27) : 23-97, 3pls.
- 80) 北村征三郎, 1982c. 富山県未記録のツヤハダクワガタ. 月刊むし, (142) : 40.
- 81) 北村征三郎, 1982d. 有峰のNecydalis 2種. 佳香蝶, 34 (130) : 39.
- 82) 北村征三郎, 1983. 富山県でフタスジカタビロハナカミキリを採集. 月刊むし, (154) : 24.
- 83) 北村征三郎, 1985. 富山県未記録のトラカミキリ2種. *Amica*通信, (5) : 4.
- 84) 北村征三郎, 1986. 島尾海岸(氷見市)の甲虫. *Amica*, (29) : 1-3.
- 85) 北村征三郎, 1993. 富山県のクワガタムシ. *Amica*, (32) : 3-15.
- 86) 北村征三郎, 1994. 甲虫類(鞘翅目)(立山カルデラ自然環境基礎調査報告書別刷. pp.5・54-5・143) : 5・88-5・120. 富山県, 富山.
- 87) 北村征三郎, 1996a. 呉羽・射水丘陵昆虫調査(1993年～1995年)甲虫目録. *Amica*, (34) : 36-56.

- 88) 北村征三郎, 1996b. 1994年度細入村庵谷採集会採集昆虫目録・甲虫目録. *Amica*, (34) : 70.
- 89) 北村征三郎, 1999. アカマダラセンチコガネの採集例. *Amica*, (35) : 14.
- 90) 北村征三郎・中居昭信, 1989. 小牧堰堤(庄川町)の水銀灯に飛来した甲虫. *Amica*, (30) : 3-26.
- 91) 北村征三郎・中居昭信・野村孝昭, 1991. 富山県未記録の甲虫. *Amica*, (31) : 1-16, 1pl.
- 92) 北村征三郎・中居昭信・野村孝昭, 1994. 富山県のタマムシ類. *Amica*, (33) : 63-76.
- 93) 北村征三郎・横山憲治, 2010. 砺波市版レッドデータブック. 昆虫類. 51-77. 砺波市.
- 94) 小林正明, 1981. 信州の秋に鳴く虫とそのなかま. ii+264pp. 秋の虫の会(発行), 伊那; 信濃教育会出版部(制作), 長野.
- 95) 小池博司, 1953. 私の採集せる富山県の昆虫. *Neozephyrus*, 2 : 16-18.
- 96) 小池博司, 1994. シャープゲンゴロウモドキの新産地. *Amica*通信, (14) : 11.
- 97) 国土交通省河川局河川環境課監修, 2001. 陸上昆虫類等調査-常願寺川水系常願寺川-(平成11年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)-. 鳥類調査, 両生類・爬虫類・哺乳類調査, 陸上昆虫類等調査編, 財団法人リバーフロント整備センター編集). 山海堂, 東京. (Book & CD-ROM)
- 98) 小杉 潤・他, 2005. ファミリーパーク地内の昆虫類. 「ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告」((財)富山市ファミリーパーク公社) : 45-88.
- 99) 工藤裕之・風間美樹・千葉将敏・澤樹征司・大沼 尚, 2011. 富山県常願寺川河川敷におけるハマスズの確認記録. 月刊むし, (490) : 35-36.
- 100) 倉田 稔, 1990. 日本北アルプス地方の蛾類XI. 蛾類通信, (157) : 113-117.
- 101) 倉田 稔, 1995. 日本北アルプス地方の蛾類XV. 誘蛾燈, (139) : 45-49.
- 102) 倉田 稔・他, 1959. 針ノ木谷. 針ノ木岳無脊椎動物ファウナ第一報(大町山岳博物館) : 135-149.
- 103) 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅲ). ii+x+500pp. 保育社, 大阪.
- 104) 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター編, 1989. 日本産昆虫総目録. 3vols. iv+xi+1767pp. 九州大学農学部昆虫学教室, 福岡.
- 105) Leech, J.H., 1889. On the Lepidoptera of Japan and Corea, Part II Heterocera, Sect. II, *Proc. zool. Soc. Lond.*, 1889 : 474-571, pls.50-53.
- 106) 前田正一, 2003. オオゴキブリ. 北日本新聞記事. 2003年3月5日朝刊「風車」欄.
- 107) 前田政一, 2004. 氷見市のホタル(ゲンジボタルとヘイケボタル、分布および分布図). 氷見市自然保護員報告書(豊かな自然とその危機Ⅱ)(38pp.) : 20-24. 氷見市市民部環境課.
- 108) 増井武彦, 1982. イワガサ(シモツケ属)を食するナマリキシタバの幼虫とその分布. 蛾類通信, (114) : 217-220.
- 109) 増井武彦, 1984. ナマリキシタバの幼虫発見まで-5年間の軌跡. 誘蛾燈, (95) : 33-40.
- 110) 増井武彦, 1995. シロオビコバネナミシャクを四国愛媛からも発見. 誘蛾燈, (138) : 14.
- 111) 宮原真樹, 2010. オオイチモンジを有峰で採集. *Amica*, (38) : 15.
- 112) 宮野昭彦, 1995. 富山県上平村でオオチャイロハナムグリを採集. だんだらちょう, (38) : 16.
- 113) 水野 透, 1973. 富山県のオサムシ分布調査. *Amica*, 17 (1) : 1-11.
- 114) 水野 透, 1978. 富山県におけるミヤマシジミの分布と生態. *Amica*, 17 (2) : 1-11.
- 115) 水野 透, 1980. ミヤマシジミの新産地. *Amica*, 18 : 9.
- 116) 水野 透, 1982. 富山県におけるミヤマシジミの分布詳報. *Amica*, (27) : 193-203.
- 117) 水野 透, 2004. 富山県のミヤマシジミ分布調査(1997年~2003年). *Amica*, (36) : 1-17.

- 118 水野 透・大野 豊・澤田昭芳・根来 尚, 1998. 富山県の蝶 (I) (富山市科学文化センター収蔵資料目録第11号). iii+113pp. 富山市科学文化センター, 富山.
- 119 水野 透・大野 豊・澤田昭芳・根来 尚, 1999. 富山県の蝶 (II) (富山市科学文化センター収蔵資料目録第12号). iii+pp.115-240. 富山市科学文化センター, 富山.
- 120 水沼哲郎・永井信二, 1997. 世界のクワガタムシ大図鑑. ii+337pp. むし社, 東京.
- 121 森 正人・北山 昭, 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 217pp. 文一総合出版, 東京.
- 122 中川秀幸, 1962. 富山県東部に於けるシャチホコガ科採集目録, *Amica*, 7: 8-13.
- 123 中川秀幸, 1971. オオギンスジコウモリの一産地. *蛾類通信*, (64): 60.
- 124 中川秀幸, 1982a. 黒部峡谷阿曾原の蛾類について. *Amica*, (27): 129-142.
- 125 中川秀幸, 1982b. 有峰の蛾3種. *Amica*, (27): 274.
- 126 中川秀幸, 1983. 富山県におけるオオシモフリスズメの産地. *Amica 通信*, (3): 13.
- 127 中川秀幸, 1986. *Catocala* 2題. *Amica*, (29): 48.
- 128 中川秀幸, 1989. 1987年度採集会採集昆虫目録鱗翅目目録. *Amica*, (30): 101-106.
- 129 中川秀幸, 1993. 立山カルデラ水谷の蛾類. *Amica*, (32): 41-55.
- 130 中川秀幸・常楽武男・小杉 潤・根来 尚, 1994. 呉羽丘陵の昆虫類, 富山市呉羽丘陵自然環境調査報告 (富山市科学文化センター編. iii+253pp.): 69-163. 富山市科学文化センター, 富山.
- 131 中川秀幸・田中忠次・山中 浩, 1991. 1989年度採集会採集昆虫目録鱗翅目目録. *Amica*, (31): 39-42
- 132 中川秀幸・他, 1996. 有峰の昆虫類, 常願寺川流域 (有峰地域) 自然環境調査報告 (富山市科学文化センター編. ii+344pp.): 77-229. 富山市科学文化センター, 富山.
- 133 中川秀幸・他, 1998. ファミリーパーク地内の昆虫類. 「ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告」 ((財) 富山市ファミリーパーク公社): 53-110.
- 134 中居昭信, 1989. 富山県未記録の甲虫. *Amica*, (30): 28.
- 135 中居昭信, 2007. VIII 昆虫雑感. 氷見市自然保護員協議会報告書 (豊かな自然とその危機 III) (38pp.): 28-31. 氷見市市民部環境課.
- 136 中居昭信, 2008a. クロマダラタマムシの採集例について. *Amica通信*, (22): 19-20.
- 137 中居昭信, 2008b. 氷見市におけるオオゴキブリの生息状況. *Amica通信*, (22): 23-27.
- 138 中居昭信・野村孝昭, 1993. 富山県未記録の甲虫. *Amica*, (32): 17-21.
- 139 中島秀雄・富沢 章・飯塚新真, 1994. 白山高山帯の蛾類. *誘蛾燈*, (135): 5-10.
- 140 中島秀雄・他, 2000. 北アルプス双六岳-鷲羽岳周辺の高山帯の蛾類. *誘蛾燈*, (160): 54-62.
- 141 中村誠喜, 1938. 富山県産昆虫 (鞘翅目) 目録. 富山博物学会誌, (2): 79-88.
- 142 中根猛彦・大林一夫・野村 鎮・黒沢良彦, 1981. 原色昆虫大図鑑II (甲虫編) 第10版. i+xviii+i+443pp. 192pls. 付: 「原色昆虫大図鑑第II巻 (甲虫編) 追補・正誤表 (1978年6月)」. 18pp. 北隆館, 東京.
- 143 根来 尚, 1982. 富山市産昆虫類の記録. 富山市科学文化センター研究報告, (4): 31-67.
- 144 根来 尚, 1985. オオゴキブリの記録. 富山市科学文化センター研究報告, (7): 93.
- 145 根来 尚, 1988. 富山県における淡水棲アメンボ類の分布と生息場所. 日本生態学会誌, 38: 9-17.
- 146 根来 尚, 1991. 氷見市島尾海岸の直翅類. 富山市科学文化センター研究報告, (14): 141-142.
- 147 根来 尚, 1992. 黒部川および庄川河川敷のカワラバッタ、カワラスズおよびエゾエンマコオロギ. 富山市科学文化センター研究報告, (15): 79-80.
- 148 根来 尚, 1994. その他の昆虫 (立山カルデラ自然環境基礎調査報告書別刷. pp5・54-5・143): 5・

- 121-5・128. 富山県, 富山.
- 149) 根来 尚, 1995. 呉羽丘陵におけるハナバチ相の生態的調査 (II). 富山市科学文化センター研究報告, (18) : 5-17.
- 150) 根来 尚, 2004. 富山県のクサカゲロウ. 富山市科学文化センター研究報告, (27) : 69-70.
- 151) 根来 尚, 2006. 富山県の直翅類への追加. ばったりぎす, (139) : 19.
- 152) 根来 尚・荒木克昌, 1999. 高岡市でのタンボコオロギの採集記録. 富山市科学文化センター研究報告, (22) : 143-144.
- 153) 根来 尚・羽田義任・田埜 正, 2005. 富山県のカリバチ類. つねきばち, (4) : 29-50.
- 154) 根来 尚・瀬川哲夫, 1988. 富山県の直翅類 (I). 富山市科学文化センター研究報告, (12) : 37-95.
- 155) 根来 尚・瀬川哲夫, 1990. 富山県の直翅類 (II). 富山市科学文化センター研究報告, (13) : 65-95, 9pls.+ix.
- 156) 根来 尚・山内健生, 2011. 富山県の脈翅類. 富山市科学博物館研究報告, (34) : 23-30.
- 157) ねいの里編, 1984. ニューフェイス. ねいの里だより, (9) : [2].
- 158) ねいの里編, 1986a. ニューフェイス. ねいの里だより, (12) : [2].
- 159) ねいの里編, 1986b. ニューフェイス. ねいの里だより, (13) : [2].
- 160) ねいの里編, 1990. ニュー・フェース. ねいの里だより, (16) : [2].
- 161) ねいの里編, 1991. ニューフェイス. ねいの里だより, (17) : [2].
- 162) 日本鞘翅目学会編, 1984. 日本産カミキリ大図鑑. i+565pp.+i. 講談社, 東京.
- 163) 西尾規孝, 1986. 木曾山脈将基頭山付近に生息する蛾類の生態. 誘蛾燈, (105) : 76-90.
- 164) 西尾規孝, 1997. *Catocala* の生態. 誘蛾燈, (150) : 101-128.
- 165) 野尻湖昆虫グループ, 1985. アトラス・日本のネクイハムシ. 182pp.
- 166) 野村孝昭, 1982. 富山県未記録の甲虫3種. *Amica*, (27) : 292.
- 167) 野村孝昭, 1984. 富山県未記録のカミキリムシ7種. 月刊むし, (166) : 24.
- 168) 野村孝昭, 1991. タケウチトゲアワフキの新産地. *Amica*, (31) : 25.
- 169) 野村孝昭, 1992. 富山県で52年ぶりに採集されたクロマダラタマムシ. 月刊むし, (252) : 37-38.
- 170) 野村孝昭, 1993. ハネナシセスジキマワリの富山県における記録. 月刊むし, (273) : 37.
- 171) 野村孝昭, 1994. 本州初記録のヒメエグリオオキノコ富山県に産す. 月刊むし, (286) : 16.
- 172) 小野 決, 1995. 北海道にも分布している蛾類. 昆虫と自然, 30 (5) : 11-12.
- 173) 大貝秀雄, 2002. 富山県産長翅目昆虫. 富山市科学文化センター研究報告, (25) : 95-112.
- 174) 大野正男, 1992. 日本産主要動物の種別文献目録 (17a) オオシモフリスズメ (2). 誘蛾燈, (129) : 83-91.
- 175) 大野 豊, 2001. 消える水晶池 (上) (下). 北日本新聞記事. 2001年9月6日・7日.
- 176) 大野 豊, 2007. 「-保護対策のための基礎調査-富山県のギフチョウ」, x + 56pls.+194p.+iv. 有限会社TC出版プロジェクト.
- 177) 大野 豊, 2011. 富山県のタカネヒカゲの分布. *Butterflies (S. fujisanus)*, (55) : 39-48.
- 178) 大野 豊, 2012. 富山県のミヤマモンキチョウの分布を検証する. *Butterflies (S. fujisanus)*, (57) : 3-12.
- 179) 大野 豊・清水 巖, 2005. 神通川のミヤマシジミ生息状況調査. 富山の生物 (富山県生物学会), (44) : 1-17.
- 180) 大和田守・山本光人, 1983. "岩場の蛾"に関する新知見. 蛾類通信, (122) : 345-352.
- 181) 乙部 宏, 1989. 富山県立山町におけるヒラタクワガタの採集例. 月刊むし, (226) : 12.
- 182) 嵯峨井淳郎・野中 勝, 1982. 白山山麓にてナマリキシタバを採集す. 翔, (34) : 1-2.

- 183) 佐々治寛之, 1998. テントウムシの自然史, 251pp. 東京大学出版会.
- 184) 瀬川哲夫, 1982. 昆虫調査報告. 呉羽丘陵自然環境調査報告書 (呉羽山) (富山市都市開発部公園緑地課編, ii+ii+146pp.) : 83-130. 富山市, 富山.
- 185) 瀬川哲夫, 1986. クツワムシ (キリギリス科) 婦中町でも発見. *Amica*, (29) : 52-53.
- 186) 瀬川哲夫・根来 尚, 1991. 昆虫, 「富山市浜黒崎海岸自然調査報告書」(富山市科学文化センター) : 36-59.
- 187) 清野昭夫, 1986. 糸魚川市でキュウシュウマエアカシロヨトウを採集. *越佐昆虫同好会々報*, (62) : 49.
- 188) 清野昭夫・内藤恒夫・又井庸生・中野 潔, 1983. 新潟県からナマリキシタバとオオキイロアツバを発見. *誘蛾燈*, (92) : 89.
- 189) 関 章弘, 1990. トオヤマナガタマムシを福島県で採集. *月刊むし*, (228) : 37.
- 190) 惣名 実, 1989a. シャープゲンゴロウモドキ関西亜種富山県に産す. *月刊むし*, (221) : 39.
- 191) 惣名 実, 1989b. 富山県のゲンゴロウ類 (1) . *KINDER BUG*, (1) : 10-11.
- 192) 惣名 実, 1990a. コオイムシの福光町における産地. *KINDER BUG*, (2) : 34.
- 193) 惣名 実, 1990b. クツワムシの新産地について. *KINDER BUG*, (2) : 34-35.
- 194) 惣名 実, 1990c. 富山県のゲンゴロウ類 (3) . *KINDER BUG*, (3) : 19.
- 195) 惣名 実, 1990d. タケウチトゲアワフキの新産地. *KINDER BUG*, (3) : 28.
- 196) 杉 繁郎, 1979. 分布総説 (7) オオシモフリスズメ. *昆虫と自然*, 14 (4) : 27-33.
- 197) 杉 繁郎編, 2000. 日本産蛾類大図鑑以後の追加種と学名の変更. i+xii+171pp.+i. 日本蛾類学会, 東京.
- 198) 杉村光俊・他, 1999. 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑. xxxv+917pp.+ii. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 199) 杉山徹郎, 1991. 南アルプス鷲住山で得た蛾. *誘蛾燈*, (125) : 96.
- 200) 鈴木邦雄・藤本浩二, 1997. 富山県から初めて記録されるハムシ類 (1) . *甲虫ニュース*, (117) : 5-6.
- 201) 鈴木邦雄・二橋 亮, 1994. 富山県のトンボ相の現況. *Tombo*, 37 : 56-60.
- 202) 鈴木邦雄・板倉範枝, 1985. クツワムシ (直翅目キリギリス科) 富山県に産す. 富山市科学文化センター研究報告, (7) : 95.
- 203) 鈴木邦雄・板倉範枝, 1986. キンイロネクイハムシ富山県に産す. 富山市科学文化センター研究報告, (9) : 93-95, 富山市.
- 204) 鈴木邦雄・根来 尚・板倉範枝, 1985. 富山県のトンボ相. 富山市科学文化センター研究報告, (8) : 1-149, 11pls.+xi.
- 205) 鈴木邦雄・根来 尚・板倉範枝・川添秀夫, 1987. 富山県のトンボ相補遺. 富山市科学文化センター研究報告, (11) : 77-121, 4pls.+iv.
- 206) 立川周二, 1993. 富山県低地の氷見市乱橋池のアメンボ類. 富山市科学文化センター研究報告, (16) : 97-100.
- 207) 高野敏明, 1990. 富山県のオサムシ (1) トヤマオサムシ. *KINDER BUG*, (2) : 2-14.
- 208) 高野敏明, 1992. 越道峠産クロオサムシの亜種名について. *KINDER BUG*, (4) : 20-21.
- 209) 高野敏明・惣名 実・竹脇正樹, 1992. オサムシ採集記録票. *KINDER BUG*, (4) : 12-14.
- 210) 高野 勉・高野敏明, 1990. 呉羽丘陵の甲虫 (1) . *KINDER BUG*, (3) : 2-9.
- 211) 田中忠次, 1939. 黒部川流域産昆虫目録 (3) [鱗翅目]. *昆虫界*, 7 (65) : 13-25.
- 212) 田中忠次, 1951. 富山県産半翅目目録. 18pp. (自刊)
- 213) 田中忠次, 1964. 立山のこん虫. *富山教育*, (522) : 1-9.
- 214) 田中忠次, 1971. 富山県産昆虫目録. iv+242pp. (自刊)

- 215) 田中忠次, 1981. 1980年の記録から. *Amica*通信, (1) : 3-4.
- 216) 田中忠次, 1982. 蛾 2 題. *Amica*, (27) : 256.
- 217) 富樫一次, 1994. 故田中忠次氏採集にかかる富山県産ハバチ類. *Amica*, (33) : 23-26.
- 218) 富沢 章, 1983. 白山におけるオオギンスジコウモリの記録. *蛾類通信*, (120) : 322.
- 219) 富沢 章, 1987. 加賀白山ブナ帯の蛾類. 85pp. (自刊)
- 220) 富沢 章, 2011. 富山市呉羽丘陵におけるヒサゴクサキリとマツムシの記録. 富山市科学博物館研究報告, (34) : 137-138.
- 221) 富山県昆虫研究会編, 1976. 立山の昆虫相. 中部山岳国立公園立山黒部地区学術調査報告(日本自然保護協会・富山県自然保護協会編. ix (中扉9葉) +530pp., 別図3葉袋入) : 223-369. 富山県, 富山.
- 222) 富山県昆虫研究会編, 1979. 富山県の昆虫. iv+545pp. 7pls. 富山県, 富山.
- 223) 富山県昆虫研究会編, 1981. 有峰の昆虫相. 有峰の自然(富山県自然保護協会編. iv+viii (中扉8葉) +502pp. 2pls. 別図2葉袋入) : 237-403. 北陸電力株式会社, 富山.
- 224) 富山県昆虫研究会編, 1988. 富山県の昆虫類. iii+216pp. 富山県, 富山.
- 225) 富山県農地林務部自然保護課編, 1993. 富山県自然環境指針. 87pp. 富山県, 富山.
- 226) 富山県自然保護協会(惣名実、竹脇正樹ほか), 2004. 林道開設氷北線長坂工区環境調査 9. 昆虫類, 富山県(高岡農地林務事務所).
- 227) 富山県水生昆虫研究会編, 1995. 富山県の水生昆虫. 富山県の水生生物 : 71-148. 富山県生活環境部自然保護課, 富山.
- 228) 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編著, 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ). ii+viii+514pp. 保育社, 大阪.
- 229) 渡辺 護・荒川 良・中居昭信, 1994. 富山県における家屋侵入性カメムシについて. *Amica*, (33) : 91-102.
- 230) 渡辺 護・荒川 良・岡沢孝雄・上村 清, 1991. 中部山岳国立公園立山の観光ルート沿いで発生する蚊類の季節消長. 富山県衛生研究所年報, 14 : 62-66.
- 231) Watanabe, M., Hasegawa, S., Obara, M., Ando, S., Yamauchi, T. and Takizawa, T., 2011. Long-term analyses of the population dynamics of *Culex tritaeniorhynchus* and *Anopheles sinensis*, and serological surveys of Japanese encephalitis virus among swine in Toyama Prefecture, Japan, from 1969 to 2003 - a review of surveys for the prediction of epidemics of Japanese encephalitis in Toyama Prefecture over 35 years -. 159 pp. Skarafactory. Ltd., Toyama.
- 232) Watanabe, M., Kamimura, K. and H. Takahasi (渡辺 護・上村 清・高橋 弘), 1976. Description of a new *Haematopota*-species, *H. toyamensis* n.sp. (Diptera, Tabanidae), from Japan, *Kontyû*, 44 (1) : 73-76.
- 233) 渡辺 護・品川保弘・安藤秀二・北村 敬, 2000. オロロ(イヨシロオビアブ)の駆除に関する調査報告書. 富山県におけるイヨシロオビアブの吸血被害阻止に関する実践的研究. i+3pls. 105pp. 富山県厚生部薬務食品課, 富山.
- 234) 八尋克郎・他, 2005. 「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見」(第13回企画展示). 122pp. 滋賀県立琵琶湖博物館.
- 235) 山口英夫, 1991. シャープゲンゴロウモドキ (1) 採集記録. *越虫*, (22) : 5-8.
- 236) 山口英夫, 1996. 石川県でシマゲンゴロウ発見. *翔*, (122) : 1.
- 237) 山口英夫, 1999. 昆虫類 水生昆虫類, 立山地区動植物種多様性調査報告書. pp.123-128. 富山県生活環境部自然保護課, 富山.
- 238) 山口英夫, 2003. II-2- (4) 昆虫類, 生態系多様性地域調査報告書(大蓮華山地域). pp.128-

151. 環境省自然環境局・生物多様性センター.

- 239) 山口英夫・荒木克昌, 2001. マルコガタノゲンゴロウ石川県で記録 (第2報). 翔, (152): 1-2.
- 240) 山口英夫・野村良範・竹脇正樹, 2000. 昆虫類調査; 南砺地区における確認種学名リスト<昆虫類>; 南砺地区確認種データ<昆虫類>. 中山間総合整備南砺地区生態系調査報告書 (富山県農林水産部農村整備課・富山県砺波農地林務事務所指導課・社団法人農村環境整備センター編. iii+188pp. 5pls.) : 71-82; 110-117; 153-173. 富山県, 富山.
- 241) 山口英夫・大野 豊, 1999. 水生昆虫部門. 常願寺川流域生態系調査報告書 (富山県富山農地林務事務所・富山県水生生物研究会編, 176pp.) : 63-83. 富山県富山農地林務事務所, 富山.
- 242) 山口英夫・惣名 実・長瀬二郎, 1999. 昆虫類調査; 考察: 「ねい地区」調査結果<昆虫類>. 平成11年度中山間総合整備ねい地区生態系調査業務報告書 (富山県富山農地林務事務所・社団法人農村環境整備センター編, iii+iii+164pp. 10pls.) : 68-85; 86-92; 133-164. 富山県, 富山.
- 243) 山口英夫・竹脇正樹, 2003. 水生昆虫部門. 庄川合口ダム流域生態系調査報告書 (富山県水生生物研究会編, 282pp.) . pp.145-173. 富山県富山農地林務事務所.
- 244) 山口英夫・湯浅純孝, 1993. メススジゲンゴロウ (1) 富山県で発見. 越虫, (24) : 4.
- 245) 山中 浩, 1985. 1984年度採集会採集昆虫目録鱗翅目目録. Amica 通信, (5) : 12-17.
- 246) 山中 浩・川原 誠・田中忠次, 1984. 1983年度採集会採集昆虫目録. Amica, (28) : 75-116. 1pl.
- 247) 横山憲治, 1991. アカマダラコガネの採集例. KINDER BUG, (4) : 23.
- 248) 吉田徹也, 1983. 富山県魚津市におけるオオシモフリスズメの採集記録. 昆虫と自然, 18 (8) : 37.
- 249) 湯浅純孝, 1995. ウオッチングー富山のいきものー. クツワムシ. 北日本新聞記事. 1995年10月24日.

[Web頁]

- 250) 千葉県レッドデータブック動物編 (2011年改訂版) -千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県環境生活部自然保護課. <http://www.bdcchiba.jp/endangered/rdb-a/index2-j2011.html>
- 251) 福井県緑のデータバンク, 福井県の動物目録・昆虫類リスト; 福井県レッドデータブック (動物編), 2002. 福井県安全環境部自然保護課. (2012/02/16現在) http://www.erc.pref.fukui.jp/gbank/G_index.html
- 252) 林 成多, 2005/03/03. Web版ネクイハムシ図鑑 (日本産ネクイハムシ亜科全種の解説と絵解き検策), ホシザキグリーン財団. (2012/02/16 現在) (常時更新) <http://www.green-f.or.jp/heya/hayashi/nekuizukan/nekuizukan-top.html>
- 253) 平野幸彦編, 1998. 神奈川県産甲虫目録, Updated in Nov, 29, 1998. <http://www1.linkclub.or.jp/~j4d64/Record.html>
- 254) 石川県野生動物保護対策調査会編, 2009.いしかわレッドデータブック (動物編) 2009, 石川県環境部自然環境課. http://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/reddata/rdb_2009/index.html
- 255) 神奈川県立生命の星・地球博物館/神奈川県自然環境保全センター編, 2006. 神奈川県レッドデータブック2006 WEB版 神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006-神奈川県立生命の星・地球博物館発行. (2012/02/16 現在) <http://e-tanzawa.jp/rdb06/>
- 256) 環境省自然環境局野生生物課, 2006. 鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて. <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7849>

- 257) 高知県レッドデータブック（動物編）-高知県の絶滅の恐れのある野生動物-, 2002. 高知県林業振興・環境部環境共生課. (2012/02/16 現在)
http://www.pref.kochi.lg.jp/~junkan/redlist1/page_21.html
- 258) 京都府>環境・自然・動植物>京都府レッドデータブック情報>京都府自然環境目録（鞘翅（コウチュウ）目）. 京都府文化環境部 自然環境保全課. (2012/02/16現在) Kyoto Prefecture Web Site http://www.pref.kyoto.jp/kankyo_red/1214198141184.html
- 259) 宮城県, 2002. 「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドデータブック」. 宮城県レッドリスト・昆虫類. 環境生活部自然保護課. (2004/03/01 更新, 2012/02/16現在) <http://www.pref.miyagi.jp/sizenhogo/seibutu/kisyosyu/redlist/konchu.htm>
- 260) 長野県 Web site 信州 長野県版レッドリスト（無脊椎動物編）, 2008. 長野県自然保護課. <https://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/hogo/red/redlist-musekitui.htm>
- 261) 日本産昆虫目録データベース（MOKUROKU）：日本産昆虫総目録（平嶋義弘監修, 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集, 1989, 同追加・訂正, 1990. -MOKUROKUファイル（第1版）（多田内他,1990）→MOKUROKUファイル（第2版）（多田内・井上,1999）-九州大学大学院農学研究科昆虫学教室（管理者；多田内 修, システム管理；井上 仁）. <http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>
- 262) 大阪府の生物多様性-大阪府野生生物目録, 2000. 大阪府レッドリスト（2000）, 大阪府環境農林水産部 みどり・都市環境室みどり推進課. <http://www.epcc.pref.osaka.jp/biodiv/files/reddata/index.html>
- 263) 東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト（略称東京昆虫目録（TKM））-東京都昆虫文献目録・東京都本土部昆虫目録（2011/12/12更新, 2012/02/16現在）. <http://homepage3.nifty.com/TKM/index.html>

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.7 軟体動物(淡水産・陸産貝類)

6.7 軟体動物（淡水産・陸産貝類）

軟体動物は海で多くの種に分化した。その中の一部が淡水域に入り、さらに陸上に生活域を広げた。淡水域は、海と比較すると水中の石灰分が少ないことから、常に貝殻の石灰質の溶出の可能性がある。また、海産貝類ではみられない繁殖方法をとる種もある。さらに、陸産貝類は、常に乾燥に対する適応の中で生活域を拡大してきた。現在、軟体動物は約10万種以上が存在すると考えられており、その内、淡水産が1.2万種、陸産が3.5万種といわれている。

環境省編（1998）の「日本産野生生物目録（無脊椎動物Ⅲ）」によると、日本には淡水産貝類は、177種・亜種（汽水産を含む）、陸産貝類は732種・亜種が生息し、陸産貝類の大半が日本固有種である。

富山県においては、布村（1988）が全国の約3割に相当する31種の淡水貝を報告した。その後、ヨコハマシジラガイや外来種のタイワンシジミやコモチカワツボなどの生息が新たに確認されたことから、現在は35種以上に増加した。しかしながら、富山県の淡水産貝類は、平野部を流れる河川や水田、用排水路、溜池を主な生息地としているので、いずれの場所も人為的な影響を受けやすい環境にある。これまでに、河川や用排水路はコンクリートに改修されたことにより、多くの淡水貝の生息地が消滅した。また、水田においても稲作技術の変化から、タニシ類をはじめ多くの淡水貝が死滅した。さらにタイワンシジミの侵入により富山県西部の用水路で、マシジミが死滅し、代わりにタイワンシジミが爆発的に繁殖しているところも多い。しかしながら、近年、溜池や用排水路の改修の際に、ドブガイの取り上げ・移動が行われており、淡水貝の保全をした上での改修も行われるようになった。

今回の調査から加えた汽水性貝類については、富山県の場合、主要河川が急流なことから、汽水域の発達が悪く、干潟等もないことから、あまり多くの種が生息していない。また、海岸の護岸工事が進んでいる葦原もなくカワザンショウガイ類もほとんど記録がない。さらに汽水域にもコウロエンカワヒバリガイやイガイダマシ等の外来種の侵入が確認されており、今後の動向を注意する必要がある。かつてヤマトシジミの産地であった放生津潟や十二町潟等はそれぞれ海水化や淡水化が進み、現在は、ヤマトシジミは生息していない。

富山県の陸産貝類については、1940年に菊池勘左衛門により77種が報告された。その後、宮本望らの調査により、100種余りになった。富山県は山地のブナ林や海岸沿いの照葉樹林等多様な植生及び陸産貝類が多い石灰岩地帯が存在することから、富山県の陸産貝類相は決して貧弱なものではないと考えている。しかしながら、調査数が少ないことから、多くの種を情報不足に位置付けざるを得なかった。今回の調査で、鹿島樹叢を始め、いくつかの生息地で、環境悪化が確認できた。今後、引き続き情報収集を継続して行くことが望まれる。

マメタニシ (中腹足目、エゾマメタニシ科) *Parafossarulus manchouricus japonicas* (Pilsbly)富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類**選定理由**

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地（射水市古明神）が富山新港の建設に伴い消滅。生息が期待できる池や沼がない。富山県では過去50年以上、生息が確認されていない。

形態

殻高^{かくこう}13mm。いわゆるタニシ形。体層周縁は丸く、殻表面^{かくひょうめん}には螺肋^{らりつ}がある。外唇^{がいしん}は厚く、黒く縁取られる。石灰質の蓋を持つ。

国内の分布状況

流れのほとんどない、水田や池沼などの水草や礫に生息する。濃尾平野や琵琶湖、岡山県などでは、比較的多産するが、他の地域では散見である。

県内の分布記録

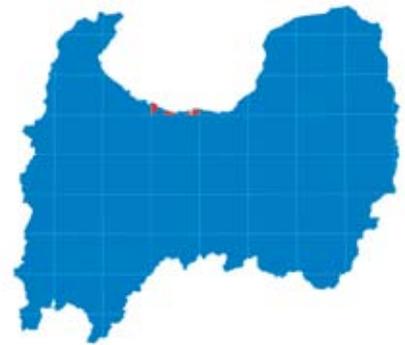
現在のところ生息の情報はない。

生態・生息環境

池や沼などの止水。

特記事項

肺吸虫の中間宿主。日本固有種。

**ミズゴマツボ** (ミズゴマツボ科) *Stenothyra japonica* Kuroda富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：準絶滅危惧**選定理由**

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地（射水市放生津潟）が富山新港の建設に伴い消滅。生息が期待できる池や沼がない。近年、生息が確認されていない。

形態

殻高^{かくこう}4mmの微小貝。殻は比較的厚く、楕円卵型で、背腹側に変形している。殻表^{かくひょう}は、鈍い光沢があり、半透明で帯緑褐色の殻皮^{かくひ}が全面にある。また、螺管^{らくわん}の巻きに沿って点刻が連続する。蓋は革質ながら石灰質を含み、比較的厚い。

国内の分布状況

近年、生息が確認されているのは新潟県、千葉県、愛知県、兵庫県、山口県、熊本県と分布域は広いが生息地は少なく、そのいずれの場所も局地的で生息面積は小さい。

県内の分布記録

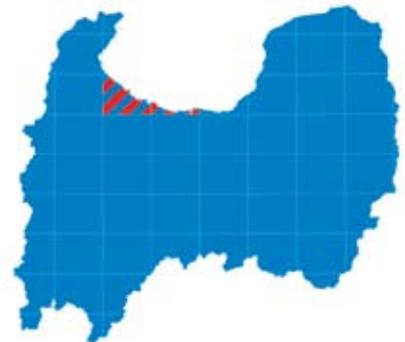
現在のところ生息の情報はない。

生態・生息環境

汽水域の最も陸側で、僅かに潮の影響のある場所の砂泥底にすむ。ほかに水田等の淡水域に生息する例もある。

特記事項

吸虫類の中間宿主。日本固有種。



イグチモノアラガイ (モノアラガイ科) *Radix auricularia* (Linnaeus)

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地（射水市古明神）が富山新港の建設に伴い消滅。富山県では過去50年以上、生息が確認されていない。

形態

殻高20mm。殻は薄く、半透明淡褐色。体層は大きく膨らむ。殻口も大きく、その縁が広がる。軸唇が強くねじれる。

国内の分布状況

北海道。

県内の分布記録

現在のところ生息の情報はない。

生態・生息環境

池や沼などの止水や流れの穏やかな河川の水草にすむ。

特記事項

肝蛭の中間宿主。射水市古明神は、本州で唯一の生息地であった可能性がある。



オバエボシガイ (イシガイ科) *Inversidens brandti* (Kobelt)

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地（魚津市蛇田）が消滅。富山県では過去50年以上、生息が確認されていない。

形態

殻長30～35mm、最大50mm。殻は、短卵型でやや厚く、黒い殻皮を被る。殻表は平滑なものや放枝状の放射肋のあるもの、漣状の模様があるものもある。殻の内面は、真珠光沢が強い。

国内の分布状況

愛知県以西の本州と九州北西部に分布。従来、日本海側の県では見つかっていなかったが、本州の日本海側に注ぐ河川として、鳥根県の江川水系と京都府の由良川水系で発見されている。比較的まとまって生息する場所が局地的に確認されているが、数は少ない。

県内の分布記録

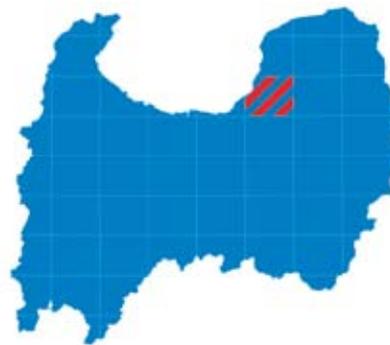
現在のところ生息の情報はない。

生態・生息環境

小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息。2年（殻長約3cm）で、性成熟する。繁殖期は、春～夏で、初夏がピーク。孵化した幼生は、オイカワやカワムツなどに寄生して成長し、ある程度成長すると魚から離れて、底生生活に移行する。寄生期間は水温25度で約11日間。

特記事項

由良川水系や江川水系での生息が確認されるまでは、魚津市蛇田が日本海側の県で唯一の生息記録であった。



カタハガイ (イシガイ科) *Pseudodon omiensis* (Heimburg)

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地（高岡市佐野）が消滅。生息が期待できる小川や用水路が減少している。富山県では過去50年以上、生息が確認されていない。

形態

殻長約70mm。殻は薄く、膨らみも弱い。また、黒い殻皮を被る。殻の後背部にやや強い分岐肋がある。殻の内面の真珠光沢は強い。

国内の分布状況

岐阜・愛知・福井・滋賀・京都・兵庫・岡山・福岡・熊本の府県で生息記録がある。日本海側では、福井県から報告があるにすぎない。生息が確認されている場所でも、生息地は狭く、生息密度は低い。

県内の分布記録

現在のところ生息の情報はない。

生態・生息環境

比較的小さな河川やクリーク。河川では、岸部と少し深い中間部に比較的多い。2年（殻長約4cm）で、性成熟する。繁殖期は、初春。幼生は一時期、オイカワ、カワムツ、ヨシノボリ等の淡水魚に寄生して成長する。寄生期間は水温25度で約12日間。

特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、本種の減少は、タナゴ類の生息に大きな影響を与えると予想される。



マツカサガイ (イシガイ科) *Inversidens (Pronodularia) japonensis* (Lea)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

富山市安野屋、高岡市佐賀野、南砺市城端の生息地はすでに消滅。射水市足洗濁に置いても以前に死殻の報告が1例あるが、近年の報告は皆無。

形態

殻長は最大で90mm。殻は厚く、卵円形。殻の表面には、逆V字型の彫刻が顕著。小さい時は黄褐色の殻皮だが、成長とともに黒褐色の殻皮に変わる。殻長部は、殻皮がなく、貝殻が浸食されている個体が多い。そして、浸食を受けた箇所は緑色がかかる。殻の内側は、真珠光沢が強い。膨らみも弱い。殻の後背部にやや強い分岐肋がある。殻の内面の真珠光沢は強い。

国内の分布状況

日本固有種で、東北から九州に広く分布。以前は北海道にも分布するとされていたが、すべてヨコハマシジラガイ (*Inversidens yokohamensis*) の誤同定であった。

県内の分布状況

近年、生息記録がない。

生態・生息環境

河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで、底質が砂泥底の水質の良い場所に生息。湖や池沼などの止水域では稀。ある程度の水深のある場所を好む。2年（殻長約3cm）で、性成熟する。繁殖期は初夏～夏。幼生は、オイカワやカワムツ、メダカに寄生する。寄生期間は水温25度で約8日間。

生存への脅威

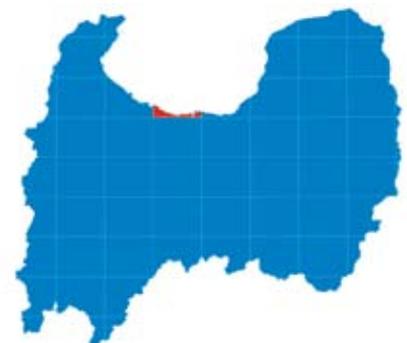
開発や圃場整備による河川改修や水質汚濁。休耕田の増加に伴い用水の泥上げが行われなくなり、生息地の底質の軟泥化。幼生が宿主とするオイカワ、カワムツ、メダカの減少。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。生息地を改変する際は、本種の移植が望ましい。

特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、本種の減少は、タナゴ類の生息に大きな影響を与えると予想される。近年、タナゴ類の飼育用にマツカサガイが販売されることもあり、安易な放流に繋がらないように指導する必要がある。



イシガイ (イシガイ科) *Unio douglasiae douglasiae* Griffith et Pidgeon

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

富山県内では、射水市浄土寺と氷見市万尾川水系でのみ生息が確認されている。イタセンパラの産卵対象二枚貝としても重要。

形態

殻長は60mm。殻はやや細長い長卵形。殻はやや厚い。殻皮は黒褐色で、殻長部周辺にさざなみ状の彫刻がある。殻長部は、貝殻が浸食され、下層が現われている。殻の内面は、白っぽく、真珠光沢が強い。

国内の分布状況

北海道から九州に広く分布。しかしながら、各地で減少傾向にある。

県内の分布状況

射水市浄土寺と氷見市万尾川水系。

生態・生息環境

河川の流れのある砂礫底に多い。湖、池、沼にも生息する。2年（殻長約3cm）で、性成熟する。春～夏が産卵期で、幼生はオイカワ、カワムツ、ヨシノボリに寄生する。成長すると、幼生は魚体を離れ、底生生活に移行する。寄生期間は水温25度で約9日間。

生存への脅威

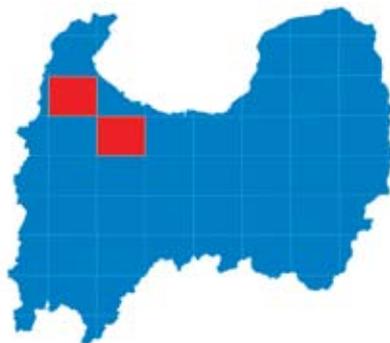
開発や圃場整備による河川改修や水質汚濁、農薬の流入。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。貝だけでなく繁殖に係る魚類が棲める水生植物が残る環境が必要。生息地を改変する際は、本種の移植が望ましい。

特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、本種の減少は、タナゴ類の生息に大きな影響を与えると予想される。近年、タナゴ類の飼育用にイシガイが販売されることもあり、安易な放流に繋がらないように指導する必要がある。



ヨコハマシジラガイ (イシガイ科) *Inversiunio yokohamensis* (Ihering)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

富山県内では、射水市浄土寺と氷見市万尾川水系、南砺市福光でのみ生息が確認されている。本種は特に水質のきれいな場所を好むことから、いずれの生息地においても必ずしも良い環境といえない。

形態

殻長は70mm。殻は長方形でやや厚い。殻皮は黒褐色で、殻長部周辺にさざなみ状の彫刻がある。殻長部は、貝殻が浸食され、下層が現われている。殻の内面は、白っぽく、真珠光沢が強い。長らく、マツカサガイと混同されてきたが、マツカサガイよりもV字の彫刻が弱く、殻頂部では顆粒状になることで区別ができる。

国内の分布状況

北海道、三重県以东の本州（日本海側は兵庫県以东）に分布。

県内の分布状況

射水市浄土寺と氷見市万尾川水系、南砺市福光。

生態・生息環境

河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。2年（殻長約3cm）で、性成熟する。繁殖期は、秋から夏までほぼ1年中続くが、初夏がメイン。幼生はカワムツ、ヨシノボリ、ヌマチチブなどに、一時期寄生して成長する。寄生期間は水温25度で約9日間。

生存への脅威

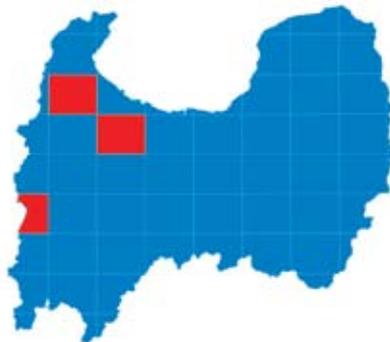
開発や圃場整備による河川改修や水質汚濁。外来魚の侵入により、幼生が寄生する魚がいなくなること。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。貝だけでなく繁殖に係る魚類が棲める水生植物が残る環境が必要。生息地を改変する際は、本種の移植が望ましい。

特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、本種の減少は、タナゴ類の生息に大きな影響を与えると予想される。



マルタニシ (タニシ科) *Pseudodon omiensis* (Heimburg)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

かつては富山県内の水田や用水でふつうに見られたが、激減。1995年の調査では、県内の10ヶ所で生息が確認されたのみに止まった。しかしながら、今回の調査では、新たに生息が確認されたこともあることから、他県ほど危機的状況ではないと判断し、絶滅危惧Ⅱ類に変更した。さらに、溜池工事の際には、本種の移植も行われるようになった。しかしながら、全体では生息環境は楽観視できるものではなく、悪化の傾向にある。

形態

殻高60mm。殻塔は高く、円錐形。黄色がかった黒い殻皮を被る。貝殻の各層の丸みが強く、よく膨らむので、縫合が深くなる。卵胎生。オスの右触覚が曲がっていることで、雌雄の見分けができる。

国内の分布状況

北海道南部から九州、沖縄に広く分布。沖縄のマルタニシは史前帰化と見なされている。各地で冬季に著しく乾燥する水田管理が実施されるようになり、急激に生息地が減っている。

県内の分布状況

平野部から丘陵部の限られた場所で、生息が確認されている。しかしながら、近年、新たな生息地が確認されている。

生態・生息環境

水田や湿地、その周りの用水、池など流れがゆるい泥底に生息。繁殖期は初夏～夏。卵胎生で20～30個の仔貝を持つ。寿命は3年。泥底や植物につく附着藻類を食べる。冬は泥に潜って越冬する。富山県の場合、積雪により湿った環境が冬も保たれ、マルタニシにとっては、越冬しやすい環境である。

生存への脅威

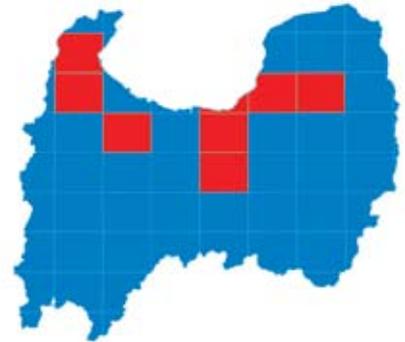
開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、用水の乾し上げ。

保全対策

河川改修や用水改修の時には、生存できる環境を残す。また、改修時にはできるだけ取り上げ、移植することが望ましい。

特記事項

卵胎生のため、一度生息地が消滅すると回復しない。比較的乾燥にも強いので、一時的な乾燥の際は、泥に潜って耐えることもできる。食用になる。



モノアラガイ (モノアラガイ科) *Radix auricularia japonica* (Jay)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

以前は、富山県内の平野部の流れの緩やかな河川や用水に普通に生息していた。しかしながら、近年、各地で生息環境が悪化し、急速に生息数が減少している。

形態

殻高10～60mm。殻は卵型で薄い。体層が大変大きく、殻口も広く開く。殻色は黄白色から茶褐色で、殻表に細かい成長線がある。軸唇は、強くねじれる。体色は、黄土色で黒い斑紋があり、貝殻を通してその斑紋が見える。

国内の分布状況

北海道から九州に広く分布。しかし、近年、全国的に各地で見られなくなった。

県内の分布状況

個体数は少ないながら県内の平野部、都市部とも生息地が存在する。

生態・生息環境

池や沼などの止水や穏やかな用水の水草の上に生息。夏に20個余りの卵が入った寒天質の卵嚢を水草や石などに産み付ける。孵化後、2か月で成熟する。

生存への脅威

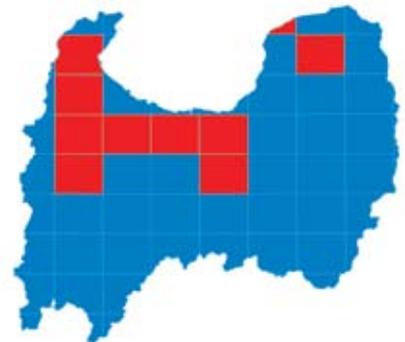
開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、用水の乾し上げ。ソウギョなどによる水草の食害。外来生物の侵入。

保全対策

河川の改修時に流れの緩やかな淀みのある環境を残す。特に水生植物が生育できる環境を残す必要がある。

特記事項

ハイケボタルの餌。



タガイ (イシガイ科) *Anodonta japonica* Clessin

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

富山県内の平野部や丘陵地の改修が行われていない用水や溜池で生息が確認されている。生息地の個体は、小型化の傾向にある。

形態

殻長は100mmを超えない。殻はやや細長い長卵形で、膨らみは弱い。殻皮は黒褐色。殻表は細かい成長線のみで、ほぼ平滑。殻の内面は真珠光沢がある。歯がないことが大きな特徴。

国内の分布状況

北海道から九州に広く分布。

県内の分布状況

平野部や丘陵部の用水や溜池の砂泥～軟泥底で確認できた。ただ、生息環境が悪化し、見つからなくなった場所も多い。一方、大きな個体は見られず、1年目の仔貝のみが見つかる場所もあった。

生態・生息環境

河川や湖沼の砂泥底や泥底に埋もれて生息。殻長50mmで成熟し、繁殖期は1年中。幼生はヨシノボリに寄生する。成長すると、幼生は魚体を離れ、底生生活に移行する。寄生期間は水温25度で約10日間。

生存への脅威

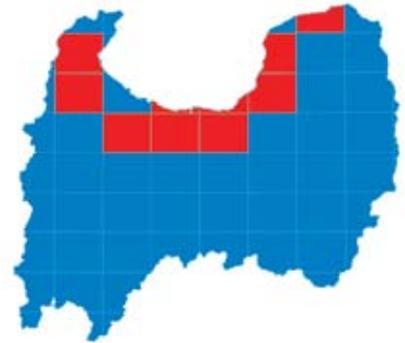
開発や圃場整備、埋め立てによる生息場所の改変、水質の悪化、底質の変化、溜池の干し上げ。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。貝だけでなく繁殖に係る魚類が棲める水生植物が残る環境が必要。生息地を改変する際は、本種の移植が望ましい。

特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、本種の減少は、タナゴ類の生息に大きな影響を与えると予想される。近年、タナゴ類の飼育用にタガイが販売されることもあり、安易な放流に繋がらないように指導する必要がある。



ヌマガイ (イシガイ科) *Anodonta lauta* Martens

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

高岡古城公園や庄川など、県内の限られた場所しか生息記録がない。

形態

殻長は150mmを超えるものもある。殻は卵円形でやや膨らみがある。殻皮は黒褐色。殻表は細かい成長線のみで、ほぼ平滑。殻の内面は真珠光沢がある。歯がないことが大きな特徴。

国内の分布状況

北海道から九州に広く分布。

県内の分布状況

高岡古城公園お堀、庄川ワンド。

生態・生息環境

河川や湖沼の砂泥底や泥底に埋もれて生息。殻長50mmで成熟する。繁殖期は春から夏。幼生はヨシノボリに寄生する。成長すると、幼生は魚体を離れ、底生生活に移行する。

生存への脅威

開発や埋め立てによる生息場所の改変、水質の悪化、底質の変化。

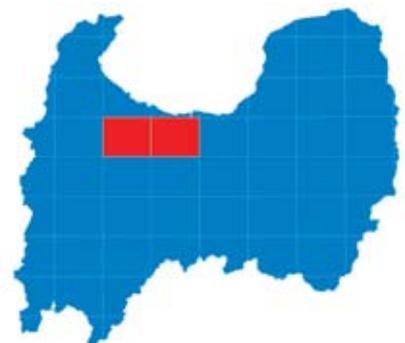
保全対策

改修時に生存できる環境を残す。貝だけでなく繁殖に係る魚類が棲める水生植物が残る環境が必要。生息地を改変する際は、本種の移植が望ましい。

特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、本種の減少は、タナゴ類の生息に大きな影響を与えると予想される。

タガイ (*Anodonta japonica*) とヌマガイ (*Anodonta lauta*) は、貝殻以外に幼生の形態や妊卵期間から区別することができる。



マシジミ (シジミ科) *Corbicula leana* (Prime)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

かつては、富山県内の平野部や丘陵の小河川や用水に広く生息していた。その後の河川改修、圃場整備、水質汚濁で激減した。一時期、回復傾向が見られたが、近年、外来種のタイワンシジミが富山県に侵入し、各地で交雑が起こっているため、マシジミは急激な減少傾向にある。

形態

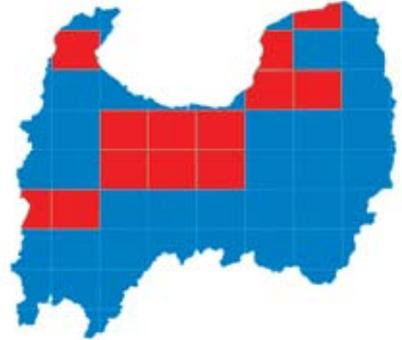
殻長は35mm。殻はほぼ三角形で厚い。殻皮は黄色がかった黒色で、等間隔の輪肋がある。幼貝は黄色が強い。内面は濃い紫色。卵胎生。

国内の分布状況

北海道から九州に広く分布。

県内の分布状況

富山県内の平野部と丘陵の用水に広く分布していた。しかしながら、近年はタイワンシジミとの交雑が小矢部川水系で起きており、呉西地区のマシジミは激減している。一方、呉東地区では、タイワンシジミとの交雑は確認されていないが、今後注意をして経過を見守る必要がある。



生態・生息環境

河川の中流域や用水の礫や砂底に生息。泥底は好まない。殻の縁が見えるぐらいに浅く底質に潜っている。あまり移動しない。雌雄同体、体内受精をする。初夏から夏が繁殖期で、幼生は貝殻が約0.2mmになるまで、保育される。

生存への脅威

開発や圃場整備による生息場所の改変、水質の悪化、河川改修に伴う底質環境の変化。外来種・タイワンシジミとの交雑。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。生息地を改変する際は、本種の移植が望ましい。タイワンシジミ対策としては、タイワンシジミの意図的移動や偶発的な移動を避ける対応をする必要がある。

オオタニシ (タニシ科) *Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens)

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

かつては富山県内の池や沼、用水で普通に見られたが、近年激減。今回の調査でも、確認できなかった場所や個体数が激減した場所があった。

形態

殻高約70mm。殻の螺塔が高く、円錐形。殻の膨らみは弱く、縫合が浅い。殻皮の色は茶褐色。殻頂部の殻皮が失われているものが多く、それらは貝殻が侵されている。殻は平滑で光沢があり、螺肋状の弱い角がある。卵胎生。オスは右触覚が強く曲がり、メスと区別ができる。

国内の分布状況

北海道南部から九州、沖縄の池や沼、川、水田に生息。

県内の分布状況

黒部市から氷見市や南砺市にかけての平野部の池や用水、水田に分布。水流の少ない閉鎖的な環境を好みことから、環境変化を受けやすく、黒部市においては、たくさん生息していた場所が、激減した例もある。

生態・生息環境

池や沼、用水、水田など泥底に生息。卵胎生で、春、水温が上がると交尾をする。仔貝は、1回に数匹ずつ産み出される。

生存への脅威

開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、用水の乾し上げ、水田の乾田化、農薬散布。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。生息地を改変する際は、本種の移植が望ましい。

特記事項

食用になる。

マメシジミ (マメシジミ科) *Pisidium japonicum* Pilsbry et Hirase

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

富山県内では、これまで標高1000m以上の4か所で生息が記録されており、そのうちの1か所では今回も確認できたが、他3か所の状況は不明。各地とも生息面積は狭い。氷河時代のレリック（遺存種）として、地理的な分布を考える上で重要。

形態

殻長約6mmの二枚貝。殻は薄く卵型で膨らみも強い。殻の色は、灰褐色。殻表は平滑。雌雄同体で、卵胎生。

国内の分布状況

北海道から九州の標高が高い池。

県内の分布状況

魚津市別又谷池尻の池。ほかに南砺市上百瀬東俣谷や福光大獅子山、立山町千寿ヶ原などで記録があるが、今回は現地確認できなかった。

生態・生息環境

谷川の湧水の中や湿地の落葉の下などに生息。泥底に潜る。

生存への脅威

湧水の枯渇や埋め立てなどの生息地改変。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。

特記事項

微少な貝で底泥に潜って生活しているため発見しにくい。マメシジミ類(*Pisidium*属)は我が国で20種程度の種類が報告されているが、形態的分類が極めて困難な種群とされる。

イシマキガイ (アマオブネガイ科) *Clithon retropictus* (Martens)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

汽水域にすみ、河川改修により容易に減少する可能性があることから選定した。しかしながら、現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻高約25mmの巻貝。殻は半球状。螺塔は最高4階だが、殻頂部がカルシウムイオンに乏しい河川水によって侵蝕されボロボロになる。殻は艶のない緑褐色の殻皮に覆われ、細かい三角形の斑紋が並ぶ。

国内の分布状況

南日本の河川の河口に広く分布。

県内の分布状況

打ち上げ貝としては、氷見市から富山市にかけて発見されているが、生貝が確認されているのは魚津市角川のみ。

生態・生息環境

河川の中流から河口域にかけて生息し、岩盤・転石・コンクリート護岸に付着。汽水域から純淡水域に生息し、石の表面の微細藻類を餌にする。春から夏にかけて交尾し、メスは岩石や他個体の殻表に直径1～2mmの扁平なドーム状で黄白色の卵囊を産みつける。卵囊から孵化した幼生は海に流れ下り、浮遊生活に入る。成長した幼生は河川の汽水域に遡上、着底後変態して幼貝となる。

生存への脅威

河川改修による生息環境の消滅。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。

特記事項

ホタルの幼虫の餌になる。

ドブシジミ (マメシジミ科) *Sphaerium japonicum* (Westerlund)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

以前は市街地の用水や池で多数見られたが、近年急速に生息地が消滅。しかしながら、現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻長約8mmの二枚貝。殻は薄く卵型で膨らみも強い。殻表は、平滑で、胎殻が盛り上がっている。雌雄同体で卵胎生。

国内の分布状況

本州～九州。沖縄。

県内の分布状況

前回同様、黒部市立野で見つかった。その他の地域でも見つかってはいるが、生息密度が低い。

生態・生息環境

池や沼、用水等の止水の泥に埋もれて生活。水質汚濁に対しても強い。

生存への脅威

開発による生息地の消滅。乾燥化。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。

特記事項

微少な貝で底泥に潜って生活しているため発見しにくい。

ヒラマキミズマイマイ (ヒラマキガイ科) *Gyraulus spirillus* (Gould)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

富山県内で生息が確認されていた用水や池が、改修により多くの地点で生息の確認ができなかった。しかしながら、現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻幅約7mmの巻貝。殻は円盤状で薄く、半透明。殻の周囲に弱い角がある。広い臍穴を持つ。長い触角の根元に眼がある。雌雄同体。軟体部は、貝殻を通して赤く見える。

国内の分布状況

本州～九州。沖縄。

県内の分布状況

報告なし。

生態・生息環境

流れのゆるい小川や池の水草の葉や小石に付着している。

生存への脅威

開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、用水の乾し上げ、水田の乾田化、農薬散布。

保全対策

改修時に水草が生育可能な環境を残す。

ヒラマキガイモドキ (ヒラマキガイ科) *Polypylis hemishaerula* (Benson)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

富山県内で生息が確認されていた用水や池が、改修により多くの地点で生息の確認ができなかった。しかしながら、現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻幅約9mmの巻貝。殻は円盤状で薄く、半透明。ヒラマキミズマイマイに似るが、螺層が深く重なることや体層に目立つ3～4本の白い放射状の襞ができることで区別ができる。

国内の分布状況

本州～九州。沖縄。

県内の分布状況

報告なし。

生態・生息環境

流れのゆるい小川や池の水草の葉や小石に付着している。

生存への脅威

開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、用水の乾し上げ、水田の乾田化、農薬散布。

保全対策

改修時に水草が生育可能な環境を残す。

カワコザラガイ (カワコザラガイ科) *Ferrissia nipponica* (Kuroda)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

以前は市街地の用水や池で見られたが、近年急速に生息地が消滅。しかしながら、現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻幅約5mmの巻貝。殻は低い笠形、楕円形で薄い。

国内の分布状況

北海道、本州～九州。沖縄。

県内の分布状況

報告なし。

生態・生息環境

小川や池、沼等の止水や半止水のスイレンやヒシ等の水生植物の葉の裏に付着していることが多い。他に石や枯れ葉にも付着している。

生存への脅威

開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、用水の乾し上げ、水田の乾田化、農薬散布。

保全対策

改修時に水草が生育可能な環境を残す。

ヤマトシジミ (シジミ科) *Corbicula japonica Prime*

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

かつては、放生津潟や十二町潟等はヤマトシジミの産地であったが、放生津潟は富山新港として海水化し、また、十二町潟も淡水化したことで絶滅した。前回の調査では、神通川河口で大型の個体を確認できたが、今回は不明。打ち上げ貝にヤマトシジミは見つかるが、県外から多量に食用に販売されていることから、その貝殻だけでヤマトシジミが生息しているかどうかは判断できない。そこで、現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻長は30mm。殻はほぼ三角形で厚い。殻皮は小さい時は茶褐色だが、成長とともに光沢のある黒色に変わる。内面は白色。卵生。

国内の分布状況

北海道から九州に広く分布。

県内の分布状況

かつては放生津潟や十二町潟などに多量に生息していたが、放生津潟は富山新港になり、海水化したので絶滅したと思われる。十二町潟も淡水化したので、同様に絶滅した。以前は、神通川河口で確認されたが、今回は生息が確認できなかった。

生態・生息環境

河川の河口など淡水と海水が入り混じる汽水域の砂礫底。

生存への脅威

河川改修に伴う底質環境の変化。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。

特記事項

重要な食用種。日本各地より食用として、県内の店に出回っているため、海岸には貝殻が打ち上がっていることもあるが、地元のものかどうか分からない。

ヤマメタニシ (イツマデガイ科) *Blanfordia integra Pilsbry*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

富山県内では、朝日町宮崎の鹿島樹叢で唯一生息が確認されていた。今回の調査では、少ないながらも生息が確認できた。

形態

殻高4.5mmで小さい。形は卵型の円錐形。殻は灰褐色。殻口は黒く縁取られる。

国内の分布状況

秋田県から島根県にかけての日本海側の山地に不連続に分布をする。太平洋側では、静岡県天城山や埼玉県三峰山からも生息が確認されている。

県内の分布状況

夏には低い灌木の葉の裏で見つかることが多い。朝日町宮崎鹿島樹叢でわずかに生息が確認できた。

生態・生息環境

低木の葉の裏や幹、礫の下、落葉の下に生息。

生存への脅威

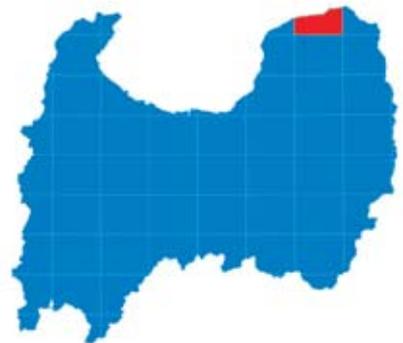
生息地が以前に比較して、乾燥化が進んでいる。生息地が狭いので、環境変化の影響を受けやすい。

保全対策

早急に生息状況の調査を必要としている。

特記事項

本種は、近県においても生息状況が悪化している。



ナガオカモノアラガイ (オカモノアラガイ科) *Qxyloma hirasei* (Pilsbry)

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

以前は、市街地を含む富山県内の平野部の水辺の草の葉の上で見つけることができた。近年、用水の改修で、ほとんどの場所で生息が確認できなかった。急速に生息地が消滅している。

形態

殻高約12mm。殻は極めて薄く、半透明で淡黄褐色。体層及び殻口が大きい。蓋はない。雌雄同体。大小2対の触覚があり、大触角の先端に眼がある。

国内の分布状況

関東から九州に分布。

県内の分布状況

これまでは、富山市下新町で生息が確認されていたが、見つからなかった。今回の調査で、新たに黒部市立野で確認した。

生態・生息環境

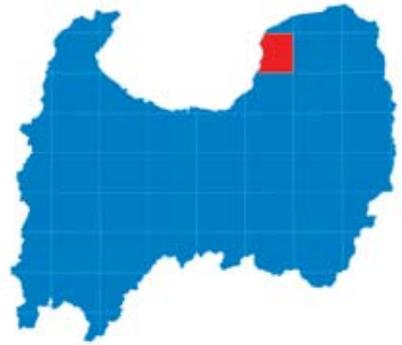
湖沼や池、小川の周りの草の葉の上や土手に生息。

生存への脅威

開発や圃場整備による河川改修により、護岸改修が行われることで、生息環境が失われ、各地で急速に減少している。ほかに水質汚濁、用水の乾し上げも影響する。

保全対策

改修の際は用水をすべてコンクリート化せず、用水周辺の草や土手を残す。



クニハダギセル (キセルガイ科) *Mundiphaedusa discreoans* Kuroda & Habe in Azuma

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

富山県内では、朝日町鹿島樹叢のみで生息を確認している。富山県東部が本種の分布の西限。

形態

殻長約25mm。殻はやや細長い紡錘形。殻表に絹糸状の脈がある。殻色は黄緑～黄褐色で漆様の光沢がある。殻口は卵状の洋梨形。軟体は乳白色。触覚は、漆黒色。

国内の分布状況

新潟県、富山県、長野県、群馬県、山梨県、埼玉県などに分布。

県内の分布状況

朝日町宮崎鹿島樹叢

生態・生息環境

落ち葉の下。

生存への脅威

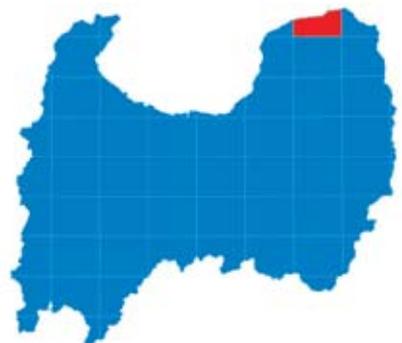
キセルガイ類は局所的に生息していることが多く、少しの環境変化が絶滅に繋がる。

保全対策

個体数が少ないことから、生息が確認できた場所は、保全すべきである。

特記事項

クニノギセルは、本種と同種。



ヤマキサゴ (ヤマキサゴ科) *Waldemaria japonica* (A.Adams)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

従来、立山町や大山町の間部、そして上市町、朝日町等で確認されているが、富山県内の生息地は狭く、個体数も少ない。ここ10年間は、上市町と黒部市鐘釣で発見された。上市町の生息地は、以前に比べ、生息数が減っている印象があった。

形態

殻高約5.5mmで丸い。殻は橙または黄色で厚く、殻表には顕著な成長肋がある。蓋は石灰質で半円形。

国内の分布状況

本州、四国に広く分布。

県内の分布状況

上市町伊折、黒部市鐘釣

生態・生息環境

地上性で落ち葉の下や朽木の上で見ついている。

生存への脅威

開発による生息地の改変。特に乾燥化に弱い。

保全対策

開発の際は、生息できる環境を残す必要がある。

ホラアナゴマオカチグサガイ (カワザンショウガイ科) *Cavernacmella kuzuensis* (Suzuki)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

富山県内では、黒部市鐘釣周辺の石灰岩地帯で確認されたが、生息地は狭く、個体数も少ない。

形態

殻高約2.0mmで丸く硬質の貝殻で、硬質。螺旋は高く、薄く半透明で、淡い黄褐色である。殻口は円い洋梨形。軸唇は強く弧状となり、少し反転して臍孔の一部を覆う。外唇は薄く鋭い。臍孔は狭く深い。洋梨形の石灰質の蓋をもつ。

国内の分布状況

本州、四国、九州、八重山諸島の石灰洞窟の湿った壁面に分布。

県内の分布状況

鐘釣周辺の石灰岩地帯の洞窟にすむ真洞窟性巻貝。他に片貝川上流部にも石灰岩が分布し、洞窟も存在するとの情報があることから、本種の生息が期待できる。

生態・生息環境

石灰岩洞窟の壁面に生息する。

生存への脅威

開発による生息地の改変。特に乾燥化に弱い。

保全対策

開発の際は、生息できる環境を残す必要がある。

ヘソカドガイ (カワザンショウガイ科) *Paludinella japonica* (Pilsbry)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県内では、蛇ヶ島で生息が確認できた。生息地は狭く、個体数も少ない。

形態

殻高5.2mm、殻径3.5mmの殻は、ヘソカドガイ類の中では一番小さい。円錐形卵型で光沢のある茶褐色。体層が膨らみ周縁に弱い竜骨状の角がある。硬質堅固。軟体は漆黒褐色、触角が長く基部に眼がある。

国内の分布状況

本州（房総半島より西）、佐渡島、九州に分布。

県内の分布状況

打ち上げ貝としては、氷見の海岸で見つかる。確実な生息地として蛇ヶ島があり、蛇ヶ島では、普通に見られる。

生態・生息環境

海岸の打ち上げ物や、海岸線上部の灌木の根元の礫間に生息する。

生存への脅威

海岸の護岸工事により生息地が消滅する。海岸の打ち上げ物や、海岸線上部の灌木の根元の礫間に生息する。

保全対策

開発の際は、生息できる環境を残す必要がある。

クリイロキセルガイモドキ (キセルガイモドキ科) *Mirus andersonianus* (Mollendotff)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

南砺市や黒部市、魚津市で確認されているが、どの生息地でも個体密度は低い。日本海沿岸のブナ林に生息する種として知られている。

形態

殻高20～25mmの円錐形の巻貝。キセルガイに似ているが、キセルガイは左巻きに対して、本種は右巻き。殻色は濃い茶褐色で光沢がある。殻表に火炎彩はない。軟体部は暗褐色。

国内の分布状況

北海道(知床半島や中・南部)から本州(主に日本海沿い)の島根県西部にまで分布。

県内の分布状況

南砺市や黒部市、魚津市で確認されている。

生態・生息環境

ブナの原生林の朽木や落葉下に生息。特に夏季は、ブナの樹幹に付着していることが多い。

生存への脅威

開発による生息地の改変。

保全対策

個体数が少ないことから、生息が確認できた場所は、保全すべきである。

特記事項

エチゴキセルガイモドキは本種と同種。

ヤマタカマイマイ (ナンバンマイマイ科) *Satsuma papilliformis* (Kobelt)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

氷見市を中心に近年、生息が確認されている。全国的には著しく減少している。

形態

殻高約30mm、殻径25mmの卵型のマイマイ。殻の周縁に細く淡い茶褐色の帯がある。臍孔は閉じる。軟体は淡い茶褐色で顆粒状模様がある。

国内の分布状況

北陸、近畿北部、中国地方と分布は広いが、生息数は少ない。

県内の分布状況

近年、氷見の低山地から多くの報告がある。ほかに富山市や大山町、朝日町での採集例がある。

生態・生息環境

海岸近くの丘陵地や低い山地に生息。生息密度は低い。

生存への脅威

開発に伴う自然林の伐採。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。

オオタキコギセル (キセルガイ科) *Euphaedusa digonoptyx* (Boetter)

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県内では、砺波市(旧庄川町)と朝日町宮崎鹿島樹叢で生息が確認された。

形態

殻高約14mmの小型のキセルガイ。殻は細長い紡錘形。殻色は暗褐色から黒紫褐色。殻口は洋梨型で、前に突き出る。殻口の周囲は白い。

国内の分布状況

東北～中国地方に分布。

県内の分布状況

砺波市青島の住宅の倒木。朝日町宮崎鹿島樹叢でも倒木で生息が確認された。かつては黒部市三日市、魚津市小川寺で記録がある。

生態・生息環境

里山の樹林帯や寺社叢林に生息。神社の階段や墓石の上で見つかる。

生存への脅威

里山の開発や森林伐採による生息地の消滅。

保全対策

個体数が少ないので、生息地は保全すべきである。

特記事項

ヒメコギセルは、本種と同種。

ヤマタニシ (ヤマタニシ科) *Cyclophorus herklotsi* Martens

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

丘陵地から山間部にかけてかつては広く分布していたが、生息地が減少傾向にある。

形態

殻高約20mm、殻径約22mmの巻貝。殻は丸く、殻色は茶褐色から暗褐色。堅い皮質の蓋がある。

国内の分布状況

栃木県・茨城県以南の本州・四国・九州。

県内の分布状況

富山市大山町檜峠付近がある。ほかに旧八尾地域の桐谷や猪谷、氷見市小杉等で確認されている。魚津市住吉は、今回の調査では、生息が確認できなかった。

生態・生息環境

山地の落葉や礫の下から見つかる。

生存への脅威

里山の開発や森林伐採による生息地の消滅。

保全対策

個体数が少ないので、生息地は保全すべきである。

ハマシイノミガイ (オカミミガイ科) *Melampus castaneus* Muenhlfeld

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

本種が好む海岸近くのヨシ原や転石地帯が減少している。打ち上げ貝では確認されているが、生貝は見つかっていない。カテゴリーを特定するだけの情報が得られていない。

形態

殻高約13mmの巻貝。殻はやや厚く、紫褐色で光沢が強い。殻口に6～7個の歯（突起）がある。

国内の分布状況

関西以西。

県内の分布状況

氷見市、高岡市伏木

生態・生息環境

海岸近くのヨシ原の転石の下や海岸近くの石の下。

生存への脅威

護岸工事による生息環境の消失。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

キセルガイモドキ (キセルガイモドキ科) *Mirus reinianus* (Kobelt)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

本種が山間地に生息するが、県内での採集例が少ない。一般的に生息密度も低い。カテゴリーを特定するだけの情報が得られていない。

形態

殻高約27mm、殻径約7mm。貝殻は太く紡錘形をした円筒状。殻色は黄褐色で、右巻き。殻口は白く肥厚し、大きく反転する。

国内の分布状況

本州、四国、九州と広い範囲に分布する。

県内の分布状況

黒部市鐘釣

生態・生息環境

広葉樹の林床落葉下や樹幹など、やや乾燥気味の環境に生息する。

生存への脅威

広葉樹林の減少や林床の攪乱等による生息環境の悪化。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

オクガタギセル (キセルガイ科) *Mundiphaedusa dorcas* (Pilsbry)

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

本種が山間地に生息するが、県内での採集例が少ない。一般的に生息密度も低い。カテゴリを特定するだけの情報が得られていない。

形態

殻高約27～30mmでキセルガイの仲間では大型。殻皮は平滑。光沢は弱い。下腔襞が上腔襞に比較されるほど大きい。

国内の分布状況

関東から中部、北陸に分布する。

県内の分布状況

富山市（旧大山町）の千長原松峠や有峰、（旧八尾町）桐谷で採集例がある。

生態・生息環境

広葉樹の林床落葉下や樹幹など、やや乾燥気味の環境に生息する。

生存への脅威

広葉樹林の減少や林床の攪乱等による生息環境の悪化。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

ミドリベッコウ (ベッコウマイマイ科) *Bekkochlamys kagaensis* (Pilsbry et Hirase)

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：情報不足

選定理由

本種が山間地に生息するが、県内での採集例が少ない。一般的に生息密度も低い。カテゴリを特定するだけの情報が得られていない。

形態

殻高12mm、殻径17mm程度でベッコウマイマイの仲間としてはやや大型。貝殻は、種名にあるように少し緑色がかかった黄褐色で、光沢がある。

国内の分布状況

石川県白山が模式山地で、福井県・石川県・岐阜県・長野県に分布する。

県内の分布状況

黒部市鐘釣で報告された。

生態・生息環境

落葉広葉樹林の林内や林縁の朽木や落葉の下など湿度の高い場所に生息する。発達した外套膜で殻を包み、細い足で地上を移動する。

生存への脅威

樹林の伐採による生息環境の悪化及び農薬の散布など。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

ココロマイマイ (ナンバンマイマイ科) *Satsuma cardiostoma* (Kobelt)

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

富山県は分布の北限に近い。近年、生息が確認されておらず、カテゴリを特定できるだけの情報が得られていない。

形態

殻高約14mmの小型のマイマイ。殻は球状の円錐形。殻表は滑らかで光沢がある。また、周縁に不明瞭な淡い白色の帯がある。殻色は黄色みがかかった栗色。殻口は円から三角形。臍孔は閉じる。

国内の分布状況

福井県、京都府、兵庫県で採集記録がある。

県内の分布状況

1991年に富山市水橋での採集例はあるが、その後、採集記録がない。分布の末端の記録かもしれない。

生態・生息環境

日本海沿岸の山地の沢沿いの茂みに生息。個体密度は大変低い。

生存への脅威

開発による生息環境の改変。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

早急の生息状況調査が待たれる。

ケハダビロウドマイマイ (ナンバンマイマイ科) *Nipponochloritis fragilis* (Gude)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息個体数の少ないマイマイで、富山県での報告例は少ない。そのため、カテゴリーを特定できるだけの情報が得られていない。

形態

殻高約16mm、殻径約20mmの小型のマイマイ。殻色は、黄褐色。殻の表面に比較的荒い針毛様の殻皮が発達する。そのため、ビロウドを纏っているように見える。

国内の分布状況

北陸地方から近畿地方に生息する。

県内の分布状況

高岡市伏木一宮気多神社裏や小矢部市俱利伽羅で採集例がある。しかしながら、貝殻のみの各1個体であり、生貝は見つっていない。過去には、旧宇奈月町や上市町、富山市呉羽山で記録がある。

生態・生息環境

林内の朽木や石の下面など湿度の高い場所に生息する。

生存への脅威

開発による生息環境の改変。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

早急の生息状況調査が待たれる。

コガネマイマイ (オナジマイマイ科) *Euhadra sandai sandai* (Kobelt)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

近年、県内での採集例がない。富山県が分布の北限にあたり、生物地理上も重要。

形態

殻高約20mm、殻径40mmで扁平な中型のマイマイ。殻皮に黒褐色の色帯を持ち、成長脈に添って鮮黄色の火炎彩模様が著しく現われる。臍穴は広く緩やかで浅い。軟体部は黒灰色で背面上に黒縦帯がある。

国内の分布状況

北陸から近畿北部に分布。

県内の分布状況

砺波市で採集例がある。

生態・生息環境

低山地の樹上に生息。

生存への脅威

開発による生息環境の改変。

保全対策

生息が確認された場所は保全すべきである。

特記事項

富山県が本種の分布の北限。

= 参考文献 =

- 1) 東 正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑 (増補改訂版). 保育社, 大阪. xvi + 343 p.+ 80 pls.
- 2) 安部武雄, 1975. 二上山に棲む貝類. 二上山, 創刊号: 11-13.
- 3) 藺生弘美, 1999. 貝類. 氷見市誌9 資料編七 自然環境: 327-366. 氷見市.
- 4) 伊藤良吉, 1967. ホラアナゴマオカチグサの分布について. 秋吉台科学博物館報告, (4) :83-87.
- 5) 宇野 明, 2002. オオタニシ (p.175). 「レッドデータブックとっとり 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」. (214pp). 鳥取県, 鳥取.
- 6) 柏木健司, 2011. 富山県東部の黒部峡谷鐘釣地域の陸産貝類: ヤマキサゴ科・オナジマイマイ科・ナンバンマイマイ科・ベッコウマイマイ科・キセルガイモドキ科. 富山の生物, 50: 71-78.
- 7) 柏木健司, 2010. 富山県黒部峡谷鐘釣地域の陸産貝類相. 富山県生物学会口頭発表.
- 8) 環境省, 2002. 生物多様性調査 動物分布調査報告書(上)(下) [陸産及び淡水産貝類], 上 (1-654p.), 下 (655-1342p.). 環境省自然保護局生物多様性センター, 山梨.
- 9) 環境省自然環境局野生生物課, 2005. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—6 陸・淡水産貝類. 財団法人自然環境研究センター, 420 p.
- 10) 神田正人 (代表), 2001. ホラアナミジンナ (p.453), マツカサガイ (p.50). 「レッドデータブックおおいだ 大分県の絶滅のおそれのある野生生物」. 507p.大分県.
- 11) 菊池勘左衛門, 1937. 富山県宮崎鹿島社叢の陸産貝類. 富山高校博物同好会会誌, 3: 32-41.
- 12) 菊池勘左衛門, 1940. 富山県の陸産貝類目録. 富山高校博物同好会会誌, 4: 5-20.
- 13) 木村昭一, 2002. カタハガイ (p.399), イシガイ (p.407), マツカサガイ (p.408). 「レッドデータブックあいち動物編」, 596p.愛知県, 愛知.
- 14) 木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. かきつばた, 32: 22-27.
- 15) 黒住耐二・岡本正豊, 1994. ミズゴマツボを千葉県の水田で確認. ちりぼたん, 2(3/4):84.
- 16) 黒住耐二, 1998. ミズゴマツボ (p.4-5). 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック (水産庁編). 社団法人日本水産資源保護協会, p.437.
- 17) 黒住耐二, 2000. マツカサガイ (p.376), イシガイ (p.378). 「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック 動物編」. (438p). 千葉県, 千葉.
- 18) Kondo, Takaki, 1982. Taxonomic revision of Inversidens (Bivalvia:Unionidae). Venus, 41 (3) :181-198.
- 19) 近藤高貴. 1995. マツカサガイ (p.376). 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (II). (751p.). 日本水産資料現保護協会, 東京.
- 20) 近藤高貴, 2002. カタハガイ (p.500), マツカサガイ (p.502). 「京都府レッドデータブック上(野生生物編)」(935p.). 京都府.
- 21) 近藤高貴, 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第3号, v+69 p.
- 22) 高山茂樹, 2008. 角川のイシマキガイ. 富山の生物, 47: 51.
- 23) 土井捷三郎, 1993. 富山県におけるマシジミの分布. 富山県水産試験場研究報告, 4: 53-56.
- 24) 富山県教育委員会, 1991. 富山のイタセンパラ I. 富山県教育委員会, 15pp.
- 25) 富山県動物生態研究会, 1995. 富山県の淡水貝類. 富山県の水生生物: 16-70. 富山県.
- 26) 布村 昇, 1987. いたち川の無脊椎動物 (昆虫を除く). 富山市科学文化センター研究報告, 10: 73-76.

- 27) 布村 昇, 1991. 淡水無脊椎動物. 富山市浜黒崎海岸自然調査報告書. 富山市科学文化センター, 69-70.
- 28) 布村 昇, 1998. いたち川の無脊椎動物. いたち川の自然環境報告. 富山市科学文化センター, 63-72.
- 29) 布村 昇, 1988. 高柳コレクションを中心とした富山と能登の貝. 富山市科学文化センター収蔵資料目録2, 128pp.
- 30) 布村 昇・宮本 望, 1994. 富山市の貝. 富山市科学文化センター収蔵資料目録7, 95pp.
- 31) 布村 昇・石井 清・平内好子, 2007. 猫池の大型土壌動物. 富山の生物, 46:77.
- 32) 布村 昇, 2008. 宮本望氏貝コレクションⅡ 日本産陸産貝類・近海産二枚貝など. 富山市科学文化センター収蔵資料目録19, 202pp.
- 33) 波部忠重, 1942. ホラアナゴマオカチグサ(新称)の現棲個体に就いて, 附日本産洞窟棲貝類目録. Venus, 12(1-2):28-32.
- 34) 波部忠重, 1973. 軟体動物 (p.309-341). In「川村多実二原著:日本淡水生物学」. 760pp. 北隆館, 東京.
- 35) 波部忠重, 1977. 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱,掘足綱. 372pp. 北隆館, 東京.
- 36) 波部忠重・湊 宏, 1991. 陸・淡水産貝類. (pp.117-209). In「環境庁自然保護局(編). 日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 無脊椎動物編」. 271p.日本野生生物研究センター, 東京.
- 37) 姫路市立水族館(編), 1999. 滅びゆく兵庫の生物たち 兵庫の希少水生生物. 38pp.
- 38) 肥後俊一・後藤芳央, 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物. 693p. + 文献13p. + 索引148p. エル貝類出版局, 八尾.
- 39) 増田 修, 2002. イシガイ (p.187). In レッドデータブックとっとり 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物. (214pp). 鳥取県, 鳥取.
- 40) 増田修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 240p.
- 41) 松隈明彦. 1986. イシガイ目(p.300-301). In「奥谷喬司(編著):決定版 生物大図鑑 貝類」. (399pp.). 世界文化社, 東京.
- 42) 松田征也, 1998. オバエボシガイ. 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック(水産庁編), 社団法人日本水産資源保護協会, 437p:44-45.
- 43) 湊 宏, 1986. ヤマキサゴ科 (pp.64-69), カワザンショウガイ科 (pp.72-73), オカミミガイ科(pp.234-271). 「奥谷喬司(編著):決定版 生物大図鑑 貝類」. (399p.). 世界文化社, 東京.
- 44) 湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus, Supplement2: 212pp. + Tables6+ Plates74. 日本貝類学会.
- 45) 宮本 望, 1993. 富山県新記録の陸貝. 富山市科学文化センター研究報告, 16.
- 46) 邑本順亮, 1999. 高岡古城公園の淡水貝類. JANOLUS (高岡生物研究会誌), 100:121-129.

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.8 甲殻類

6.8 甲殻類

甲殻類は海で多くの種に分化した動物群であるが、カイエビ類を含むミジンコ綱、ケンミジンコなどのカイアシ亜綱、カイクシ綱、ミズムシ類やコツブムシなどの等脚目、ヨコエビ類（端脚目）、エビやカニなどの十脚目が淡水域にも生息し、さらにワラジムシやダングムシを含む等脚目やオカトビムシなどの端脚目、一部のカニなどのように陸域に生息するものがある。しかし、他の分類群と比しても富山県では研究者が少なく、検討に耐えるだけの調査が行われているのはカニの仲間だけである。

サワガニ (サワガニ科) *Geothelphusa dehaani* (White,1847)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の各地で生息が確認されるが、減少が著しく、以前のようにきわめて普通に確認される状況ではない。

形態

甲幅30mmまで。体色は甲が褐色のものが多く、青色や紫色の個体も見られる。甲羅は滑らかで毛や突起などはない。

国内の分布状況

青森県から屋久島までの清流に分布する日本固有種。

県内の分布状況

近年の記録は魚津市大熊、魚津市坪野田甫上池、魚津市古鹿熊、魚津市観音堂富里団地内、立山町座主坊、富山市細入村片掛、富山市山田村若土、南砺市城端町蓑谷、南砺市才川七、南砺市館、南砺市小坂、南砺市和泉、南砺市大窪、南砺市才川七、氷見市佛生寺、氷見市懸札。

生態・生息環境

普通は水質がきれいな溪流、川の上流域から中流域にかけて生息し、富山県ではかつて小川や用水でもかなり見られた。夜行性で昼間は石の下などにひそむが、雨天など湿った時には川の近くの森林や路上などでもみられる。春から秋にかけて活動期で、冬は川の近くの岩陰などで冬眠する。一生を淡水域で過ごす純淡水性のカニ。

生存への脅威

上流部など生息域の河川工事などにより生息数の破壊が懸念される。

保全対策

急速に大規模な上流部の開発を控えること

アカテガニ (ペンケイガニ科) *Chiromantes haematocheir* (De Haan,1833)

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては各地で見られたが、近年、きわめて生息域と生息数が減少し、神通川下流の特定の場所等限られた場所でしか確認されなくなった。

形態

成体は甲幅35mm、甲長25mmまで。甲らは厚みのある四角形。オス成体は和名が示すように鋏脚が大きく発達し赤色になる。メスは鋏脚が小さく、体色が全体的に淡色。幼若個体は雌雄とも鋏脚が小さく全身が淡黄褐色。

国内の分布状況

東アジア（日本、中国、台湾、朝鮮半島など）一円に広く分布し、日本では本州から南西諸島まで。東北地方でも個体数が減少している。

県内の分布状況

最近では富山市草島の神通川河口付近でのみ確認されている。

生態・生息環境

一般には、海岸や河川の岩場、土手、石垣、草むらなどに生息する。深さ数十cmに達する巣穴や石の隙間にすむ。鋏脚を大きく振り上げて威嚇する。春から夏に交尾し卵を腹脚に抱え孵化するまで保護し、真夏に幼生を海水中に放出、小ガニに変態して上陸するので、海と行き来することができる場所であることが必要である。

生存への脅威

海浜域の開発などの生息環境の変化により減少している。

保全対策

神通川河口の草むらは県内では少ない生息地となっているので大規模な開発を控える。

特記事項

富山県は海岸に岩場が迫っている場所が少ないので、元来少ないと考えられるものの、30年前以前は海浜部の草むら、石積み、小川の土手などでもみかけた。しかし、今ではほとんど確認されなくなってしまった。

= 参考文献 =

- 1) 布村 昇, 2006. 無脊椎動物in黒部川合口ダム流域調査報告書. 富山県魚津農地林務事務所. 富山県水生物研究会. 水土里ネット富山, 140-188.
- 2) 布村 昇, 2008. 魚津市角川の底生無脊椎動物 (昆虫を除く). 富山の生物, 47:59-61.
- 3) 布村 昇, 2009. 氷見市余川川の底生無脊椎動物 (昆虫を除く). 富山の生物, 48:23-27.
- 4) 布村 昇, 2009. 底生動物部門in小矢部川流域地区生態系調査報告書. 富山県高岡農林振興センター.
富山県水生物研究会. 水土里ネット富山, 124-169.
- 5) 布村 昇, 2010. 枳津川の底生無脊椎動物 (昆虫を除く). 富山の生物, 49:19-21.
- 6) 布村 昇, 2010. 甲殻類 I (等脚目を除く全甲殻類), 富山市科学博物館収蔵資料目録第23号, 23:1-84.

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.9 維管束植物

6.9 維管束植物

前版（富山県2002）の発行から10年が経過したことから、富山県内における絶滅のおそれのある野生植物の現状に即した種の選定と適切なカテゴリー区分を行うことを目的として、全面的な見直し調査が行われました。前版に掲載されていた376種に、この10年間の研究の過程で検討が必要と指摘されてきた希少性の高い植物、約250種を加えた計600種あまりの植物種について、それぞれの生育実態と過去からの減少の速さを把握した上で将来の絶滅危険性も考慮し、改訂カテゴリー区分に基づいて、全種のカテゴリーが再判定されました。この結果、439種がこのレッドデータブックに掲載されることとなりました。旧リストからはずされたものが83種ある反面、新たに加えられた種が146種にも上る大きな改訂となっています。

掲載された種とそれらを減少させている要因を考察したところ、次のことがわかってきました。

植物を絶滅の危機に追い込んでいる要因

1 人間活動の拡大

・開発による影響

県内の平野部は、既にほぼ全域に開発の手が入って、都市あるいは区画整理の行き届いた水田を主とする農地となっているため、在来の希少植物、とりわけ水生植物はその多くが絶滅の危機に瀕しています。自然の池や湿地は全くといっていいほど残されていないことに加え、農地では除草剤が使われ、網の目のようにはりめぐらされた水路もコンクリート化されたり暗渠化されたりしていることが主要因と考えられます。影響を受けている植物：マルバオモダカ、マルミスブタ、トチカガミ、ウキガヤ、サワギキョウ、アギナシ、ミズネコノオ、ミズトラノオなど。

また、この10年間に、富山県の海浜の多くの場所において、海岸浸食から土地を守るための大規模な護岸堤工事が行われてきました。施工完了から数年が経過し、海岸の砂地が安定していることは人間にとっては好ましいことなのですが、砂の移動する環境を生活の基盤としていた海浜植物にとっては、大きな絶滅要因になっていると考えられます。影響を受けている植物：コギシギシ、ハマベノギク、ビロードテンツキ、セナミスミレ、アナマスミレ、タチスズシロソウなど。

・園芸採取による影響

ラン科やユリ科の植物のように花の美しい植物は、販売や栽培を目的として生育地から根こそぎ採取して持ち去られることが後を絶ちません。特定の植物だけを狙った乱獲にあうと、その植物はいとも簡単に絶滅してしまいます。影響を受けている植物：キンセイラン、サギソウ、ナツエビネ、スズムシソウ、ヒナチドリ、キンラン、クマガイソウ、ムヨウラン、セイタカスズムシソウ、ジガバチソウ、ヤマジノホトトギスなど。

2 人間活動の後退

・里山の消滅による影響

1の原因とは逆に、人間の自然への働きかけが小さくなることによる影響もあげられます。1960年頃までは生活必需品であった薪や炭、茅を里山から得ていましたが、その後、生活様式と農業形態が大きく変わったことにより、里山からこれらを持ち出すこと

が全くなくなりました。里山の林はこの50年で大きく生長し、かつては多かったアカマツ林やススキ草原はコナラ林に遷移したために著しく少なくなりました。この影響で減少の一途をたどっている植物があり、最近の10年間では絶滅の危険性が一段と高くなってきました。影響を受けている植物：アワガエリ、タンキリマメ、オオバクサフジ、アセビ、クサレダマ、シャシャンボ、フナバラソウ、スズサイコ、マメダオシ、ミシマサイコ（以上は既に絶滅したもの）、オキナグサ、ミヤコアザミ、キセワタ、エイザンスミレ、タヌキマメ、アマナ、レンゲツツジなど。

3 外来植物の拡散

・外来植物や園芸植物による影響

市街地や港湾、河川敷、農地の縁には外来植物が多く生育しています。外来植物の繁茂は在来植物が生育できる場所を奪うほか、在来植物の受粉状態に影響を及ぼしている可能性もあります。特殊な例では、園芸植物が野生種と交雑することによって、純粋な野生種の増える可能性を著しく低下させていることもあります。

また、150年間全く記録がなかったことから絶滅種と判定されていたヒナギキョウが2011年に突然、富山新港の空き地に群生しました。生育状況から、野生復活ではなく、外国産のヒナギキョウが侵入したものと判断されました。外来植物は常に侵入してきており、見かけは在来種と同じ種類であっても性質が異なっている可能性もあるので、今後の動向には注意が必要です。刻々と変化する植物の分布状況には常に目を光らせていないと、誤った判断をすることにつながりかねません。影響を受けている植物：カワヂシャ、クロモ（二倍体）、シマカンギク（六倍体）など。

絶滅危惧植物を絶滅させないために

このレッドデータブックに掲載された種数が前版より増加したこと、絶滅種が増加したこと、危険要因がなくなることなど、富山県の希少植物をとりまく状況は決して明るくはありません。また現時点では、特別な場所を除いて、絶滅危惧種等の採取や取引、移動を制限する法的規制がありません。せいぜい、開発に先立って行われる環境アセスメントで見つかった場合にのみ、保護対象になる程度です。

ある種の植物は昆虫や鳥、土壌微生物など、多くの生物種との関係の中で存在していますが、残念ながら現代の科学は、そのごく一部しか解明できていません。今回の調査で、絶滅種と絶滅危惧種が増加した要因の多くは人間が直接的に関係したものばかりのように見えますが、もしかすると、よりどころとしていた生物種が絶滅してしまったために連鎖して数を減らしている種が含まれているかも知れません。多様な生物間の関連性についての知見を早急に増やして種の保護に役立てられることが求められます。

里山や人里の湿地といった比較的攪乱の強く加わっていた環境に生育している希少植物を保全していくには、定期的な伐採や草刈り、火入れ、水路の底ざらいなど、人が自然に代わって攪乱を加え続けていく必要があります。このことを裏付ける例がオニバスの再発生です。前版ではオニバスは絶滅種とされていましたが、2005年、かつての自生地であった十二町瀉で26年ぶりに再発生しました。瀉の浚渫しゅんせつに伴って水中の泥土が大きく動いたことで、土中に埋もれていた種子に発芽するきっかけを与えたものと考えられています。植物、特に水生植物の中には休眠して発芽能力を長く温存する性質を持つものが何種もあるので、水湿地の古い土壌から絶滅種を復活させる方法の一つとして、今後実践していく価

値があると考えられます。

この改訂レッドデータブック発行を機に、滅びゆく植物を救う対策が手おくれになる前に実施されて、県民の生活基盤の安定が生物多様性の面から保障されていくことを期待したいものです。

選定の考え方

絶滅危惧種リストの作成は、p3のカテゴリー区分に従って行われました。各カテゴリーに区分された種の状況を見渡すと、次のようにまとめることができました。

絶滅危惧Ⅰ類は、県内生育地が1-2カ所程度しかなく、かつ生育を脅かす要因が続いているために減少傾向にある植物。生育環境が破壊されたり乱獲されたりした場合には、容易に絶滅する恐れがある。

絶滅危惧Ⅱ類は、県内生育地が3-4カ所程度しかなく、かつ生育を脅かす要因が続いているために減少傾向にある植物。生育環境が破壊されたり乱獲されたりした場合には、容易にⅠ類もしくは絶滅種になる恐れがある。

準絶滅危惧種は、県内生育地が5カ所以上あるものの個体数は限られており、かつ生育を脅かす要因が続いているために減少傾向にある植物。生育環境が破壊されたり乱獲されたりした場合には、容易に上位のカテゴリーに移行する恐れがある。

情報不足は、生育情報が著しく少ないために、絶滅・Ⅰ類・Ⅱ類・準絶滅のカテゴリーを決めることができない植物。絶滅しているかも知れない種も含まれているので、このカテゴリーに含まれる植物の現状については、早急な調査が必要です。

使用した植物の和名、学名等

・学名

米倉・梶田 (2003-)による「BG Plants 和名-学名インデックス」通称Ylist (http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html (2011年7月17日)) の標準名

・科の配列順および科に含まれる属の分類

高等植物分類表(邑田・米倉 2009)

・科の中の種の配列順：

学名のアルファベット順

謝辞

掲載種の分布記録および最新の生育状況については、次の方々から情報を提供していただきました。お礼申し上げます。(五十音順、敬称略、*は故人)

荒川知代、荒木克昌、井上さち子、大島哲夫、大野博美、小原耕造、加藤治好、狩山俊悟、川口一民、川住清貴、木内静子、久保広子、酒井初江、栄君子、酒谷穂、佐藤卓、佐藤武彦、塩谷佳和、塩見敏子、小路登一*、須垣晴子、須川隆夫、高木末吉、高木美奈子、高橋政則*、田中実、俵京子、帳山朋子、津田登*、寺西美和子、富山県中央植物園友の会植物誌部会、長井眞隆、中川定一*、中村安、野原孝一、林二良、平本雅士、吹上幸司、古池博、堀与冶、牧野英弘、増田恭二郎、松井晴美、松久卓、満保清憲、本瀬晴雄、本谷二三夫、安田祥子、依田清胤、若杉仁美

タキミシダ (イノモトソウ科) *Antrophyum obovatum* Baker

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I B類(EN)

選定理由

既知の生育地は1ヶ所のみであったが、1967年以降は記録がなく、現在も生育していない。

形態

短い根茎から、へら状の葉が集まって生えるシダ。葉柄は長さ5～8cm、基部に鱗片がある。鱗片は線状披針形～披針形、長さ5～7mm、暗褐色。葉身は倒卵形で先は三角状鈍頭～鋭頭、革質で長さ5～7cm、中央部よりやや上の方が一番広い。葉身基部はゆるやかに葉柄に流れるので、境目は明らかでない。縁は全縁、中肋は明瞭でなく、葉脈は網目状。胞子囊群は線形で葉脈に沿ってつく。

国内の分布状況

本州（新潟県・千葉県以西）、四国、九州。

県内の分布記録

上市町北部。

生態・生育環境

丘陵地の岩場の水飛沫がかかるような所に下垂して生える常緑性のシダ。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。



クリハラン (ウラボシ科) *Neochheiropteris ensata* (Thunb.) Ching

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

既知の生育地は分布の北限付近にあたる1ヶ所のみであったが、1980年以降は記録がなく、現在も生育していない。

形態

常緑性のシダ植物。根茎は長く横走する。葉は広披針形の単葉で、15～40cm。胞子囊群は中肋の両側に不規則に並ぶ。

国内の分布状況

本州（新潟県、茨城県以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町北部。

生態・生育環境

常緑広葉樹林内の岩場や幹に着生。

生存への脅威

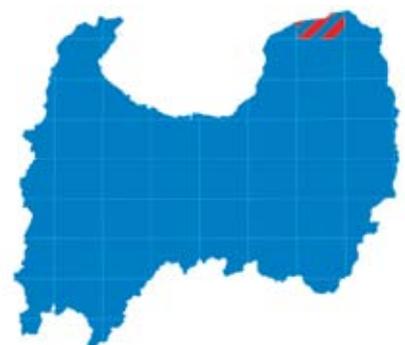
森林伐採、産地局限。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。



アオネカズラ (ウラボシ科) *Polypodium niponicum* Mett.

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

既知の生育地は分布の北限にあたる1ヶ所のみであったが、1961年以降は記録がなく、現在も生育していない。

形態

夏落葉の冬緑性シダ植物。根茎は長く横走り、根茎の鱗片(りんぺん)は圧着する。葉柄は長さ7～15cm、葉身は長さ15～20cmで、羽状に深裂する。葉の裏面にはやや密に開出毛がある。

国内の分布状況

本州(富山県、関東西部以西)、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部。

生態・生育環境

暖地の湿性な常緑広葉樹林内の岩や幹に着生する。

生存への脅威

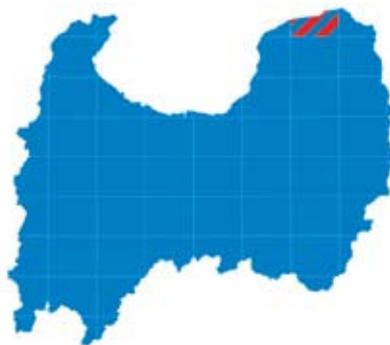
森林伐採、産地局限。

保全対策

生育地の保護(再発見の場合)。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。



マルバオモダカ (オモダカ科) *Caldesia parnassiifolia* (Bassi. ex L.) Parl.

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

本県では生育地、個体数が極めて限られており、近年確実な生育が確認されていない。

形態

浮葉性の水生植物で、葉身は卵円形～腎形。50～100cmの花茎を伸ばし、3輪生する枝に多数の小さな白い花がつく。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布記録

射水市南部。

生態・生育環境

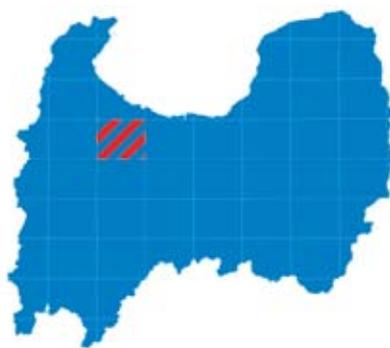
池沼中に生育する。花期は8～9月で、1年草である。

生存への脅威

産地局限、水質の悪化。

保全対策

生育地の保護、水質の保全(再発の場合)。



マルミスブタ (トチカガミ科) *Blyxa aubertii* Rich.

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内唯一の自生地での絶滅を確認。

形態

スブタに似ているが、種子に尾状突起がなく、表面には縦方向に稜があり、細かい突起が散在する。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布記録

砺波市東部。

生態・生育環境

水田や溝などに生育する淡水中に沈んではえる一年草。

生存への脅威

水田の乾田化、水路の水位低下、水質汚染、遷移進行

保全対策

水田、水路の水質、水位管理（再発見の場合）。



イバラモ (トチカガミ科) *Najas marina* L.

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

1958年以降の記録がなく、過去に記録された地点では現在生育していないため、県内では絶滅したと考えられる。

形態

植物体は全長30～60cmでよく分枝する。葉は対生、花は単性で腋生し雌雄異株、種子は表面に凹点がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布記録

富山市北部、射水市南部、氷見市南東部。

生態・生育環境

水田、溜池、湖沼などに群生する1年生の沈水植物。花期は7～9月。

生存への脅威

開発（特に池沼の改変を伴うもの）、管理放棄（ため池、休耕田等）、水質汚濁、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護、水質汚染の防止、除草剤使用の抑制（再発見の場合）。



リュウノヒゲモ (ヒルムシロ科) *Potamogeton pectinatus* L.

富山県カテゴリ：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

1934年以降の記録がなく、県内では絶滅したと考えられる。

形態

長さ5～15cm、幅0.3～1.3mmの針状の葉をつける沈水植物。長さ5～20cmの花茎の先にまばらに花をつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布記録

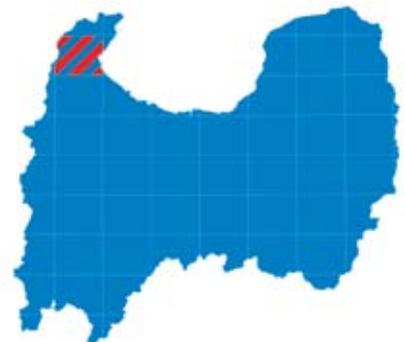
氷見市。

生態・生育環境

海岸近くの湖沼や河川に生育することが多い沈水生の多年草。花期は7～9月。

保全対策

水質保全を中心とする過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。



イワチドリ (ラン科) *Amitostigma keiskei* (Maxim. ex Franch. et Sav.) Schltr.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：絶滅危惧IB類(EN)

選定理由

1985年に県内に生育していることが確認されたが、その数年後に乱獲され、絶滅した。

形態

茎の高さ5～15cmの小型の草本。茎の下部に長さ3～7cm、幅6～15mmの細長い葉が1枚つく。葉の基部は茎を抱く。茎の先に、淡い紅紫色の花を数個、一方に向けて咲かす。唇弁は長さ10～12mmで3深裂し、中裂片の先がさらに2裂する。唇弁の中央部から基部にかけて、紅紫色の小点が2列に並ぶ。

国内の分布状況

本州（中部・近畿）、四国。

県内の分布記録

南砺市南部

生態・生育環境

峡谷の岸壁や岩上に生える多年草。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護、採取の抑制（再発見の場合）。

特記事項

五箇山県立自然公園の指定植物、白山国立公園特別地域内指定植物。



ムカゴソウ (ラン科) *Herminium lanceum* (Thunb. ex Sw.) Vuijk

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

1916年以降の記録がなく、県内では絶滅したと考えられる。

形態

高さ20～45cmで、長さ8～20cmの広線形の葉を数枚つける。先に淡緑色の花を多数穂状につける。

国内の分布状況

北海道西南部、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布記録

立山町。

生態・生育環境

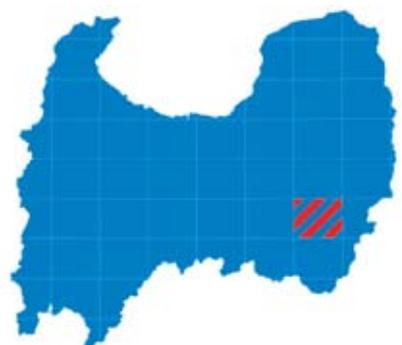
やや湿った草地に生育する多年草。花期は6～8月。

生存への脅威

山地開発、園芸採取。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。



スズラン (ナギイカダ科) *Convallaria majalis* L. var. *manshurica* Kom.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では1940年に有峰で記録されているが、その後どこからも報告がないことから絶滅したと考えられる。

形態

高さ20～35cm。葉は2個根生し、長楕円形で裏面は粉白色を帯びる。基部は長く薄く茶褐色の鞘となる。花は白色の鐘状で淡い芳香があり、5～10個を総状につける。地下茎が横に走る。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布記録

富山市南東部の盆地。

生態・生育環境

明るい山地・高原の草地に生育する多年草で、花期は4～6月である。

生存への脅威

山地開発、園芸採取、二次遷移。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



イヌイ (イグサ科) *Juncus yokoscensis* (Franch. et Sav.) Satake

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

もともと県内では生育地、個体数とも少ないと考えられる上に、最近の確実な生育地は1ヶ所のみであったが、近年生育地の開発により絶滅が確認された。

形態

茎は高さ20～40cmで、圧扁した円筒状でねじれる。根茎は太く横走する。花序は10～30花からなり、黒褐色で光沢がある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

入善町北部、富山市北部。

生態・生育環境

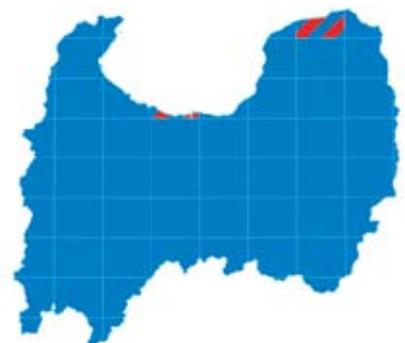
海岸の砂地や平地など、日当たりの良い草地に生育する。花期は初夏～夏で、多年草である。

生存への脅威

海岸改修、四輪駆動車による踏みつけ。

保全対策

復活した場合海岸開発の抑制、四輪駆動車の海岸草地への立入り規制（再発見の場合）。



イトテンツキ (カヤツリグサ科) *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

本変種の分布のほぼ北限に当たると考えられ、もともと生育地は1ヶ所のみと考えられており、個体数とも少ない上に生育地である河川敷草地の開発や車両の踏みつけにより、生育条件が悪化しつつあった。2002年の改修工事により個体数が激減し、その後絶滅が確認された。

形態

高さ5～15cmで、茎や葉は糸状で密な株をつくる。ハタガヤに似るが、小穂の鱗片は栗褐色で先端が芒にならない。

国内の分布状況

本州（中部以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市南西部。

生態・生育環境

河川敷など、低地の草地に生育する。花期は夏～秋で、一年草。

生存への脅威

河川敷草地の開発、河川改修の工事車両による踏みつけ。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護（再発見の場合）。



シオクグ (カヤツリグサ科) *Carex scabrifolia* Steud.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

2001年に県内で初記録後、唯一の生育地が開発により消滅し、絶滅が確認された。

形態

長い地下匍枝がある。茎は高さ30～50cmで、やや細いが丈夫で、基部の鞘は葉身がなくて、暗赤紫色の部分があり、糸網がある。上方の2～4個の小穂は雄性で、ときに一部血赤色を帯びる。下方の1～2個は雌性で、長楕円形をなし、長さ1～2cm、雌性の鱗片はさび色で先はとがる。果胞は長楕円形で毛がなく、木質で長さ6～8mm、嘴は太く短い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

高岡市北東部。

生態・生育環境

海岸の塩水の出入りする泥地に生育する多年草。5～7月に熟す。

生存への脅威

海岸の開発

保全対策

開発抑制、生育地の保護（再発見の場合）。



クロナマハリイ (カヤツリグサ科) *Eleocharis palustris* (L. Roem. et Schult. subsp. *intersita* (Zinserl.) T.Koyama

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では過去に1地点で採取されているが、近年では虻が島産標本が複数あり、2010年調査では重点的に探したものの皆無であったことから、絶滅したと考えられる。

形態

高さ30～60cm、幅1.5～3.0mmの茎の先に長さ1cm前後の小穂をつける。葉はない。

国内の分布状況

北海道、本州（北部）。

県内の分布状況

氷見市、上市町中部（古い標本）。

生態・生育環境

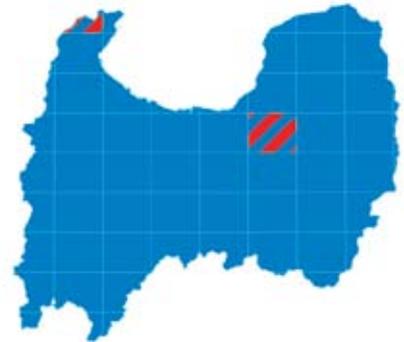
湿地や沼地に生える多年草。7～10月に熟す。

生存への脅威

湿地開発、遷移進行による乾燥化。

保全対策

自生地の保護（再発見の場合）。



アワガエリ (イネ科) *Phleum paniculatum* Huds.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

標本は本物で過去にあったのは確実だが、その後約80年間記録がなく、すでに絶滅したと思われる。

形態

無毛。高さ15～50cmになる。葉はやわらかく、幅2～5mm。花序は円柱形で長さ2～8cm、幅5～6mm、密に多数の小穂をつけ、黄緑色で光沢がない。小穂は長さ2～2.5mm。根茎はない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市西部、富山市西部、入善町北部。

生態・生育環境

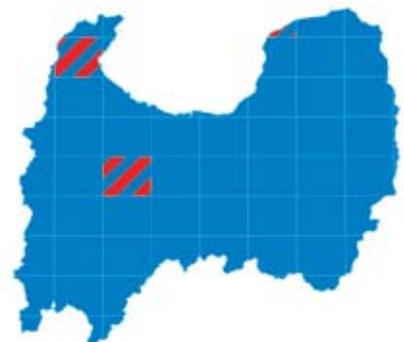
平地、草原に生育する一年草。花期は5～6月。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行

保全対策

開発の抑制（再発見の場合）。



タンキリマメ (マメ科) *Rhynchosia volubilis* Lour.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1980年以前の確認と考えられる1件の文献記録以外には、生育記録が全くない。現地及び県内では絶滅したものと考えられる。富山県は本種の分布北限付近にあたる。

形態

長さ2m以上になるつる性の多年草。茎には下向きの黄褐色の短軟毛がある。小葉は菱形状倒卵形で円頭、裏面脈上に短軟毛を密生する。花は黄緑色で長さ8～10mm。豆果は長さ2cm程で中央が浅くくびれ、淡黄色で表面に短毛があり赤く熟す。種子は球形で光沢があり、はじけた赤いさやの両側に1個ずつつく。

国内の分布状況

本州（千葉県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市の低山地に文献記録があるが、生育再確認できない。

生態・生育環境

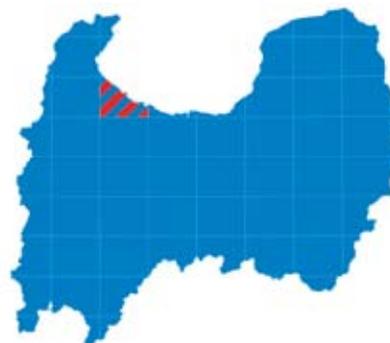
平野部から低山地の林縁マント群落に一時期出現する。花期は7～10月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。



センダイハギ (マメ科) *Thermopsis lupinoides* (L.) Link

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

石川県以北に分布し、富山県内では入善町神子沢のみに生育していたが、1937年以降の記録がない。

形態

高さ40～80cm、茎は直立し上部で分枝する。葉は3出複葉で互生し、裏面に白色の軟毛があり、托葉は約3cmで比較的大きい。花は黄色で約2cm、豆果は約1cmで白い軟毛がある。

国内の分布状況

北海道、本州（石川県以北）。

県内の分布記録

入善町北部。

生態・生育環境

太い地下茎のある多年草で海岸に生育する。花期は5～8月である。

生存への脅威

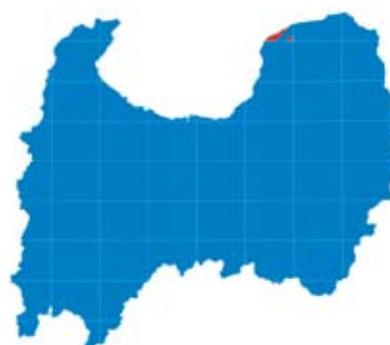
海岸侵食、海岸工事、園芸採取。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。



オオバクサフジ (マメ科) *Vicia pseudo-orobus* Fisch. et C.A.Mey.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

4ヶ所の生育記録はあるものの標本で確認できるものは1939年に採集された1点のみで、少なくとも過去30年間には全く生育が確認されていない。

形態

つる性の多年草で長さ80～150cm。葉は長さ7～20cmで、先端は分枝して巻きひげとなる。小葉は4～10枚が互生し、長さ3～5cm、幅1.5～3cm。花は青紫色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部、富山市南部（1939年）、高岡市西部。

生態・生育環境

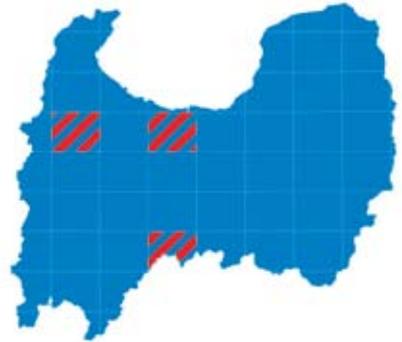
山野の草原に生育。花期は8～10月。

生存への脅威

草地開発。生育環境が草地であることから、里山管理が行われなくなったことによる植生遷移の影響を強く受けやすい。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。



コギシギシ (タデ科) *Rumex dentatus* L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech.f.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

唯一の生育地であった砂浜海岸が消失したことから、県内では絶滅したと考えられる。

形態

エゾノギシギシに似るが、全体に小型で、高さ30～50cm。葉は長い柄があり、長楕円状披針形～披針形、無毛、先は鈍頭、基部は円形、波状縁、長さ4～6cm。輪生花はまばらな総状花序をなす。翼状内萼片は卵形で、縁に刺毛があり、中脈状のこぶ状突起は長卵形で、長さは萼片の2/3ある。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市北東部。

生態・生育環境

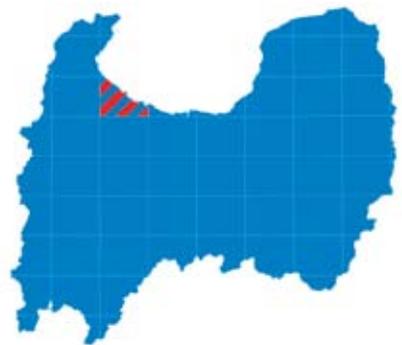
流水縁や湿り気のある草地などに生育する多年草。花期は5月～8月。

生存への脅威

湿地や海岸の開発、水路改修。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。



オオヤマフスマ (ナデシコ科) *Moehringia lateriflora* (L.) Fenzl

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

古い標本は存在するが、その後どこからも記録されていないことから、県内では絶滅したと考えられる。

形態

やや軟弱な草で、高さ5～20cm。茎は有毛で細く、上部で分枝する。葉は対生し、楕円形から長楕円形で長さ1～2cm、3脈がやや目立ち、両面に細毛がある。花は白色の5弁花で直径約1cm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市北部（1930年）、富山市北部。

生態・生育環境

山地の草原や道端脇などに生える多年草。花期は6～8月。

生存への脅威

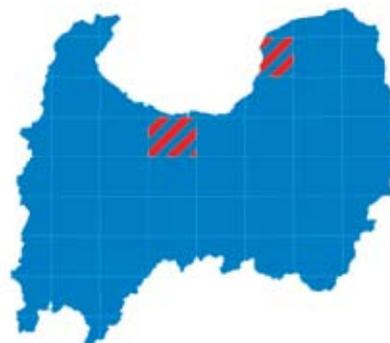
里山の管理放棄、植生遷移。

保全対策

生育環境の保護管理（再発見の場合）。

特記事項

近年、芝草に生育することがあるが、芝に種子が付着してきた移入品と考えられる。



アセビ (ツツジ科) *Pieris japonica* (Thunb.) D.Don ex G.Don

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1983年以降の記録がないので、県内では絶滅したと考えられる。

形態

高さ1.5～4mの常緑低木。葉は互生し枝先に集まってつく。葉の表面に光沢があり、縁には上半分に浅い鋸歯がある。枝先から円錐花序を下垂し、多数の小さな壺型白色の花を下向きにつける。

国内の分布状況

本州（宮城県、山形県以南）、四国、九州。

県内の分布記録

黒部市西部、富山市南西部。

生態・生育環境

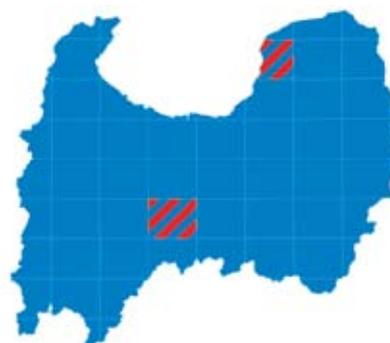
山地の日当たりのよい斜面に生育する常緑低木。花期は2月下旬～5月。

生存への脅威

分布局限、園芸採取。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護、乱獲防止（再発見の場合）。



シャシャンボ (ツツジ科) *Vaccinium bracteatum* Thunb.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1947年以降の記録がないことや分布北限にあたることから、富山県内では絶滅したと考えられる。

形態

常緑低木または亜高木。葉は表裏面とも側脈が明瞭で、裏面主脈上に小突起がある。

国内の分布状況

本州（関東地方南部、石川県、近畿地方以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布記録

氷見市北部。

生態・生育環境

丘陵地の尾根筋等の林内および林縁部に生育する。花期は5～7月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。



チョウジソウ (キョウチクトウ科) *Amsonia elliptica* (Thunb.) Roem. et Schult.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

1966年に標本が採集されて以来、県内の生育記録はなく、絶滅したと考えられる。

形態

茎は直立して円く、高さ40～80cm。葉は無毛、披針形で先は鋭く尖り、長さ6～10cm、幅1～2cm、互生するがときに一部対生する。茎の先に径約1.3cmの高杯形の花冠をもつ淡青紫色の花を集散状にやや多数つける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布記録

南砺市南部。

生態・生育環境

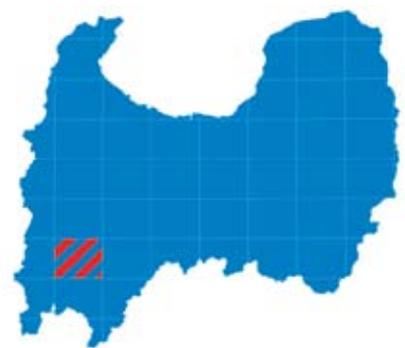
水辺の湿った草地に生える多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

湿地開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。



フナバラソウ (キョウチクトウ科) *Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren et Decne.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

1983年発行の文献記録があるが、それ以後の記録がなく、県内では絶滅したものと考えられる。

形態

高さ40～80cmで直立し、長さ6～14cm、幅3～8cmの楕円形で厚い葉を対生する。茎葉とともに短い軟毛におおわれてピロード様。上部の葉腋に濃褐紫色の花を束にしてつける。花冠は5(6)裂し、花の直径は1.5cm。果実は袋果で披針形。縦に裂開した形が船底型に見える。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、高岡市西部に文献記録がある。

生態・生育環境

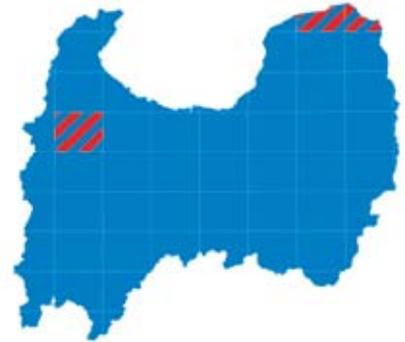
山野の手入れされた草原に生える多年草。花期は6月。

生存への脅威

管理放棄、遷移進行。

保全対策

生育地の保全、管理（再発見の場合）。



スズサイコ (キョウチクトウ科) *Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

1960年以降の記録がなく、過去の生育地も消失しているため県内では絶滅したと考えられる。

形態

高さ40～100cmで、披針形～線形の葉をまばらに対生する。茎の先および上部の葉腋に花序を出し、淡黄緑色の花をややまばらに咲かせる。花は早朝に開き日が当たると閉じる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布記録

黒部市中部、黒部市北部、入善町北東部、魚津市西部、滑川市南部。

生態・生育環境

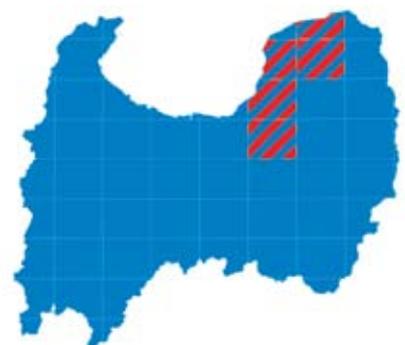
低地～山地のやや乾燥した草地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

草地開発、遷移進行。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。



マメダオシ (ヒルガオ科) *Cuscuta australis* R.Br.

富山県カテゴリ：絶滅 + 野生絶滅
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I A類 (CR)

選定理由

古い標本しかなく近年の確実な分布情報がないことから県内では絶滅したと考えられる。

形態

茎は細く糸状で寄主にからみつき、黄色を帯びる。花は無柄で数個が束生し、花冠は長さ約2mm、5裂する。萼は扁3角形で薄膜質、鈍頭、長さは花冠の1/2 ~ 2/3。花柱は2個独立していて長さ1mm、柱頭は頭状で花柱よりふくらむ。蒴果はほぼ球形、約3mmで、花冠を基部に残して大きく裸出する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市北東部 (1983年標本)。他に、富山市南部、南砺市、魚津市、立山町などに1950年以前の標本がある。

生態・生育環境

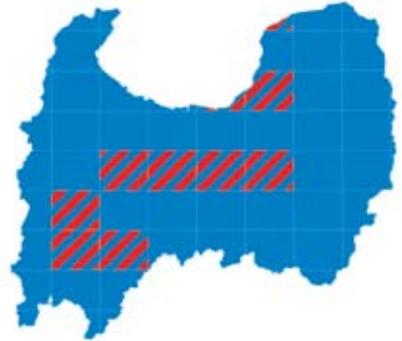
日当たりのよい野原や海岸にはえる寄生植物。花は7 ~ 10月。

生存への脅威

草地や海岸の開発。

保全対策

生育環境の維持 (再発見の場合)。



ヒシモドキ (ゴマ科) *Trapella sinensis* Oliv.

富山県カテゴリ：絶滅 + 野生絶滅
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

1947年以降の記録がないことから、県内では絶滅したと考えられる。

形態

浮葉性の水生植物で、茎の節から広三角形~腎円形の葉と根を出す。葉腋につく花は筒状で淡紅色。果実は長く曲がる刺状の突起がある。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布記録

富山市西部。

生態・生育環境

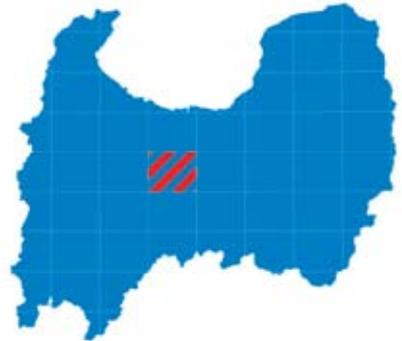
沼や池に生育する水生植物。花期は7 ~ 9月で、多年草。

生存への脅威

水質汚濁、農薬使用。

保全対策

水質保全を中心とする過去の生育環境の保存、生育地の保護 (再発見の場合)。



ヒナギキョウ (キキョウ科) *Wahlenbergia marginata* (Thunb.) A. DC.

富山県カテゴリ：絶滅 + 野生絶滅
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

文献に記録があるだけで、現在は全く見られない。低地の開発によって絶滅したと考えられる。

形態

高さ20 ~ 40cmの茎の先に、小さな淡青色の花を少数つける。花は漏斗状鐘形で上部は5裂する。葉は長さ2 ~ 4cmで細長い。

国内の分布状況

本州 (関東地方南部、富山県以西)、四国、九州。

県内の分布記録

県内では入善町の文献記録がある。また、江戸時代の本草通串証図にも神通川付近の産として描かれている。

生態・生育環境

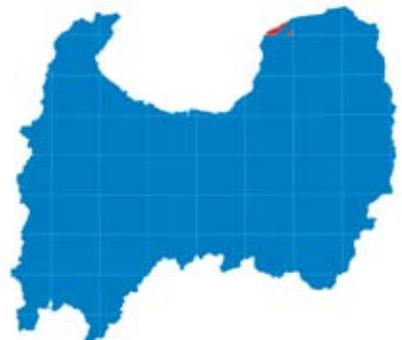
日当たりの良い原野、草地に生える多年草。花期は5 ~ 8月。

保全対策

生育地の保護 (再発見の場合)。

特記事項

2011年射水市北部にて生育が確認されたが、周辺の生育種から外来の可能性はある。



ハマベノギク (キク科) *Heteropappus hispidus* (Thunb.) Less. subsp. *arenarius* (Kitam.) Kitam.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

分布の北限で、2000年頃までは極めて限定された場所に生育していたが、その後の海岸整備により生育適地が失われ絶滅した。

形態

茎は基部からよく枝分かれして地を這うが、上部は立ち上がる。頭花は直径3.5cmで、舌状花は薄紫色である。葉はさじ形で厚く、縁に曲がった毛がある。

国内の分布状況

本州（富山県以西の日本海側）、九州。

県内の分布状況

氷見市南部、高岡市北部（絶滅）。

生態・生育環境

海岸砂地に生育する多年草。花期は7～10月。

生存への脅威

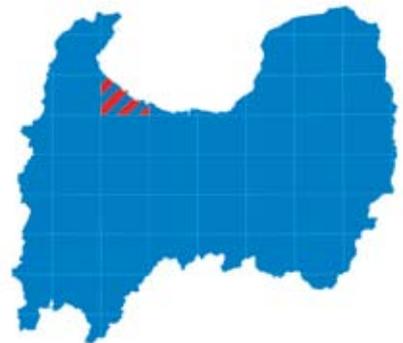
海岸整備。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。



ミシマサイコ (セリ科) *Bupleurum stenophyllum* (Nakai) Kitag.

富山県カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

1983年以降の記録がなく、県内では絶滅したと考えられる。

形態

茎は直立し細く、高さ40～70cm。葉は単葉で長披針形、全縁、長さ5～15cm、やや堅く、数個の平行脈がある。枝の先に小型の複散形花序をだし、花弁5枚で黄色の小さな花を多数つける。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布記録

入善町、黒部市、魚津市、上市町。

生態・生育環境

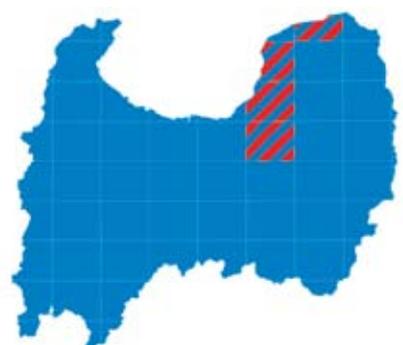
海岸から低山地の草地に生育する。花期は8～10月。

生存への脅威

草地開発。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。



サンショウモ (サンショウモ科) *Salvinia natans* (L.) All.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

現存する生育地は数ヶ所で、これらの場所でもゆるやかに自然遷移が進行し、減少している。

形態

ウキクサを2列に集めて筏状に組んだような水草。茎は分枝し節に3枚の葉をつける。うち2枚は浮葉で、長さ10～20mmの楕円形、鋸歯はなく、表面には密に短い突起があり、その先に毛をつける。残り1枚は水中葉で、黒色の根のようになる。胞子囊群は水中葉の基部につき、包膜は球状。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

砺波市東部、富山市西部。黒部市北部、滑川市北部、富山市北部、高岡市中心部、氷見市北部では絶滅した。

生態・生育環境

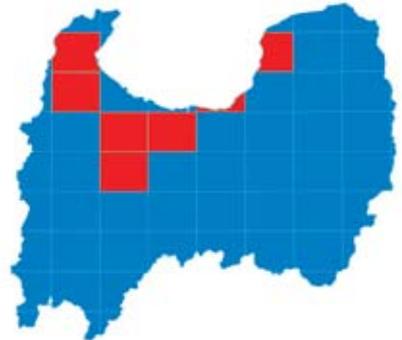
浮遊性の一年生水草。日当たりの良い池沼に生育し、夏は水面を覆うほどに増えることもある。繁殖は、茎の分枝と水で散布される胞子による。唯一現存する砺波市の生育地は、谷頭に設けられた観賞と貯水を目的とした浅い池で、1992年に造成された翌年から見られるようになった。それまでは生育が知られていなかった。攪乱に依存して生育する植物である。

生存への脅威

除草剤の使用、用地転用、自然遷移。

保全対策

生育環境の保護管理。



ヒロードシダ (ウラボシ科) *Pyrrhosia linearifolia* (Hook.) Ching

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、かつ個体数が減少しており、絶滅の危険がある。

形態

根茎は細長く這い、長さ5～10cmで線形の葉をまばらにつける。葉の表裏に赤褐色～茶褐色の星状毛が生える。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南部の山地

生態・生育環境

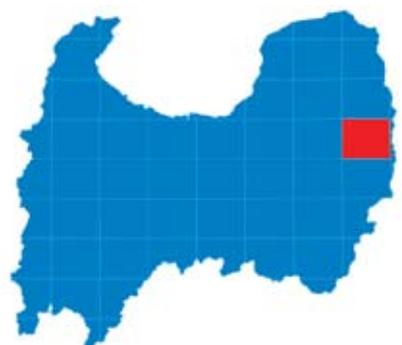
岩、樹幹などに着生する常緑性のシダ。

生存への脅威

産地局限、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。



ハイネズ (ヒノキ科) *Juniperus conferta* Parl.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、個体数が減少している。海岸整備や宅地造成により生育条件が悪化しつつある。

形態

高さ20～30cm。雌雄異株。幹は地を這いマット状に広がる。葉は針状で光沢があり、長さ約1～2cm。果実は直径約1cmの球形。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

高岡市北部、氷見市東部。

生態・生育環境

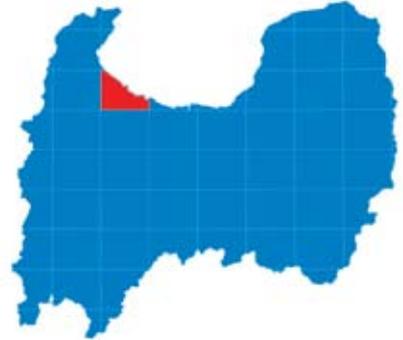
海岸の砂地に大きな群落をつくる常緑の針葉樹。花期は4～5月。

生存への脅威

海岸の整備・改修、宅地造成。

保全対策

生育地の保護。適度な砂の移動性を確保。



オニバス (スイレン科) *Euryale ferox* Salisb.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では氷見市十二町潟のみに生育していたが、1979年に絶滅宣言された。2005年隣接水域で自然生育が確認されたが、急速に変化する環境下で毎年発芽する個体数に変化があり、生育状態は不安定である。

形態

水面に直径50～150cmの葉を浮かべる浮葉植物で、葉の表面は緑色でしわがあり、裏面は赤紫色で太い網目状の葉脈が隆起している。葉柄は葉身の真ん中あたりにつく。全体に鋭い刺がある。蕾は嚙状で水中から伸びた花茎の先端につき、花径は約4cmで花弁は鮮紫色である。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布記録

氷見市南東部。

生態・生育環境

池沼、溜池などに生育する1年生浮葉植物である。花には水中の閉鎖花と水上の開放花があり、閉鎖花の花期は6～9月、開放花は8～9月。

生存への脅威

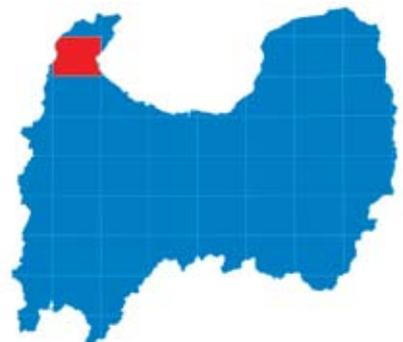
河川改修、アメリカザリガニによる食害、水質汚濁等の生育環境の悪化。

保全対策

過去の生育環境の保存と復元、生育地の保護。

特記事項

絶滅宣言以降に潟内の^{しんかん}深漂やガマ刈りの効果もあり、2005年から十二町潟のやや下流域において自生が確認されるようになり、2008年には葉の直径が2mを超えるもの130株が確認された。



ヒメコウホネ (スイレン科) *Nuphar subintegerrima* (Casp.) Makino

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が限定されており、人為の影響を受けやすい環境に生育しているため容易に消滅してしまうおそれがある。

形態

コウホネに比べて全体に小型で、水上葉は広卵形。葉の裏面の中脈にのみ毛がある。花は黄色で径3～4cm。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

射水市中南部。

生態・生育環境

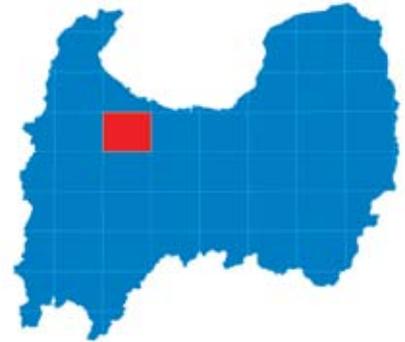
浅い池や沼、または小さな流れに生育する多年草。

生存への脅威

溜池の管理、管理放棄、水質汚染

保全対策

溜池の水位、水質の維持。



マイヅルテンナンショウ (サトイモ科) *Arisaema heterophyllum* Blume

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では1ヶ所のみで分布が確認されており、生育地が草地で不安定であるために、容易に絶滅に至る危険性がある。

形態

草丈は1mほどになり、葉は1個で鳥足状に17～21枚の小葉をつける。花の付属体は基部がやや太く、その上で前に曲がり、さらに上方に向かって長く伸び、長さ20～30cmになる。

国内の分布状況

本州（岩手県より岡山県まで点在）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生育環境

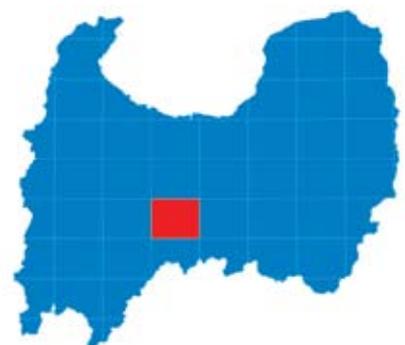
低地の湿った草原に生育する多年草。花期は5～6月。雄性個体と両性個体がある。

生存への脅威

草原の開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。



ヒメカイウ (サトイモ科) *Calla palustris* L.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内では生育地が1ヶ所しか知られておらず、生育環境が徐々に乾燥化しているため、減少傾向にある。

形態

長い柄を持った10cm前後の心形の葉を持ち、ミズバショウを小型にしたような花（仏炎苞と花序）をつける。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）。

県内の分布状況

上市町南部。

生態・生育環境

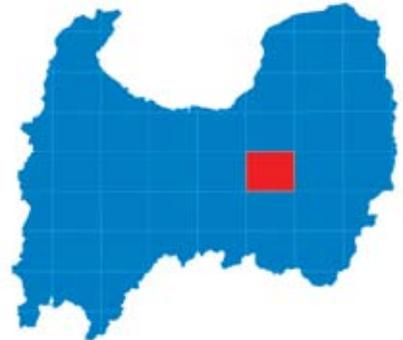
温帯域の山間部の水湿地に生育する抽水生の多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

湿地の開発、遷移進行による乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。



サジオモダカ (オモダカ科) *Alisma plantago-aquatica* L. var. *orientale* Sam.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では生育地が限定されていることに加え、湿地開発や水田の乾田化、農薬の使用などにより生育条件が悪化しつつある。

形態

高さ30～100cmで、白い3数性の花が輪生状の花序につく。葉は基部が丸く葉柄との差が明瞭で、幅3～7cm。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）。

県内の分布状況

入善町北西部、富山市北部、射水市南部、氷見市南東部、高岡市西部。

生態・生育環境

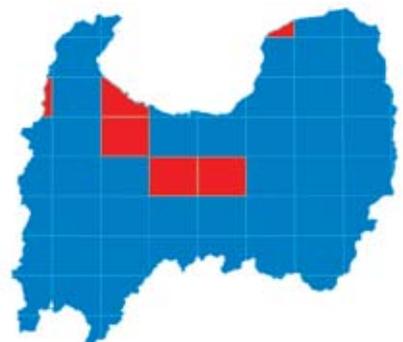
耕作放棄後の水田や浅い池の縁に生育する多年草。花期は8～10月。

生存への脅威

産地局限、湿地開発、水田の乾田化、除草剤の使用。

保全対策

湿地開発の抑制、生育地の保護。除草剤の使用抑制。



セトヤナギスブタ (トチカガミ科) *Blyxa alternifolia* (Miq.) Hartog

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

生育地が1ヶ所に限定されており、環境の変化によって絶滅する可能性がある。

形態

ヤナギスブタによく似ているが、やや大形。葉の長さ6～8cm。種子は長さ約2mm、表面に低い隆起が2～10個あることでヤナギスブタと区別できる。

国内の分布状況

本州中部以西。

県内の分布状況

射水市中南部。

生態・生育環境

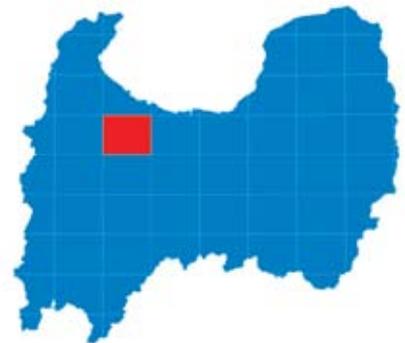
水田や水路などに生育する沈水性の水草。

生存への脅威

水田の乾田化、水路の管理放棄、埋め立て、水質汚染

保全対策

水田や水路の水位管理。ヤナギスブタと誤認されている可能性があり、他の自生地を探す必要がある。



トチカガミ (トチカガミ科) *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

かつては県内数ヶ所に自生していたが、ほとんどの場所で絶滅し、現在は生育地が極めて限定されている。

形態

直径2～7cmの丸い浮葉をもつ水草で、基部は心形に切れ込む。雄花と雌花があり、花弁は3枚で白い。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南西部、黒部市北部（絶滅）、富山市北部（絶滅）、氷見市南部（絶滅）、南砺市北部（絶滅）など。

生態・生育環境

池沼に生える浮葉をもった水草で、多年草。花期は8～10月。

生存への脅威

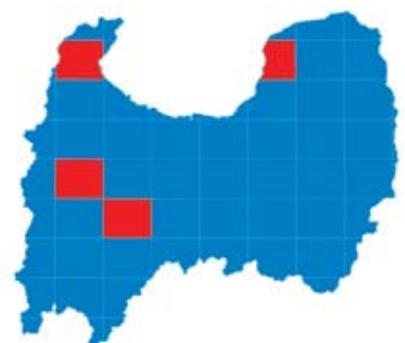
池沼開発、水質汚濁、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護、除草剤の使用抑制。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。



トリゲモ (トチカガミ科) *Najas minor* All.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

2地点の生育記録のうち現存が確認された自生地は1ヶ所のみで、山間地の過疎化に伴う環境の変化により絶滅するおそれがある。

形態

植物体の長さが30～50cm程度で、二叉状分岐して広がる。葉は対生し、花は単性で雌雄同株。雄花の葯室は1室。種子は横長の綱目模様がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市南東部、高岡市中部。

生態・生育環境

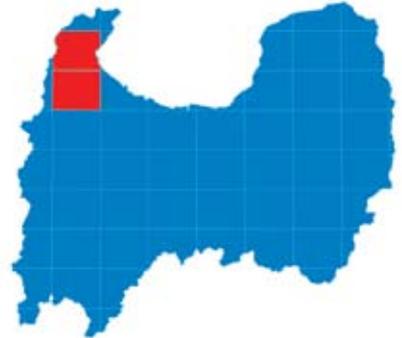
湖沼、溜池などに生育する一年生の沈水植物で、花期は7～10月。

生存への脅威

開発（特に池沼の改変を伴うもの）、管理放棄による遷移進行（溜池、休耕田）、水質汚濁、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護、除草剤使用の抑制。



オオトリゲモ (トチカガミ科) *Najas oguraensis* Miki

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育が確認されていた氷見市の溜池は、冬期に水を抜く管理が行われ絶滅した。その下流の水路数ヶ所に自生が確認されたが、水質や水位環境の悪化によっては絶滅のおそれがある。

形態

葉は対生し、長さ約3cm、幅約0.7mm、縁にトゲがある。茎は長さ1mになり、細く、上方はよく分岐する。雌雄同株。

国内の分布状況

本州中部以西、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市中部。

生態・生育環境

湖沼やため池に生育する沈水性の一年草。花期は7～9月。

生存への脅威

溜池の管理、管理放棄、水質汚染

保全対策

溜池の水位、水質の維持。



コアニチドリ (ラン科) *Amitostigma kinoshitae* (Makino) Schltr.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

分布の南西限に近く、県内では生育地、個体数ともに限られる。花が美しいため観賞用の山野草として採取の村象となり、各地で個体数が減少し絶滅の危機にさらされている。

形態

高さ10～20cmで、茎の中央より下に長さ4～8cmで広線形の葉を1～2枚つける。茎の先に白色～淡紅色の花を2～5個咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州（中北部）。

県内の分布状況

南砺市東部、南砺市西部。

生態・生育環境

湿原や湿った岩場に生育する多年草。花期は6～8月。

生存への脅威

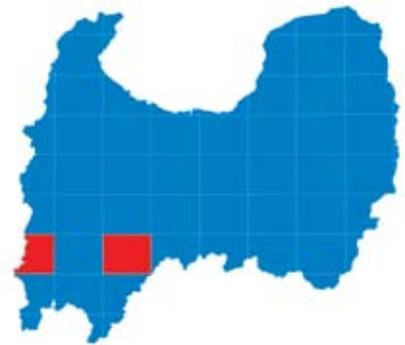
園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。



ムギラン (ラン科) *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、観賞用の山野草としての採取などにより個体数が極端に減少し、絶滅の危機にさらされている。

形態

根茎は糸状で匍匐し、岩や樹幹などに着生する。まばらに偽鱗茎をつけその先端に葉をつける。偽鱗茎の側方に帯黄白色の小さな花を1～2個をつける。

国内の分布状況

本州（中・西部）、四国、九州。

県内の分布状況

上市町西部の丘陵地。

生態・生育環境

林内の岩や樹幹の表面に着生する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

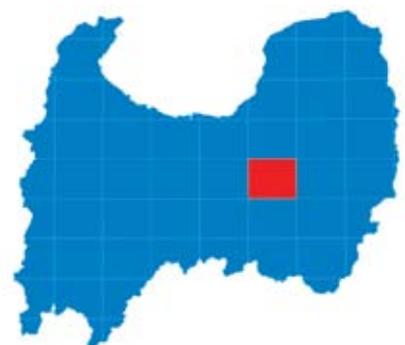
開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。



キンセイラン (ラン科) *Calanthe nipponica* Makino

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育個体数が限られ、花が美しいため観賞用の山野草としての採取や開発などにより個体数が減少し絶滅の危険にさらされている。

形態

高さ30～60cmで、葉は長さ15～30cmで倒披針形～狭長楕円形、3～5枚互生し、茎の先に淡黄緑色の花を5～12個咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市南東部、魚津市東部。朝日県立自然公園内。

生態・生育環境

深い山地の林床などに生育する多年草で、花期は6～7月。

生存への脅威

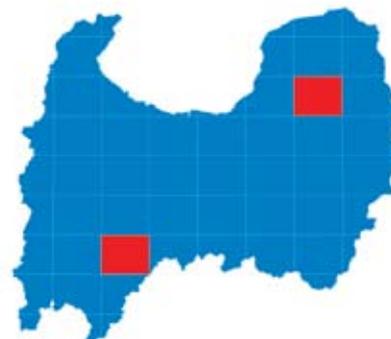
開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

朝日・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。



ナツエビネ (ラン科) *Calanthe puberula* Lindl.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では稀な植物であり、花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が著しく減少している。

形態

偽球茎から10～30cmの狭長楕円形の葉を数枚出し、高さ20～40cmの花茎の先に淡紫色の花を多数つける。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市中東部、魚津市北部、富山市南部、氷見市西部、その他、五箇山・白木水無県立自然公園内。

生態・生育環境

温帯下部の疎林のやや湿った林内に生える多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

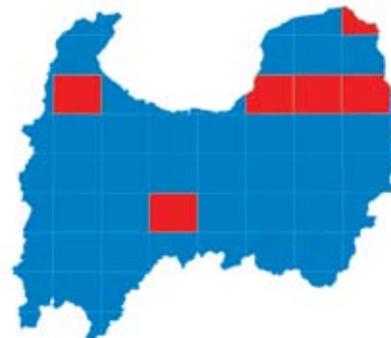
開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

朝日・五箇山・白木水無・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。



モイワラン (ラン科) *Cremastra aphylla* Yukawa富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類(CR)**選定理由**

1999年にラン科の新種として発表されたもので、県内でも1ヶ所で分布が確認された。今後さらに見つかる可能性も考えられるが、愛好家による採集圧を考えると、絶滅の危険性が非常に大きいと考えられる。

形態

茎は高さ45cm程度。普通葉はない。サイハイランに似るが、薬柱先端より少し下の腹側に見られる翼がなく、唇弁基部先端の突起が平滑でなく皺〜いぼ状になること、花色が褐色を帯びた赤紫であること、花序あたりの花数が5〜12花と少ないことから区別できる。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

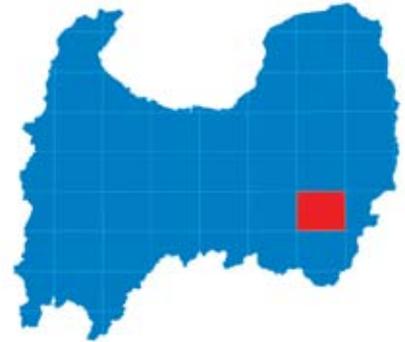
林中に生育する菌寄生植物。花期は6月頃。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

**コアツモリソウ** (ラン科) *Cypripedium debile* Rchb. f.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧**選定理由**

県内では生育地が1ヶ所に限定されており、個体数も著しく少ない。

形態

高さ20cmに達し、茎には広卵形の葉が2枚対生する。花は茎の先端に1個垂れ下がってつく。唇弁は袋状にふくらむ。

国内の分布状況

北海道南西部、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南東部。

生態・生育環境

落葉樹林の林床に生育する多年草。花期は5〜6月。

生存への脅威

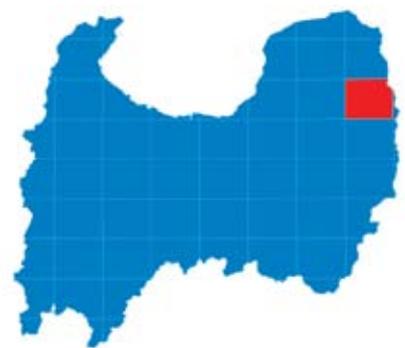
園芸採取、ダム工事。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。



サワラン (ラン科) *Eleorchis japonica* (A.Gray)F.Maek.

富山県カテゴリ：絶滅危惧 I 類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

全生育地で生育個体数が限られ、花が美しいため観賞用の山野草として採取され、各地で個体数が減少している。

形態

高さ20～30cmで、線状披針形～広披針形で直立する葉が1枚あり、茎の先に紅紫色の花を横向きに1個咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

黒部市南東部、立山町東部、上市町中部、富山市南部、南砺市南部。

生態・生育環境

日当たりのよい湿地に生育する多年草。花期は6～8月。

生存への脅威

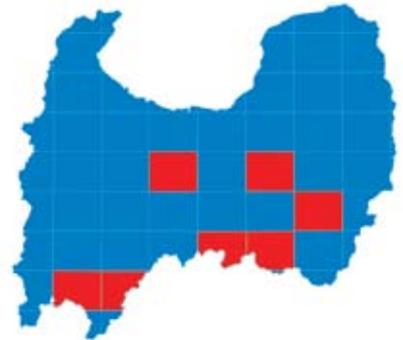
園芸採取、踏みつけ、遷移進行。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

有峰・五箇山・白木水無県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園・能登半島国定公園特別地域内指定植物。



カモメラン (ラン科) *Galearis cyclochila* (Franch. et Sav.) Soó

富山県カテゴリ：絶滅危惧 I 類
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

生育地が限られ、生育個体数が少ない上、花が美しいために観賞用の山野草として採取される。

形態

小型の地生ランで、葉は1枚、高さ10～20cmの花茎の先に1cmほどの淡紅色の花を2個つける。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北、紀伊半島）、四国。

県内の分布状況

魚津市南部、富山市南西部。

生態・生育環境

深山の湿った林縁に生える多年草。花期は5～7月。

生存への脅威

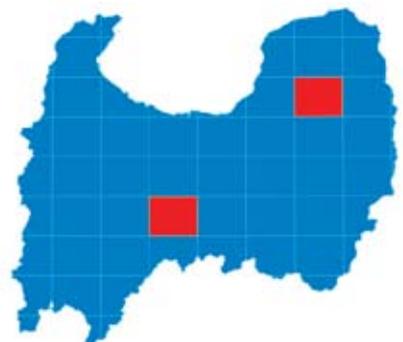
園芸採取。

保全対策

乱獲の抑制。

特記事項

白木水無・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



ベニシュスラン (ラン科) *Goodyera biflora* (Lindl.) Hook.f.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されていることに加え、観賞用の山野草として採取されるため絶滅の危険にさらされている。

形態

高さ5～10cmで、先端に1～3個の花をつける。花は長い筒状。葉は茎に2～3枚、互生する。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南部、南砺市南部。

生態・生育環境

落葉樹林の湿った林床に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

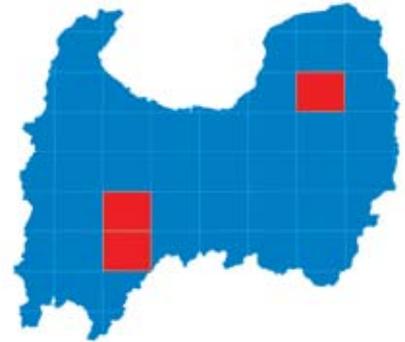
園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。



ミズトンボ (ラン科) *Habenaria sagittifera* Rchb. f.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全生育地で生育個体数が限られ、観賞用の山野草としての採取、生育地の開発や乾燥化などによって個体数が減少し、絶滅の危機にさらされている。

形態

高さ30～70cmで、茎の下半分に5～15cmの線形の葉を数個互生し、茎の先に緑白色の花を10個～やや多数咲かせる。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町西部、黒部市北部～中部、立山町、富山市中部、小矢部市南東部、南砺市中部。(ほとんどは古い標本記録によるもので近年の生育が確認できているものはわずか)

生態・生育環境

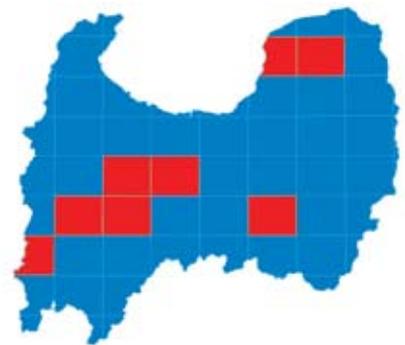
平地～山地の陽湿地に生育する多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

開発（特に湿地の改変を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。



スズムシソウ (ラン科) *Liparis makinoana* Schltr.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

過去に県内各地で確認されていたが、近年の生育情報がなく、絶滅した可能性も考えられる。

形態

花径は高さ10～20cmで直立する。葉はセイタカスズムシソウに似るが、二次脈が網状に浮く点で区別できる。淡暗紫色で径3cmほどの花を10個程度まばらにつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市中部、魚津市南部、上市町南部、富山市中南部、南砺市南東部（すべての地点で古い標本と文献による記録のみ）。

生態・生育環境

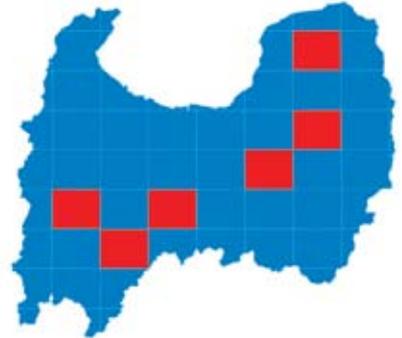
山地の樹林下に生育する多年草。花期は4～6月。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。



ホザキイチヨウラン (ラン科) *Malaxis monophyllos* (L.) Sw.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。花が美しいために観賞用の山野草として盗掘され、個体数が著しく減少している。

形態

高さ15～30cm。葉は広卵形で下部は葉鞘もみぢとなって花茎を包む。また、葉は和名のとおり普通1個つける。花も和名のとおり、花茎の上部に穂状にやや密に多数つける。花は細かく色は淡緑色である。

国内の分布状況

北海道、本州（静岡県・福井県以北）、四国。

県内の分布状況

魚津市南東部、富山市南東部。

生態・生育環境

山地・亜高山の森林樹下、時に風衝草原に生育する多年生の地生ラン。花期は7～8月。

生存への脅威

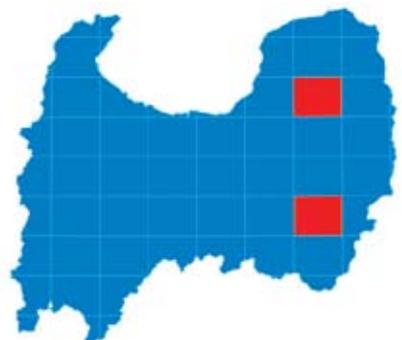
産地局限、踏み荒らし、園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

朝日・有峰・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



サギソウ (ラン科) *Pecteilis radiata* (Thunb.) Raf.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧**選定理由**

里山の放棄等により二次遷移が進行したため生育環境が衰退し、生育地が一部に限定されている。また、花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数はわずかである。

形態

高さ15～40cm、茎の下部に小線形の葉を3～5個互生し、その上部に数個の裂片葉がある。上部に白鷺に似た白花をつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北部、黒部市北部、上市町北西部、富山市中部、南砺市中部。ほとんどの地点で既に絶滅している。

生態・生育環境

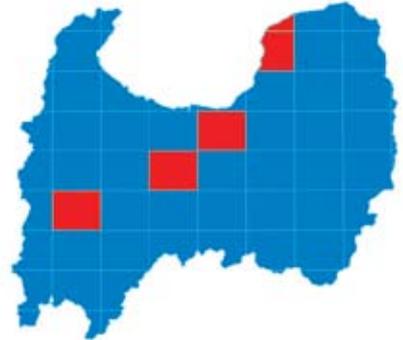
日当たりのよい湿地に生育する多年草で、前年にできた地中の球茎から芽を出す。花期は7～8月。

生存への脅威

生育地の管理放棄による二次遷移、園芸採取。

保全対策

生育地の環境確保と保護管理、採取の抑制。

**ミズチドリ** (ラン科) *Platanthera hologlottis* Maxim.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

県内では生育地が極めて限定されている。花が美しいため観賞用の山野草として採取の対象とされ、個体数が減少し絶滅の危機にさらされている。

形態

高さ40～90cmで、線状披針形の葉を10数枚互生し、茎の先に白色の花を多数密に咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北部、富山市南東部。

生態・生育環境

湿地に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

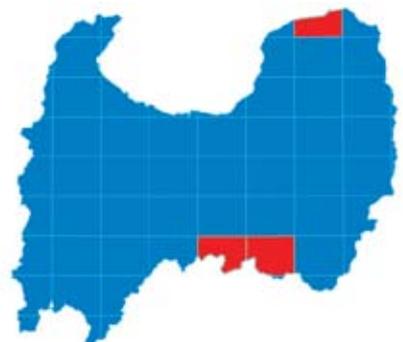
開発（特に湿地の改変を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

有峰県立自然公園の指定植物。



イヌマムカゴ (ラン科) *Platanthera iinumae* (Makino) Makino

富山県カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I B類(EN)

選定理由

県内の生育地は南砺市の2地点のみで、生育個体数は非常に少ない。現存地が開発される可能性があるため、絶滅の可能性が大きい。

形態

高さ約30cmで、茎の中部に大型の2葉を互生し、上部には鱗片葉をつける。花は多数つき、小型で長さ約2mm、緑色。

国内の分布状況

北海道（南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市南東部。

生態・生育環境

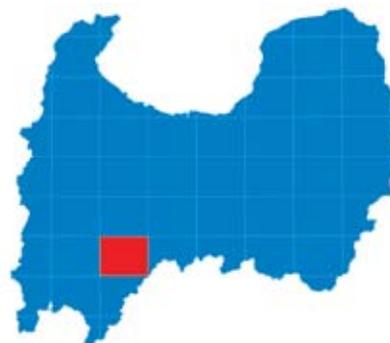
山地の樹林下に生える多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。



ヤマトキソウ (ラン科) *Pogonia minor* (Makino) Makino

富山県カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で生育個体数が限られ、観賞用の山野草としての採取や、乾燥化等の生育条件の悪化などにより個体数が減少している。

形態

高さ10～25cmで、茎の中部付近に倒披針形の葉を1枚つける。茎の先に淡紅紫色の花を1個咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南東部、立山町南東部、富山市南部、南砺市南東部、射水市南部。

生態・生育環境

山地のやや湿った草地などに生育する多年草。花期は6～8月。

生存への脅威

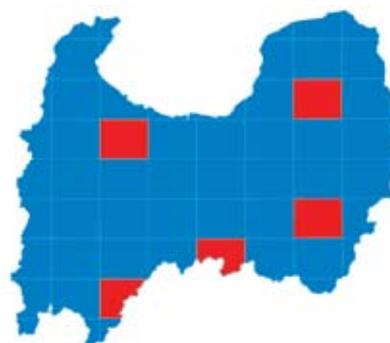
開発（特に森林伐採、湿地の改変を伴うもの）、園芸採取、遷移進行。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

有峰・白木水無県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



ヒナチドリ (ラン科) *Ponerorchis chidori* (Makino) Ohwi

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が極めて限られており、生育個体数も著しく少ない。観賞用の山野草としての採取や開発（特に森林伐採を伴うもの）により、絶滅のおそれがある。

形態

高さ7～15cmで、茎の中ほどに広披針形ひろひしんけいの葉を1枚つけ、茎の先に淡紅紫色の花を5～10個咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

黒部市南部、立山町中部の山地。

生態・生育環境

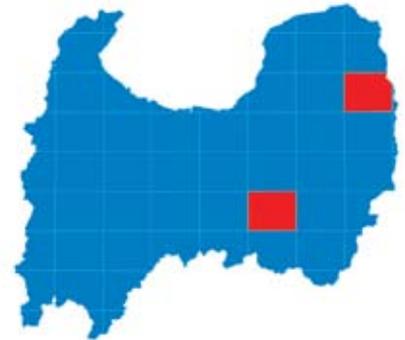
樹幹などに着生する多年草で、花期は7～8月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。



ヒオウギ (アヤメ科) *Iris domestica* (L.) Goldblatt et Mabb..

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では現存生育地が1ヶ所に限定されている。山野草としての採取や開発により絶滅のおそれがある。

形態

高さ50～100cm。茎は直立し、上部で2～3分枝する。葉は剣状で長さ30～50cm。多少粉白色を帯びる。葉の下部は重なって檜扇状に左右に広がる。枝先に膜質の包をつけ、その中から2～3個の花を出す。花径約4cm、花被片は6個、黄赤色で内面に暗紫色の斑点が多数ある。果実は蒴果じゆくわで、熟すると光沢のある黒色の種子が多数現れる。

注：県内野生種は、園芸種と異なり、花被片が互いに重ならない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、射水市南部（現状不明）。

生態・生育環境

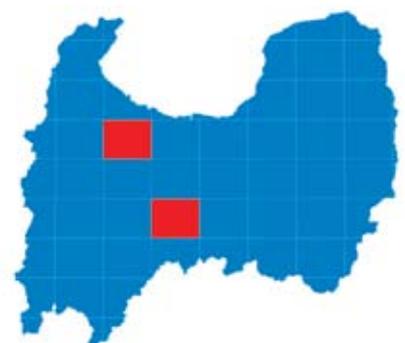
日当たりのよい草地に生育するが、全国的にも稀である。花期は8～9月。

生存への脅威

園芸採取、遷移進行、山林開発。

保全対策

生育地の確保と保護管理。



オニスゲ (カヤツリグサ科) *Carex dickinsii* Franch. et Sav.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が1ヶ所に限られ、生育地の植生遷移が進行しており、絶滅するおそれがある。

形態

長い地下匍枝があり、茎は高さ50cmになる。葉は扇形で幅4～8mm。頂小穂は雄性で長い柄があり藁色。側小穂は雌性で長さ2cmの楕円形。長い嘴のある果のうの長さは約1cm、30～40個がミクリ状に集まる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市南部（近隣の管理地に数株移植され保護されている）。

生態・生育環境

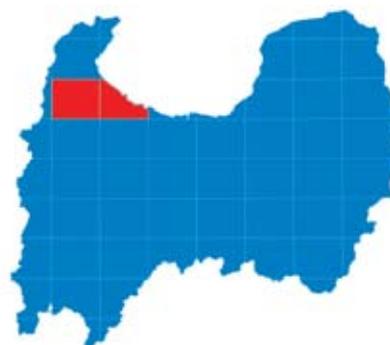
丘陵地の谷頭部にある休耕水田や池沼周辺の水湿地。

生存への脅威

植生遷移。

保全対策

生育環境の保護管理。



スジヌマハリイ (カヤツリグサ科) *Eleocharis valleculosa* Ohwi

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内の生育地は1ヶ所のみで、生育地が改変の影響を受けやすい湿地であることから、極めて絶滅の危険性が大きいと考えられる。

形態

茎は高さ30～60cm、稜があり、やや灰緑色を帯びる。オオヌマハリイに似るが、茎に明らかな縦の線が数条ある。

国内の分布状況

北海道、本州（山梨県）、九州。

県内の分布状況

射水市北東部。2002年に県内では初記録された。

生態・生育環境

砂質の淡水湿地に生育。花期は7～10月。

生存への脅威

湿地の開発、遷移の進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。



オオアゼテンツキ (カヤツリグサ科) *Fimbristylis dichotoma* (L.) Vahl subsp. *bisumbellata* (Forssk.) M.Luceño

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が1ヶ所しかなく、生育地が人為の影響を受けやすい湿地であることから絶滅のおそれ大きいためと考えられる。

形態

茎の高さは20～25cm。基部の葉鞘には白毛が多い。花序枝は数回分岐し、先に小穂を多数つける。小穂は卵形、鋭頭で柄の先に単生し、赤褐色で光沢がある。果実には格子状の紋がある。

国内の分布状況

本州（千葉県、神奈川県）、沖縄。

県内の分布状況

富山市北部。2011年に分布が確認された。

生態・生育環境

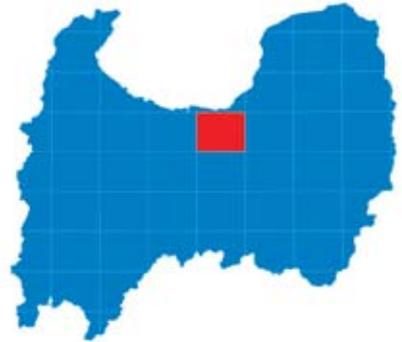
沼畔、湿地などに生育する一年草。

生存への脅威

生育地の開発、湿地の乾燥化。

保全対策

生育地の保全（適度に攪乱のある環境の維持）。



ヒロードテンツキ (カヤツリグサ科) *Fimbristylis sericea* (Poir.) R. Br.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県が本種の分布のほぼ北限にあたり（北限は新潟県青海町市振）、生育地が極めて限られているのに加え、海岸の侵食や護岸工事により個体数、生育地ともに減少している。四輪駆動車による踏みつけも無視できない状況にある。

形態

高さ10～30cm。堅く白毛の多い線形の葉を根生する。花茎の先に3～15個の小穂が頭状につく。

国内の分布状況

本州（茨城県、新潟県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北東部、黒部市北西部、富山市北部、射水市北部、氷見市南東部、高岡市北部（いずれの地域においても再発見がむずかしくなっている）。

生態・生育環境

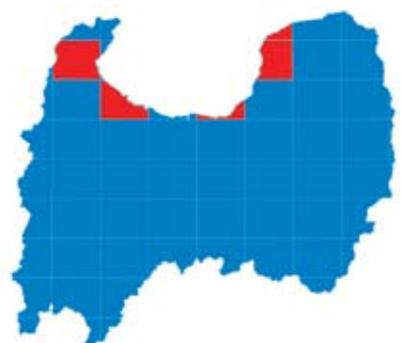
海岸のやや安定した砂浜に生育する。花期は8～10月、多年草。

生存への脅威

産地局限、海岸の侵食、海岸の護岸工事、四輪駆動車による踏みつけ。

保全対策

生育地の保護、生育地への四輪駆動車の立ち入り規制。



イトイヌノハナヒゲ (カヤツリグサ科) *Rhynchospora faberi* C. B. Clarke

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地、個体数が限られているのに加え、樹木による被陰や湿原への立入りによる生育環境の悪化、湿地の開発により減少しつつある。

形態

高さ10～40cmの多年草。根出葉や茎は幅1～1.5mmと著しく細い。茎上にまばらに赤褐色で小型の分花序がつく。果実は狭倒卵形。刺針は細く果実よりも長い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市西部、富山市中部。

生態・生育環境

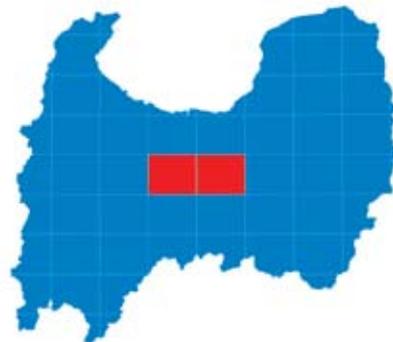
低地から丘陵地の湿地に生育する。花期は夏～秋。多年草。

生存への脅威

産地局限、樹木による被陰、湿地への立入り、湿地の開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保護、樹木の刈り払いや立ち入り規制による湿地の保全。



ハタバカンガレイ (カヤツリグサ科) *Schoenoplectus gemmifer* C.Sato, T.Maeda et Uchino

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

湿地や小河川などに生育する極めて稀な水草である。県内での分布は1ヶ所のみである。

形態

有花茎は高さ50～130cm、やや柔らかく平滑で横断面は鋭3稜形である。花序は仮(偽)側生し、無柄の小穂が集まって頭状となる。小穂は卵形～長卵形で長さ6～15mm。花序が熟すころには株とより倒れ、接地した小穂より芽生することがある。

国内の分布状況

本州(中部以西)、四国、九州。

県内の分布状況

射水市西部(1994年、2005年に記録)。

生態・生育環境

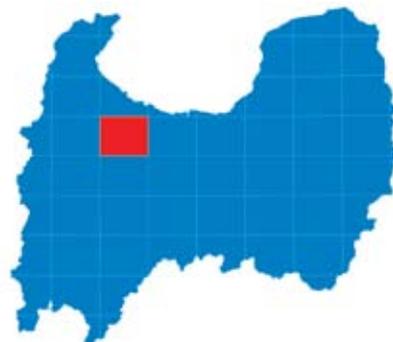
湿地、河川、溜池などに少し水に浸かって生育する常緑の多年草。水中に倒れ込んだ茎の葉基部からよく芽生する。流水中では線形の沈水葉を発達させる。花期は8～9月。

生存への脅威

河川改修、用水の水草除去。

保全対策

強度の水草除去の抑制による生育地の保護。



シズイ (カヤツリグサ科) *Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Soják

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が2ヶ所に限られており、生育地が湿地で開発の対象となりやすい場所であることから、極めて絶滅のおそれの大きいと考えられる。

形態

茎は柔らかく三稜形で高さ40～60cmになる。基部に数個の根出葉がつき、茎より短い。花序は側生状でまばら、5～8個の小穂をつけ、10～20mmの苞がある。小穂は狭長楕円形黄褐色で、長さ1.0～1.5cm、幅5～6mm。果実は倒卵形レンズ状、暗褐色で光沢はない。柱頭は2個。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、小矢部市西部(現状不明)。

生態・生育環境

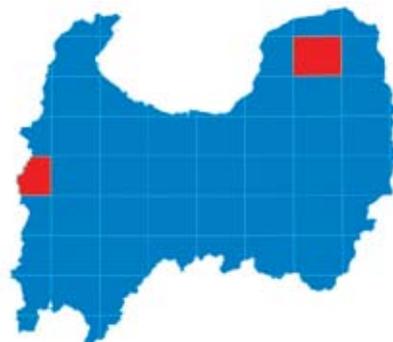
丘陵地の池沼の浅水中に生える。生育地では、造成中の水たまりにも出現することがある。7～10月に果穂がつく。

生存への脅威

産地局限、湿地開発。

保全対策

生育環境の保護管理。



ヌマカゼクサ (イネ科) *Eragrostis aquatica* Honda

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が著しく限られており、生育条件が開発などにより悪化しつつあることから絶滅の危険がある。

形態

高さ30～50cm、長さ5～20cmで線形の葉を互生する。茎の先の穂に小穂をややまばらにつける。

国内の分布状況

本州（西部）、四国。

県内の分布状況

富山市西部、小矢部市。

生態・生育環境

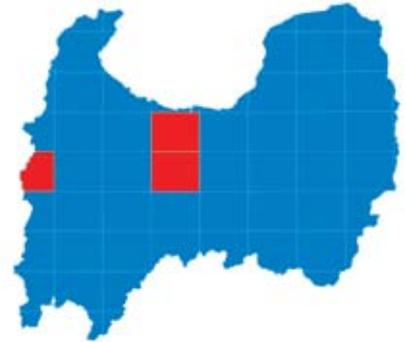
湿地に生育する多年草で、花期は8～9月。

生存への脅威

開発（特に湿地・池沼の開発を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。



フクジュソウ (キンポウゲ科) *Adonis ramosa* Franch.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。近年、二次遷移で周囲から他の植物の侵入が顕著に見られ、このため生育域が狭められ、個体数が減少している。また、花が美しいために観賞用の山野草として採取される。

形態

高さ15～30cm。茎は太く下部には鞘のある鱗片葉がある。葉は互生し、3～4回羽状に細かく裂け、花が終わる頃に展開する。枝先に直径3～4cmの花を1～数個咲かせる。花弁は20個前後あり、光沢のある黄色。萼片は数枚あり、外側は暗紫緑色を帯びる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、南砺市中部。

生態・生育環境

落葉樹林の明るい林床や開放地に生育する多年草で、しばしば群生する。花期は3～4月。周囲の植物が茂るころにはほぼ活動を終える。

生存への脅威

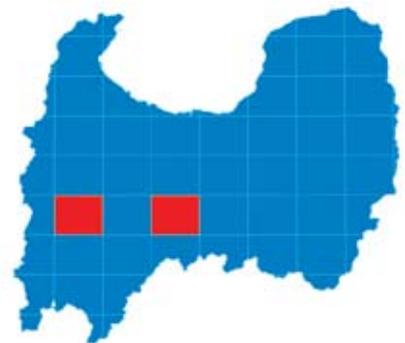
園芸採取、遷移進行（周辺部からのササやススキ、低木の侵入）。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

南砺市の自生地は、県の天然記念物に指定されている。



オキナグサ (キンポウゲ科) *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et C.Presl

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が著しく減少し、絶滅の危機に瀕している。県内の現存地は1～2ヶ所に限られている。

形態

花茎は高さ20～30cmで、先端に下向きの花を1個つける。花は花弁状の萼片が6個からなる。萼片の内側は暗赤紫色、外側は絹毛でおおわれ白っぽく見える。根出葉は羽状に裂け、葉は白色の絹毛で被われている。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町南部(絶滅)、黒部市北部(絶滅)、魚津市中部(現状不明)、南砺市北部・中部。

生態・生育環境

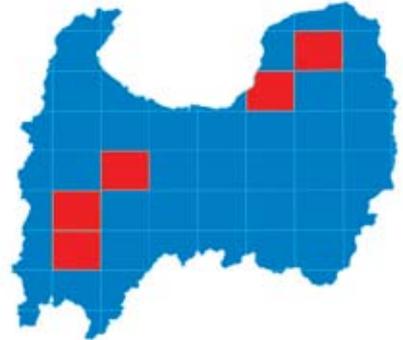
丘陵地帯の日当たりの良い草原に生える多年草。花期は4～5月。

生存への脅威

園芸採取、草地開発、農地整備。

保全対策

生育地の保護。



タカネキンポウゲ (キンポウゲ科) *Ranunculus altaicus* Laxm. subsp. *shinanoalpinus* (Ohwi) Kadota

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

県内の生育地が極めて限られる。採取や踏みつけによる生育環境の悪化によって個体数が減少し、絶滅の危機に瀕している。

形態

高さ8～12cmの小型の草本。根生葉は扇形で長さ幅とも1～3cmで、3～9に浅裂し、1～8cmの葉柄をもつ。茎の中部には3～6に深裂した小型の無柄の葉を1枚つける。茎の先に黄色の花を1個つける。

国内の分布状況

本州(中部)。

県内の分布状況

黒部市南部。

生態・生育環境

高山の湿った礫地に生える多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

産地局限、園芸採取、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護、採取の規制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



ヤマシャクヤク (ボタン科) *Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NТ)

選定理由

生育地が限られ、生育個体数も少ない。花が美しいために観賞用の山野草としてよく採取され、個体数が激減している。

形態

高さ30～60cm。葉は大型の2回3出複葉で、茎に3～4枚互生する。小葉は倒卵形で長さ5～12cm、裏面は白っぽい。茎の先に直径4～5cmの白花を上向きに1個、半開きにつける。萼片は3個。花弁は白色倒卵形で5～7個ある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市中部・南部、魚津市南部、上市町北部・南部、立山町北部（絶滅）、南砺市南部（一部絶滅）。

生態・生育環境

山地落葉広葉樹林の林内、林縁に生える多年草。花期は5月。

生存への脅威

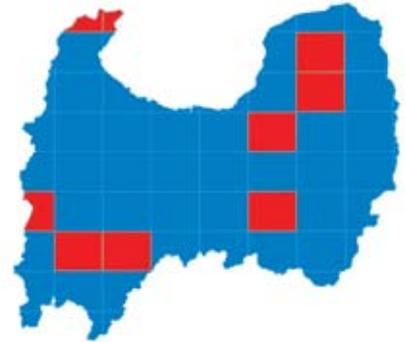
園芸、茶花として乱獲、自然遷移。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護管理。

特記事項

五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園・能登半島国定公園特別地域内指定植物。

ベニバナヤマシャクヤク (ボタン科) *Paeonia obovata* Maxim.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地、個体数とも著しく限られていることに加え、花が美しいために観賞用の山野草として採取されるため、絶滅するおそれがある。

形態

茎は高さ30～40cmで、2回3出複葉の葉を数枚つけ、先に直径5cm程の淡紅色の花を1個つける。雌しべの先が長く伸びて渦を巻くようになることが特徴。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南部、立山町中部（いずれも現状不明）。

生態・生育環境

温帯の落葉樹林下などに生える多年草。花期は5月。

生存への脅威

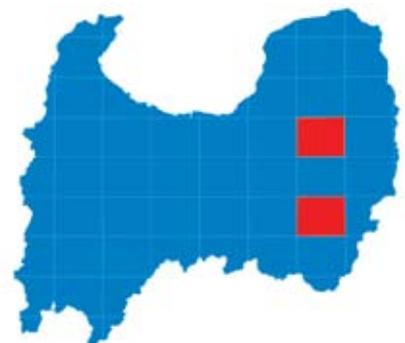
開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



アオベンケイ (ベンケイソウ科) *Hylotelephium viride* (Makino) H. Ohba

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が1ヶ所しか知られておらず、個体数が著しく少ない。採取やわずかの環境変化で消滅するおそれがある。

形態

高さ20～50cmで、茎は斜上し、長さ3～6cm、幅1.5～4cmで短い柄を持った葉を対生につける。花は淡黄緑色。

国内の分布状況

本州（中部地方以西）、四国、九州。

県内の分布状況

確実な自生地は富山市南東部。文献では朝日町宮崎の海浜砂丘地から記録があるが、本種の生育地としては疑問がある。また、チチッパベンケイと誤認されている可能性がある。

生態・生育環境

山地の樹上・岩上に生える多肉の多年草。花期は9～10月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

自生地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。



タチモ (アリノトウグサ科) *Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内では生育地が数ヶ所に限られており、土地利用の変化、溜池の改修などによって容易に消滅するおそれがある。

形態

小型の細長い水草。茎は直立して枝を分けない。水中で育つと長さ50cm内外に伸びるが、湿地の地上で育つと、高さ5～20cm、時に地表に茎だけが張り付いただけの状態となる。葉は下部は対生、上部は3～4輪生。水中葉は羽状に深裂し、裂片は糸状線形で短い。茎の上部の葉は針形で、普通羽裂しない。雌雄異株で、花は気中葉の葉腋につき、雄花の花弁は4枚、長さ2mm、長楕円状卵形で淡紅色、雄ずいは6本。雌花の花弁は早く落ちる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市南西部、射水市南部。

生態・生育環境

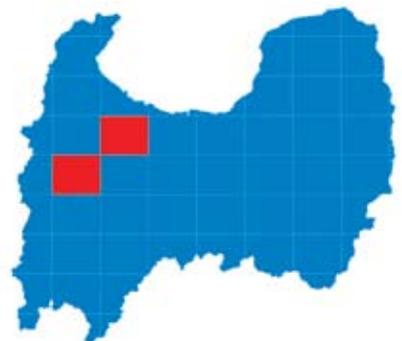
多年草。花期は6～8月。池沼の水辺に生える。沈水状態に長くおかれると水面まで茎を伸ばし抽水植物となる。秋期など水位が低下する時期には、茎は匍匐し小型化した葉をつける陸生形となる。普通、殖芽で増える。

生存への脅威

池沼開発、管理放棄、産地局限。

保全対策

生育環境の保護管理。



ミズキカシグサ (ミソハギ科) *Rotala rosea* (Poir.) C.D.K.Cook

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

1906年に旧大沢野町で標本が採集されて以来、標本記録が全くなかったが、2011年に現存する生育地が1ヶ所あることが分かった。ただし、生育地である水田の面積は限られており、管理変更で容易に消滅するおそれがある。また、県内においては水田の乾田化や農薬の使用により生育可能な環境が失われている。

形態

高さ10～30cmでよく分枝し直立する。茎は淡緑色で赤みを帯びない。葉は対生し柄はなく披針形で先は鋭形、花は小型で葉腋に多数つき帯紅色。果実は球形で直径約2mm、紅紫色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市北部、旧大沢野町（1906年）、氷見市南部（絶滅確認）。

生態・生育環境

低地の湿地や水田に生育する一年草。花期は8月、果期は10月。

生存への脅威

産地局限、耕作放棄、水田の乾田化、農薬の使用。

保全対策

生育地の耕作継続が望まれるが、長期的には困難である。

特記事項

ヒメミソハギを本種と誤認していることもある。



ヒメビシ (ミソハギ科) *Trapa incisa* Siebold et Zucc.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

標本で確認される生育地は、2ヶ所のみで、現存するのは1ヶ所に限られている。生育地は人工の溜池であり、人為の影響を受けやすいため、管理変更によって容易に絶滅するおそれがある。

形態

ヒシを全体に小型にしたような浮葉植物。浮水葉は、広卵状菱形、長さ幅とも1～2cm、三角状の鋸歯が数個ある。表面に光沢があり、裏面は淡緑色。花は径6～8mmで、4枚の花弁は白から淡桃色。果実はやや扁平な倒三角形で4刺針があり、幅約20mm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北西部、富山市北部（絶滅）。

生態・生育環境

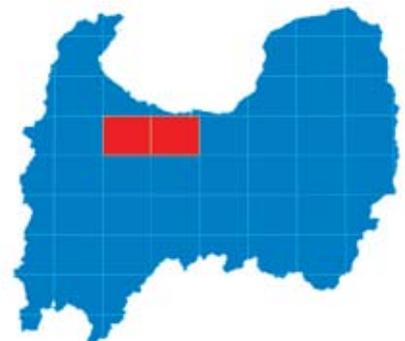
池や沼に生育する一年草。6月頃から葉を水面に浮かせはじめ、水面を覆うように広がるが、大型のヒシほどの勢いはない。9～10月には葉は枯れて水中に実った果実とともに沈む。

生存への脅威

池沼開発、溜池の管理、道路工事。

保全対策

生育地の確保と保護管理。



タヌキマメ (マメ科) *Crotalaria sessiliflora* L.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

3ヶ所の生育記録があるが現存している可能性があるのは1ヶ所のみである。生育環境である堤防上の草地や河川敷においては外来植物が繁茂し、生育条件は著しく悪化している。

形態

高さ20～70cm。全体に褐色の長毛がある。葉は1小葉で長さ4～11cm、幅3～10mmでほとんど無柄。総状花序は1～10cmで青紫色の花をつける。

国内の分布状況

本州（東北地方南部以南）、四国、九州。

県内の分布状況

砺波市北部、高岡市西部（以上2ヶ所は生育不明）。富山市北部（2010年確認）。

生態・生育環境

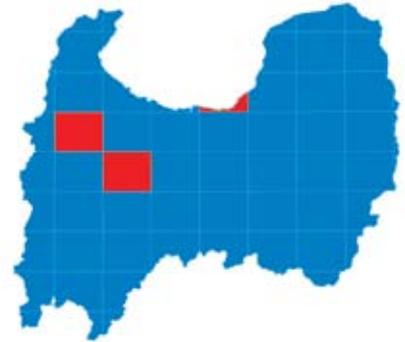
平野部や丘陵地の日当たりのよい草地や路傍に生育する一年草。花期は7～9月。

生存への脅威

産地局限、外来種との競合。

保全対策

生育地の保護。



ヒナノカンザシ (ヒメハギ科) *Salomonina ciliata* (L.) DC.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数とも限られており、生育地となる湿地は開発、改修、遷移などによって環境が変わりやすい。

形態

茎は細く直立して、高さ6～25cm。葉は互生し、長楕円形で、長さ3～8mm、上方のものは披針形で長さ14mmになり、全縁、上縁に少数の刺毛があるものもある。花は帯紫色、長さ1～2mmで花柄がなく、細長い穂状花序につく。萼片は5個、披針形で長さ約1mm、うち2個はやや大きい。花弁は3個、下方の1個は側方のものより長い。雄蕊は4個で、花糸は合着する。蒴果は扁平で腎形、径2mmほどで縁に小刺毛がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市中南部。

生態・生育環境

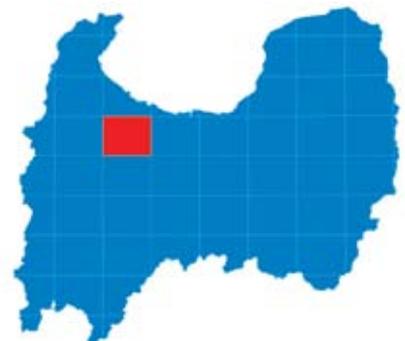
日当たりのよい湿地に生える一年草。花期は8～9月。

生存への脅威

湿地の開発、溜池等の改修、植生遷移。

保全対策

生育地の保護。



ノウルシ (トウダイグサ科) *Euphorbia adenochlora* C.Morren et Decne.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NP)**選定理由**

県内の分布が1地域しか確認されておらず、生育場所も人為の影響を受けやすい河川堤防であるため、極めて絶滅の危険性が高いと考えられる。

形態

草丈30cm前後で、直立茎に葉を互生し、茎頂に5枚の葉を散状につけ、その葉腋から5本の散形枝を出し、各枝は杯状花序を頂生し、三又分枝、ついで二又分枝を繰り返す。葉は狭い長楕円形～披針形で、長さ5～6cm、鋸歯はなく裏面に短い軟毛がある。花序の下部の苞葉は倒卵形で、あざやかな黄色を呈す。子房外面に先の細いいぼ状の小突起が密生し、蒴果になっても残る。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市北東部。

生態・生育環境

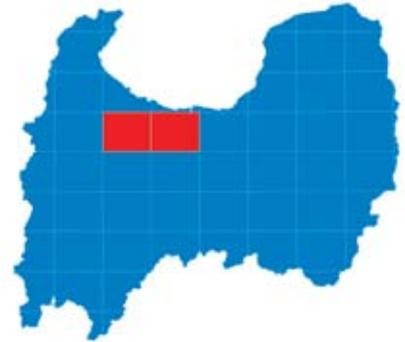
生育地は湿地に限られ、乾燥するとなくなる。花期は4～5月。

生存への脅威

開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。

**トモエソウ** (オトギリソウ科) *Hypericum ascyron* L. subsp. *ascyron* var. *ascyron*富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

現存する生育地は1ヶ所程度で、個体数は著しく少ない。山間地の草地の減少に加え、花が美しいために観賞用の山野草として採取されることも減少に拍車をかけている。

形態

茎は直立して高さ1mになり、4稜があり無毛。葉は十字に対生し披針形で、長さ4～10cm。基部はやや茎を抱く。葉には多くの明点があるが、黒点はない。茎の上部で枝分かかれし、枝先に径約5cmのやや大きく黄色の一日花をつける。5枚の花弁はスクリュウのように巴状にゆがんだ形をしている。花柱の先は5裂して反り返る。蒴果は広卵形で長さ1.5cm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町北部、高岡市北部、南砺市西部（絶滅）。

生態・生育環境

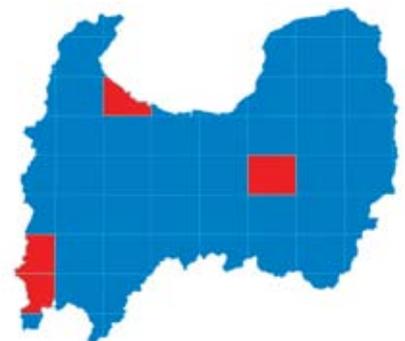
山地のやや湿った草原に生える多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

園芸採取、道路工事、里山管理の放棄。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護管理。



イソスミレ (スミレ科) *Viola grayi* Franch. et Sav.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

現存する生育地が限られ、海岸侵食や海岸工事などにより、砂浜上の個体数が減少している。

形態

高さ20cmになる草本。花は径2.0～2.5cmで花弁が丸みを帯びる。花弁の色は、紫紅色から淡紫色。葉は厚く光沢があり、両端がやや内側に巻きこんでいる。

国内の分布状況

北海道、本州の日本海側。

県内の分布状況

朝日町北部、入善町北部、滑川市北部、富山市北部の海岸砂浜では絶滅した模様。黒部市北部のみで確認されている。

生態・生育環境

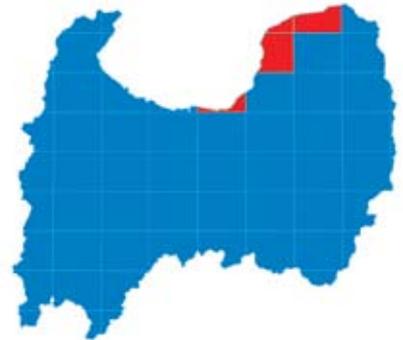
砂浜と砂浜に隣接したクロマツ林内に生える多年草。花期は4～5月。厚い葉と著しく長く丈夫な地下茎を持ち、強風や砂の移動に耐える。砂浜ではほとんど見られなくなっている。クロマツ林内にも生育して、オオタチツボスミレと区別しにくくなっている個体もあると考えられるが、未調査である。

生存への脅威

海岸侵食、海岸護岸工事、土地造成、海水浴設備設置、車の乗り入れ、園芸採取。

保全対策

生育地の確保と保護管理、車の乗り入れ規制、採取の抑制。



アナマスミレ (スミレ科) *Viola mandshurica* W.Becker f. *crassa* (Tatew.) F.Maek.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数とも限定され、生育場所となる砂浜海岸の環境が不安定である。

形態

スミレの海岸型。花時の葉身は2～6cm、幅0.8～2cmで、細長い披針形のものも多く、質厚く、両側からやや閉じぎみのものが多い。両面無毛で深緑色、光沢がある。砂浜のものは、地下茎や根が長く発達している。

国内の分布状況

北海道から本州（鳥取県以北）の日本海側。

県内の分布状況

入善町北西部。

生態・生育環境

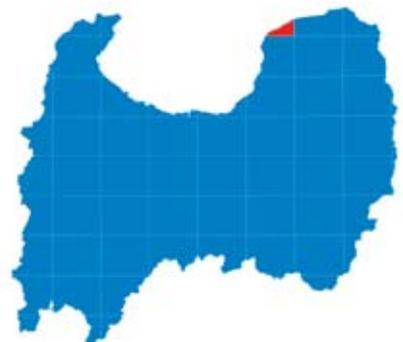
砂浜から海岸沿いの市街地や低山地に生育する。花期は4～5月。

生存への脅威

砂浜海岸の減少、開発、人為的攪乱。

保全対策

生育地の保護。



マツグミ (オオバヤドリギ科) *Taxillus kaempferi* (DC.) Danser富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし**選定理由**

分布北限であり、県内では生育地が極めて限定されている。しかも宿主となる針葉樹の衰退により生育条件が悪化し、個体数が減少している。

形態

高さ30～50cmの半寄生の常緑小低木。葉は互生し、全縁で先は丸く基部はしだいに狭くなる。花は長さ約1.5cm筒型で赤色、先が4裂する。

国内の分布状況

本州（関東地方、富山県以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

上市町西部（現存確認）、滑川市中部、魚津市西部（現存確認）。

生態・生育環境

アカマツなどの針葉樹の枝に寄生する。花期は7～8月。果実は翌年3～5月に赤く熟す。

生存への脅威

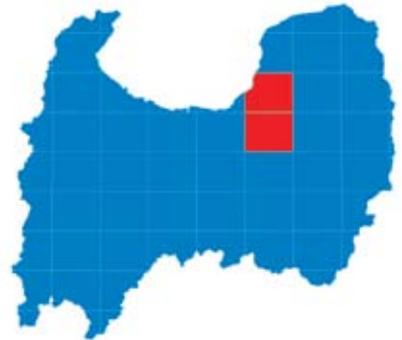
宿主の衰退、産地局限。

保全対策

生育地の保護（宿主の保護）。

特記事項

朝日・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

**クリンユキフデ** (タデ科) *Bistorta suffulta* (Maxim.) H.Gross富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし**選定理由**

県内の生育地は1ヶ所しか確認されておらず、個体数もやや少ない。生育地の整備や周辺の森林開発により消滅するおそれがある。

形態

茎は高さ15～40cmで茎を抱く葉を数個互生し、頂端に短い穂状の花序を付け、また茎葉の脇にもごく短い花序をつける。花は白色。根生葉はやや長い柄があり、卵形で先が長く尖り、基部は心形。地下に太い根茎がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州の山地。

県内の分布状況

魚津市南東部。

生態・生育環境

山地の林内に生える多年草で、花期は5～7月。

生存への脅威

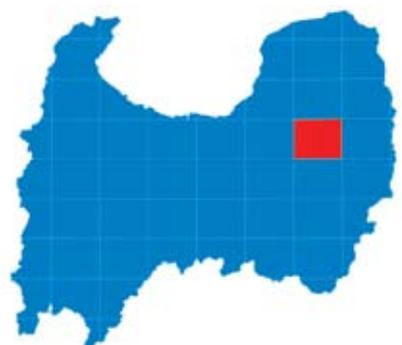
開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

僧ヶ岳・白木水無県立自然公園の指定植物。過去の記録は他種（オオハルトラノオ）との混同が含まれていたため、今回整理した結果、現存地は魚津市のみとなった。



ヒメタデ (タデ科) *Pericaria erectominor* (Makino) Nakai

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

既知生育地は1ヶ所の溜池のみで、池の改修等、大きく環境が変化すれば消失する可能性がある。

形態

茎は無毛で、高さ20～45cmになる。葉は短い柄があり、広線形～長披針形、表面は無毛かあらい短毛があり、長さ3～8cm、腺点はない。托葉鞘は筒状、外面に伏毛があり、短い縁毛がある。総状花序は円柱形で密に花をつけ、直立し、長さ1.2～2cm。萼は5深裂し淡紅色で長さ2mm。そう果は長さ1.5～2mm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市北東部。

生態・生育環境

水湿地にはえる一年草。水位が下がって一時的に露出する泥土に出現する。花期は5月～10月。

生存への脅威

開発、改修、遷移。

保全対策

生育環境の維持。



ヤナギヌカボ (タデ科) *Pericaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が局限されている。生育基盤が水田、休耕田、溜池など人為的な影響を受けやすい環境であるため、管理変更によって容易に消滅する危険がある。

形態

茎は無毛で、高さ30～60cmになる。葉は長披針形～長線形、両端は細まり、両面に毛があり、裏面には腺点もあり、長さ3～9cm、幅2～9mm、短い柄がある。托葉鞘は筒状、長さ5～10mm、やや同長の縁毛がある。総状花序は細く、まばらに花をつけ、頂生または腋生で、直立する。萼は5裂し、淡紅色、長さ1.5mm。そう果は萼と同長。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

富山市西部(2001年)、高岡市北東部(2010年には確認できず)。

生態・生育環境

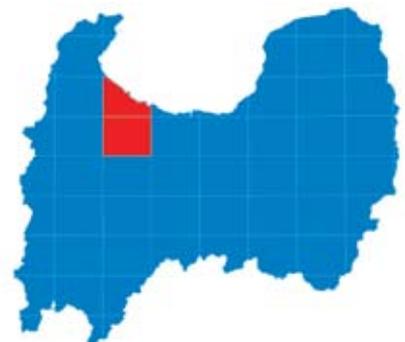
水湿地にはえる一年草。ため池など水位が下がって露出する泥土に出現する。花期は9月～10月。

生存への脅威

開発、改修、遷移。

保全対策

生育環境の維持。



トウカイコモウセンゴケ (モウセンゴケ科) *Drosera tokaiensis* (Komiya et C.Shibata) T.Nakam. et K.Ueda

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が1地域に限定されており、道路改修によって個体数が減少している。食虫植物マニアによる採取の恐れがある。

形態

腺毛を持った長さ2～3cmの葉をロゼット状につけ、5～10cmの細い花茎の先に小さな淡紅色の花を多数つける。

国内の分布状況

本州（東海地方から中国地方東部の主に太平洋側）、四国。

県内の分布状況

射水市南部。

生態・生育環境

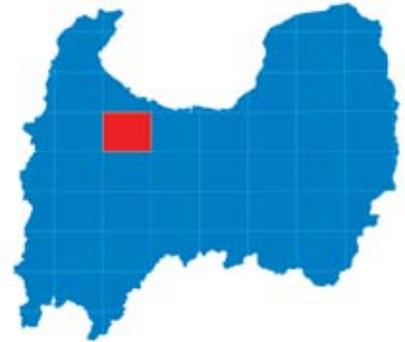
日当たりの良い湿った古い道路法面、ため池のふちに生える多年草で食虫植物。花期は6～9月。

生存への脅威

開発（道路拡幅、池沼開発）、遷移進行、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。



ハマアカザ (ヒユ科) *Atriplex subcordata* Kitag.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸侵食で生育地の砂浜が減少していることに加え、踏み荒らし等で個体数が激減している。

形態

高さ40～60cm。茎は斜上するか直立して分枝する。葉は有柄の三角状卵形から披針形で縁に粗い切れ込みがあり、すべて互生する。基部はくさび状で長さ2～8cm。花序は穂状で多数の小さな緑色花をつける。雌雄異花で花弁はない。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

黒部市北部、魚津市、富山市北部、氷見市東部。

生態・生育環境

砂浜海岸や岩石海岸に生育する一年草。花期は8～10月。

生存への脅威

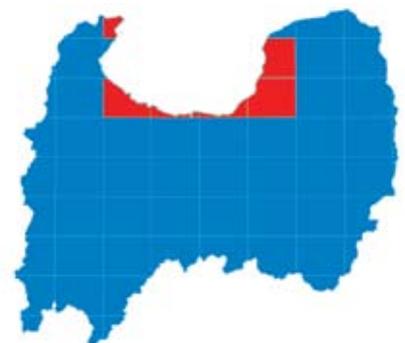
海岸侵食による砂浜の減少、踏み荒らし、外来種との競合。

保全対策

生育環境の確保と保護管理。

特記事項

近縁の外来植物ホコガタアカザの繁殖により生育地を奪われ、かつ交雑もすすんでいる。



クサレダマ (ヤブコウジ科) *Lysimachia vulgaris* L. subsp. *davurica* (Ledeb.) Tatew.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が数ヶ所に限られており、小規模な生育地においては生育環境の変化が速く、消滅している。山間湿地においても乾燥化の進行に伴って減少しており、絶滅の危険性が高まっている。

形態

茎は直立し高さ40～80cm。上部に黄色の径1.5cmの花を多数円錐状につける。葉は長さ4～12cmの披針形で3～4個が対生または輪生する。葉の裏側内部に赤黒色の腺点がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部、富山市南部、南砺市南東部、氷見市南部（絶滅）、氷見市北部（2001年）。

生態・生育環境

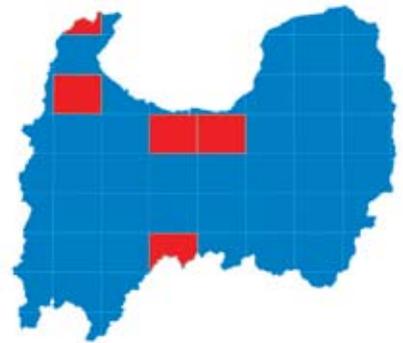
山野の湿地に生える多年草。地下茎で殖え、しばしば群生する。休耕田に一時的に出現することもあるが数年で消滅する。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、湿地開発、植生遷移。

保全対策

生育地を含めた周辺部の保全。



ヒロハスズメノトウガラシ (アゼナ科) *Lindernia antipoda* (L.) Alston var. *verbenifolia* (Colsm.) Ohba

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ない。除草剤の使用や水田管理の変更によって、容易に消滅するおそれがある。

形態

茎は高さ5～20cm、下部は分枝し地表を這って横に広がる。全草無毛。葉は長さ2～6cm、幅4～15mmの倒披針形または線状楕円形、鋭頭で鋸歯があり対生する。茎の上部の葉腋に上下につぶしたラッパ形の花をつける。花冠は長さ、幅とも約1cmの白色ないし淡紅色。

国内の分布状況

本州（福島県以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市中西部。

生態・生育環境

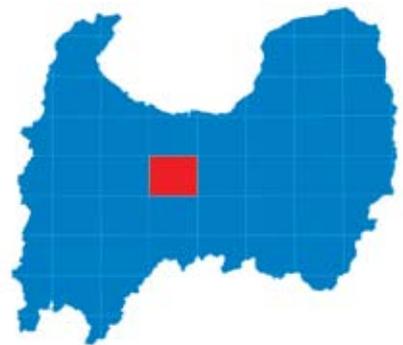
水田の周辺部や畦に生える一年草。花期は8～10月。

生存への脅威

産地局限、農薬散布。

保全対策

生育地の保護。



ミズネコノオ (シソ科) *Pogostemon stellatus* (Lour.) Kuntze

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。水田の乾田化や農薬の使用により生育環境が消失しつつあり、最近の確実な生育情報が得られていないことから絶滅が懸念される。

形態

高さ10～50cmで軟弱である。細長い葉が4～6枚輪生する。茎頂に3～10cmの細長い花穂をだし、白色～淡紅色の小さな花が多数つく。

国内の分布状況

本州、四国、九州、奄美。

県内の分布状況

富山市北東部。

生態・生育環境

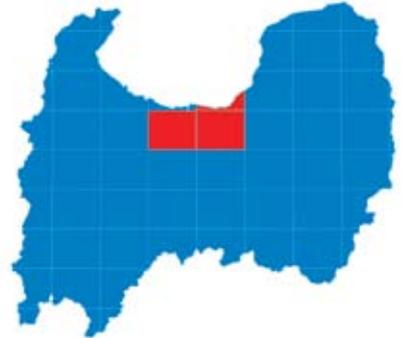
低地の湿地や水田に生育する一年草。花期は8～10月。

生存への脅威

産地局限、湿地開発、水田の乾田化、農薬汚染。

保全対策

湿地開発の抑制、生育地の保護。



ミゾコウジュ (シソ科) *Salvia plebeia* R.Br.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ない。除草剤の使用や畦管理の変更によって、容易に消滅するおそれがある。

形態

茎は4角形で高さ30～70cm、稜には下向きの細毛がある。根生葉をもち、冬にロゼット状に広がるが花期に枯れる。茎葉は対生し長さ3～6cm、幅1～2cmの長楕円形で鋸歯があり、表面は脈がへこみ、しわが目立つ。枝先に長さ4～5mmの淡紫色の唇形花を多数つける花穂をつくる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

射水市北東部、南砺市中西部。

生態・生育環境

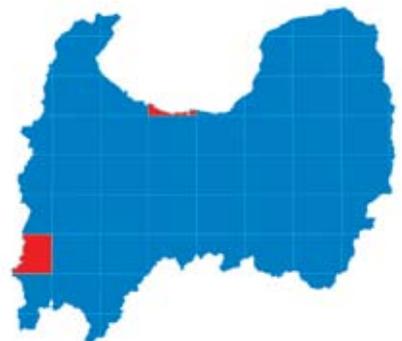
やや湿った道ばたや水田の畦に生える越年草。花期は5～6月。

生存への脅威

産地局限、路傍の整備、湿地開発。

保全対策

生育地の保護。



ナミキソウ (シソ科) *Scutellaria strigillosa* Hemsl.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸整備のため生育環境が激減し、個体数も少なく絶滅の危機に瀕している。

形態

茎は方形で、高さ10～30cm、稜には上向きの毛がある。葉は長さ1.5～3.5cm、幅1～1.5cmの円頭で、鈍い鋸歯があり対生する。茎の上部の葉腋に青紫色の唇形花をつける。花冠は長さ約2cmで筒部は長く、基部は折れ曲がって直立する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市北西部、氷見市南部。

生態・生育環境

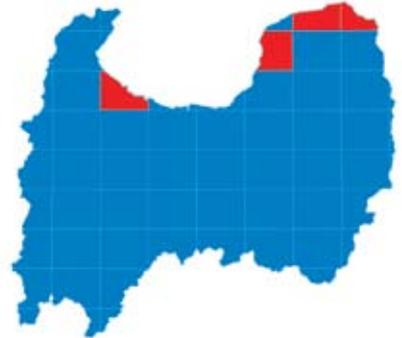
海岸の砂地に生える多年草。細長い地下茎で殖える。花期は6～7月。

生存への脅威

海岸整備による砂浜海岸の縮小。

保全対策

生育地の保護。



ミミカキグサ (タヌキモ科) *Utricularia bifida* L.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地、個体数が限られていたのに加え、樹木による被陰や湿原への立入りによる生育環境の悪化、湿地の開発により減少しつつある。また、食虫植物であり、花も美しいため、園芸用の採取も関係している。

形態

地中に細長い地下茎をのばし、長さ6～8mmの葉と捕虫囊をつける食虫植物。花茎は高さ5～15cmで、上部に長さ約5mmの黄色い花がつく。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北西部（絶滅）、黒部市北部（絶滅）、上市町南西部（現状不明）、富山市中部。

生態・生育環境

湿地の泥やミズゴケ上に生育する。花期は8～10月。多年草。

生存への脅威

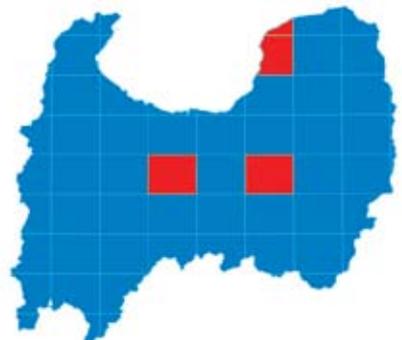
産地局限、樹木による被陰、湿原への立入り、湿原の開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、樹木の刈り払いや立ち入り規制による湿原の保全、園芸用採取の抑制。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。



ホザキノミミカキグサ (タヌキモ科) *Utricularia caerulea* L.富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：該当なし**選定理由**

もともと県内では生育地や個体数が限られているのに加えて、樹木による被陰や湿原への立入りによる生育環境の悪化、湿地の開発により減少しつつある。また、食虫植物であり、花も美しいため、園芸用の採取も関係している。

形態

地中に細長い地下茎をのばし、長さ2～3.5mmの葉と捕虫囊^{ほしちゅうのう}をつける食虫植物。花は淡紅紫色で長さ約4mm、萼^{がく}に微細な突起がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北西部（現状不明）。富山市中部～南部。

生態・生育環境

湿地に生育する。花期は6～10月。多年草。

生存への脅威

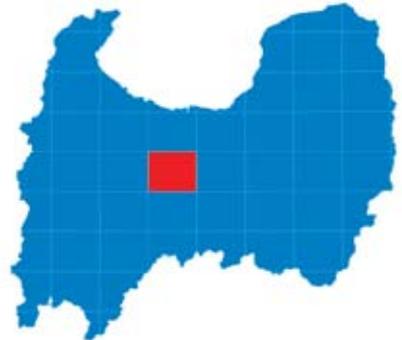
産地局限、樹木による被陰、湿原への立入り、湿原の開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、樹木の刈り払いや立ち入り規制による湿原の保全、採取の抑制。

特記事項

白山国立公園・能登半島国定公園特別地域内指定植物。

**ノタヌキモ** (タヌキモ科) *Utricularia aurea* Lour.富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)**選定理由**

文献記録はあったが、2011年に生育が確認された。分布が極めて限定され、環境の変化によって絶滅する恐れがある。

形態

越冬芽をつくらない。水中葉は多数の捕虫囊^{ほしちゅうのう}をつけ、長さ3～4cm、毛状の裂片に細かく立体的に分裂し、水から出すとしぼんで毛筆状になる。裂片先端に刺が1本、縁に鋸歯状に細かい刺がある。高さ8～20cmの花軸に4～10個の花をつける。花軸は水中の主軸よりもやや太い。花は黄色、径6～7mm、萼^{がく}は2.5～3mm。花柱は果時にも残って伸長し、蒴果^{きょくか}本体とほぼ同長になる。蒴果の径約4mm。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市中南部。

生態・生育環境

池に浮遊する一年草。低地の溜池にもよく生える。花期は8～10月。

生存への脅威

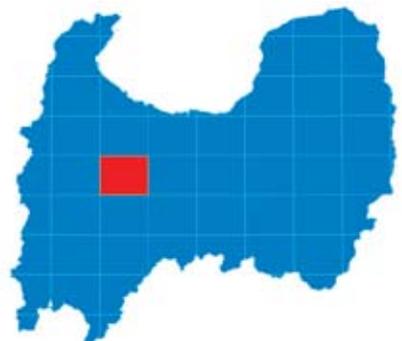
マニアの乱獲、水質汚染、水位変動。

保全対策

自生地の保護、溜池の水質、水位の維持。

特記事項

白山国立公園特別地域内指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。



ムラサキミミカキグサ (タヌキモ科) *Utricularia uliginosa* Vahl

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

もともと県内では生育地や個体数が限られているのに加え、樹木による被陰や湿原への立入りによる生育環境の悪化、湿地の開発により減少しつつある。また、食虫植物であり、花も美しいために園芸用の採取も行われる。

形態

高さ5～15cmの繊細な食虫植物。地中に細長い地下茎をのばし、そのところどころに葉と捕虫囊がつく。花は藍紫色で長さ約3mm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北中部（絶滅）、黒部市西部（絶滅）、富山市中～南部、小矢部市東部。

生態・生育環境

湿地の泥上に生育する。花期は8～9月で、多年草である。

生存への脅威

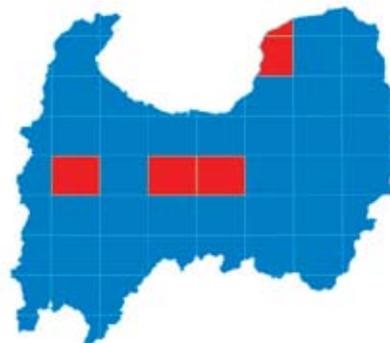
産地局限、樹木による被陰、湿地への立入り、湿地の開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、樹木の刈り払いや立ち入り規制による湿地の保全、採取の抑制。

特記事項

白山国立公園・能登半島国定公園特別地域内指定植物。



キキョウ (キキョウ科) *Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A.DC.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

かつては丘陵地の草地に広く分布していたが、花が美しいため観賞用の山野草として乱獲されたり、丘陵地の植生遷移の進行や開発により生育条件が悪化したりして個体数の減少が極めて著しく、県下全域で消滅の危機にある。

形態

高さ50～100cm。葉は狭卵形で長さ4～7cmで互生する。茎頂近くに径4～5cmの美しい青紫色の花を数個つける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、奄美。

県内の分布状況

入善町南部（絶滅）、黒部市中部、上市町南部（絶滅）、富山市西部（一部で絶滅）、射水市南部、砺波市東部、高岡市北部、南砺市西部（絶滅）、氷見市（現状不明）。

生態・生育環境

丘陵地の草地・林縁に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

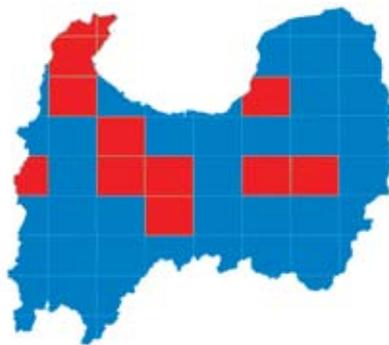
草地開発、園芸採取、里山の管理放棄と二次遷移。

保全対策

丘陵地の保全、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園・能登半島国定公園特別地域内指定植物。



ガガブタ (ミツガシワ科) *Nymphoides indica* (L.) Kuntze

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

かつては黒部市、氷見市などに広く分布していたが、1990年代には絶滅したと思われていた。2003年に再発見されたが、生育地が一部のため池に限定されており、管理方法の変更によっては容易に消滅する危険性がある。

形態

スイレンに似た長さ7～20cmの卵円形の葉を水面に浮かべ、直径1.5cmの白い花をつける。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市北部（絶滅）、射水市南部、氷見市中部（一部で絶滅）。

生態・生育環境

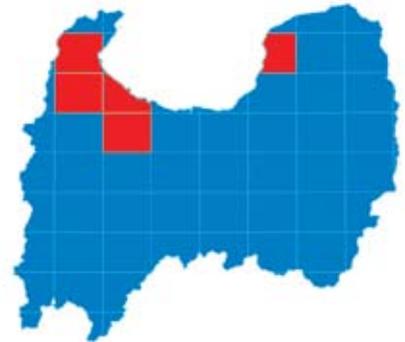
池沼や溜池などに生える浮葉性の多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

池沼開発、水質汚濁、溜池の管理変更、産地局限。

保全対策

生育地である溜池の保護と、水質・水量の維持。



アサザ (ミツガシワ科) *Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

水深の浅い岸辺を持つ湿地がほとんど残されていないため、個体数が著しく減少しており、県内では現存する生育地が1ヶ所のみとなっている。

形態

スイレンのように葉を水面に浮かべる多年生の水草。葉は径5～10cmの卵形または円形でやや厚く、縁に波状歯牙があり、表面は緑色で裏面は紫褐色、長い柄がある。花冠は径4～5cm、黄色で5深裂し、裂片の先はへこみ、縁には長い毛がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市、氷見市北部（絶滅）。

生態・生育環境

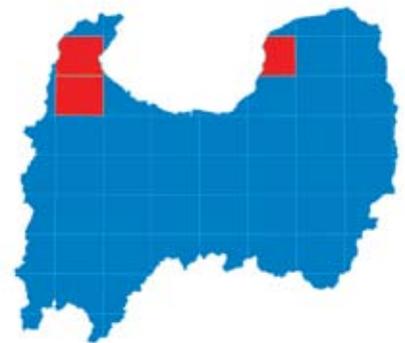
丘陵地および低地の池沼の岸辺。花期は6月。

生存への脅威

湿地開発、水田の乾田化。

保全対策

生育環境の保護管理。



オゼミズギク (キク科) *Inula ciliaris* (Miq.) Maxim. var. *glandulosa* Kitam.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地および個体数が極めて限定されており、わずかな環境変化で消滅する危険がある。

形態

茎の高さ25～50cmで、長さ4～8cmの葉をややまばらに互生する。茎の先に黄色の頭花を通常1個上向きに咲かせる。花時にも根葉がある。茎の中部以上の葉の裏に腺点が多い。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

山地の湿地に生育する多年草。花期は6～10月。

生存への脅威

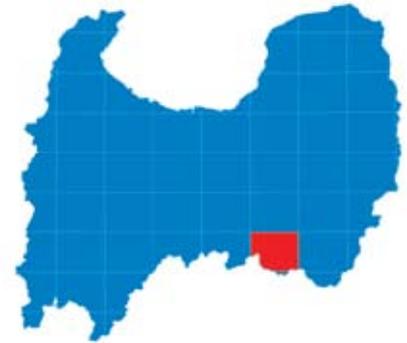
開発（特に湿地開発を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

有峰県立自然公園の指定植物。



ミヤコアザミ (キク科) *Saussurea maximowiczii* Herder

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。生育環境が植生の遷移により悪化しつつあり、絶滅の危機に瀕している。

形態

茎は高さ50～150cmになり、上部は分枝する。長い柄をもつ根生葉は花期に残る。茎葉は互生し、長楕円形で長さ10～30cm、羽状に深裂するが、上部の葉は切れ込まない。直径約1cmの淡紫色の頭花を多数つけ散房花序をつくる。

国内の分布状況

本州（福島県以西）、四国（高知県）、九州。

県内の分布状況

富山市中部、射水市南部。

生態・生育環境

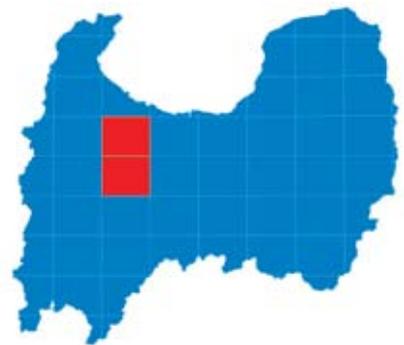
山地の湿原に生える多年草。花期は9～10月。

生存への脅威

産地局限、湿地の自然遷移。

保全対策

生育地の保全。



レンブクソウ (レンブクソウ科) *Adoxa moschatellina* L.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

県内で知られている生育地は1地域の2ヶ所のみで生育面積もわずかである。花の形態が珍しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。

形態

高さ約15cm。根生葉は2回3出複葉で、小葉はさらに羽状に裂ける。茎は根生葉とほぼ同長に伸び、1対の小さな茎葉がつく。茎葉の間から5cm程の花茎を伸ばし、先端に黄緑色の小さな花5個が集まってつく。5花のうち頂部の花は上向きで4裂し、他の4個は横向きで5裂する。

国内の分布状況

北海道、本州（近畿以北）。

県内の分布状況

高岡市中部。

生態・生育環境

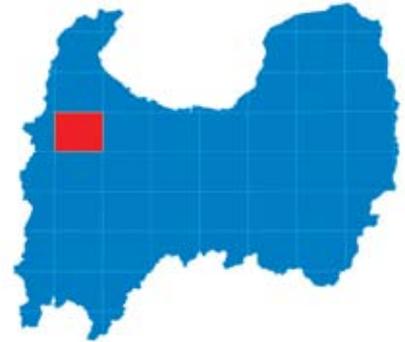
林内に生える多年草。花期は4月。白色の細長い地下茎を伸ばし、先端に球茎を作って増える。

生存への脅威

園芸採取、産地局限、道路拡幅。

保全対策

生育環境の保護管理。

**ホタルサイコ** (セリ科) *Bupleurum longiradiatum* Turcz. var. *elatus* (Koso-Polj.) Kitag.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

記録されている生育地が少なく各地で生育個体数が限られ、観賞用の山野草として採取されて個体数が著しく減少している。

形態

高さ50～150cmで、主茎や枝の先端に黄緑色の花を多数複散形状に咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南部、富山市南東部、南砺市東部。

生態・生育環境

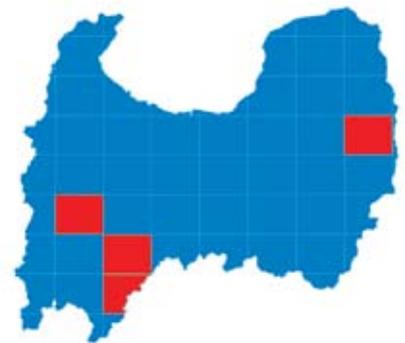
山地の陽地に生育する多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。



ミズスギ (ヒカゲノカズラ科) *Lycopodiella cernua* L.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、丘陵地帯の開発などによる生育地の消失や個体数の減少により絶滅の危機にさらされている。

形態

高さ3～50cmであるが、北海道、本州に分布するものは10cm程度。茎は小さな葉を密生して輪生状に分枝し、枝先に下向きの孢子囊穂をつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市西部、射水市南部、南砺市西部。

生態・生育環境

暖地の陽湿地に生育する常緑性のシダ植物。

生存への脅威

開発（特に丘陵地帯で湿地の改変を伴うもの）、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ミズニラ (ミズニラ科) *Isoetes japonica* A.Braun

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

県内に現存している生育地は3ヶ所程度で、水路工事等によって消滅するおそれがある。

形態

高さ20cm前後のひ弱なイグサのようなシダ。葉は塊茎から叢生し、細長く4稜ある円柱形で、長さ10～30cm。1本の葉脈がある。葉の付け根の内側に孢子囊があり、多数の孢子をつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

現存するのは富山市北部・西部、魚津市。小杉町南部、氷見市のものは絶滅したと考えられる。

生態・生育環境

泥土が時々攪乱される水湿地に沈水状態で、あるいは抽水状態で生育する。ため池等の水位が下がった時期（夏期、秋期）に短期間だけ出現することもある。夏緑性と考えられる。孢子は夏に熟し水で散布する。

生存への脅威

水路工事、ため池・休耕湿田の管理放棄、湿地開発。

保全対策

生育環境の保護管理。耕作と密接な関係がある場合が多い。

ヤシャゼンマイ (ゼンマイ科) *Osmunda lancea* Thunb.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

出水時に冠水する峡谷の岩地という限られた環境に生育しており、生育個体数は限定されている。また、葉が美しいので観賞用に採取される。

形態

葉は2回羽状複葉、ゼンマイより小型で長さ20～50cm。小羽片は狭い披針形で長さ3～6cm、革質で先端と基部はともに鋭尖形である。孢子葉の小羽片は線形である。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生育環境

出水時に冠水する峡谷の岩上や岩隙に生育する夏緑性のシダ。孢子葉は4月に伸びる。

生存への脅威

産地局限、園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。

ウチワゴケ (コケシノブ科) *Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、個体数も著しく少ない。

形態

葉身はうちわ形で、葉の基部は心形～広いくさび形。葉柄は短く、基部に暗褐色の毛がある。胞子嚢はトランペット形の包膜の中にできる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生育環境

常緑性。暖帯～温帯下部に多く、しばしば岩上や樹幹上に群落をつくる。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

オオアカウキクサ (サンショウモ科) *Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地の乾田化等により生育条件が後退し、個体数が減少している。

形態

分枝して葉が折り重なりヒノキの葉のようになる。全長1～7cmで全体が淡紅色である。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市北西部、氷見市東部、射水市南部、富山市中部。

生態・生育環境

水田や水路、溝などに生育する多年生の浮葉植物で5～7月に胞子嚢を形成する。

生存への脅威

土地開発、水田の乾田化。

保全対策

生育地の保護。

オオフジシダ (コバノイシカグマ科) *Monachosorum flagellare* (Maxim. ex Makino) Hayata

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内で確認されている生育地は1ヶ所のみで、生育個体数も限られている。開発や踏みつけにより生育条件が悪化する危険がある。

形態

葉は長三角形、2～3回羽状複葉で、葉柄を含め長さ30～70cm。胞子嚢群は小さくほぼ円形で、小羽片の縁近くにつく。葉の先端に不定芽を生じ新株を作ることがある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南部。

生態・生育環境

山地の湿った林床の岩上などに生育する常緑性シダ。

生存への脅威

産地局限、開発（特に森林伐採を伴うもの）、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

ハコネシダ (イノモトソウ科) *Adiantum monochlamys* D.C.Eaton

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。富山市南部の生育地は災害により消滅したと考えられるほか、園芸用の採取などにより個体数が著しく少なくなっている。

形態

根茎は短く、やや斜上する。葉は3～4回羽状に分岐し、葉片は狭扇形、頂縁は不規則な鋸歯縁となる。中軸は細く、赤褐色。胞子囊群は各葉片に1個ずつつく。

国内の分布状況

本州、四国、九州（最南端を除く）。

県内の分布状況

立山町中部、上市町南西部、富山市南部。

生態・生育環境

常緑性。やや乾いた林中の岩上や岩の傍らの地上に生育する。

生存への脅威

産地局限、園芸採取。

保全対策

生育地の保護。

トキワトラノオ (チャセンシダ科) *Asplenium pekinense* Hance

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内で知られている産地は1ヶ所のみで、個体数が著しく少ない。河川の古い石積護岸に生育するため工事の対象になるおそれがある。

形態

葉柄は長さ5cmに達することが多く、葉身は広披針形、鋭頭、長さ10～20cm、最下羽片が短い。鱗片は披針形で褐色、付着点の背面に褐色の毛が密生する。

国内の分布状況

本州（暖地）、四国、九州（南端を除く）と沖縄。

県内の分布状況

立山町西部。

生態・生育環境

常緑性。日の当たる山地、路傍や河川などの岩上や石垣に生育する。

生存への脅威

産地局限、河川改修。

保全対策

生育地の保護。

サキモリイヌワラビ (イワデンダ科) *Athyrium oblitescens* Sa.Kurata

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

既知の生育地が1ヶ所に限られ、生育個体数も極めて少ない。

形態

葉柄は長さ20～40cm、赤褐色を帯びる。葉身は三角状長楕円形で長さ30～50cm、2回羽状複葉。質はやや厚い。羽片に短い柄があり、先は細く伸びる。小羽片は柄がなく、基部前側が耳状となる。胞子囊群は小羽片の中肋寄りにつき、長楕円形。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生育環境

山地の林床に生える常緑性のシダ。

生存への脅威

産地局限、道路工事、斜面崩壊。

保全対策

生育地の確保と保護管理。

ヤマヒメワラビ (イワデンダ科) *Cystopteris sudetica* A.Braun et Milde 富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定されており、生育地の開発などにより個体数が減少するおそれがある。

形態

長く横走る根茎からまばらに葉を出す。葉は3回羽状複葉で、葉柄を含め長さ20～40cm。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

亜高山の林床に生育する夏緑性のシダ。

生存への脅威

産地局限、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

ミヤマノコギリシダ (イワデンダ科) *Diplazium mettenianum* (Miq.) C.Chr. 富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定され、生育面積も著しく小さい。生育地は除草等の人為が加わる神社林等であるため、本種の生存は管理環境に左右されている。

形態

単羽状のシダ。葉柄と葉身はほぼ同じ長さで、合わせて50～80cm。葉柄基部は褐色で鱗片がつく。羽片の先は尾状に尖り、裂片は先が丸く鋸歯がある。胞子嚢群は線形。

国内の分布状況

本州（新潟県・伊豆半島以西）、四国、九州。

県内の分布状況

砺波市東部、富山市南部。

生態・生育環境

丘陵地の常緑樹林内に生える常緑性のシダ。地下茎と胞子で増える。

生存への脅威

産地局限。神社林等の管理方法が変更された場合には減少する可能性がある。

保全対策

地域住民と連携した生育環境の確保と保護管理。

ヒツジグサ (スイレン科) *Nymphaea tetragona* Georgi 富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が溜池などに限られているが人為の影響を受けやすく、溜池の改修などで生育地が減少している。

形態

水上葉は卵円形～楕円形。地下茎は太く短い。花弁は8～15枚で、果実は水中で成熟する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市北西部、高岡市東部、上市町南西部、富山市西部。

生態・生育環境

池や沼に生育する多年草。

生存への脅威

溜池の管理、管理放棄、水質汚染、鯉などの飼育。

保全対策

溜池の水位、水質の維持。鯉などをため池に放さない。

特記事項

白山国立公園特別地域内指定植物。

マツモ (マツモ科) *Ceratophyllum demersum* L.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

現存する生育地は数ヶ所で、水質悪化や水位変動などの環境変化で絶滅する危険性がある。

形態

茎は、長さ20～80cmになり分枝する。節から長さ1.5～2.5cmで無柄の葉を数枚輪生。葉は二又状に細かく分裂する。花は小型で、花被片はふつう12枚。果実はそう果で、長く刺状に残る花柱1本と2本の刺がある。別名キンギョモ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

氷見市北部、砺波市。滑川市北部、富山市北部、高岡市では絶滅したと考えられている。

生態・生育環境

湿地や溜池、川に生える沈水性の水草。夏緑性。花期は6～8月。果実と茎の先端にできる越冬芽で増える。

生存への脅威

湿地開発、溜池の管理、産地局限。

保全対策

生育地の保護管理、休眠種子から再生できる環境の復元。

ハンゲショウ (ドクダミ科) *Saururus chinensis* (Lour.) Bail.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では生育地が少なくかつ極めて限定されているにもかかわらず、河川改修や湿地の乾燥化等により減少しつつある。

形態

茎は50～80cm、まれに1mになる。葉は卵状心形で先端は尖り、5～7脈がある。花期に上部の葉は、全体か基部側半分が白くなる。上部の葉腋から10～15cmの穂状花序をだす。花は小さく、花弁や萼片はない。雄しべ6～7本、雌しべ1本で小苞葉がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市中部、射水市西部、高岡市北部、氷見市南部。

生態・生育環境

小川、水溝、湿地に生育する多年草。花期は6～8月。

生存への脅威

小川や水溝、溜池の整備改修による生育地の減少と湿地などの管理放棄。

保全対策

生育地の保護。

アギナシ (オモダカ科) *Sagittaria aginashi* Makino

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

かつて水田雑草として広く分布していたが、水田圃場整備や除草剤散布により生育地と個体数が激減した。また池沼の整備によって生育条件が悪化している。

形態

葉は根生し葉身は基部が2つに裂けた矢じり形で長さ10～40cm。花茎は20～80cmとなり白色の花弁3枚からなる花を3個ずつ輪生する。葉形、花序ともにオモダカに類似するが、葉身が細く、基部の裂片は頂裂片よりやや短くて、先端は尖らず丸みを帯びる。走出枝はない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南部、入善町西部、黒部市中部、魚津市東部、富山市北西部、射水市南部、氷見市南部、南砺市、高岡市西部。

生態・生育環境

水田や池沼の浅いところに生える抽水植物、多年草。花期は8～9月。秋に葉柄の基部内側に多数の小球茎をつける。

生存への脅威

水田圃場の整備、除草剤散布、湿地開発。

保全対策

湿地の保護。

クロモ（二倍体）（トチカガミ科） *Hydrilla verticillata* (L.f.) Royle

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

三倍体は県西部各地の河川、用水路、溜池に分布するが、二倍体は魚津市のため池に生育が限られている。

形態

水中に茎を長く伸ばし60cmに達し、よく分枝する。下部の節からひげ根を出し各節に2～8個の長さ1.0～1.5cm、幅1～3mmの葉を輪生する。二倍体は三倍体より小型で繊細。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

魚津市南部（二倍体）。滑川市西部、富山市北部、射水市南部、高岡市北部、氷見市南部、小矢部市南部（三倍体）。

生態・生育環境

河川や池に生育する沈水植物。花期は8～10月で、秋に越冬芽をつくり、水底で冬を越す。雌雄異株と雌雄同株の系統があり、多年草である。三倍体が流れのある水路にも生育するのに対し、二倍体は溜池に見られる。

生存への脅威

溜池の管理。外来水草のオオカナダモ、コカナダモの繁茂により生育環境が奪われるおそれがある。

保全対策

溜池の水の維持、外来水草の侵入防止。

イトトリゲモ（トチカガミ科） *Najas gracillima* (A. Braun ex Engelm.) Magnus

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地、生育個体数ともに限られており、生育地の開発や環境変化などにより容易に減少するおそれがある。

形態

植物体は全長10～30cmでよく分枝する。葉は5輪生状、花は単性で腋生し雌雄同株、果実は各節に2個つき、種子は表面に縦に長い網目模様がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、砺波市東部、氷見市北部、小矢部市中部。

生態・生育環境

水田、溜池、湖沼などの泥土上に一時的に群生する一年生の沈水植物。花期は6～9月。

生存への脅威

開発（特に池沼の改変を伴うもの）、管理放棄（溜池、休耕田等）、水質汚濁、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護、水質汚濁の防止、除草剤使用の抑制。

イトモ（ヒルムシロ科） *Potamogeton berchtoldii* Fieber

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

文献、標本でホソバミズヒキモと混同されていることが多く、確実な自生地は県西部の溜池数ヶ所に限定されている。

形態

細い茎に長さ2～6cm、幅0.7～1.5cmの線形の葉をつける沈水植物。殖芽は約2cmでホソバミズヒキモより大きい。

国内の分布状況

日本各地に分布するが、西日本には少ない。

県内の分布状況

氷見市、砺波市東部。

生態・生育環境

池沼、溜池、用水路などに生育する沈水生の多年草。秋には枝の先端に越冬芽（殖芽）を形成する。

生存への脅威

池沼開発、水質汚濁、溜池の管理。

保全対策

生育地である溜池の保護と、水質・水量の維持。

サルメンエビネ (ラン科) *Calanthe tricarinata* Lindl.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全生育地で生育個体数が限られている。花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数・生育地がともに減少している。

形態

花茎の高さは30～50cmで、10数個の花を総状につける。花は唇弁が紫褐色をおびてふちが縮れている。葉は数個が束生する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市、上市町、立山町、富山市南部、有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園内。

生態・生育環境

ブナ林の中などに生える多年草。花期は4～5月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

森林開発、乱獲の抑制。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ユウシュンラン (ラン科) *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が極めて限定されており、個体数も著しく限られている。小柄でかわいい姿から園芸採取されることもあり、個体数は減少していると考えられる。

形態

茎は直立し高さ10～15cm。葉は茎の上部に1個つけ、長さ1～2cm。下部の葉は、鞘状に退化している。茎の先に、白色の花を2～3個半開状に咲かせ、長さ約1cm。唇弁の基部は筒状で距となり、中裂片の内側にある隆起線は黄褐色で3個。花柄の基部には葉を小型にしたような苞葉が1～2個つく。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部、南砺市南東部、魚津市南東部。

生態・生育環境

山地のやや湿った林内腐葉土に生える多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

採取の抑制、生育環境の保護管理。

特記事項

白木水無・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

キンラン (ラン科) *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全生育地で生育個体数が限られている。花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。

形態

高さは30～70cm。茎の頂部に3～12個の黄色の花をつける。葉は長楕円形で互生し、基部は茎を抱く。唇弁に黄褐色の隆条線がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、入善町、黒部市、滑川市、上市町、富山市、射水市、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市。

生態・生育環境

山地の落葉樹林内に生える多年草。花期は4～6月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理、乱獲の抑制。

特記事項

朝日・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。

ニョホウチドリ (ラン科) *Orchis jeo-iokiana* Makino

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地がごく一部に限定されている。花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。

形態

高さ10～20cm。地中に塊根がある。葉は2～3個、披針形で長さ数cm。花序は一方に偏った総状で、紅紫色の花を数個つける。

国内の分布状況

本州（関東北部、中部地方の一部、日本海側は富山県～福井県）。

県内の分布状況

魚津市南東部、富山市南東部。

生態・生育環境

亜高山の草地に生育する多年草。花期は8月。

生存への脅威

踏み荒らし、園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

有峰・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、白山国立公園特別地域内指定植物。

アオチドリ (ラン科) *Coeloglossum viride* (L.) Hartm. subsp. *bracteatum* (Muhl. ex Willd.) Hultén

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で生育個体数が限られ、開発、踏みつけによる生育条件の悪化や観賞用の山野草としての採取などにより、各地で個体数が減少している。

形態

高さ15～50cmで、2～8葉を互生し、茎の先に紫褐色を帯びた緑色の花を多数穂状に咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）、四国の高山。

県内の分布状況

黒部市南部、富山市南東部。

生態・生育環境

山地～高山帯の湿地、湿性の林床に生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採や湿地の改変を伴うもの）、踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

クマガイソウ (ラン科) *Cypripedium japonicum* Thumb.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。全生育地で生育個体数が限られている。

形態

高さ30～40cmで、花茎に1個の花と扇形の葉が2枚つく。唇弁は袋状で大きくふくれる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市中部、魚津市南部、上市町東部、立山町東部、富山市南部、南砺市中部。

生態・生育環境

丘陵や山地のスギ林の林床に生育する多年草。花期は4～5月。

生存への脅威

園芸採取、土地開発。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。

イチヨウラン (ラン科) *Dactylostalix ringens* Rchb. f.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、花が美しいため観賞用の山野草としての採取などにより個体数が減少し、絶滅の危機にさらされている。

形態

高さ10～20cmの直立した花茎の先に径2～3cmの花を1個咲かせる。側花弁は淡緑色、唇弁は白色で紫色の斑点がある。葉は長さ3～6cmの卵円形で株元から1個を出す。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南部、魚津市南東部、立山町中部、富山市南東部。

生態・生育環境

山地帯上部～亜高山帯の落葉広葉樹林や針葉樹林の林床に生育する多年草。花期は5～7月。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

朝日・有峰・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

キリガミネアサヒラン (ラン科) *Eleorchis japonica* (A.Gray) F.Maek. var. *conformis* (F.Maek.) F.Maek. ex H.Hara et M.Mizush.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている上に、遷移による乾燥化が進んでいる。園芸採取されることもあるため、絶滅するおそれがある。

形態

高さ20～30cmの茎に葉を1枚、紫紅色の花を1個つける。母種のサワランの花が横向きに咲くのに対し、キリガミネアサヒランは上向きに咲き、唇弁の形態も異なる。

国内の分布状況

本州中部の亜高山帯。

県内の分布状況

立山町東部、富山市南東部。白木水無県立自然公園内。

生態・生育環境

亜高山帯の湿地に生える多年草で、地表近くに偽球茎をもつ。花期は7～8月。

生存への脅威

湿原の乾燥化、園芸採取。

保全対策

自生地の保護、採取の抑制。

特記事項

有峰・白木水無県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

エゾスズラン (ラン科) *Epipactis papillosa* Franch. et Sav.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、個体数も非常に限られている。

形態

全体が緑色のラン。茎は直立して高さ30～60cmになり、数枚の葉を互生する。葉の長さは7～12cmで短毛がある。茎の上部に黄緑色の花を20個前後総状につける。苞は花よりやや長い。萼片、花弁の長さは約1cm、唇弁の先端部は卵形で上面中央付近が盛り上がり、後部は内側に巻き内面は暗褐色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部、南砺市南東部。

生態・生育環境

深山の林内に孤立して生える多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

園芸採取、産地局限、スキー場開発。

保全対策

採取の抑制、生育地の確保と保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

クロヤツシロラン (ラン科) *Gastrodia pubilabiata* Sawa富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

生育環境が極めて限定され、県内で確認された自生地は1ヶ所だが、全国的に発見が相次いでいることから県内で他にも分布する可能性がある。

形態

アキザキヤツシロランによく似ているが、植物全体が暗紫褐色。茎は高さ1～3.5cm。花は茎頂に1～8個つけ平開性。側花弁は狭楕円形。唇弁の基部にある1対の球体の表面は網毛状突起に被われ、先端には黒褐色をした2個の隆起線がある。

国内の分布状況

本州（千葉以西）、四国（徳島県、高知県）、九州（福岡県、宮崎県、鹿児島県）。

県内の分布状況

富山市西部。

生態・生育環境

スギの混じった竹林などに生育。花期は9～10月。

生存への脅威

竹林の整備、伐採。

保全対策

竹林の安定維持。

ヒメミヤマウスラ (ラン科) *Goodyera repens* (L.) R.Br.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

県内の生育地、個体数は極めて限られており、採取や踏みつけなどにより個体数が減少している。

形態

茎は直立して高さ10～20cm。葉は数個、茎の下方に互生し、卵形で鈍頭、葉面に白色の網目状の斑紋がある。5～12個の汚白色の花を偏ってつける。

国内の分布状況

北海道、本州（中北部および大台ヶ原山）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

針葉樹林下に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、採取、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

有峰県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

ムヨウラン (ラン科) *Lecanorchis japonica* Blume富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

生育環境が限定され、もともと個体数は多くない。場所によってはホクリクムヨウランと混生しており、誤認されている可能性もある。

形態

茎は高さ30～40cmで直立し、硬く針金状で毛はなく、数個の鞘状葉をまばらにつける。筒状で長さ約2cmの淡黄色の花が数個つく。

国内の分布状況

本州（東北地方南部以南）、四国、九州。

県内の分布状況

砺波市東部、射水市中南部、富山市南部、朝日町北部、上市町西部。

生態・生育環境

常緑カシ林やコナラ混交林の林床に生える腐生植物。花期は5～6月。

生存への脅威

森林伐採、間伐による環境変化、遷移進行。

保全対策

森林環境の維持。

ホクリクムヨウラン (ラン科) *Lecanorchis japonica* Blume var. *hokurikuensis* (Masam.) T.Hashim.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限定され、生育個体数が限られている。

形態

高さ20～40cmの暗紫色の細い茎の先に、長さ1.5cmの暗紫色の花を数個下垂してつける。花はあまり開かず、色の変異が大きい。葉はない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、上市町中部、富山市西部、小矢部市南西部。

生態・生育環境

薄暗い常緑カシ林やコナラ林などの林床に生える腐生植物。花期は6～7月。

生存への脅威

産地局限、樹木伐採、遷移進行。

保全対策

生育地の保護（林床の光環境を維持）。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。

ギボウシラン (ラン科) *Liparis auriculata* Blume ex Miq.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

県内では2カ所で分布が確認されているに過ぎず、園芸採取の危険性が非常に大きいと考えられる。

形態

葉は広卵形、急鋭頭、基部は心形、長さ5～12cm、幅3～8cm、脈間がくぼんで一見ギボウシ属のように見える。帯白色ときに紫黒色の花を十数個つける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、南砺市中部。

生態・生育環境

落葉樹林中および湿地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）、遷移進行。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

セイタカスズムシソウ (ラン科) *Liparis japonica* (Miq.) Maxim.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、個体数が著しく少ない。花が美しいために観賞用の山野草として採取され、ほとんど全ての生育地では、絶滅した可能性がある。

形態

高さ30cm前後になる草本。地下の偽球茎から2枚の葉を対生状に出し、中心から直立する花茎を出す。葉の長さは6～12cm、幅3～5cmで薄く柔らかい。淡紫色で質の薄い花を20個前後、花茎の先端につける。唇弁の長さは7～9mmで、形は倒卵形で外曲せず平らで、先は急に尾状とならない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、入善町北部、立山町中部、上市町中部ではいずれも現存するかどうか不明。南砺市中部（2011年確認）。

生態・生育環境

山地の林内の暗すぎない地上または倒木上に生える。花期は6～7月。

生存への脅威

園芸採取、産地局限。

保全対策

採取の抑制、生育環境の保護管理。

特記事項

朝日・白木水無県立自然公園の指定植物。

ジガバチソウ (ラン科) *Liparis krameri* Franch. et Sav.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では数ヶ所で生育が確認されているが、採集圧や生育地の開発等による絶滅の危険性がある。

形態

葉は2個あって、広卵形、やや鋭頭、長さ3～8cm、幅2～4cm。葉脈は横走の2次脈が顕著で網目模様となる。淡緑色の花を10～20つける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市中部、富山市南東部、南砺市南部。

生態・生育環境

山地樹林下または林縁部に生育する多年草。花期は5～7月。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

有峰・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

シテクモキリ (ラン科) *Liparis purpureovittata* Tsutsumi, Yukawa et M.Kato

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

近年分類された種で、県内では4ヶ所で生育が確認されているが、園芸目的の採取により個体数が減少する恐れがある。

形態

クモキリソウに似るが、花が疎らで唇弁は緑色だが中央の溝の基部が紫色、他の花被片も普通紫色を帯びる。

国内の分布状況

北海道、本州

県内の分布状況

富山市南西部、南東部、立山町南部、

生態・生育環境

やや湿り気のある明るい林縁に生育。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

有峰・白木水無県立自然公園の指定植物。

アオフタバラン (ラン科) *Listera makinoana* Ohwi

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、生育個体数も限られている。観賞用の山野草としての採取や開発（森林伐採を伴うもの）などにより生育個体数が減少している。

形態

高さ10～25cmで、細い茎の下部に2葉を対生し、上部に淡緑色の5～20花をまばらに咲かせる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町南東部、魚津市南東部。

生態・生育環境

山地の林床に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）、踏みつけ。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

アリドオシラン (ラン科) *Myrmechis japonica* (Rchb.f) Rolfe

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で生育個体数が限られており、一部では登山者の踏みつけなどによって減少している。

形態

高さ5～8cmで、先端に長さ7～9mmの白い花が横向きにつく。花は白い萼片と花弁からなる。茎には卵形の小さな葉が数枚つく。

国内の分布状況

北海道、本州（近畿以北）、四国。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南部、魚津市南東部、上市町東部、立山町東部、富山市南東部。

生態・生育環境

ブナ林やオオシラビソ林などの林床に生育する。花期は7～8月で、多年草である。

生存への脅威

産地局限、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

有峰・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ミヤマモジズリ (ラン科) *Neottianthe cucullata* (L.) Schltr.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。また園芸採取されることもあるため、絶滅する恐れがある。

形態

高さ10～20cmで葉は根際に2枚つく。ネジバナに似て、淡紅色の花を多数らせん状につける。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）、四国。

県内の分布状況

南砺市南東部。

生態・生育環境

ブナ帯上部から亜高山帯の針葉樹林下に生える多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ウチョウラン (ラン科) *Ponerorchis graminifolia* Rchb.f.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

限られた環境に生育するためもともと個体数が少ないが、花が美しいために観賞用の山野草として採取され、激減している。

形態

高さ10cmほどの茎に細長い葉を2～3枚つけ、先に紅紫色の花を数個つける。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町中部、黒部市南部、魚津市南部、立山町中部、南砺市西部、南砺市東部、富山市南部。

生態・生育環境

温帯域の渓谷の湿った崖などに生育する多年草で球根がある。花期は6～8月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

乱獲の抑制。

特記事項

朝日・僧ヶ岳・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域の指定植物

タカネトンボ (ラン科) *Platanthera chorisiana* (Cham.) Rchb.f.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

各地で生育個体数が極めて限られ、園芸目的の採取などにより個体数が減少している。

形態

高さ8～20cmで、茎の下部に広楕円形の葉が2枚接近してつき、茎の先に黄緑色の花をやや多数穂状に咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、立山町南東部、富山市南東部。

生態・生育環境

高山の湿性草地に生育する多年草で、花期は7～9月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

採取の抑制。

特記事項

中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ツレサギソウ (ラン科) *Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で個体数が限られていることに加え、園芸用の山野草として採取され、個体数が減少している。

形態

高さ30～50cmで、長さ10～20cmの葉を根際に数枚つける。花は長い距があり淡緑白色、数十個が穂状につく。

国内の分布状況

北海道（南西部）、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町北西部、魚津市北東部、魚津市南東部、富山市南東部・南部、氷見市北西部。

生態・生育環境

丘陵地、山地の日当たりのよい草地や林内に生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

産地局限、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

朝日・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

タカネサギソウ (ラン科) *Platanthera mandarinorum* Rchb.f. subsp. *maximowicziana* (Schltr.) K.Inoue

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地、個体数は極めて限られており、採取や踏みつけなどにより個体数が減少している。

形態

茎は高さ10～15cm。葉は最下葉が大きく、長さ3～4cm、幅2cm、長楕円形で鈍頭、基部は葉を抱く。淡黄緑色の小花を5～10個、穂状につける。

国内の分布状況

北海道、本州中北部。

県内の分布状況

黒部市西部。他に朝日南東部（古い標本のみ）、立山町東部（文献のみ）。

生態・生育環境

高山帯の多雪地のやや湿った草原に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、採取、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

トキソウ (ラン科) *Pogonia japonica* Rchb. f.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(VT)

選定理由

全生育地で生育個体数が限られ、観賞用の山野草としての採取や生育地の乾燥化などにより個体数が減少している。

形態

高さ20～40cmで、茎の中部付近に披針形の葉を1枚つける。茎の先に淡紅紫色の花を1個咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北部、黒部市北部、上市町中部、立山町南東部、富山市南東部・南西部、小矢部市南東部、南砺市南部。

生態・生育環境

湿原に生育する多年草で、花期は5～7月。

生存への脅威

園芸採取、遷移進行、開発（特に湿地の改変を伴うもの）。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護、灌木等の除伐。

特記事項

有峰・五箇山・白木水無県立自然公園の指定植物、白山国立公園・能登半島国定公園特別地域内指定植物。

ヒトツボクロ (ラン科) *Tipularia japonica* Matsum.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で生育個体数が著しく限られており、主な生育環境であるアカマツ林の衰退が進行しつつある。

形態

葉は1枚。柄があり長卵形で長さ4～7cm、幅2～3cm。暗緑色で中脈が白く、裏面は紫色を帯びる。花茎は細長く褐色で高さ15～25cm、小さな花を10個前後つける。唇弁は淡紅紫色で長さ3mmの倒卵形、3裂する。距の長さは5mm。地下の偽球茎は、数珠状に2、3個連なる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、魚津市中部・南東部、射水市南部、砺波市東部。

生態・生育環境

アカマツ林のようなやや乾いた林内で見られる多年草。生育環境であるアカマツ林が里山の管理放棄により植生遷移が進行し衰退している。

生存への脅威

里山の管理放棄、松食い虫の拡散、園芸採取、自然遷移。

保全対策

生育環境の保護管理、採取の抑制。

特記事項

朝日・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

オオハクウンラン (ラン科) *Vexillabium fissum* F.Maek.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が極めて限られており、生育個体数も限られている。踏みつけや鑑賞用の山野草としての採取などにより個体数が減少している。本州・九州の山地に生育するものはハクウンラン (*V. nakainanum* F.Maek) とする見解もあり、オオハクウンラン及びハクウンランの両種をあわせて選定する。

形態

葉は卵頭形で長さ9～13mm、葉柄があって、基部は茎を抱く。花序は白色。

国内の分布状況

本州、九州、伊豆七島の利島、新島、三宅島、御蔵島。

県内の分布状況

魚津市南東部、上市町東部。

生態・生育環境

山地の落ち葉が堆積した柔らかい林床に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、園芸採取、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護管理。

カキツバタ (アヤメ科) *Iris laevigata* Fisch.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

もともと県内では生育地、個体数が多くないと考えられるうえに、湿地の開発や水質汚濁、自然遷移の進行、園芸目的の盗掘などにより減少している。

形態

高さ40～70cmの茎の先に、2～3個の大きな青紫色の花をつける。外花被片の中央部に白色の筋状斑紋がある。葉はやや幅の広い剣形で、長さは30～60cm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北西部、上市町北西部、富山市南部および西部、氷見市中西部、砺波市、南砺市中部。

生態・生育環境

日当たりのよい水湿地に生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

産地局限、湿地の開発、水質汚濁、自然遷移の進行、園芸採取。

保全対策

湿地の開発の抑制、水質汚濁の防止、自生地の保護、採取の抑制。

ヤマトミクリ (ミクリ科) *Sparganium fallax* Graebn.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、生育個体数も少ない。

形態

高さ50～100cm。葉は細長く刀状で、花序は分枝しない。上側に雄性頭花が4～8個つき、下側に腋上性の雌性頭花が3～6個つく。雌性頭花のある主軸はジグザグ状に曲がる。

国内の分布状況

本州（岩手県以西・日本海側は新潟県以西・関西に多い）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北西部、富山市南西部、小矢部市南部。

生態・生育環境

用水、溜池、池沼などに生育する多年生の抽水植物。花期は7～9月。

生存への脅威

用水改修、ため池の改修、埋め立て。

保全対策

生育環境の保護管理。

ヒメミクリ (ミクリ科) *Sparganium subglobosum* Morong

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が少なく個体数が限られている。生育環境である湿地縁は開発される可能性が高い。

形態

高さ30～90cmで直立し、上部で多少屈曲する草本。葉の幅は2～10mm、裏に稜がある。雌性頭花は1～3個、葉腋または葉腋からでる枝の下部につき、全て無柄。花序は分枝しない。雌性頭花だけが2～4個着生する場合と下部の苞の腋から1～2本の小枝がでて、1～3個の雌性頭花と数個の雄性頭花がつく場合とがある。雌性頭花はお互いに離れて着生するが、雄性頭花はやや接近してつく。主軸では、雄性頭花の数は5～10個。果実は小柄がなく広卵状菱形で長さ4～5mm、幅2～3mm、稜がある。果実には小刺はない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北部、黒部市北部、滑川市北部、富山市南西部、高岡市南部、氷見市南部。

生態・生育環境

湿原に生えるものは直立して花序をつけるが、流水中に生えるものはほとんどが沈水型となって流れにゆらめいており、めったに花序をつけない。花期は8月、果期は9月。種子と地下茎で増える。

生存への脅威

湿地開発、河川改修。

保全対策

生育環境の保護管理。

タカネシバ (カヤツリグサ科) *Carex capillaris* L. subsp. *chlorostachys* (Steven) Á.Löve, D.Löve et Raymond

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

国内における分布地域が極めて限られており、県内でも生育地が極めて限定されているため、環境変化によって絶滅するおそれがある。

形態

高さ7～20cm根茎は短く、匍枝はない。葉は短く幅1～1.5mm、基部の鞘は一部分暗赤色。オノエスゲに似ているが雌小穂はやや密に雌花がつく。

国内の分布状況

北海道、本州（東・中部）。

県内の分布状況

朝日町南部の高山。

生態・生育環境

高山帯の蛇紋岩崩壊地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

気候変動、産地局限、斜面崩落。

保全対策

生育地の保護。

ミコシガヤ (カヤツリグサ科) *Carex neurocarpa* Maxim.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

2004年に県内ではじめて分布が確認された。生育地は1ヶ所であるが個体数は比較的多い。主に太平洋側に分布する本種の日本海側の生育地としては貴重である。造成工事の際に土砂と共に持ち込まれた可能性もあるが、現時点では野生種として扱う。

形態

全体にさび色の小斑点がある。茎は株になって匍枝がなく高さ20～60cm、鈍稜があって平滑。葉は幅2～3mm。柄のない雌雄性の小穂が密に集まって長さ3～8cmの狭卵形の花序をつくり帯淡赤褐色。頂部には雄花がつく。果胞は雌鱗片より長く卵形、長さ約4mm、稜間には多数の脈があり、縁には広い翼がある。花序下方の苞は長い葉状で開出する。

国内の分布状況

本州（岩手県～近畿地方）。

県内の分布状況

富山市中西部。

生態・生育環境

平地や河川の縁などの湿った草地に生育する多年草。5～6月に熟す。

生存への脅威

工場建設、遷移進行。

保全対策

定期的な攪乱。

カラフトイワスゲ (カヤツリグサ科) *Carex rupestris* Bellardi ex All.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、個体数も多くないため、環境変化によって絶滅するおそれがある。

形態

高さ5～15cm。頂端に長さ1～2cmの小穂を1個つける。小穂の上部に雄花、下部に雌花がつくが、雄花部分のほうが長い。果胞は長倒卵形で鈍い3稜があり無毛で口部は全縁。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南部。

生態・生育環境

高山帯の砂礫地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

オノエスゲ (カヤツリグサ科) *Carex tenuiformis* H.Lév. et Vaniot.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、個体数も多くないため、環境変化によって絶滅するおそれがある。

形態

高さ10～30cm。頂小穂は雄性で棍棒状、側小穂は雌性で線柱形。匍枝はなく、株基部の鞘は暗褐色。果苞は狭卵形で、口部は凹形。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）。

県内の分布状況

朝日町東南部。

生態・生育環境

高山帯の草原や砂礫地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

ヒメモエギスゲ (カヤツリグサ科) *Carex pocilliformis* Boott

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

近年の生育情報はないが、隣県の隣接地域の標本があることから、限定的には生育しているものと考えられる。さらに情報収集を要する。

形態

根茎は叢生し匍枝はない。稈は高さ10～40cm、繊細で糸状3稜形で、平滑。葉は扁平で幅1.5～4mm、軟らかい。基部の鞘は褐色で萎縮し繊維状に細裂する。小穂は3～4個、頂小穂は雄性で線形、長さ0.5～1.5cm、側小穂は雌性で狭柱形、長さ0.5～1.5cm。モエギスゲに似るが、果胞がやや小型で雄花の鱗片がコップ形になる。別名コップモエギスゲ。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市北西部（1979年標本のみ）、富山市中西部（文献記録のみ）。

生態・生育環境

乾燥した草地またはアカマツ林などに生育する多年草。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。

ヌイオスゲ (シロウマヒメスゲ) (カヤツリグサ科) *Carex vanheurckii* Müll. Arg.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も多くないため、環境変化によって絶滅するおそれがある。

形態

高さ8～40cm。頂小穂は雄性で長さ1～2cmの線柱形、側小穂は雌性で5-10mmの短円柱形。基部の鞘は赤紫色。ヒメスゲによく似ているが、雄小穂が長い。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南部、立山町東部および北部、富山市南東部。

生態・生育環境

亜高山帯～高山帯の草原中に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

コアゼテンツキ (カヤツリグサ科) *Fimbristylis leiocarpa* Maxim.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は数ヶ所のみで改変の多い水湿地に生育するため、環境の変化で容易に消滅するおそれがある。

形態

茎は高さ5～15cm。アゼテンツキに似るが、鱗片は凸頭で外曲せず、花柱の基部には長毛がない。花序は散形、散開し、長さ2～4cm、やや多数の枝がある。小穂は多数。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

射水市中南部、富山市南東部。

生態・生育環境

田畑や路傍に生育する小形の1年草。花期は8～10月。

生存への脅威

遷移進行、開発。

保全対策

生育地の保全。

アオテンツキ (カヤツリグサ科) *Fimbristylis dipsacea* (Rottb.) C.B. Clarke var. *verrucifera* (Maxim.) T. Koyama

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

2004年に県内で初記録され、かなりの面積を覆っていたことや埋土種子を多数作ることから、緊急性は低いものの生育地が1ヶ所だけなので絶滅の危険性があると考えられる。

形態

茎は長さ5～15cm。小穂は淡緑色で卵円形、密に鱗片をつけて長さ3～6mm。鱗片は長さ1mm、上端は芒に終わり、果は柄があって、長さ0.3mm、縁に数個の円形の附属体がつき、花径は短くて花後には脱落する。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市西部。

生態・生育環境

平地の湿地に生育する。

生存への脅威

ため池の放置。

保全対策

ため池の管理。

フトイ (カヤツリグサ科) *Schoenoplectus tabernaemontani* (C.C. Gmel.) Palla

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育条件が池沼開発により悪化しつつあり、個体数が減少している。生花用として採取の対象ともなっている。

形態

茎は高さ1～2m、径1～2cmの太い円柱形で、葉はふつう葉鞘だけになっている。茎の先に数個の枝がついてその先に1～3個の卵形で赤褐色の穂がつく。根茎は太く横に這う。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市北部・南西部、高岡市北部・西部、氷見市北部・東部、射水市北部、小矢部市南部・北部。

生態・生育環境

平地や丘陵地の池沼、川岸の浅水中に生育する抽水植物。花期は7～10月で多年草。

生存への脅威

池沼開発、園芸採取。

保全対策

水辺の保全、採取の抑制。

コシンジュガヤ (カヤツリグサ科) *Scleria parvula* Steud.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が著しく少なく、生育条件が湿地の開発や自然遷移により悪化しつつある。

形態

高さ30～50cmで葉は線形、葉鞘に翼がある。果実は直径約2mmで白色球形、格子状の模様がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北西部（絶滅）、黒部市北西部（絶滅）、立山町北西部、富山市中部、富山市西部、射水市南部、魚津市中部。

生態・生育環境

湿地に生育する一年草。花期は7～9月。

生存への脅威

湿地の開発、自然遷移。

保全対策

湿地の開発の抑制、生育地の保護。

オガルカヤ (イネ科) *Cymbopogon tortilis* (J.Presl) Hitchc. var. *goeringii* (Steud.) Hand.-Mazz.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

ほとんどが古い情報であるが、近年では射水市、高岡市で生育が確認されており、生育地が人為の影響を受けやすい河川敷や法面などであることから、管理変更によっては容易に絶滅するおそれがある。

形態

直立して高さ1m内外になり、やや株立ちになる。葉は線形で、幅3～5mm。茎はやや硬くて平滑で、短く分岐し、多数の文花序をつけて、長さ20～40cmの円柱状の花序をつくる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

射水市南部。他に射水市東部（1999年）、高岡市東部（1991年）、富山市、氷見市、黒部市、魚津市に記録はあるが近年のものはない。

生態・生育環境

平地のやや湿性の草地に生育する多年草。花期は8～11月。

生存への脅威

生育地の開発、除草、遷移進行、外来種との競合

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。

ウキガヤ (イネ科) *Glyceria depauperata* Ohwi var. *infirmata* (Ohwi) Ohwi

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、生育個体数も少ない。ため池や水路の改修により消滅するおそれがある。

形態

イネを細くしたような水草。葉は長さ3～9cm、幅2～4mm、葉梢は平滑で、葉舌は長さ2～5mm。円錐花序はほぼ直立し長さ10～25cm、小穂は長さ10～25mmで7～17個の小花をつけ、中軸に寄り添って直立する。内穎は護穎とほぼ同長。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

上市町南部、高岡市北部の丘陵地湿地。

生態・生育環境

丘陵地の溜池や水路などに生える多年生の水草。茎の基部は水底を這い、節間から根を出す。上部は水面に浮いて伸びる。花期は5～7月。

生存への脅威

湿地開発、水路のコンクリート化。

保全対策

生育環境の管理保全。

テンキグサ (イネ科) *Leymus mollis* (Trin. ex Spreng.) Pilg.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内数カ所で確認されているが、生育地の砂浜海岸が開発や四輪駆動車の乗り入れなどにより、生育面積が狭くなってきている。

形態

長い根茎が出る。硬く、全体に平滑で、白緑色を帯びる。茎は丈夫でやや太く、高さ50～100cmになる。花序の下部に白い軟毛がある。葉は厚く、表面に多数の隆条がある。花穂は直立し、長さ10～25cmで、白緑色、長い軟毛がある。小穂は長さ1～2.5cm、3～5個の小花がある。

国内の分布状況

北海道、本州、九州北部。

県内の分布状況

魚津市北西部、高岡市北東部、射水市北東部、氷見市南東部、富山市北西部。

生態・生育環境

海岸砂質地に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

海岸の開発、四輪駆動車の乗り入れ。

保全対策

開発の抑制、海岸への自動車乗り入れ制限。

タカネタチイチゴツナギ (イネ科) *Poa glauca* Vahl

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

国内における分布地域が限られており、県内でも生育地が極めて限られている。環境変化によって絶滅するおそれがある。

形態

高さ15～30cmの茎が多数密集し、短い柄のある小穂が円錐花序をつくる。全草に青みがあり、葉は下部に集まる。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、立山町南東部、立山町北東部、富山市東部。

生態・生育環境

高山の岩礫地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

リシリカニツリ (イネ科) *Trisetum spicatum* (L.) K.Richt. subsp. *alaskanum* (Nash) Hultén

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

国内における生育地域が限られており、県内でも産地が極めて限定されている。環境変化によって絶滅するおそれがある。

形態

高さ10～30cmで全体に細毛が密生する。花序は長さ3～10cmの円柱状で、外穎先端の長い芒が目立つ。

国内の分布状況

北海道、本州（北アルプス、南アルプス、八ヶ岳）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南東部、立山町南東部、富山市南東部。

生態・生育環境

高山の礫の多い草地や岩礫地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ナガミノツルケマン (ケマンソウ科) *Corydalis raddeana* Regel

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内での生育地点が局限されている。植生遷移に伴って消滅しつつある。

形態

茎は長さ1mほどで半つる状に這い、無毛、白緑色で陵がある。葉は2～3回3出複葉。花は黄色で長い距がある。ツルケマンより苞がやや小型で幅2～5mm。蒴果は線状倒披針形で幅2～2.5mm、種子はほぼ1列に並ぶ。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

富山市中南部。

生態・生育環境

山中の半日影地に生える一年草～越年草。花期は7～10月。

生存への脅威

開発。

保全対策

生育地の保護。

マンセンカラマツ (キンポウゲ科) *Thalictrum aquilegifolium* L. var. *sibiricum* Regel et Tiling

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も極めて少ないことから、絶滅の危険が増大している。

形態

茎は高さ50～120cmで、上部はよく分枝する。葉は3～4回3出複葉で、カラマツソウに類似するが、そう果が倒卵形で先が切形であることから区別できる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市南部・西部（絶滅）。

生態・生育環境

開けた草地や河原に生える多年草。花期は4～6月。

生存への脅威

産地局限、草地開発、河川改修。

保全対策へ

河原の草地の保全。

ムカゴユキノシタ (ユキノシタ科) *Saxifraga cernua* L.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地および個体数が極めて限定されており、わずかの環境変化で消滅するおそれがある。

形態

高さ4～25cmで、小さな掌状の葉が少数あり、その腋に無性芽をつける。花は白色で直径約1cm。

国内の分布状況

本州（北アルプス、南アルプス、八ヶ岳）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南部。

生態・生育環境

高山の湿った岩礫地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

タテヤマイワブキ (ユキノシタ科) *Saxifraga nelsoniana* D.Don var. *tateyamensis* H.Ohba

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地が2ヶ所に限られており、個体数が著しく少ない。立山町の劔岳がタイプ産地である。

形態

チシマイワブキに似た植物であるが、花の直径は1.1cm、花弁の基部には爪がある。また、花茎と葉柄には果実期まで残存する目立つ毛がある。苞は狭披針形で長さ1cm。

国内の分布状況

本州（富山県）。

県内の分布状況

立山町南部、黒部市南東部。

生態・生育王買境

高山の岩上に生育する多年草。花期は7月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育環境の保護管理。

イチチュウミセバヤ (バンケイソウ科) *Hylotelephium sieboldii* (Sweet ex Hook.) H.Ohba var. *ettyuense* (Tomida) H.Ohba

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

富山県の固有植物で、生育地が極めて限定されている。タイプ産地はダム建設により水没したが、その周囲や似た環境の場所に少数の個体群がある。

形態

茎は長さ10～30cmで、長さ1.5～3cmの丸い肉厚の葉をつける。花は淡赤紫色で、茎の先に半球形に密につく。

国内の分布状況

富山県固有種。

県内の分布状況

立山町西部、富山市南部。

生態・生育環境

溪谷の切り立った崖や道路法面の露出した集塊岩上に生える多年草。花期は10月。

生存への脅威

開発（河川改修、道路造成、ダム建設）、園芸採取、環境の変化（遷移進行、岩盤の崩落、気候変動）、産地局限。

保全対策

自生地の保護、乱獲の抑制。

ススヤアカバナ (アカバナ科) *Epilobium parviflorum* Schreb.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内で近年分布が確認され、生育地は1ヶ所に限られているが、個体数は多い。

形態

茎は下部でやや木質化し、高さ80～140cm、基部は太く、直立、上部で分枝し、円柱状、開出長軟毛を密生し、上部では腺毛がわずかに混ざる。葉柄は0.5～2mm。葉身は長さ2～9cm、両面に長軟毛が密生し灰緑色、長楕円状披針形、鋭頭、基部は円形、先が腺に終わるごく低い鋸歯がある。萼片は長さ2～3mm、表面に腺毛が密生し長軟毛が混ざる。花弁は長さ4～7mm、淡紅色。柱頭が4裂し、最も長い雄蕊とほぼ同じ高さに位置する。

国内の分布状況

本州（茨城県、富山県、石川県）。

県内の分布状況

射水市北東部。

生態・生育環境

湿草地にはえる多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

湿草地の開発など。

保全対策

生育地の保護。

モメンヅル (マメ科) *Astragalus reflexistipulus* Miq.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

1990年代前半には県内の3ヶ所に生育していたが、その後の法面工事等により再確認できない状況が続いており、生育個体数はかなり減少していると考えられる。

形態

高さ30～80cmになる草本。茎は他の植物にもたれかかって伸びる。葉は13～19枚の小葉がつく奇数羽状複葉で長さは15～30cm程で互生する。総状花序は長さ2～3cmで、8～15個の淡黄緑色の蝶形花をつける。萼は長さ7～8mm、暗褐色毛がある。豆果は密集してつき中に多数の種子ができる。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

南砺市南東部、南西部。

生態・生育環境

山地の草原に生える多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

産地局限、道路工事、ダム建設、自然遷移。

保全対策

生育環境の保全。

特記事項

五箇山・医王山県立自然公園の指定植物。

イヌハギ (マメ科) *Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold. ex Maxim.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NI)**選定理由**

既知の生育地が2ヶ所に限られており、うち1ヶ所では近年の生育が確認されていない。

形態

高さ1m前後になり白い花をつけるハギ。全体に黄褐色の軟毛が密に生える。小葉は長楕円形で長さ3～7cm、幅1～4cm。花は枝先から長さ10cm前後に伸びる花序の軸に多数つき、やや黄色を帯びた白色。旗弁の中央部は紅紫色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町東部、富山市北東部。

生態・生育環境

海岸林の林縁や日当たりの良い草地に生える。花期は7～9月。葉腋には多数の閉鎖花もつける。

生存への脅威

河川敷の安定化に伴う遷移の進行、河川敷の開発。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。

ハマナス (バラ科) *Rosa rugosa* Thunb.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)**選定理由**

県内では護岸堤建設などの海岸整備により生育可能地が減少し、野生状態で生育するものが極めて少ない。

形態

高さ1～2mの落葉低木。枝はやや堅く、扁平な太い刺と細い針を多数つける。葉は奇数羽状複葉、小葉は7～9枚、楕円形で表面にしわがあり、長さ3～4cm。枝の先端に1～3個の大きな花をつける。花は赤紫色であるが、まれに白色のものもある。果実は扁球形で大きく、直径2.5cmにもなり赤橙色に熟す。

国内の分布状況

北海道、本州（鳥取県以東）。

県内の分布記録

朝日町北部、黒部市北部、魚津市北部、高岡市北部、氷見市東部。ただし氷見市虻ヶ島は絶滅。

生態・生育環境

海岸の砂地に生育する。花期は6～7月で、果実期は8～9月である。

生存への脅威

海岸整備、園芸採取。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。

一時、県内では自生株は絶滅したと考えられていたが、近年、朝日町、黒部市、氷見市の海岸において、自生と見られる株が確認されている。一方、県内各地には植栽による株が多数見られ、自生起源によるものと判別が難しい場合もある。

サナギイチゴ (バラ科) *Rubus pungens* Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では生育地が1ヶ所に限定されており、個体数が著しく少ない。

形態

茎は細く、長く伸びてつる状となる。茎の先端から発根し幼植物をつくる。葉は5～7枚の小葉からなる羽状複葉。昨年出た茎の節から3～4枚の葉とともに1～2個の花がつく。果実はキイチゴ状果で赤く熟す。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南西部（現存確認）。

生態・生育環境

山地の岩場、林縁、疎林下、石灰岩の山地に多い。花期は5～6月。果実期は6～7月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

白木水無県立自然公園の指定植物。

ニオウヤブマオ (サイカイヤブマオ) (イラクサ科) *Boehmeria holosericea* Blume

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では生育地が限られており、海岸の開発や改修工事により個体数が減少している。

形態

高さ1～1.5m。葉は大型卵円形で裏面に軟毛が多い。縁に中くらいで左右同形の鋸歯がある。ラセータソウに似るが、葉面のちりめん状しわは著しくない。

国内の分布状況

本州（富山県、山口県）、九州。

県内の分布状況

高岡市北部、氷見市北東部、氷見市東部。

生態・生育環境

海岸の日当たりのよい岩場に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

海岸の開発、改修工事。

保全対策

海岸の開発、改修工事の抑制。

エイザンスミレ (スミレ科) *Viola eizanensis* (Makino) Makino

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生育地が限定され、近年の確実な情報が少ない。

形態

地下茎は短い。葉は3全裂し、各裂片には柄があり、側裂片は柄の基部からすこし離れた所でさらに2全裂して、鳥足状になる。夏の葉は3小葉からなり、各小葉は披針形、長さ10cm、分裂せず、縁には欠刻状の鋸歯がある。花は大きく、ふつう淡紅紫色で、白色のものもある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北部（1986年標本）、富山市中南部（1983年標本）立山町北西部（文献記録のみ）、上市町南西部（文献記録のみ）。

生態・生育環境

山地の木陰にはえる多年草。花期は4～5月。

生存への脅威

開発、遷移、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

マルバスミレ (スミレ科) *Viola keiskei* Miq.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく個体数が限られている。

形態

高さ5～15cmのスミレ類。全体に無毛。花期の葉は長さ幅とも2～4cmの卵円形。夏の葉は7～8cmと大きくなり、草丈も20cm前後になる。花は白色。花弁は丸みを帯びて長さ1.0～1.4cm。側弁には毛が少し生える。距は長さ6～7mm、紫色の斑点があり、後端上側が膨らむ。全体に毛のあるものをケマルバスミレと呼び、県内ではこのタイプが見られる。

国内の分布状況

本州、四国、九州（屋久島まで）。

県内の分布状況

上市町北部、富山市中部、魚津市南部。

生態・生育環境

山野の日当たりの良い場所に生える。

生存への脅威

国芸採取、道路工事。

保全対策

生育環境の確保と保護管理。

ヒカゲスミレ (スミレ科) *Viola yezoensis* Maxim.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく、個体数も限られている。いくつかの生育記録地では現存していない。

形態

高さ10cm前後のスミレ。葉は柔らかく、花期には長さ3～6cmで卵形～長卵形。花は白色。花弁は長さ1.5～2cm。側弁には毛があり、唇弁には紫色のすじが目立つ。距は太い円柱形で長さ7～8mm。萼片の付属体は尖る。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町西部、立山町北部、富山市東部、魚津市南西部。

生態・生育環境

落葉樹の林内に生える。花期は4～5月。種子と地下匍枝で増え、群生することもある。

生存への脅威

里山の管理放棄、自然遷移。

保全対策

生育環境の保護管理、二次林の下草刈り。

タチスズシロソウ (アブラナ科) *Arabidopsis kamchatica* (DC.) K.Shimizu et Kudoh subsp. *kawasakiana* (Makino) K.Shimizu et Kudoh

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

生育地が3ヶ所程度に限られており、生育個体数も少ない。海岸護岸工事の進行に伴い砂浜後背地の砂の移動が少なくなっており、一定程度の不安定性を必要とする本種の生育環境が減少している。

形態

茎は直立、または2～3本の枝を分け高さ15～30cmで全体緑白色。根出葉は倒披針形、頭状羽状に浅裂し、長さ1.5～4.5cm、両面に毛がある。茎葉はへら状線形、ふつう鋸歯はなく無毛。萼片は長楕円形、淡緑色、長さ2.0～2.5mm。花弁は白、倒卵形、長さ4～8mm。果実は線形で、長さ2～4cm。

国内の分布状況

本州（東海・近畿）、四国。

県内の分布状況

富山市北部。

生態・生育環境

海岸の砂地や低地の河川敷の砂地、時に公園の芝生内に生える越年草。花期は5月。

生存への脅威

管理放棄による植生の遷移、海岸護岸工事。

保全対策

管理地においては従来行っている除草等の維持管理継続。

特記事項

生育地では、コンクリート構造物の目地にたまる砂上にも生えることがある。

ミズタガラシ (アブラナ科) *Cardamine lyrata* Bunge

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては水田雑草の一つであったが、近年の乾田化や用水路の改修、休耕田の遷移進行で生育環境が極端に衰退し生育地が急減した。ただし、水田を深耕すると再生することもある。

形態

高さ20～60cm。全草に毛がなく、茎の基部から長い匍枝を出す。匍枝には卵形の小さい葉をつける。茎は直立しているが、花後倒れて地を這う性質がある。花は白色でまばらな総状花序になる。

国内の分布状況

本州（日本海側は新潟県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北西部、黒部市北部、滑川市北部、上市町中西部、富山市北～西部、高岡市中部、小矢部市北部。

生態・生育環境

水田や土の用水路、沼地に生育する多年草。花期は4～6月。

生存への脅威

水田の乾田化、用水改修、遷移進行。

保全対策

生育環境の確保と保護管理。

トガクシナズナ (クモナズナ、ミヤマズナ、ケナシクモナズナ、モノガタリナズナ) (アブラナ科) *Draba sakuraii* Makino

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

本州中部に分布地が限られ、県内でも生育地および個体数が極めて限定されているため、環境変化によって絶滅するおそれがある。

形態

茎の高さは9～15cmで、根出葉は密生し、深い鋸歯がある。表面に光沢があり、両面とも星状毛がある。花序は短く、花柄は無毛で、花弁は白色。

国内の分布状況

本州中部。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南東部、立山町北部。

生態・生育環境

高山の岩上に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

気候変動、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

エゾイタヤ (ムクロジ科) *Acer pictum* Thunb. subsp. *mono* (Maxim.) H. Ohashi

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

これまで日本海側には普通にあると考えられていたが、実際の分布は限定されており、生育地が開発されれば絶滅することもありうる。

形態

今年枝は有毛。葉は5～7中（浅）裂し、裏面は脈腋を除いて無毛、葉柄の上半部に微毛がある。分果は長さ3～3.5cm、褐～茶褐色、果翼は平行～水平に開き、しばしば半ばから外方にやや鎌状にそる。直径1mもの大木になることもある。樹皮は暗褐色。

国内の分布状況

北海道、本州（東北、北陸地方、隠岐島）。

県内の分布状況

富山市南東部、朝日町北部。

生態・生育環境

山地に生える落葉高木。日本海側では海岸低地、太平洋側では内陸の湿地などで見られることが多い。

生存への脅威

森林開発。

保全対策

生育地の保全。

ミヤマツチトリモチ (ツチトリモチ科) *Balanophora nipponica* Makino

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内で記録されている生育地が少なく、全生育地で生育個体数が限られている。

形態

塊状の根茎から高さ5～10cm程度で赤褐色～褐色の花茎を複数出す。花穂は茎部より色が淡く長さ3～5cmの長楕円体。花穂には微小な雌花が多数ついている。雄株は未発見。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南西部、魚津市南部、上市町東部、立山町東部、富山市南東部。

生態・生育環境

ブナ帯の落葉広葉樹林のミズナラなどの根に寄生する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

有峰・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ヌカボタデ (タデ科) *Polygonum taquetii* H.Lév. var. *minutulum* (Makino) Ohwi

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、生育個体数も少ない。

形態

高さ30cm程度で弱々しいタデ。茎は、下部では倒伏して枝を分け、上部で直立する。茎に伏毛が散生する。葉はほぼ無柄で長披針形、長さ2～6cm。托葉鞘は筒状で、長さ2～6mm、同じ長さの緑毛がある。総状の花序は長さ1～3cmで、花はややまばらにつく。花被片は、淡紅色。そう果は、3稜形かレンズ形、黒褐色で光沢があり、長さ1.5～1.7mm。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

高岡市北部、富山市北東部。

生態・生育環境

丘陵地の溜池縁などの水湿地に生育する一年草。溜池の水位が下がって陸化したところに出る。花期は9～11月。

生存への脅威

道路工事、里山の管理放棄。

保全対策

生育環境の保護管理。

マダイオウ (タデ科) *Rumex madaio* Makino

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。また、里山谷頭部の水田の周辺湿地に生育するものは、水田放棄によって生育環境が遷移して消滅するおそれがある。

形態

茎は直立して高さ1.3mに達する。葉は有柄で葉身は長楕円状披針形～長卵形、基部は心形～円形、長さ25～35cm。裏面脈状には、短い剛毛を密生する。茎の先に大きな円錐花序を作り、ややまばらに花をつける。翼状萼片の中脈はほとんど膨れない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南西部、上市町北部、富山市西部～南部、南砺市東部、南砺市北西部、氷見市南部。

生態・生育環境

山の斜面と平地との境界部にできる水湿地に生える多年草。花期は6～7月。種子で増える。

生存への脅威

里山谷頭部の水田放棄に伴う周辺湿地の植生遷移、ダム建設。

保全対策

生育環境の保護管理。

ミヤマハナシノブ (ハナシノブ科) *Polemonium caeruleum* L. subsp. *yezoense* (Miyabe et Kudo) H.Hara var. *nipponicum* (Kitam.) Koji Ito

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限られており、また個体数も極めて少ない。花が美しいことや希少であるため採取の対象となったりやすい。生育地に登山道が通っているため、登山者の踏みつけなどにより生育環境がやや悪化している。

形態

高さ30～60cmである。葉は羽状に全裂し、羽片は7～13対で長さ5～30mm、幅5～15mmである。萼は鐘形で、花冠は長さ15～27mm。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南東部。

生態・生育環境

高山の湿潤で日当たりのよいところに生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

園芸採取、登山者による踏みつけ。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護、登山道整備時の環境保全への配慮。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ハイハマボッサ (テオフラスタ科) *Samolus parviflorus* Raf.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地が2ヶ所に限られ、うち1ヶ所は周辺の開発により現状不明となっている。生育個体数は少なく、絶滅の危険が増大している。

形態

全体無毛で、茎は細く地をやや這い高さ10～30cm。葉は長さ2～6cm、幅1～2cmの倒卵形または広楕円形で、先は円く、下部は狭まって細い柄となる。裏面に赤褐色の細点が散らばる。まばらな総状花序に径2～3mmの白色の花を10～20個を斜開してつける。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

南砺市中部、富山市中南部（現状不明）。

生態・生育環境

海近くの湿地に生える多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

産地局限、草地開発、湿地開発、自然遷移。

保全対策

生育地の保護。

サラサドウダン (ツツジ科) *Enkianthus campanulatus* (Miq.) G.Nicholson

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており個体数も少ない。園芸的価値が高く盗掘の危険性がある。

形態

高さ2～5mの落葉低木。葉は枝先に集まってつき、縁に細かい鋸歯が多数ある。2～3cmの総状花序が垂れ下がり、花冠は淡紅白色で紅色の縦の筋が入る。果実は上向きにつく。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州（兵庫県以東）、四国（徳島県）。

県内の分布状況

立山町、南砺市南部。

生態・生育環境

山地の冷温帯上部から亜高山帯にかけての落葉広葉樹林の林縁部や岩場に生育する。花期は5～7月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲防止。

特記事項

白木水無県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

マルバノイチヤクソウ (ツツジ科) *Pyrola nephrophylla* (Andres) Andres.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の現存生育地が2ヶ所のみで個体数が著しく少ない。自然遷移が進行することで消滅するおそれがある。

形態

葉は扁円形で長さ1.5～2.5cm、幅1.5～3.5cmで長さより幅が広く、先は丸いかややへこみ、基部は心形。高さ15～25cmの赤褐色の花茎の上部に5～10個の赤みがかった梅型の白い5弁花を開く。花の直径は1.0～1.3cm。萼片は三角状卵形で先は尖り、長さ約2mm、幅約1.5mm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市西部、南砺市中部、魚津市南部（1958年）。

生態・生育環境

アカマツ林、あるいはスギ植林とコナラ林の境目などに生育する多年草。開けていた環境が徐々に遷移し、空間が閉鎖されていく過程で出てくる植物のようである。深山にも生える。種子と地下茎で増える。2001年、氷見市の小個体群では、開花は見られたものの結実しなかった。

生存への脅威

園芸採取、産地局限、自然遷移。

保全対策

生育環境の確保と保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

オノエリンドウ (リンドウ科) *Gentianella amarella* (L.) Börner subsp. *takedae* (Kitag.) Toyok.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、観賞用の山野草としての採取や登山者による踏みつけなどにより、生育環境が悪化している。

形態

高さ5～25cmで、茎は直立し、少数の枝を分け、葉は対生し無柄で披針形、花は茎頂に数個つき、紅紫色で花冠は4または5裂する。

国内の分布状況

北海道（南部）、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南東部。

生態・生育環境

高山の草地に生育する越年生草本。花期は8～9月。

生存への脅威

園芸採取、踏みつけ。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ハナイカリ (リンドウ科) *Halenia corniculata* (L.) Cornaz

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は1ヶ所に限られている。生育地は保護されているものの、遷移の進行などにより徐々に絶滅に近づいていく可能性がある。

形態

茎は直立し、高さ20～60cm、4稜がある。葉は長楕円形で先がとがり、長さ2～6cm。花冠は淡黄色で4中裂し、長さ6～10mm、距の長さ3～7mm位。萼はほとんど全裂し、裂片は線形で細突起があり、長さは花冠の1/2～2/3ある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州（熊本）。

県内の分布状況

朝日町南東部。立山町東部（1956年標本）。

生態・生育環境

山地の日当りのよい所にはえる一年草～越年生草。花期は8～9月。

生存への脅威

遷移の進行

保全対策

生育地保全（遷移進行の抑制）

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

イヌセンブリ (リンドウ科) *Swertia tosaensis* Makino

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内の生育地は射水市などの数ヶ所に限られている。ため池に面した草地で立地が不安定である。

形態

高さ5～30cmで、センブリに似るが、葉は幅広い。花は直径15mm、5深裂し、白色で淡紫色の筋がある。センブリと違って植物体に苦味はない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町、射水市南部、富山市中部。

生態・生育環境

日当たりの良い山野の湿地に生える一年草または越年草。花期は11月。

生存への脅威

管理方法の変更（除草頻度の低下）。遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

ツルガシワ (キョウチクトウ科) *Vincetoxicum macrophyllum* Siebold et Zucc. var. *nikoense* Maxim.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が2ヶ所に限定されており、個体数も著しく少ない。富山県が分布の北限にあたる。

形態

茎は蔓状に伸び長さ50～150cm。下垂して生育することが多い。茎の中央部より下方に数対の卵円形または広楕円形の大きな葉をつける。葉は長さ12～30cm、幅8～25cm、先は鋭く尖り、基部は円形またはややくさび形。薄膜質でわずかに毛がある。葉腋から小さな花序を出し、暗紫色で直径6～8mmの5弁花を10個前後つける。

国内の分布状況

本州（中国地方）、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市中部～西部。

生態・生育環境

山地の陰地の林縁に下垂して生育している。県内の群落では結実は確認されていない。

生存への脅威

道路工事、産地局限、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

スナビキソウ (ムラサキ科) *Heliotropium japonicum* A.Gray

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で個体数が限られ、海岸整備により徐々に減少している。

形態

茎は高さは25～30cmで、密に伏毛がある。葉はへら形で互生しやや厚く、両面に伏毛がある。花冠は白くて5裂し、直径約8mmと小さい。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町、氷見市東部。

生態・生育環境

海岸の砂地に生える多年草。花期は5～8月。

生存への脅威

海岸整備、遷移進行、ゴミの放棄。

保全対策

生育地の保護。

シオジ (モクセイ科) *Fraxinus platypoda* Oliv.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県内では生育地が1ヶ所に限定されており個体数も少ない。生育地は日本海側の北限に近い。

形態

高さ30m、直径1mになる高木。葉は、7～9(11)小葉からなる奇数羽状複葉で、長さ25～35cm、葉柄の基部は著しくふくらむ。葉裏の中筋沿いに開出毛がある。花序は落葉した前年の葉腋に出て、長さ10～15cm、無毛。花には花冠がない。翼果は狭長楕円形、長さ3～5cm、幅0.8～1.5cmで下垂する。

国内の分布状況

本州（関東以西の主として太平洋側）、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部。

生態・生育環境

ミズナラ林の構成種。山の沢に近い場所に生える落葉高木。花期は4～5月。

生存への脅威

植生遷移。

保全対策

生育環境の保護管理。

アブノメ (オオバコ科) *Dopatrium junceum* (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに少ない。水田の乾田化や農薬の散布により生育環境が悪化し、絶滅の危険が増大している。

形態

茎は高さ5～20cm、中空で円く軟らかい。葉は対生し、長さ1～2.5cmの披針形で鋸歯はない。葉腋に長さ4～5mmの淡紫色の唇形花をつける。

国内の分布状況

本州（東北地方以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

氷見市北東部は絶滅。朝日町北中部、富山市北部・中部、射水市西部。

生態・生育環境

水田や湿地に生える一年草。花期は夏～秋。下部の葉腋に閉鎖花がつく。

生存への脅威

湿地開発、水田の乾田化、農薬散布。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護。

シソクサ (オオバコ科) *Limnophila chinensis* (Osbeck) Merr. subsp. *aromatica* (Lam.) T.Yamaz.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

本県は、日本海側における分布の北限にあたる。生育地が限られ、個体数も少ない。水田の乾田化や農薬の使用などによって生育地が減少し、絶滅の危険が増大している。

形態

茎は高さ15～25cmで円く軟らかい。葉は対生し、長さ1～2.5cmで柄がない。葉には油点がありシソの香りを出す。花は白色の長さ約1cmの筒形で、先が5裂する。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北西部、黒部市北西部、魚津市北西部、富山市、氷見市南西部。

生態・生育環境

低地の湿地や水田に生育する一年草。花期は9～10月。

生存への脅威

産地局限、湿地開発、水田の乾田化、農薬汚染。

保全対策

湿地・水田の保全。

スズメノハコベ (オオバコ科) *Microcarpaea minima* (J.König ex Retz.) Merr.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

本県は、日本海側で明らかになっている数少ない生育地であり、分布のほぼ北限にあたる。生育地、個体数ともに極めて限られている。水田の乾田化や農薬の使用により生育環境が消失しつつあり、絶滅の危険が増大している。

形態

茎は多く分枝し軟らかく、長さ5～20cmで地を這う。葉は長さ2～5mm、幅1～2mmで小さい。花は長さ約2mmの淡紅紫色で、葉腋につく。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北西部、滑川市南西部、富山市北部。

生態・生育環境

低地の湿地や水田に生育する一年草。花期は7～10月。

生存への脅威

産地局限、湿地開発、水田の乾田化、農薬汚染。

保全対策

湿地・水田の保全。

エチゴトラノオ (オオバコ科) *Veronica kiusiana* Furumi subsp. *maritima* (Nakai) T.Yamaz.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が極めて限られ、個体数も少ないため、絶滅の危険が増大している。

形態

高さ50～100cm。葉は対生し、表面につやのある狭卵形で先がとがり低い鋸歯がまばらにある。茎の先端に長さ10～20cmの穂のような総状花序をつける。花冠は径約8mmの青紫色。

国内の分布状況

本州（東北から北陸の日本海側）。

県内の分布状況

朝日町北部。

生態・生育環境

海岸草地に生える多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

産地局限、園芸採取、海岸防風林の伐採・除草、海岸開発。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。

イヌノフグリ (オオバコ科) *Veronica polita* Fr. var. *lilacina* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

かつては人里に広く生育していたが、現在ではオオイヌノフグリに生育地を奪われて激減し、絶滅の危険が増大している。

形態

高さ約10cmで、茎は下部で枝分かれして横に広がる。葉は、径約1cm内外の卵円形で2～3対の鋸歯があり、茎の下部では対生、上部では互生する。茎の上部の葉腋から長さ約1cmの花柄を出し、淡紅白色に紅紫色のすじをもつ径2～3mmの花を1個つける。花柄には曲がった毛が生える。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

射水市西部、氷見市北部。

生態・生育環境

道端や畑、石垣などに生える越年草。花期は3～4月。

生存への脅威

帰化競合、農薬（除草剤）散布。

保全対策

生育環境の保全。外来種の除草。農薬（除草剤）散布の抑制。

カワヂシャ (オオバコ科) *Veronica undulata* Wall.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地が限られ、開発や環境変化によって個体数が減少するおそれがある。最近、特定外来種のおオカワヂシャが県内に侵入、増殖しており、生育地が奪われたり、雑種が生じたりするおそれがある。

形態

高さ30～60cmで、長さ4～8cmで披針形の葉を対生する。各葉腋から花序を出し、淡青紫色の花を多数咲かせる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町西部、黒部市北部、魚津市北部、富山市北東部、富山市西部、高岡市北西部、射水市北部。

生態・生育環境

湿地に生育する一年草～越年草。花期は5～6月。

生存への脅威

開発（特に湿地開発を伴うもの）、特定外来種オオカワヂシャの侵入。

保全対策

生育地の保護、オオカワヂシャの駆除。

エゾヒナノウスツボ (ゴマノハグサ科) *Scrophularia grayana* Maxim. ex Kom.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では虻カ島などの岩礁海岸に生育し、個体数は極めて少ない。また、分布は主に福井県以北の日本海側に偏っている。

形態

高さ40～100cm、茎はやや柔らかく、狭い翼のある4つの稜がある。葉柄にも稜があり、葉は全体に肉質で広卵形である。茎の先の円錐形花序をつけ、まばらに多くの花をつける。花冠は淡黄緑色で上唇は紫褐色を帯びる。

国内の分布状況

北海道、本州（青森県～福井県、太平洋側は岩手県北部・青森県）。

県内の分布状況

氷見市東部。

生態・生育環境

海岸の日当たりのよい岩・礫地に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

園芸採取、踏み荒らし、鳥の営巣による糞害。

保全対策

生育地の保護管理。

キセワタ (シソ科) *Leonurus macranthus* Maxim.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が限られており、個体数も著しく少ない。

形態

高さ60～100cm。茎は直立するが、斜面では横向きに伸びることが多い。葉は卵形～狭卵形で荒い毛があり、欠刻状の粗い鋸歯を持つ。基部は広くさび形またはやや切形で葉柄がある。茎上部の葉腋に数個の紅紫色の花をつける。花冠は唇形で5浅裂し、外面には密に白毛があって白く見える。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部、高岡市北部、氷見市北部。

生態・生育環境

丘陵地林縁の草地に生える多年草。花期は9～10月。

生存への脅威

草地開発、道路造成、里山管理放棄。

保全対策

生育環境の保護管理。

ミズトラノオ (シソ科) *Pogostemon yatabeanus* (Makino) Press

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ない。絶滅の危険が増大している。

形態

茎は高さ30～50cm。葉は長さ3～7cm、幅2～5mmの線形または広線形で、3～4個ずつ輪生する。茎の先に長さ3～4mmの淡紅色の唇形花を多数密につけ、穂状となる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部、富山市北東部。

生態・生育環境

湿地に生える多年草。地下茎で殖える。花期は8～10月。

生存への脅威

産地局限、湿地開発。

保全対策

生育地の保護。

ヒメナミキ (シソ科) *Scutellaria dependens* Maxim.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育個体数が限られており、生育環境が河川改修や道路造成により消失しつつあり、絶滅の危険が増大している。

形態

茎は方形で細く高さ20～30cm。葉は、長さ1～2cmの狭卵形～狭三角状卵形で対生する。葉腋に長さ約7mmの淡紫色の唇形花を1個ずつつける。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

朝日町東部、入善町南西部・北部、富山市北部、南砺市南部。

生態・生育環境

湿った草地に生える多年草。細い地下茎で殖える。花期は6～8月。

生存への脅威

河川改修、道路造成。

保全対策

生育地の保護。

キヨスミウツボ (ハマウツボ科) *Phacellanthus tubiflorus* Siebold. et Zucc.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が1ヶ所に限られ、個体数も著しく少ない。発生翌年に同じ場所で再確認できるとは限らない。

形態

茎は高さ5～10cmで、鱗片状の葉があり、全体白色、のちに黄褐色に変わる。白色筒状の花を多数つける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市南部。

生態・生育環境

カシ類、アジサイ類などの根に寄生する通常一年草。花は5～7月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

サワギキョウ (ミゾカクシ科) *Lobelia sessilifolia* Lamb.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

湿地の消失、園芸採取により生育地や個体数が減少し、絶滅の危険が増大している。

形態

茎は高さ50～100cmの円柱形で分枝しない。葉は長さ4～7cmの披針形で縁に細かい鋸歯があり互生する。花は長さ2.5～3cm、濃紫色の唇形で茎の上部に多数つけ総状花序となる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市および南砺市中部、西部は絶滅。小矢部市南部、南砺市北部、射水市南部、富山市西部。

生態・生育環境

山野の湿地に生える多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

湿地開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、園芸採取の規制。

特記事項

朝日・医王山県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域内指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。

オオイニンテン (トガクシニンテン、トガクシイニンテン) (キク科) *Chrysanthemum pallasianum* (Fisch. ex Besser) Kom.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

イワニンテンとの関係を明確に把握できていないため分布も明らかにできていないが、現有情報から判断する限り、生育地が黒部峡谷の一地域に限られている。

形態

イワニンテンに似ているが高さ20～60cmと大きく、葉の裂片が幅広く、基部はくさび形でやや無柄。頭花の直径は約5mm、舌状花を欠く。染色体数 $2n=54$ 。

国内の分布状況

本州中部、特に日本海側の高山。

県内の分布状況

立山町東部(黒部峡谷)からの文献、標本の記録があるが、標本はイワニンテンと酷似している。

生態・生育環境

高山の岩場、溪谷の崖などに生育する多年草。花期は9～10月。

特記事項

中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ヒダキセルアザミ (キク科) *Cirsium hidapaludosum* Kadota et Nagase

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が1ヶ所しか知られていない。本県は分布の北限に位置する。生育地の湿原の乾燥化と生育個体数が極めて限られることから、絶滅の危険が増大している。

形態

高さ50～120cmの草本。根生葉は羽状に深裂してロゼット状になる。茎の上部は分枝して先に淡紅紫色の頭花を1個ずつ上向きに咲かせる。

国内の分布状況

本州(富山県南部、岐阜県北部)。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

山地の日当たりのよい湿地に生える多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

産地局限、踏みつけ、道路工事、湿地開発、自然遷移。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

有峰県立自然公園の指定植物。

ヒダアザミ (キク科) *Cirsium tushiroi* Kitam. var. *hidaense* (Kitam.) Kadota

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

本県は分布の北限に位置する。生育地が極めて限られ、個体数も少ないことから、容易に絶滅する危険性がある。

形態

茎は高さ15～50cm、分枝してくも毛がある。根生葉は長い柄があり披針状楕円形で長さ15～37cm、全縁で小刺針がある。茎葉は全縁または羽状中裂し柄がなく、茎を抱かない。頭花は赤紫色で枝に頂生し総苞の長さ1.5～1.9cm、幅1.5～2cm。

国内の分布状況

本州（中部地方の温帯）。

県内の分布状況

上市町西部。

生態・生育環境

山地の夏緑樹林に生える多年草。花期は9～10月。

生存への脅威

産地局限、森林伐採、自然遷移。

保全対策

生育地の保護。

アキノハハコグサ (キク科) *Gnaphalium hypoleucum* DC.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内で過去に確認された生育地が3例しかなく、近年採取されていない。現在の生育は極めて限定的であると考えられ、わずかの環境変化で消滅するおそれがある。

形態

高さ30～60cmで、上部で枝分かれし白い綿毛がある。葉は狭披針形で長さ4～5cmで、裏面に白い綿毛が密に生える。茎の上部に散房状に黄色い頭花をつける。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、射水市南部、小矢部市。

生態・生育環境

やや乾いた山地に生育する一年草。花期は9～11月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育環境の保護管理。

オグルマ (キク科) *Inula britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生育地の湿地が減少しており個体数も少ないうえ、生育環境の変化による絶滅のおそれがある。

形態

茎は高さ20～60cm。根出葉や茎の下部の葉は花時には枯れる。茎葉は広披針形～長楕円形で鋭頭、基部はなかば茎を抱き、長さ5～10cm。頭花は数個つき、黄色で径3～4cm。総苞は半球形で長さ7～8mm、外片は披針形で中部以上は緑色、縁に短毛がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市中部は絶滅。高岡市中部・南東部、射水市北東部、富山市中部・中西部。

生態・生育環境

湿地や田の縁、川岸などにはえる多年草。花期は7～10月。

生存への脅威

湿地・放棄水田の埋め立て、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

ノニガナ (キク科) *Ixeris polycephala* Cass.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

生育地が極めて限られ、個体数も少ないことから、容易に絶滅する危険性がある。

形態

高さ15～40cmで、全体に毛はなく軟らかい感じがする。茎の中部の葉は緑白色の線状披針形で、基部は矢じり形となり茎を抱く。茎や枝の先に黄色の径約8mmの頭花がやや散状につき、花が終わるとうつむく。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市中西部、富山市中南部。

生態・生育環境

田の畦や農道に生える一年草。荒地の遷移初期にも出現する。花期は4～5月。

生存への脅威

農薬（除草剤）の散布、農道整備。

保全対策

生育地の保護。

クロミノウグイスカグラ (スイカズラ科) *Lonicera caerulea* L. subsp. *edulis* (Regel) Hultén var. *emphylocalyx* (Maxim.) Nakai富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

県内では生育地が極めて限定され、踏みつけなどによる生育条件の悪化により絶滅のおそれがある。

形態

高さ0.5～1m。果実は粉白を帯びた黒紫色に熟す。葉は長さ3～4cmの長楕円形で対生する。葉腋に黄白色で漏斗形の花を咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

朝日町南部の山岳。

生態・生育環境

亜高山～高山の陽地に生育する落葉低木。花期は7月。

生存への脅威

踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ナベナ (マツムシソウ科) *Dipsacus japonicus* Miq.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

過去の記録が著しく少なく、現存する生育地は3ヶ所程度しか知られていない。山地渓流沿いの崩壊性土壌に生育することから、砂防工事の進行と共に減少する傾向にある。

形態

茎は直立して高さ1.2mになりよく分枝する。4稜があり刺状の剛毛がある。葉は対生し、先端が尖り、下半部は不規則な羽状に切れ込む。枝先に淡紅紫色の小花が球状に集まった径2cm強の頭花をつける。花冠は筒型で先は4裂。4本の雄しべは花冠から突き出る。そう果は長さ6mmの角柱状。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部（絶滅）、入善町南部、魚津市南西部、黒部市中部。

生態・生育環境

山地の湿った岩屑の堆積地に生える越年草。花期は8月。上部の頭花から先に咲き始め、順次下の頭花が開花する。果期は10～11月。

生存への脅威

砂防堰堤工事、ダム開発、道路工事、法面安定化工事。

保全対策

生育地の保護、生育環境の保護管理。

マツムシソウ (マツムシソウ科) *Scabiosa japonica* Miq.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

既知の生育地が3ヶ所しかなく、個体数も限られている。

形態

高さ60～90cm。葉は羽状に裂け、対生し有毛。頭花は長い柄の先につき径約4cm。辺縁の小花は5裂し、外側の裂片は大きく伸びる。中心部の小花は筒状で、等しく5裂する。萼裂片は5個、とげ状で長さ4～5mm。被萼は果時に長さ4mm、8肋あり肋上には密毛がある。亜高山から高山に分布し、萼のとげがより長い変種タカネマツムシソウとの移行型も存在する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南東部、立山町南東部、上市町東部。

生態・生育環境

山の草原にはえる越年草～多年草。花期は8～10月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

オミナエシ (オミナエシ科) *Patrinia scabiosifolia* Fisch. ex Trevir.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

丘陵地のススキ草地の喪失とともに減少してきた。生育地が限られ個体数は著しく少ない。花が美しいために観賞用の山野草として採取される。

形態

高さ60～120cm。葉は対生し、広披針形で羽状に深裂する。下部の葉は小型。茎の上部に集散花序をつけ、黄色で光沢のある小花を多数咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

黒部市北部、氷見市南部と南砺市西部は絶滅。朝日町北部、魚津市中部、上市町北部、富山市、射水市南部、高岡市、氷見市北部、小矢部市西部。

生態・生育環境

山野の日当たりの良い草原に生える多年草。花期は8～10月。

生存への脅威

草地開発、土地造成、植生遷移、園芸採取。

保全対策

生育環境の保護管理、採取の抑制。

特記事項

中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ハマウド (セリ科) *Angelica kiusiana* Maxim.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が氷見市方面の一部の海岸に限定され、個体数も少ない。また、富山県は日本海側の分布の東限に位置している。

形態

高さ1～2m。茎は太く、暗紫色の縦線が多数あり、上部で分枝する。葉は大きく有柄で、1～2回3出羽状複葉し、厚くて光沢がある。枝先から大きな複散形花序を出し、白色の小さな花を多数つける。

国内の分布状況

本州（太平洋側は千葉県以西、日本海側は富山県以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

高岡市北部、氷見市東部。

生態・生育環境

海岸の富栄養なところに生育する多年草で、しばしば群生する。花期は4～6月。

生存への脅威

海岸侵食、海岸工事、鳥の営巣による糞害。

保全対策

生育地の保護管理。

ドクゼリ (セリ科) *Cicuta virosa* L.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

池沼や湿地に生える植物で、県内では生育地が極めて限定されている。

形態

高さ60～100cm。多年生の抽水植物で、地下茎を含め全草が緑色である。地下茎も茎も中空で、茎はよく分枝する。葉は1～3回羽状複葉で、へりに鋸歯がある。茎の先端や葉腋から複散形花序を伸ばし小さい白花を多数つける。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町中西部、高岡市中部。

生態・生育環境

池沼や湿地に生える大形の多年草。花期は6～9月。葉や茎を裂くといやな臭いがする。猛毒植物。

生存への脅威

池沼や湿地の開発。

保全対策

生育環境の保護管理。

スギラン (ヒカゲノカズラ科) *Huperzia cryptomerina* (Maxim.) Dixit

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が限られており、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

形態

葉は開出または斜上し、線状披針形～狭披針形となる。茎はまばらに叉状に分岐しつつ斜上、大型になった場合は上半分が反曲して下向きに垂れることもある。胞子嚢は枝の先端部につく。全形はスギの小枝を思わせる。

国内の分布状況

北海道(東部)、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部、黒部市中部。

生態・生育環境

亜高山草原に生育する常緑の草本。樹上まれに岩上にも着生する。

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

ヒメハナワラビ (ハナヤスリ科) *Botrychium lunaria* (L.) Sw.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が限定されており、個体数も極めて少ない。登山者の踏みつけなどにより、生育地が消失する危険性がある。

形態

高さ10～20cmで、短い根茎から共通柄をもつ葉を1本つけ、中央部で胞子葉と栄養葉の2つに分かれる。栄養葉は1回羽状複葉で、羽片は扇形で3～5対つく。胞子葉は3回羽状に深裂し球状の胞子嚢をやや密につける。

国内の分布状況

北海道、本州(中部以北、鳥取県)。

県内の分布状況

黒部市南東部、朝日町南東部。

生態・生育環境

高山の陽の良く当たる草原や岩場に生じる夏緑性の小型のシダ。

生存への脅威

産地局限、登山者の踏みつけ。

保全対策

登山道整備時の環境保全への配慮。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

コヒロハハナヤスリ (ハナヤスリ科) *Ophioglossum petiolatum* Hook.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

既知の生育地が少なく、生育地の環境が変化し易いために個体数が不安定である。

形態

1枚の栄養葉と1本の高さ20～30cmの胞子葉からなるシダ。栄養葉は長さ1～5cm、薄く長卵形で先は鋭頭から鈍頭。葉脈は網状、二次脈はあまり発達しない。胞子葉は葉の基部から直立し、先端に胞子囊穂をつける。胞子の表面には細かい網目模様がある。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

射水市中部、魚津市北部。

生態・生育環境

丘陵地や、庭や畦などの草地に生える夏緑性のシダ。胞子で増える。

生存への脅威

産地局限、自然遷移。

保全対策

生育地の管理。

ヒロハハナヤスリ (ハナヤスリ科) *Ophioglossum vulgatum* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、個体数も少ない。

形態

1枚の栄養葉と1本胞子葉からなる高さ20～30cmのシダ。栄養葉は長さ5～12cm、薄く卵形で先は普通鈍頭、下部は葉柄状に細くなって、栄養葉の柄を包む。葉脈はやや不明瞭な網状。胞子葉は直立し、先端に長さ2～3cmの胞子囊穂をつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北部、上市町北部、富山市南部・東部、南砺市中部、朝日県立自然公園内。

生態・生育環境

丘陵地～山地の樹下のやや湿った場所に生える夏緑性のシダ。地下茎と胞子で増える。

生存への脅威

自然遷移。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物。

イチョウシダ (チャセンシダ科) *Asplenium ruta-muraria* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が限定され、個体数も少ない。一部では岩壁の崩壊などにより、個体数が著しく減少している。

形態

根茎は短く這う。葉は小さいものは単羽状、大きいものは2回羽状に分岐する。裂片は倒卵形～ひし形で、外縁に鋸歯のあることが多い。胞子囊群は数個が裂片の中央に集まる傾向がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市中部、魚津市南東部、上市町南東部、富山市南東部、南砺市南部。

生態・生育環境

常緑性のシダ。石灰岩地で林中またはやや裸出した岩隙に生育する。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

有峰・白木水無・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

タチヒメワラビ (ヒメシダ科) *Thelypteris bukoensis* (Tagawa) Ching

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、生育個体数も少ない。山地の溪畔林に生育するものは堰堤工事で失われることが多い。

形態

高さ60～100cmになるシダ。根茎は地中を長く這う。葉柄の長さは、25～35cmでまばらに鱗片と毛をつける。葉身は長楕円状披針形で鋭頭、長さ40～70cm、幅15～25cmの2回羽状。中軸に翼はない。羽片は幅4cm以内、基部は広くさび形で無柄。胞子嚢群は径0.8mm、裂片の中肋と辺縁の中間よりやや辺縁寄りにつき、包膜はない。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

富山市南西部、南砺市南東部。

生態・生育環境

山地の溪畔林や、湿った草地に生える夏緑性のシダ。

生存への脅威

産地局限、堰堤工事。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

白木水無県立自然公園の指定植物。

テバコワラビ (イワデンダ科) *Athyrium atkinsonii* Bedd.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地が限定されている。生育地が除草等の人為が加わる遊歩道沿いのため、本種の生存は整備環境に左右される。

形態

根茎は短く横走り、葉をこみ合っつけ、鱗片がある。葉身は広卵形～卵状三角形で長さ25～60cm、幅15～35cm、3～4回羽状に複生する。葉柄は葉身と等長か、やや短い。

国内の分布状況

本州（関東地方～近畿地方北部および山口県）、四国、九州（宮崎県、熊本県）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

夏緑性。山地の林床に生育する。

生存への脅威

遊歩道の整備方法等が変更された場合に減少する可能性がある。

保全対策

生育地の保護管理。

ナヨシダ (イワデンダ科) *Cystopteris filix-fragilis* (L.) Bernh.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、個体数が少ない。踏みつけにより生育地が荒廃するおそれがある。

形態

葉の長さは5～20cm、2～3回羽状に中裂する。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）、四国。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南東部、富山市南東部。

生態・生育環境

高山の岩壁や岩が多い斜面の地上などに生育する夏緑性のシダ。

生存への脅威

踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

シロウマイタチシダ (オシダ科) *Dryopteris shiroumensis* Sa.Kurata et Nakam.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、また生育個体数も極めて少ない。

形態

根茎は短く斜上し、葉が集まって出る。葉柄は長さ50cm以上となり、わら色で基部に向けて長さ1.5cmに達する淡褐色の鱗片を密につける。葉身は3回羽状複葉で10対以上の羽片をつけ広卵形である。葉質はかたい革質で無毛である。小羽片は三角状披針形～披針形で全裂する。胞子囊群は小羽軸近くにつき包膜は全縁で無毛である。

国内の分布状況

本州（東北地方南部～中部地方北部の日本海側）。

県内の分布状況

立山町東部、富山市南東部。

生態・生育環境

山地帯上部の林床に生育する夏緑性のシダ。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ジュンサイ (ハゴロモ科) *Brasenia schreberi* J.F.Gmel

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、また、生育環境が変化して個体数が減少している。

形態

水中の地下茎から枝を伸ばし、円形の葉を水面に浮かせる。葉の裏面と茎は透明な寒天質に覆われており、特に新芽の寒天質は厚い。葉は直径約10cm、表面は光沢のある緑色で、裏面は紫色を帯びている。花は葉脇から水面に伸びた長い花柄の先端につく。花茎は1.0～1.5cmで色は暗紫紅色である。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

魚津市西部、富山市中～西部、射水市南部、氷見市中西部、小矢部市南東部、高岡市西部、南砺市西～南部。

生態・生育環境

浅い池沼に生育する多年生の浮葉植物で、秋に厚い寒天質に包まれた殖芽ができる。花期は6～8月。

生存への脅威

水質汚濁、土地開発、溜池の管理放棄。

保全対策

水質の確保と生育地の保護管理。

ヒメザゼンソウ (サトイモ科) *Symplocarpus nipponicus* Makino

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。一部の生育地が開発により消滅するなど個体数は減少しつつある。

形態

ザゼンソウより小型で、葉身10～20cm。花序は長さ約1cm。仏炎包は暗紫褐色を帯びる。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以西は日本海側に偏在）。

県内の分布状況

黒部市北部、上市町北西部、立山町西部では絶滅、富山市中部、富山市西部、滑川市南部。

生態・生育環境

山麓や道端などのやや湿ったところに生育する。花期は5～6月。花序はザゼンソウと異なり、開葉後に開花する。

生存への脅威

土地開発、山麓整備、里山の管理放棄、遷移進行。

保全対策

生育地の確保と保護管理。

特記事項

有峰・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。

ハナゼキショウ (チシマゼキショウ科) *Tofieldia nuda* Maxim. var. *nuda*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

数ヶ所の生育地があるが、過去20年間で一部の生育地がダム開発等で消滅した。また、小型で清楚な草姿が好まれて採取されることもあり、個体数が減少している。

形態

根出葉は線形で長さ5～25cm、先は長くとがり、左右2列にでる。葉の縁には細突起がない。走出枝を出さない。花茎は高さ10～30cmで2～3個の小型の葉がある。白色の花が総状花序につき、花柄は花より長く、花被片は線状長楕円形。雄しべは花被片と同長かすこし長く、葯は褐色から淡紫色。

国内の分布状況

本州（関東以西）、九州。

県内の分布状況

上市町東部、黒部市南東部、立山町南部。

生態・生育環境

山地溪谷の岩壁に生育する小型の多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

園芸採取、ダム開発。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

スブタ (トチカガミ科) *Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

水田や小水路、浅い池など生育できる環境が限定されているが、休耕田の管理放棄、溜池や水路の改修などにより生育条件が悪化しつつあり、生育地、個体数が減少している。

形態

茎は伸長せず、長さ10～20cmの線形の葉を根元から密生し、筒型の鞘に包まれた花柄状の子房の先に白色の目立たない花を咲かせる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、入善町北部～西部、射水市南部、氷見市北部、城端町、富山市南東部、砺波市東部。

生態・生育環境

水田、溜池、水路などに生育する一年生の沈水植物。花期は7～10月。

生存への脅威

開発（特に池沼の改変を伴うもの）、管理放棄による遷移進行（溜池、休耕田）、水質汚濁、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護、水質汚濁の防止、農薬使用の抑制。

ヤナギスブタ (トチカガミ科) *Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

水田や小水路、浅い池など生育できる環境が限定されているが、休耕田の管理放棄、溜池や水路の改修などにより生育条件が悪化しつつあり、生育地、個体数が減少している。

形態

植物体の長さは5～25cmで、よく分枝する。葉は長さ3～5cmの線形で多数互生する。白色で小さな目立たない3弁の花を水面上に咲かせる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北東部、魚津市北西部、射水市南部、砺波市東部、氷見市北部および南東部、小矢部市北西部、南砺市中部。

生態・生育環境

水田、溜池、水路などに生育する一年生の沈水植物。花期は7～10月。

生存への脅威

開発（特に池沼の改変を伴うもの）、管理放棄による遷移進行（溜池、休耕田）、水質汚濁、除草剤の使用。

保全対策

生育地の保護、水質汚濁の防止、除草剤使用の抑制。

ウミヒルモ (トチカガミ科) *Halophila ovalis* (R.Br.) Hook.f.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

富山湾が日本海側における北限地であり、かつ生育地は極めて限られている。海底に生育する植物であるため、生育量に関する正確な情報がない。

形態

茎は細く柔らかで白色、まばらに分岐しながら海底を這う。1.5～4cm間隔に節があり、節から2枚の葉とひげ根を出す。葉身は卵円形～長楕円形で全縁、緑色半透明で薄く、長さ1～3cm。葉柄は長さ1.5～2.5cm。葉の間に目立たない単性花をつける。

国内の分布状況

本州（関東・富山湾以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

氷見市東部（1977年の標本のみ）、魚津市北西部（文献情報のみ）。

生態・生育環境

波静かな内湾2～15mの浅海域の海底砂地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

沿岸や海底の汚染、浅海の埋め立て。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。

ホッスモ (トチカガミ科) *Najas graminea* Delile

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

溜池の周囲の浅瀬や水田、水路などに生育するため、水位の低下や水質の汚染、埋め立てにより個体群が少なくなるおそれがある。

形態

葉は長さ約2cm、幅約0.5mm、縁に微小な鋸歯があるが肉眼ではよく見えない。茎は長さ約30cmになり、細くよく分岐し、下部の節から根を出す。雌雄同株。

国内の分布状況

本州、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

富山市中部および西部、射水市南部、氷見市南東部、高岡市北西部、小矢部市西部、砺波市東部。

生態・生育環境

湖沼や溜池、水田や水路などに生育する沈水性の一年草。花期は7～9月。

生存への脅威

溜池や水路の管理放棄、水田の乾田化、埋め立て、水質汚染。

保全対策

溜池の水位、水質の維持。水田や水路の管理。

ミズオオバコ (トチカガミ科) *Ottelia alismoides* (L.) Pers.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

水田の乾田化や用水路の改修で生育環境が極端に後退し、生育地や生育個体数が限られている。

形態

沈水性で、葉は根生し葉柄があり、長さ10～30cm、幅3～15cmである。全体に軟らかく、葉緑に波打つしわがある。水中から花茎を伸ばし、花をつける。色は淡黄紅色で円形の花弁が3個ある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北東部、黒部市北東部、魚津市西部、射水市南部、氷見市中北～南部、砺波市東部、高岡市中部、小矢部市南西部、南砺市。

生態・生育環境

水田や池沼、用水路に生育する一年生の沈水植物。花期は8～10月である。

生存への脅威

水田の乾田化、用水路の改修。

保全対策

生育環境の確保と保護管理。

セキショウモ (トチカガミ科) *Vallisneria natans* (Lour.) H.Hara

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

自生地が限られており、開発や水質汚濁による影響を受けやすい。

形態

長さ30～80cm、幅3～9mmのリボン状の葉を持つ沈水植物。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

舟橋村、富山市北部、砺波市西部、南砺市北部、高岡市北部、氷見市南部、小矢部市東部。

生態・生育環境

やや水質の良い池や河川、用水路などに生える沈水性の多年草。

生存への脅威

河川や用水路の改修、水質汚濁。

保全対策

生育地の保護、水質汚濁の防止。

ミヤマエンレイソウ (シロバナエンレイソウ) (シュロソウ科) *Trillium tschonoskii* Maxim.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内で確認されている生育地は2ヶ所のみで個体数もやや少なく、うち1ヶ所の生育地が開発により失われるおそれがある。

形態

茎は高さ20～40cm、茎の先に菱形状円形の葉を3枚輪生する。花は1個頂生し、外花被片3個は黄緑色で長さ2～2.5cmで先が尖り、内花被片3個は白色花弁状、外花被片より長さ幅ともに大きい。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町南部、南砺市西部。

生態・生育環境

山地の明るい林内に生える多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

ダム開発、採取。

保全対策

生育地の確保と保護管理。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

マルバサンキライ (サルトリイバラ科) *Smilax stans* Maxim.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

石灰岩地帯などの特殊環境に生育し、生育地点および個体数が限られているため、開発等により生育地が失われると容易に絶滅するおそれがある。

形態

高さ30～50cmの小低木。茎に棘はなく、広卵形で先の尖った鋸歯のない葉を互生し、葉腋に黄緑色の花を少数咲かせる。果実は直径8mmで黒く熟す。巻きひげはない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南部、魚津市南東部、富山市南部、南砺市西部。

生態・生育環境

山地の比較的明るい林床、林縁に生育する低木状の植物。花期は3～4月。

生存への脅威

産地局限（石灰岩地等）、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

有峰・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

アマナ (ユリ科) *Amana edulis* (Miq.) Honda

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全県的に里山が利用されなくなったことにより、本種が生育する林縁草地の遷移が進行し、生育地が減少している。個体数も少ない。

形態

チューリップに似た多年草。地下の球根（鱗茎）から長さ30cm、幅1cmの葉を2枚出し、その中心から、10～20cmの茎が出て、6弁の白い花を咲かせる。花弁には縦に数本の淡紫色の筋が入る。

国内の分布状況

本州、四国、九州、奄美。

県内の分布状況

富山市、氷見市西部。

生態・生育環境

草原の日当たりの良いところに生える。花期は4～5月。

生存への脅威

里山放棄、草地開発、園芸採取。

保全対策

生育環境の保護管理。

ヤマジノホトトギス (ユリ科) *Tricyrtis affinis* Makino

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。また、花が美しいので園芸用に採取される。

形態

茎は高さ30～60cmで、斜め下向きの毛がある。葉は互生し、卵状楕円形で基部は茎を抱く。花は白色で紫色の斑点があり、茎頂と葉腋に1～2個を上向きに開く。径約2cm、花被片は6個で外花被片の基部は袋状になる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市北西～西南部、高岡市北西部、富山市北西部。

生態・生育環境

丘陵地の明るく、やや乾いた森林樹下や林縁に生育する多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

遷移進行、園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。

エビネ (ラン科) *Calanthe discolor* Lindl.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地の改変のほか、花が美しいために観賞用の山野草として採取され、各地域で絶滅するなど、個体数は激減している。

形態

花茎は高さ30～40cmで、多数の花を総状につける。ふつう萼片と側花弁は褐紫色、唇弁は淡紅白色であるが、色にはいろいろな変異がある。葉は株元から2～3個束生し、地下茎は節が多く連球状である。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北西部、黒部市北部、魚津市北西部、上市町北西部、立山町中部、富山市西部、富山市中部、富山市南部、高岡市北部、南砺市中部、南砺市西部。いくつかの地点では、既に絶滅している。

生態・生育環境

旧堤防・旧河道・山麓などの林下に生育する多年草。花期は4～5月。

生存への脅威

土地開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。

ギンラン (ラン科) *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

花が美しいために観賞用の山野草として採取され、全生育地で生育個体数が限られている。また、里山の管理放棄で遷移が進行し、生育環境が失われている。

形態

高さ10～25cm。葉は長楕円形で3～6個を互生し、基部は茎を抱く。花は白色で茎の先に数個をつける。唇弁に淡黄褐色の隆条線がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、入善町中部、黒部市中部、魚津市西部、射水市南部、高岡市中部、氷見市東部、南砺市南西部、立山町中部。

生態・生育環境

平野部や丘陵地の明るい林床に生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

土地開発、里山の管理放棄。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

朝日・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。

カキラン (ラン科) *Epipactis thunbergii* A. Gray

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。

形態

高さ30～70cm。葉は狭卵形で目立つ縦脈があり、基部は短い鞘となり茎を抱く。茎の上部に黄褐色の花を10個ほどつける。唇弁の内面に紅紫色斑がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、入善町南部、黒部市中部、魚津市南部、上市町東部、立山町中部、富山市、射水市南部、高岡市、小矢部市北部、南砺市。

生態・生育環境

山地の雑木林や日当たりの良い湿地に生育する多年草。花期は6～8月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

乱獲の抑制。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園・能登半島国定公園特別地域内指定植物。

ミヤマフタバラン (ラン科) *Listera nipponica* Makino

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

全生育地で生育個体数が限られ、観賞用の山野草としての採取や踏みつけによる生育地の荒廃などによって個体数が減少する危険がある。

形態

高さ10～25cmで、腎円形で先端の尖る葉を2枚対生状につける。茎の先に紫褐色を帯びた緑色の花を3～10個咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町南東部、富山市南東部。

生態・生育環境

亜高山針葉樹林の林床に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）、踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

タカネフタバラン (ラン科) *Listera puberula* Maxim.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、踏みつけなどによる生育条件の悪化や観賞用の山野草としての採取などにより、容易に上位カテゴリーに移行する危険がある。

形態

高さ15～20cmで、葉は腎心形で2枚対生状につき、茎の先に淡緑褐色の花を5～10個咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、富山市南西部。

生態・生育環境

亜高山の針葉樹林の林床に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

園芸採取、踏みつけ。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

朝日・白木水無県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ジンバイソウ (ラン科) *Platanthera florentii* Franch. et Sav.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は限定されるが、生育地内では比較的大きな個体群を形成している。園芸目的の採取圧が強まると、絶滅する場所がでるおそれがある。

形態

高さ20～40cm。葉は2個が相接して根生状につく。葉身は長楕円形で長さ5～12cm、幅3～6cm、表面には光沢があり、縁は波状に縮れる。淡緑色の花を5～10つける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部、富山市南西部、立山町中部、朝日町南部、黒部市南部。

生態・生育環境

ブナ帯の森林樹下に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

朝日・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

シロウマチドリ (ラン科) *Platanthera hyperborea* (L.) Lindl.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、踏みつけによる生育条件の悪化や観賞用の山野草としての採取などにより、個体数が減少・絶滅するおそれがある。

形態

高さ25～50cmで、葉は狭長楕円形で互生し、上部のものはしだいに小型になる。茎の先に小型緑色の花を15～多数穂状に咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南東部、上市町南東部、立山町南東部、富山市南東部。

生態・生育環境

亜高山～高山のやや湿った草地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）、踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ヤマサギソウ (ラン科) *Platanthera mandarinorum* auct. non Rchb.f. 富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では近年数ヶ所の分布が確認されているが、採集圧や生育地が不安定な湿地であることから、容易に絶滅にいたるおそれがある。

形態

茎は紡錘状に肥厚した根から出て、高さ20～40cm、やや稜がある。葉は下部の1個が大きく、線状長楕円形で基部はわずかに茎を抱く。黄緑色の小花を5～10個つける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市西部、魚津市東部、富山市南東部。

生態・生育環境

日当たりの良い草地する多年草。花期は5～7月。

生存への脅威

園芸採取、開発、遷移進行。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

オオヤマサギソウ (ラン科) *Platanthera sachalinensis* F.Schmidt. 富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では数ヶ所で分布が確認されているが、園芸目的の採集圧が高いため、今後容易に絶滅にいたるおそれがある。

形態

高さ40～60cm、葉はふつう2個が大きく、倒卵状狭長楕円形で、鈍頭、長さ10～20cm、幅4～7cm。淡緑色の小花をやや密に、多数、穂状につける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市東部、黒部市西部、富山市南東部。他に立山町、南砺市の標本あり。

生態・生育環境

山地樹林下に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

園芸採取、踏みつけ、遷移の進行、森林開発。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

朝日・有峰・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

ノハナショウブ (アヤメ科) *Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai 富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

里山の放棄等により二次遷移が進行して生育環境が失われ、県内では生育地が極めて限定されている。また、花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が減少している。

形態

高さ50～80cm。分枝した根茎があり、葉は剣状で長く伸びる。中筋がはっきりしている特徴がある。花茎の先端に数個の苞があり、その中から花が開く。色は赤紫色で、外花被片は舌状で垂れる。中央から基部にかけて黄色に染まる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北西部、入善町北西部、黒部市中部および北部、魚津市北西部、立山町北部、上市町中部、富山市南部、西部および中部、射水市南部、南砺市東部および南部。

生態・生育環境

山野の湿地、丘陵地の林縁、池沼の縁に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

湿地の開発、里山の管理放棄、遷移の進行。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・医王山県立自然公園の指定植物。

ヒメシャガ (アヤメ科) *Iris gracilipes* A. Gray

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

かつて県下全域の山地に広く分布していたが、花が美しいため観賞用の山野草として乱獲され、生育地の消滅と個体数の減少が著しい。

形態

花茎は20～30cmで、先端に淡紫色の径4cmの花を数個つける。葉は長さ20～30cm、幅0.5～1.5cmで冬に枯れる。シャガに似ているが、全体は小型である。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州、四国、九州（北部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市中部・南部、魚津市南部、上市町南部、富山市南部、南砺市。

生態・生育環境

山地の夏緑樹林のやや乾いた林床に生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

森林伐採、道路工事、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、道路工事の抑制、採取の抑制。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

ノカンゾウ (ワスレグサ科) *Hemerocallis fulva* L. var. *disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

10ヶ所近い生育地が知られていたが、里山や山麓部の水田の管理放棄に伴い、適度に除草されていた草地在樹林等に遷移しているため、生育環境が徐々に消滅しつつある。

形態

葉は二列互生し、長さ50～70cm、幅10～15mm。花径は高さ50～70cm、上部で枝を分かちそれぞれの花序に5～10花つく。ユリ状の花被片は橙赤色。花は朝咲いて夜にはしぼむ。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市西部、富山市南東部、氷見市南東部、高岡市西部、南砺市南西部

生態・生育環境

用水路の土手や野原など、適度に除草されてやや水分のある場所に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

里山の管理放棄、山麓部の耕作放棄

保全対策

除草によって草地環境が維持されることが望まれるが、継続性の問題がつきまとう。

ミズアオイ (ミズアオイ科) *Monochoria korsakowii* Regel et Maack

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

水田の乾田化や用水路の改修で生育環境が狭められ、生育個体数も限られている。

形態

高さ30～60cm。葉は心形で長さ5～10cm、葉柄はほぼ同長である。根生葉の柄はそれよりも長く10～20cm。全草は深緑色、肉厚で光沢がある。花序は総状で多数の紫色の花を咲かせる。花は比較的大きく、径2～3cmである。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北東部、黒部市北東部、富山市北部、射水市、氷見市中南部。

生態・生育環境

沼や用水、水田などに生育する一年草。花期は9～10月。最近、休耕田や放棄田で一時的に群生することがある。また、深い用水では沈水浮上形のものも見られる。

生存への脅威

水田の乾田化、用水改修、遷移進行。

保全対策

生育環境の確保。

ホソバタマミクリ (ミクリ科) *Sparganium glomeratum* (Beurl. ex Laest.) L.M.Newman var. *angustifolium* Graebn. 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育記録地が極めて限定されており、個体数も少ない。ただし、生育地の環境は比較的安定している。

形態

幅が2～4mmの細長い葉を水面に浮かす。まれに高さ20～60cm程度の抽水生の水草となる。母種のタマミクリとは区別しにくいこともある。

国内の分布状況

北海道、本州（北陸以東）。

県内の分布状況

朝日町南部、富山市南東部、魚津市南東部。

生態・生育環境

亜高山帯の池沼に生育する多年草。浮葉植物として生育することが多い。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、地表変動・気候変動などによる生育地の乾燥化。

保全対策

生育地の実態把握と生育環境の保護管理。

特記事項

朝日・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ウキミクリ (ミクリ科) *Sparganium gramineum* Georgi 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が北アルプスの亜高山の池沼という特殊環境に限定されており、個体数も少ない。

形態

葉は扁平で幅5mm以内、水面に長く浮かせる。花序は水面に横たわった花茎から立ち上がる。花序の上部に雄性頭花がつき、雌性頭花は花序の下部の枝につく。

国内の分布状況

本州（北アルプスの富山県・新潟県のごく一部）。

県内の分布状況

朝日町東南部、富山市南東部。

生態・生育環境

亜高山の池沼に生育する浮葉生の多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

生育環境の池沼の衰退、産地局限。

保全対策

生育環境の保護。

クモマスズメノヒエ (イグサ科) *Luzula arcuata* (Wahlenb.) Sw. subsp. *unalaschkensis* (Buchenau) Hultén 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内では高山風衝草原に広く生育するが、環境変化によっては著しく減少するおそれがある。

形態

高さ15～25cm、根出葉は多数あって線形で、長さ5～10cm、幅2～3mm、先は鋭くとがり、縁に白色の長毛がある。茎葉は2～3個、根出葉より幅狭く、葉鞘の上端に白色の長毛が密生する。

国内の分布状況

北海道、本州中部。

県内の分布状況

富山市南東部、立山町西部。

生態・生育環境

高山の草原に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

白山国立公園特別地域内指定植物。

イトハナビテンツキ (カヤツリグサ科) *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

もともと生育地が少なく、個体数は多いものの生育面積が狭いことから、土地管理の変更によって容易に絶滅する危険性があると考えられる。

形態

高さ5～15cmで、茎や葉は糸状で密な株をつくる。変種関係にあるイトテンツキとは、側小穂に柄がある点で区別される。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市北部、上市町中部、南砺市中部。

生態・生育環境

畑地や荒地など、日当たりの良い草地に生育する一年草。花期は夏～秋。

生存への脅威

草地の開発、農業形態の変化。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護。

チャシバスゲ (カヤツリグサ科) *Carex caryophyllea* Latour. var. *microtricha* (Franch.) Kük.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が一地域に限定されているものの、個体数が多いことから絶滅の緊急性は低いと考えられる。

形態

茎は高さ10～40cm。シバスゲに似るが、シバスゲよりも大型で、小穂は栗褐色または赤褐色。

国内の分布状況

北海道、本州中北部。

県内の分布状況

高岡市中西部。

生態・生育環境

日当たりの良い草地および海岸に生育。5～7月に熟す。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行

保全対策

開発の抑制。

ホスゲ (カヤツリグサ科) *Carex deweyana* Schwein. subsp. *senanensis* (Ohwi) T.Koyama

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

産地が限られており個体数も少ない。過去の生育記録は高山の縦走登山路で記録されているが、近年では容易に見ることができない。

形態

軟らかい中形のスゲで高さ25～70cm、葉は幅2.5～4.5mm。花序は傾き、無柄小穂を7～9個散生する。小穂は長楕円形で長さ約1cm、幅3～4mm、下方の1～2個のみに短い苞がつく。果胞は卵状披針形で細脈があり無毛、長さ約4mm、上方はしだいに長い喙となる。

国内の分布状況

本州（鳥取・兵庫県境の氷ノ山より北の日本海側）。

県内の分布状況

朝日町南東部、富山市南東部、黒部市南部（文献記録）。

生態・生育環境

亜高山～高山の草地に生育する多年草。果実は6～7月に熟す。

生存への脅威

産地局限、登山者の踏みつけ。

保全対策

登山者の踏みつけを抑制。

ヒロハノオオタマツリスゲ (カヤツリグサ科) *Carex arakiana* (Ohwi) Ohwi 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

2006年に富山市南東部の山地2ヶ所で生育が確認され、今後さらに見つかる可能性がある。生育地は少ないが絶滅のおそれは低いと考えられる。

形態

花径は高さ30～70cm。葉は深緑色で幅6～12mm。雄小穂は柄が長く抽出し、長さ1～2cm、赤褐色を帯びる。雌鱗片は淡緑色ときに一部赤褐色を帯びる。オオタマツリスゲに似るが、葉は深緑色で前年葉が残り、基部の鞘は赤紫色が強い。

国内の分布状況

本州（中国地方の日本海側～北陸地方）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

丘陵や山地の樹林内に生育。

生存への脅威

登山者の踏みつけ、除草。

保全対策

生育地の保全。

タカネヤガミスゲ (カヤツリグサ科) *Carex lachenalii* Schkuhr 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内でも生育地が極めて限定されており、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

形態

茎は高さ15～40cm、葉は有花茎より短く幅1.5～2.5mm。小穂は卵形～円柱形で、長さ5～10mm。

国内の分布状況

北海道（大雪山）、本州（山形県、長野県、山梨県）。

県内の分布状況

朝日町南東部。

生態・生育環境

高山の乾いた草原に生育する多年草。花期は7月～8月。

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

ダケスゲ (カヤツリグサ科) *Carex magellanica* Lam. subsp. *irrigua* (Wahlenb.) Hiitonen 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内の生育地は1ヶ所のみで環境の変化により絶滅のおそれはあるが、生育地が一般の人間があまり近づかない場所であることから、緊急性は低いと考えられる。

形態

茎は高さ20～30cm、葉は幅2～3mm。小穂は2～4個が頂生する。頂小穂は雄性で赤褐色。側小穂は雌性で細い柄があり垂れ下がる。ヤチスゲに似るが、果胞にははっきりしない条線があるだけで、脈がなく、長さ2.5～3mm。鱗片は果胞よりもずっと細く、長鋭尖頭をなしてとがり、落ちやすい。また雌小穂もすこし数が多く2～3個つく。

国内の分布状況

本州中北部。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

山地、高層湿原に生育。6～7月に熟す。

生存への脅威

遷移の進行。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

白山国立公園特別地域内指定植物。

オタルスゲ (カヤツリグサ科) *Carex otaruensis* Franch.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が2ヶ所と少ないために環境の変化により消滅する危険性はあるが、個体数はある程度数が確認されていることから緊急性は低い。

形態

茎は高さ30～60cmで、基部の葉鞘は一部美しい赤色を帯びる。根茎は匍匐がない。果胞は2.5～3mm。

国内の分布状況

北海道西南部、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日市北部、富山市南部（古い標本）。

生態・生育環境

水湿地に生育。5～6月に熟す。

生存への脅威

森林開発。

保全対策

生育地の保護。

ナガミヒメスゲ (カヤツリグサ科) *Carex oxyandra* (Franch. et Sav.) Kudô var. *lanceata* (Kük.) Ohwi

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、個体数も多くない。

形態

稈は高さ10～50cm。頂小穂は長さ5～8mmの線形で雄性、側小穂は2～3個、ごく短く卵球形で雌性。細長い匍枝がある。株基部の鞘は濃赤紫色。変種関係にあるヒメスゲとは果苞の嘴部分が約2mmと長いことで識別される。

国内の分布状況

本州（東北地方南部～近畿地方）。

県内の分布状況

朝日町東南部。

生態・生育環境

山地～高山の草原や林縁に生育する。花期は5～7月で多年草。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

クロボスゲ (カヤツリグサ科) *Carex atrata* auct. non L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地は限定されるため環境の変化により消滅する危険性はあるが、高山帯であることから緊急性は低い。

形態

茎は高さ20～50cm。ミヤマクロスゲに似ているが、茎の基部の鞘は一部暗赤色を帯び、果胞は長さ3～3.5mm、脈がないので区別できる。

国内の分布状況

本州中部。

県内の分布状況

立山町東部。

生態・生育環境

高山草原に生育。7～8月に熟す。

生存への脅威

登山者による踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

シラコスゲ (カヤツリグサ科) *Carex rhizopoda* Maxim.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地が少なく、開発されやすい湿地であることから絶滅の可能性があると考えられる。

形態

茎は高さ20～50cm、鋭3稜があってざらつく。全体はやわらかで鮮緑色、短い根茎があって大きな株をつくる。葉は幅2～3mm。小穂は1個で頂生し、長さ1.5～4cm、狭長楕円形で、上部にある雄花部は短くて細く、下部には雌花部がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市南東部、朝日町北部、富山市南東部。

生態・生育環境

丘陵地または山間の水湿地に生育する多年草。4～6月に熟す。

生存への脅威

生育地（湿地）の開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。

キイトスゲ (カヤツリグサ科) *Carex sachalinensis* F.Schmidt var. *fulva* (Ohwi) Ohwi

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

2005年に県内で初記録され生育地が1ヶ所しか確認されていないことは絶滅危険要因であるが、今後新産地が見つかる可能性があるため、緊急性は低い。

形態

茎は高さ15～30cm、葉幅は2～3mm、小穂は2～4個つく。ゴンゲンスゲの高山型と思われ、基部の鞘および鱗片(りんぺん)が黄色または黄褐色となる。

国内の分布状況

本州（東北地方、中部地方の日本海側）。

県内の分布状況

立山町東部。

生態・生育環境

高山に生育。

生存への脅威

登山者の踏みつけ、除草。

保全対策

生育地の保護。

タカネナルコ (カヤツリグサ科) *Carex siroumensis* Koidz.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

国内における生育地域が限られており、県内でも生育地が極めて限定されている。個体数も多くないため、環境変化によって減少するおそれがある。

形態

高さ20～30cmで上部はややざらつく。頂小穂は長さ1～1.5cmの円柱形で上部が雌性、下部が雄性であるか、全体が雄性。側小穂は雌性で円柱形。果苞は披針形、まばらに短毛がある。口部は2歯となり赤褐色を帯びる。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南部、上市町南部、立山町北部および東部。

生態・生育環境

高山帯の荒地や岩場に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

モエギスゲ (カヤツリグサ科) *Carex tristachya* Thunb.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

2003年に県内でははじめて分布が確認された。生育地は1地域であるが、個体数は比較的多く分散している。生育地域では宅地等の開発が時々行われるので、生育地点が減少するおそれがある。富山県は本種の分布域の北限にあたる。

形態

茎は高さ20～50cm、葉は幅3～5mm。茎の基部の葉鞘は暗褐色で縦の細い繊維に分解する。個茎の上部に3～5個の小穂が集まってつき、頂小穂は雄性で線形、長さ2～4cm、側小穂は雌性で円柱形。果胞は雌鱗片より長く長さ3～3.5mm、まばらに短毛をつけ、口部は凹型。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

射水市中南部。

生態・生育環境

山地の乾いた草地に生育する多年草。4～5月に熟す。

生存への脅威

宅地開発、産地局限。

保全対策

林道法面等の定期的な除草継続。

ノテツキ (カヤツリグサ科) *Fimbristylis complanata* (Retz.) Link f. *exaltata* T.Koyama

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

過去には県内各地の湿地で採集された標本が残っているが、近年では1ヶ所しか確認されていないため、生育地が消失した場合絶滅に至るおそれがある。

形態

根茎は短い。茎は高さ20～80cm、扁平で平滑。葉は幅1.5～3mm。花序は2～3回分岐し、苞は2～4個あって花序より短い。小穂は多数ついて広披針形で鋭頭、角ばっていて長さ5～8mm、幅1.5～2mm。鱗片は長さ3mmほど、赤褐色、鋭くとがり、約は長さ1.5mmほど。果は長さほぼ1mmで白色。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市西部。他に黒部市中部、南砺市中部、富山市中南部などで古い標本あり。

生態・生育環境

平地または山地の湿地に生育する多年草。7～10月に熟す。

生存への脅威

生育地（湿地）の開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。

ヒゲハリスゲ (カヤツリグサ科) *Kobresia myosuroides* (Vill.) Fiori

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地が限定されているため生育地点数は少ないが、高山帯で人為の影響が小さいことから、緊急的な絶滅の危険性は低いものと思われる。

形態

匍枝はなく密な小株をつくる。茎は高さ10～25cmで、細く直立し、1株にやや多数つき鈍稜がある。葉は糸状で直立し、溝があり、茎とほぼ同長。花序は線形で長さ1.5～3cm、ややまばらに小型で無柄の小穂をつけ、頂小穂は雄花で数個つき、側小穂は雌花で2花つく。

国内の分布状況

北海道、本州中部。

県内の分布状況

朝日町南東部。他に黒部市東部（文献記録のみ）。

生態・生育環境

乾いた高山草原に生育。7～8月に熟す。

生存への脅威

登山者の踏みつけ、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

タカネクロスゲ (カヤツリグサ科) *Maximowiczella japonica* (Maxim.) A.P.Khokhr. 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内でも生育地が極めて限定されており、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

形態

高さ15～40cm、直立して1～3節があり、匍枝はない。根出葉は短く、幅3～6mm、葉鞘はややゆるく茎を包む。花序は頂生し、やや一方に傾き、1～2回分岐して、長さ3～5cm、苞は短く、柄はざらつく。小穂は黒灰色。

国内の分布状況

北海道、本州中部以北。

県内の分布状況

朝日町南東部。富山市南東部。

生態・生育環境

高山の湿った草地に生育する多年草。7～8月に熟す。

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

クロアブラガヤ (カヤツリグサ科) *Scirpus sylvaticus* L. 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が河川の氾濫原や人為の影響を受けやすい湿地であることから、環境を安定させる工事の進行に伴って徐々に生育地が失われていくおそれがある。

形態

短い根茎があり、花序のない枝(茎)は伸びない。茎は高さ1mほどで、6～8節がつき、鈍3稜形、先端は鋭稜があつてざらつく。茎の葉は線形で長さ20～40cm、幅5～10mm。花序は大型で数回分岐し、末端の小枝はざらつく。小穂は多数で1～3個ずつつき、黒灰色で、狭卵形、長さ4～7mm。

国内の分布状況

北海道、本州中部以北。

県内の分布状況

南砺市南部、富山市南部。

生態・生育環境

川岸、池畔の湿地に生育。7～8月に熟す。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護。

ヒロハノコヌカグサ (イネ科) *Aniselytron treutleri* (Kunze) Soják var. *japonicum* (Hack.) N.X.Zhao 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

過去に1地域で採取されただけで県内での分布実態が不明であるが、現存する場所が県立自然公園内なので絶滅の緊急性は低いと思われる。

形態

高さ約1m、葉は扁平で長さ20～30cm、幅1～2.2cm。大きな円錐花序にまばらに小穂をつける。

国内の分布状況

中部地方以西の本州。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

深山の林中に稀に生える多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

開発(特に森林伐採を伴うもの)。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

有峰県立自然公園の指定植物。

フサガヤ (イネ科) *Cinna latifolia* (Trevir.) Griseb.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1959年の標本と近年旧大山町で採集された標本があるだけであることから、県内の分布は限られているといえる。緊急性は低いものの絶滅のおそれがあると考えられる。

形態

高さ約1m、葉は扁平で長さ12～25cm、幅8～15mm。円錐花序は長さ15～30cmで、やや先が垂れ、光沢のある灰緑色をしている。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）。

県内の分布状況

南砺市南部、富山市南東部。

生態・生育環境

ブナ帯から亜高山帯にかけての林中に生える多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

ヤマオオウシノケグサ (イネ科) *Festuca hondoensis* (Ohwi) Ohwi

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

県内では生育地が限定されており個体数も多くない。

形態

茎は高さ10～30cmで、匍枝はなくやや密な株をつくる。花序は下方の節では2本ずつ分枝し、無毛。小花の外えいは長さ4～5mmで、先端の芒は0.5mm以下と短いか、またはない。

国内の分布状況

北海道（夕張岳）、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町東南部、黒部市東部。

生態・生育環境

亜高山帯～高山帯の砂礫地や岩場に生育する。花期は7～8月で多年草。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

タカネソモソモ (イネ科) *Festuca takedana* Ohwi

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

国内の分布地域が限定されており、県内でも生育地が極めて限られている。環境変化によって減少するおそれがある。

形態

稈は直立し、高さ15～40cmになり、匍枝を出す。根元の葉鞘は濃紫色、葉舌は1mmで紫色を帯びる。花序は円錐状で垂れ下がり、長さ5～10cmで、小穂も紫色を帯びる。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南東部、上市町東部、立山町東部、富山市南東部。

生態・生育環境

高山帯の岩礫地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

気候変動、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

ヒロハノドジョウツナギ (イネ科) *Glyceria leptolepis* Ohwi

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されていることに加え、ダム開発や道路工事によって失われるおそれがある。

形態

茎は直立し高さ1.8mになる。根茎は長く這い、節から茎を地上に出す。葉はやや厚く、多少内曲し、長さ20～40cmで、両面がざらつく。茎の下部の節が膨らみ、葉梢は円柱形で、乾燥すると細かい格子紋ができる。花序は大型の円錐花序で長さ15～25cm、枝の先にまばらに小穂をつける。小穂の長さは6～8mm、はじめは黄緑色であるが、果実が熟すと暗紫褐色になる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市東部および南部。

生態・生育環境

山地の小さな沢や堰堤の土砂だまりなどに稀に生える多年草。花期は8月。

生存への脅威

ダム開発、道路工事。

保全対策

生育環境の保護管理。

ハイチゴザサ (イネ科) *Isachne nipponensis* Ohwi

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

2011年に県内で初めて生育が確認され、生育面積も狭く絶滅のおそれがあると考えられる。

形態

茎は細く、地をはって分岐し、高さ5～10cm。葉は薄く、長さ1.5～3cm、幅4～8mmで先は短く鋭くとがり、両面にまばらに長毛がある。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

滑川市東部。

生態・生育環境

林縁部や湿地に生育する小型の多年草。花期は9～10月。

生存への脅威

生育地の開発、除草。

保全対策

生育地の保全

カモノハシ (イネ科) *Ischaemum aristatum* L. var. *crassipes* (Steud.) Yonek.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、土地開発、土地改良により個体数が減少している。

形態

直立する草本で高さ40～70cm、基部は分枝して地を這うことがある。花序は長さ5～7cmで直立する。花穂は2個で互いにくっつき、1個の柱状に見える。葉は線形である。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、入善町北部、黒部市北部、射水市南部、南砺市北部、小矢部市南部、氷見市中部。

生態・生育環境

やや湿った草地に生育する多年草。花期は7～11月である。

生存への脅威

土地開発、土地改良。

保全対策

生育地の保護管理。

タツノヒゲ (イネ科) *Neomolinia japonica* (Franch. et Sav.) Honda

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では2ヶ所のみで記録され、生育場所が林道法面で人為の影響を受けやすい場所であることから、絶滅のおそれがある。

形態

高さ50～80cmの繊細な草本。群生せず、基部も肥大しない。小穂は長さ3～5mm、1～3個の小花からなり、護穎は卵形、平滑、鈍頭で、長さ約3mm、内穎の竜骨は平滑。葯は長さ約1mm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市北東部。

生態・生育環境

山地の林中に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

開発（道路拡幅、改修工事）、除草。

保全対策

開発の抑制。

イトイチゴツナギ (イネ科) *Poa matsumurae* Hack.

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、国内の分布西限にあたる。

形態

高さ50～80cmで、地下には長い匍枝がある。ナガハグサに似るが、小穂は大型でまばらにつき、柄は細く長い。

国内の分布状況

本州（中部地方以北）。

県内の分布状況

朝日町北東部（古い標本）、魚津市、立山町北西部、立山町東南部。

生態・生育環境

低地から高山にいたる川岸や湿草原に生育する。花期は夏で、多年草である。

生存への脅威

開発（草地や河川の改修）、登山者による踏みつけ。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護。

ネズミノオ (イネ科) *Sporobolus indicus* (L.) R.Br. var. *major* (Büse) Baaijens

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内各地で生育が確認されているが、人為の影響を受けやすく、外来種が優占する河川敷が生育環境であることから、緊急性は低いものの絶滅のおそれがある。

形態

株立ちになり粗剛。ほぼ全体無毛で、葉は線形。花序は細長い穂状となり、長さ15～40cm、幅5～10mm、淡鉛緑色で直立する。小穂は短い柄があり、長さ2～2.5mm、成熟すると灰褐色の小さい種子が露出する。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

高岡市中北東部、富山市中北部。富山市北東部、魚津市北西部。おもに河川敷。

生態・生育環境

路傍、荒地に生育する多年草。花期は9～11月。

生存への脅威

開発、除草、外来種との競合、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、遷移進行の抑制。

ハネガヤ (イネ科) *Stipa pekinensis* Hance

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内の生育地が限られ、開発等の影響で容易に消滅するおそれがある。

形態

高さ80～150cm。円錐花序は枝が長く、開出して半輪生し、苞穎は3脈がある。護穎は草質で長さ6～8mm、その芒は細く、長さ2～2.5cm。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

魚津市西部(2011年消滅?)。高岡市北部、富山市南部(いずれも過去の標本)。

生態・生育環境

山中の林地、草地に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制。

スナシバ (イネ科) *Zoysia x hondana* Ohwi

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生育地は4ヶ所ほどあるが、砂浜海岸がきわめて減少しており、また開発も進んでいることから個体数は減少しつつある。

形態

シバとオニシバの雑種と推定される。シバと同様の長い立毛があり、葉の一部や小穂が紫がかかるのはオニシバと同様。小穂の大きさはシバとオニシバの中間で幅1.3～1.8mm、長さ4～5mm。

国内の分布状況

本州(青森県、福島県、神奈川県、千葉県)。

県内の分布状況

朝日町北部(古い標本)、富山市北部。

生態・生育環境

海岸の砂浜や内陸の放牧、踏みつけの多いところに生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

海岸の開発。

保全対策

生育地の保全。

アズマレイジンソウ (キンポウゲ科) *Aconitum pterocaule* Koidz.

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生育地が限られ、また生育個体数が少ない。花が美しいことから山野草として採取の対象となる。山地の自然林の伐採、道路造成により生育地の消失のおそれがある。

形態

茎は高さ80～150cmで、直立またはつる状となり地を這う。根出葉は長さ約15cm、幅約18cmの腎円形で長い葉柄をもつ。花は淡紅紫色で、総状花序につく。

国内の分布状況

本州(中北部、日本海側)。

県内の分布状況

富山市南西部、南砺市中部。

生態・生育環境

夏緑樹林の林床、林縁に生育する多年草。花期は8～10月。

生存への脅威

森林伐採、道路工事、園芸採取。

保全対策

自然林の保全、道路工事の抑制、採取の規制。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物。

アズマイチゲ (キンポウゲ科) *Anemone raddeana* Regel

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており個体数も少ないうえ、生育環境の変化により減少している。

形態

高さ15～20cm。根出葉は2回3出複葉で、小葉は深く裂ける。茎葉は3枚が輪生し、3出複葉で、小葉に鋸歯があるが深く切れ込むことは無い。花は花茎に1個が頂生し、直径3～4cmである。萼片は8～13枚、線状長楕円形で白く、基部と裏面はやや紫色を帯びる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

砺波市南部、高岡市中部、南砺市東部、富山市南部。

生態・生育環境

落葉樹林の林縁や林床、ときに草原にも生え、石灰岩地を好む多年草。花期は3～5月。

生存への脅威

山林開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日・五箇山県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

シラネアオイ (キンポウゲ科) *Glaucidium palmatum* Siebold et Zucc.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が限定されているうえに、花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が激減している。

形態

花茎は高さ15～30cm、花後は60cmにも達する。根出葉には長い葉柄があり、大きくなれば幅30cm近くにもなる。基部は心形、掌状に5～11中裂し、裂片の先は鋭くとがり、不ぞろいな鋸歯がある。花茎につく下部の2枚の葉は根生葉に似る。花は頂生し、花弁状の萼片が4枚、径5～10cmで淡紫色、まれに白色。

国内の分布状況

北海道、本州（中北部）。

県内の分布状況

朝日町、黒部市、魚津市、富山市、立山町、上市町。

生態・生育環境

山地～亜高山帯の多雪地を好む。林縁や林の中、または雪渓や雪田のそばにもはえる多年草。花期は5～7月。

生存への脅威

山林開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

オオミスミソウ (キンポウゲ科) *Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai f. *magna* (M.Hiroe) Kitam.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく、個体数も少ない。花が美しいため観賞用の山野草として採取され、絶滅のおそれがある。

形態

草丈は10～20cm。葉は根生し、長柄がある。葉身は長さ3～6cm、幅5～10cmで3浅裂し先は尖る。花は径1.5～2cmで、花弁状の萼片は6～10個、白色、紫色、紅色など変異が多い。

国内の分布状況

本州（山形県以西の日本海側）

県内の分布状況

南砺市北東部。

生態・生育環境

山地の夏緑樹林の林床に生える常緑の多年草。花期は3～4月。

生存への脅威

園芸採取、森林伐採。

保全対策

生育地の保護。

ツクモグサ (キンポウゲ科) *Pulsatilla nipponica* (Takeda) Ohwi

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

県内の生育地が極めて限定される。踏みつけや観賞用の山野草としての採取により個体数が減少するおそれがある。

形態

全体に毛が多い。根生葉は、長い柄をもつ2回3出複葉で、裂片はさらに2～3回羽状に分裂する。高さ10～30cmの花茎には、根生葉に似た形の葉状の苞がつき、クリーム色の花を1個つける。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南東部。

生態・生育環境

高山の乾いた草地に生える多年草。葉は花よりも遅く伸びる。花期は6～7月。

生存への脅威

産地局限、踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の規制。

特記事項

中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

イブキンポウゲ (キンポウゲ科) *Ranunculus japonicus* Thunb. var. *ibukiensis* Tamura

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく、個体数も限られている。

形態

草丈は15～40cm。茎はほとんど無毛。根生葉は長い柄があり、掌状に3裂し、裂片はさらに浅く裂ける。茎葉はほとんど無柄の線形で3裂片がある。葉の表面には光沢があり、裏面と葉柄に開出毛がある。花は径約1.5～2cmで5枚の黄色の花弁をもつ。母種のウマノアシガタと混生する場所では中間型が存在する。

国内の分布状況

伊吹・鈴鹿両山脈を中心とする中部地方西部～近畿地方東部。

県内の分布状況

富山市南西部、富山市南部、立山町西部、立山町東部、南砺市中南部。

生態・生育環境

日当たりのよい草地に生える多年草。石灰岩地によく見られる。花期は4～5月。

生存への脅威

草地開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保全。

ヤシャビシャク (スグリ科) *Ribes ambiguum* Maxim.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

全生育地で生育個体数が限られている。園芸目的で採取されることがある。

形態

高さ20～50cmで、茎には棘が多数つく。葉腋に花序を作り、数個の花をつける。果実は直径約8mmで、熟しても緑のまま。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町東部、黒部市南部、立山町南部、富山市南東部、南砺市南部。

生態・生育環境

落葉広葉樹林のブナやミズナラの幹に着生する小低木。花期は5月、果期は6～7月。

生存への脅威

森林の伐採。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日・有峰・白木水無・有峰・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ツメレンゲ (ベンケイソウ科) *Orostachys japonica* (Maxim.) A.Berger

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地が限られており、個体数が少ない。また、観賞用の山野草として採取される。

形態

多肉質で披針形の根出葉が密集した直径5～10cmのロゼットを持つ。ロゼットの中心から伸長する花茎は塔状に長さ10～15cmになり、白色の花を多数つける。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市中部、富山市南部、南砺市南部、砺波市南部。医王山県立自然公園内。

生態・生育環境

渓谷などの日当たりの良い岩上に生える多肉の多年草。開花・結実すると枯死する。花期は9～11月。

生存への脅威

開発（河川改修、道路造成）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

タコノアシ (タコノアシ科) *Penthorum chinense* Pursh

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

河川改修や湿地の乾燥化により生育適地が減少している。生育個体数も限られている。

形態

高さ30～80cm。茎は分岐せず直立し赤みを帯びる。葉は披針形～長楕円形で縁に細かい鋸歯があり、互生する。茎頂にタコの足状の集散花序を数本のばす。花は直径5mmほどで花弁はない。秋には全草が赤くなる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市北部、氷見市東部、高岡市中部。

生態・生育環境

水位が変動する不安定な湿地や沼、河川敷、水田跡地など攪乱頻度の高い環境に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

河川改修、湿地の乾燥化による遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

ミツバフウロ (フウロソウ科) *Geranium wilfordii* Maxim.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の分布域は限定されているものの生育地点は多い。徐々に減少しているが緊急性は低い。

形態

茎は高さ30～80cm、よく分枝し、基部は倒れ伏し、上部には葉柄とともに下向きの屈毛および圧毛がある。葉は対生し、葉身は幅1.5～10cmで、3深裂し、裂片には数個の大きな鋸歯があり、表面および裏面脈状に細毛がある。托葉は離生し、膜質、3角形で長さ2～5mm。花は淡紅色で、径1～1.5cm。蒴果は花柱分枝を含め約2cm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市南東部。

生態・生育環境

山地の草むらにはえる多年草。花期は7～10月。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行、外来種との競合。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。

ミズマツバ (ミソハギ科) *Rotala mexicana* Cham. et Schltdl. 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

- 選定理由**
除草剤の使用や圃場整備によって激減した水田雑草で、過去20年間で数ヶ所程度の確認記録しかない。一時的に大量に発生し数年で消えていくことが多い。水田を深耕することで再生することもある。
- 形態**
茎の基部は地面を這い、上部は斜上し分枝して高さ約3～10cmになる。葉は3～4個輪生し、線形～長披針形で長さは6～10mm、先端は2凸端。花は葉腋に単生し淡紅色、花弁はない。萼筒は鐘型、3角形の5裂片がある。蒴果は球形で長さは萼の2倍あり3裂する。果期には果実と茎が赤く染まる。
- 国内の分布状況**
本州、四国、九州、沖縄。
- 県内の分布状況**
富山市中部、富山市西部、富山市南部。
- 生態・生育環境**
水田や湿地にはえる一年草。花期は8～10月。
- 生存への脅威**
除草剤使用、圃場整備、生育地の耕作放棄。
- 保全対策**
低農薬耕作が継続されることが望まれるが、実施は困難である。

リシリオウギ (マメ科) *Astragalus frigidus* (L.) A.Gray subsp. *parviflorus* (Turcz.) Hultén 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

- 選定理由**
県内では生育地が極めて限定され、踏みつけによる生育地の荒廃などによって個体数が著しく減少するおそれがある。
- 形態**
高さ15～30cmで、小葉が7～10枚の羽状複葉で互生し、茎の先に長さ15mmの黄白色の花を多数咲かせる。
- 国内の分布状況**
北海道、本州（中部）。
- 県内の分布状況**
朝日町東部、黒部市南東部。
- 生態・生育環境**
高山の草原に生育する多年草。花期は7～9月。
- 生存への脅威**
踏みつけ。
- 保全対策**
生育地の保護。
- 特記事項**
中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ハゴロモグサ (バラ科) *Alchemilla japonica* Nakai et H.Hara 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

- 選定理由**
県内では生育地が極めて限定されており、個体数も少ないため、環境変化によって著しく減少するおそれがある。
- 形態**
高さ20～40cmで軟毛がある。根出葉は柄が長く、茎の上の方の葉は柄が短くなる。浅く7～9裂し、基部は心形。花はやや淡い緑色で非常に小さく、花弁はない。
- 国内の分布状況**
北海道（夕張岳）、本州（北アルプス、南アルプス）。
- 県内の分布状況**
朝日町南部、黒部市南部。
- 生態・生育環境**
高山の草地や砂礫地に生育する多年草。花期は7～8月である。
- 生存への脅威**
登山道沿いの踏みつけ。
- 保全対策**
生育地の保護。
- 特記事項**
中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

イワキンバイ (アツバイワキンバイ) (バラ科) *Potentilla ancistrifolia* Bunge var. *dickinsii* (Franch. et Sav.) Koidz.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が著しく減少するおそれがある。

形態

高さ10～30cm。茎は細く、根茎は木質で太い。根出葉は柄があり、3～5個の小葉のうち下方の2小葉は小さい。数花から数十花つける。花は集散花序で直径1cmの黄色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部、魚津市南東部。

生態・生育環境

山地の岩上に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

気候変動、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ウラジロキンバイ (バラ科) *Potentilla nivea* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が極めて限定されているため、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

形態

高さ10～30cmで、花茎には多数の黄色花をつける。葉は3小葉からなり、裏には白色の綿毛が密生する。

国内の分布状況

北海道、本州（東北・中部山岳・南アルプスなどの高山帯）。

県内の分布状況

朝日町東部、黒部市南東部、富山市東部。

生態・生育環境

高山の砂礫地や岩隙に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ツルキジムシロ (バラ科) *Potentilla stolonifera* Lehm. ex Ledeb.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が著しく減少するおそれがある。

形態

キジムシロによく似ているが、長い匍枝が出る。本州のものは、北地のものに比し、小型のものが多い。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

富山市南部、富山市南西部、南砺市北東部、魚津市南東部。

生態・生育環境

山地、草原に生える多年草。

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

タテヤマキンバイ (バラ科) *Sibbaldia procumbens* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が著しく減少するおそれがある。

形態

枝はやや匍匐して、古い葉柄と古い托葉に被われている。小葉は3個、くさび形、長さ1～1.5cmで、先端に3～5個の大きな歯牙がある。花弁は5枚で萼片よりも小さく、狭卵形で黄色。

国内の分布状況

本州中部。

県内の分布状況

立山町東部、黒部市東部、朝日町南東部、魚津市南東部。

生態・生育環境

高山帯に生育する小低木。花期は7～8月。

生存への脅威

気候変動、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

コミヤマミズ (イラクサ科) *Pilea notata* C.H.Wright

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定玉里由

確認されている生育地が4ヶ所程度と限られており、ダム開発等で一部の生育地が消滅するおそれがある。

形態

高さ40～50cmになる草本で、対生する葉は卵状楕円形で長さ8～15cm、先が尾状に長く伸び、ふちには粗鋸歯があり、3本の主脈が目立ち、2～3cmの柄がある。葉腋に雄花序と雌花序を別々につける。花は淡緑色。そう果は広卵形で0.5mmほど。

国内の分布状況

本州（中部以西）、四国、九州。

県内の分布状況

上市町北部、高岡市北部、氷見市北部。

生態・生育環境

山地のやや崩壊性の湿った場所に生える。水分が多くやや軟弱な多年草。雌雄同株。花期は8～10月。

生存への脅威

生育地の局限、ダム開発。

保全対策

生育地の保護。

ツクバネガシ (ブナ科) *Quercus sessilifolia* Blume

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

分布北限にあたり、県内では生育地が極めて限定されている。

形態

高さ20mの常緑高木。葉柄は極めて短く4～12mm。葉の緑は内側にやや巻き込む。

国内の分布状況

本州（宮城県、富山県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

上市町西部は絶滅、富山市西部。

生態・生育環境

低山地斜面に生育し、常緑広葉樹林の林冠を構成する。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

近年のカシノナガキイムシの穿孔害を受けており、今後衰弱する恐れがある。

アサダ (カバノキ科) *Ostrya japonica* Sarg.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は内陸部に限定されるが、高木であることから急激に減少する危険性は小さい。生育地が急傾斜地であるので自然災害が起こるか、あるいは開発された場合は絶滅するおそれがある。

形態

樹皮は暗紫褐色、浅く縦裂して薄片に割れて反り返る。葉は互生。葉柄は長さ4～8mmで、毛と絨毛がある。葉身は狭卵形～長楕円形、長さ5～13cm、鋭尖頭、不整(重)鋸歯があり、鋸歯は芒端。葉ははじめ白軟毛が密生するが、のち無毛、裏面脈状に残存する。雄花序は尾状に下垂し、長さ1.5～6cm、帯緑色。雌花序は新枝頂端に上向きにつく。果穂は直立または下垂し、成熟した苞と小胞は全縁で、袋状の果苞となる。堅果は長楕円形でやや扁平、長さ5～6mm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、富山市南西部。

生態・生育環境

山地にはえる落葉高木。向陽の適湿地に生える。花期は5月。

生存への脅威

森林開発。

保全対策

生育地の保全。

イワウメツル (ニシキギ科) *Celastrus flagellaris* Rupr.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が限定されている。

形態

一、二年枝には、微細な乳頭状突起を密生し、托葉が1対の刺となって宿存する。葉身は円形～長卵形、長さ2～5cm、先は急鋭頭、縁に芒状の細鋸歯があり、表面は無毛、裏面の脈状に突起状の硬毛がある。葉柄は長さ1～5cm。雌雄異株。雄花は1～3個、雌花は1個ずつ、葉腋ときに芽鱗のわきに生じる。萼裂片は長さ約1mm、花弁は長さ約2mm。花柄は長さ約3mm、中央に関節がある。蒴果は球形、径約6mm、黄熟する。仮種皮は橙赤色。

国内の分布状況

本州(関東地方以西)、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市南西部、富山市南西部。

生態・生育環境

山地の林内にはえる落葉性の藤本。花期は5～6月。

生存への脅威

開発(特に森林伐採を伴うもの)。

保全対策

生育地の保護。

ニシキソウ (トウダイグサ科) *Chamaesyce humifusa* (Willd. ex Schtdl.) Prokh.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

路傍、畑地の雑草群落に生育するが、生育地が限定されている。管理方法の変更、放棄等、人為に大きく左右される。

形態

茎は地を這い、二又分枝を繰り返して地表を被うように広がる。茎、葉ともにまばらに軟毛があるかほとんど無毛(類似の帰化種コニシキソウは多毛)。葉は長楕円形で左右非相称、長さ約10mmで縁に細鋸歯があり、斑紋はほとんど見えない。上方の葉腋から1～3花からなる花序を出し淡赤紫色。子房にはまばらに軟毛があるが、熟した蒴果表面はほとんど無毛。秋には赤く紅葉する。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

小矢部市東部、氷見市北西部。

生態・生育環境

畑地や路傍に生える一年生の小型の草本。花期は6～10月。

生存への脅威

外来種との競合、除草剤の使用。

保全対策

外来種の駆除、除草剤使用の抑制。

トウダイグサ (トウダイグサ科) *Euphorbia helioscopia* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

かつては多数の生育地があったが、1990年以降の分布情報が極端に少なくなっている。

形態

草丈30cm前後、茎は1本立ちし中部につく葉はへら形で互生、長さ3～4cm。頂端に大きく丸みのある葉を5枚輪生し、各葉腋から1本ずつ計5本の枝を出し、先端に杯状花序をつける。子房の外表面は平滑。種子の表面に網目模様がある。植物体を傷つけると白い乳液を分泌する。有毒植物。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

黒部市中部（1988年）、魚津市南部（1980年以前）、富山市西部（1993年）、射水市北部、氷見市北部（1980年以前）。

生態・生育環境

路傍や畑地に生える越年草（または一年草）。春から夏にかけて開花結実する。草地の火入れ管理に依存して生育。

生存への脅威

火入れ管理の中止、除草頻度の低下、遷移進行。

保全対策

生育地の管理保全。

クモイナズナ (アブラナ科) *Arabis tanakana* Makino

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

本州中部のみに分布し、県内でも生育地が極めて限定されており、個体数も多くないため、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

形態

高さ3～13cm、茎が2、3本で束生する。頂端に直径5～7mmの4弁花が集まってつく。果実はやや斜上し、長さ10～12mm。根出葉はロゼット状、葉は全縁で両面に星状毛がある。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町東南部、黒部市東部、立山町北東部。

生態・生育環境

高山帯の乾いた草原や砂礫地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。分布の西限。

シロウマナズナ (アブラナ科) *Draba shiroumana* Makino

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

本州中部にのみ分布し、県内でも生育地が極めて限定されているため、環境変化によって著しく減少するおそれがある。

形態

茎は株状に密生し、高さ4.5～10cm。葉の多くは根生し、茎葉は1～4枚で両面とも無毛であるが、緑に毛がある。花序は短く無毛で、花は白色。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南東部。

生態・生育環境

高山の岩石地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

気候変動、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。白馬岳がタイプ産地。

オオユリワサビ (アブラナ科) *Eutrema okinosmensis* Taken.

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。

形態

オオユリワサビは株立ちとなること、鱗茎葉があること、また、6～8月植物体には葉（普通葉）は全く見られないことで、本県に分布するワサビとは区別される。葉はワサビに比べやや小さく、質は薄い。根茎はワサビのように太くはならない。花序、花、果実はワサビに似る。

国内の分布状況

本州（岩手県から島根県）、九州（福岡県）の主に日本海側。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生育環境

丘陵地の林縁斜面に生育する。花期は3月末より4月中旬で、果実期は5月初旬～中旬である。

生存への脅威

里山の管理放棄、道路造成。

保全対策

生育環境の保護管理。

特記事項

本植物は、環境庁編「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物植物I」には絶滅とされていたが、近年日本海側を中心に分布が確認されている。

カジカエデ (ムクロジ科) *Acer diabolicum* Blume ex K.Koch

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

日本海側の分布北限付近にあたり、県内の全生育地で個体数が限られている。

形態

高さ10～15mの落葉高木。葉は6～15cmで5裂し、基部は心形で短毛が密生する。葉の表面脈上にも毛がある。果実の翼の開きは平行に近い。

国内の分布状況

本州（宮城県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

入善町中部、立山町中部、富山市北西部、高岡市西部、高岡市北西部、氷見市南部。

生態・生育環境

山地の肥沃な谷間や緩傾斜地の中腹に多い。花期は4～5月。葉が展開する前に開花する。

生存への脅威

産地局限、道路工事、里山の管理放棄（竹林の分布拡大）。

保全対策

生育地の保護。

カラコギカエデ (ムクロジ科) *Acer ginnala* Maxim. var. *aidzuense* (Franch.) K.Ogata

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内で2ヶ所分布が確認されているが、生育地が不安定な湿地であることから、遷移の進行や開発が行われる場合には絶滅することもありうる。

形態

高さ2～5m。葉身は楕円形、長さ5～12cm、掌状の3脈および羽状脈があり、3浅裂またはほとんど切れ込まず、全周に大きな重鋸歯がある。葉柄は長さ2～6cmで、葉身の1/3～1/2程度。花序は複散房状に30～50個の花をつける。花は黄緑色、1花序に雄花と両生花がある。分果は長さ約3cm、白色の軟毛を散生し、果翼は鋭角に開くかほとんど平行、隆起する脈が目立つ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町中北部。

生態・生育環境

低山の湿地の林内に群生する落葉小高木。花期は5～6月。

生存への脅威

森林開発。

保全対策

生育地の保全。

オオツルイタドリ (タデ科) *Fallopia dentatoalata* (F.Schmidt) Holub 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

把握されている生育地が少なく、川岸や荒地など生育地の環境が不安定である。

形態

茎はつる性。葉は有柄、心形、先は鋭尖形、基部は浅～深心形、長さ3～6cm、幅2.5～4cm、縁と脈上に乳頭状突起がある。葉柄の基部に関節がない。托葉鞘は膜質で、無毛。総状花序は頂生か腋生して、まばらに花をつけ、小花柄の中部以下に関節がある。萼は紅紫色、5裂し、3外裂片は花後に背面が翼状になり、全体が倒卵形になってそう果を包む。そう果は鋭い3稜があり、黒色で、細点があり、長さ4～5mm。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

高岡市北部。

生態・生育環境

川岸や荒地に生える一年草。花期は8月～10月。

生存への脅威

開発、遷移。

保全対策

生育地の保護。

ホソバノウナギツカミ (タデ科) *Persicaria praetermissa* (Hook.f.) H.Hara 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られており、開発や里山の管理放棄により生育環境が減少しつつある。生育地では群生するので、個体数は少ない。

形態

高さ50cmになる草本。茎は下部で地上を這い枝分かれし、上部は斜上する。葉には短い柄があり、下部では卵形、上部では長楕円形、鋭先頭、長さ2～10cm。葉の基部はほこ型で、耳部は下方に曲がる。総状花序は、2又に分かれる花柄上につき、まばらに花をつける。花柄には腺毛がある。萼は淡紅色、長さ2.5～3mm。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町東部、富山市中部、射水市南部、氷見市北部。

生態・生育環境

休耕湿田や溜池周りの水湿地に生える一年草。花期は8～11月。

生存への脅威

ゴルフ場開発、道路開発、里山の管理放棄に伴う湿性地の遷移進行。

保全対策

生育環境の維持を目的として、定期的な土壌攪乱により遷移を阻害。

アキノミチヤナギ (タデ科) *Polygonum polyneuron* Franch. et Sav. 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

把握されている生育地が少なく、立地も不安定である。

形態

茎は高さ80cmになる。葉は披針形～長楕円形、ほとんど柄がなく、長さ5～30mm。托葉鞘は短く、多裂し、脈が多い。上部の葉は小さくて落ちやすいので、まばらな穂状花序をなす。花は節に2～3個つく。萼は長さ1.5～3mm、裂片の側脈は隆起する。そう果は萼より長い同長、等面の3稜形で光沢がない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北西部、射水市北東部。

生態・生育環境

海岸にはえる一年草。花期は9月～10月。

生存への脅威

海岸の開発。

保全対策

生育地の保護。

タカネミミナグサ (ホソバミミナグサ) (ナデシコ科) *Cerastium rubescens* Mattf. var. *koreanum* (Nakai) E.Miki f. *takedae* (H.Hara) S.Akiyama

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が著しく減少するおそれがある。

形態

高さ10～20cm。対生する葉は無柄で、基部は互いに合生する。根出葉と茎の下部の葉はへら形。集散花序は密に腺毛を出す。萼片は長さ4～6mm。花弁は白色、長さ7～10mmで、先は2裂する。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州（中部地方）。

県内の分布状況

黒部市南東部

生態・生育環境

高山に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

チシマツメクサ (ナデシコ科) *Sagina saginoides* (L.) H.Karst.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

本県は本種の分布の南限に当たり、生育地、個体数ともに極めて限られているため、環境変化によって減少するおそれがある。

形態

高さ3～5cmの小型草本で、直径約5mmの小さな白い花が咲く。

国内の分布状況

北海道、本州（北アルプス北部）。

県内の分布状況

朝日町南東部の高山、立山町南東部の高山。

生態・生育環境

寒地、高山の砂礫地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

フシグロセンノウ (ナデシコ科) *Silene miqueliana* (Rohrb.) H.Ohashi et H.Nakai

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されているうえに、花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数が著しく減少している。

形態

高さ50～80cm。茎の節は太く黒褐色を帯びる。葉は卵形～長楕円状披針形で先は尖り、基部は細まる。茎頂に朱赤色の直径5cmの美しい花を開く。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町東部、富山市南部、南砺市中部～西部、高岡市北西部。

生態・生育環境

山地に生える多年草。花期は7～10月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

乱獲の抑制。

シコタンハコベ (ナデシコ科) *Stellaria ruscifolia* Willd. ex Schtdl.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が極めて限定され、踏みつけによる生育条件の悪化などにより個体数が減少するおそれがある。

形態

高さ8～17cm。全体に粉白色を帯び、葉は長さ1～3cm、卵形～長卵形で先端が尖る。花は白色で少数、茎の上部の葉腋に単生する。花弁は2つに裂け、10枚のように見える。

国内の分布状況

北海道、本州（中部）。

県内の分布状況

朝日町南東部、上市町南東部、立山町南東部。

生態・生育環境

高山（北海道では低地にも）の岩礫地、崖などに生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

開発、踏みつけ、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ヒメシャクナゲ (ツツジ科) *Andromeda polifolia* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、生育個体数ともに限られており、登山道縁の崩壊進行、山野草としての採取などによって個体数が減少している。

形態

高さ5～10cmの矮小低木。細い葉を互生し、茎の先に淡紅色の花を1～5個咲かせる。

国内の分布状況

北海道、本州（北・中部）。

県内の分布状況

富山市南部の2地域、その他白木水無県立自然公園内。

生態・生育環境

山地～高山の湿原に生育する小低木で、花期は6～7月。

生存への脅威

園芸採取、踏みつけ。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護

特記事項

有峰・白木水無県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

シャクジョウソウ (ツツジ科) *Monotropa hypopithys* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

里山の林が利用されなくなったことにより遷移が進行し、本種の主な生育環境であったアカマツ林が消失しているため、生育地および個体数が減少している。

形態

植物体全体が帯黄褐色、高さ10～20cmの草本。茎の上部に剛毛が生える。葉は鱗片葉で広卵形、先が尖る。茎の先に総状花序をつけ、下向きの花を4～8個咲かせる。萼片は4～5枚あり長楕円形、長さ1～1.2cm、先端が細かく裂け外面には剛毛が生える。花後、果実は上向きになる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、黒部市北部、魚津市北部、富山市南東部、五箇山・白木水無・医王山県立自然公園内。

生態・生育環境

山地林内のやや暗い場所に生える。花期は6～8月。

生存への脅威

二次林の自然遷移。

保全対策

里山管理。

特記事項

朝日・有峰・白木水無・五箇山・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

サツキ (ツツジ科) *Rhododendron indicum* (L.) Sweet

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県は分布の北限に位置している。花が美しいために園芸用に採取され、生育地も極めて限定されている。

形態

高さ50～100cm、枝は細く、細かく分枝する。葉は長さ1～3cmで互生し、両面の脈上に毛を散生する。花冠は径3～5cmの朱色の広い漏斗状で、先端が5裂する。内面上部に濃い紫の斑点がある。若い枝や葉柄、萼、子房に褐色の毛がある。

国内の分布状況

本州（神奈川県・富山県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、砺波市南部（絶滅）、南砺市。

生態・生育環境

河岸の岩の割れ目など特殊な環境に生育する半常緑性の低木。花期は5～6月。

生存への脅威

河岸工事、園芸採取。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

五箇山県立自然公園の指定植物。

レンゲツツジ (ツツジ科) *Rhododendron molle* (Blume) G.Don subsp. *japonicum* (A.Gray) K.Kron

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地の湿地が遷移の進行により著しく減少しており、花が美しいために観賞用の山野草として採取される。

形態

高さ1～2m。若枝にはやや開出する長毛がはえる。葉は3枚輪生し、葉身は倒披針状長楕円形で長さ4～8cm、縁や表面および裏面脈状に剛毛がはえる。枝先の1個の花芽から短い総状花序を伸ばし、2～8個の花をつける。花冠は径5～6cm、漏斗形で5裂し朱橙色である。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部・中南部、砺波市東部、上市町南西部、魚津市西部、高岡市北東部。

生態・生育環境

山地の林縁や草地に生える落葉低木。花期は5～6月。

生存への脅威

山林開発、遷移進行、園芸採取。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域内指定植物、能登半島国定公園特別地域内指定植物。

シロウマリンドウ (リンドウ科) *Gentianopsis yabei* (Takeda et H.Hara) Ma ex Toyok.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内の生育地が極めて限定され、個体数が少ない。

形態

高さ10～40cm。茎葉は少数対、中部のものは卵状長楕円形で長さ2～7cm、基部は円く、柄がない。下部のものは倒卵状へら形で、先は円く基部は狭まり柄になる。花はふつう4数花で花柄は長さ5～12cm、萼筒は長さ1～1.5cm、4稜があり、内外裂片は不同で筒部より短い。花冠は長さ2.5～3.5cm、白色で、裂片の基部のみ淡紫色。

国内の分布状況

本州中北部。白馬岳、清水岳に産する特産種。

県内の分布状況

黒部市東部、朝日町南東部。

生態・生育環境

高山帯にはえる越年草。花期は8～9月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ホソバツルリンドウ (リンドウ科) *Pterygocalyx volubilis* Maxim.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全国的にまれに生育する。県内でも生育地が極めて限定され、生育個体数も少ない。

形態

茎は細く葉は長さ2～5cm、幅0.5～1.0cmで披針形で先が長くとがる。花は3.0～3.5cmの筒状で葉腋に1個つき白色で淡紫色を帯びる。ツルリンドウに似るが、茎や葉裏が紫色を帯びず、花冠が4裂することから区別できる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

黒部市南西部、立山町東部、富山市南東部、富山市南西部。白木水無県立自然公園内。

生態・生育環境

山地の林縁に生育する。花期は9～10月で多年草。

生存への脅威

森林伐採、道路工事。

保全対策

自然林の保全、道路工事の抑制。

特記事項

白木水無・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

チシマセンブリ (リンドウ科) *Swertia tetrapetala* Pall. subsp. *tetrapetala* var. *tetrapetala*

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が限定されている。花が美しいために観賞用の山野草として採取されることがある。

形態

高さ20～30cmで、茎の先端や上部の葉腋に花を数個ずつつける。花の直径は約1cm、花弁は4枚、淡青紫色で濃い色の斑点がある。葉は細長い卵形で対生する。

国内の分布状況

北海道、本州の高山。

県内の分布状況

黒部市南部。

生態・生育環境

高山の草地に生育する越年草。花期は7～9月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

生育地の保護。

ホタルカズラ (ムラサキ科) *Lithospermum zollingeri* A.DC.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

花が美しいため観賞用の山野草として採取の対象となるほか、生育地が限られ、生育個体数も極めて少ない。現存生育地が開発改変によって消失する危険性がある。

形態

高さ15～20cm。長さ2～6cmの倒披針形の葉を互生する。葉腋に径1.5cmの青紫色の美しい花をつける。花冠は5裂し、裂片の中肋に白い隆起がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市西部(絶滅)、滑川市北部(絶滅)、高岡市北西部。

生態・生育環境

平地や丘陵地の乾いた草地や林縁に生育する多年草。花期は4～5月。花後に走出枝を出し新しい株をつくる。

生存への脅威

森林伐採、草地開発、園芸採取。

保全対策

里山の保全、草地の保護、採取の抑制。

マルバノホロシ (ナス科) *Solanum maximowiczii* Koidz.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

既知の産地が限定されており、生育地は人為の影響を受けやすい。

形態

茎はつる状で無毛、葉は長楕円形または狭卵形で先は細くとがり、先端はやや鈍く、基部はくさび状に狭まって翼のある柄につながり、ほとんど無毛で、鋸歯はなく、葉身は長さ5～10cm、幅1.5～4cm。茎の途中または葉の反対側からまばらに分枝する集散花序を出す。花冠は淡紫色、深く5裂し、径1cm。葯は長楕円形で先は細くならず、長さ3mm。液果は球形で赤色に熟し、径7～10mm。

国内の分布状況

本州（関東以西）～九州。

県内の分布状況

高岡市中東部。

生態・生育環境

日当たりのよい林縁や水路脇などの草地に生える多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

河川改修、開発、遷移。

保全対策

生育環境の維持。

オオマルバノホロシ (ナス科) *Solanum megacarpum* Koidz.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

近年の記録が少なく、生育地となる湿地や河川敷の環境が不安定である。

形態

茎はつる状で、無毛かわずかに短毛がある。葉は卵形～狭卵形で短くとがり、基部は円形で鋸歯はなく、葉身は長さ4～9cmで、長さ1.5～2.5cmの柄がある。茎の途中からまばらに分枝する集散花序を出す。花冠は紫色、5片に深く裂け、径1～1.5cm。葯は披針形で先はやや細くなり、長さ5mm。液果は楕円形で赤色に熟し、長さ12～15mm。

国内の分布状況

北海道、本州中部以北。

県内の分布状況

水見市中南部、小矢部市中部（1997年標本）、高岡市中部（1996年標本）、富山市北部（1991年標本）、高岡市南部（1991年標本）。他に黒部市、射水市、入善町などで古い記録あり。

生態・生育環境

低地や山地の湿原に生える多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

湿地の開発、河川改修、遷移。

保全対策

生育環境の維持。

マルバノサウトウガラシ (オオバコ科) *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T.Yamaz.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地、個体数ともに少なく、水田の乾田化や農薬汚染により生育条件が悪化しつつあり、個体群が衰退している。

形態

茎は軟弱で下部は分枝し高さ5～20cm。葉は長さ4～10mm、幅3～6mmの卵円形で対生する。上部の葉腋に長さ4mmの花冠の淡紫色の花をつける。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北中部・北東部、黒部市北西部、滑川市南西部、富山市。

生態・生育環境

低地の湿地や水田に生える一年草。花期は8～10月。

生存への脅威

水田の乾田化、湿地開発、農薬散布、土地造成。

保全対策

湿地開発の抑制、生育地の保護。

ヒナノウスツボ (ゴマノハグサ科) *Scrophularia duplicatoserrata* (Miq.) Makino 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ない。近年の観察例が減っていることから絶滅の危険性が高まっていると考えられる。

形態

茎はやや軟弱で高さ40～100cm、やや角ばり4稜がある。葉は長さ6～11cmで尖った重鋸歯をもつ卵状長楕円形で対生する。茎の先に長さ7～9mmの暗赤紫色のつぼ形の花をまばらに円錐花序につける。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、富山市中南部。

生態・生育環境

山地の林中や林縁のやや湿ったところに生える多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

産地局限、森林伐採。

保全対策

生育地の保護。

メハジキ (シソ科) *Leonurus japonicus* Houtt. 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地と個体数が少ない。生育地が開発の対象となりやすい。

形態

茎は4角で短い圧毛があり、高さ50～150cmで分枝する。根生葉は卵心形で長い柄があり、花期に枯れる。茎葉は長さ5～10cmで3裂に深く切れ込み、裂片はさらに羽状に切れ込む。裏面に白色の短毛が密生する。花は長さ1～1.3cmの淡紅紫色の唇形花で、上部の葉腋に数個つける。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市北西部、富山市中部、富山市南部、南砺市西部、魚津市西部。

生態・生育環境

道端や野原に生える越年草。花期は7月～9月。

生存への脅威

路傍の整備、宅地造成。

保全対策

生育地の保護。

コバノタツナミ (シソ科) *Scutellaria indica* L. var. *parvifolia* (Makino) Makino 富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ない。また、生育環境も悪化していることから絶滅のおそれがある。

形態

茎は5～20cmで、基部が地を長く這う。葉は長さ約1cmの広卵心形で鋸歯は少なく、軟毛で被われビロード状となる。花は長さ約2cmの唇形で淡紫色、茎の先に10数個つける。

国内の分布状況

本州（伊豆半島以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部、南砺市北西部。

生態・生育環境

海岸近くや丘陵地の林縁に生える多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

産地局限、海岸開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護。

デワノタツナミソウ (シソ科) *Scutellaria muramatsui* H.Hara

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに少ない。花が美しいことから園芸採取の対象となりやすく、個体群の衰退のおそれがある。

形態

茎は地上を這った茎から直立し高さ10～30cm、対生した葉をつける。葉は単葉、卵形、縁は波状となる。花は唇形花で開口部と筒部からなり、筒部は長く、基部は折れ曲がって直立する。花冠は赤紫色。下唇には紫斑がない。

国内の分布状況

本州の日本海側。

県内の分布状況

黒部市、魚津市北部、高岡市北部、南砺市西部

生態・生育環境

丘陵地、山地の夏緑樹林の林床や林縁に生える多年草。しばしば群生する。花期は5～6月。

生存への脅威

園芸採取、道路工事、森林伐採。

保全対策

生育地の保護。

オニシオガマ (ゴマノハグサ科) *Pedicularis nipponica* Makino

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が著しく減少するおそれがある。

形態

高さ40～100cm、ほとんど分枝せず全体に白毛にはえる。萼は5裂し、花は桃色で長さ35～40mm。

国内の分布状況

本州（秋田県～石川県の日本海側）

県内の分布状況

朝日町南東部、南砺市南西部。

生態・生育環境

深山の湿った谷間に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日・五箇山・医王山県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

イヌタヌキモ (タヌキモ科) *Utricularia australis* R.Br.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地である溜池、水路などの環境の変化によって、個体数が減少する可能性がある。

形態

タヌキモに似る。越冬芽は水中葉の腋より生じる軸の端につき、楕円状、芽鱗は褐色で硬い。花軸は主軸よりも太く、鱗片葉がある。花は黄色で径約1cm。花後、花柄は下垂し、果実ができる。花柱は果時にも残るが短い。蒴果の径は約3mm。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市南部、射水市南西部、南砺市北部、富山市西部。

生態・生育環境

低地の池、特に溜池などにみられる多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

溜池の管理、管理放棄、水質汚染。

保全対策

溜池の水質、水位の安定。

クマツヅラ (クマツヅラ科) *Verbena officinalis* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限定されていることから、生育環境の変化によって絶滅するおそれがある。

形態

茎は四角で直立し、高さ30～80cm、上部で枝分かれする。葉は長さ3～10cmで、羽状に深裂し対生する。葉と茎に細毛がある。枝先に長さ20～30cmの穂状花序づくり、花冠は経約4mmの淡紅紫色で5裂する。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市中部。

生態・生育環境

道端や河川敷などの荒地に生える多年草。地下茎で殖える。花期は6～9月。

生存への脅威

産地局限、河川開発、踏みつけ。

保全対策

生育地の保全。

アサギリソウ (キク科) *Artemisia schmidtiana* Maxim.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。葉が美しいために観賞用の山野草、観葉植物として採取されることがあるため、著しく減少するおそれがある。

形態

高さ15～30cmで、多数の茎が立つ。葉は柔らかく、草のように見える。細く切れ込み、絹糸状の毛を密生して銀白色となり、美しい。舌状花のない頭花を多数つける。

国内の分布状況

北海道、本州（北陸・東北地方）。

県内の分布状況

立山町東部。

生態・生育環境

亜高山、高山帯の岩場に生育する。花期は7～8月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

オケラ (キク科) *Atractylodes ovata* (Thunb.) DC.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全生育地で個体数が著しく減少している。里山の植生遷移が進行したために生育環境がなくなりつつあることに加え、花が美しいために観賞用の山野草として採取される。

形態

高さ30～100cm。硬くて細い茎の上部に、径1.5～2cmの白い頭花をつける。総苞のまわりには魚の骨のような苞がある。葉は長い柄があり3～5裂し、縁に刺状の鋸歯がある。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町、立山町、富山市西部、氷見市西部、高岡市北～西部、南砺市北西部。

生態・生育環境

低山帯の雑木林や、やや乾いた草地に生える多年草。花期は9～10月。

生存への脅威

園芸採取、里山の管理放棄。

保全対策

乱獲の抑制。

ホソバムカシヨモギ (キク科) *Erigeron acris* L. var. *linearifolius* (Koidz.) Kitam.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内の生育地が極めて限定されて、個体数も少ないため、生育環境の悪化により絶滅のおそれがある。

形態

茎は直立して高さ15～60cmになる。茎の下部は赤紫色を帯びときに少し軟毛があり、上部で枝分かれする。葉は長さ3～6cm、幅2～5mmの線形で無毛または縁に毛がある。茎の先に総状または散房状に直径約1.5cmの白黄色の頭花をつける。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

上市町南部、立山町南部の山地。

生態・生育環境

山地のやや乾いた草地や砂礫地に生える多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、自然遷移。

保全対策

生育環境の保護管理。

ヤナギタンポポ (キク科) *Hieracium umbellatum* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地が2ヶ所しか知られていない。個体数が少ないため絶滅のおそれがある。

形態

茎は直立し高さ30～120cm。葉は多数互生し、細い披針形で先は尖り、縁に少数の鋭い鋸歯があり葉面はざらつく。根生葉と下部の茎葉は、花期には枯れる。茎の上部は分枝し、先に径約3cmの黄色の頭花をつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部、立山町南東部。

生態・生育環境

山地の湿地に生える多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

産地局限、湿地開発。

保全対策

生育環境の保全。

オオニガナ (キク科) *Nabalus tanakae* Franch. et Sav. ex Y.Tanaka et Ono

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

里山の管理放棄などで生育地の植生遷移が進行し、多くの生育地が消失しつつある。

形態

茎は長さ50～100cm、上部であらく分枝し、黄白色の頭花をまばらにつける。葉は長さ8～17cm、幅6～12cmの三角状で羽状に深く切れ込み、葉柄は長く翼がある。

国内の分布状況

本州（青森県～京都府）。

県内の分布状況

朝日町北西部、入善町北部、黒部市西部、魚津市北部、上市町中部、富山市、射水市南部、氷見市南東部、砺波市、小矢部市南東部、南砺市中部。

生態・生育環境

丘陵地の明るい湿地に生える多年草。花期は9～11月。

生存への脅威

土地開発、自然遷移。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ヤブレガサ (キク科) *Syneilesis palmata* (Thunb.) Maxim.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ないことから、絶滅の危険性が增大している。

形態

茎は高さ0.5～1m。根生葉は長柄をもち、葉身は円形で径35～40cm、掌状に深裂し7～9個の裂片からなり楕形となる。茎葉は2～3個つき、掌状に深裂し楕状に葉柄につく。頭花は径8～10mm、花冠は白色でときに淡紅色を帯び、円錐花序につける。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生育環境

山林の斜面などに生える多年草。花期は7～10月。

生存への脅威

産地局限、山林開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護。

サワオグルマ (キク科) *Tephroseris pierotii* (Miq.) Holub

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が少なく、個体数も少ない。生育地が開発の対象となりやすく生育条件の悪化が懸念される。

形態

茎は太く高さ50～80cm、白いくも毛があり軟らかい。根生葉はロゼット状となり長さ12～25cmの狭長楕円形または披針形で、両面ともはじめ密にくも毛があるが後に無毛となる。茎葉は卵状披針形で基部は茎を抱く。頭花は径3.5cm～5cmの黄色で、6～30個が散房状につく。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市南西部、上市町南西部、氷見市北部、氷見市南部。

生態・生育環境

山地の日当たりのよい湿地に生える多年草。花期は4～6月。

生存への脅威

湿地開発、湿地の自然遷移。

保全対策

生育地の保護。

タカネコウリンカ (キク科) *Tephroseris takedana* (Kitam.) Holub

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内での生育地が限定されており、環境変化によって個体数が著しく減少するおそれがある。

形態

高さ18～35cm、茎にちぢれた毛がある。根出葉は長柄があり、葉身は長楕円形で長さ2.5～6cm。葉の基部は茎を抱く。花は4～5個が散形につき、花柄は長さ1～2.5cmで紫色を帯びる。舌状花は橙黄色。

国内の分布状況

本州（中部地方）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市東部、黒部市西部。

生態・生育環境

高山帯の草地に生育する多年草。花期は8月。

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

オトコヨウゾメ (レンブクソウ科) *Viburnum phlebotrichum* Siebold. et Zucc.

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

日本海側の分布の北限付近にあたる。県内の生育地が限られ個体数も少ない。生育地が人里に近いため、開発によって消滅するおそれがある。

形態

高さ2～3m。葉は長さ3～7cmの卵状楕円形で対生する。1対の葉がある短枝の先に5～10花をもつ散房花序を傘状に下垂してつける。花冠は経約1cmの白色で淡紅色を帯びる。葉は乾くと黒変する。

国内の分布状況

本州（宮城県、新潟県以南）、四国、九州。

県内の分布状況

射水市南部、高岡市北部。

生態・生育環境

夏緑樹林のやや乾いた明るい林床や林縁に生える落葉低木。花期は4～5月。果実は9～11月に熟す。

生存への脅威

産地局限、森林伐採。

保全対策

生育地の保護。

コウグイスカグラ (スイカズラ科) *Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim. var. *ramosissima*

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

本県は分布の北限付近に位置する。生育地での個体数が少ないため、道路工事による生育環境の改変や観賞用の山野草としての採取により、絶滅のおそれがある。

形態

高さ1～2mの落葉低木で枝は密に分岐する。葉は長さ2～6cmの卵形で先は尖り、両面に細毛がある。葉腋から長さ1cm程の柄を出し、先に長さ約1.5cmの漏斗状の淡黄色の花を2個ならんで下向きにつける。果実は2個が合着し、赤く熟す。

国内の分布状況

本州（新潟県、宮城県以南）の山地。

県内の分布状況

魚津市南部、富山市南西部、砺波市南部。五箇山県立自然公園内。

生態・生育環境

山地の落葉広葉樹林の林床や林縁に生える落葉低木。花期は4～5月。

生存への脅威

園芸採取、ダム建設、道路工事。

保全対策

生育地の保護、園芸採取の規制。

特記事項

五箇山・白木水無・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ハマゼリ (セリ科) *Cnidium japonicum* Miq.

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内における生育地が極めて少ないうえ、海岸整備などの環境変化により減少しつつある。

形態

茎は高さ10～50cmで枝分かれして地を這うか、時には直立する。葉は単羽状複葉で、長さ3～10cm、小葉は羽状に切れ込む。枝先に小さな複散形花序をまばらにつける。花は小さくて白色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北西部、氷見市東部、高岡市北東部。

生態・生育環境

海岸の砂地にはえる多年草。花期は8～10月。

生存への脅威

海岸侵食、護岸堤防造成、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

ムカゴニンジン (セリ科) *Sium ninsi* L.

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されている。近年、二次遷移の進行に伴い周囲部から他の植物が侵入して生育環境が変化しつつあり、個体数が減少している。

形態

高さ30～100cm。茎は細くて直立し、ときには斜上または地表に接したりして伸びる。色は緑色で分枝し、線条があり、葉腋にむかごをつける。葉は互生し、下部のものは5～7個の小葉からなる羽状複葉で、上部は3出する。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北部、黒部市、射水市南部。

生態・生育環境

湿地や水中に生育する多年草で、花期は9～10月である。

生存への脅威

里山の管理放棄による遷移進行。

保全対策

生育環境の確保、生育地の保護管理。

チシマヒカゲノカズラ (ヒカゲノカズラ科) *Lycopodium alpinum* L.

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

県内では文献記録のみで、標本はない。ミヤマヒカゲノカズラと酷似しており、生育の詳細は不明である。

形態

高さ5～15cmになり、茎はよく分枝する。茎の先端に長さ1～2cmの胞子囊穂をつける。茎につく葉は四列に並ぶ。

国内の分布状況

北海道、本州の中部以北。

県内の分布状況

朝日町南部の高山。

生態・生育環境

高山帯の草地や岩礫地に生育する多年草。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ミヤマハナワラビ (ハナヤスリ科) *Botrychium lanceolatum* (S.G.Gmel.) Ångstr.

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I A類 (CR)

選定理由

生育地が極めて限定されており、生育個体数が極めて少ない。

形態

栄養葉は広卵形、3出葉的に2回羽状に深裂し、無柄、長さ1～4cm、幅1～3cm、羽片は披針形、鋭頭。葉は5～20cmの高さに広がる。胞子葉は直立し、円錐形で長さ1～6cm。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北の高山）。

県内の分布状況

黒部市南部。

生態・生育環境

高山帯の岩間に生える多年生で小型のシダ。

生存への脅威

産地局限、気候変動中の拡大。

特記事項

中部山岳国立公園・白山国立公園特別地域内指定植物。

ヤマハナワラビ (ハナヤスリ科) *Botrychium multifidum* (S.G.Gmel.) Rupr.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が限定され生育個体数も極めて少なく、開発などにより消滅する危険性や観賞用の山野草として採取の対象となりやすい。県内の分布状況が把握されていない。

形態

短い根茎から1本の共通柄をもつ葉を出し、地面付近で2つに分かれ、長い柄をもつ栄養葉と孢子葉を直立する。栄養葉の柄は長さ7～8cmで、葉身は3回羽状に深裂し、三角状長楕円形で長さ2～8cm、幅3～10cm。孢子葉は栄養葉よりはるかに高く柄は長さ12～18cmで、穂は円錐状に2～3回羽状に分岐する。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北、滋賀県、山口県）。

県内の分布状況

富山市南東部、朝日・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園内。

生態・生育環境

山地の日当たりのよい草地に生育する冬緑性のシダ。

生存への脅威

山地の開発、園芸採取、遷移進行。

保全対策

山地の開発抑制、採取の抑制、山地の草原の保護管理。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園・能登半島国立公園特別地域内指定植物。

ヤマドリトラノオ (チャセンシダ科) *Asplenium x castaneoviride* Baker

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

生育地が1ヶ所しか知られておらず、生育個体数も著しく少ない。近年の確実な生育の記録がない。

形態

葉身は1回羽状複葉で線状披針形～線状長楕円形。孢子囊をつけるものは、25cmほどに伸びるが、つけないものは10cm内外。

国内の分布状況

本州（関東、中部、近畿）にごくまれ。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

山地の急な岩場に生える常緑性のシダ。

生存への脅威

道路工事。

保全対策

生育地の保護管理。

イワヤシダ (イワデンダ科) *Diplaziopsis cavaleriana* (H.Christ) C.Chr.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地、個体数とも極めて限られており、近年生育が確認されていない。

形態

根茎は直立～斜上し、葉を叢生する。葉柄は長さ30～60cm、わら色。基部の鱗片は披針形で鋭尖頭、黒褐色、全縁。葉身は披針形～広披針形、頂羽片ははっきりした単羽状。側羽片は8～12対。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市中部（絶滅確認）、上市町南西部（絶滅確認）、富山市南東部。

生態・生育環境

夏緑性。山地の陰湿な林下に生育する。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

トガクシデンダ (イワデンダ科) *Woodsia glabella* R.Br. ex Richards.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、生育個体数も極めて少ない。踏みつけにより生育地が荒廃するおそれがある。

形態

葉は1～2回羽状複葉で、長さ5～15cm。胞子囊群は裂片に1個ずつつく。葉柄は下から3分の1のところに関節があり、基部に鱗片がある。

国内の分布状況

北海道、本州の高山、四国の高山。

県内の分布状況

朝日町東部、黒部市南東部。

生態・生育環境

高山の岩かげにまれに生える。夏緑性のシダ。

生存への脅威

分布の局限、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

イワオモダカ (ウラボシ科) *Pyrrhosia hastata* (Houtt.) Ching

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されており、富山市南部の生育地が災害により失われたと考えられるほか、近年確実な生育が知られていない。

形態

根茎は黒褐色の鱗片があって短く這い、鳥足状～掌状に3～5深裂する葉を接近して数枚つける。葉裏には星状毛が密に生え、褐色、表面は無毛。葉脈は網目状。葉柄は葉身よりも長く、褐色に星状毛が生える。胞子囊群は、葉の先の方と縁に3～7列並んでつく。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町南部、富山市南部、南砺市南部、白木水無県立自然公園内。

生態・生育環境

深山のやや陰地の岸壁や樹木に着生して生える常緑のシダ。葉は乾燥するとゆるく巻き込む。繁殖は根茎と胞子による。胞子は晩秋に熟し風で散布する。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

生育地保護、採取の抑制。

特記事項

五箇山・白木水無県立自然公園の指定植物。

マルバウマノスズクサ (ウマノスズクサ科) *Aristolochia contorta* Bunge

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

既知産地は1ヶ所のみであるが、近年の情報がなく現状が不明である。

形態

つる性の多年草。葉は帯白色、卵状三角形で円頭～鈍頭、葉柄は1～7cmでウマノスズクサより長い。葉腋にやや紫色を帯びた長さ2～3cmのパイプ型の花が数個ずつつく。花にはウマノスズクサのような濃色の斑紋はなく、先端が細長く伸びる。果実は倒卵状球形で長さ約3cm。

国内の分布状況

本州（山形県～島根県の日本海側）。

県内の分布状況

上市町中南部の山地。

生態・生育環境

林縁や道路脇などに出現する多年生のつる植物。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

ミチノクサイシン (ウマノスズクサ科) *Asarum fauriei* Franch.

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

古い標本と文献情報はあるが、近年の情報がなく現状不明である。

形態

葉は広卵形または腎円形で長さ2～3cm、円頭で基部は心形、表面は深緑色で光沢がある。ヒメカンアオイがより高所のブナ帯に適応したものと思われる種。

国内の分布状況

東北地方、長野県、新潟県。

県内の分布状況

立山町東部（古い標本と文献情報）、富山市南東部（文献情報）。

生態・生育環境

山地の林床に生育する多年草。花期は4～5月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

ミヤマアオイ (ウマノスズクサ科) *Asarum fauriei* Franch. var. *nakaianum* (F.Maek.) Ohwi ex T.Sugaw.

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

古い標本と文献情報はあるが、近年の情報がなく現状不明である。

形態

ミチノクサイシンの変種。萼(がく)頭が浅い皿形になる。

国内の分布状況

北陸地方、新潟県。

県内の分布状況

富山市南東部（1995年以降の情報なし）、立山町東部（1979年以降の情報なし）、魚津市西部（1960年の標本のみ）。

生態・生育環境

山地の林床に生育する多年草。花期は4～5月。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）、園芸採取。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

ナベクラザゼンソウ (サトイモ科) *Symplocarpus nabekuraensis* Otsuka et K.Inoue

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

近年新たに分類された種で県内の分布情報は極めて少ない。

形態

葉は3～4枚が根生する。葉身は長さ15～25cm、幅20～40cm、腎円形で、全縁、無毛、先端でとがり、基部が心形となる。葉柄は20～50cm。仏炎苞は暗紫褐色で長さ4～7cm。仏炎苞と葉の展開は同時。ヒメザゼンソウと同様夏期に地上部は枯死する。

国内の分布状況

本州（東北地方～北陸地方）。

県内の分布状況

黒部市中西部（現状不明）。

生態・生育環境

森林下の沼沢地や開けた湿地に生育する多年草。花期は6月後半～7月前半頃。

生存への脅威

湿地の開発、里山放棄、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日・有峰・五箇山・白木水無・医王山・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物。

センニンモ (ヒルムシロ科) *Potamogeton maackianus* A.Benn.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内で唯一知られていた造成地の水路では絶滅した。下流に切れ藻による分布生育が推定されるが、確認できてない。本来の自生であったのか不明。

形態

葉柄はなく、葉身は広線形で長さ2～6cm、幅2～3mmで3本の縦脈があり、縁に細かい鋸歯がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市北西部、高岡市中部。

生態・生育環境

池や沼に生育する沈水性の多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

水路の改修、水位低下、水質汚染。

保全対策

水路の水環境の維持（再発見された場合）。

ヒロハノエビモ (ヒルムシロ科) *Potamogeton perfoliatus* L.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1958年以降観察例がなかったが、最近造成地内で再発見された。しかし数年後に消滅した。県内の分布情報が不足している。

形態

長さ1.5～9cm、幅10～25mmの葉を茎に互生する沈水植物。葉の基部が茎を広く抱くことが特徴。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に分布するが、西日本では稀。

県内の分布状況

富山市中部。氷見市南部では絶滅。

生態・生育環境

池沼や水路などに生える沈水植物。

保全対策

水質、水位保全など生育環境、生育地の保護（再発見の場合）。

ヒメサユリ (ユリ科) *Lilium rubellum* Baker

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

1980年に朝日町の自己所有の山で採取し自宅栽培されていた標本を分布根拠としているが、1987年頃の現地調査では再発見できず、現在でも確認できていない。現存確認ができない限りカテゴリーを判定することは不可能であり、現地の植生遷移も進行して草原が森林化していることから現存確認はさらに難しくなっている。

形態

茎は高さ30～80cm、葉は広披針形で長さ5～10cm、短い柄がある。茎頂に数個の花を横向きにつけ、花被片は淡紅色で斑点はなく、長さは約5～7cm。おしべの葯は黄色。

国内の分布状況

山形県、福島県、新潟県。

県内の分布状況

朝日町中北部（1980年）。

生態・生育環境

山地、深山の草地に生育する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

山地の薪炭林や萱場の管理放棄、遷移進行、園芸採取。

保全対策

生育地の管理。

ホトトギス (ユリ科) *Tricyrtis hirta* (Thunb.) Hook.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が数ヶ所に限定され、いずれの地点においても生育個体数が少ないことから、採取や開発等により減少する可能性がある。花が美しいため観賞用の山野草として採取の対象となりやすい。ただし、正確な確認調査が行われていないのでカテゴリーを判定するだけの情報がない。

形態

茎は高さ40～100cmで上向きの毛が密生する。葉は長さ8～18cmで基部は茎を抱き、葉腋に2～3個の花がつく。花は径3cmで上向きに咲き、花被片は白色地に紫の斑点が多い。

国内の分布状況

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南部、富山市北西部、高岡市北部、高岡市西部、砺波市北東部。

生態・生育環境

丘陵地の林縁や半陰地のやや湿ったところに生育する多年草。花期は8～10月。

生存への脅威

園芸採取、自然遷移（竹林化）。

保全対策

採取の抑制、里山の保全。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。

シラン (ラン科) *Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NI)

選定理由

古くから栽培されてきた種であり、県内では2ヶ所で自生状態が確認されている。しかし、本種の分布域が比較的温暖な地域であることから、栽培から逸出した可能性もある。そのため、今後も注目して情報を集める必要がある。

形態

茎は高さ30～70cm、葉は数個で硬い草質で毛がなく、披針形をなして鋭尖頭、長さ20～30cm。紅紫色の花を3～7個つける。

国内の分布状況

本州中南部～、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市西部（逸出品？）、高岡市北東部（逸出品？）。

生態・生育環境

日当たりの良い湿り気のある斜面に生育する多年草。花期は4～5月。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護

アツモリソウ (ラン科) *Cypripedium macranthos* Sw. var. *speciosum* (Rolfe) Koidz.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

目撃の報告はあるが、標本がなく、県内の生育の実態が不明である。

形態

茎は高さ20～40cm。葉は互生し、長楕円形で長さ8～20cm、幅5～8cm。茎、葉ともに有毛。花色はふつう淡紅色～紅紫色。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

富山市東部。

生態・生育環境

山地の草原か疎林内に生育する多年草。花期は5～7月。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

シロテンマ (ラン科) *Gastrodia elata* Blume f. *pallens* (Kitag.) Tuyama 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

過去の文献情報のみであるが、その生態的特性から考えると、花期に遭遇しない限り情報が得にくい種であり、今後も注目すべきである。

形態

オニノヤガラの品種で、茎が短く、花と茎がともに淡黄色となる。学名上は品種であるが別種ではないかとの見解もある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部（文献による記録のみ）。

生態・生育環境

山地の樹林下にはえ、ナラタケと共生する無葉緑腐生植物。花期は6～7月でオニノヤガラよりも花期が遅い。

生存への脅威

森林開発（特に伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保全。

ツリシュスラン (ラン科) *Goodyera pendula* Maxim. 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育記録が1例しかないことから、生育地が限られ個体数も少ない植物であると推定されるが、現況が不明である。

形態

茎は下垂し長さ10～20cm、下部は地表を這う。葉は長さ約3cm、披針形で縁は波打ち、数枚が互生する。穂状の花序は茎の先から斜上して、黄白色の花を多数、一方に偏ってつける。花の長さは約5mm、花被片はほとんど開かない。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市西部（現状不明）。

生態・生育環境

山地林内の湿った樹幹や岩上に着生する多年草。花期は7～9月。

ヒメムヨウラン (ラン科) *Neottia acuminata* Schltr. 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

文献記録のみで標本がなく、県内分布の実態が不明である。

形態

茎は高さ10～20cmで、鞘状の葉が数枚つく。褐色の小さな花を多数つける。

国内の分布状況

北海道、本州（中部地方以北）。

県内の分布状況

富山市南東部の山地からの文献記録がある。

生態・生育環境

亜高山の針葉樹林下に生える無葉の腐生植物。花期は6～8月。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

キバナノショウキラン (ラン科) *Yuania amagiensis* Nakai et F.Maek.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

これまで県内の分布情報は1ヶ所のみ文献情報で、カテゴリーを決定するための情報が不足している。

形態

ショウキランに似るが、茎は高く20～50cmで全体黄褐色を帯びる。花は黄褐色。

国内の分布状況

本州（関東～紀伊半島）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部（文献による記録のみ）。

生態・生育環境

ブナ帯の落葉樹林下またはササ原に生育する無葉緑腐生植物。花期は6～7月。

生存への脅威

園芸採取、開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

乱獲の抑制、生育地の保護。

特記事項

朝日・有峰・白木水無県立自然公園の指定植物。

ヤマラッキョウ (ネギ科) *Allium thunbergii* G.Don

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

確実な生育地は1ヶ所しか知られておらず、山岳域における分布の実態が把握されていない。

形態

花茎は高さ30～60cmで、下部に長さ20～50cmの線形で3稜のある葉を5～6個つける。多数の紅紫色の花を散形花序につける。花序は径3～4cmの球形になる。ラッキョウに似るが、花柄はラッキョウに比べ短く、また花茎に葉があり、葉が冬に枯れることから区別できる。

国内の分布状況

本州（福島県以南）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町南部の高山。

生態・生育環境

山地の草地に生育する。花期は9～10月。球形の鱗茎をもつ多年草。

生存への脅威

草地開発。

保全対策

草地の保全。

コヤブラン (ナギイカダ科) *Liriope spicata* Lour. f. *koreana* (Palib.) H.Hara

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

2005年に県内初記録され、本県は分布の北限域にあたる。県全体の分布実態が不明であり、今後の情報収集が必要である。

形態

ヤブランに似ているが、葉の幅はわずか2～3mm。花径は高さ20cm以下で狭い翼があり、種子は径4～6mm。

国内の分布状況

本州（中部地方以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

射水市。

生態・生育環境

温暖な低地から丘陵地にかけてのシイ林やカシ林、あるいはコナラ林などの林床に生育する常緑の多年草。

生存への脅威

森林の開発、人間の踏み荒らし。

保全対策

生育地の保全、遷移進行。

エゾミクリ (ミクリ科) *Sparganium emersum* Rehm.富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

富山県が分布の南限で、生育地が極めて限定されており、個体数も少ない。生育記録のある黒部市では絶滅し、上市町では現状不明。用水改修で生育環境が悪化している。

形態

流速・水深によって、抽水・浮葉・沈水の形態をとる。抽水時は高さ50cm内外の花茎を伸ばし、上部に雄性頭花を3～7個、離れて下部に雌性頭花を3～4個つける。雌頭花は下から順に、有柄で脇性、有柄で脇上性、無柄で着性となるが例外もある。葉は幅が13mm内外で細長い。沈水葉の幅は、それより狭く、長さは1m以上になることがある。

国内の分布状況

北海道、本州（富山県以北）。

県内の分布記録

黒部市北西部、上市町中部、富山市西部。

生態・生育環境

用水路や池沼に生育する多年生の水生植物で、走出枝をのばして新しい株をつくる。花期は7～9月である。

生存への脅威

土地開発、用排水路の改修。

保全対策

生育地の保護管理、必要に応じて移植。

クロホシクサ (ホシクサ科) *Eriocaulon parvum* Koern.富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)**選定理由**

5ヶ所の生育記録はいずれも1960年代以前のもので、最近の確実な生育地が知られていない。湿地の開発や除草剤の使用などで減少したものと考えられるが、同定の困難さもあって近年の調査が及んでいない。

形態

長さ4～10cmの細い葉が多数同心円状につき、その中から高さ10cm程度の花茎を出す。頭花は黒藍色で球状。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

入善町北西部、黒部市北部、富山市西部、射水市南部、高岡市西部。

生態・生育環境

湿地に生育する。花期は8～9月で、一年草である。

生存への脅威

産地局限、湿地の開発。

保全対策

湿地開発の抑制、生育地の保護。

ドロイ (イグサ科) *Juncus gracillimus* (Buchenau) V.I.Krecz. et Gontsch.富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

既知の約4ヶ所の生育記録地ではいずれもその後、短期間で消滅していることから、散発的に発生したものの記録であると考えられる。県内においては一定の場所に安定的に発生することがなく、また、しばしば類似種と混同されていることもあって、全県的な生育状況の把握が至難であることから、現時点ではカテゴリーを判定できない。

形態

根茎が長く横にはい、節間は短く叢生する。全体にやや粉白を帯びる。茎は高さ60～70cmの円筒状、葉は線形で鞘部は短く、葉耳は膜質で小型。花序は集散状で、最下の苞葉は花序より長い。花被片は卵形で鈍頭、長さ2～3mm、雄蕊は6個で花被片の約2/3。蒴果は赤褐色でやや光沢があり花被片より長い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北部、富山市北部、立山町東部、射水市南部。

生態・生育環境

海岸近くの日当たり良い湿地の泥中に生育する多年草。花期は5～7月。

生存への脅威

自然遷移。

保全対策

生育地の保護（過去に生育していた場所を攪乱すると出てくる可能性がある）。

エゾノミクリゼキショウ (クモナムクリゼキショウ) (イグサ科) *Juncus mertensianus* Bong.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

本県は本種の世界的分布の南西限にあたり、生育地が局限されている上に、生育地の遷移による乾燥化が進んでいる。山岳域における分布の実態が把握されていない。

形態

高さ10～25cmで、花茎の先に10～20個の小花が集まった黒褐色の頭花が1～2個つく。葉は直径1mm程で円筒状。

国内の分布状況

北海道（大雪山）、本州（焼石岳、北アルプス北部）。

県内の分布状況

朝日町南東部の亜高山～高山。

生態・生育環境

高山の高層湿原や溪流沿いの湿地に生育する多年草。花期は8月。

生存への脅威

産地局限、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

エゾイトイ (イグサ科) *Juncus potaninii* Buchenau

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I A類 (CR)

選定理由

高山に分布するため、分布の実態調査が進んでいない。

形態

高さ5～15cmで、茎には糸状の1枚の葉がつき、先端に青白色の頭花が1つつく。イトイに似るが、花被片の幅がやや広く、雄しべは花被片より長い。

国内の分布状況

北海道、本州（北アルプス、南アルプス、八ヶ岳）。

県内の分布状況

上市町南東部。

生態・生育環境

高山の岩上に生育する多年草。花期は夏。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

タカネイ (シロウマゼキショウ) (イグサ科) *Juncus triglumis* L.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

県内でも生育地が極めて限定されているが、文献記録のみで生育の現状はわかっていない。

形態

高さ6～15cm。下部に3～4個の葉がつく。葉はやや円筒状で長さ1～5cm、幅約1mm、茎よりも短い。頭花は1個が頂生し、ふつう3花からなる。

国内の分布状況

北海道（大雪山）、本州中部。

県内の分布状況

朝日町南東部。

生態・生育環境

高山に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

シロガヤツリ (カヤツリグサ科) *Cyperus pacificus* (Ohwi) Ohwi

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では生育地が極めて限定されていると考えられるが、十分な調査が行われていないので今後更なる情報収集が必要。

形態

花序は頭状で球形で、蜜に多数の小穂をつける。苞は数個あって葉状、長さ5～10cmある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

入善町、氷見市南部。

生態・生育環境

平地や丘陵地の湿地に生える。8～10月に熟す。

保全対策

生育地の保護。

ヒメホタルイ (カヤツリグサ科) *Schoenoplectus lineolatus* (Franch. et Sav.) T.Koyama

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

確実な標本が1点のみあるもののその後の記録がなく、生育地は改変の多い水湿地であるため現存するか情報収集が必要。

形態

茎は高さ10～20cmあって円く、やわらかい。葉は茎の基部にある少数の短い膜質の葉鞘に退化する。根茎は細くて長く横にはい、所々に茎を立て、秋には末端に小さな紡錘形の越冬芽ができる。小穂は1個、側生状で柄がなく、狭長楕円形で長さ7～10mm、幅約3mm、鋭頭で黄褐色。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

射水市南東部（文献のみ）、立山町東部（文献のみ）、富山市南東部（文献のみ）、富山市西部（古い標本のみ）、富山市中南部（古い標本のみ）。

生態・生育環境

池畔などの浅水中に生育。7～10月に熟す。

生存への脅威

湿地の開発。

保全対策

湿地開発の抑制、生育地の保全。

マネキシンジュガヤ (カヤツリグサ科) *Scleria rugosa* R.Br. var. *onoei* (Franch. et Sav.) Yonek.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山市中部の山間湿地で1975年に確認されて以来、県内の記録がない。また、生育地の里山利用が行われなくなったことにより湿地が自然遷移し、生育環境が失われつつある。ただし、十分な確認調査が行われていないのでカテゴリーを判定するだけの情報がない。

形態

高さ10～30cmの茎上に扁平な葉と3～5個の分花序をつける。果実は帯白色で光沢があり、直径1.5mm。コシンジュガヤに似るが葉鞘には翼がなく、果実基盤は鈍頭。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市中部。

生態・生育環境

湿地に生育する一年草。花期は7～9月。

生存への脅威

里山利用が行われなくなったことによる植生遷移、湿地の開発。

保全対策

生育地の保護および人手を入れた管理策の構築、湿地開発の抑制。

特記事項

1999年に過去に記録のあった生育地で探索したが、近縁種のコシンジュガヤしか見られなかった。

ユキクラヌカボ（オクヤマヌカボ）（イネ科） *Agrostis hideoi* Ohwi

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

富山県は本種の分布域西南限にあたり、生育地が限定されており、個体数も少ないと考えられるが、近年の生育情報が得られていない。

形態

茎は高さ15～30cmで、太さは基部でも1mmと繊細で東生する。花序は長さ5～7cmで、まばらに1小花のみからなる小穂をつける。小花の外穎の中央脈は長さ5～8mmの長い芒^ミとなって突出し、その他の4脈も先端で長さ1～2mmの芒^ミとなる。

国内の分布状況

本州（福島県、新潟県、長野県、富山県）。

県内の分布状況

朝日町北東部、黒部市南部、立山町北東部および南東部、富山市南東部。

生態・生育環境

深山の岩場に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ヒナザサ（イネ科） *Coelachne japonica* Hack.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

分布北限付近にあたり、県内では生育地が極めて限定されている。また、生育地が湿地や水辺であり、開発されて縮小している。

形態

高さ5～20cmで、稈は地表を這って節ごとに直立した枝を出す。葉は短く1～3cmで、葉鞘^{ハコバ}は葉身よりも短い。葉舌はない。

国内の分布状況

本州、四国、九州。日本固有種。

県内の分布状況

朝日町南部、射水市南部。

生態・生育環境

湿地や水辺にまれに生育する小型の一年草。花期は8～10月。

生存への脅威

ゴルフ場開発、池沼開発、遷移進行、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

オオタチカモジ（イネ科） *Elymus x mayebaranus* (Honda) S.L.Chen

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県植物誌等には記録があるが、標本はない。本種はカモジグサとミズタカモジの自然交雑種だが、ミズタカモジの存在を示す証拠で重要であることから、さらに情報収集すべきと思われる。

形態

葉は広線形～狭披針形^{ミナソウ}で、カモジグサよりも短く、葉鞘^{ハコバ}の縁は無毛。花穂は線形、直立し、長さ10～20cm、中軸は太く、小穂は中軸に密着し、カモジグサのように展開せず、紫色を帯びることが多い。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

滑川市中西部（文献記録のみ）。

生態・生育環境

平地のやや湿性の草地に生育。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制、生育地の保全。

タチネズミガヤ (イネ科) *Muhlenbergia hakonensis* (Hack.) Makino

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

文献記録のみで現状不明であり、さらなる情報収集が必要。

形態

全体に細く、根茎の鱗片は硬くて、茎は単純。花序は狭長で線形、直立し、長さ10～15cmで、枝は圧着する。小穂は狭披針形で、長さ4～4.5mmくらい。苞穎は長さ3～3.5mm、護穎の芒の長さは6～10mm。葯は長さ1.5～2mm。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生育環境

山地の林中に生育。

生存への脅威

森林開発、遷移進行。

保全対策

開発の抑制。

ヒゲナガコメススキ (イネ科) *Stipa alpina* (F.Schmidt) Petrov

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

国内における分布地域が局限されており、県内でも産地が極めて限られているが、文献以外での確認情報がない。

形態

高さ15～30cmで、葉は細い糸状。外穎の先端には著しく長く羽毛状の毛がある芒があり、よく目立つ。

国内の分布状況

本州（白馬岳、北岳）。

県内の分布状況

朝日町南東部の高山。

生態・生育環境

高山の岩礫地に生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

メガルカヤ (イネ科) *Themeda japonica* (Willd.) Tanaka

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

古い標本と文献記録のみで、最近の確認例もないことから絶滅の可能性も考えられるが、さらなる情報収集が必要。

形態

高さ1mになり、粗剛な株をつくり、まばらにあらひ長毛がある。葉は線形で長い。結実しない小穂は長さ8～10mmで淡緑色。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市中西部、射水市南東部。

生態・生育環境

丘陵地の草地に生育する多年草。花期は9～10月。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行

保全対策

開発の抑制。

ミヤマカニツリ（タカネカニツリ）（イネ科） *Trisetum koidzumianum* Ohwi

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

国内における分布地域が限られており、県内でも産地が極めて限定されていると考えられるが、文献および標本による1973年以降の確認情報がない。

形態

高さ20～35cm。細長い円錐花序はややまばらで、反曲する長い芒が目立つ。

国内の分布状況

本州（北アルプス、南アルプス、八ヶ岳）。

県内の分布状況

朝日町南東部、黒部市南部、立山町南東部。

生態・生育環境

高山の草原中に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

チシマカニツリ（カニツリススキ）（イネ科） *Trisetum sibiricum* Rupr.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

50年以上前の標本記録はあるが、その後の確実な情報がない。

形態

カニツリグサに似るが、すこし大型で高さ50～100cm、葉は幅4～10mm。カニツリグサよりも毛が少なく、護穎のざらつきが細かくて少なく、約は長さ2～3mmになる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市東部、朝日町南東部。

生態・生育環境

亜高山から高山の湿地に生育する多年草。花期は7～8月

生存への脅威

気候変動。

保全対策

生育地の保護。

トガクシソウ（トガクシショウマ）（メギ科） *Ranzania japonica* (T.Itô ex Maxim.) T.Itô

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

分布は本州中北部の多雪地帯の一部に限られ、個体数も少ない。富山県が分布の南西限でその生育地は1ヶ所しかない。ただし、1983年の発見後、現況不明でカテゴリーを判定できない。

形態

高さ30～50cm。茎は地下茎から直立し、葉は3出複葉であらい鋸歯がある。花は葉よりもやや早く開き、径2～3cmの淡紫色の花を数個下向きにつける。萼片は大きく花弁状に開く。

国内の分布状況

本州（東北・関東北部・中部北部）。

県内の分布状況

朝日町中部、未確認情報として立山町。

生態・生育環境

多雪地帯のブナ林などのやや湿った林床に生育する多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

砂防工事に伴う斜面工。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

朝日県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

クモマキンポウゲ (キンポウゲ科) *Ranunculus pygmaeus* Wahlenb.

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I A類 (CR)

選定理由

観賞用の山野草としての採取や踏みつけによる生育地の荒廃などによって個体数が減少している。県内では生育地が極めて限定されているが、文献情報のみで近年の生育状況はわかっていない。

形態

高さ3～7cmで、腎円形で5～7中裂する根生葉を数枚つける。茎の中部には小型の葉を1～2枚つける。茎の先に黄色の花を1～2個咲かせる。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

黒部市南東部。

生態・生育環境

高山の岩礫地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

園芸採取、踏みつけ。

保全対策

採取の抑制、生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

シキンカラマツ (キンポウゲ科) *Thalictrum rohebrunianum* Franch. et Sav.

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内の生育地が限られ、個体数も少ない。近年の生育情報が得られていない。

形態

茎は紫色を帯び高さ約1mで無毛である。葉は3回3出複葉で互生する。花序は円錐状に赤紫色の小さい花を多数つける。花は長さ約6mmで花弁状の萼片4～5枚からなる。

国内の分布状況

本州（中部地方）。

県内の分布状況

朝日町中部、入善町南部、立山町南部。

生態・生育環境

山地の林縁に生える多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

道路工事、踏みつけ。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

朝日・僧ヶ岳県立自然公園の指定植物、中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ノカラマツ (キンポウゲ科) *Thalictrum simplex* L. var. *brevipes* H.Hara

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

生育地が極めて限られている。近年の生育情報が得られていない。

形態

高さ60～120cmで、全体に無毛で、茎には鋭い稜がある。多数の1～2回3出複葉をつける。小葉は広くさび形で長さ2～4cm、先は3裂する。花には花弁がなく、萼片も早く落ちることから、雄しべの葯が目立ち、細長い円錐状の花序が黄色に見える。

国内の分布状況

本州（東北南西部以南）、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生育環境

日当たりのよい草地に生える多年草。花期は6～8月。

生存への脅威

産地局限、草地開発、植生の遷移。

保全対策

草地の保全、生育地の保護。

マルバノキ (マンサク科) *Disanthus cercidifolius* Maxim.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県は分布の北限に近く、生育地が極めて限定されている。近年の生育が確認できていない。花が美しいために観賞用の樹木として採取される。

形態

葉は円心形で長い柄があり、長さ5～12cm。花は暗紫色、直径12mmの星形で、2個が背中合わせにつく。

国内の分布状況

本州（中部地方、広島県、高知県）。

県内の分布状況

富山市南部（現状不明）。

生態・生育環境

温帯下部に生える稀な落葉低木で、秋に美しく紅葉する。花期は10～11月。

生存への脅威

産地局限、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲の抑制。

フサモ (アリノトウグサ科) *Myriophyllum verticillatum* L.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

氷見市から標本記録があるが、現在は自生が確認されてない。近隣の能登に自生があることから、生育している可能性がある。他のフサモ類と誤認されているおそれもある。

形態

茎は長く伸びて分枝する。水中葉は4個まれに5個輪生し、羽状に深裂し、裂片は糸状。水上葉は水中葉よりやや小さく、多少とも羽裂する。花茎は水面より突き出て直立し、葉腋に花をつけ、上部の葉が苞状となった穂状花序となる。上部につく雄花の花弁は4個、狭長楕円形、長さ3mmで白色。下部につく雌花の萼筒はつぼ状で、4肋条がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生育環境

池や沼などにはえる多年草。花期は5～7月。

生存への脅威

溜池の管理、管理放棄、水質汚染。

保全対策

溜池の水位、水質の維持（再発見の場合）。

ゲンナイフウロ (フウロソウ科) *Geranium onoei* Franch. et Sav. var. *onoei* f. *onoei*

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

タカネゲンナイフウロと酷似しており、県内での分布状況は不明であるが、生育地および生育個体数は限られていると考えられる。

形態

高さ40～60cmで、茎の先端に紫色の花を5～10個つける。葉は5～7角形で、深く切れ込む。

国内の分布状況

北海道、本州の高山帯。

県内の分布状況

朝日町東部、黒部市東部、立山町東部。

生態・生育環境

高山の草地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

分布局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

エゾミソハギ (ミソハギ科) *Lythrum salicaria* L.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

既知の生育地点が1ヶ所しかなく現地の個体数が著しく少ない。また、ビオトープ事業等で使われる栽培種との交雑の恐れもある。各地に多産する類似種ミソハギを精査する調査が行われていなかったことから、県内の分布状況が不明で絶滅の危険性を判断できない。

形態

茎は有毛で直立し上部は分枝して高さ50～150cmになる。葉は対生するか3個輪生し、長披針形～広披針形、基部はなかば茎を抱き、長さ3.5cm～6.5cm。穂状花序は頂生し、長さ20～35cm、多くの花をつける。苞葉には白毛が多く生える。萼筒は長さ4～8mm、裂片は6個、裂片間の付属片は針状で直立し長さ1.2～2mm、白い細毛が多い。花卉は6個、紅紫色、長楕円形、長さ6～8mm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市中部。

生態・生育環境

低地～丘陵地の湿地によく群生する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

造園で使用される栽培品との交雑、産地局限、個体数些少。

保全対策

栽培品の隔離。生育地の保護。

ホソバアカバナ (アカバナ科) *Epilobium palustre* L.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

古い標本と文献情報はあるが、近年の情報がなく現状不明である。

形態

茎は直立し、時に枝をわけ、高さ10～80cm、稜線はない。葉は柄がなく、線形～線状披針形で、短毛があり、長さ1.5～9cm、幅2～15mm、ふつう全縁。花は白色～淡紅色。萼(がく)は漏斗状、長さ4～5mm、裂片は披針形で先は鋭形。花卉は倒卵形、先は2浅裂し、長さ5～8mm。柱頭は倒卵状棍棒形。

国内の分布状況

北海道、本州中部以北。

県内の分布状況

黒部市東部(文献記録のみ)。立山町東部と富山市南東部(1990年以降記録なし)。

生態・生育環境

湿原に生える多年草。花期は6～9月。

生存への脅威

湿地・湿原の開発、植生遷移。

保全対策

生育地の保護。

イタチササゲ (マメ科) *Lathyrus davidii* Hance

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1951年の記録以外に今日まで県内で確認されたことがない。もともと稀であったものが消滅した可能性もあるが、現時点ではカテゴリーを判定できない。

形態

高さ1～1.5mになる大型のつる性草本。茎は丸くほとんど無毛、葉は4～8枚の小葉からなる複葉で、小葉は長さ4～8cm、幅2～4.5cmの卵状楕円形で裏面は白緑色で網状脈が目立つ。一対ある托葉は長さ1.5～3cm。葉軸の先に巻きひげがあり先は分枝する。直立した穂状の花序に黄白色の花を多数つけ、咲き終わった花はオレンジ色になる。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

南砺市南東部(1951年)。

生態・生育環境

高原地帯の林縁や草原に生える多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

草原の開発、植生遷移。

保全対策

生育地の保護。

ヒロハクサフジ (マメ科) *Vicia japonica* A.Gray

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1980年以前と考えられる文献記録以外に今日まで確認された記録がない。もともと稀であったものが消滅した可能性もあるが、現時点ではカテゴリーを判定できない。

形態

長さ1mになるつる性の草本。葉は羽状複葉で、長さ1～2cm、幅5～6mmの楕円形で先が丸く裏面に毛のある小葉10～16個からなる。托葉は両端が尖るが、歯牙はほとんど出ない。花は淡い紅紫色で長さ12～15mm、1花序に10個前後つく。旗弁の爪部（先の方）と艇部（元の方）の長さはほぼ同じ。植物体は乾燥しても緑色のまま（ツルフジバカマのように暗赤褐色になることはない）。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

富山市北西部に文献記録があるが、現状は未確認である。

生態・生育環境

海岸砂地の日当たりの良い草地に生える多年草。花期は6～9月。

生存への脅威

生育地の開発、砂浜への四輪駆動車の進入。

保全対策

生育地の保護。

シロバナノヘビイチゴ (バラ科) *Fragaria nipponica* Makino

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1983年発行の富山県植物誌に2ヶ所の生育地が示されているが、その後、現地を含めて県内には生育情報がない。さらなる調査が必要である。

形態

長い匍枝が地を這う。葉は3小葉からなり根生し長柄がある。頂小葉は卵型～長楕円形、長さ2～5cm。各小葉は鋸歯縁で裏面に伏毛があり、側脈が目立つ。葉柄と花茎には開出毛がある。小花柄の毛はやや斜上する。花は径1.5～2cm。花弁は5枚で丸く白色。雄蕊は長さ3～4mmで心皮の集まりよりも高い。果床は径1cm、赤熟し表面に毛がまばらにある。

国内の分布状況

本州（宮城県～中部地方）、屋久島。

県内の分布状況

黒部市南部（文献記録のみ）、魚津市南部（文献記録のみ）。

生態・生育環境

山地の草原にはえる多年草。花期は5～7月。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保全。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域内指定植物。

ミツモトソウ (バラ科) *Potentilla cryptotaeniae* Maxim.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

1990年頃までは数ヶ所の生育地が知られていたが、その後の生育確認情報がないため、減少の程度および現在の危険性の程度を判断できない。

形態

高さ50～100cmでよく枝分かれし全体に毛が多い。枝先に直径約1cmの黄色の花を多数つける。葉は狭卵形で裏面に軟毛がある3小葉からなり、托葉は半ば以上が柄に合着する。花弁、萼片、副萼片はそれぞれ5個。萼片は先がとがり花弁より短い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町南部、富山市南東部、南砺市南東部。

生態・生育環境

山地の落葉広葉樹林の林縁に生育する多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

分布の局限。

保全対策

生育地の保護。

ヨコグラノキ (クロウメモドキ科) *Berchemiella berchemiifolia* (Makino) Nakai

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では分布が限られており、全生育地で個体数も少ない。近年カテゴリー判断できるだけの情報が少ない。

形態

落葉小高木。枝は紫褐色で、隆起する皮目が多い。葉は長楕円形で鋭尖頭、全縁。葉腋から集散花序、枝先には総状花序をつける。花は小さく黄色。

国内の分布状況

本州、四国、九州にまれ。

県内の分布状況

朝日町北部、富山市南部および西部。

生態・生育環境

山地の溪谷斜面に生育する。花期は6月。

生存への脅威

森林伐採、斜面崩壊。

保全対策

生育地の保護。

ラセイタソウ (イラクサ科) *Boehmeria biloba* Wedd.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では蛇ヶ島のみで記録されており、1958年以降の記録がなく、2010年の調査でも確認できなかった。標本がないため同定の問題が解決できていない。

形態

高さ30～70cm。茎は太く、叢生して株をつくる。葉は対生し、歪んだ広卵状楕円形で長さ5～15cm、しばしば浅く2～3裂する。肉厚で表面に細かい凹凸が密にあり、また、両面の脈上に剛毛があるので、なでるとざらつく。縁に細かい鋸歯がある。雌雄同株。上部の葉のつけ根から長さ5～10cmの太い穂状の雌花序をまっすぐに出す。

国内の分布状況

北海道、本州（和歌山県以東の太平洋側）。

県内の分布記録

氷見市東部の島。

生態・生育環境

海岸の岩場や岩崖地に生育する多年草。花期は7～9月。

生存への脅威

波浪による侵食。

保全対策

個体の分散管理、過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。

特記事項

1948年、1953年当時、氷見市の岩場に数mにわたって群生していたという記録があるが標本は存在しない。

アゼオトギリ (オトギリソウ科) *Hypericum oliganthum* Franch. et Sav.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧I B類 (EN)

選定理由

生育条件が水田の乾田化や農薬の使用により悪化しつつあると考えられるが、確実な生育情報が少なく県内での実態が明らかでない。

形態

高さ10～40cmでよく分枝し匍匐する。葉には明点、萼片には明腺および黒点が入る。花は直径1.5cm前後、黄色の花弁に黒点と明点が入る。蒴果は大型で長さ約6.5mm。

国内の分布状況

本州（関東地方以西）、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北西部、射水市南部。

生態・生育環境

水田や湿地に生育する。花期は夏～秋。多年草。

生存への脅威

湿地開発、水田の乾田化、農薬汚染。

保全対策

開発の抑制、生育地の保護。

ウスバスマシレ (スミレ科) *Viola blandaeformis* Nakai

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育記録が1例しかなく、生育地が著しく限られると考えられる。しかし、近年の生育状況が不明であり、カテゴリーを判定するだけの情報が足りない。

形態

高さ数cmの小型で微細なスミレ。全体無毛。葉は薄く幅1.5～3.0cmの腎円形で基部は深く湾入し、縁に低い鋸歯がある。5cm程の花茎の先に白色の花をつける。

国内の分布状況

北海道、本州（白山以東）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

針葉樹林下の湿った場所に生える。花期は6～7月。

生存への脅威

産地局限。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ヒゴスミレ (スミレ科) *Viola chaerophylloides* (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

過去の確実な標本はあるが、その後の情報がなく現状不明である。

形態

ふつう無毛、まれに毛がある。地下茎は短い。葉は3全裂し、側小葉はその基部からさらに2全裂する。各小葉は有柄で、羽状にほぼ全裂、裂片は線形で、少数の切れ込みがある。葉の長さは1.5～2.5cm、柄は長さ4～12cm。果期には長さ3～4cmの葉が出る。花は白色。花弁は長さ10～15mm、側弁には少し毛があり、唇弁には紫条があり、距は長さ4～6mm。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市北部（1981年標本）、富山市（1970年標本）。

生態・生育環境

山地の日当りのよい所に生える多年草。花期は4～5月。

生存への脅威

開発、遷移、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

アカネスマシレ (スミレ科) *Viola phalacrocarpa* Maxim.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

古い標本と文献記録があるが、近年の情報がなく現状不明である。

形態

葉、花柄、萼片、蒴果は短毛に被われる。地下茎は短く、葉は卵形～狭卵形で、長さ1～5cm、基部は浅い心形、柄は長さ3～10cm。果期には長さ8cmにもなる大きな葉が出る。花柄は高さ5～10cm。花は濃紅紫色。萼片は広披針形、耳には2～3個の鋸歯がある。花弁は長さ10～13mm、側弁に毛があり、距は細長く、6～8mm。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

射水市東部（1974年文献記録）、立山町中北部（1965年標本と文献記録）、朝日町北西部（1962年標本）。他に高岡市、富山市、南砺市に文献記録などがある。

生態・生育環境

低地、丘陵地に生える多年草。花期は4月。

生存への脅威

開発、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、採取の抑制。

アケボノスミレ (スミレ科) *Viola rosii* Hemsl.富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

県内では生育地が極めて限定されている。1984年以降の県内全体の情報が無い。

形態

スミレサイシンの仲間。高さ5～10cmのがっしりした花柄に、スミレの仲間としては珍しく淡紅紫色の花をつける。距は大きく短い。葉は先が細く尖った心形で、花の時期にはほとんど展開していない。

国内の分布状況

北海道南部から九州中部までの、太平洋側の内陸部を中心に分布。

県内の分布記録

魚津市。

生態・生育環境

花期は3～5月で、多年草。

生存への脅威

林道工事、園芸採取。

保全対策

過去の生育環境の保存、生育地の保護（再発見の場合）。

イヌナズナ (アブラナ科) *Draba nemorosa* L.富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

県内ではもともと生育地が限定されているが、人為の影響が大きい環境に依存しているため、分布情報が得にくくカテゴリー判定ができない。

形態

高さ10～20cmで、花は黄色く小形で直径4mm。果実は長さ5～8mmで扁平な楕円形。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、氷見市東部。

生態・生育環境

草地や道ばたに生育する越年草。花期は3～6月。

生存への脅威

里山の管理放棄、遷移進行。

保全対策

人為攪乱の継続、生育地の保護。

ナニワズ (ジンチョウゲ科) *Daphne jezoensis* Maxim.富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

県内では生育地が極めて限定されており、かつダム建設により大きな群生地が水没した。里山の管理放棄と園芸採取により減少しつつある。

形態

高さ1m以下の落葉小低木。葉は互生し、夏季には落葉する。葉腋に黄色の花を数個束生する。萼(がく)筒の先は4裂する。果実は液質の核果で、6月頃赤く熟す。

国内の分布状況

北海道、本州（東北地方～北陸地方）。

県内の分布状況

高岡市西部、氷見市西部。

生態・生育環境

低山の落葉樹林内に生育する。花期は3～4月。

生存への脅威

森林伐採と開発、里山の管理放棄と遷移進行、園芸採取、観賞切花としての採取。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。

ホザキヤドリギ (オオバヤドリギ科) *Loranthus tanakae* Franch. et Sav.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

既知の生育地が山奥の1ヶ所しかなく、個体数も限られている。ただし、落葉期以外には発見されにくい植物であるため、多雪地である山間地においては生育状況がつかめているとは言えない。したがってカテゴリーを判断できない。

形態

落葉性で花が穂状につくヤドリギの仲間。枝は二又に分かれ若枝は紫褐色、古い枝は濃褐色。葉は対生し楕円形～長楕円形で先は円形、長さ2～3cm、全縁。枝先から3～5cmの穂状花序を出し、黄緑色の花をまばらにつける。果実は直径5～6mmの楕円形、淡黄色に熟し落葉期にはよく目立つ。

国内の分布状況

本州（東北地方、中部地方中北部）

県内の分布状況

富山市南東部の山地（1962年標本）。

生態・生育環境

ミズナラ、クリ、ハンノキなど落葉広葉樹に寄生する落葉低木。花期は6～7月。

生存への脅威

生育地の開発、遷移進行

保全対策

生育地および宿主の樹木を保護。

ハマナデシコ (ナデシコ科) *Dianthus japonicus* Thunb.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

海岸の改修工事に伴い生育地が減少しており、生育地での個体数が限られている。さらに園芸採取により個体数が減少している。氷見市では今回確認できず、絶滅した可能性がある。富山市で記録されているものは、自生か逸出品か要検討。

形態

株の下部は木質化し、葉は厚く光沢があり、縁に毛がある。花は紅紫色で、数多く密につく。花弁の緑は浅く切れ込む。

国内の分布状況

本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

氷見市北部、富山市北部の沿岸部。

生態・生育環境

海岸の岩場や砂浜などに生育する多年草。花期は6～11月。

生存への脅威

海岸整備、園芸採取。

保全対策

生育地の保護、乱獲防止。

特記事項

能登半島国定公園特別地域内指定植物。

カンチャチハコベ (ナデシコ科) *Stellaria calycantha* (Ledeb.) Bong.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

本県は本種の生育地の南西限に近く、生育地が極めて限定されているが、文献情報のみで、生育状況は不明である。

形態

高さ8～40cmで、細い地下茎で広がり群生する。花は小型で白色であるが、花弁がないこともある。

国内の分布状況

北海道（大雪山）、本州（白馬岳、南アルプス）。

県内の分布状況

朝日町南東部。

生態・生育環境

高山の水湿地に生育する多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

産地局限、気候変動。

保全対策

生育地の保護。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

ギンレイカ (ミヤマタゴボウ) (ヤブコウジ科) *Lysimachiaacroadenia* Maxim.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、開発の対象となりやすい。近年の生育情報が得られていないことから、絶滅が懸念される。

形態

茎には稜があり上部で分枝し高さ30～60cmになる。葉は長さ5～10cmの長楕円形で、下部は翼のある柄となる。枝先に長さ5～6mmの小さな花を10～20個まばらに総状につける。花冠はわずかに赤みを帯びた白色で、やや下向きに開くが、果期には斜上する。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生育環境

山地の湿った林内に生える多年草。花期は6～7月。

生存への脅威

産地局限、道路工事、河川工事、地滑り防止工事。

保全対策

生育地の確保と保全。

サワトラノオ (ヤブコウジ科) *Lysimachialeucantha* Miq.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

全国的にも生育地が限られ、生育個体数も少ない。本県での生育状況の情報が不足している。

形態

茎は高さ40～80cmの円柱形で、稜があり軟弱である。葉は長さ2～4.5cm、幅3～5mmの倒披針状線形または広線形で互生する。葉肉内に黒色の腺点が散在している。茎の先に多数の白色の小さな花を総状花序につける。花冠は5裂し長さ4mm。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

黒部市北西部（文献情報）。

生態・生育環境

水辺や湿地にまれに生える多年草。地下茎で殖える。花期は4～5月。

生存への脅威

湿地開発、池沼の開発、土地造成。

保全対策

生育地の保護。

イワナンテン (ツツジ科) *Leucothoekeiskei* Miq.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

文献情報はあるが分布事実を示す標本等がないため評価できない。

形態

岩場から下垂し、長さ30～100cmになる。葉は互生し、革質、葉柄は長さ3～7mmで無毛、葉身は長楕円形、長さ5～9cm、縁に浅い鈍鋸歯があり、先は尾状に伸びてとがり、両面とも無毛。総状花序は葉腋からでて、長さ3～5cm、1～7個の花を下垂する。花冠は白色、筒型で長さ1.5～2mm、浅く5裂し、裂片は三角状卵形。葯の上部に4本の刺状突起がある。

国内の分布状況

本州（関東地方南部、中部地方南部、紀伊半島）。

県内の分布状況

南砺市中西部（文献記録のみ）。

生態・生育環境

山地の岩場にはえる常緑低木。花期は7月中旬～8月中旬。

生存への脅威

開発（特に森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。

チョウジコメツツジ (ツツジ科) *Rhododendron tschonoskii* Maxim. var. *tetramerum* (Makino) Komatsu

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の既知の生育地は限定されており、個体数も少ないが、カテゴリーを特定するための情報が不足している。

形態

花の形はコメツツジの開花前の若い花に似る。花冠は筒型、筒部は細長く、先は4～5裂し、裂片はあまり開出せず筒部より短い。雄蕊は花冠の外に伸びない。

国内の分布状況

本州中部の亜高山帯。

県内の分布状況

朝日町南東部、立山町北東部

生態・生育環境

亜高山帯の岩場にはえる半落葉低木。

生存への脅威

産地局限、開発。

保全対策

生育地の保護。

ミヤマムグラ (アカネ科) *Galium paradoxum* Maxim. subsp. *franchetianum* Ehrend. et Schönb.-Tem.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

文献記録だけで標本がなく、県内の分布の実態が不明である。

形態

茎は直立して10～25cm、柄のある小さな葉を4輪生し、先に小さな花をまばらにつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市南部の峡谷で記録がある。

生態・生育環境

深山の林内に生える多年草。花期は7～8月。

生存への脅威

開発、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

イワギリソウ (イワタバコ科) *Opithandra primuloides* (Miq.) B.L.Burt

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

1970年頃に南砺市北部の岸壁で目撃された記録があるが、現在まで再確認ができていない。現存確認ははなはだ困難であり、カテゴリーも判断できない。

形態

葉は根生して葉柄は長さ3～10cm、葉身は卵形～卵状円形で大型の歯牙があり長さ3～15cm。花茎は長さ10～20cm。葉や花茎には白色の軟毛が密に生える。花茎の先に漏斗形で紅紫色、外面に軟毛があって長さ約2cmの唇形花を2～10個つける。

国内の分布状況

本州（近畿以西）、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市北東部で1970年頃の日撃記録あり。

生態・生育環境

陰地の岩壁に着生する多年草。花期は5～6月。

生存への脅威

園芸採取。

保全対策

乱獲防止。

オオアブノメ (オオバコ科) *Gratiola japonica* Miq.

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

水田の乾田化や水田耕作サイクルの変化により減少したものと考えられ、近年の生育情報も得られていない。絶滅した可能性があるが判定にはさらなる情報が必要である。

形態

茎は高さ10～20cm、肉質で柔らかい。葉はやや肉質で長さ1～3cmの披針状長楕円形で対生する。花冠は白色の筒形で長さ4～5mm。葉腋ごとに1花をつけるが、多くは花冠を閉じた閉鎖花である。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

1950年頃の入善町北西部の記録があるのみである。

生態・生育環境

低地の湿地や水田に生える1年草。花期は5～6月。

生存への脅威

水田の乾田化、水田耕作サイクルの変化、農薬散布、湿地開発。

保全対策

低湿地の開発の抑制、生育地の保護。

ビロードトラノオ (オオバコ科) *Veronica ovata* Nakai subsp. *miyabei* (Nakai et Honda) Albach var. *villosa* (Furumi) Albach

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

生育地が極めて限られており個体数も著しく少ない。花が美しいために観賞用の山野草として採取されるおそれがある。近年の生育情報が得られていないことから絶滅が懸念される。

形態

茎は直立して高さ60～100cm。葉は、長さ5～10cm、幅2.5～5cmで先の尖った広卵形で鋭い鋸歯があり対生する。茎と葉は、密に軟毛で被われる。茎の先に長さ約5mmの淡青紫色の花冠を持つ花を穂状に多数つける。

国内の分布状況

本州（富山県・山形県）。

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生育環境

山地の岩の多い斜面に生育する多年草。花期は、8～9月。

生存への脅威

産地局限、園芸採取。

保全対策

生育地の保全、採取の規制。

オニク (ハマウツボ科) *Boschniakia rossica* (Cham. et Schltdl.) B.Fedtsch.

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

生育地が限られ個体数も極めて少ない。特異な形態から採取の対象となりやすく、生育地が消失する危険性が極めて高い。近年生育情報が得られていない。

形態

茎は多肉で太く高さ15～30cmで鱗片葉でおおわれ、葉腋に暗紫色の花をつける。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

朝日町南部、黒部市南東部、立山町東部、富山市南西部、有峰県立自然公園内。

生態・生育環境

亜高山、高山のミヤマハンノキの根に寄生する寄生植物。花期は7～8月。

生存への脅威

薬草採取、物珍しさによる採取。

保全対策

ミヤマハンノキ林の保護、採取の抑制。

特記事項

朝日・有峰・白木水無県立自然公園の指定植物、中部山岳・白山国立公園特別地域内指定植物。

ハマウツボ (ハマウツボ科) *Orobanche coerulescens* Stephan ex Willd.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も極めて少ない。生育地が開発の対象となるところが多く、絶滅が危惧される。また特異な形態から乱獲されやすい。近年の生育情報が少なく判定できない。

形態

高さ10～25cm。茎は全体に軟毛で被われ太く、葉緑素を持たず黄褐色で、鱗片状に退化した葉がつく。茎の上部に淡紫色の花が穂状に多数つく。花冠は唇形で長さ約2cmである。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

朝日町東部、入善町南部、魚津市北部、氷見市。

生態・生育環境

海岸や川原の砂地や砂礫地に生育し、カワラヨモギに寄生する。花期は5～7月で一年草。

生存への脅威

海岸改修、河川改修、物珍しさによる採取。

保全対策

海岸の保全、川原の保全、採取の抑制。

フサタヌキモ (タヌキモ科) *Utricularia dimorphantha* Makino

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

氷見市中西部に古い記録があるが、現在生育が確認されているタヌキモ属はほとんどがイヌタヌキモであり、確実な生育情報がない。

形態

水中葉は毛状の裂片に細かく分裂し、長さ3～6cm、裂片の先に2～3本の短い刺があり、縁には刺がない。捕虫囊は小さく、少ない。高さ7～15cmの花軸に3～10個の花をつける。花は黄色で径約1cm、萼の長さは約2mm。蒴果は花と同長。花軸の基部やその付近の葉腋に短い柄のある閉鎖花をつける。

国内の分布状況

本州（近畿・中部地方）。

県内の分布記録

氷見市中西部。

生態・生育環境

池や、流れのゆるい田の溝や小川にもみられる。花期は7～9月。

タヌキモ (タヌキモ科) *Utricularia japonica* Makino

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

文献記録があるが、現在生育が確認されているタヌキモ属はほとんどがイヌタヌキモであり、確実な生育情報がない。

形態

水中葉は長さ3～5cm、細かく分裂して捕虫囊をつける。裂片は1平面に配列し、水から出してもしぼまない。裂片先端に刺が1本、縁に鋸歯状に細かい刺がある。高さ10～25cmの花軸に4～7個の花をつける。花は黄色で径1.5cm位、萼は長さ3～4mm、花柄は花後に垂下するが、果実はできない。秋に植物体の先端に、小さくなった水中葉が密に集まって丸くなり、緑色で球状の越冬芽をつくる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

小矢部市中西部（1993年目撃情報）、射水市南部（1991年目撃情報）、黒部以北西部（古い文献記録）。

生態・生育環境

古い池に浮遊する多年草。花期は7～9月。

ツルギキョウ (キキョウ科) *Codonopsis javanica* (Blume) Hook.f. et Thomson subsp. *japonica* (Makino) Lammers 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内の分布と生育状況が不明であり、カテゴリーを判断できない。

形態

茎はつる性で細長く伸びる。葉は対生または互生し長い柄がある。葉身は長さ3～5cm、幅2.5～5cmの卵心形、裏面は粉白を帯びる。葉腋に長さ12mm位の白い広鐘形の花を1個つける。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市南部と氷見市北部での採取記録があるのみである。

生態・生育環境

山地に生えるつる性の多年草。花期は8～10月。

生存への脅威

森林伐採、遷移進行。

保全対策

生育地の保護。

シマカンギク（六倍体） (キク科) *Chrysanthemum indicum* L. 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

かつてサンインギク *C. x aphrodite* Kitam. として氷見市から記録されたものは、シマカンギク六倍体とキク（園芸菊）との雑種個体群と考えられる。交雑を起こしていない野生種シマカンギクが残っている可能性があり、調査が必要。

形態

地下茎は横にはい、先に新苗をつくる。茎はそう生し、高さ30～80cm。葉は柄があり、葉身は長さ3～5cm、洋紙質で深く羽状に5中裂し、裂片は鋸歯縁、表面は緑色で微毛があり、裏面は丁字状毛があるが淡緑色。頭花は黄色で径2.5cm内外、花柄は細く、ゆるい散房花序につく。総苞は長さ5～6mm、片は4列で覆瓦状、外片は小さく卵状～長楕円形で背部に毛がある。

国内の分布状況

本州（近畿地方以西）、九州北部

県内の分布状況

氷見市東部。

生態・生育環境

日当りのよい山麓にはえる多年草。花期は10～12月。

生存への脅威

園芸菊との交雑。

保全対策

確認された場合、自生地外保全。

イワインチン (キク科) *Chrysanthemum rupestre* Matsum. et Koidz. 富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では黒部峡谷などで採取されているが、オオイワインチンと混同されている可能性があり、細胞分類学的な再検討と分布の再調査が必要である。

形態

高さ10～20cmの小型。葉は羽状に深裂し、裂片は細長い。頭花は密集してつき、直径3mmで舌状花を欠く。染色体数2n=18。

国内の分布状況

中部地方以北の本州。

県内の分布状況

黒部市南部、立山町東部からの標本がある。

生態・生育環境

高山の岩場、岩礫地、草地などに生育する多年草。花期は8～9月。

生存への脅威

園芸採取、環境の変化（遷移進行、岩盤の崩落、気候変動）、産地局限。

保全対策

自生地の保護、乱獲の抑制。

特記事項

中部山岳国立公園特別地域の指定植物。

カセンソウ (キク科) *Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地での個体数が限られている。近年の生育情報が得られていないことから個体群が消滅したおそれがある。

形態

茎は硬く、高さ60～80cmで密に毛が生え、上部で分枝する。葉は長さ5～8cmの長楕円状披針形で、縁にはまばらに鋸歯があり、基部は茎を抱き互生する。根生葉は鱗片状で花期には枯れる。枝の先に直径3.5～4cmの黄色の頭花をつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

朝日町北部、魚津市中部、上市町東部。

生態・生育環境

山野の日当たりのよい湿地や畦畔に生える多年草。地下茎で殖える。花期は7～9月。

生存への脅威

湿地開発、自然遷移。

保全対策

生育地の保護。

ミヤマアキノノゲシ (キク科) *Lactuca triangulata* Maxim.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ない。近年の生育情報が得られていないことから絶滅が懸念される。

形態

茎は円柱形で高さ60～120cm、ほとんど無毛。葉は互生し、三角状心形で裏面はやや白色を帯びる。葉柄は葉身とほぼ同じ長さで翼があり、茎を抱く。上部の葉には葉柄はない。頭花は径約1.5cmの黄色で、狭い円錐花序につける。

国内の分布状況

本州（関東、中部）

県内の分布状況

富山市南部。

生態・生育環境

山地に生える越年草。花期は8月。

生存への脅威

産地局限、森林伐採。

保全対策

生育地の保護。

シュウブンソウ (キク科) *Rhychospermum verticillatum* Reinw. ex Blume

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地が2ヶ所しか知られていない。近年の生育情報が得られていないことから絶滅が懸念される。

形態

高さ50～100cmの茎の先から、2～4個の枝を斜め上方向に伸ばす。葉は互生し長さ7～15cm、幅2～3cmの披針形で先はとがり波状の浅い鋸歯がある。膜質で両面に短い剛毛がある。葉腋から短い花柄を出し、淡黄緑色の径4～5mmの頭花を1～2個つける。

国内の分布状況

本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

氷見市北部。

生態・生育環境

山地の林床や林縁に生える多年草。花期は、8～10月。

生存への脅威

産地局限、里山の管理放棄。

保全対策

生育地の保全。

オナモミ (キク科) *Xanthium strumarium* L.富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)**選定理由**

かつては海岸や河川敷などに見られたが、その生育地がオオオナモミに取って替わられたため減少が著しい。近年の生育状況は不明である。

形態

茎は高さ20～100cmで短毛がある。葉は互生し、葉身は卵状3角形で長さ6～15cm、3浅裂し両面に剛毛があってざらつき、基部は心形で3.5～10cmの長柄がある。枝先に黄緑色の球状の雄性頭花とその下につぼ状の雌性頭花をつけ、円錐状の花序をつくる。果苞は長さ1～1.4cm、幅0.6～1.2cmの楕円形または卵形でかぎ状の刺と2個の嘴をもつ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

県内の分布状況

富山市西部、射水市西部。

生態・生育環境

道ばたや草地の陽光地に生える一年草。花期は8～10月。

生存への脅威

帰化競合、河川開発、海岸開発、草地開発、土地造成、道路工事。

保全対策

生育状況の把握、生育地の保護。

= 参考文献 =

- 1) フィールド研究会, 1976. 富山県の海浜植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会フィールド研究会会報, 2: 47-54.
- 2) 堀与治, 2001. 砺波地方の植物 (分布・教材化). 堀与治個人出版 236pp.
- 3) 稲田哲夫, 1976. 綿打池の湿地植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会フィールド研究会会報, 2: 36-40.
- 4) 稲田哲夫, 1978. 金山丘陵の湿地植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会フィールド研究会会報, 3: 44-53.
- 5) 稲田哲夫・小路登一, 1976. 日の宮神社の社寺林. 富山県高等学校教育研究会生物部会フィールド研究会会報, 2: 32-35.
- 6) 石須秀知, 1999. 富山県フロラに追加される植物 1. 富山市科学文化センター研究報告, 22: 151-151.
- 7) 石須秀知, 2004. 片貝川流域の維管束植物 - 1992 ~ 2003年の現地調査から -, <付録> 片貝川流域維管束植物チェックリスト. 魚津市立博物館紀要, 6: 1-45.
- 8) 岩槻邦男編, 1992. 日本の野生植物シダ. 平凡社.
- 9) 泉治夫, 2011. 二上山の植物相. 二上山の自然と文化, 1-36. 二上山総合調査会.
- 10) 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版.
- 11) Yuichi Kadota, Hideo Nagase, 1988. A New Species of *Cirsium* from Hida Province, Japan. Bul. Nat. Sci. Mus. Series B., 14 (1).
- 12) 環境庁編, 1979. 日本の重要な植物群落北陸版. 集2回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書. 大蔵省印刷局.
- 13) 環樟庁編, 1982. 国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑 - 関東・中部 (山岳) 編 -. 大蔵省印刷局.
- 14) 環境庁編, 1988. 日本の重要な植物群落II北陸版. 集3回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書 (追加調査). 大蔵省印刷局.
- 15) 環境庁編, 2000. 改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物 - レッドデータブック - 植物 I (維管束植物). 財団法人自然環境研究センター.
- 16) 倉田悟・中池敏之, 1979-1997. 日本のシダ植物図鑑1-8. 東京大学出版会.
- 17) 黒崎史平・里見信生, 1968. 富山県大岩川流域の植物地理学的研究. 金沢大学理学部附属植物園年報, 1: 14-43.
- 18) 前田利保刊, 1853. 本草通串證図.
- 19) ミュージアムパーク茨城県立博物館編. 2012. 第54回企画展 植物たちのS O S - レッドデータブックからの警告 -. 38pp. ミュージアムパーク茨城県立博物館.
- 20) 盛一雄, 1985. 船嶺用水の「マルバノキ」. 富山県植物友の会会誌, 26: 128
- 21) 長井真隆, 1996. 富山県新記録のエゾミクリについて. 富山の生物, 35: 55.
- 22) 長井真隆・渡辺侑・田中普, 1993. 虻ヶ島的高等植物目録. 富山の生物, 32: 10-17.
- 23) 長井幸雄・太田道人, 1996. 富山県産ユリ科植物の分布. 富山市科学文化センター研究報告, 19: 9-25.
- 24) 長野県植物誌編纂委員会, 1997. 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社.
- 25) 中川定一, 1992. 私の植物ノート (集2集). 個人出版.
- 26) 中川定一・太田道人, 2004. ヤナギヌカボを富山県のフロラに追加する. 富山市科学文化センター研究報告, 27: 73-73

- 27) 中田政司・長井真隆, 1999. 常願寺川流域生態系調査報告書 5-1. 水生植物. 富山県富山農地林務事務所・富山県水生植物研究会.
- 28) 中田政司・長井真隆・吉田孝・砂田龍次, 2003. 庄川合口ダム流域生態系調査報告書VI-2. 水生植物. 富山県砺波農地林務事務所・富山県水生植物研究会.
- 29) 中田政司・長井真隆, 2006. 黒部川合口流域生態系調査報告書. 水生植物部門. 103-139. 富山県魚津農地林務事務所・富山県水生植物研究会・水土里ネット富山.
- 30) 中田政司・長井真隆, 2006. 小矢部川流域生態系調査報告書. 水生植物部門. 83-123. 富山県高岡農地林務事務所・富山県水生植物研究会・水土里ネット富山.
- 31) 鳴橋直弘・梅本康二・若杉孝次, 2000. オオユリワサビ、その生活と分類学的位置. 植物地理・分類研究, 48: 141-148.
- 32) 日本植物分類学会編, 1993. レッドデータブック日本の絶滅危惧植物. 農村文化社.
- 33) 大場秀章, 1993. チシマイワプキの分類学的検討と本州立山で見出されたタテヤマワプキ. 植物研究雑誌, 68(6): 334-338.
- 34) 大原隆明, 2000. 富山県フロラ資料(4). 富山県中央植物園研究報告, 5: 79-91.
- 35) 大原隆明・橋屋誠, 2001. 富山県フロラ資料(5). 富山県中央植物園研究報告, 6: 67-81.
- 36) 大原隆明・高木末吉, 2002. 富山県フロラ資料(6). 富山県中央植物園研究報告, 7: 59-69.
- 37) 大原隆明・中田政司・高木末吉, 2003. 富山県フロラ資料(7). 富山県中央植物園研究報告, 8: 55-69.
- 38) 大原隆明・高木末吉・山本清美, 2004. 富山県フロラ資料(8). 富山県中央植物園研究報告, 9: 49-63.
- 39) 大原隆明・中央植物園友の会植物誌部会, 2005. 富山県フロラ資料(9). 富山県中央植物園研究報告, 10: 39-64.
- 40) 大原隆明・中央植物園友の会植物誌部会・中田政司, 2006. 富山県フロラ資料(10). 富山県中央植物園研究報告, 11: 45-64.
- 41) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会・中田政司・水上成雄, 2007. 富山県フロラ資料(11). 富山県中央植物園研究報告, 12: 57-76.
- 42) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会・山下寿之, 2008. 富山県フロラ資料(12). 富山県中央植物園研究報告, 13: 47-61.
- 43) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会, 2009. 富山県フロラ資料(13). 富山県中央植物園研究報告, 14: 57-71.
- 44) 大原隆明・中央植物園友の会植物誌部会, 2010. 富山県フロラ資料(14). 富山県中央植物園研究報告, 15: 71-87.
- 45) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会, 2011. 富山県フロラ資料(15). 富山県中央植物園研究報告, 16: 57-65.
- 46) 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会・山下寿之・川住清貴, 2012. 富山県フロラ資料(16). 富山県中央植物園研究報告, 17: 55-73.
- 47) 大田弘, 1947. 越中越後国境方面に於ける暖地性植物の分布について. (謄写刷)
- 48) 大田弘他, 1984-1987. 自然環境保全地域候補地現地調査報告書I-III. 富山県.
- 49) 大田弘・佐藤卓・小路登一, 1994. 立山カルデラの植物. 立山カルデラ自然環境基礎調査報告書. 富山県.
- 50) 大田弘・小路登一・長井真隆, 1983. 富山県植物誌. 広文堂, 富山.
- 51) 太田道人編, 1987. 進野久五郎植物コレクション. 富山市科学文化センター収蔵資料目録, 1, 222pp.

- 52) 太田道人編, 1991. 長井真隆・吉沢庄作植物コレクション. 富山市科学文化センター収蔵資料目録, 5. 239pp.
- 53) 太田道人, 1995. 大田弘植物コレクション. 富山市科学文化センター収蔵資料目録, 8. 247pp.
- 54) 太田道人, 1999. 富山県新記録の植物(11). 富山市科学文化センター研究報告, 22 : 149-150.
- 55) 太田道人編, 2002. 維管束植物<シダ> 付. 富山県植物分布図集 (シダ) 富山市科学文化センター収蔵資料目録, 15. 218pp.
- 56) 太田道人編, 2003. 被子植物合弁花類 付. 富山県植物分布図集 (合弁花類) 富山市科学文化センター収蔵資料目録, 16. 373pp.
- 57) 太田道人, 2006. 植物相. 里山 (富山県中央部) の自然環境調査報告書Ⅱ 植物・動物・その他編. 富山市科学文化センター. 291pp.
- 58) 太田道人編, 2007. 被子植物離弁花類 (上巻), 富山市科学文化センター収蔵資料目録, 20. 338pp.
- 59) 太田道人編, 2007. 被子植物離弁花類 (下巻) -マメ科~シュウカイドウ科-, 富山市科学博物館収蔵資料目録, 21. 236pp.
- 60) 太田道人, 2008. 富山県新記録の植物 (19). 富山市科学博物館研究報告, 31 : 97-98.
- 61) 太田道人編, 2012. 被子植物 単子葉類, 富山市科学博物館収蔵資料目録, 25. 305pp.
- 62) 佐竹義輔・大井次三郎ほか, 1981-1982. 日本の野生植物草本Ⅰ-Ⅲ. 平凡社.
- 63) 佐竹義輔・原寛ほか, 1989. 日本の野生植物木本Ⅰ-Ⅱ. 平凡社.
- 64) 瀬戸剛, 1978. 三木茂博士寄贈水草さく葉標本目録. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第10集.
- 65) 遠野久五郎, 1973. 富山の植物. 巧玄出版.
- 66) 遠野久五郎・大田弘, 1966. 氷見海岸・二上山学術調査書. 富山県.
- 67) 小路登一, 1978. 越中朝日岳・長梅山方面の植物. 富山県高等学校教育研究会生物部会フィールド研究会会報, 3 : 1-21.
- 68) 富山県自然保護課, 2001. 富山県版レッドリストについて. 富山県.
- 69) 富山県生活環境部自然保護課, 2002. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブックとやま-. 352pp. 富山県生活環境部自然保護課.
- 70) 富山県生活環境部自然保護課・富山県希少植物研究会編, 2012. 富山県立自然公園指定植物ガイドブック. 108pp. 富山県生活環境部自然保護課.
- 71) 富山県植生研究会編, 1990. 富山県立自然公園指定植物調査報告書. 富山県.
- 72) 山下寿之・長井幸雄・小路登一, 1999. 富山県婦中町常楽寺のオオツクバネガシとツクバネガシ. 富山県中央植物園研究報告, 4 : 43-44.
- 73) 安井一郎, 1976. 富山県南部山地白木峰の植生. 富山県高等学校教育研究会生物部会フィールド研究会会報, 2 : 1-23.
- 74) 米山譲, 1942. 越中有峰盆地の植生概観. 富山県立神通中学校.
- 75) 米澤信道, 1988. 日本中部産ツルリンドウ属の新種. 植物地理・分類研究, 34(1) : 9-12.
- 76) 吉田めぐみ・小宮定志・中田政司, 1996. 富山県に確認されたトウカイコモウセンゴケ. 富山県中央植物園研究報告, 1 : 53-56.
- 77) 和田直也・山下寿之, 2002. 富山県絶滅危惧種・ヒメザゼンソウの新産地. 植物地理・分類, 51(2) : 189-192.

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.10 蘚苔類

6.10 蘚苔類

(1) 蘚苔類の分布概要

富山県は本州中部の日本海側に位置し、平野部から急激に標高 3000m 級の山岳域に至る地形や冬季の多雪が特徴的である。県内の蘚苔類相は、標高差が大きいことから県面積に比して豊富と予想されるが、未だ解明されていない。苔類とツノゴケ類については、文献記録から作成された分布種の一覧（チェックリスト）があり、苔類 142 種、ツノゴケ類 5 種が列挙されているが（坂井・山田, 2009）、蘚類については未だ無い状況である。

富山県における蘚苔類の初めての報告は、1910 年にされた蘚類の記録で（笹岡, 1910）、全国的にも古い。その後、1910 年代から 1930 年代に笹岡氏による記録がされたが、以降まとまった報告は少なく、また多くが黒部峡谷や立山連峰、後立山連峰といった限られた地域からの報告である。近年、低地での局所的な調査がされたが、ごく一部の蘚苔類相が明らかになったに過ぎない。しかし、黒部峡谷や山岳域からは、サトミヨツデゴケやヤマトヤハズゴケといった新種、オリンピックゴケやキレハコマチゴケ、ミツデモミジゴケ、マルバイチョウゴケの日本新産種、ナンジャモンジャゴケのような世界的に不連続に分布する種などが見つかっており、分布上、極めて興味深い地域である。

(2) 選定の考え方

蘚類については文献記録を集約し、苔類とツノゴケ類についてはチェックリスト（坂井・山田, 2009）および最近の文献記録を選定の資料とした。加えて、標本（富山市科学博物館(TOYA)）の情報を集めた。これらを基に次の 5 項目のいずれかに該当する種を選抜し、あわせて国のレッドリストの選定種を参考にし、選定を行った。1. 個体数が減少している、2. 生育環境が悪化している、3. 全国的に分布がごく限られている、4. 生物地理上の分布境界域に生育している、5. 石灰岩に生育し全国的に減少している。

過去の生育状況については不明な種が多いが、個体数や分布状況、生育環境の今後の変化の大きさを考慮し、ランクを定めた。近年の現存確認調査がされていない種は、情報不足のランクとした。

(3) 和名・学名の出所

蘚類の学名は Iwatsuki (2004) に、苔類の学名は Yamada and Iwatsuki (2006) に従ったが、レッドリスト（環境省, 2007, 2010）の掲載種と共通する場合は、これにあわせた。科の配列と和名は、日本の野生植物コケ（岩月（編）, 2001）に拠った。種の配列は学名のアルファベット順とした。

(4) 謝辞

本報告書をまとめるにあたり、種についての情報、最新の産地情報、標本情報、データのご教示、ご助言など、多岐にわたりお世話になりました。ここにお名前を記して、心より謝意を表します。（敬称略、50 音順）

嶋村正樹、鈴木 直、樋口正信、古木達郎、山口富美夫。

オリンピックゴケ (キヌシツポゴケ科) *Brachydontium olympicum* (E.G.Britton) T.T.McIntosh & J.R.Spence

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定理由

国内の生育地は立山の1ヶ所に限られ、生育量は少ない。

形態

植物体は緑色、下部はしばしば褐色。茎の長さは2.5-4.2mmで、中心東が弱いながら分化する。葉は細い披針形で先は尖り、ほぼ全縁。蒴柄は長さ1-1.3mm、多少湾曲する。蒴は卵形で葉の上に出る。蓋は嘴状に尖る。

国内の分布状況

本州（富山県のみ）。

県内の分布状況

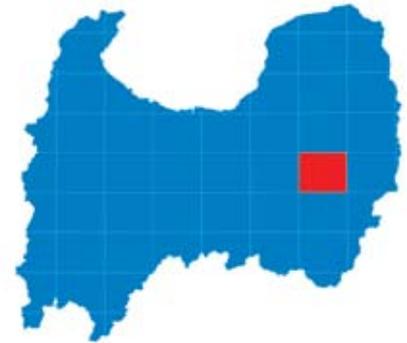
立山町。

生態・生育環境

立山の半日陰の転石上に生育する。

生存への脅威

産地局限、河川氾濫。



クロカワゴケ (カワゴケ科) *Fontinalis antipyretica* Hedw.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

生育地は2ヶ所で、湧水の多い流れに生育する。どちらも生育量は少なく、1ヶ所はオランダガラスに覆われ生育が危ぶまれる。水路改修や水質汚濁の影響を受けやすい。

形態

水中に生育し、植物体は褐色～黒緑色を帯び、大型で茎は長く、ときに30cm以上になり、不規則に枝分かれする。葉は3列でややまばらにつき、広披針形～卵形で中央で縦に折りたたまれる。中肋はない。葉身細胞は線形～線状菱形。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

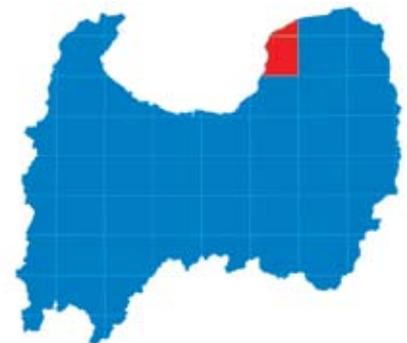
黒部市、入善町。

生態・生育環境

扇状地扇端部の湧水の多い流れに生育する。今後、両産地ともに水路の改修工事や水質汚濁があれば、生育は脅かされる危険がある。

生存への脅威

水路改修、水質汚濁、外来種の繁茂。



イトゴケ (ハイヒモゴケ科) *Barbella pendula* (Sull.) M. Fleisch.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地は1ヶ所で、生育量は多くない。日本では中部地方以西に生育する種で、日本海側の分布の北限である。

形態

一次茎ははい、二次茎は長く垂れ下がり、糸状。二次茎の基部は葉を平らにつける。葉は卵状楕円形の基部から細く漸尖し、中肋は細く、葉の中部以上に達する。葉身細胞に2-4個の小さなパピラが一行に並ぶ。

国内の分布状況

本州（中部以西）、四国、九州。

県内の分布状況

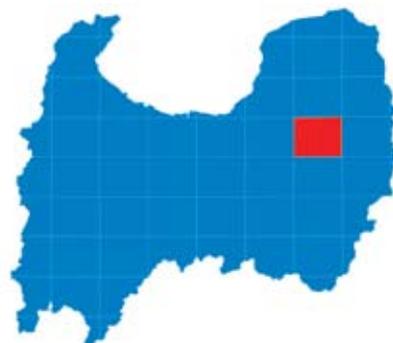
魚津市。

生態・生育環境

山間地の沢沿いの樹幹から垂れ下がる。道路や水路の改修工事があれば、生育は脅かされる危険がある。日本では中部地方以西に生育する種で、本産地は日本海側の分布の北限である。

生存への脅威

道路改修、乾燥化。



コキジノオゴケ (クジャクゴケ科) *Cyathophorum hookerianum* (Griff.) Mitt.

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(N)

選定理由

生育地は1ヶ所報告されているが（坂井 2007）、以降、生育が確認できない。

形態

二次茎は長さ約2cm、葉は黄緑色。葉には側葉と腹葉がある。中部の側葉は長さ2.5-3mm、卵形で非相称、先端は短く尖る。葉縁には微歯があり、上部には微歯があるかほぼ全縁。中肋は中部近くに達する。腹葉は円形～卵形、先端は細く尖り、中肋は中部以下で終わるか、稀に欠く。二次茎の先がしばしば尾状に尖り、その部分の葉腋に無性芽をつける。

国内の分布状況

本州、四国、九州、琉球列島。

県内の分布状況

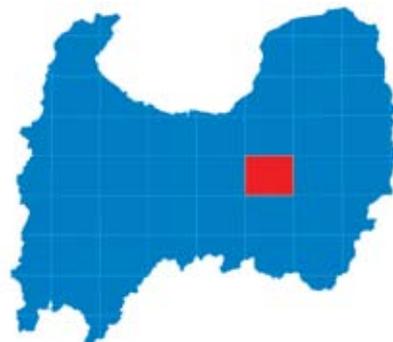
上市町。

生態・生育環境

溪流沿いの樹幹に生育していたが（坂井 2007）、近年生育が確認できない。日本では中部地方以西、世界的には亜熱帯、熱帯地域に生育する。

生存への脅威

生育環境の変化。



キレハコマチゴケ (コマチゴケ科) *Haplomitrium hookeri* (Sm.) Nees

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定理由

全国的に生育地は限られ、県内では1ヶ所が記録されており、2010年に調査したが確認できなかった。さらなる調査が必要である。

形態

植物体は鮮緑色で茎葉状、地下茎をもち、枝が直立する。長さは1-2cm、幅は葉を含めて3-5mm。仮根はない。葉は茎に3列につき、1列が背方に、2列が側方につく。葉は数個の角をもつ広卵形。

国内の分布状況

本州（富山・長野県）。

県内の分布状況

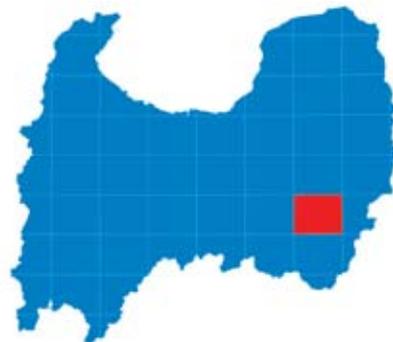
立山町。

生態・生育環境

地面に生え、群落をつくらず、他のコケ植物に混生し孤生することが多い。立山弥陀ヶ原（小笠原 1970, Inoue 1971）の記録があり、調査したが確認できなかった。

生存への脅威

観光開発、地球温暖化、産地局限。



イシヅチゴケ (オオツボゴケ科) *Oedipodium griffithianum* (Dicks.) Schwägr.富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)**選定理由**

生育地は3ヶ所で、生育量は少ない。

形態

植物体は灰緑色で、短い茎にさじ形の葉が少数集まってつく。中筋は太いが葉先よりもはるか下でおわる。葉身細胞は厚角、丸みのある六角形。葉柄は頂生し、長さ約1cmで淡褐色。葉は卵形で直立し、下部は長さ2mm程の緑色の頸部となり、多くの気孔がある。口環は分化せず、葉歯はない。葉腋に円盤状の無性芽をつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

高山の岩上、土上に生育する。生育量は少ない。

生存への脅威

観光開発、乾燥化。

キヌシッポゴケモドキ (キヌシッポゴケ科) *Brachydontium trichodes* (F.Weber) Mild.富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)**選定理由**

生育地は4ヶ所で、生育量は少ない。

形態

茎の長さは1mm以下で、密に葉をつける。葉は卵形の鞘部から針状に伸び、中筋は太く、葉身上半の大部分を占める。葉身部の細胞は卵形～菱形で厚壁、葉鞘部の細胞は矩形～線形で薄壁。葉柄は頂生し、長さ1.5-2.5mm。葉は卵形で直立し、縦の条があり、乾くと深くしわよる。葉歯は非常に短く、帽は鐘状。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

立山の亜高山から高山に産地があり、沢近くなどの半日陰の石上に生育する。大変微小な種で、生育量は少ない。

生存への脅威

観光開発、河川氾濫。

カラフトシノブゴケ (シノブゴケ科) *Echinophyllum sachalinense* (Lindb.) O'Brien富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)**選定理由**

生育地は2ヶ所で、生育量は少ない。

形態

茎は這い、長さ5-6cmで規則正しく1回羽状分枝し、毛葉を密につける。茎葉は広卵形で先は急に細く長く尖り、葉縁の中部以下に多細胞の長い刺、中部には細かい歯が並ぶ。中筋は強壯で葉先近くに達し、背面に大きな歯がある。枝葉の葉身細胞の中央に1個のパピラがある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

立山の亜高山から高山の石に薄く堆積した土上に生育する。生育量は少ない。

生存への脅威

観光開発（特に森林伐採を伴うもの）。

コシノヤバネゴケ (カワゴケ科) *Dichelyma japonicum* Cardot

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由

全国的に生育地は少なく、日本固有種である。県内の生育地は1ヶ所で、生育量は少ない。

形態

植物体は緑～黄緑色で、下部は黒みを帯び、茎はふつう15cm前後。葉はややまばらにつき、長さ2.5-4mm、狭卵状披針形で鋭頭、葉縁は反曲する。中筋は葉先に達し、葉は中筋部で縦に折りたたまれる。川、沢、池などの岸の木に生える。

国内の分布状況

北海道、本州。日本固有種。

県内の分布状況

上市町。

生態・生育環境

山地の沢や池の縁に生える木の幹、枝から垂れ下がる。生育量は少ない。

生存への脅威

開発、生育環境の変化。

ヒヨクゴケ (イワダレゴケ科) *Hylocomiastrum umbratum* (Hedw.) M.Fleisch.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地は1ヶ所で、生育量は少ない。

形態

茎は長さ約10cmになり、下部ではゆるく羽状に分枝し、上部では密に二回羽状分枝する。枝は長さ約15mm。茎には毛葉が多くつく。葉には強い縦じわがあり、中筋は2本で、普通、葉の中部に達する。茎葉は三角状卵形で先は急に長く尖り、縁は鈍鋸歯または全縁。枝葉は広卵形で鋭頭、縁には大きな鋸歯がある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

立山の腐植土上に生育する。生育量は少ない。

生存への脅威

観光開発。

チヂレヤハズゴケ (クモノスゴケ科) *Moerckia blytii* (Moerch) Brockm.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：情報不足(DD)

選定理由

全国的に生育地が限られている。生育量は少ない。

形態

植物体は葉状で匍匐し、濃緑色、長さ2-3cm、幅数mm。周囲はふつう強く縮れたように波打つ。中筋部、中心束は不明瞭。雌雄異株。雌株の包膜は鱗片状で、円筒状の偽花被の周囲にある。ヤマトヤハズゴケとの区別は難しい。高山の雪溪の脇に生育する。

国内の分布状況

本州 (山形・富山県)。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

立山の雪溪の多い土上に生育する。生育量は少ない。

生存への脅威

産地局限、観光開発。

ヤマトヤハズゴケ (クモノスゴケ科) *Moerckia japonica* Inoue富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)**選定理由**

日本固有種で、生育地が限られている。生育量は多くない。

形態

植物体は葉状で匍匐し、黄緑色、長さ2-3cm、幅3-8mm。中筋部は不明瞭、中心束はない。雌雄異株。雌株の包膜は鱗片状で、円筒状の偽花被の後方のみにある。チヂレヤハズゴケとの区別は難しい。亜高山帯以上の湿性草原や湿地の土手、湿った土上に生育する。

国内の分布状況

本州（山形・秋田・富山県）。日本固有種。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

立山の亜高山から高山に産地があり、池塘の多い湿性草原の土手部に生育する。各産地の生育はまばらであるが、比較的安定している。

生存への脅威

産地局限、観光開発。

オオミズゴケ (ミズゴケ科) *Sphagnum palustre* L.富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：準絶滅危惧(NT)**選定理由**

全国的に減少しており、県内では比較的普通に見られるが、全国同様、開発や園芸採取による減少が懸念される。

形態

茎の長さが10cm以上あり、頂端部分に多くの枝が集まってつく。茎の表皮細胞には螺旋状の肥厚がある。茎葉は舌状で先端はささくれる。横断面で枝葉の葉緑細胞は狭二等辺三角形で腹側に開く。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市、上市町、富山市、立山町。

生態・生育環境

平野部から亜高山の湿地、湿原、半日陰の湿った土上に生育する。県内には10産地以上あり、産地によっては大群落をつくり、湿原の優占種になっている。また、田畑の湿った畦で生育していることもある。県内では比較的普通に見られる。

生存への脅威

湿原開発、乾性遷移、園芸採取。

ガッサンクロゴケ (クロゴケ科) *Andreaea nivalis* Hook.富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類(VU)**選定理由**

観光開発や人の立ち入りによる生育環境の変化が懸念される。

形態

植物体は黒っぽく、茎の長さは1-10cmで倒伏することが多い。葉は卵形の基部から披針形に長く伸び、しばしば先端はかぎ形に曲がる。葉には明瞭な中筋があり、葉身細胞は方形で背腹両面にパピラがある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

亜高山から高山の半日陰の湿った石上、岩上に生育する。生育量は比較的多い。

生存への脅威

観光開発、踏みつけ、乾燥化。

ヒカリゴケ (ヒカリゴケ科) *Schistostega pennata* (Hedw.) F.Weber & D.Mohr

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地は限られ、観光開発による生育環境の変化が懸念される。

形態

原糸体の一部はレンズ状の細胞が平面的に並んでおり、入射光を反射して光る。配偶体は、白緑色で光らない。生殖器官をつけない茎は長さ7-8mmで、披針形の葉が左右2列に並んでつくが、葉の基部は下延して下の葉と融合する。生殖器官を頂につけた茎は短く、葉は小型で先端に集まって5列につく。蒴柄は長さ約5mm、蒴は小さくほぼ球形で、蒴歯はない。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

黒部市、立山町、朝日町。

生態・生育環境

山地から亜高山に数産地があり、洞窟や岩の隙間に生育する。立山の産地は、比較的安定している。

生存への脅威

観光開発、踏みつけ。

カワゴケ (カワゴケ科) *Fontinalis hypnoides* Hartm.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地は限られ、湧水の多い流れに生育する。水路改修、水質汚濁による影響を受けやすい。

形態

水中に生育し、植物体は明るい緑色。大型で茎は長く、不規則に枝分かれし、葉は3列でまばらにつく。葉は狭卵状披針形でやわらかく、平らで折りたたまれない。中肋はない。葉身細胞は線形。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

射水市、高岡市。

生態・生育環境

扇状地の湧水の多い流れに生育する。生育量は比較的多い。今後、水路の改修工事や水質汚濁があれば、生育は脅かされる危険がある。

生存への脅威

水路改修、水質汚濁、帰化種の繁茂。

ウキゴケ (ウキゴケ科) *Riccia fluitans* L.

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

かつては全国で広く普通に生育していたが、水路改修や圃場整備、水質汚濁、農薬散布の影響で減った。県内では最近15年間で水路改修後、消失した生育地がある。

形態

植物体は淡緑色で、葉状。長さ1-5cm、幅0.5-1mm、規則的に二又状にまばらに分岐し、分岐の間隔は広い。陸生と水生の2型があり、水生のものはより大型となり、幅は2mm。気室は2-3層、気室孔はあるが不明瞭。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、琉球列島。

県内の分布状況

南砺市、高岡市、射水市、富山市、黒部市。

生態・生育環境

平地の湧水、清水に浮遊あるいは土上に生育する。最近15年間で水路の改修工事によって生育しなくなった産地があるが、県内各地に10産地以上ある。

生存への脅威

水路改修、圃場整備、水質汚濁、農薬散布。

イチョウウキゴケ (ウキゴケ科) *Ricciocarpos natans* (L.) Corda

富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

かつては全国で広く普通に生育していたが、近年激減した。県内でも少なくなっている。

形態

植物体は葉状で、二又に分岐し、イチョウの葉に似た形。緑色で、秋になると赤紫色を帯び、長さ1-1.5cm、幅4-8mm。気室は数層で、気孔室は明瞭。腹鱗片は紫色で長くリボン状をなし、縁に微鋸歯がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州、琉球列島。

県内の分布状況

氷見市、南砺市、高岡市、射水市、富山市、黒部市。

生態・生育環境

平野部、山間地の田に浮遊もしくは水を抜いた水田の土上に生育する。県内各地に10産地以上ある。

生存への脅威

圃場整備、水質汚濁、農薬散布。

ナンジャモンジャゴケ (ナンジャモンジャゴケ科) *Takia lepidozoides* S.Hatt. & Inoue

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由

全国的に生育地は限られ、県内では2ヶ所の記録があるが、浄土山～鬼岳の生育地(井上 1960)は、再調査では未確認とされている(環境庁 2000)。

形態

植物体は緑色で、茎の長さは約1cm、下部から鞭枝を出す。仮根はない。茎の中部から下部に粘液細胞を束生する。葉は棒状で、もろく、茎からはずれやすい。葉は2本ずつ対になって、茎に3列につく傾向がある。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

浄土山～鬼岳(井上 1960)、五龍岳(水谷 2007)、北アルプスの亜高山から高山の日陰の岩や土上に生育する。井上(1960)、水谷(2007)の現存確認調査が必要である。

生存への脅威

産地局限、乾燥化。

ジョウレンホウオウゴケ (ホウオウゴケ科) *Fissidens geppii* M.Fleisch

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内には数生育地が記録されているが、他種と混同している可能性がある。精査すると産地、生育量ともに少ないと考えられる。

形態

本属の種の茎の基部は、アヤメのように二重になっている。本種の葉の全周に細長い細胞からなる^①*肋*がある。^②*肋*は明瞭で横断面で2-3細胞の厚さがある。類似の日本新産種があり(Suzuki & Iwatsuki 2012)、同定は難しい。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町、立山町、魚津市。

生態・生育環境

平地から山間地の湿ったあるいは水際の土上、転石上に生育する。産地記録があるが、再同定を要する。

生存への脅威

開発、水質汚濁。

チャボナガダイゴケ (シッポゴケ科) *Trematodon asanoi* Tuzibe

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に生育地は少なく、県内では立山から報告されている2ヶ所のみで、そのうち1ヶ所の現状は不明である。

形態

植物体は葉を含めて長さ1.7-4.8mm。茎の中心束は分化する。上部の葉の長さは1.3-2.6mm、中下部は卵形～狭卵形で、上部は急に狭まり錐状になる。錐状部のほとんどすべてを中肋が占める。葉は先端をのぞき全縁。蒴柄は短く、1-4mmの長さで、蒴歯は2裂しないが、しばしば穴が開く。蒴歯の外側表面にパピラはなく滑らかで、下部には縦筋がある。胞子の直径は20-33 μ m。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

立山の高山(Iwatsuki & Suuki 2006, 坂井 2011)に生育する。坂井(2011)の産地の生育量は少ない。Iwatsuki & Suzuki(2006)の産地の現存確認調査が必要である。

生存への脅威

観光開発。

ヤスダゴケ (ハリガネゴケ科) *Anomobryum yasudae* Broth.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地は1ヶ所が記録されているが、その地名は不明で、現状が分からない。

形態

茎の長さは2-5cmで、葉が鱗状につく。葉は卵形～広卵形で、強くくぼみ、全縁か先端にのみ小鈍鋸歯がある。葉の先端は鈍頭、下部は茎に広く下延する。葉の中肋は黄みを帯び、葉頂に達する。蒴柄は長さ3.5cm、蒴は長楕円形で、水平かやや下垂する。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

地名不明。

生態・生育環境

飛沫水があったり、浸水するような湿った岩上や土上に生育する。黒部山(笹岡 1938)の記録があるが、現在の地名は分からず、現存確認ができない。

生存への脅威

道路改修、乾燥化。

コシノシンジゴケ (ハリガネゴケ科) *Mielichhoferia sasaokae* Broth.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全国的に生育地は少なく、県内では1ヶ所が記録されているが、その地名は不明で、現状が分からない。

形態

茎の長さは1cm以下で密に葉がつく。葉は披針形～狭三角形で、基部が最も幅広く、黄緑色で光沢がある。乾くと茎に接し、縮れない。中肋は葉先に達する。蒴柄は長さ1cm前後で、蒴は傾くか水平で頸部は明瞭。外蒴歯を欠き、内蒴歯はよく発達する。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

地名不明。

生態・生育環境

小黒部山(笹岡 1921, 1938)の記録があるが、現在の地名は分からず、現存確認ができない。

生存への脅威

開発、森林伐採。

ツブツブヘチマゴケ (ハリガネゴケ科) *Pohlia drummondii* (Müll.Hal.) A.L.Andrews富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由

立山弥陀ヶ原、屋久島でのみ記録されていたが、その後、Akiyama & Yamagushi (2008) は日本に広く分布すると報告している。県内では1ヶ所が確認されたが、分布状況は不明である。

形態

植物体は黄緑色、茎は赤く、長さ7mm程、横断面で明瞭な5稜があり、1本の中心束をもつ。葉は茎に密につき、乾くとねじれ、湿るとやや開出する。披針形で、古くなると中肋部が赤みを帯びる。中肋は葉頂近くまで伸びる。茎上部の葉腋に無性芽を各1個つける。無性芽は太い短枝状で、退化した葉が先端以外に中～下部にも少数ある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

立山弥陀ヶ原の遊歩道沿い、半日陰の腐植土上や木道に生育する。

生存への脅威

観光開発、歩道改修、踏みつけ。

レイシゴケ (ヒゲゴケ科) *Myurella sibirica* (Müll.Hal.) Reimers富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全国的に生育地は少なく、石灰岩に生育する種であり、石灰岩の採掘や乾燥化により減少している。県内の生育地は1ヶ所が記録されているが、現状が不明である。

形態

植物体は小型で糸状、明るい緑～灰緑色を帯びる。茎は匍匐し、枝は長さ10-15mmで、枝先はしばしば細い鞭状になる。葉は広卵形～円形で深く碗状にくぼみ、先は急に長く尖り、全周に針状の歯がある。中肋は非常に短いか欠く。葉身細胞の背側中央に1個の大きな刺状のパピラがある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部市。

生態・生育環境

黒部峡谷～祖母谷の石灰岩上(高木 1954)の記録があり、現存確認調査が必要である。

生存への脅威

観光開発、乾燥化。

オオサナダゴケ (サナダゴケ科) *Plagiothecium neckeroideum* Schimp富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地は笹岡(1914,1938)、Iwatsuki & Hattori(1957)の文献記録で数ヶ所あるが、現状および県内の分布状況は不明である。

形態

植物体は匍匐性で黄緑色。葉は茎に扁平につき、卵状披針形で非相称、上半部は強く波打つ。葉先は狭い鋭頭で、仮根や無性芽をつけるか、その部分の細胞は分化して幅広く暗い。翼細胞は基部の他の細胞から徐々に移行して明瞭な境はない。葉身細胞は線形で、長さ70-100 μ m、幅6 μ m、表面に細かな肥厚が見られる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

富山市、立山町。

生態・生育環境

文献記録の産地の現存確認調査が必要である。

生存への脅威

開発(森林伐採を伴うもの)。

コウライイチイゴケ (ハイゴケ科) *Taxiphyllum alternans* (Cardot) Z.Iwats.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地は1938年の文献記録で1ヶ所あるが、現在は市街地であることから現存の可能性は極めて低い。また、県内の分布状況が不明である。

形態

やや大型で匍匐性。茎は不規則に分枝し、葉はゆるくつき、枝先を除いてあまり重ならず、乾いても展開したままだが葉先は下方を向く。偽毛葉は三角形。枝葉は長さ2-4mm、卵形～広卵形でくぼみ、多くは非相称。中肋は二又して短い、ときに葉長の1/3前後。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市。

生態・生育環境

湿地や溪流、泉の近くなどのぬれた場所に生育する。富山市（笹岡 1938）の記録があり、対応標本の産地は富山市柳町である（坂井・樋口 2004）。現在は市街地であることから、現存する可能性は極めて低い。

生存への脅威

開発。

サトミヨツデゴケ (マツバウロコゴケ科) *Pseudolepicolea andoi* (R.M.Schust.) Inoue

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由

全国的に生育地は限られ、県内では2ヶ所が記録されているが、現状が不明である。

形態

植物体は緑褐色の茎葉状で、匍匐ないし斜上し、長さ約1cm、幅は葉を含めて1-1.2mm。葉は長さ約1mmで、3/4まで2裂し、裂片がさらに2/3まで2裂する。葉掌部は扇形、数細胞高、小裂片の基部は2-5細胞幅。腹葉は葉とほぼ同形同大。

国内の分布状況

本州（秋田・富山県）、九州（屋久島）。

県内の分布状況

黒部市。

生態・生育環境

黒部峡谷（安藤 1962）、阿曾原・樺平－猿飛（Hattori & Mizutani 1968）の記録があり、現存確認調査が必要である。

生存への脅威

観光開発、産地局限。

タチクモマゴケ (ツボミゴケ科) *Anastrepta orcadensis* (Hook.) Schiffn.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全国的に生育地は限られ、県内では1ヶ所が記録されているが、現状が不明である。

形態

植物体は茎葉状で褐色。茎は斜上し、長さ2-5cm。仮根は茎の腹面に密生する。葉は斜めにつき、広く開出して背側が凸面状で卵形、長さ1-1.5mm。先端が浅く2裂し、裂片は三角形で鈍頭、背縁基部はやや下延し、腹縁は外曲する。腹葉は小さく痕跡的。葉身細胞は薄壁、トリゴンは大きい。油体は各細胞に6-10個、球形。

国内の分布状況

本州（富山・長野・静岡県）。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

立山（Kitagawa 1966）の記録があり、現存確認調査が必要である。

生存への脅威

観光開発、産地局限。

ミツデモミジゴケ (ツボミゴケ科) *Barbilophozia floerkei* (F.Weber & D.Mohr) Loeske

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足(DD)

選定理由

全国的に生育地が限られ、立山室堂周辺の生育地は近年知られたが、1967年の報告以来、生育記録がない産地については現状が不明である。

形態

植物体は茎葉状で匍匐し、黄褐色～緑褐色。長さ約2.5cm、幅約2mm。葉は1/5-1/4まで浅く3裂し、裂片は鋭頭、基部に毛状の突起がある。腹葉は大きく、2裂する。

国内の分布状況

本州（富山・山梨・静岡県）。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

高山の土上に生育する。立山・五色ヶ原・三俣蓮華岳（Kitagawa 1967）の産地の現存確認調査が必要である。

生存への脅威

観光開発、産地局限。

エゾヒメソロイゴケ (ツボミゴケ科) *Cryptocoleopsis imbricata* Amakawa

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全国的に生育地は限られ、日本固有種である。県内では1ヶ所が記録されているが、現状が不明である。

形態

植物体は茎葉状で斜上し、銀緑色を帯びる。茎は長さ5-8mm。葉は横～斜めについて密に重なり、円状舌形で、長さ0.5-0.6mm、全縁、円頭。腹葉はない。油体は各細胞に2-4個、ブドウ房状で眼点がある。雌雄異株。花被はなく、茎頂にやや下曲したペリギニウムが発達する。

国内の分布状況

北海道（利尻島）、本州（富山・長野県）。日本固有種。

県内の分布状況

立山町。

生態・生育環境

立山（Kitagawa 1959, 1963）の記録があり、現存確認調査が必要である。

生存への脅威

観光開発、産地局限。

マルバイチョウゴケ (ツボミゴケ科) *Lophozia obtusa* (Lindb.) A.Evans

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足(DD)

選定理由

国内の生育地は、1967年に報告されたワリモ岳の1ヶ所のみで、以降、生育記録がなく現状が不明である。

形態

植物体は茎葉状で濃緑色。匍匐し、長さ約2mm、幅約1.5-2mm、葉は平坦で、1/4-1/3まで2裂し、裂片の先は円頭。腹葉はない。

国内の分布状況

本州（富山県のみ）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

ワリモ岳（Kitagawa 1967）の記録があり、現存確認調査が必要である。

生存への脅威

産地局限。

ヒラウロコゴケ (ツボミゴケ科) *Nardia compressa* (Hook.) Gray

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全国的に生育地は限られ、県内では1ヶ所が記録されているが、現状が不明である。

形態

植物体は茎葉状で緑色～赤褐色。長さは数cmで、斜上する。葉は横につき、茎に左右に圧接し、円形、全縁。腹葉は小さく目立たない。

国内の分布状況

本州（秋田・山形・福島・富山県）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

強酸性の水中に生育する。黒部五郎岳（本多 1963）の記録がある。その一方で、1962年に本多が鷲羽岳で採取した標本が広島大学（HIRO）にあるが黒部五郎岳産はない（山口 私信）。報告文内の生育地は、鷲羽岳の誤りの可能性がある。現存確認調査が必要である。

生存への脅威

産地局限。

= 参考文献 =

- 1) 秋山弘之, 1996. アジア産蘚苔類の分類・生態ノート, 6. 日本新産のヘチマゴケ属植物ツブツヘチマゴケ. 植物分類・地理, 47 : 125-126.
- 2) 秋山弘之・山口富美夫, 2006. アジア産蘚苔類分類・生態ノート, 13. ツブツヘチマゴケは九州・屋久島に隔離的に分布する. 蘚苔類研究, 9 : 115-116.
- 3) 秋山弘之・山口富美夫, 2008. 無性芽を有するヘチマゴケ属 (ハリガネゴケ科, 蘚類) の研究 1. 日本産キヘチマゴケとその近縁種の再検討. 蘚苔類研究, 9 : 279-290.
- 4) Amakawa T., 1959. Family Jungermanniaceae of Japan. I. J. Hattori Bot. Lab., 21 : 248-291.
- 5) 安藤久次, 1962. 黒部峡に発見された *Pseudolepicola trollii*. 蘚苔地衣雑報 2 : 171.
- 6) 井上浩, 1960. *Takakia lepidozoides* の新産地. 蘚苔地衣雑報, 2 (2) : 14-15.
- 7) Hattori S. & Mizutani M., 1968. Asiatic species of *Pseudolepicolea* (Hepaticae) . J. Hattori Bot. Lab., 31 : 251-259.
- 8) 本多啓七, 1963. 日本アルプスの水辺のミズゴケ類と苔類. 蘚苔地衣雑報, 3 : 40.
- 9) Inoue H., 1971. *Haplomitrium hookeri* (Smith) Nees in Japan. J. Jpn. Bot., 46 : 353-357.
- 10) Inoue H., 1985. Studies on Pallaviciniaceae & Allisoniaceae (Metzgeriales) in Japan, 2. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. B, 11 : 1-10.
- 11) Iwatsuki Z., 2004. New catalog of the mosses of Japan. J. Hattori Bot. Lab., 96 : 1-182.
- 12) 岩月善之助 (編), 2001. 日本の野生植物 コケ. 355 pp. 平凡社, 東京.
- 13) Iwatsuki Z. & Hattori S., 1957. Studies on the epiphytic moss flora of Japan. 8 The bryophyte communities in the *Pinus pumila* association of central Japan. J. Hattori. Lab., 18 : 70-77.
- 14) Iwatsuki Z. & Suzuki T., 2006. A taxonomic revision of *Trematodon asanoi* and its related species (Dicranaceae, Musci) . J. Hattori Bot. Lab., 99 : 259-269.
- 15) 環境庁 (編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－9 植物II (維管束植物以外) . 429 pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 16) 環境省, 2007. 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて.
環境省 : <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>, 2007年8月3日公表, 参照 2012年1月30日.
- 17) 環境省, 2010. 改訂レッドリスト付属説明資料蘚苔類.
環境省 : http://www.biodic.go.jp/rdb/explanatory_pdf/21plant3.pdf, 2010年3月公表, 参照 2012年1月30日.
- 18) Kitagawa N., 1959. New or interesting species of *Gymnomitrium* (Hepaticae) in Japan. Acta Phytotax. Geobot, 18 (2-3) : 33-38.
- 19) Kitagawa N., 1963. A revision of the family Marsupellaceae of Japan. J. Hattori Bot. Lab., 26 : 76-118.
- 20) Kitagawa N., 1966. A revision of the family Lophoziaceae of Japan and its adjacent regions. II. J. Hattori Bot. Lab., 29 : 101-149.
- 21) Kitagawa N., 1967. Two species of Lophoziaceae, new to Japan. Bull. Nara Univ. Educ. (Nat.) , 15 : 37-43.
- 22) 榊崎浩亮・片桐知之, 2010. 北岳・間ノ岳の苔類. 増沢武弘 (編), 南アルプス地形と生物, pp. 257-276. 静岡県, 静岡.

- 23) 水谷正美, 2007. *Takakia*のタイプ標本について. 三重コケの会ニュース, (25) (1-2) : 1-5.
- 24) Noguchi A., 1988. Illustrated moss flora of Japan. Part 2, pp. 243-491. Hattori Bot. Lab., Nichinan.
- 25) Noguchi A., 1994. Illustrated moss flora of Japan. Part 5, pp. 1013-1253. Hattori Bot. Lab., Nichinan.
- 26) 小笠原昇一, 1970. 立山で*Haplomitrium*の珍苔発見. 植物と自然, (4) : 11-12.
- 27) 坂井奈緒子, 2007. 富山県上市町大岩千巖溪の蘚苔類. 富山市科学文化センター研究報告, (30) : 1-6.
- 28) 坂井奈緒子, 2011. 室堂平周辺の蘚苔類への訂正と追加. 富山市科学博物館研究報告, (34) : 135-136.
- 29) 坂井奈緒子・樋口正信, 2004. 笹岡久彦氏の報告と標本に基づく富山県の蘚類チェックリスト. 富山市科学文化センター研究報告, (27) : 87-112.
- 30) 坂井奈緒子・山田耕作, 2009. 富山県産のタイ類とツノゴケ類のチェックリスト. 三重コケの会ニュース, 26 : 21-36.
- 31) 笹岡久彦, 1910. 越中国産蘚類報告第一. 植物学雑誌 24 : (197) - (198) .
- 32) 笹岡久彦, 1914. 越中国産蘚類報告 (其二) . 植物学雑誌, 28 : (191) .
- 33) 笹岡久彦, 1921. 最近発表若クハ所命ノ新蘚類. 植物学雑誌, 35 : (68) - (69) .
- 34) 笹岡久彦, 1938a. 富山県産の蘚類. 富山教育, (292) : 64-79.
- 35) 笹岡久彦, 1938b. 富山県産の蘚類 其の三. 富山教育, (297) : 62-78.
- 36) Suzuki T. & Iwatsuki Z, 2012. *Fissidens* (Fissidentaceae, Bryopsida) species newly found in Japan. Hattoria 3 : 1-48.
- 37) Suzuki T., Iwatsuki Z. & Kiguchi H., 2006. *Brachydontium olympicum*, a moss misunderstood by Japanese bryologists. J. Hattori Bot. Lab., 95 : 199-205.
- 38) 高木典雄, 1954. 日本産蘚類植物報告 (7) . 植物研究雑誌, 29 (2) : 3-8.
- 39) Yamada K. & Iwatsuki Z., 2006. Catalog of the hepatics of Japan. J. Hattori Bot. Lab., 99 : 1-106.
- 40) 山岡正尾, 1990. 光蘚との五十年. 330 pp. ヒカリゴケの旅グループ, 富山.

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.11 地衣類

6.11 地衣類

地衣類は菌類に属する共生生物で、日本からは約 1,700 種が報告されており、富山県産として 257 種が知られている (Kurokawa 1996)。幸い、これまでに発表された研究論文の証拠標本は、その大多数が国立科学博物館に保管されているので、記録された種は必要に応じて分類学的な再検討ができる状況にある。しかし、県内全域の地衣類相に関する研究はなされていないため、県内における各種の分布や生態に関する詳細な検討は今後の研究を待つ必要がある。このような状況を鑑み、今回の絶滅危惧種選定作業の一環として県内の約 27 地点で地衣類の現地調査を実施した。調査で得られた資料と科博に保管されている約 1200 点の標本を検討した結果、富山県産地衣類として、43 科 109 属 321 種 3 亜種 2 変種を確認した。

過去に採集され、国立科学博物館に保存されている標本の産地情報と今回の現地調査で新たに得られた情報を踏まえて検討した結果、地衣類の絶滅危惧種として「絶滅危惧種 I 類」5 種、「絶滅危惧種 II 類」2 種、「情報不足」11 種を選定した。選定基準は環境省の示す日本版 RDB カテゴリー（環境省 2000）に準じたが、県内の分布状況も同時に考慮した。絶滅危惧種 I 類に選定したアマギウメノキゴケ、カニメゴケ、トゲエイランタイモドキ、ヘラゴケ、ミヤマヒジキゴケは立山連峰に生育するが、産地が 1-3 カ所と限定されており、環境省の示すレッドデータブックでも同ランクに位置づけられている。絶滅危惧種 II 類のウスキエイランタイとコツブセンニンゴケのうち、ウスキエイランタイは高山帯に局在する。コツブセンニンゴケは国内の数カ所に産する稀種で、県内では立山のスギの古木に限って生育する。情報不足のランクにアカウラヤイトゴケ、イワタケ、ウスキクダチイ、キイロスミイボゴケ、クボミヤイトゴケ、コツブイワノリ、サルオガセ、ツブクダチイ、トゲイワタケ、フジサルオガセ、ヨコワサルオガセの 11 種を選定した。このうち、イワタケは本州から九州の山地に広く分布する普通種であるが日本海側では極めて稀で、県内では医王山から報告されている（西島 1933）が、現存するかどうかは確認できない。また、国内の分布域を急速に減じているサルオガセ属地衣類の 3 種が含まれている。県内ではいずれも亜高山針葉樹に産するが希少である。ヨコワサルオガセは医王山からの報告（西島 1933）もあるが、現在では生育を確認できない。

地衣類は環境の変化に対する耐性が小さい種を数多く含んでいる。中でもここで取り上げた種は、既知の生育地が消失・減少したものや個体数が著しく減少している。

本稿に採用した種名は種名は、(Kurokawa & Kashiwadani 2006) に従った。サルオガセ類の学名は最近の研究結果 (Wirtz et al. 2006) を参考にサルオガセ属 *Usnea* として扱った。**【謝辞】** 富山県産の RDB 地衣類をまとめるにあたり、故黒川 道先生（元富山県中央植物園長）から貴重がご助言をいただいた。また、地衣類の現地調査を実施するにあたり、魚津市埋没林博物館の石須秀和氏には植生情報を提供いただき、武市康子氏には調査に同行いただいた。記して感謝の意を表したい。

【参考文献】

- 環境省 (編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 9 植物 II, 1-429. 自然環境センター, 東京.
- Kurokawa, S. and Kashiwadani, H. (ed.), 2006. Checklist of Japanese lichens and allied fungi. Nat. Sci. Mus Monograph No. 33. 1-157.
- 西島 稔 1933. 富山県地衣植物の一試料. 富山教育 (239): 10-17.
- Wirtz, N., Printzen, C., Sancho, L., and Lumbsch, H.T. 2006. The phylogeny and classification of *Neuropogon* and *Usnea* (Parmeliaceae, Ascomycota) revisited. Taxon 55(2): 367-376.

カニメゴケ (ダイダイキノリ目ピンゴケ科) *Acrosyphus sphaerophoroides* Lév.

富山県カテゴリ：絶滅危惧 I 類
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由

国内でも分布が限定されており、薬師岳で1976年に採集されているが、その後の生育情報や信頼すべき記録はない。

形態

高山（ハイマツ帯）の突出した岩上に生育する樹枝状地衣類。地衣体は円柱状、中実で径1-1.3 mm、表面は平滑で灰色、多数が寄り集まり、大きいものでは径10 cmほどの塊になる。子嚢果は黒色、枝の先端に生じ、半球状でカニの目玉のように見える。アトラノリン、ウスニン酸、ゼオリンなどの地衣成分を含む。

国内の分布状況

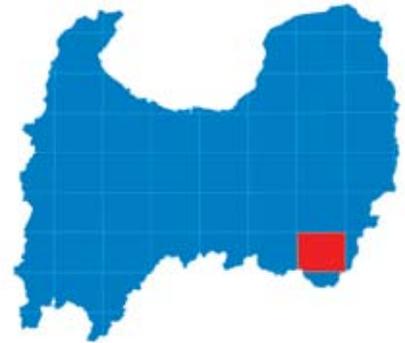
北海道、本州（富山県、長野県）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生存への脅威

人の踏みつけ、産地局限。



トゲエイランタイモドキ (チャシブゴケ目ウメノキゴケ科) *Cetraria odontella* (Ach.) Ach.

富山県カテゴリ：絶滅危惧 I 類
環境省カテゴリ：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由

国内の分布は限定されており、富山県内では越中沢岳で1976年に採集されている。その後の生育記録の情報や信頼すべき記録はない。登山道近辺にも生育するため、踏みつけなどによって存続が脅かされる。

形態

高山の露出した岩上に着生する樹枝状地衣類。地衣体は扁平、黒褐色で光沢があり、数本が固まって直立または平伏する。裂片は長さ約 1 cm、巾 1 mm以下。縁に刺状の突起をつける。擬盆点はない。有子器の標本は見つっていない。プロトリケステリン酸を含む。

国内の分布状況

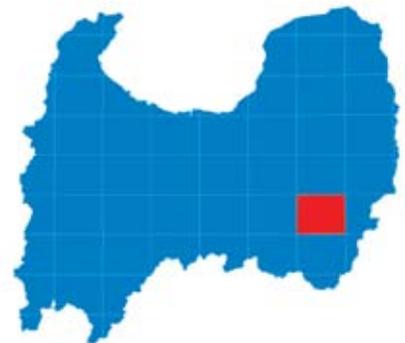
本州（山形県、富山県、長野県、埼玉県）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生存への脅威

人の踏みつけ、産地局限。



地衣類

ミヤマヒジキゴケ (チャンブゴケ目ウメノキゴケ科) *Cornicularia normoerica* (Gunn.) Du Rietz

富山県カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由

国内の分布は限定されており、富山県内では立山の数カ所で採集されているが、1978年以降の採集記録はなく、現在の生育状況は確認されていない。高山の地上に生育するため、踏みつけなどによって存続が脅かされる。

形態

露出したケイ岩上に生じる小型の樹枝状地衣類。地衣体は黒褐色で硬い、長さ約1.5 cm、巾約1 mmの棒状で叢生する。粉芽、裂芽、擬盃点を欠く。子器は地衣体の先端部に生じ、径3-5 mm、盤は黒色で光沢がある。胞子は無色、単室、5-6 x 3-4 μm。地衣成分を含まない。

国内の分布状況

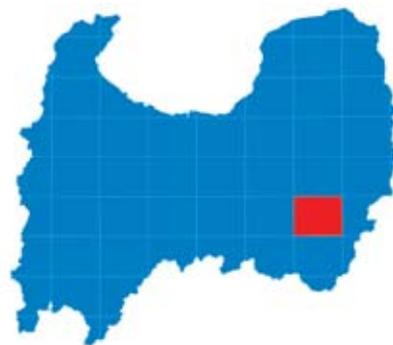
本州（新潟県、長野県、富山県、山梨県）。

県内の分布状況

立山町南東部。

生存への脅威

人の踏みつけ、産地局限。



ヘラゴケ (トリハダゴケ目アオシモゴケ科) *Glossodium japonicum* Zahlbr.

富山県カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省カテゴリー：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由

国内では比較的広い分布域を持つが、近年、全国的に生育量の著しい減少が見られる。県内では立山の3カ所で生育は確認されているが、生育量は極めて少ない。

形態

標高800 m以上に生える針葉樹（スギやシラビソなど）の朽ちた株もとに生じる。地衣体は灰緑色、固着状で表面は微細な顆粒で被われる。子器はピアトラ型、通常単一、地衣体上に直立または斜上し、へら形となる、長さ1-1.5 cm、巾2-3 mm。盤は肉紅色、盤の背側には灰緑色の地衣体を持つ。胞子は紡錘形、2-4室、無色、20-25 x 2-3 μm。タムノール酸を含む。

国内の分布状況

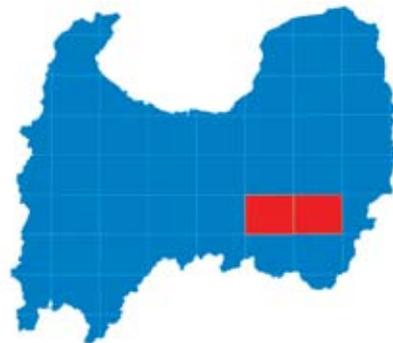
北海道、本州、四国。

県内の分布状況

立山町南部。

生存への脅威

産地局限。



アマギウメノキゴケ (チャシブゴケ目ウメノキゴケ科) *Myelochroa amagiensis* (Asahina) Elix & Hale

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定理由

日本特産種で、富山県と静岡県などで知られる稀種である。今回立山山麓を精査したが発見できなかった。昭和44年の洪水で生育地が破壊された可能性が高い。

形態

中型の葉状地衣類。地衣体は径5-10 cm、裂片は灰緑色、裏面は黒褐色で縁部まで短い仮根を密生する、粉芽や裂芽を欠く。近縁のウチキウメノキゴケに似ているが、髓層が橙色がかったピンク色の特殊な色素を含む。日本特産種で、国内では4箇所からのみ知られている稀種である。

国内の分布状況

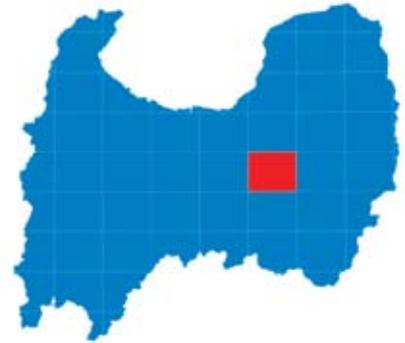
本州〔静岡県、富山県、東京都（三宅島）、宮崎県〕。

県内の分布状況

立山町南部。

生存への脅威

産地局限、自然災害（洪水）。



コツブセンニンゴケ (センニンゴケ目ヒロハセンニンゴケ科) *Baeomyces aggregatus* Asahina

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県内では立山周辺山地のスギの古木に生育するが、産地は極めて局限されている。周辺環境の変化によって容易に消滅する可能性が高い。

形態

スギの古木の株もと近くに着生する樹枝状地衣類。基本葉体は緑色、微細な鱗片状で裂芽や粉芽は生じない。子柄は高さ1-2 mm、髓は皮層を欠く。子器は褐赤色、半球状-球状、子柄頂部に1個着くが成長と共にぶどう状に分かれる。胞子は無色、1室、長円形、12-15 x 4-5 μm。アトラノリンとヂヂム酸を含む。

国内の分布状況

本州（新潟県、富山県、長野県、埼玉県、奈良県）、九州（鹿児島県）。

県内の分布状況

魚津市、立山町など。

生存への脅威

産地局限。

ウスキエイランタイ (チャシブゴケ目ウメノキゴケ科) *Flavocetraria cucullata* (Bellardi) Kärnefelt & A.Thell

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

上ノ岳と薬師岳で採集されているが、1978年以降の採集記録はない。ハイマツ帯以上の高山地上に生育している可能性が高いが、生育地が局限されており、登山者による踏みつけなどで存続を脅かされる可能性が高い。

形態

高山の地上に生じる樹枝状地衣類。地衣体は淡黄色、管状にまき、高さ3-5 cm、巾1-2 mm、多数が集まって群落状となる。地衣体の表面は平滑で擬盃点を欠く。粉芽や裂芽はない。子器は地衣体の頂部近くに生じ、円盤状、盤は赤褐色である。プロトリケステリン酸とウスニン酸を含む。

国内の分布状況

北海道、本州（富山県、長野県、山梨県、静岡県）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生存への脅威

人の踏みつけ、産地局限。

キイロスミイボゴケ (チズゴケ目チズゴケ科) *Catolechia wahlenbergii* (Ach.) Flot.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NC)

選定理由

国内では生育が限定されており、本州中部や東北地方の高山から報告がある。富山県では立山町で1928年に採集されているが、その後の生育記録の情報や信頼すべき記録はない。

形態

高山の岩石に生育する固着地衣類。地衣体は黄色-緑黄色、厚手で深い溝が縦横に走り、脳状を呈する。子器は黒色でレキデア型、胞子は楕円形、2室、褐色、13-17 x 7-10 μm。リゾカルブ酸を含む。

国内の分布状況

本州（福島県、富山県、長野県、山梨県）。

県内の分布状況

立山町南東部。

生存への脅威

産地局限。

コツブイワノリ (ツメゴケ目イワノリ科) *Collema coccophyllum* Nyl.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足(DD)

選定理由

富山県内では旧福野町で1930年に採集されているが、現在の生育状況は確認されていない。稀種ではあるが、見過ごされている可能性もある。

形態

小型の葉状地衣類。地衣体は暗褐色-褐緑色、濡れた状態では半球状のクッション状、乾くと薄い膜状となり、著しい外観の違いを生じる。地衣体は薄膜状、典型的な裂芽を欠くが不定の突起を生じる。子器は小型、径1mm以下、多数生じ、盤は凸状。果托は皮層を欠く、果殻は偽柔組織を持つ。子嚢は8個の胞子を生じる。胞子は無色、サイコロ状、十文字の隔壁を生じ、4室、7-8 x 5 μm。地衣成分は含まない。

国内の分布状況

本州（栃木県、富山県、長野県、埼玉県、山梨県、岐阜県、和歌山県）。

県内の分布状況

南砺市北部。

生存への脅威

産地局限。

ツブクダチイ (チャシブゴケ目ウメノキゴケ科) *Menegazzia caviisidia* Bjerke & P.James

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NC)

選定理由

薬師岳の亜高山帯の針葉樹に生育する。稀種であり、生育基物が限られ産地も局限されているため、基物の損壊などにより消滅する可能性がある。

形態

亜高山針葉樹の樹幹に生育する中型の葉状地衣類。地衣体は淡黄緑色、髄層部は中空、地衣体は枕状にふくれ、表面に裂芽を持つ。孔はまばらで地衣体表面から突出する。アトラノリンとタムノール酸を含む。

国内の分布状況

本州（栃木県、富山県、長野県、埼玉県、山梨県、岐阜県、和歌山県）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生存への脅威

産地局限。

ウスクダチイ (チャシブゴケ目ウメノキゴケ科) *Menegazzia squamatica* K.H.Moon, Kurok. & Kashiw.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

黒部湖周辺で1988年に一度だけ採集されている。稀種ではあるが、他にも生育する可能性もある。

形態

形態はツブクダチイに酷似するがタムノール酸の代わりにスクワマート酸を含むので区別できる。日本特産種で本州中部のツガヤゴヨウマツの樹幹上に生じる。

国内の分布状況

本州（福島県、富山県、長野県、埼玉県）。

県内の分布状況

富山市南東部～立山町南東部。

生存への脅威

産地局限。

アカウラヤイトゴケ (ツメゴケ目ツメゴケ科) *Solorina crocea* (L.) Ach.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧(NT)

選定理由

立山の高山帯で採集されているが、1958年以降の採集記録はない。現在の生育状況は確認できないが未踏査地域に生育している可能性もある。

形態

地上に生じる大型の葉状地衣類。地衣体はオリーブ色であるが濡れると緑色となる。裂片は先端部に丸みがあり、巾1-1.5 cm。共生藻は緑藻であるが、地衣体内部に内部頭状体を持ち、内部にシアノバクテリアを含む。髓層にアントラキノン系の赤色色素(K+紫色)を持つので地衣体周辺部は赤く染まることが多い。裏面は皮層を欠くが茶褐色の脈がある。子器は地衣体に埋まるように生じる。盤は褐色。子嚢は6-8個の胞子を生じる。胞子は紡錘形、褐色、2室、35-50 x 20-25 μm。

国内の分布状況

北海道、本州（新潟県、富山県、長野県、山梨県）。

県内の分布状況

立山町南東部。

生存への脅威

人の踏みつけ、産地局限。

クボミヤイトゴケ (ツメゴケ目ツメゴケ科) *Solorina saccata* (L.) Ach.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由

白馬連峰の鐘ヶ岳で1982年に一度だけ採集されている稀種である。その後の生育記録の情報や信頼すべき記録はない。

形態

石灰岩地の地上に生じる大型の葉状地衣類。裂片先端部は波曲する、裂片表面に白い粉霜がある、巾 1-1.5 cm。共生藻は緑藻、内部頭状体を持つ。髓層にアントラキノン系の赤色色素を持つので地衣体周辺部は赤く染まることが多い。裏面は皮層を欠くが茶褐色の脈がある。子器は地衣体に深く埋まる。盤は褐色。子嚢は4個の胞子を生じる。胞子は紡錘形、褐色、32-50 x 20-25 μm。

国内の分布状況

北海道、本州（新潟県、富山県、長野県）、四国（徳島県）。

県内の分布状況

黒部市東部。

生存への脅威

人の踏みつけ、産地局限。

トゲイワタケ (イワタケ目イワタケ科) *Umbilicaria deusta* (L.) Baumg.

富山県カテゴリー: 情報不足
環境省カテゴリー: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

採集記録は越中沢岳と立山の2ヶ所であるが、ハイマツ帯付近の露岩上で他の産地が見つかる可能性がある。

形態

高山の岩上に生じる小型の葉状地衣類。地衣体は単葉、成長すると複葉になる、径1-2 cm。薄手で壊れやすく、裏面のさい状体で基物に付着する。表面は褐色、平滑であるが裂芽を密生する。裏面は黒褐色、子器はほとんど生じない。平滑で仮根を欠く。ジロフォル酸を含む。

国内の分布状況

北海道、本州（富山県）。

県内の分布状況

富山市南東部、立山町。

生存への脅威

人の踏みつけ、産地局限。

イワタケ (イワタケ目イワタケ科) *Umbilicaria esculenta* (Miyoshi) Minks

富山県カテゴリー: 情報不足
環境省カテゴリー: 該当なし

選定理由

県内では医王山から報告されている（西島 1933）が、2010-2011年の現地調査では確認されなかった。県内産の標本の存在も確認できない。

形態

山地の非石灰岩性の岩上に生じる大型の葉状地衣類。地衣体は単葉、類縁形に広がる、径10-15 cm（大きいものでは30 cmを超えるものも知られる）。表面は褐色、裂芽や粉芽を欠く。裏面は黒色で黒褐色の分岐した仮根を密生する。髄層は白色。子器は黒色、盤上に不定形のヒダを生じる。ジロフォル酸を含む。胞子は無色、単室、20-30 x 10-12 μm。食用地衣類としても有名。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

南砺市西部。

生存への脅威

産地局限、食用採取。

サルオガセ (チャシブゴケ目ウメノキゴケ科) *Usnea longissima* Ach.

富山県カテゴリー: 情報不足
環境省カテゴリー: 該当なし

選定理由

現在、標本で確認されている県内の産地は薬師岳およびその周辺である。針葉樹林帯で他の産地が見つかる可能性もあるが、大気汚染や環境の変化に対する耐性が低く日本各地から急速に姿を消しつつある。

形態

亜高山帯に生育する樹枝状地衣類。地衣体は糸状で基物から垂れ下がる。地衣体は長さ数十センチ以上に伸び、主軸から直角に伸びる小枝を生じる。地衣体は基部から先端まで、ほぼ類円柱形、不連続の皮層を持つ。中央部に軟骨質の軸を持つ。皮層にウスニン酸を持ち、髄層にはバルバチン酸、ジフラクタ酸、レカノール酸など多様な地衣成分を含む。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

富山市南東部。

生存への脅威

産地局限、大気汚染。

フジサルオガセ (チャシブゴケ目ウメノキゴケ科) *Usnea trichodeoides* Vain.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

現在、標本で確認されている県内の産地は旭岳の1点のみである。針葉樹林帯で他の産地が見つかる可能性もあるが、大気汚染や環境の変化に対する耐性が低く日本各地から急速に姿を消しつつある。

形態

ナガサルオガセに似ているが、分枝の近くが扁平になり、地衣成分としてサラチン酸やフマルプロトセトラール酸などのデブシドン類を含む点で区別される。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

黒部市東部。

生存への脅威

地局限産、大気汚染。

ヨコワサルオガセ (チャシブゴケ目ウメノキゴケ科) *Usnea diffracta* Vain.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

低山から針葉樹林帯に広く分布する種であるが、標本で確認できる県内の産地は、富山市南東部から立山町南東部にかけてである。ブナ帯-針葉樹林帯では、他の地域でも見つかる可能性は高いが、県内では低地での生育は確認されていない。

形態

山地に生じる樹枝状地衣類。地衣体は基部から等長2又分枝をくり返して成長する。表面は平滑で厚い皮層を有する。粉芽、裂芽、小枝を欠く。皮層には環状の白い擬盆点（シロコ）が規則正しく生じる。髓層は白色。デフラクタ酸を含む。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州

県内の分布状況

富山市南部、富山市南東部、立山町南東部。

生存への脅威

産地局限、大気汚染。

= 参考文献 =

- 1) 朝比奈泰彦, 1927. 藓軒独語 (其十五). 植物研究雑誌, 4:82.
- 2) 朝比奈泰彦, 1934. 日本産セトラリア属地衣目録 (其一). 植物研究雑誌, 10: 414-423.
- 3) 朝比奈泰彦・佐藤正, 1939. 地衣類. 朝比奈泰彦監修日本隠花植物図鑑. 625pp. 三省堂, 東京.
- 4) Asahina, Y. 1957. Lichenologische Notizen (131-134). J. Jpn. Bot., 32:359-362.
- 5) Degelius, G. 1974. The lichen genus *Collema* with special reference to the extra-European species. Symbolae Bot. Upsaliensis, 20:1-215.
- 6) 井上正鉄, 1982. 地衣類ノート (1). ライケン, 4:2-3.
- 7) 環境省 (編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 9 植物II, 1-429. 自然環境センター, 東京.
- 8) Kurokawa, S. & Arakawa, S. 1997. Revision of Japanese species of *Myelochroa* (Parmeliaceae). Bull. Bot. Gard. Toyama, 2:23-43.
- 9) Kurokawa, S. and Kashiwadani, H. (ed.), 2006. Checklist of Japanese lichens and allied fungi. Nat. Sci. Mus. Monograph., No. 33. 1-157.
- 10) Moon, K. H., Kurokawa, S. & Kashiwadani, H. 2006. Revision of the lichen genus *Menegazzia* (Ascomycotina: Parmeliaceae) in Eastern Asia. J. Jpn. Bot., 81:127-138.
- 11) 西島 稔, 1933. 富山県地衣植物研究の一資料. 富山教育, (239):10-17.
- 12) 布万里子, 1958. ヨコワサルオガセの含有成分. 植物研究雑誌, 33:227-232.
- 13) Ohmura, Y. 2001. Taxonomic study on the genus *Usnea* in Japan and Taiwan. J. Hattori Bot. Lab., 90:1-96.
- 14) 佐藤正巳, 1939. 地衣類 ウメノキゴケ目 (I). 中井猛之進. 本田正次監修. 大日本植物誌, 34-35.
- 15) 佐藤正巳, 1941. 地衣類 ハナゴケ目 (I). 中井猛之進. 本田正次監修. 大日本植物誌, 27-30.
- 16) Wirtz, N., Printzen, C., Sancho, L., and Lumbsch, H.T. 2006. The phylogeny and classification of *Neuropogon* and *Usnea* (Parmeliaceae, Ascomycota) revisited. Taxon, 55 (2): 367-376.
- 17) Yoshimura, I. 1972. Lichenological notes 7. J. Hattori Bot. Lab., 36:497.
- 18) 吉村 庸, 1974. 原色日本地衣植物図鑑, 211pp. 保育社, 大阪.
- 19) 吉田孝造, 1979. 地衣類分布資料 (6). 植物研究雑誌, 54:300.

★ 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックとやま2012

6.12 菌類

6.12 菌類

(1) 県内の菌類相の概要

菌類フロアの調査は、欧米を除き地球レベルで全く不十分である。このような状況を踏まえ、今回は、調査がある程度進んでおり、比較的記録が集まっている菌類グループの高等菌類に焦点を絞り、本リストを作成した。日本においてはその高等菌類でさえも、ようやくその実数の約3分の1が目録化された段階である。富山県に産する高等菌類のフロア調査は始まったばかりであり、文献も非常に少ない。県内新産種は毎年数種発見されていることから考えて、現段階では県内の高等菌類フロアは十分に調査されているとは言いがたい。

富山県は暖温帯から冷温帯へ移行する地域にあたり、また南東部の山岳地帯には3,000メートルを越す高山が連なっている。このような気候および地形は菌類に多様な生育環境を与えており、自然林も広く残存しているので今後調査が進展すればより多くの種類が見つかるものと思われる。

(2) 選定の考え方

本来は県内に分布する全ての高等菌類の生育状況を分析し、各々の種について保護の必要性を論じるべきである。しかし、高等菌類においては、第一にフロア調査が不十分であるため、県内全域におけるほとんど全ての種について、現在の分布状況の把握ができていない。第二には、調査の歴史がほとんどなく、生育の消長変化などについて過去の分布状況と比較することが実質上不可能である。第三には、高等菌類は常に地上に子実体を出している種はほとんど無く、ある季節に偶然子実体を発生させて、かつ観察者がこれを発見した場合にのみ、その生育が知られることになる。このためある地点にその種が生育していると予想される場合でも、子実体が発生しこれを発見できなければ、生育を確認することが難しく、正確な生育の把握が極めて困難なグループである。以上3点の理由により、選定にあたっては他の生物グループと共通の評価基準を設定できたかは極めて疑問である。

高等菌類の生存を保護するためには、子実体の発生を保障するだけの菌糸の量が必要であり、その菌糸が成育し成長してゆくだけの環境が保障されなければならない。また菌糸の成長には、その種が生育すべき良好な自然環境が、ある程度広い面積にわたって残されている必要がある。

これに加え、人工的な開発や人間の生活様式の変化による森林の変化、カシノナガキクイムシによるブナ科樹木の喪失や、マツノザイセンチュウによるアカマツ林の喪失など、これらの生育環境が変化することによって影響される高等菌類も少なくないものと思われる。富山県も例外でなく、多くの高等菌類の生育が脅かされていることが予想され、その生育環境の保全に努める必要がある。そこで今回は、生育環境が大きく変化し易いものや、記録が少なくその生育の北限や南限に近いものを中心に、保護を要する種としてリストを選定した。

なお、掲載種の分布情報は、富山県中央植物園（TYM）に集められた標本に基づいている。

(3) 学名等

各カテゴリーの中には担子菌類（ハラタケ目、ヒダナシタケ目、腹菌類、キクラゲ類）、子のう菌類とし、科の配列と学名、和名は今関・本郷（1987・1989）に従った。同じ科においての配列は学名のアルファベット順とし、それぞれの種には和名のあとに所属する科を記した。種の記述は、種の特徴として形態や近似種との区別点、生態を概略し、分布や県内の状況、保護を要する要因についても述べた。

(4) 謝辞

掲載種の標本データについては、富山県中央植物園友の会きのご部会会員の皆様、頼成の森や有峰森林文化村などで行なわれたきのご観察会に参加された皆様、中央植物園へきのご相談で来園された皆様より、標本や情報をいただいた。心より感謝を表したい。

ホンシメジ (キシメジ科) *Lyophyllum shimeji* (Kawam.) Hongo

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

以前は県内各地の里山に見られるアカマツ・コナラを主体とする雑木林で発生していたが、燃料革命後はこの雑木林が荒廃したことや炭焼きの消失、土壌の富栄養化が進んだため、ほとんど発生が見られなくなっている。

形態

灰色を帯びた中型の子実体で、柄の基部が膨らんだ形のものが多く、俗に「だいきくしめじ」とも呼ばれる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部および南西部で標本が得られている。

生態・生育環境

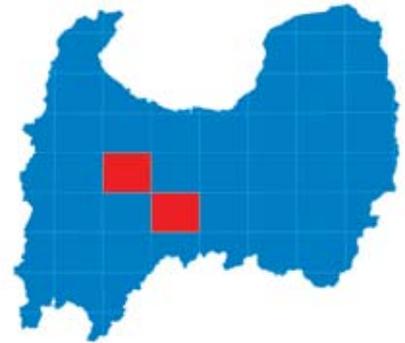
風通しの良い貧栄養土壌のアカマツ・コナラ林に、秋期発生する。

生存への脅威

手入れ不足によるアカマツ・コナラ林の荒廃、人間による採取圧。

保全対策

里山の整備など。



マツタケ (キシメジ科) *Tricholoma matsutake* (S. Ito et S. Imai) Singer

富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

以前は県内各地の里山に見られるアカマツ林で発生が見られたが、燃料革命後のアカマツ林の荒廃とマツノザイセンチュウによるマツ枯れ、さらに林床の落葉堆積物による土壌の富栄養化などが重なり、近年は非常に減少している。

形態

傘は黒褐色で、比較的肉質な子実体を作る。ケイ皮酸メチルやマツタケオール等による独特のマツタケ臭を持つ。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

県中央部や南東部。

生態・生育環境

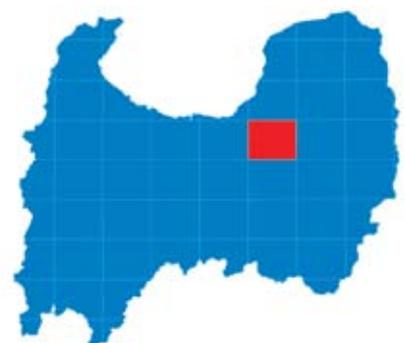
土中に養分の少ない比較的乾燥した場所にあるアカマツ林の地上に発生する。菌根を作る相手としてはアカマツである場合が多いが、県内では亜高山地域に見られるコメツガにも菌根を作っている可能性がある。

生存への脅威

マツノザイセンチュウによるマツ枯れ、アカマツ林の遷移、人間による採取圧。

保全対策

里山の整備など。



アカダマノオオタイマツ (スッポンタケ科) *Phallus rubicundus* (Bosc) Fr.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

環境変化が大きく不安定な要因を持つ砂浜上に発生するが、その発生も続けては観察ができていない。また発生記録も非常に少ない。

形態

菌蕾は、卵形～長楕円形、砂の中では白色だが空気に触れると速やかに赤味が出る。菌網はなく、形はスッポンタケに似るが、托は赤くて特に托上部は濃赤色～鮭肉色を示すことで他の類似種と区別できる。

国内の分布状況

本州（静岡県・富山県）。

県内の分布状況

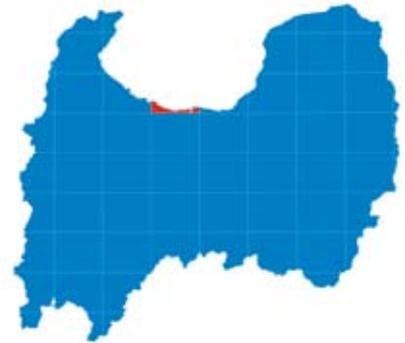
富山市北部。

生態・生育環境

コウボウムギなどの生える砂浜海岸に、夏から秋に発生する。

生存への脅威

コンクリート護岸建設による砂浜海岸の消失。



アラナミケシボウズタケ (ケシボウズタケ科) *Tulostoma fimbriatum* Fr.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：情報不足

選定理由

環境変化が大きく不安定な要因を持つ砂浜上に発生するが、その発生も続けては観察できない。この仲間の生態などは不明な点が多く、同じ場所に続けて見られないことが多い。

形態

径8mm程度の丸い頭部を砂上に露出して発生する。この頭部には約1～2cmの短い柄が付いている。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市東部、富山市北部3ヵ所で記録がある。

生態・生育環境

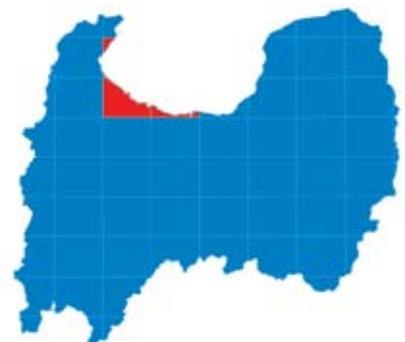
コウボウムギなどの生える海岸砂浜上に発生する。

生存への脅威

冬の寄り回り波などによって、生育地の砂浜そのものが消失する可能性がある。

保全対策

防波堤や防波テトラポットの設置。



ウネミケシボウズタケ (ケシボウズタケ科) *Tulostoma striatum* G.Cunn

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：情報不足

選定理由

環境変化が大きく不安定な要因を持つ砂浜上に発生するが、その発生も続けては観察できない。この仲間の生態などは不明な点が多く、同じ場所に続けて見られないことが多い。

形態

アラナミケシボウズタケと似ているが、本種は頭部の表皮が半ばまで平滑で、胞子には特徴的な^{うね}畝を持つことで区別できる。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

富山市北部1ヵ所で記録がある。

生態・生育環境

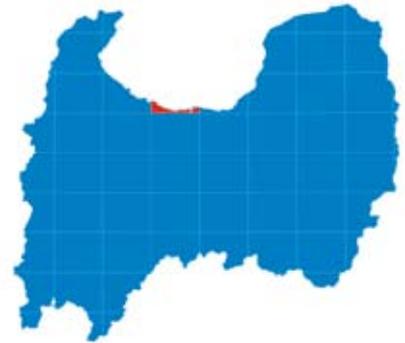
コウボウムギなどの生える海岸砂浜上に発生する。

生存への脅威

冬の寄り回り波などによって、生育地の砂浜そのものが消失する可能性がある。

保全対策

防波堤や防波テトラポットの設置。



スナヤマチャワンタケ (チャワンタケ科) *Peziza ammophila* Durieu & Mont.

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では1ヵ所から標本が得られているだけで、この発生環境は変化しやすい砂浜海岸の無植生帯であるため、容易に冬の波で消失しやすい。

形態

子実体は径2～8cmのロート状で、下部には菌糸で柱状に固まった砂の塊が見られる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

富山市北部1ヵ所で記録がある。

生態・生育環境

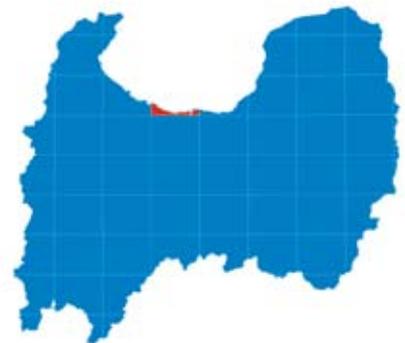
海岸砂浜の無植生帯に、晩秋～初冬に発生する。

生存への脅威

冬の寄り回り波などによって、生育地の砂浜そのものが消失する可能性がある。

保全対策

防波堤や防波テトラポットの設置。



ツバササクレシメジ (キシメジ科) *Tricholoma cingulatum* (Almfelt) Jacobsch富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

県内では1ヵ所でしか記録がなく、全国的にも記録は少ない。富山県の記録は国内では飛び離れた南西限にあたる。

形態

全体の色は灰白色で、古くなると薄い黄色を帯び、柄には綿毛状膜質のつばが見られる。

国内の分布状況

北海道、本州（青森県・岩手県・富山県）。

県内の分布状況

富山市南東部の1ヵ所。

生態・生育環境

晩秋にブナ帯のヤナギ類の樹下近く地上に発生する。

生存への脅威

発生地の改修など。

オドタケ (キシメジ科) *Clitocybula esculenta* Nagas. & Redhead富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

日本特産種で、県内では1ヵ所しか記録がない。全国的にも生育数は多くなく、富山県は現在知られている本種分布の最南限に当たる。

形態

子実体は中～小型でつばはなく、ブナ帯の広葉樹の枯れ木や大木の洞内に東生して発生する。

国内の分布状況

北海道、本州（青森県・栃木県・群馬県・長野県・富山県）。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

ブナ帯に見られる広葉樹大径木の洞などに秋に発生する。

生存への脅威

発生する大径木の減少や人間による採集圧（美味のため）などが考えられる。

イカタケ (アカカゴタケ科) *Aseroë arachnoidea* E. Fisch.富山県カテゴリー：準絶滅危惧
環境省カテゴリー：該当なし**選定理由**

県内では1ヵ所でしか記録がない。この仲間は熱帯・亜熱帯に分布の中心を持つものが多く、本種の富山県での記録は最北限記録（1924年、宮城県）に次ぐ北限記録である。

形態

幼菌は白色であるが、成熟すると裂開して8～16本の腕を持つ托を伸ばし、周囲に腐肉臭を放つ。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市西部。

生態・生育環境

モミ殻やウッドチップ上に、夏から晩秋に発生する。

生存への脅威

田畑で収穫後にモミ殻等を放置しなくなったことが考えられる。

ニカワウロコタケ (シワタケ科) *Gloeostereum incarnatum* S. Ito et S. Imai

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

日本特産種で、分布は北日本に偏り、富山県は本種の分布のほぼ南限に位置する。

形態

傘は半円状～扇状、表面はうす茶色で微毛に覆われる。硬質菌類の仲間であるが、子実体は弾力のあるゼラチン質で、乾くと軟骨質になる。

国内の分布状況

北海道、本州（青森県・岩手県・宮城県・新潟県・栃木県・長野県・石川県・富山県）。

県内の分布状況

富山市南東部の1ヵ所。

生態・生育環境

広葉樹、特にニレ科の樹木の枯れ木や倒木、落枝上に秋期に発生する。

生存への脅威

自然度の高いブナ帯の樹木伐採等。

コカンバタケ (サルノコシカケ科) *Piptoporus quercinus* (Schrاد.:Fr) P. Karst.

富山県カテゴリ：準絶滅危惧
環境省カテゴリ：該当なし

選定理由

県内では1ヵ所でしか確認されておらず、その翌年から発生が見られない。全国的にも採集例の少ない種で、環境省（2007）では準絶滅危惧種にランクされている。

形態

サルノコシカケ型の子実体で、広葉樹の倒木上等に発生し、短い柄がある。肉質はやや柔らかく、触るとゆるやかに赤褐色に変色する。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市南東部の1ヵ所で記録。

生態・生育環境

ミズナラなど広葉樹の倒木や落枝上に、夏～秋に発生する。

生存への脅威

自然度の高いブナ帯の樹木伐採等。

バカマツタケ (キシメジ科) *Tricholoma bakamatsutake* Hongo

富山県カテゴリ：情報不足
環境省カテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では1ヵ所で標本が得られているに過ぎず、里山に見られるアカマツ・コナラを主体とする雑木林に生育すると思われるが、この雑木林は燃料革命後に荒廃したことや土壌の富栄養化が進んだため、生育可能な林が激減している。

形態

マツタケに似るが、より小型で強いマツタケ臭がある。ニセマツタケにも似るが、ニセマツタケはマツタケ臭が弱く、全体が黄褐色を帯びることで本種と区別される。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

県中央部。

生態・生育環境

明るく風通しのよいコナラ林に、秋期発生する。

生存への脅威

森林の荒廃、ナラ枯れ、人間の採取圧。

保全対策

里山の整備など。

ニセマツタケ (キシメジ科) *Tricholoma fulvocastaneum* Hongo

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内各地の里山に見られるアカマツ・コナラを主体とする雑木林が生育地であるが、この雑木林は燃料革命後に荒廃したことや土壌の富栄養化が進んだため、生育可能な林は減少している。また人間の採集圧も大きい。

形態

マツタケに似るが、マツタケ臭はほとんどないか薄い、傘は黄褐色が強い。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

県内のアカマツ・コナラ林。

生態・生育環境

発生はマツタケより約1ヶ月早く、明るく風通しのよいコナラ林で見られる。

生存への脅威

コナラ林の荒廃、ナラ枯れ、人間の採取圧。

保全対策

里山の整備など。

特記事項

富山県内では「さまつ」と呼ばれてきのこ狩の対象になっている。

シロマツタケモドキ (キシメジ科) *Tricholoma radicans* Hongo

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では2ヵ所で標本が得られているのみで記録は少ない。肉質で食用に適するため、人間の採集圧もある。

県内各地の里山に見られるアカマツ・コナラを主体とする雑木林が生育地と思われるが、この雑木林は燃料革命後に荒廃したことや土壌の富栄養化が進んだため、生育可能な林が失われつつある。

形態

きのこは小型～中型、ほぼ白色で、柄にはささくれが認められる。時に弱いマツタケ臭を持つと言われるが、県内産のものは香りが認められない。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

魚津市、上市町。

生態・生育環境

明るく風通しのよいコナラ林に、秋期に発生する。

生存への脅威

コナラ林の荒廃、ナラ枯れ、人間の採取圧。

チャオニテングタケ (テングタケ科) *Amanita sculpta* Corner & Bas

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では3ヵ所の標本が知られるのみ。暖温帯のブナ科樹木の林に分布することから、北陸地域は本種分布の北限に近い。

形態

中型のテングタケ属菌で、傘の表面には茶色をした外皮の破片が多数見られる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市、砺波市、上市町。

生態・生育環境

リターが厚く溜まっていないアカマツ・コナラ林に、夏～秋期に発生する。

生存への脅威

ナラ枯れ、コナラ林の荒廃。

キノオオフクロタケ (ウラボニガサ科) *Volvariella bombycina* (Schaeff. : Fr.) Singer

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

県内では1ヵ所で記録されたが、その後9年間記録がない。全国的にも記録は少ない。

形態

腐朽した倒木上に発生し、傘表面は淡黄白色で絹糸状の密毛で覆われており、柄の基部には黄褐色の大きな袋状のつぼが見られる。

国内の分布状況

北海道、本州、九州。

県内の分布状況

富山市中部（現在は見られない）。

生態・生育環境

腐朽した広葉樹の倒木や落枝に、夏～秋に発生する。

生存への脅威

本種の生育条件等がわからないため不明。

クロカワ (イボタケ科) *Boletopsis leucomelas* (Pers. : Fr.) Fayod

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

県内では1ヵ所で発生が確認されている。食用きのことして人気が高く、人間の採取圧が高い。

形態

地面にかぶさるように黒色をした傘を広げる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南東部。

生態・生育環境

腐植物のあまり溜まっていない広葉樹林の地上に、秋期に発生する。

生存への脅威

人間の採取圧。

アセハリタケ (エゾハリタケ科) *Climacodon pulcherrimus* (Berk. & M.A. Curtis) Nikol.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では2ヵ所で確認されているが、全国的には記録が少ない。

形態

広葉樹の倒木や落枝上に半円形の子実体^{しじつたい}を発生させる。傘表面は淡黄色の粗毛に覆われる。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市中部。

生態・生育環境

広葉樹の倒木や落枝上に、夏～秋期に発生する。

生存への脅威

雑木林の植林化。

ウズタケ (タバコウロコタケ科) *Coltricia montagnei* (Berk. : Fr.) Murrill

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では比較的暖かい西部の1ヵ所でしか記録がない。

形態

黄褐色の子実体は土やリター上に発生し、同心円状のひだを持つことから容易に他種と区別できる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

氷見市西部。

生態・生育環境

シイ・カシ林の地上に、夏～秋期に発生する。

生存への脅威

シイ・カシ林の減少と林の荒廃。

マクラタケ (タバコウロコタケ科) *Inonotus dryadeus* (Pers. : Fr.) Murrill

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では樹林地2ヵ所の広葉樹大径木でしか記録されていない。全国的にも採集記録は少ない。

形態

ミズナラや常緑性カシ類などの大径木幹上に、半円形の子実体を発生させる。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

氷見市西部、富山市南東部。

生態・生育環境

広葉樹大径木の幹上に、夏～秋期に発生する。

生存への脅威

一部腐朽した広葉樹大径木の減少。

コフキクロツチガキ (ヒメツチグリ科) *Geastrum pectinatum* Pers.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では1ヵ所で確認されていたが、発生地の改修工事以降は発生が見られない。また全国的にも発生記録は多くない。

形態

成熟時には外皮は裂開して反転する。内皮に包まれる頭部は青鉛色で、下部には短い柄がある。また頭部の上に見られる孔縁盤は細長い。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

富山市中部。

生態・生育環境

針葉樹のリター上に、秋期に発生する。

生存への脅威

本種の生育条件等がわからないため不明。

タマノウタケ (ホコリタケ科) *Calvatia fragilis* (Vitt.) Morgan

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では3ヵ所で記録があるが、全国的には少ない。県下に広がるナラ枯れの影響で、今後の減少が予想される。

形態

落葉性のコナラ属の枯れ木上に、径4～10cmの類球形～扁球形をした子実体を発生させる。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市南東部および西部、南砺市南部。

生態・生育環境

ミズナラやコナラの立ち枯れ幹上や倒木上に、秋期に発生する。

生存への脅威

ナラ枯れによる落葉性コナラ属樹木の減少。

コウボウフデ (ツチダンゴ科) *Pseudotulostoma japonicum* (Kawam.) I.Asai, H. Sato & Nara

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内では数ヵ所で確認されているが、いずれもここ2年間は発生が確認されていない。日本特産種であり全国的にも記録が少ない。

形態

幼菌は黄白色の長卵形で、成熟すると青灰色をした胞子塊をつけた柄が突き出してくる。

国内の分布状況

本州、九州。

県内の分布状況

富山市南西部、上市町。

生態・生育環境

風通しの良いが湿り気のあるアカマツ・コナラ林に、秋期発生する。

生存への脅威

アカマツ・コナラ林の荒廃。

クルミタケ (セイヨウシヨウ科) *Hydnotrya tulasnei* (Berk.) Berk. & Broome

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では1ヵ所で確認されているものの、ここ2年間は発生が見られない。また全国的にも発生地は限られており記録は少ない。

形態

比較的植生の安定した庭園や社寺林の湿った斜面上に、半ば土に埋もれて塊状～球状の子実体を発生させる。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

射水市北部。

生態・生育環境

シイやカエデ類の樹下で、コケの生えるような斜面の土に半分埋もれて、夏～秋期に発生する。

生存への脅威

樹木の伐採、生育地の改修工事、環境の変化。

トガリフカアミガサタケ (アミガサタケ科) *Morchella patula* Pers. : Fr.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：情報不足

選定理由

県内で1ヵ所確認されたものの、ここ数年発生が見られず、全国的にも発生記録が少ない。

形態

アミガサタケに似るが、頭部は円錐形で柄と一部が離れる帽状型である。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

射水市北部。

生態・生育環境

道端などに、春期に発生する。

生存への脅威

生育地の改修工事。

マイヅルナガエムシタケ (バツカクキン科) *Cordyceps* sp.

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

国内でも3県でしか記録がない冬虫夏草の一種で、いずれの場所も継続的な発生が見られない。

形態

コガネムシ類の幼虫に寄生し、殺した虫体より黄褐色で棒状の子実体を発生させる。

国内の分布状況

本州（京都府・石川県・富山県）。

県内の分布状況

射水市南部、砺波市東部で記録。

生態・生育環境

湿り気のある山道の道端で埋もれたコガネムシ類の幼虫から、初夏～初秋に発生する。

生存への脅威

生育地の改修工事。

スッポンヤドリタケ (ニクザキン科) *Podostroma solmsii* (E. Fisch.) S. Imai f. *octospora* Yoshim. Doi

富山県カテゴリー：情報不足
環境省カテゴリー：該当なし

選定理由

菌類の子実体上に寄生する菌類で、県内では2ヵ所で記録があるが、全国的にも採集例が少ない。

形態

スッポンタケの丸い幼菌（菌蕾）に寄生し、この上に指状をした子実体を発生させる。近似種にはキヌガサタケの菌蕾から発生するキヌガサヤドリタケがある。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

富山市中部、砺波市東部。

生態・生育環境

発生地は湿り気のあるタケ林や広葉樹林内などで、ここに見られるスッポンタケの幼菌（菌蕾）上に、秋期に発生する。

生存への脅威

林地の開発。

= 参考文献 =

- 1) 浅井郁夫, 2004. 日本産 *Tulostoma striatum* について. 日本菌学会会報, 45 : 11-13.
- 2) 糟谷大河・竹橋誠司・山上公人, 2007. 日本から再発見された3種のスッポンタケ属菌. 日本菌学会会報, 48 : 44-56.
- 3) 橋屋誠, 2003. 富山県高等菌類資料 (1). 富山県中央植物園研究報告, 8 : 71-77.
- 4) 橋屋誠, 2004. 富山県高等菌類資料 (2). 富山県中央植物園研究報告, 9 : 65-71.
- 5) 橋屋誠, 2005. 富山県高等菌類資料 (3). 富山県中央植物園研究報告, 10 : 65-68.
- 6) 橋屋誠, 2006. 富山県高等菌類資料 (4). 富山県中央植物園研究報告, 11 : 65-72.
- 7) 橋屋誠, 2007. 富山県高等菌類資料 (5). 富山県中央植物園研究報告, 12 : 77-81.
- 8) 橋屋誠, 2008. 富山県高等菌類資料 (6). 富山県中央植物園研究報告, 13 : 63-66.
- 9) 橋屋誠, 2009. 富山県高等菌類資料 (7). 富山県中央植物園研究報告, 14 : 73-80.
- 10) 橋屋誠, 2010. 富山県高等菌類資料 (8). 富山県中央植物園研究報告, 15 : 88-93.
- 11) 橋屋誠, 2011. 富山県高等菌類資料 (9). 富山県中央植物園研究報告, 16 : 65-72.
- 12) 池田良幸, 2005. 北陸のきのこ図鑑. 394pp. 橋本確文堂, 金沢.
- 13) 今関六也・本郷次雄, 1987. 原色日本新菌類図鑑 (I). 623pp. 保育社, 大阪.
- 14) 今関六也・本郷次雄, 1989. 原色日本新菌類図鑑 (II). 315pp. 保育社, 大阪.
- 15) 環境省, 2007. 植物IIレッドリスト (菌類). 環境庁, 東京.
- 16) 工藤伸一・長沢栄史, 1998. 日本新産種 *Tricholoma cingulatum* (ツバササクレシメジ—新称) について. Rept. Tottori Mycol. Inst., 36 : 16-20.
- 17) 伊藤誠哉, 1955. 日本菌類誌 第二巻第四号. 450pp. 養賢堂, 東京.
- 18) 城川四郎, 1996. 猿の腰掛け類きのこ図鑑. 207pp. 地球社, 東京.
- 19) 青森県, 2006. 青森県の希少な野生生物—青森県レッドリスト (2006年 改訂増補版—). 113pp. 青森県, 青森.
- 20) 栃木県, 2002. とちぎの変形菌類・菌類・地衣類・藻類・蘚苔類. pp.43-170. 栃木県, 宇都宮.
- 21) 沖野登美雄・小林真吾, 2003. 高等菌類. In 愛媛県貴重野生動植物検討委員会. 愛媛県レッドデータブック. pp.411-435. 岡田印刷, 松山.
- 22) 沖野登美雄, 1999. 愛媛県のキノコ図鑑. 253pp. 愛媛新聞社, 松山.
- 23) 三重県環境森林部自然環境室, 2006. 三重県レッドデータブック 2005 植物・キノコ. 534pp. (財)三重県環境保全事業団, 津.
- 24) 埼玉県立自然史博物館, 1999. 埼玉県立自然史博物館収蔵資料目録第12集 きのこ類 (1). 87pp. 埼玉県立自然史博物館, 長瀨.
- 25) 埼玉県, 1998. さいたまレッドデータブック. 411pp. 埼玉県, 浦和.
- 26) 長野県環境保全研究所・他, 2005. 長野県版レッドデータブック 非維管束植物・植物群落編. 205pp. 長野県環境保全研究所, 長野.
- 27) 平塚市博物館, 1997. キノコ類標本目録 (平塚市博物館資料 46). 148pp. 平塚市博物館, 平塚.
- 28) 西田靖子, 2005. 熊本きのこ会コレクションきのこ乾燥標本目録—2002年～2004年採集分. 熊本博物館館報, 17 : 77-113.

7. 特定植物群落

特定植物群落は、自然環境保全法に示されている自然環境の保全のために必要な基礎調査の一環として選定した群落である。ここに載せた特定植物群落は、第5回自然環境保全基礎調査（平成9年度）に基づいて選定した特定植物群落の一覧である。選定基準は次の通りである。

表 7.1 特定植物群落選定基準

A	原生林もしくはそれに近い自然林 (特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること)
B	国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの(特に湿原についてはもれのないように注意すること)
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの(武蔵野の雑木林、社寺林等)
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群

生物の多様性の保全には、種レベルとともにその上位の群落、生態系レベルの視点が大切である。種は群落を構成する要素であり、群落は種の総体として存在し、両者は一体不離の関係にある。植物群落は、それを構成する植物種はもちろんのこと、土壌生物、昆虫、鳥類などの多くの動物に棲み場を提供し、全体として生態系システムを確立している。したがって植物群落は、生物多様性の確保の上から見ても重要な意味をもっている。また植物群落は、その地域の自然の潜在能力を指標するとともに、自然に関する多様な情報を温存し内包しており、学術的にも大きな意味がある。

特定植物群落は、こうした観点から特に重要と考えられる群落を上記の選定基準にしたがって選定したもので『富山県自然環境指針』では植生自然度10及び9とともに評価Vにランクされている。評価Vは、「厳正に保全を要する植物分布地」で、その指針を「全国的にも貴重な原生林や学術的な価値が極めて高い植生を含む地域であるので、これらの植生の改変を伴う事業は原則として行わないこととする。公益上必要とされる事業の実施についても、自然環境の保全のための調査等を行い、これらの植生が厳正に保全さ

表 7.2 特定植物群落一覧 (1)

対象 番号	件 名	旧市町村名	選定理由
1	宮崎鹿島樹叢の天然林	朝日町	A
2	負釣山のアカミノイヌツゲ群落	朝日町	A, H
3	イブリ山ブナ平のブナ群落	朝日町	A
4	夕日ヶ原のミヤマドジョウツナギ～オクヤマワラビ群落	朝日町	D, H
5	朝日岳のオオシラビソ群落	朝日町	A, D
6	朝日岳のタテヤマキンバイ群落	朝日町	D
7	朝日岳のカラクサイノデ～ベニバナイチゴ群落	朝日町	D
8	朝日岳のハクサンオオバコ群落	朝日町	D, H
9	雪倉岳のウルップソウ群落	朝日町	C, D
10	雪倉岳のオヤマソバ群落	朝日町	D
11	雪倉岳のミヤマムラサキ群落	朝日町	D
12	雪倉岳のムカゴトラノオ群落	朝日町	D
13	雪倉岳のクモマミミナグサ～コバノツメクサ群落	朝日町	B, C
14	鉢岳のチョウノスケソウ群落	朝日町	B, C
15	鉢岳のコマクサ群落	朝日町	C, D
16	白馬岳のクロマメノキ群落	朝日町	D
17	白馬岳のツガザクラ群落	朝日町	D
18	白馬岳のツクモグサ群落	朝日町	C, D
19	白馬岳のイワベンケイソウ～オヤマノエンドウ群落	朝日町	D
20	白馬岳のウルップソウ群落	朝日町	C, D
21	入善の杉沢のサワスギ群落	入善町	B
23	下山の宮のウラジロガシ群落	入善町	A
25	愛本のアカマツ～ユキツバキ群落	宇奈月町	G
26	愛本のウラジロガシ群落	宇奈月町	A
27	内山のアカシデ群落	宇奈月町	A
28	(秘) のウラジロガシ群落	-	A
29	僧ヶ岳のユキツバキ群落	宇奈月町	E
30	宇奈月のトチノキ群落	宇奈月町	E
31	僧ヶ岳のタテヤマスゲ群落	宇奈月町	C
32	僧ヶ岳の風衝植生	宇奈月町	C
33	黒薙川のツガ群落	宇奈月町	A
34	黒薙川のサワグルミ群落	宇奈月町	E
35	清水岳のナンキンコザクラ群落	宇奈月町	B, C
36	清水岳のコマクサ群落	宇奈月町	D
37	清水岳のクモマミミナグサ～コバノツメクサ群落	宇奈月町	B, C

22、24、114、124、138、148、149、169 は群落の消失等により削除

表 7.2 特定植物群落一覧 (2)

対象 番号	件 名	旧市町村名	選定理由
38	旭岳のシコタンソウ群落	宇奈月町	B, C
39	旭岳のミヤマクワガタ～ウラジロタデ群落	宇奈月町	D
40	旭岳のジムカデ～イワヒゲ群落	宇奈月町	D
41	白馬鑪のツクモグサ群落	宇奈月町	D
42	白馬鑪のミヤマタネツケバナ群落	宇奈月町	D
43	白馬鑪のハゴロモグサ群落	宇奈月町	C, D
44	白馬鑪のアオチャセンシダ群落	宇奈月町	B, C
45	猿飛のツガ群落	宇奈月町	A
46	樺平のケヤキ群落	宇奈月町	A, G
47	祖母谷のツガ群落	宇奈月町	A
48	餓鬼の田圃のヤチスゲ群落	宇奈月町	B
49	天狗川のレンゲイワヤナギ群落	宇奈月町	B, D
50	黒部川のオランダガラシ群落	黒部市	D
51	窪野のアベマキ群落	黒部市	F
52	片貝谷池尻の池のミズバショウ群落	魚津市	H
53	東福寺のミズナラ群落	滑川市	H
54	大岩大松のウラジロガシ群落	上市町	A
55	流水池のヤチダモ群落	上市町	B
56	つぶら池浮島の植物群落	上市町	D, H
57	剣岳のシコタンソウ～シコタンハコベ群落	上市町	D
58	美女平のスギ群落	立山町	A
59	上の小平のクロベ群落	立山町	A
60	上の小平のスギ群落	立山町	A
61	上の小平のキタゴヨウ群落	立山町	A
62	水谷のドロノキ群落	立山町	H
63	弥陀ヶ原のハッコウダゴヨウ～オオコメツツジ群落	立山町	B
64	弥陀ヶ原の池塘の植物群落 (シヨウジョウキスゲ、ヌマガヤ、ミヤマイヌノハイスゲ群落)	立山町	D
65	畜生平の池塘の植物群落 (ヤチカワズスゲ群落)	立山町	D
66	奥大日岳のミヤマハンノキ～アオノツガザクラ群落	立山町	D
67	みくりが池のミヤマネズ群落	立山町	D
68	真砂谷のアオノツガザクラ群落	立山町	D
69	内蔵助沢のタカネヤハズハハコ～アオノツガザクラ群落	立山町	D
70	真砂岳のミヤマクワガタ～ウラジロタデ群落	立山町	D
71	浄土沢のミヤマイ～ヒロハノコメスキ群落	立山町	D

22、24、114、124、138、148、149、169 は群落の消失等により削除

表 7.2 特定植物群落一覧 (3)

対象 番号	件 名	旧市町村名	選定理由
72	一の越のタテヤマキンバイ群落	立山町	B
73	一の越のチョウノスケソウ群落	立山町	B
74	浄土山のタテヤマアザミ～ホソバトリカブト群落	立山町	D
75	白樺平のシラカバ群落	大山町	C, G
76	折立峠のオオイタドリ群落	大山町	C, H
77	有峰のシラカバ群落	大山町	C
78	有峰のクロベ群落	大山町	A
79	折立～太郎兵衛平のオオシラビソ群落	大山町	A
80	折立～太郎兵衛平のクロベ群落	大山町	A
81	折立～太郎兵衛平のヒメシクナゲ群落	大山町	C
82	薬師岳のコメバツガザクラ～ミネズオウ群落	大山町	D
83	太郎山のミヤマタネツケバナ群落	大山町	D
84	薬師沢のウラジロモミ群落	大山町	A, C
85	祖父沢のオオバヤナギ群落	大山町	C
86	立山カルデラ、多枝原のオオバヤナギ群落	大山町	C
87	高天原のカラマツ群落	大山町	D
88	高天原のダケスゲ群落	大山町	D
89	水晶岳のチョウノスケソウ群落	大山町	B
90	水晶岳のクモマグサ群落	大山町	B
91	水晶岳のイワウメ群落	大山町	D
92	浜黒崎のクロマツ群落	富山市	F
93	寺家公園のアカガシ群落	大沢野町	A
94	猿倉山の乾性植物群落	大沢野町	D
95	神通川片路峡のウラジロガシ群落	大沢野町	A
96	神通峡のサツキ群落	細入村	C
97	片掛八坂神社のアカシデ群落	細入村	H
98	楡原八幡社のハルニレ群落	細入村	B, H
99	蟹寺白山社のアサダ群落	細入村	H
100	西加賀沢自然林のアサダ群落	細入村	A
101	日尾御前自然林のスギ群落	八尾町	A
102	白木峰の池塘の植物群落	八尾町	D
103	小白木峰のヒメシクナゲ群落	八尾町	C, D
104	常楽寺のウラジロガシ群落	婦中町	A
105	下条日の宮神社のアカシデ群落	小杉町	A
106	利賀中村のミズゴケ群落 (ヤマドリゼンマイ～オオミズゴケ群落)	利賀村	D

22、24、114、124、138、148、149、169 は群落の消失等により削除

表 7.2 特定植物群落一覧 (4)

対象番号	件名	旧市町村名	選定理由
107	利賀上百瀬のフジアザミ群落	利賀村	C, D
108	利賀山の神峠のブナ群落	利賀村	A
109	利賀山の神峠のトチノキ群落	利賀村	A
110	猫池の浮島の植物群落	平村	D
111	相の倉のブナ群落	平村	A
112	細島のサワグルミ群落	上平村	E
113	葎島のヒノキ群落	上平村	C
115	赤祖父山自然林のブナ群落	井口村	A
116	縄ヶ池のミズバショウ群落	城端村	D
117	高落葉山のブナ群落	城端村	A
118	医王山のミズナラ群落	福光町	E
119	安居のアベマキ群落	福野町	E
120	興法寺の湿性植物	小矢部市	D
121	倶利伽羅峠のアカシデ群落	小矢部市	E
122	五十里のタコノアシ群落	高岡市	D
123	島尾の海浜植物群落	氷見市	D
125	十二町瀉のオニバス群落	氷見市	D
126	阿尾城趾のタブ～イノデ群落	氷見市	A
127	大境のコモチシダ群落	氷見市	D, H
128	脇方のスタジイ～ヤブコウジ群落	氷見市	A
129	泊神神社のスタジイ～ヤブコウジ群落	氷見市	A
130	小境朝日神社のスタジイ群落	氷見市	A
131	小境夕日神社のヤブニッケイ群	氷見市	A
132	大境のマサキ～トベラ群落	氷見市	D, H
133	虻ヶ島の暖地性植物	氷見市	C, H
134	中波火神社のスタジイ～ヤブコウジ群落	氷見市	A
135	磯部神社のユズリハ群落	氷見市	A
136	戸津宮の父宮神社のモミ群落	氷見市	E
137	僧ヶ岳の石灰岩植物群落	宇奈月町	B, D
139	ブナ坂のブナ群落	立山町	A, E
140	美松坂のオオシラビソ群落	立山町	A, E
141	みくりが池のハイマツ群落	立山町	A, E
142	立山カルデラ泥鱒池のオノエヤナギ群落	立山町	A
143	野口五郎岳（三ッ岳）のコマクサ群落	大山町	A, B, C
144	東沢谷出合のオオシラビソ群落	大山町	A

22、24、114、124、138、148、149、169 は群落の消失等により削除

表 7.2 特定植物群落一覧 (5)

対象 番号	件 名	旧市町村名	選定理由
145	祐延湖の湿性植物群落	大山町	D
146	東笠山の湿性、風衝植物群落	大山町	A, D
147	山本熊野社のユズリハ群落	富山市	A
150	深谷の湿性植物群落	八尾町	D
151	夫婦山のアシオスギ群落	八尾町	A
152	布谷のイワタバコ群落	八尾町	B, D
153	祖父岳のアシオスギ群落	八尾町	A
154	牛岳のブナ群落	庄川町	A
155	牛岳神社のウラジロガシ群落	山田村	A
156	鍋谷のアカシデ群落	山田村	A
157	水無平の湿性植物群落	利賀村	D
158	縄ヶ池のアシオスギ群落	城端村	A
159	上梨のブナ群落	平村	A
160	田向のミズナラ(カツラ)群落	平村	A
161	人形山のサラサドウダン風衝低木群落	平村	A
162	小瀬池の平の湿地植物群落	上平村	D
163	西赤尾のブナ群落	上平村	A
164	大獅子山のヒノキ群落	上平村	A
165	ブナオ峠のサワグルミ群落	福光町	A
166	ブナオ峠のヤマハンノキ群落	福光町	A
167	小白谷のブナ群落	小矢部市	A, E
168	俱利伽羅峠猿ヶ馬場のブナ群落	小矢部市	A, E
170	二上山のブナ群落	高岡市	A
171	三千坊山のアカガシ群落	氷見市	A
172	森寺城址のイヌシデ群落	氷見市	A
173	庄川のサイカチ群落	庄川町	D
174	松倉のミツガシワ群落	魚津市	D, G, H
175	乱橋のウキヤガラ群落	氷見市	D, G
176	氷見八代のイヌシデ群落	氷見市	A
177	氷見堀田のガガブタ群落	氷見市	H
178	御田神社のスタジイ群落	氷見市	C

22、24、114、124、138、148、149、169 は群落の消失等により削除

8 レッドデータブックとやま改訂のための検討委員会の名簿

(敬称略 50音順 2012年3月現在)

氏名	所属等	備考
太田 道人	富山市科学博物館主幹学芸員	
田中 晋	富山大学名誉教授	委員長
布村 昇	元富山市科学博物館長	
根来 尚	富山市科学博物館長	
福田 保	富山県立富山東高等学校教頭	
山本 茂行	(公財) 富山市ファミリーパーク公社園長	
湯浅 純孝	富山県自然博物館ねいの里館長	

9 レッドデータブック作成委員の名簿

【哺乳類】

(敬称略 50音順 2012年3月現在)

氏名	所属等	チーフ
赤座 久明	富山県立八尾高等学校教頭	
白石 俊明	(公財) 富山市ファミリーパーク公社	
村井 仁志	(公財) 富山市ファミリーパーク公社	
横畑 泰志	富山大学大学院理工学研究部准教授	○

【鳥類】

氏名	所属等	チーフ
尾家 輝保	(公財) 日本鳥類保護連盟富山県支部	
中田 達哉	(公財) 日本鳥類保護連盟富山県支部	
間宮 寿頼	(公財) 日本鳥類保護連盟富山県支部	
山口由紀子	(公財) 日本鳥類保護連盟富山県支部	
山田 一昭	(公財) 日本鳥類保護連盟富山県支部	
湯浅 純孝	(公財) 日本鳥類保護連盟富山県支部	○
湯浅 輝久	(公財) 日本鳥類保護連盟富山県支部	

【爬虫類・両生類】

氏名	所属等	チーフ
荒木 克昌	富山県動物生態研究会	
加藤 智樹	富山県動物生態研究会	
後藤 優介	立山カルデラ砂防博物館	
小林 周一	富山県動物生態研究会	
澤田 裕太	富山県動物生態研究会	
中藪 俊二	高岡龍谷高等学校	
南部 久男	富山市科学博物館	○
西岡 満	富山県動物生態研究会	
福田 保	富山県立富山東高等学校	
森 大輔	(公財) 富山市ファミリーパーク公社	

【淡水魚類】

氏名	所属等	チーフ
稲村 修	魚津水族館長	
田中 晋	富山大学名誉教授	○
西尾 正輝	氷見市教育委員会学芸員	
不破 光大	魚津水族館	
山崎 裕治	富山大学大学院理工学研究部准教授	

【昆虫類】

氏名	所属等	チーフ
北村征三郎	富山県昆虫同好会	
澤田 昭芳	富山県昆虫同好会	
常楽 武男	富山県昆虫同好会	○
中居 昭信	富山県昆虫同好会	
中川 秀幸	富山県昆虫同好会	
根来 尚	富山市科学博物館長	
野村 孝昭	富山県昆虫同好会	
二橋 弘之	日本トンボ学会	
二橋 亮	日本トンボ学会	
水野 透	富山県昆虫同好会	
宮原 真樹	富山県昆虫同好会	
山内 健生	富山県昆虫同好会	
山口 英夫	越中むしの会	
渡辺 護	富山県昆虫同好会	

【軟体動物（淡水産・陸産貝類）】

氏名	所属等	チーフ
高山 茂樹	魚津市教育委員会生涯学習・スポーツ課課長代理兼文化係長	○
瀧口 景子	氷見市海浜植物園職員	
布村 昇	元富山市科学博物館長	
宮本 望	富山県貝類同好会会長	
邑本 順亮	富山県貝類同好会会員	

【甲殻類】

氏名	所属等	チーフ
布村 昇	元富山市科学博物館長	○

【維管束植物】

氏名	所属等	チーフ
石澤 岩央	富山県庁	
石須 秀知	魚津埋没林博物館管理係長	
泉 治夫	富山県自然解説員・富山県ナチュラリスト協会顧問	
太田 道人	富山市科学博物館主幹学芸員	○
大原 隆明	富山県中央植物園主任	
長井 幸雄	高岡龍谷高校非常勤講師・富山県立大学非常勤講師	
中田 政司	富山県中央植物園主幹研究員	
三浦 憲人	富山市科学博物館嘱託	
山下 寿之	富山県中央植物園副主幹研究員	

【蘚苔類】

氏名	所属等	チーフ
坂井奈緒子	富山市科学博物館主査学芸員	○

【地衣類】

氏名	所属等	チーフ
柏谷 博之	国立科学博物館名誉研究員	○
中田 政司	富山県中央植物園主幹研究員	

【菌類】

氏名	所属等	チーフ
橋屋 誠	富山県中央植物園副主幹	○

和名索引

動物索引

哺乳類

アズミトガリネズミ (トガリネズミ科) II類	22
オオカミ (イヌ科) 絶滅	21
オコジヨ (イタチ科) 準絶	28
カワネズミ (トガリネズミ科) II類	22
カグヤコウモリ (ヒナコウモリ科) 準絶	24
カヤネズミ (ネズミ科) 準絶	27
クビワコウモリ (ヒナコウモリ科) II類	23
コテングコウモリ (ヒナコウモリ科) 準絶	26
ニホンカワウソ (イタチ科) 絶滅	21
ニホンモモンガ (リス科) 準絶	26
ノレンコウモリ (ヒナコウモリ科) 準絶	25
ヒナコウモリ (ヒナコウモリ科) 不足	28
ヒメホオヒゲコウモリ (ヒナコウモリ科) 準絶	24
ミズラモグラ (モグラ科) 準絶	23
モリアブラコウモリ (ヒナコウモリ科) 不足	28
ヤマコウモリ (ヒナコウモリ科) 準絶	25
ヤマネ (ヤマネ科) 準絶	27

鳥類

アオバズク (フクロウ科) II類	54
アカショウビン (カワセミ科) 準絶	66
アカモズ (モズ科) I類	47
アジサシ (カモメ科) 不足	71
イカルチドリ (チドリ科) 準絶	63
イソシギ (シギ科) 準絶	64
イスワシ (タカ科) I類	43
ウズラ (キジ科) 不足	70
ウミアイサ (カモ科) 準絶	60
ウミウ (ウ科) 不足	70
ウミガラス (ウミスズメ科) 不足	71
ウミスズメ (ウミスズメ科) 不足	72
オオコノハズク (フクロウ科) 準絶	65
オオジシギ (シギ科) 不足	71
オオタカ (タカ科) II類	52
オオハクチョウ (カモ科) 準絶	56
オオヨシゴイ (サギ科) 不足	70
オオワシ (タカ科) II類	51
オジロワシ (タカ科) II類	51
カササギ (カラス科) 不足	74
カワセミ (カワセミ科) 準絶	66
カンムリウミスズメ (ウミスズメ科) 不足	72
キバシリ (キバシリ科) 不足	74
クイナ (クイナ科) II類	53
クマタカ (タカ科) I類	42
クロサギ (サギ科) I類	41
クロツラヘラサギ (トキ科) I類	41
ケリ (チドリ科) 準絶	64
コアジサシ (カモメ科) I類	46
コクガン (カモ科) II類	48
コサメビタキ (ヒタキ科) 準絶	67
コシアカツバメ (ツバメ科) 不足	73
コジュリン (ホオジロ科) 不足	74
コチドリ (チドリ科) 準絶	62
ササゴイ (サギ科) 準絶	55
サシバ (タカ科) I類	42
サンカノゴイ (サギ科) I類	39
サンコウチョウ (カササギヒタキ科) 準絶	68
サンショウクイ (サンショウクイ科) 準絶	67
シノリガモ (カモ科) 準絶	58
シマアジ (カモ科) 準絶	57
シロチドリ (チドリ科) 準絶	63
ズグロカモメ (カモメ科) II類	53
セイタカシギ (セイタカシギ科) 準絶	65
セッカ (ウグイス科) I類	48

タマシギ (タマシギ科) I類	45
チゴハヤブサ (ハヤブサ科) I類	44
チゴモズ (モズ科) I類	47
チュウサギ (サギ科) 準絶	56
チュウヒ (タカ科) I類	43
ツミ (タカ科) 準絶	61
ツリスガラ (ツリスガラ科) 不足	73
トキ (トキ科) 絶滅	39
トモエガモ (カモ科) II類	50
ノジコ (ホオジロ科) 準絶	69
ハイタカ (タカ科) 準絶	61
ハチクマ (タカ科) II類	50
ハヤブサ (ハヤブサ科) II類	52
ヒクイナ (クイナ科) I類	45
ヒシクイ (カモ科) II類	49
ビロードキンクロ (カモ科) 準絶	58
ブッポウソウ (ブッポウソウ科) I類	46
ホオアカ (ホオジロ科) 準絶	68
ホオジロガモ (カモ科) 準絶	59
マガン (カモ科) II類	49
マダラウミスズメ (ウミスズメ科) 不足	72
ミコアイサ (カモ科) 準絶	59
ミサゴ (タカ科) 準絶	60
ミゾゴイ (サギ科) I類	40
ミヤコドリ (ミヤコドリ科) 準絶	62
ヤイロチョウ (ヤイロチョウ科) 不足	73
ヤマセミ (カワセミ科) II類	55
ヨシガモ (カモ科) 準絶	57
ヨシゴイ (サギ科) I類	40
ヨタカ (ヨタカ科) II類	54
ライチョウ (ライチョウ科) I類	44

爬虫類・両生類

アカハライモリ (イモリ科) 準絶	83
シロマダラ (ナミヘビ科) 準絶	82
タカチホヘビ (ナミヘビ科) 準絶	81
トノサマガエル (アカガエル科) 準絶	83
ナガレタゴガエル (アカガエル科) II類	81
ナガレヒキガエル (ヒキガエル科) II類	80
ニホンイシガメ (イシガメ科) II類	80
ニホンスッポン (スッポン科) 不足	84
ハクバサンショウウオ (サンショウウオ科) I類	79
ヒダサンショウウオ (サンショウウオ科) 準絶	82
ホクリクサンショウウオ (サンショウウオ科) I類	79

淡水魚類

アカザ (アカザ科) I類	92
アジメドジョウ (ドジョウ科) 地域	104
アユカケ (カマキリ) (カジカ科) 準絶	100
イタセンバラ (コイ科) I類	91
イチモンジタナゴ (コイ科) 不足	102
イトヨ日本海型 (トゲウオ科) 絶滅	90
ウナギ (ウナギ科) 不足	102
カジカ大卵型 (カジカ科) 準絶	101
カジカ中卵型 (カジカ科) II類	97
カワヤツメ (ヤツメウナギ科) I類	93
カワヨシノボリ (ハゼ科) 地域	104
カンキョウカジカ (カジカ科) II類	97
クロヨシノボリ (ハゼ科) I類	93
ゴクラクハゼ (ハゼ科) 不足	103
サクラマス (ヤマメ) (サケ科) 準絶	98
ジュズカケハゼ (ハゼ科) II類	95
シロウオ (ハゼ科) 準絶	99
シンジコハゼ (ハゼ科) II類	96
スナヤツメ南方種 (ヤツメウナギ科) 準絶	101

絶滅：絶滅+野生絶滅、I類：絶滅危惧I類、II類：絶滅危惧II類、準絶：準絶滅危惧、不足：情報不足、地域：地域個体群

動物索引

スナヤツメ北方種 (ヤツメウナギ科) I類	94	カワラバツタ (バツタ科) II類	130
ドジョウ (ドジョウ科) 準絶	98	キアシハナダカバチモドキ (ドロバチモドキ科) 不足	184
トミヨ属淡水型 (トゲウオ科) II類	95	キイロサナエ (サナエトンボ科) I類	115
ドンコ (ドンコ科) 準絶	99	キイロミヤマカミキリ (カミキリムシ科) 準絶	157
ナマズ (ナマズ科) II類	94	キスジラクダムシ (キスジラクダムシ科) 不足	182
ニッコウイワナ (サケ科) 地域	103	キトンボ (トンボ科) 準絶	144
ピリング (ハゼ科) 不足	103	キバネツノトンボ (ツノトンボ科) I類	126
ホトケドジョウ (ドジョウ科) 絶滅	90	ギフチョウ (アゲハチョウ科) 不足	189
マルタ (コイ科) 不足	102	キベリマメゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 不足	177
ミナミアカヒレタビラ (コイ科) I類	92	キボシケシゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) II類	133
メダカ北日本集団 (メダカ科) 準絶	100	キュウシュウマエアカシロヨトウ (ヤガ科) 準絶	164
ヤリタナゴ (コイ科) I類	91	ギンイチモンジセセリ (セセリチョウ科) 準絶	159
ルリヨシノボリ (ハゼ科) II類	96	キンイロネクイハムシ (ハムシ科) 不足	171
昆虫類		クシヒゲカゲロウ (クシヒゲカゲロウ科) 不足	183
アイヌハンミョウ (ハンミョウ科) II類	132	クツワムシ (クツワムシ科) II類	129
アオクチプトカメムシ (カメムシ科) 準絶	151	クビキリギス (キリギリス科) 準絶	145
アオサナエ (サナエトンボ科) I類	112	クマコオロギ (コオロギ科) 不足	175
アオマダラタマムシ (タマムシ科) 準絶	154	クマズムシ (コオロギ科) 不足	176
アオヤンマ (ヤンマ科) 準絶	142	クモマツマキチョウ (シロチョウ科) II類	138
アカエゾゼミ (セミ科) 準絶	147	クロウスタビガ (ヤマムユガ科) II類	163
アカジマトラカミキリ (カミキリムシ科) II類	137	クロゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) I類	121
アカスジキンカメムシ (キンカメムシ科) 準絶	150	クロシジミ (シジミチョウ科) I類	126
アカマダラコガネ (コガネムシ科) II類	135	クロジュウニホシテントウ (テントウムシ科) 不足	170
アカマダラセンチコガネ (コガネムシ科) 準絶	154	クロテングスケバ (テングスケバ科) 準絶	146
アキアカネ (トンボ科) 不足	174	クロバネツリアブ (ツリアブ科) 不足	188
アサマシジミ (シジミチョウ科) 準絶	161	クロヒラタオオキノコ (オオキノコムシ科) 準絶	156
アヤヘリハネナガウンカ (ハネナガウンカ科) 準絶	146	クロマダラタマムシ (タマムシ科) II類	135
アルマンオサムシ (オサムシ科) 不足	168	クロマメゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 準絶	153
イトアメンボ (イトアメンボ科) I類	119	ゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) I類	121
イネネクイハムシ (ハムシ科) 不足	171	ゲンジボタル (ホタル科) 不足	178
イブキコガシラウンカ (コガシラウンカ科) 準絶	146	コウベツゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 準絶	152
イボタサビカミキリ (カミキリムシ科) 不足	170	コイムシ (コイムシ科) I類	119
ウシカメムシ (カメムシ科) 準絶	150	コオナガミズスマシ (ミズスマシ科) 準絶	153
ウスバカマキリ (カマキリ科) 不足	166	コカスリウスバカゲロウ (ウスバカゲロウ科) 不足	172
ウマノオバチ (コマユバチ科) 不足	183	コガタノミズアブ (ミズアブ科) 不足	187
エサキニセヒメガガンボ (ニセヒメガガンボ科) 不足	186	コガムシ (ガムシ科) 不足	177
エサキムカシハナバチ (ムカシハナバチ科) 不足	184	コトラカミキリ (カミキリムシ科) I類	137
エセチヨウセンヤブカ (カ科) 不足	185	コバンムシ (コバンムシ科) I類	120
エゾエンマコオロギ (コオロギ科) 不足	175	コヒョウモンモドキ (タテハチョウ科) I類	127
エルタテハ (タテハチョウ科) 不足	173	ゴマシジミ (シジミチョウ科) II類	139
オオアメンボ (アメンボ科) 準絶	147	ゴマダラシャチホコ (シャチホコガ科) 準絶	164
オオイシアブ (ムシヒキアブ科) 不足	188	コムラサキ (黒色型) (タテハチョウ科) 準絶	162
オオイチモンジ (タテハチョウ科) 準絶	162	ササキ (キリギリス科) 準絶	145
オオウスバカゲロウ (ウスバカゲロウ科) 不足	179	サビナカボソタマムシ (タマムシ科) 準絶	155
オオキンカメムシ (キンカメムシ科) 準絶	149	シナノキチビタマムシ (タマムシ科) 不足	169
オオギンシジモリ (コウモリガ科) 準絶	159	シナノマルトゲムシ (マルトゲムシ科) 不足	169
オオコイムシ (コイムシ科) 準絶	148	シナハマダラカ (カ科) 不足	180
オオゴキブリ (オオゴキブリ科) 不足	167	シバタニセヒラタコメツキ (コメツキムシ科) 不足	169
オオゴマシジミ (シジミチョウ科) II類	140	シマゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) I類	123
オオシモフリスズメ (スズメガ科) II類	141	シャープゲンゴロウモドキ (ゲンゴロウ科) I類	122
オオチャイロハナムグリ (コガネムシ科) 準絶	154	ショウリョウバッタモドキ (バッタ科) 不足	176
オオツノカメムシ (ツノカメムシ科) 準絶	151	シロオビコバネナミシャク (シャクガ科) 準絶	163
オオツルアブ (アブ科) 不足	186	スジグロオオハムシ (ハムシ科) I類	125
オオヒカゲ (タテハチョウ科) 不足	174	スジグロチャバネセセリ (セセリチョウ科) 準絶	160
オオムラサキ (タテハチョウ科) 準絶	162	セアカオサムシ (オサムシ科) II類	133
オオモリハマダラカ (カ科) 不足	172	セグロイナゴ (バッタ科) I類	118
オジロサナエ (サナエトンボ科) I類	114	タイリクアカネ (トンボ科) I類	116
オツネトンボ (アオイトトンボ科) I類	110	タカネキマダラセセリ (セセリチョウ科) 準絶	160
オナガサナエ (サナエトンボ科) I類	112	タカネハバチ (ハバチ科) 準絶	158
オニクワガタ (クワガタムシ科) 不足	168	タカネヒカゲ (タテハチョウ科) II類	140
オンタケクロナガオサムシ (オサムシ科) 不足	168	タガメ (コイムシ科) I類	120
カトリヤンマ (ヤンマ科) I類	111	タケウチトゲアワフキ (トゲアワフキ科) 準絶	147
カヤコオロギ (マツムシ科) I類	116	チュウブオオオサムシ (オサムシ科) 不足	167
カラカネトンボ (エゾトンボ科) II類	128	チョウトンボ (トンボ科) 準絶	144
カラスシジミ (シジミチョウ科) 準絶	161	ツヤナガタマムシ (タマムシ科) I類	123
カワラスズ (ヒバリモドキ科) 準絶	145	トオヤマシラホシナガタマムシ (タマムシ科) I類	124
		トヤマオオミズクサハムシ (ハムシ科) I類	125

絶滅：絶滅+野生絶滅、I類：絶滅危惧I類、II類：絶滅危惧II類、準絶：準絶滅危惧、不足：情報不足、地域：地域個体群

動物索引

トヤマオサムシ (オサムシ科) 不足	176	ミネトワダカワゲラ (トワダカワゲラ科) 不足	166
トヤマゴマフアブ (アブ科) 不足	173	ミヤマアカネ (トンボ科) 準絶	143
トラフトンボ (エゾトンボ科) 準絶	143	ミヤマカミキリ (カミキリムシ科) 不足	182
トラフムシヒキ (ムシヒキアブ科) 不足	188	ミヤマカラスシジミ (シジミチョウ科) 準絶	161
トワダオオカ (カ科) 不足	185	ミヤマサナエ (サナエトンボ科) 準絶	143
ナカボシカメムシ (カメムシ科) 準絶	150	ミヤマシジミ (シジミチョウ科) II類	139
ナツアカネ (トンボ科) 不足	174	ミヤマツヤハダクワガタ (クワガタムシ科) 準絶	153
ナベブタムシ (ナベブタムシ科) II類	132	ミヤマモンキチョウ (シロチョウ科) II類	138
ナマリキシタバ (ヤガ科) 準絶	165	ムカシトンボ (ムカシトンボ科) 準絶	142
ナミハンミョウ (ハンミョウ科) 不足	181	ムスジイトトンボ (イトトンボ科) I類	110
ニッポンハナダカバチ (ドロバチモドキ科) 不足	179	ムツアカネ (トンボ科) 不足	165
ニトベギングチバチ (ギングチバチ科) 準絶	158	メススジゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) II類	134
ニホンカワトンボ (カワトンボ科) 準絶	142	モートンイトトンボ (イトトンボ科) II類	127
ネアカヨシヤンマ (ヤンマ科) I類	111	ヤマトマダラバタ (バタ科) I類	118
ネクイハムシ (ハムシ科) 不足	171	ヨコヅナツチカメムシ (ツチカメムシ科) 準絶	149
ノシメトンボ (トンボ科) 不足	175	ヨスジキンメアブ (アブ科) 不足	186
ハクサンヤブカ (カ科) 不足	172	ヨツボシカミキリ (カミキリムシ科) 不足	178
ハスオビカバエダシヤク (シヤクガ科) 準絶	163	ヨツモンカメムシ (クスギカメムシ科) 準絶	149
ハッチョウトンボ (トンボ科) 準絶	144	ルイスツブゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 準絶	152
ハネナガイナゴ (バタ科) I類	117	ルリボシカミキリ (カミキリムシ科) 不足	179
ハネナシアメンボ (アメンボ科) II類	131		
ハネナシセスジキマワリ (ゴミムシダマシ科) 不足	170	軟体動物 (淡水産貝類)	
ハネビロエゾトンボ (エゾトンボ科) I類	115	イグチモノアラガイ (モノアラガイ科) 絶滅	204
ババアメンボ (アメンボ科) II類	131	イシガイ (イシガイ科) I類	206
ババツマダグロシリアゲ (シリアゲムシ科) 不足	184	イシマキガイ (アマオブネガイ科) 不足	210
ハマスズ (ヒバリモドキ科) I類	117	オオタニシ (タニシ科) 準絶	209
ハラビロミズアブ (ミズアブ科) 不足	187	オバエボシガイ (イシガイ科) 絶滅	204
ヒゲシロホソコバナカミキリ (カミキリムシ科) I類	124	カタハガイ (イシガイ科) 絶滅	205
ヒゲナガヒメルリカミキリ (カミキリムシ科) 準絶	157	カワコザラガイ (カワコザラガイ科) 不足	211
ヒゲブトハナカミキリ (カミキリムシ科) 準絶	156	タガイ (イシガイ科) II類	208
ヒサゴクサキリ (キリギリス科) 不足	180	ドブシジミ (マメシジミ科) 不足	210
ヒサツミドリシジミ (シジミチョウ科) 不足	189	スマガイ (イシガイ科) II類	208
ヒナカマキリ (カマキリ科) II類	130	ヒラマキガイモドキ (ヒラマキガイ科) 不足	211
ヒメエグリオオキノコ (オオキノコムシ科) 準絶	156	ヒラマキミズマイマイ (ヒラマキガイ科) 不足	211
ヒメオオクワガタ (クワガタムシ科) II類	134	マシジミ (シジミ科) II類	209
ヒメカマキリ (ヒメカマキリ科) 不足	166	マツカサガイ (イシガイ科) I類	205
ヒメサナエ (サナエトンボ科) I類	113	マメシジミ (マメシジミ科) 準絶	210
ヒメスズ (ヒバリモドキ科) 不足	180	マメタニシ (エゾマメタニシ科) 絶滅	203
ヒメボタル (ホタル科) II類	136	マルタニシ (タニシ科) II類	207
ヒメミズカマキリ (ミズカマキリ科) 準絶	148	ミズゴマツボ (ミズゴマツボ科) 絶滅	203
ヒョウタンゴムシ (オサムシ科) 不足	177	モノアラガイ (モノアラガイ科) II類	207
ヒラサナエ (サナエトンボ科) I類	113	ヤマトシジミ (シジミ科) 不足	212
ヒラタクワガタ (クワガタムシ科) 不足	181	ヨコハマシジラガイ (イシガイ科) I類	206
ヒラヤマコブハナカミキリ (カミキリムシ科) 準絶	157		
ヒロオビナガタムシ (タムシ科) 準絶	155	軟体動物 (陸産貝類)	
フカイオオドロバチ (ドロバチ科) 準絶	159	オオタキコギセル (キセルガイ科) 準絶	215
フクイアナバチ (アナバチ科) 不足	183	オクガタギセル (キセルガイ科) 不足	217
フシキキシタバ (ヤガ科) 準絶	165	キセルガイモドキ (キセルガイモドキ科) 不足	216
フジジガバチ (アナバチ科) 準絶	158	キヌハダギセル (キセルガイ科) II類	213
フタオセンブリ (センブリ科) 不足	182	クリイロキセルガイモドキ (キセルガイモドキ科) 準絶	215
フタキボシカネコメツキ (コメツキムシ科) 準絶	155	ケハダビロウドマイマイ (ナンバンマイマイ科) 不足	218
フタスジカタビロハナカミキリ (カミキリムシ科) II類	136	コガネマイマイ (オナジマイマイ科) 不足	218
フタスジチョウ (タテハチョウ科) 不足	173	ココロマイマイ (ナンバンマイマイ科) 不足	217
フタバシチビゴムシ (オサムシ科) 準絶	151	ナガオカモノアラガイ (オカモノアラガイ科) I類	213
ヘイケボタル (ホタル科) 不足	178	ハマシイノミガイ (オカミミガイ科) 不足	216
ヘリグロチャバネセセリ (セセリチョウ科) 準絶	160	ヘソカドガイ (カワザンショウガイ科) 準絶	214
ホシシリアゲ (シリアゲムシ科) 不足	185	ホラアナゴマオカチグサガイ (カワザンショウガイ科) 準絶	214
ホッキョクモンヤガ (ヤガ科) 準絶	164	ミドリベッコウ (ベッコウマイマイ科) 不足	217
ホッケミズムシ (ミズムシ科) 準絶	148	ヤマキサゴ (ヤマキサゴ科) 準絶	214
ホンサナエ (サナエトンボ科) I類	114	ヤマタカマイマイ (ナンバンマイマイ科) 準絶	215
マイコアカネ (トンボ科) II類	129	ヤマタニシ (ヤマタニシ科) 準絶	216
マガタマハンミョウ (ハンミョウ科) 不足	181	ヤママメタニシ (イツマデガイ科) I類	212
マダラヤンマ (ヤンマ科) II類	128		
マルガタゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) I類	122	甲殻類	
マルガタシマチビゲンゴロウ (ゲンゴロウ科) 準絶	152	アカテガニ (ベンケイガニ科) 不足	223
マルバネオサムシ (オサムシ科) 不足	167	サワガニ (サワガニ科) 不足	223
ミズアブ (ミズアブ科) 不足	187		

絶滅：絶滅+野生絶滅、I類：絶滅危惧I類、II類：絶滅危惧II類、準絶：準絶滅危惧、不足：情報不足、地域：地域個体群

植物索引

維管束植物

アオチドリ (ラン科) II類	287	エッチュウミセバヤ (ベンケイソウ科) II類	302
アオテンツキ (カヤツリグサ科) II類	298	エビネ (ラン科) 準絶	326
アオネカズラ (ウラボシ科) 絶滅	230	オオアカウキクサ (サンショウモ科) II類	281
アオフタバラン (ラン科) II類	291	オオアゼテンツキ (カヤツリグサ科) I類	259
アオベンケイ (ベンケイソウ科) I類	264	オオアブノメ (オオバコ科) 不足	387
アカネスミレ (スミレ科) 不足	382	オオイワインテン (キク科) II類	315
アギナシ (オモダカ科) II類	284	オオタチカモジ (イネ科) 不足	374
アキノハハコグサ (キク科) II類	316	オオツルイタドリ (タデ科) 準絶	351
アキノミチヤナギ (タデ科) 準絶	351	オオトリゲモ (トチカガミ科) I類	248
アケボノスミレ (スミレ科) 不足	383	オオニガナ (キク科) 準絶	360
アサギリソウ (キク科) 準絶	359	オオハクウンラン (ラン科) II類	294
アサザ (ミツガシワ科) I類	277	オオバクサフジ (マメ科) 絶滅	237
アサダ (カバノキ科) 準絶	348	オオフジシダ (コバノイシカグマ科) II類	281
アズマイチゲ (キンボウゲ科) 準絶	342	オオマルバノホロシ (ナス科) 準絶	356
アズマレイジンソウ (キンボウゲ科) 準絶	341	オオミスミソウ (キンボウゲ科) 準絶	342
アゼオトギリ (オトギリソウ科) 不足	381	オオヤマサギソウ (ラン科) 準絶	329
アセビ (ツツジ科) 絶滅	238	オオヤマフスマ (ナデシコ科) 絶滅	238
アツモリソウ (ラン科) 不足	368	オオユリワサビ (アブラナ科) 準絶	350
アナマツミレ (スミレ科) I類	268	オガルカヤ (イネ科) II類	299
アブノメ (オオバコ科) II類	311	オキナグサ (キンボウゲ科) I類	262
アマナ (ユリ科) 準絶	326	オグルマ (キク科) II類	316
アリドオシラン (ラン科) II類	292	オケラ (キク科) 準絶	359
アワガエリ (イネ科) 絶滅	235	オゼミズギク (キク科) I類	278
イイヌマムカゴ (ラン科) I類	256	オタルスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	334
イソスミレ (スミレ科) I類	268	オトコヨウゾメ (レンブクソウ科) 準絶	362
イタチササゲ (マメ科) 不足	379	オナモミ (キク科) 不足	391
イチョウシダ (チャセンシダ科) 準絶	320	オニク (ハマウツボ科) 不足	387
イチヨウラン (ラン科) II類	288	オニシオガマ (ゴマノハグサ科) 準絶	358
イトイチゴツナギ (イネ科) 準絶	340	オニスゲ (カヤツリグサ科) I類	258
イトイヌノハナヒゲ (カヤツリグサ科) I類	260	オニバス (スイレン科) I類	244
イトテンツキ (カヤツリグサ科) 絶滅	234	オノエスゲ (カヤツリグサ科) II類	297
イトトリゲモ (トチカガミ科) II類	285	オノエリンドウ (リンドウ科) II類	309
イトハナビテンツキ (カヤツリグサ科) 準絶	332	オミナエシ (オミナエシ科) II類	318
イトモ (ヒルムシロ科) II類	285	ガガブタ (ミツガシワ科) I類	277
イヌイ (イグサ科) 絶滅	233	カキツバタ (アヤメ科) II類	295
イヌセンブリ (リンドウ科) II類	310	カキラン (ラン科) 準絶	327
イヌタスキモ (タスキモ科) 準絶	358	カジカエデ (ムクロジ科) 準絶	350
イヌナズナ (アブラナ科) 不足	383	カセンソウ (キク科) 不足	390
イヌノフグリ (オオバコ科) II類	312	カモノハシ (イネ科) 準絶	339
イヌハギ (マメ科) II類	303	カモメラン (ラン科) I類	252
イバラモ (トチカガミ科) 絶滅	231	カラコギカエデ (ムクロジ科) 準絶	350
イブキキンボウゲ (キンボウゲ科) 準絶	343	カラフトイワスゲ (カヤツリグサ科) II類	296
イワインテン (キク科) 不足	389	カワヂシャ (オオバコ科) II類	313
イワウメヅル (ニシキギ科) 準絶	348	カンチャチハコベ (ナデシコ科) 不足	384
イワオモダカ (ウラボシ科) 不足	365	キイトスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	335
イワギリソウ (イワタバコ科) 不足	386	キキョウ (キキョウ科) I類	276
イワキンバイ (バラ科) 準絶	346	キセワタ (シソ科) II類	313
イワチドリ (ラン科) 絶滅	232	キバナノショウキラン (ラン科) 不足	370
イワナンテン (ツツジ科) 不足	385	ギボウシラン (ラン科) II類	290
イワヤシダ (イワデンダ科) 不足	364	キヨスミウツボ (ハマウツボ科) II類	314
ウキガヤ (イネ科) II類	299	キリガミネアサヒラン (ラン科) II類	288
ウキミクリ (ミクリ科) 準絶	331	キンセイラン (ラン科) I類	250
ウスバスミレ (スミレ科) 不足	382	キンラン (ラン科) II類	286
ウチヨウラン (ラン科) II類	292	ギンラン (ラン科) 準絶	327
ウチワゴケ (コケシノブ科) II類	281	ギンレイカ (ヤブコウジ科) 不足	385
ウミヒルモ (トチカガミ科) 準絶	324	クサレダマ (ヤブコウジ科) I類	272
ウラジロキンバイ (バラ科) 準絶	346	クマガイソウ (ラン科) II類	287
エイザンスミレ (スミレ科) II類	304	クマツツラ (クマツツラ科) 準絶	359
エゾイタヤ (ムクロジ科) II類	306	クモイナズナ (アブラナ科) 準絶	349
エゾイトイ (イグサ科) 不足	372	クモマキンボウゲ (キンボウゲ科) 不足	377
エゾスズラン (ラン科) II類	288	クモマスズメノヒエ (イグサ科) 準絶	331
エゾノミクリゼキショウ (イグサ科) 不足	372	クリハラン (ウラボシ科) 絶滅	229
エゾヒナノウスツボ (ゴマノハグサ科) II類	313	クリンユキフデ (タデ科) I類	269
エゾミクリ (ミクリ科) 不足	371	クロアブラガヤ (カヤツリグサ科) 準絶	337
エゾミソハギ (ミソハギ科) 不足	379	クロスマハリイ (カヤツリグサ科) 絶滅	235
エチゴトラノオ (オオバコ科) II類	312	クロホシクサ (ホシクサ科) 不足	371
		クロボスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	334

絶滅：絶滅+野生絶滅、I類：絶滅危惧I類、II類：絶滅危惧II類、準絶：準絶滅危惧、不足：情報不足、地域：地域個体群

植物索引

クロミノウグイスカグラ (スイカズラ科) II類	317	タカネクロスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	337
クロモ (二倍体) (トチカガミ科) II類	285	タカネコウリンカ (キク科) 準絶	361
クロヤツシロラン (ラン科) II類	289	タカネサギソウ (ラン科) II類	293
グンナイフウロ (フウロソウ科) 不足	378	タカネシバスケ (カヤツリグサ科) II類	296
コアゼテンツキ (カヤツリグサ科) II類	298	タカネソモソモ (イネ科) 準絶	338
コアツモリソウ (ラン科) I類	251	タカネタチイチゴツナギ (イネ科) II類	300
コアニチドリ (ラン科) I類	249	タカネトンボ (ラン科) II類	293
コウゲイスカグラ (スイカズラ科) 準絶	362	タカネナルコ (カヤツリグサ科) 準絶	335
コギシギシ (タデ科) 絶滅	237	タカネフタバラン (ラン科) 準絶	328
コシンジュガヤ (カヤツリグサ科) II類	299	タカネミミナグサ (ナデシコ科) 準絶	352
コバノタツナミ (シソ科) 準絶	357	タカネヤガミスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	333
コヒロハハナヤスリ (ハナヤスリ科) 準絶	320	タキミシダ (イノモトソウ科) 絶滅	229
コミヤマミズ (イラクサ科) 準絶	347	ダケスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	333
コヤブラン (ナギイカダ科) 不足	370	タコノアシ (タコノアシ科) 準絶	344
サギソウ (ラン科) I類	255	タチスズシロソウ (アブラナ科) II類	305
サキモリイヌワラビ (イワデンダ科) II類	282	タチネズミガヤ (イネ科) 不足	375
サジオモダカ (オモダカ科) I類	246	タチヒメワラビ (ヒメシダ科) 準絶	321
サツキ (ツツジ科) 準絶	354	タチモ (アリノトウグサ科) I類	264
サナギイチゴ (バラ科) II類	304	タツノヒゲ (イネ科) 準絶	340
サラサドウダン (ツツジ科) II類	308	タテヤマイワブキ (ユキノシタ科) II類	302
サルメンエビネ (ラン科) II類	286	タテヤマキンバイ (バラ科) 準絶	347
サワオグルマ (キク科) 準絶	361	タヌキマメ (マメ科) I類	266
サワギキョウ (ミゾカクシ科) II類	315	タヌキモ (タヌキモ科) 不足	388
サワトランオ (ヤブコウジ科) 不足	385	タンキリマメ (マメ科) 絶滅	236
サワラン (ラン科) I類	252	チシマカニツリ (イネ科) 不足	376
サンショウモ (サンショウモ科) I類	243	チシマセンプリ (リンドウ科) 準絶	355
シオクグ (カヤツリグサ科) 絶滅	234	チシマツメクサ (ナデシコ科) 準絶	352
シオジ (モクセイ科) II類	311	チシマヒカゲノカズラ (ヒカゲノカズラ科) 不足	363
ジガバチソウ (ラン科) II類	291	チャシバスケ (カヤツリグサ科) 準絶	332
シキンカラマツ (キンボウゲ科) 不足	377	チョウジコメツツジ (ツツジ科) 不足	386
シコタンハコベ (ナデシコ科) 準絶	353	チョウジソウ (キョウチクトウ科) 絶滅	239
シズイ (カヤツリグサ科) I類	260	ツクバネガシ (ブナ科) 準絶	347
シソクサ (オオバコ科) II類	311	ツクモグサ (キンボウゲ科) 準絶	343
シテンクモキリ (ラン科) II類	291	ツメレンゲ (ベンケイソウ科) 準絶	344
シマカンギク (六倍体) (キク科) 不足	389	ツリシュスラン (ラン科) 不足	369
シャクジョウソウ (ツツジ科) 準絶	353	ツルガシワ (キョウチクトウ科) II類	310
シャシャンボ (ツツジ科) 絶滅	239	ツルギキョウ (キキョウ科) 不足	389
シュウブンソウ (キク科) 不足	390	ツルキジムシロ (バラ科) 準絶	346
ジュンサイ (ハゴロモモ科) 準絶	322	ツレサギソウ (ラン科) II類	293
シラコスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	335	テバコワラビ (イワデンダ科) 準絶	321
シラネアオイ (キンボウゲ科) 準絶	342	デワノタツナミソウ (シソ科) 準絶	358
シラン (ラン科) 不足	368	テンキグサ (イネ科) II類	300
シロウマイタチシダ (オシダ科) 準絶	322	トウカイコモウセンゴケ (モウセンゴケ科) I類	271
シロウマチドリ (ラン科) 準絶	328	トウダイグサ (トウダイグサ科) 準絶	349
シロウマナズナ (アブラナ科) 準絶	349	トガクシソウ (メギ科) 不足	376
シロウマリンドウ (リンドウ科) 準絶	354	トガクシデンダ (イワデンダ科) 不足	365
シロガヤツリ (カヤツリグサ科) 不足	373	トガクシナズナ (アブラナ科) II類	306
シロテンマ (ラン科) 不足	369	トキソウ (ラン科) II類	294
シロバナノヘビイチゴ (バラ科) 不足	380	トキワトランオ (チャセンシダ科) II類	282
ジンバイソウ (ラン科) 準絶	328	ドクゼリ (セリ科) II類	319
スギラン (ヒカゲノカズラ科) 準絶	319	トチカガミ (トチカガミ科) I類	247
スジヌマハリイ (カヤツリグサ科) I類	258	トモエソウ (オトギリソウ科) I類	267
スズサイコ (キョウチクトウ科) 絶滅	240	トリゲモ (トチカガミ科) I類	248
スズムシソウ (ラン科) I類	254	ドロイ (イグサ科) 不足	371
スズメノハコベ (オオバコ科) II類	312	ナガミノツルケマン (ケマンソウ科) II類	301
スヤアカバナ (アカバナ科) II類	302	ナガミヒメスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	334
スズラン (ナギイカダ科) 絶滅	233	ナツエビネ (ラン科) I類	250
スナシバ (イネ科) 準絶	341	ナニワズ (ジンチョウゲ科) 不足	383
スナビキソウ (ムラサキ科) II類	310	ナベクラザゼンソウ (サトイモ科) 不足	366
スプタ (トチカガミ科) 準絶	323	ナベナ (マツムシソウ科) II類	317
セイタカスズムシソウ (ラン科) II類	290	ナミキソウ (シソ科) I類	274
セキショウモ (トチカガミ科) 準絶	325	ナオシダ (イワデンダ科) 準絶	321
セトヤナギスプタ (トチカガミ科) I類	247	ニオウヤブマオ (イラクサ科) II類	304
センダイハギ (マメ科) 絶滅	236	ニシキソウ (トウダイグサ科) 準絶	348
センニンモ (ヒルムシロ科) 不足	367	ニョホウチドリ (ラン科) II類	287
タカネイ (イグサ科) 不足	372	スイオスゲ (カヤツリグサ科) II類	297
タカネキンボウゲ (キンボウゲ科) I類	262	スカボタデ (タデ科) II類	307

絶滅：絶滅+野生絶滅、I類：絶滅危惧I類、II類：絶滅危惧II類、準絶：準絶滅危惧、不足：情報不足、地域：地域個体群

植物索引

ヌマカゼクサ (イネ科) I類	261	フサガヤ (イネ科) 準絶	338
ネズミノオ (イネ科) 準絶	340	フサタスキモ (タスキモ科) 不足	388
ノウルシ (トウダイグサ科) I類	267	フサモ (アリノトウグサ科) 不足	378
ノカラマツ (キンポウゲ科) 不足	377	フシグロセンノウ (ナデシコ科) 準絶	352
ノカンゾウ (ワスレグサ科) 準絶	330	フトイ (カヤツリグサ科) II類	298
ノタスキモ (タスキモ科) I類	275	フナバラソウ (キョウチクトウ科) 絶滅	240
ノテンツキ (カヤツリグサ科) 準絶	336	ベニシユスラン (ラン科) I類	253
ノニガナ (キク科) II類	317	ベニバナヤマシヤクヤク (ボタン科) I類	263
ノハナショウブ (アヤメ科) 準絶	329	ホクリクムヨウラン (ラン科) II類	290
ハイチゴザサ (イネ科) 準絶	339	ホザキイチヨウラン (ラン科) I類	254
ハイネズ (ヒノキ科) I類	244	ホザキノミミカキグサ (タスキモ科) I類	275
ハイハマボス (テオフラスタ科) II類	308	ホザキヤドリギ (オオバヤドリギ科) 不足	384
ハコネシダ (イノモトソウ科) II類	282	ホスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	332
ハゴロモグサ (バラ科) 準絶	345	ホソバアカバナ (アカバナ科) 不足	379
ハタバカンガレイ (カヤツリグサ科) I類	260	ホソバタマミクリ (ミクリ科) 準絶	331
ハナイカリ (リンドウ科) II類	309	ホソバノウナギツカミ (タデ科) 準絶	351
ハナゼキシヨウ (チシマゼキシヨウ科) 準絶	323	ホソバツルリンドウ (リンドウ科) 準絶	355
ハネガヤ (イネ科) 準絶	341	ホソバムカシヨモギ (キク科) 準絶	360
ハマアカザ (ヒユ科) I類	271	ホタルカズラ (ムラサキ科) 準絶	355
ハマウツボ (ハマウツボ科) 不足	388	ホタルサイコ (セリ科) I類	279
ハマウド (セリ科) II類	318	ホッスモ (トチカガミ科) 準絶	324
ハマゼリ (セリ科) 準絶	362	ホトトギス (ユリ科) 不足	368
ハマナス (バラ科) II類	303	マイヅルテンナンショウ (サトイモ科) I類	245
ハマナデシコ (ナデシコ科) 不足	384	マダイオウ (タデ科) II類	307
ハマベノギク (キク科) 絶滅	242	マツグミ (オオバヤドリギ科) I類	269
ハンゲショウ (ドクダミ科) II類	284	マツムシソウ (マツムシソウ科) II類	318
ヒオウギ (アヤメ科) I類	257	マツモ (マツモ科) II類	284
ヒカゲスミレ (スミレ科) II類	305	マネキシンジユガヤ (カヤツリグサ科) 不足	373
ヒゲナガコメススキ (イネ科) 不足	375	マメダオシ (ヒルガオ科) 絶滅	241
ヒゲハリスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	336	マルバウマノスズクサ (ウマノスズクサ科) 不足	365
ヒゴスミレ (スミレ科) 不足	382	マルバオモダカ (オモダカ科) 絶滅	230
ヒシモドキ (ゴマ科) 絶滅	241	マルバサンキライ (サルトリイバラ科) 準絶	325
ヒダアザミ (キク科) II類	316	マルバスマミレ (スミレ科) II類	305
ヒダキセルアザミ (キク科) II類	315	マルバノイチヤクソウ (ツツジ科) II類	309
ヒツジグサ (スイレン科) II類	283	マルバノキ (マンサク科) 不足	378
ヒトツボクロ (ラン科) II類	294	マルバノサワトウガラシ (オオバコ科) 準絶	356
ヒナギキョウ (キキョウ科) 絶滅	241	マルバノホロシ (ナス科) 準絶	356
ヒナザサ (イネ科) 不足	374	マルミスブタ (トチカガミ科) 絶滅	231
ヒナチドリ (ラン科) I類	257	マンセンカラマツ (キンポウゲ科) II類	301
ヒナノウスツボ (ゴマノハグサ科) 準絶	357	ミコシガヤ (カヤツリグサ科) II類	296
ヒナノカンザシ (ヒメハギ科) I類	266	ミシマサイコ (セリ科) 絶滅	242
ヒメカイウ (サトイモ科) I類	246	ミズアオイ (ミズアオイ科) 準絶	330
ヒメコウホネ (スイレン科) I類	245	ミズオオバコ (トチカガミ科) 準絶	324
ヒメザゼンソウ (サトイモ科) 準絶	322	ミズキカシグサ (ミソハギ科) I類	265
ヒメサユリ (ユリ科) 不足	367	ミズスキ (ヒカゲノカズラ科) II類	280
ヒメシャガ (アヤメ科) 準絶	330	ミズタガラシ (アブラナ科) II類	306
ヒメシヤクナゲ (ツツジ科) 準絶	353	ミズチドリ (ラン科) I類	255
ヒメタデ (タデ科) I類	270	ミズトラノオ (シソ科) II類	314
ヒメナミキ (シソ科) II類	314	ミズトンボ (ラン科) I類	253
ヒメハナワラビ (ハナヤスリ科) 準絶	319	ミズニラ (ミズニラ科) II類	280
ヒメビシ (ミソハギ科) I類	265	ミズネコノオ (シソ科) I類	273
ヒメホタルイ (カヤツリグサ科) 不足	373	ミズマツバ (ミソハギ科) 準絶	345
ヒメミクリ (ミクリ科) II類	295	ミゾクウジュ (シソ科) I類	273
ヒメミヤマウズラ (ラン科) II類	289	ミチノクサイシン (ウマノスズクサ科) 不足	366
ヒメムヨウラン (ラン科) 不足	369	ミツバフウロ (フウロソウ科) 準絶	344
ヒメモエギスゲ (カヤツリグサ科) II類	297	ミツモトソウ (バラ科) 不足	380
ビロードシダ (ウラボシ科) I類	243	ミミカキグサ (タスキモ科) I類	274
ビロードテンツキ (カヤツリグサ科) I類	259	ミヤコアザミ (キク科) I類	278
ビロードトラノオ (オオバコ科) 不足	387	ミヤマアオイ (ウマノスズクサ科) 不足	366
ヒロハクサフジ (マメ科) 不足	380	ミヤマアキノノゲシ (キク科) 不足	390
ヒロハスズメノトウガラシ (アゼナ科) I類	272	ミヤマエンレイソウ (シュロソウ科) 準絶	325
ヒロハノエビモ (ヒルムシロ科) 不足	367	ミヤマカニツリ (イネ科) 不足	376
ヒロハノオオタマツリスゲ (カヤツリグサ科) 準絶	333	ミヤマツチトリモチ (ツチトリモチ科) II類	307
ヒロハノコヌカグサ (イネ科) 準絶	337	ミヤマノコギリシダ (イワデンダ科) II類	283
ヒロハノドジョウツナギ (イネ科) 準絶	339	ミヤマハナシノブ (ハナシノブ科) II類	308
ヒロハハナヤスリ (ハナヤスリ科) 準絶	320	ミヤマハナワラビ (ハナヤスリ科) 不足	363
フクジュソウ (キンポウゲ科) I類	261	ミヤマフタバラン (ラン科) 準絶	327

絶滅：絶滅+野生絶滅、I類：絶滅危惧I類、II類：絶滅危惧II類、準絶：準絶滅危惧、不足：情報不足、地域：地域個体群

植物索引

ミヤマムグラ (アカネ科) 不足…………… 386
 ミヤマモジズリ (ラン科) II類…………… 292
 ムカゴソウ (ラン科) 絶滅…………… 232
 ムカゴニンジン (セリ科) 準絶…………… 363
 ムカゴユキノシタ (ユキノシタ科) II類…………… 301
 ムギラン (ラン科) I類…………… 249
 ムヨウラン (ラン科) II類…………… 289
 ムラサキミミカキグサ (タヌキモ科) I類…………… 276
 メガルカヤ (イネ科) 不足…………… 375
 メハジキ (シソ科) 準絶…………… 357
 モイワラン (ラン科) I類…………… 251
 モエギスゲ (カヤツリグサ科) 準絶…………… 336
 モモンヅル (マメ科) II類…………… 303
 ヤシャゼンマイ (ゼンマイ科) II類…………… 280
 ヤシャビシヤク (スグリ科) 準絶…………… 343
 ヤナギスブタ (トチカガミ科) 準絶…………… 323
 ヤナギタンポポ (キク科) 準絶…………… 360
 ヤナギスカボ (タデ科) I類…………… 270
 ヤブレガサ (キク科) 準絶…………… 361
 ヤマオオウシノケグサ (イネ科) 準絶…………… 338
 ヤマサギソウ (ラン科) 準絶…………… 329
 ヤマジノホトトギス (ユリ科) 準絶…………… 326
 ヤマシヤクヤク (ボタン科) I類…………… 263
 ヤマトキソウ (ラン科) I類…………… 256
 ヤマトミクリ (ミクリ科) II類…………… 295
 ヤマドリトラノオ (チャセンシダ科) 不足…………… 364
 ヤマハナワラビ (ハナヤスリ科) 不足…………… 364
 ヤマヒメワラビ (イワデンダ科) II類…………… 283
 ヤマラッキョウ (ネギ科) 不足…………… 370
 ユウシュンラン (ラン科) II類…………… 286
 ユキクラヌカボ (イネ科) 不足…………… 374
 ヨコグラノキ (クロウメモドキ科) 不足…………… 381
 ラセイタソウ (イラクサ科) 不足…………… 381
 リシリオウギ (マメ科) 準絶…………… 345
 リシリカニツリ (イネ科) II類…………… 300
 リュウノヒゲモ (ヒルムシロ科) 絶滅…………… 231
 レンゲツツジ (ツツジ科) 準絶…………… 354
 レンブクソウ (レンブクソウ科) I類…………… 279

藓苔類

イシツチゴケ (オオツボゴケ科) II類…………… 399
 イチヨウウキゴケ (ウキゴケ科) 準絶…………… 403
 イトゴケ (ハイヒモゴケ科) I類…………… 398
 ウキゴケ (ウキゴケ科) 準絶…………… 402
 エゾヒメソロイゴケ (ツボミゴケ科) 不足…………… 407
 オオサナダゴケ (サナダゴケ科) 不足…………… 405
 オオミズゴケ (ミズゴケ科) 準絶…………… 401
 オリニックゴケ (キヌシッポゴケ科) I類…………… 397
 ガッサンクロゴケ (クロゴケ科) 準絶…………… 401
 カラフトシノブゴケ (シノブゴケ科) II類…………… 399
 カワゴケ (カワゴケ科) 準絶…………… 402
 キヌシッポゴケモドキ (キヌシッポゴケ科) II類…………… 399
 キレハコマチゴケ (コマチゴケ科) I類…………… 398
 クロカワゴケ (カワゴケ科) I類…………… 397
 コウライイチイゴケ (ハイゴケ科) 不足…………… 406
 コキジノオゴケ (クジャクゴケ科) I類…………… 398
 コシノシンジゴケ (ハリガネゴケ科) 不足…………… 404
 コシノヤバネゴケ (カワゴケ科) II類…………… 400
 サトミヨツダゴケ (マツバウロコゴケ科) 不足…………… 406
 ジョウレンホウオウゴケ (ホウオウゴケ科) 不足…………… 403
 タチクモマゴケ (ツボミゴケ科) 不足…………… 406
 チチレヤハズゴケ (クモノスゴケ科) II類…………… 400
 チャボナガイゴケ (シッポゴケ科) 不足…………… 404
 ツブツブヘチマゴケ (ハリガネゴケ科) 不足…………… 405
 ナンジャモンジャゴケ (ナンジャモンジャゴケ科) 不足…………… 403
 ヒカリゴケ (ヒカリゴケ科) 準絶…………… 402
 ヒヨクゴケ (イワダレゴケ科) II類…………… 400

ヒラウロコゴケ (ツボミゴケ科) 不足…………… 408
 マルバイチヨウゴケ (ツボミゴケ科) 不足…………… 407
 ミツデモミジゴケ (ツボミゴケ科) 不足…………… 407
 ヤスダゴケ (ハリガネゴケ科) 不足…………… 404
 ヤマトヤハズゴケ (クモノスゴケ科) II類…………… 401
 レイシゴケ (ヒゲゴケ科) 不足…………… 405

地衣類

アカウラヤイトゴケ (ツメゴケ科) 不足…………… 417
 アマギウメノキゴケ (ウメノキゴケ科) I類…………… 415
 イワタケ (イワタケ科) 不足…………… 418
 ウスキエイランタイ (ウメノキゴケ科) II類…………… 415
 ウスキクダチイ (ウメノキゴケ科) 不足…………… 417
 カニメゴケ (ピンゴケ科) I類…………… 413
 キイロスマイボゴケ (チズゴケ科) 不足…………… 416
 クボミヤイトゴケ (ツメゴケ科) 不足…………… 417
 コツプイワノリ (イワノリ科) 不足…………… 416
 コツプセンニンゴケ (ヒロハセンニンゴケ科) II類…………… 415
 サルオガセ (ウメノキゴケ科) 不足…………… 418
 ツブクダチイ (ウメノキゴケ科) 不足…………… 416
 トゲイワタケ (イワタケ科) 不足…………… 418
 トゲエイランタイモドキ (ウメノキゴケ科) I類…………… 413
 フジサルオガセ (ウメノキゴケ科) 不足…………… 419
 へらゴケ (アオシモゴケ科) I類…………… 414
 ミヤマヒジキゴケ (ウメノキゴケ科) I類…………… 414
 ヨコワサルオガセ (ウメノキゴケ科) 不足…………… 419

菌類

アカダマノオオタイマツ (スッポンタケ科) II類…………… 425
 アセハリタケ (エゾハリタケ科) 不足…………… 430
 アラナミケシボウズタケ (ケシボウズタケ科) II類…………… 425
 イカタケ (アカカゴタケ科) 準絶…………… 427
 ウズタケ (タバコウロコタケ科) 不足…………… 431
 ウネミケシボウズタケ (ケシボウズタケ科) II類…………… 426
 オドタケ (キシメジ科) 準絶…………… 427
 キヌオオフクロタケ (ウラベニガサ科) 不足…………… 430
 クルミタケ (セイヨウショウロ科) 不足…………… 432
 クロカワ (イボタケ科) 不足…………… 430
 コウボウフデ (ツチダンゴ科) 不足…………… 432
 コカンバタケ (サルノコシカケ科) 準絶…………… 428
 コフキクロツチガキ (ヒメツチグリ科) 不足…………… 431
 シロマツタケモドキ (キシメジ科) 不足…………… 429
 スッポンヤドリタケ (ニクザキン科) 不足…………… 433
 スナヤマチャワಂತケ (チャワಂತケ科) II類…………… 426
 タマノウタケ (ホコリタケ科) 不足…………… 432
 チャオニテングタケ (テングタケ科) 不足…………… 429
 ツバササクレシメジ (キシメジ科) 準絶…………… 427
 トガリフカアミガサタケ (アミガサタケ科) 不足…………… 433
 ニカワウロコタケ (シワタケ科) 準絶…………… 428
 ニセマツタケ (キシメジ科) 不足…………… 429
 バカマツタケ (キシメジ科) 不足…………… 428
 ホンシメジ (キシメジ科) II類…………… 424
 マイヅルナガエムシタケ (バックカキン科) 不足…………… 433
 マクラタケ (タバコウロコタケ科) 不足…………… 431
 マツタケ (キシメジ科) II類…………… 424

絶滅：絶滅+野生絶滅、I類：絶滅危惧I類、II類：絶滅危惧II類、準絶：準絶滅危惧、不足：情報不足、地域：地域個体群

富山県の絶滅のおそれのある野生生物

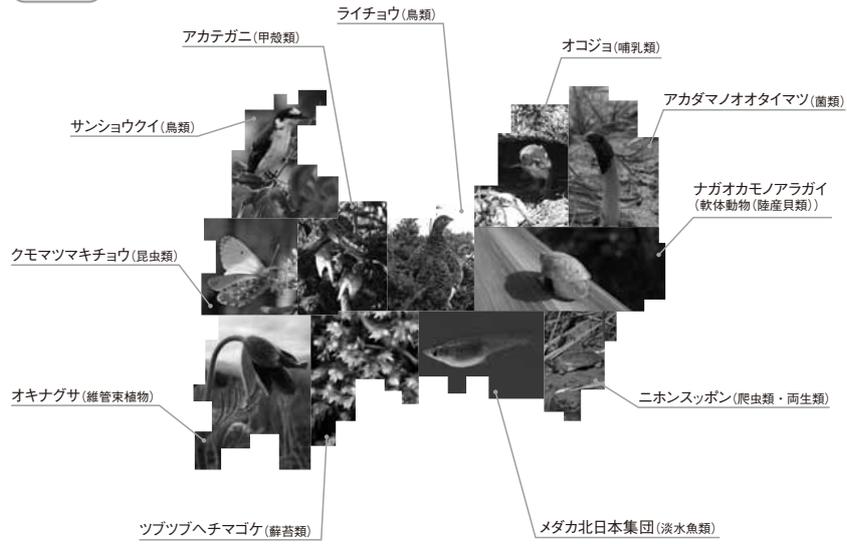
—レッドデータブックとやま 2012—

2012年8月

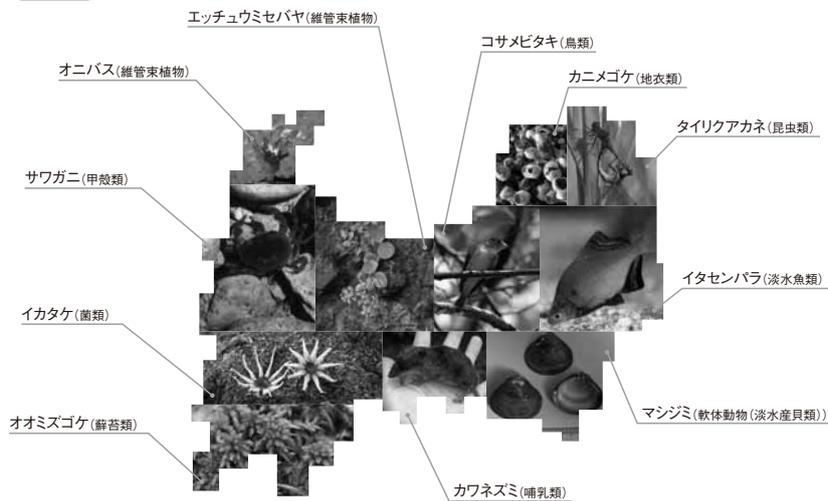


編集・発行	富山県生活環境文化部自然保護課
	所在地 富山県富山市総曲輪1-7
	電 話 076-431-4111(代)
印 刷	富山スガキ株式会社

表紙

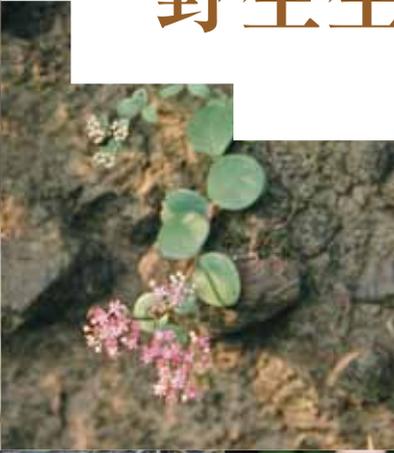


裏表紙



富山県の絶滅のおそれのある

野生生物



レッドデータブックとやま

2012